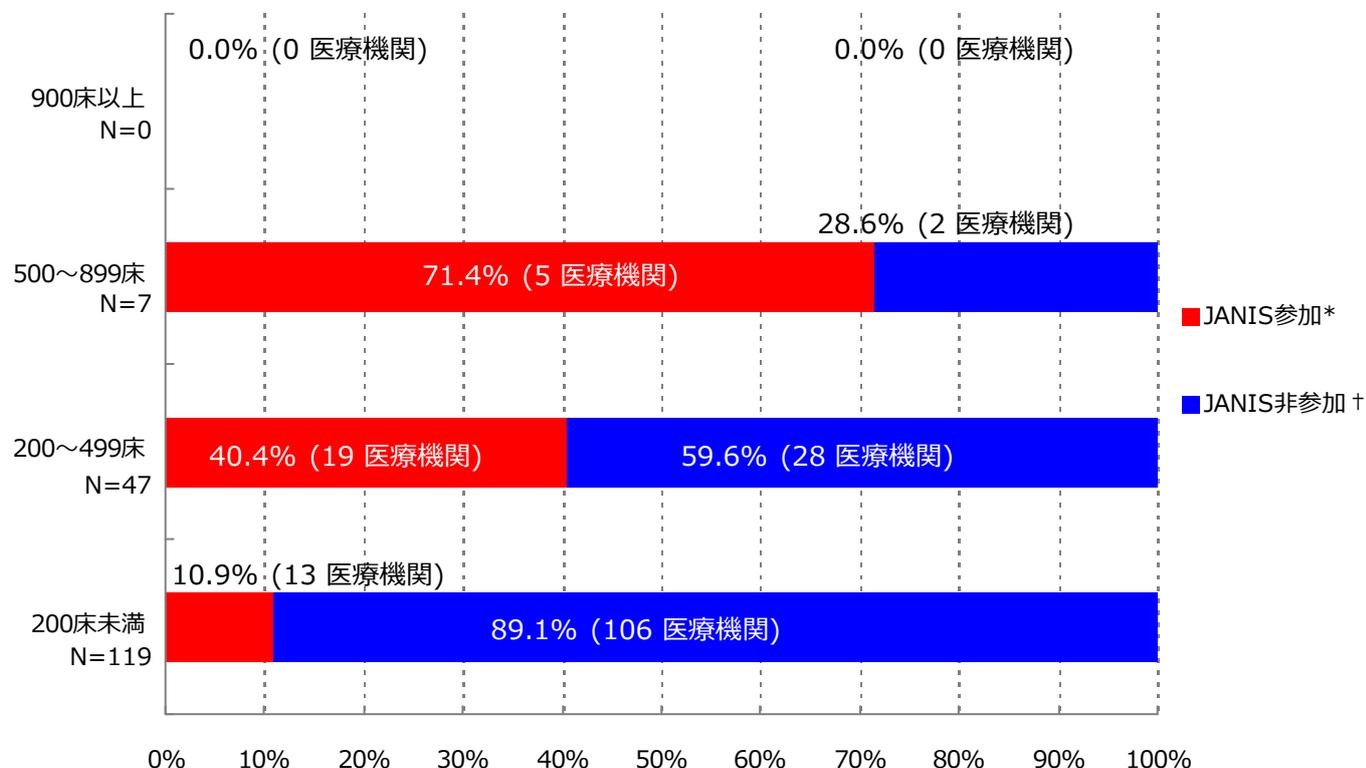




### 1. 集計対象医療機関数(37医療機関)



\*JANIS参加 = 2019年1～3月 集計対象医療機関数

†JANIS非参加 = (2018年 都道府県別医療機関数 †) - (2019年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数      | 2018年 都道府県別医療機関数 † | 2019年1月～3月 集計対象医療機関数<br>(都道府県別医療機関数に占める割合) |
|----------|--------------------|--|
| 900床以上   | 0                  | 0 ( 0.0% )                                 |
| 500～899床 | 7                  | 5 ( 71.4% )                                |
| 200～499床 | 47                 | 19 ( 40.4% )                               |
| 200床未満   | 119                | 13 ( 10.9% )                               |
| 病床数不明    | -                  | 0 ( - )                                    |
| 合計       | 173                | 37 ( 21.4% )                               |

† 2018年医療施設（動態）調査を参照した

## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数    | 陽性検体数<br>(分離菌数)    |
|--------|-----------|--------|--------------------|
| 呼吸器系検体 | 37        | 11,609 | 6,486<br>(14,135)  |
| 尿検体    | 36        | 4,797  | 2,729<br>(4,271)   |
| 便検体    | 37        | 1,827  | 891<br>(1,527)     |
| 血液検体   | 37        | 11,840 | 1,645<br>(2,139)   |
| 髄液検体   | 26        | 557    | 34<br>(38)         |
| その他    | 37        | 5,867  | 2,357<br>(4,117)   |
| 合計     | 37        | 36,497 | 14,142<br>(26,227) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

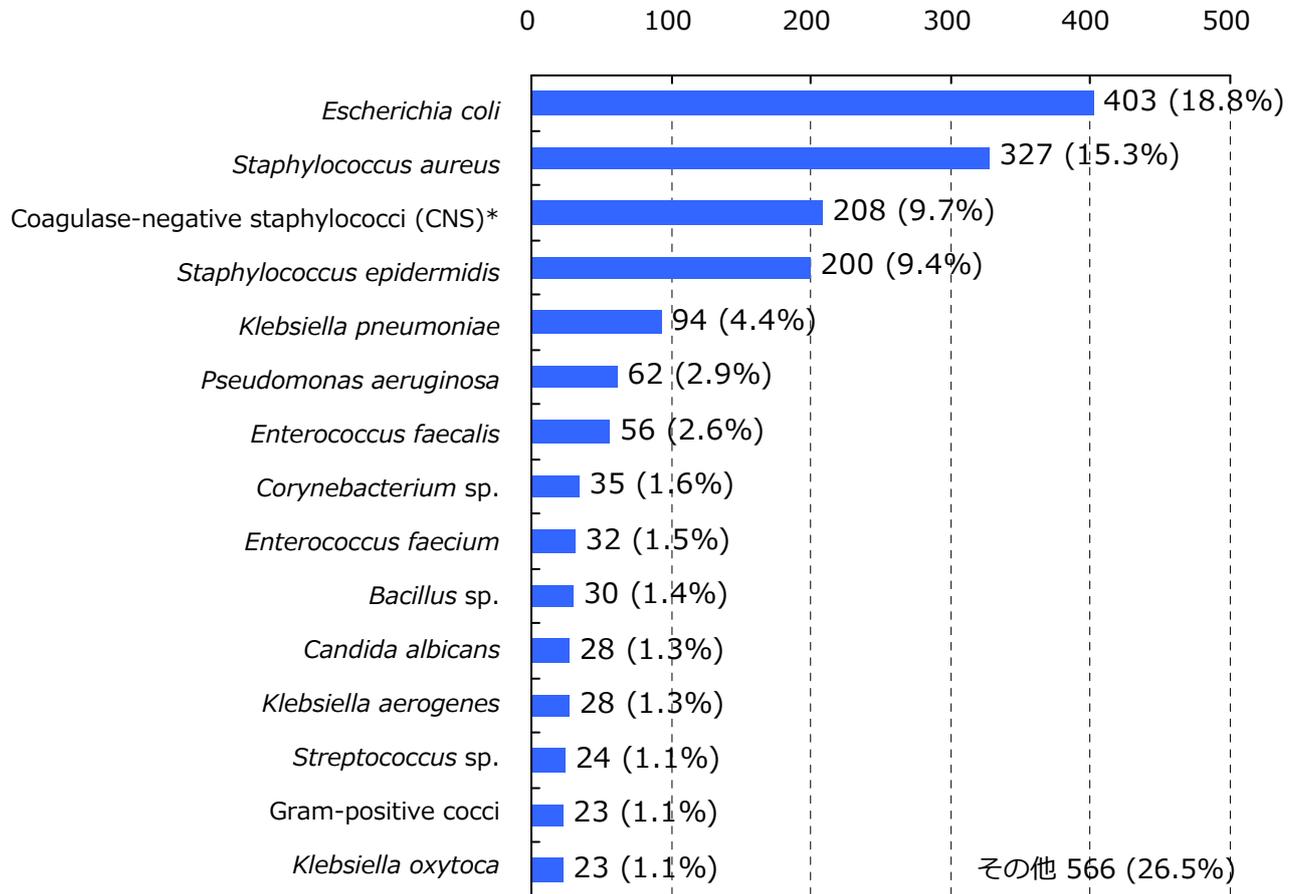
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=2,139)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

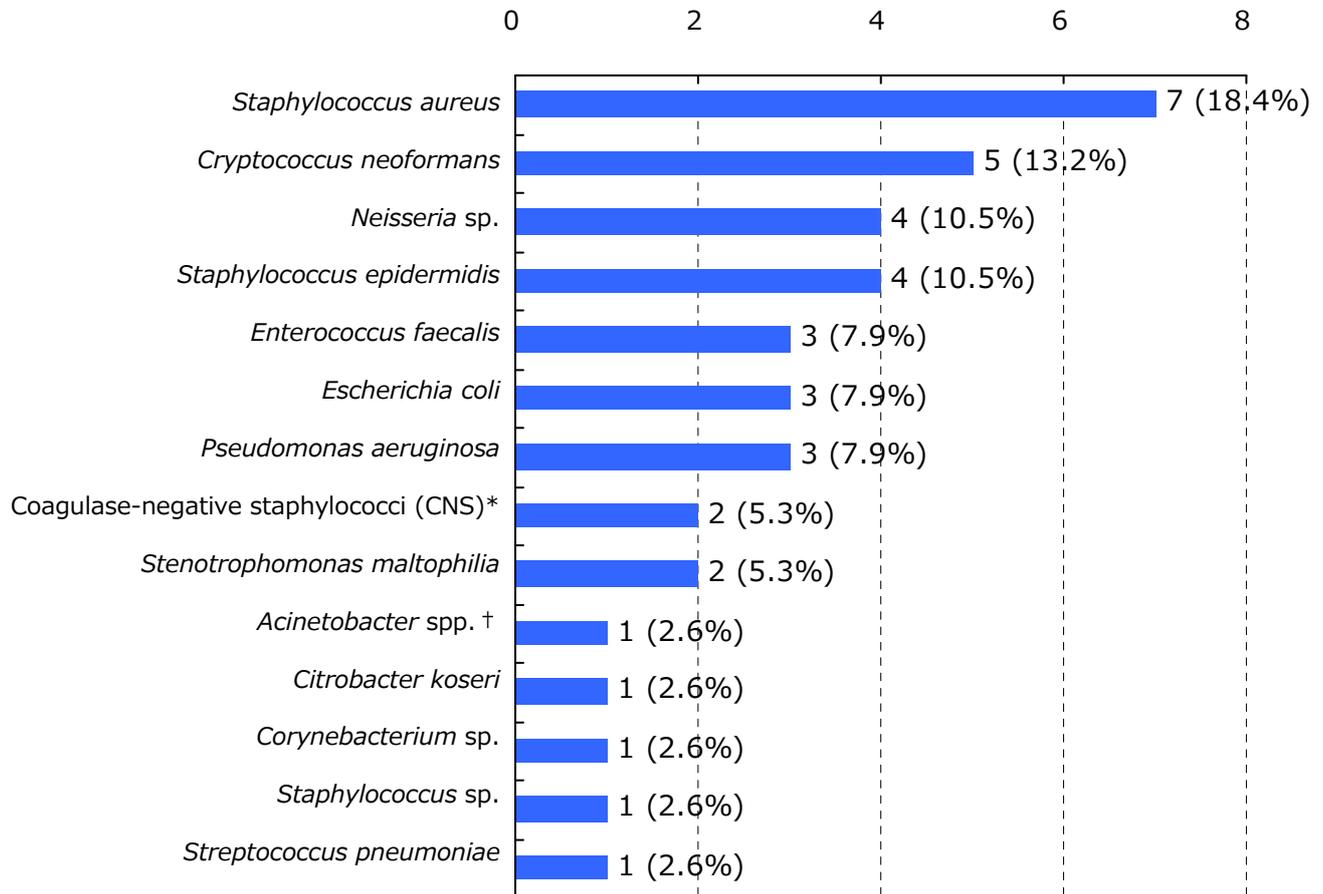
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=38)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

†菌名コード：4400～4403と報告された菌

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

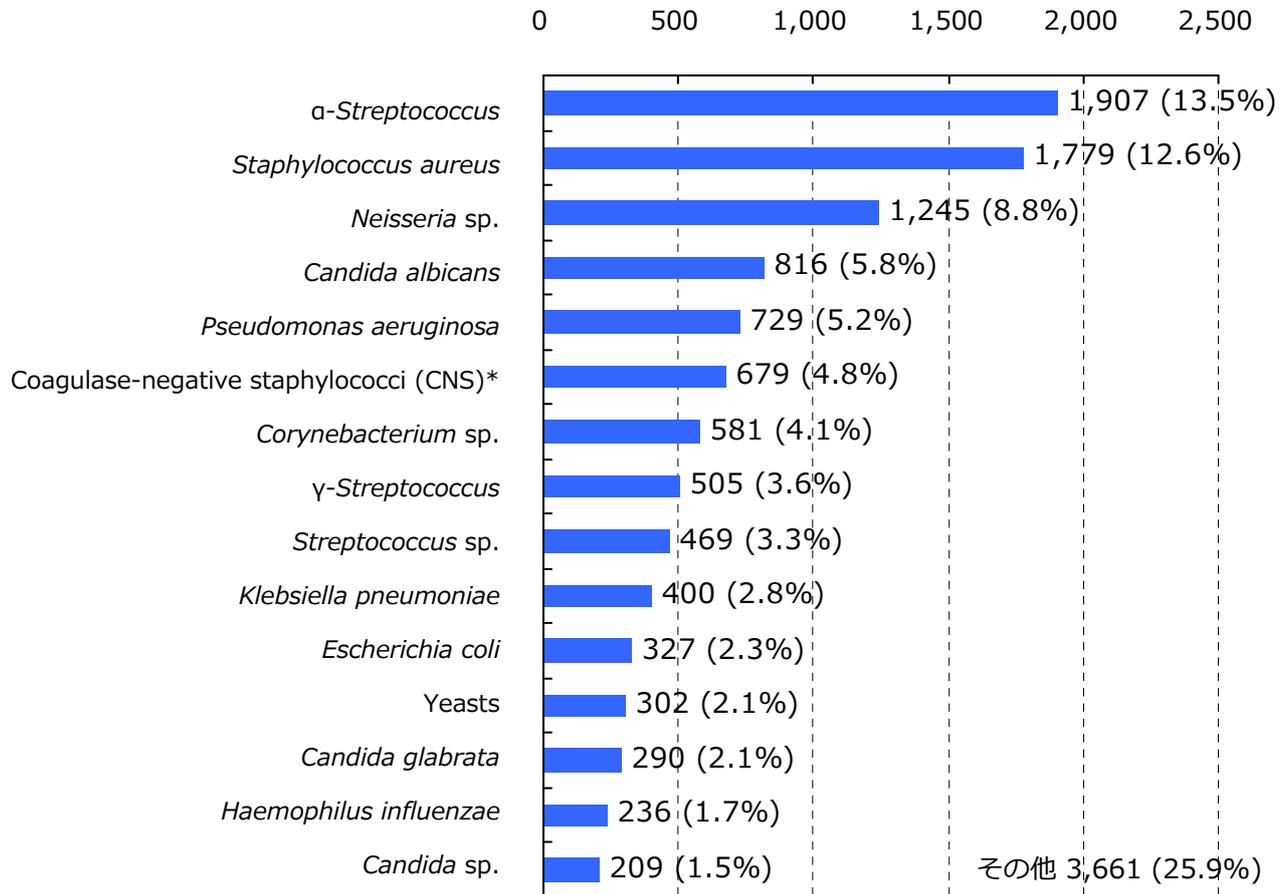
髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 呼吸器系検体分離菌 (N=14,135)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・常在菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：喀出痰(検査材料コード101)、気管内採痰(同102)、気管支洗浄液(同103)、咽頭粘液(同104)、鼻腔内(同105)、口腔内(同106)、生検材料(肺)(同107)、その他(呼吸器)(同109)、胸水(同404)

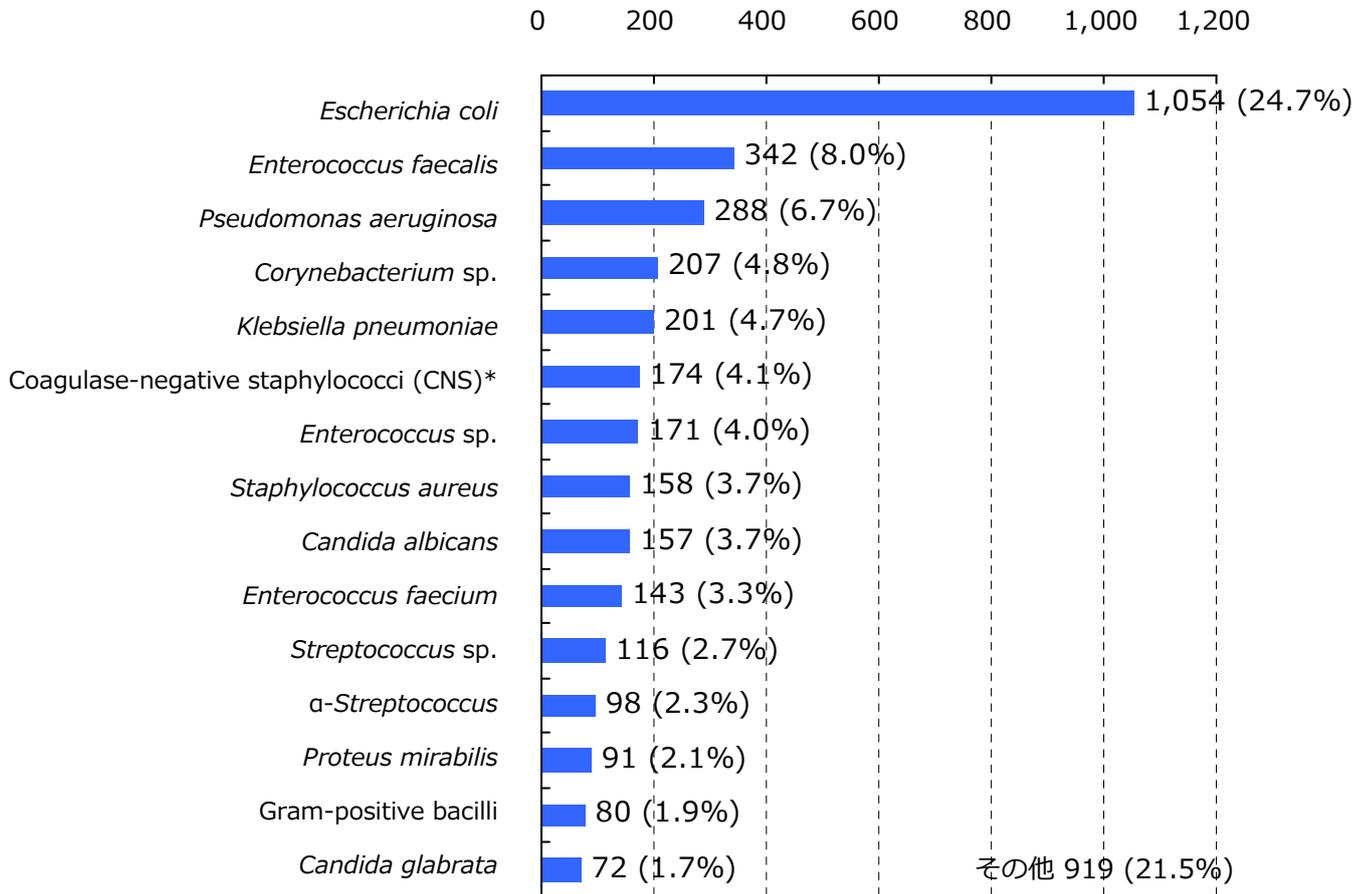
呼吸器系検体分離菌数割合 = (対象菌の呼吸器系検体分離菌数) ÷ (呼吸器系検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 尿検体分離菌 (N=4,271)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

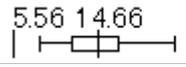
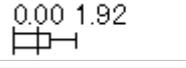
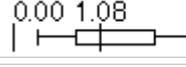
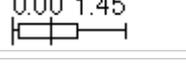
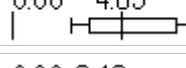
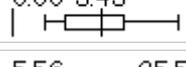
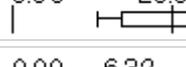
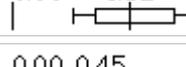
集計対象検査材料：自然排尿(検査材料コード201)、採尿カテーテル尿(同202)、留置カテーテル尿(同203)、カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能)(同206)

尿検体分離菌数割合 = (対象菌の尿検体分離菌数) ÷ (尿検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

#### 4. 主要菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                           | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布   |
|---------------------------|------------------------|---|
| 検体提出患者数(100床あたり)          | 13,877人<br>(120.5)※    |   |
| <i>S. aureus</i>          | 1,872人<br>(13.49%)     | 5.56 14.66 42.68<br>   |
| <i>S. epidermidis</i>     | 371人<br>(2.67%)        | 0.00 1.92 26.82<br>    |
| <i>S. pneumoniae</i>      | 190人<br>(1.37%)        | 0.00 1.08 4.26<br>     |
| <i>E. faecalis</i>        | 551人<br>(3.97%)        | 0.00 3.82 8.87<br>     |
| <i>E. faecium</i>         | 224人<br>(1.61%)        | 0.00 1.45 12.90<br>   |
| <i>E. coli</i>            | 1,737人<br>(12.52%)     | 4.10 14.13 25.96<br> |
| <i>K. pneumoniae</i>      | 661人<br>(4.76%)        | 0.00 4.85 15.38<br>  |
| <i>Enterobacter spp.</i>  | 489人<br>(3.52%)        | 0.00 3.43 13.46<br>  |
| <i>Enterobacteriaceae</i> | 3,251人<br>(23.43%)     | 5.56 25.58 49.04<br> |
| <i>P. aeruginosa</i>      | 901人<br>(6.49%)        | 0.00 6.32 18.55<br>  |
| <i>Acinetobacter spp.</i> | 90人<br>(0.65%)         | 0.00 0.45 2.96<br>   |

入院として報告された検体を集計

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

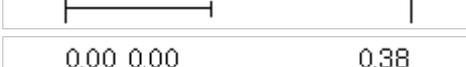
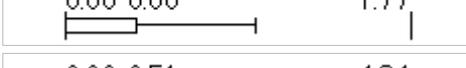
全体の分離率

$$= (\text{集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計}) \div (\text{集計対象医療機関の検体提出患者数合計}) \times 100$$

$$¶\text{分離率} = (\text{対象菌の分離患者数}) \div (\text{検体提出患者数}) \times 100$$

※ 病床数が登録されている医療機関のみが対象

## 5. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                        | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布  |
|------------------------|------------------------|--|
| 検体提出患者数(100床あたり)       | 13,877人<br>(120.5)※    |  |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)   | 926人<br>(6.67%)        | 0.00 6.75 31.71<br>   |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>              |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)      | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>              |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)      | 65人<br>(0.47%)         | 0.00 0.37 2.03<br>    |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP)          | 11人<br>(0.08%)         | 0.00 0.00 0.83<br>    |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)    | 1人<br>(0.01%)          | 0.00 0.00 0.38<br>   |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)   | 37人<br>(0.27%)         | 0.00 0.00 1.77<br>  |
| カルバペネム耐性緑膿菌            | 92人<br>(0.66%)         | 0.00 0.51 4.84<br>  |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌     | 53人<br>(0.38%)         | 0.00 0.12 4.03<br>  |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌      | 368人<br>(2.65%)        | 0.00 2.53 12.90<br> |
| フルオロキノロン耐性大腸菌          | 542人<br>(3.91%)        | 0.00 3.54 17.07<br> |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

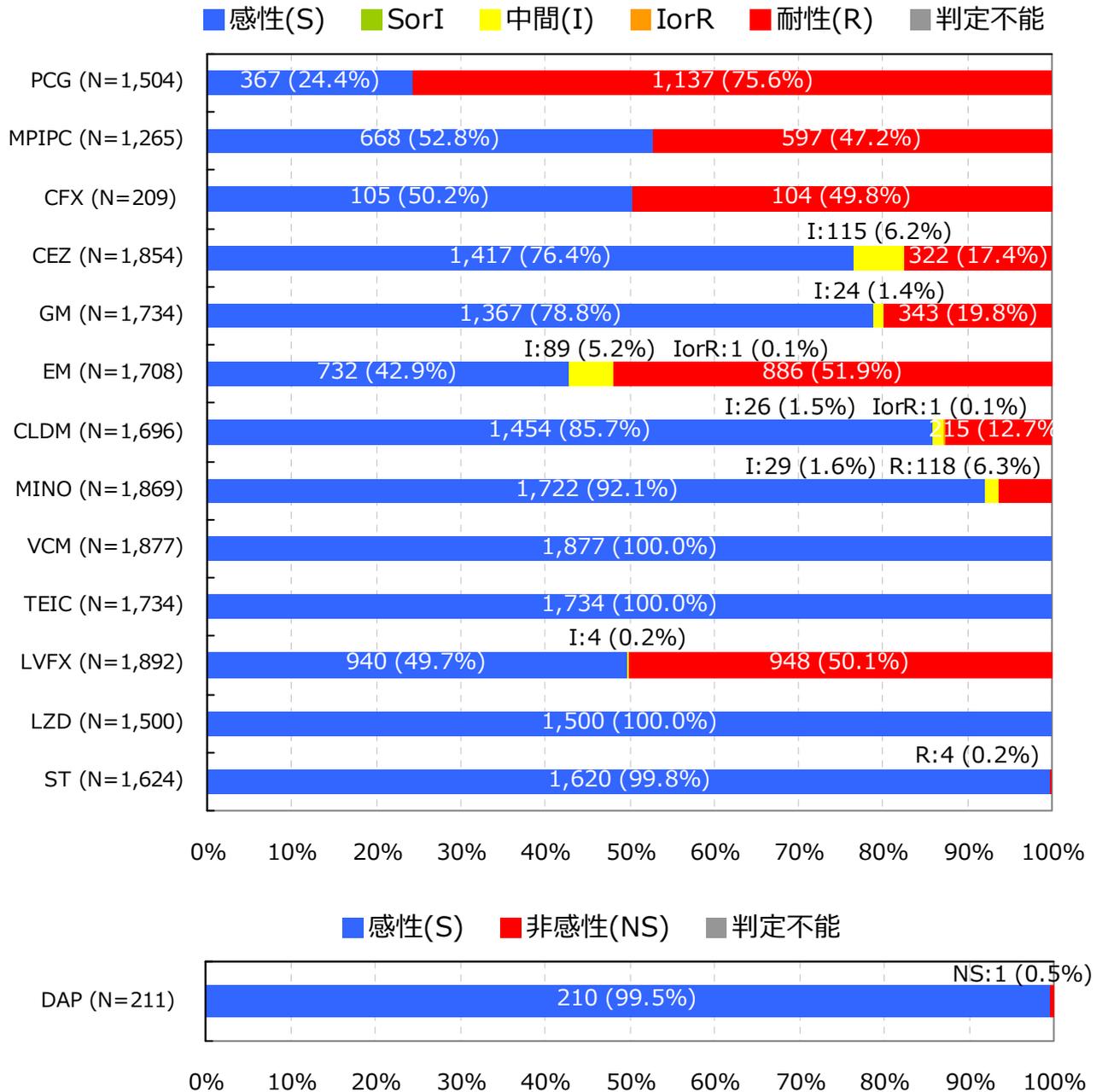
¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

※ 病床数が登録されている医療機関のみが対象



### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (ALL) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

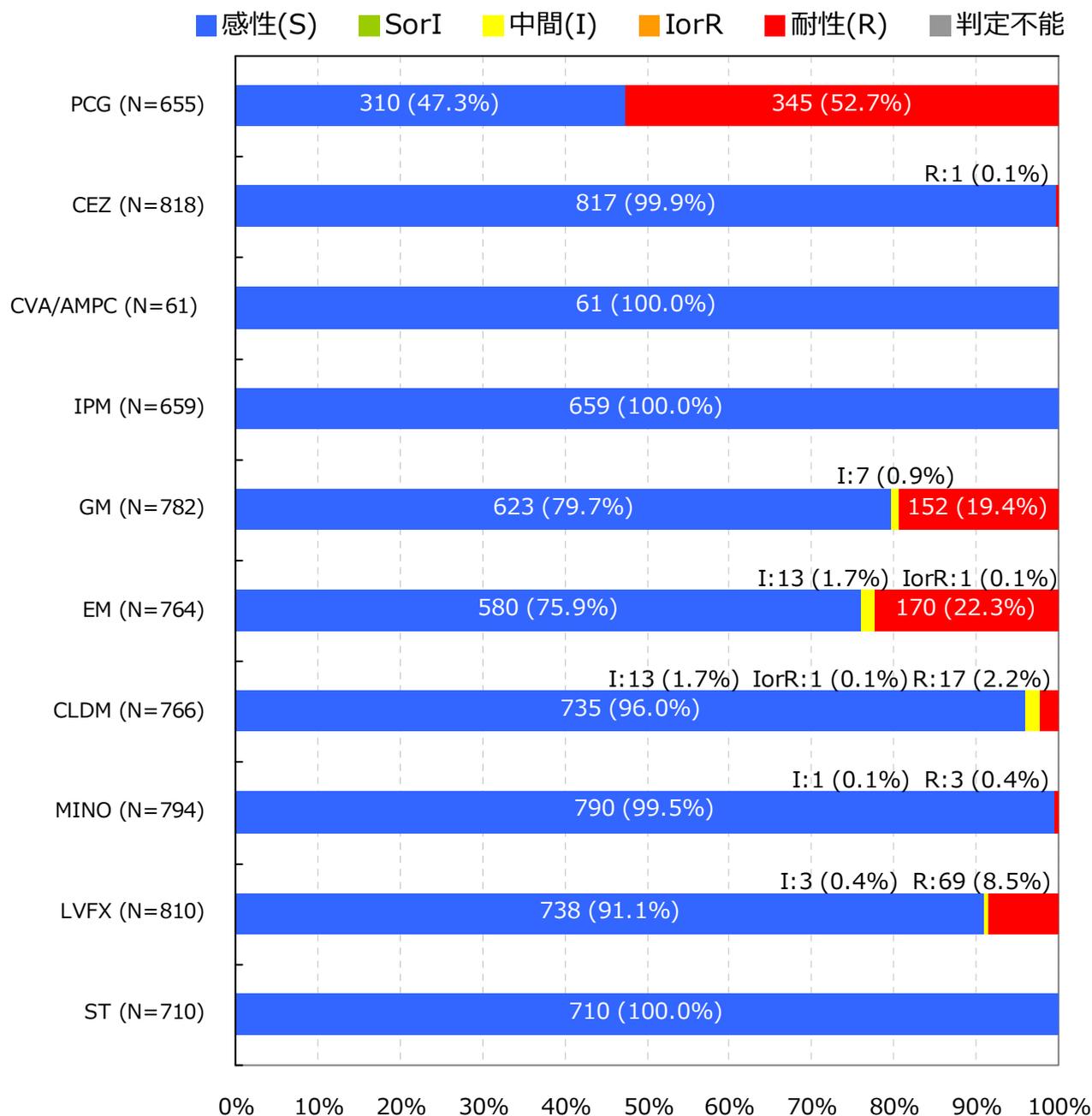
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

†菌名コード: 1301, 1303～1306と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

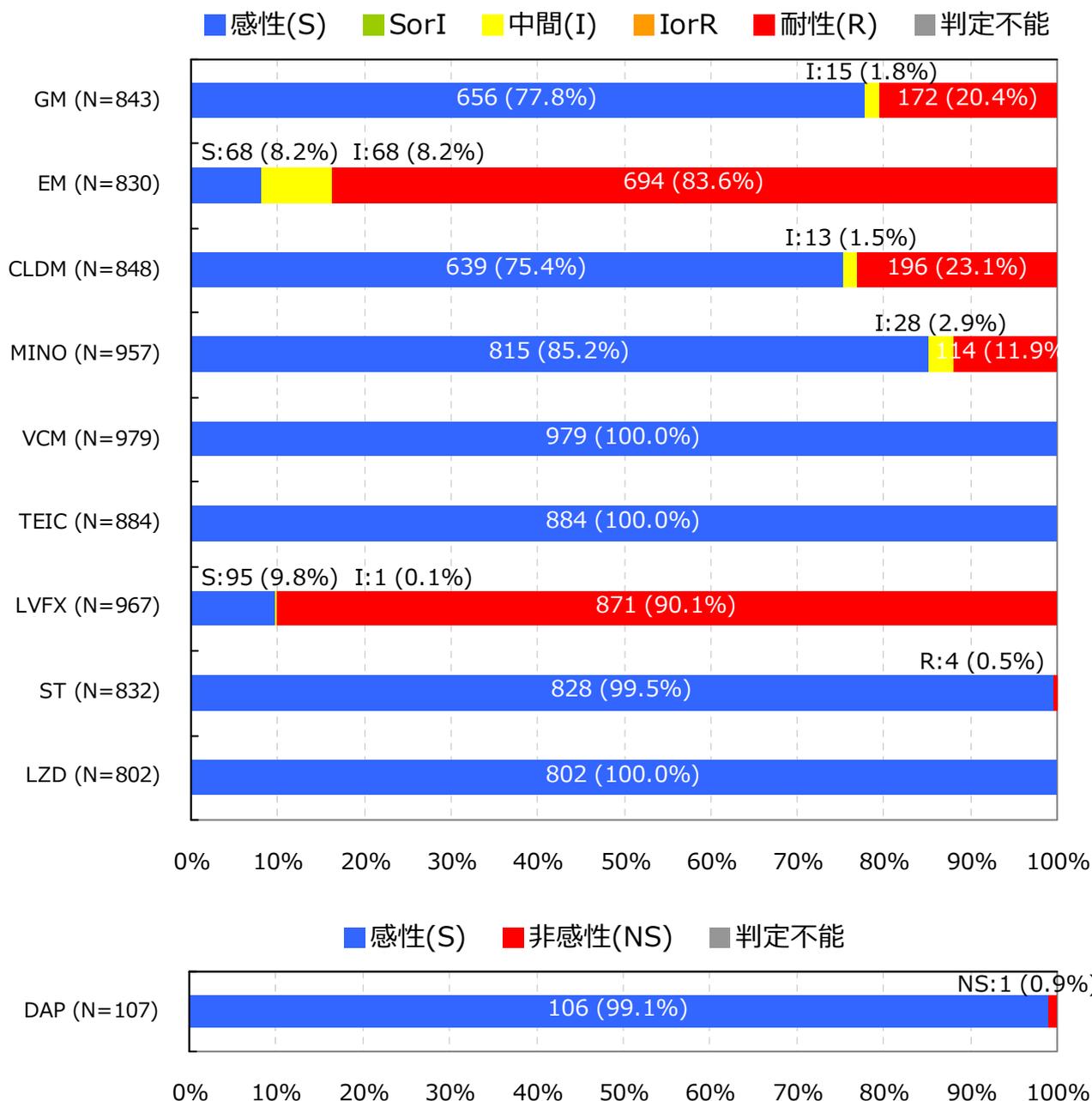
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1304, 1305, 1306と報告された菌、または菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208 (オキサリリン) および抗菌薬コード：1606 (セフォキシチン) の感受性結果「S」の菌 (一方が「S」で他方が未測定の場合を含む)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

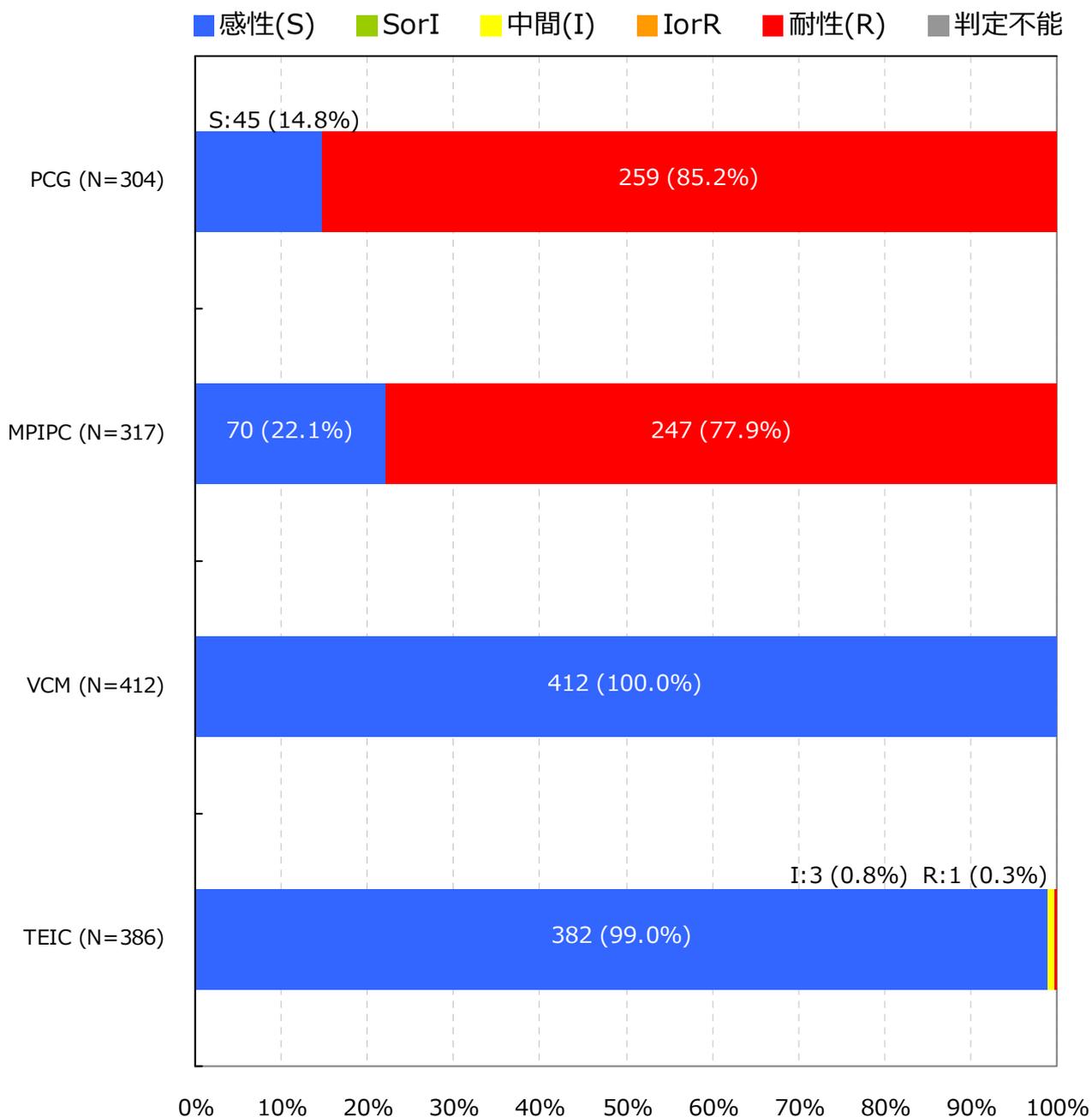
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1303と報告された菌、または菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208（オキサシリン）または抗菌薬コード：1606（セフォキシチン）の感受性結果「R」の菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

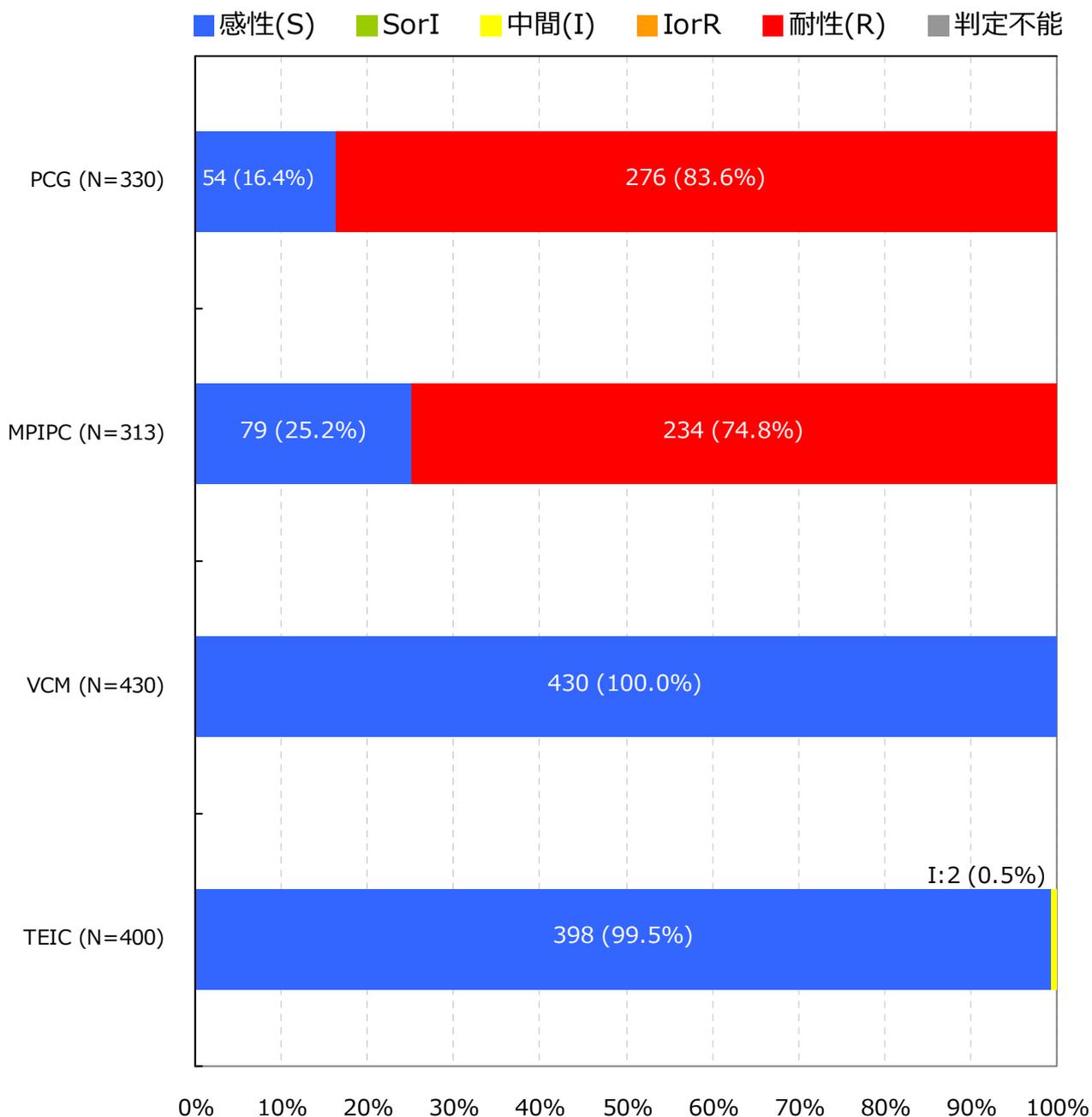
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

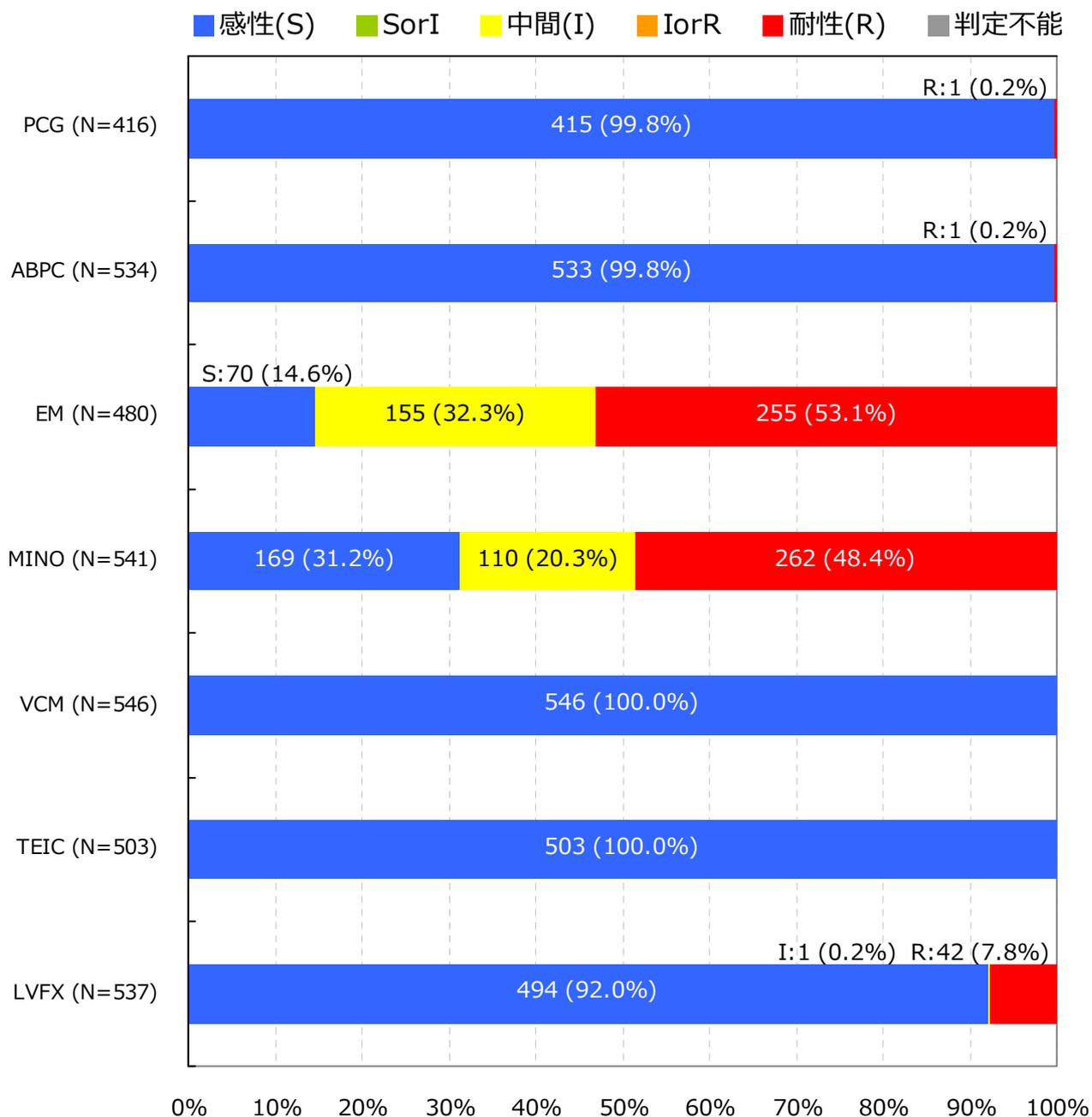
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

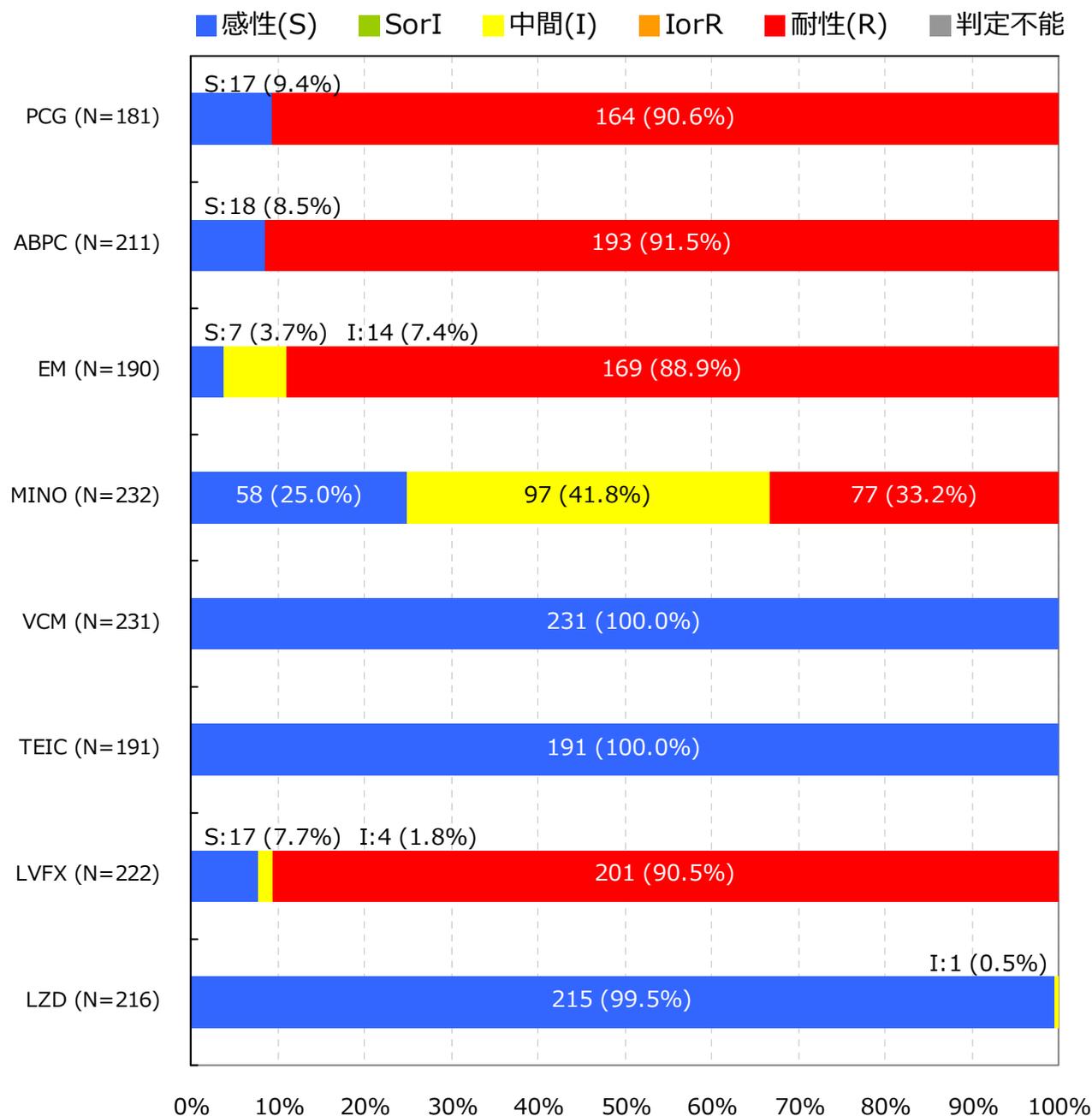
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1205, 1206と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

(茨城県)

公開情報 2019年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門 【入院検体】

## 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †

報告はありませんでした

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

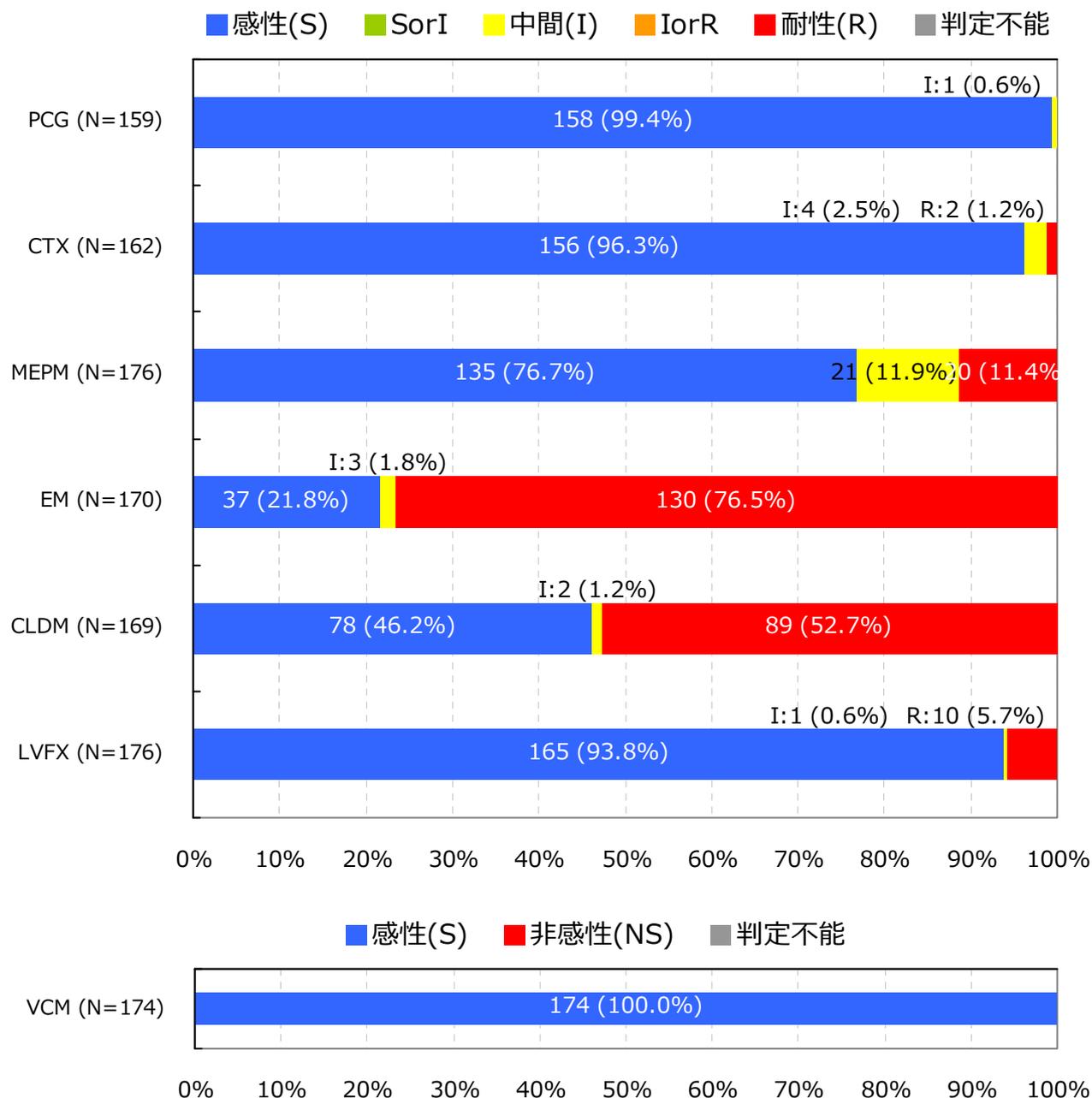
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1131と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

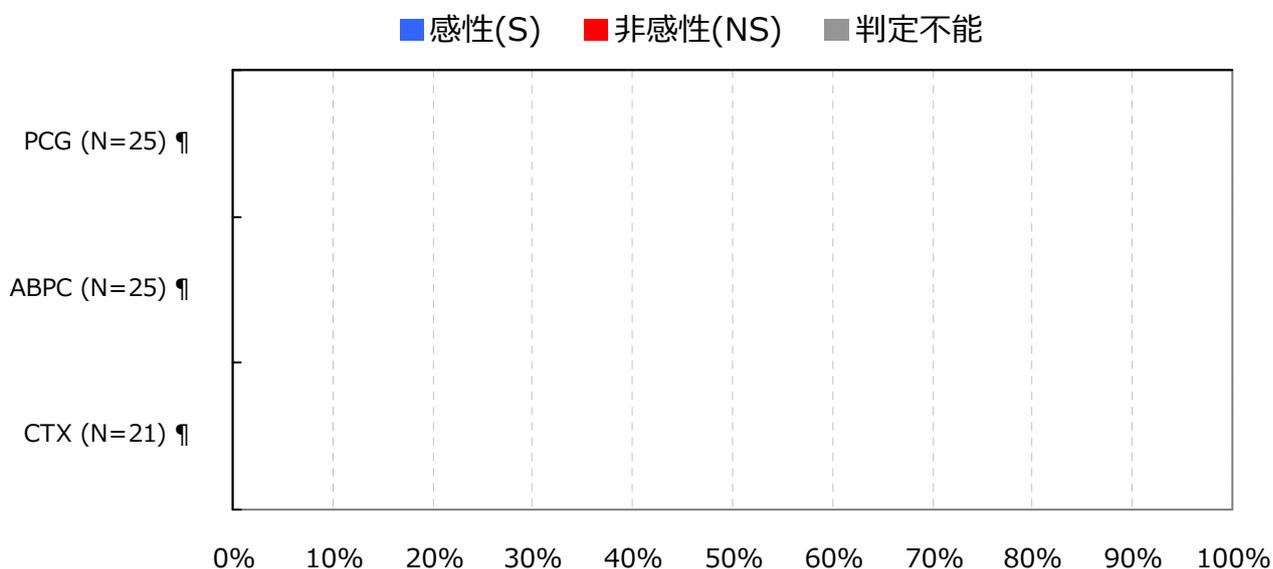
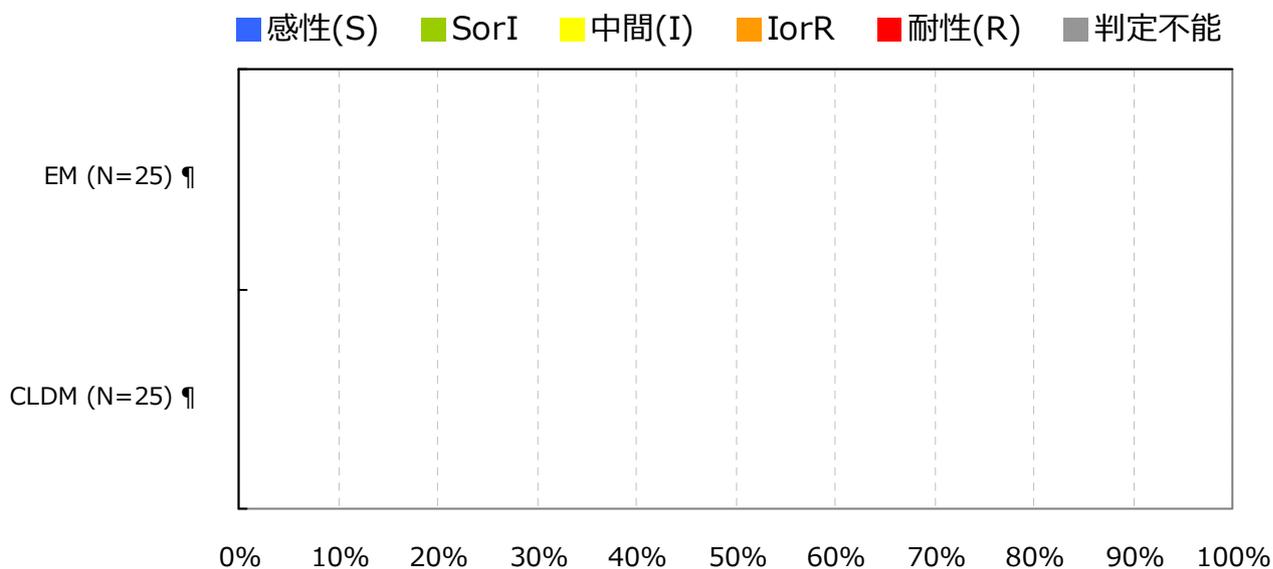
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

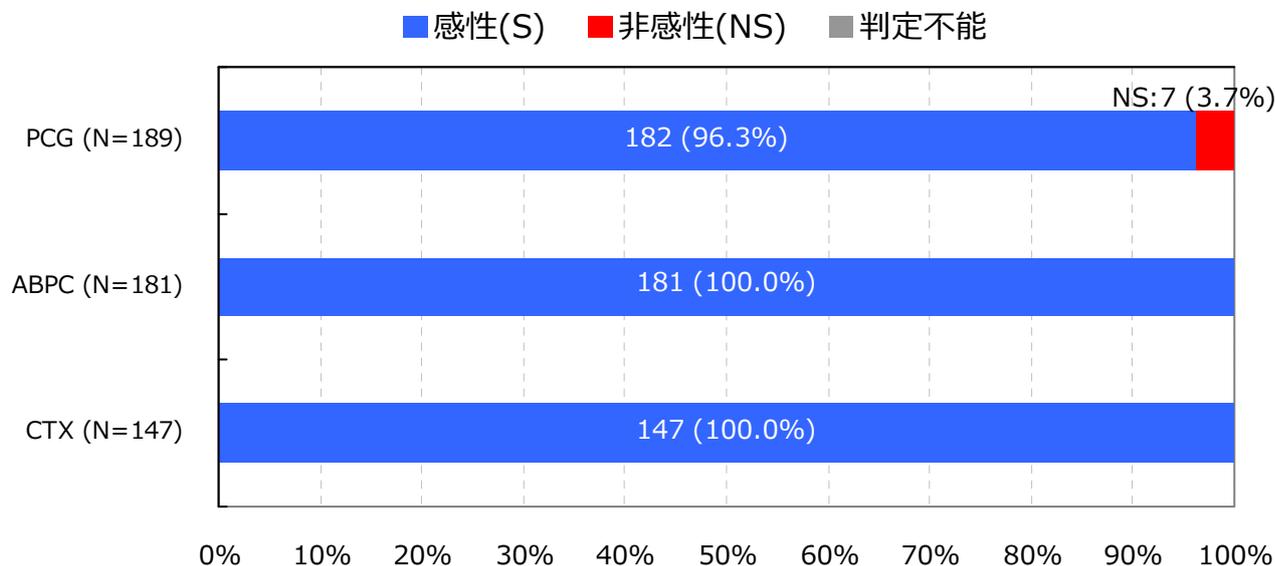
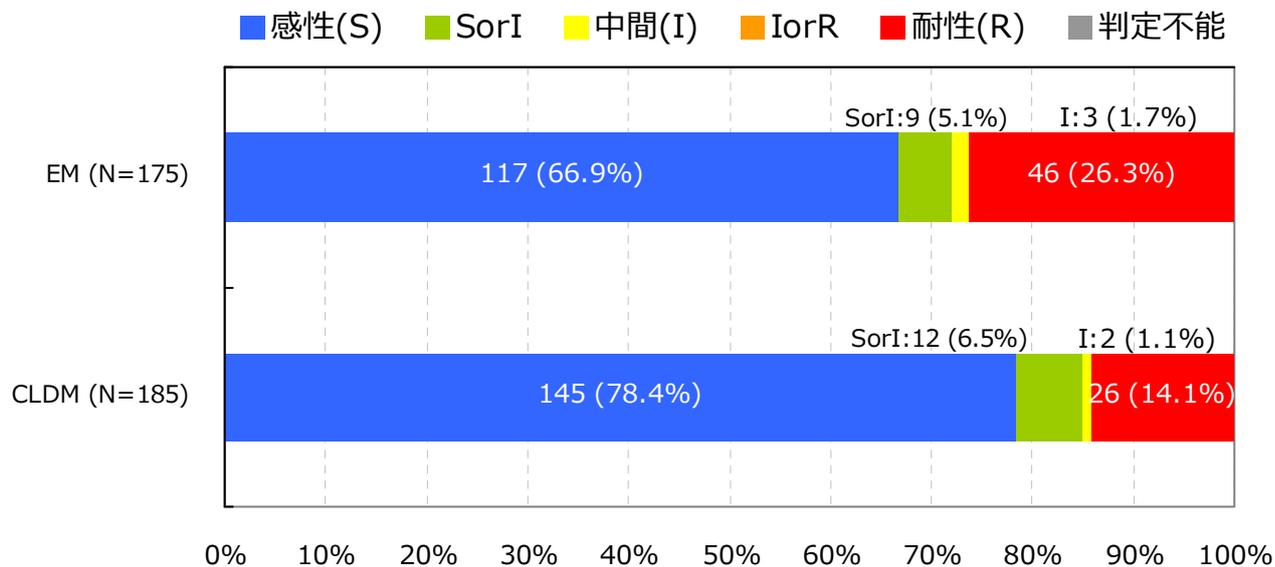
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌

¶ 集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

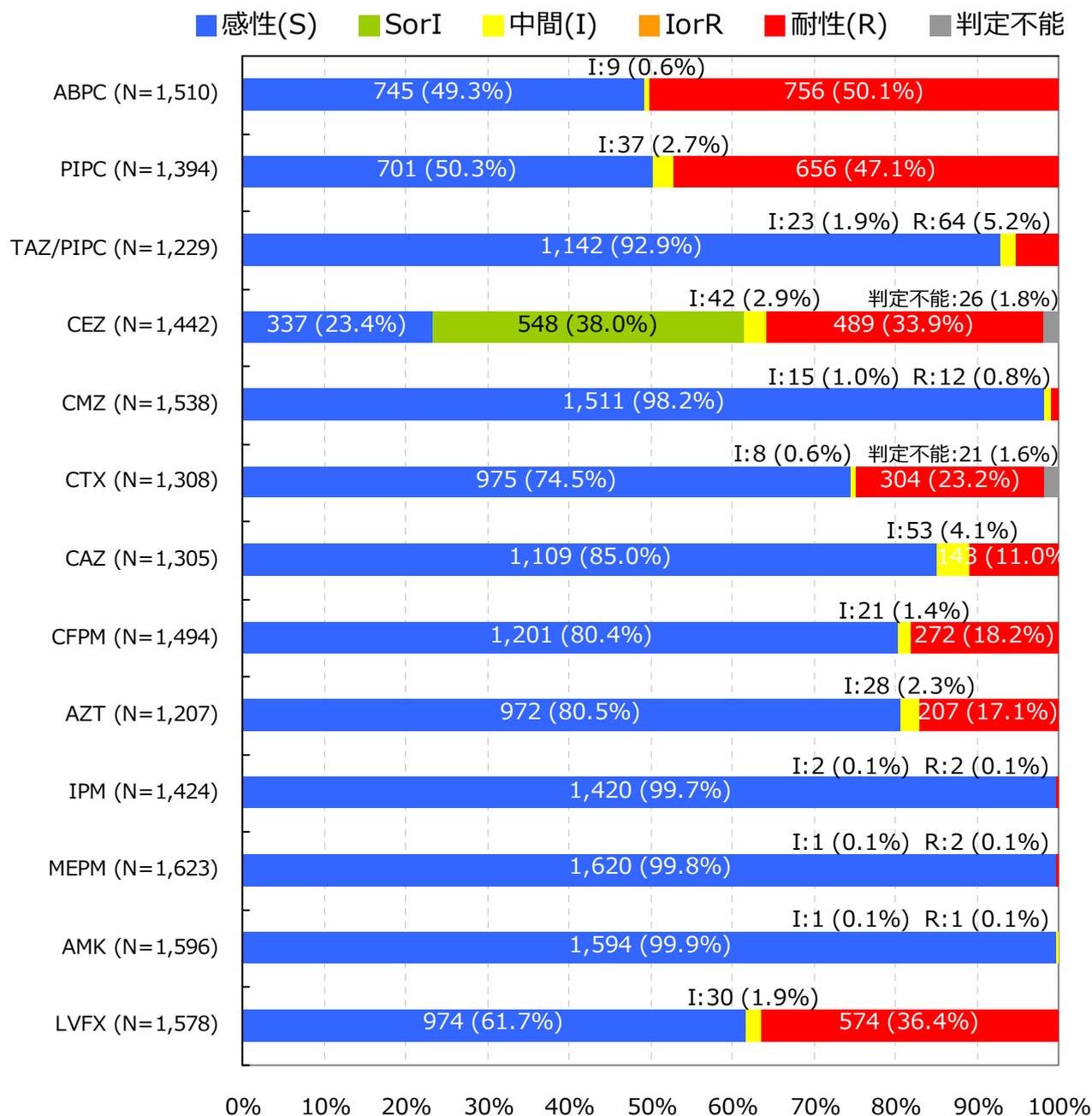
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1114と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

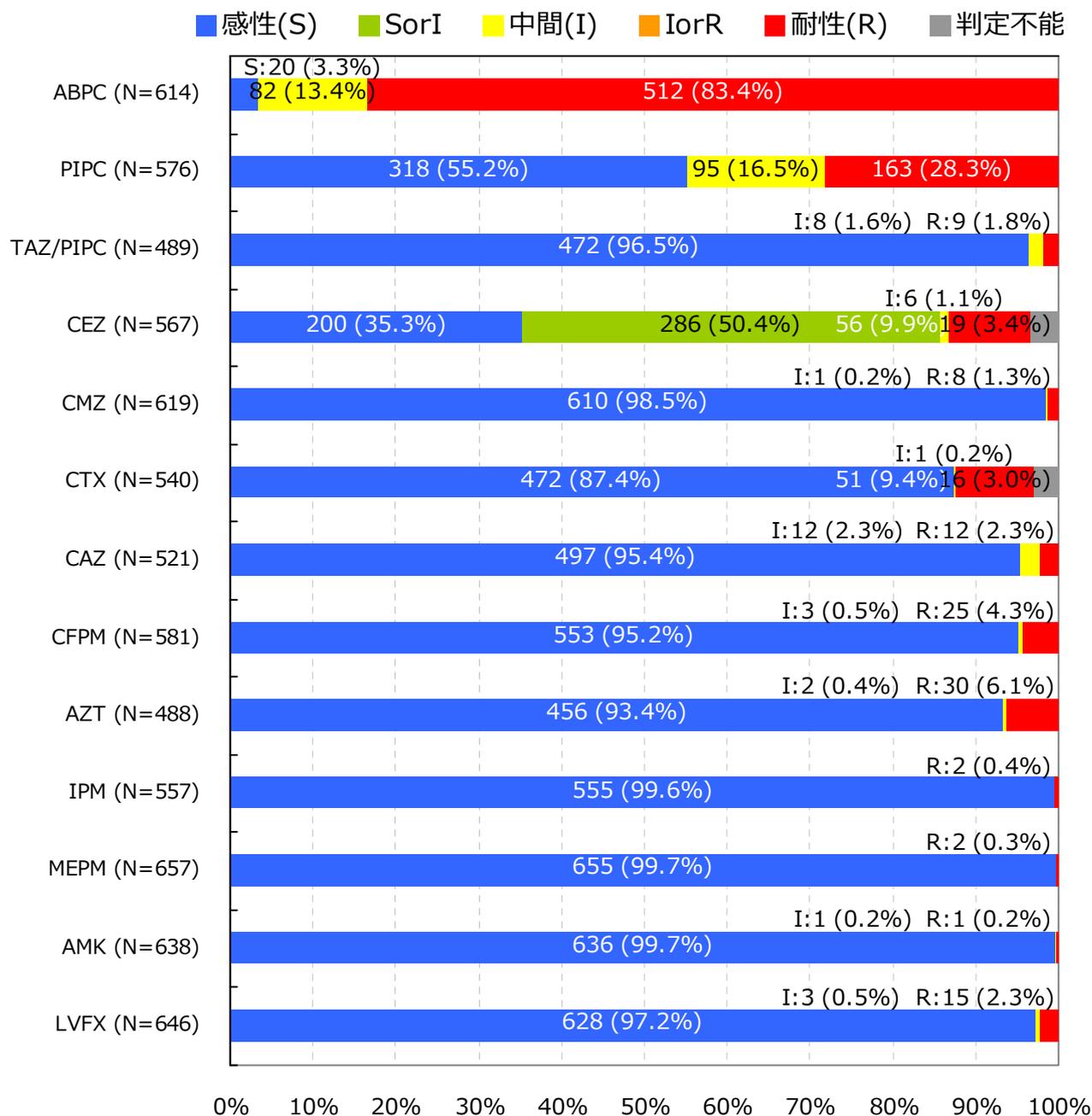
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

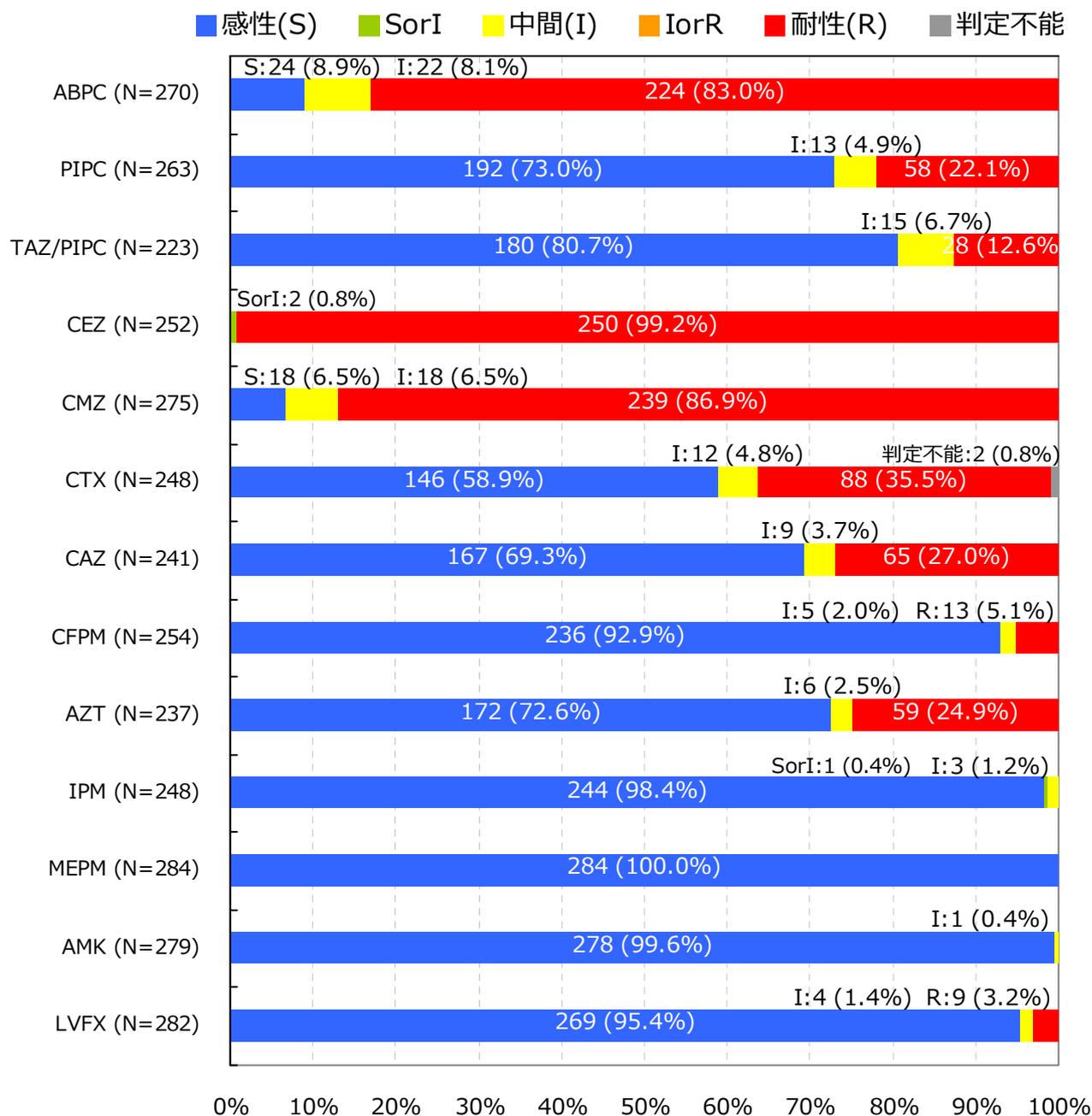
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2351と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

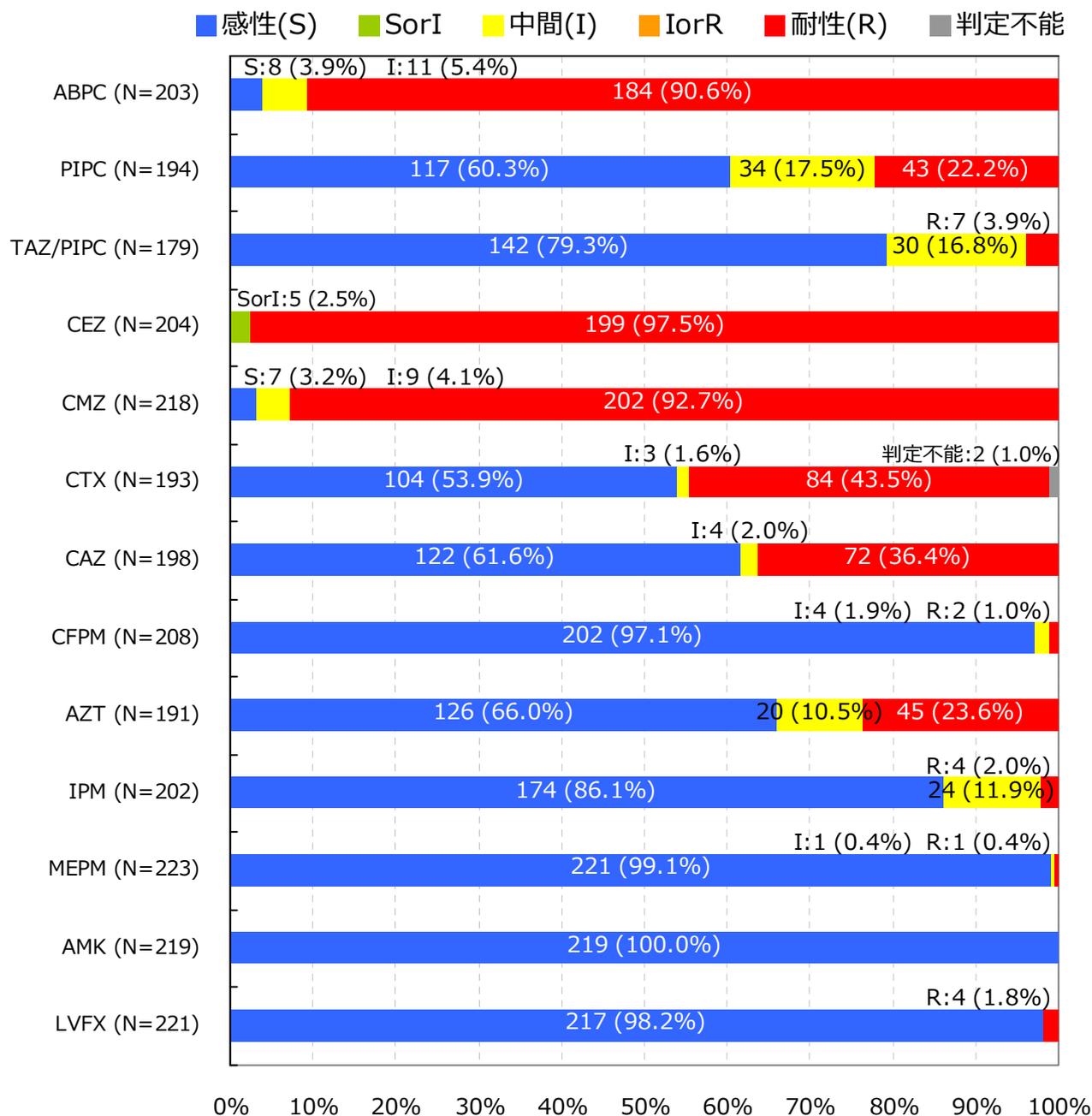
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2151と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

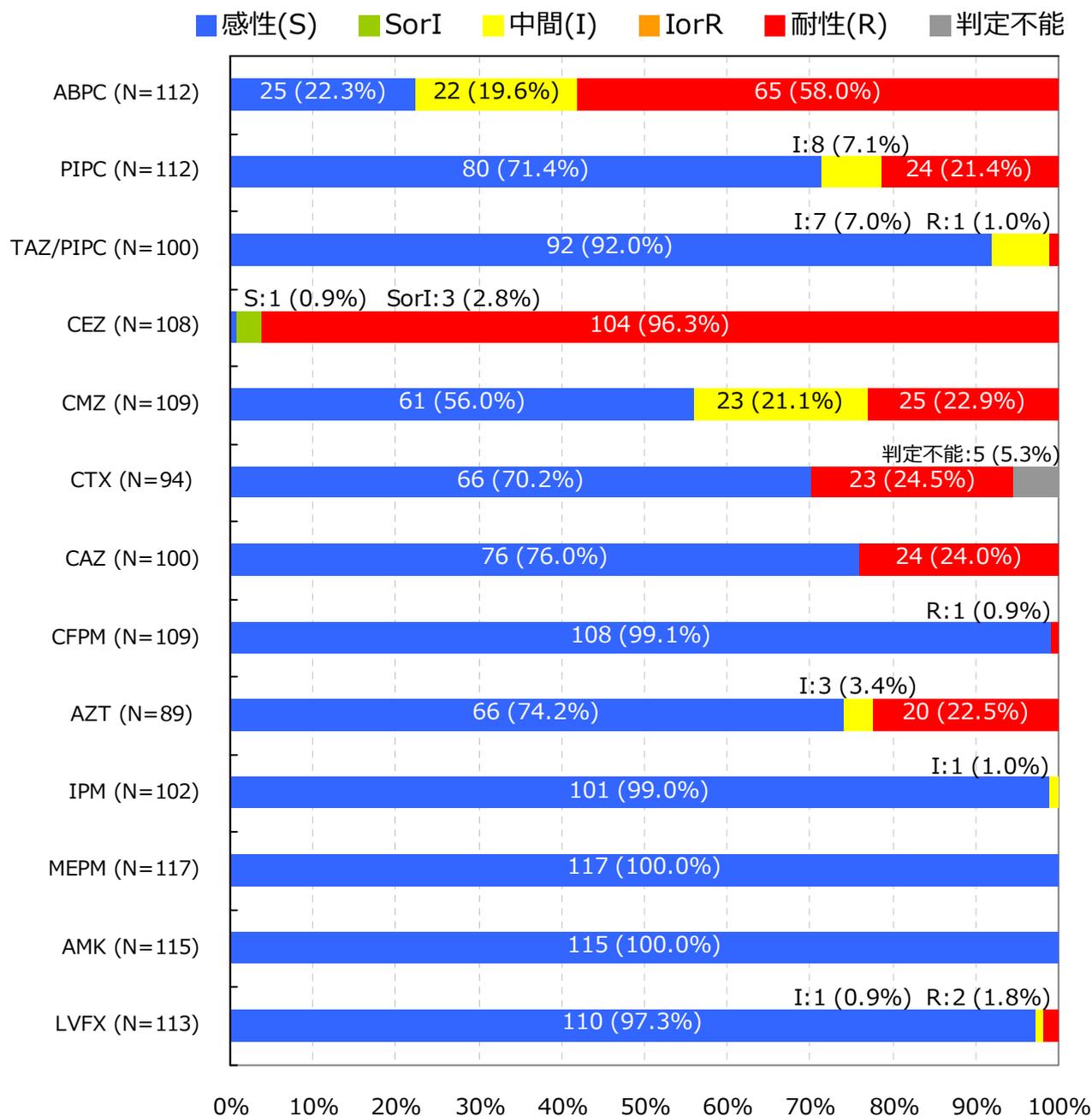
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2152と報告された菌 (旧名：Enterobacter aerogenes)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

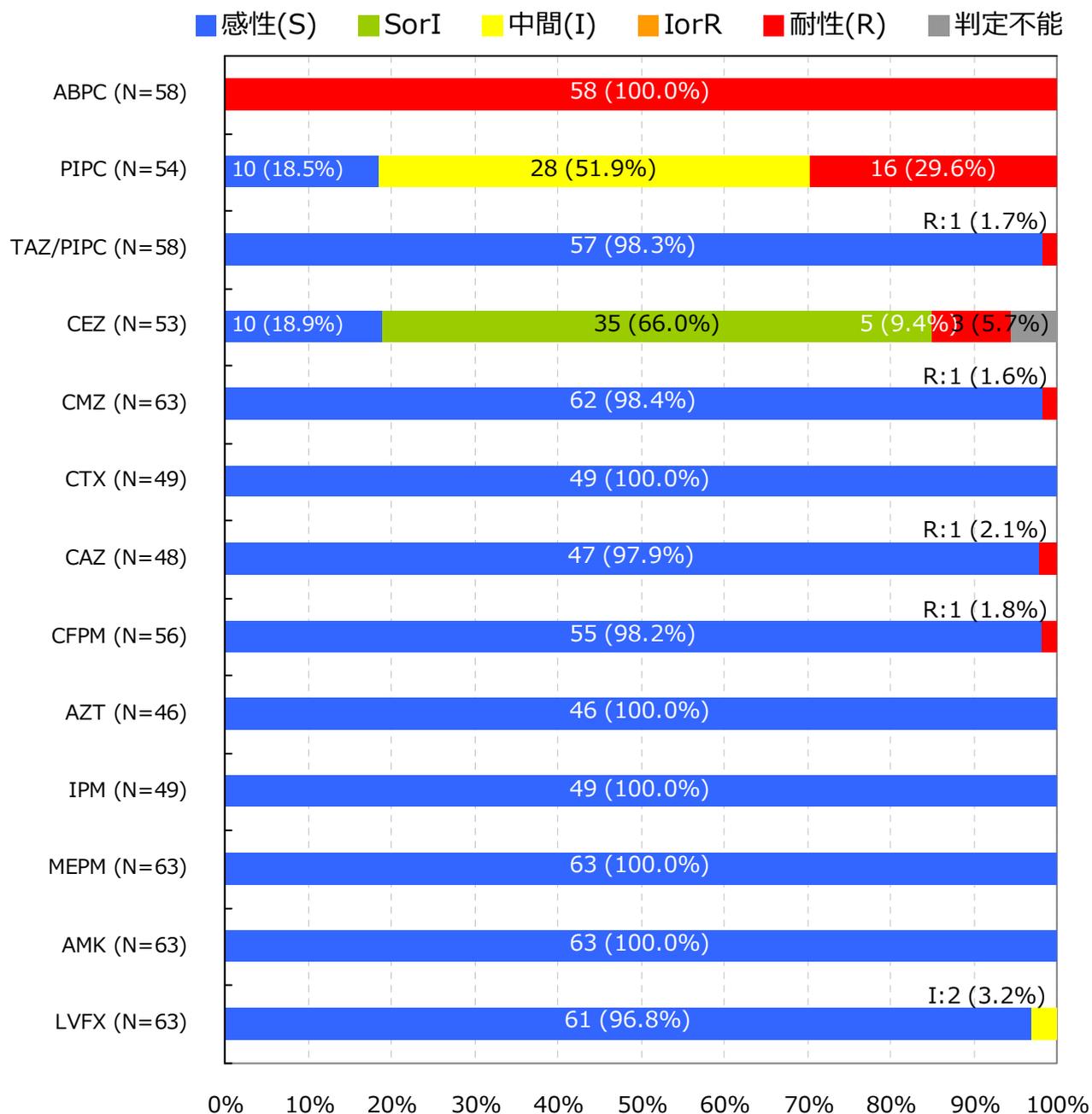
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2051と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

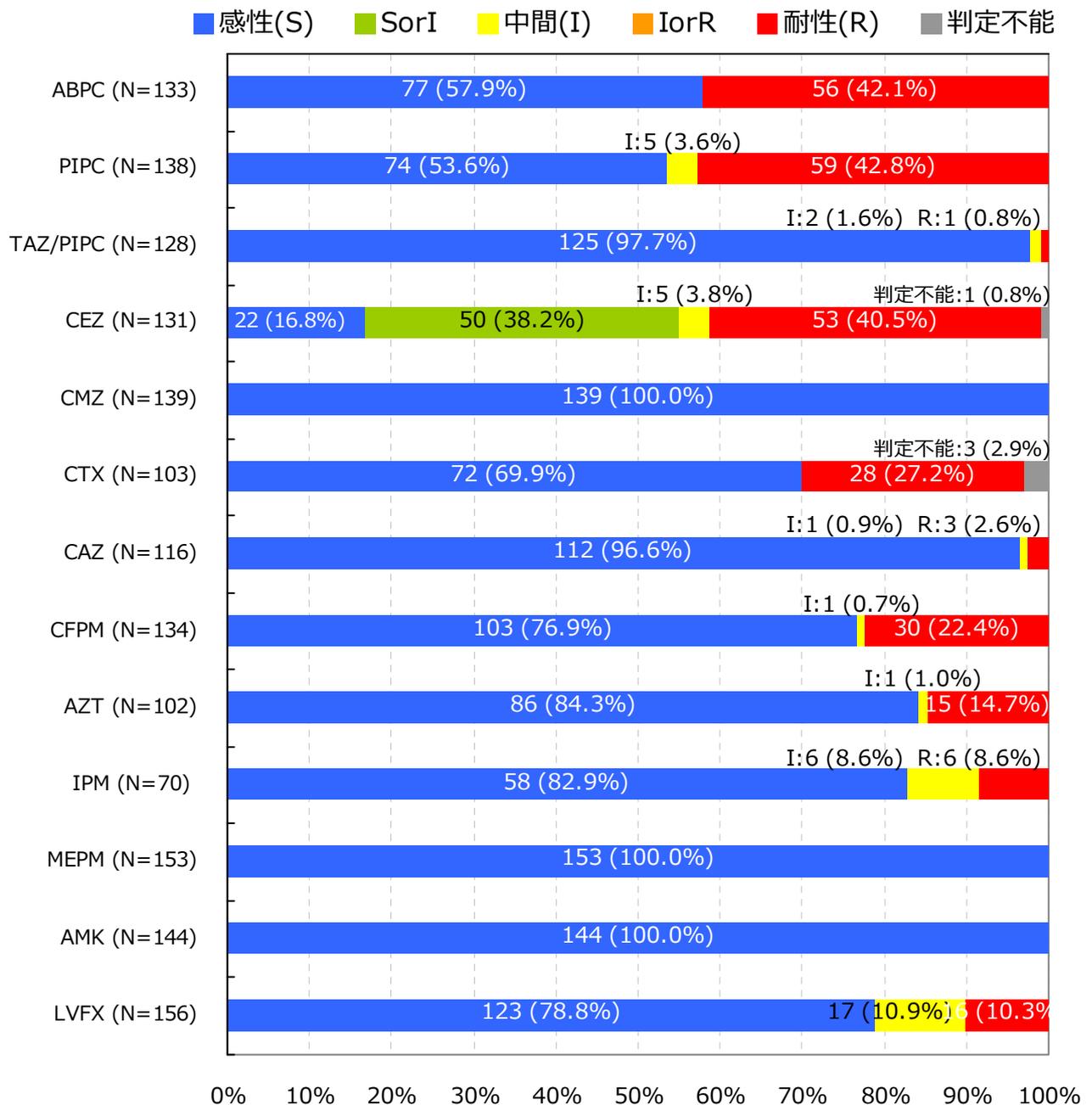
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

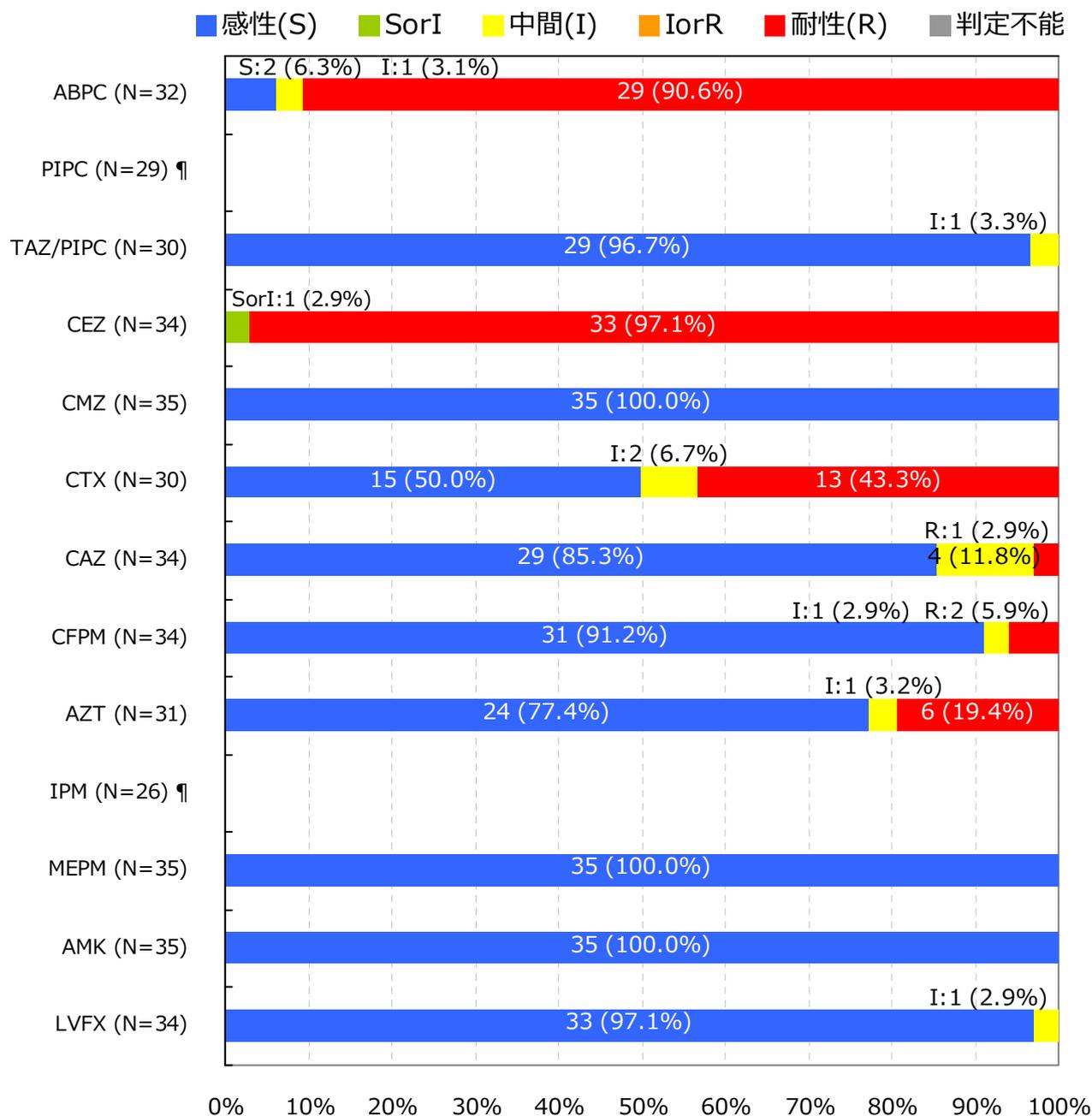
† 菌名コード: 2201と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない



### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

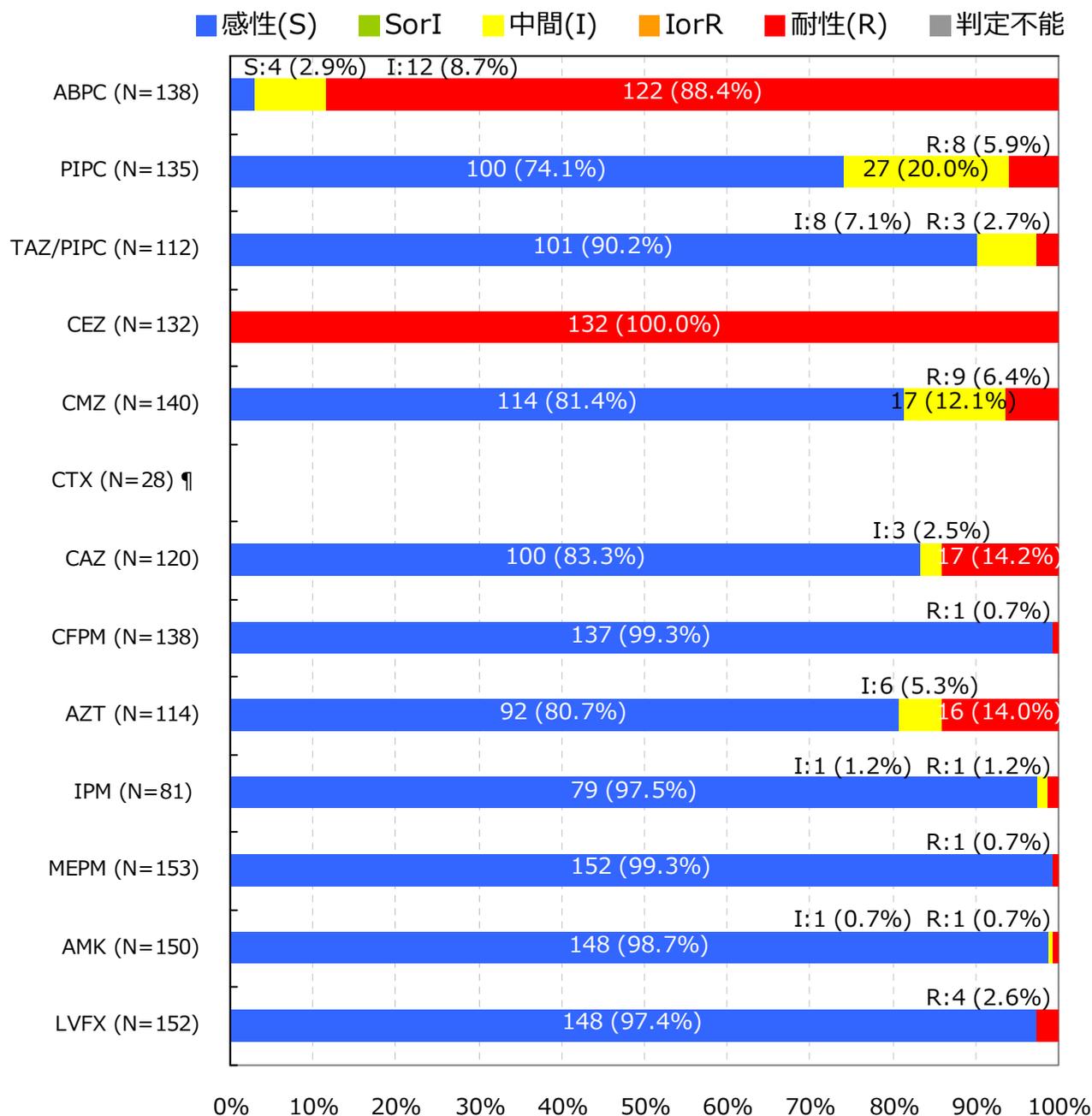
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

‡ 集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

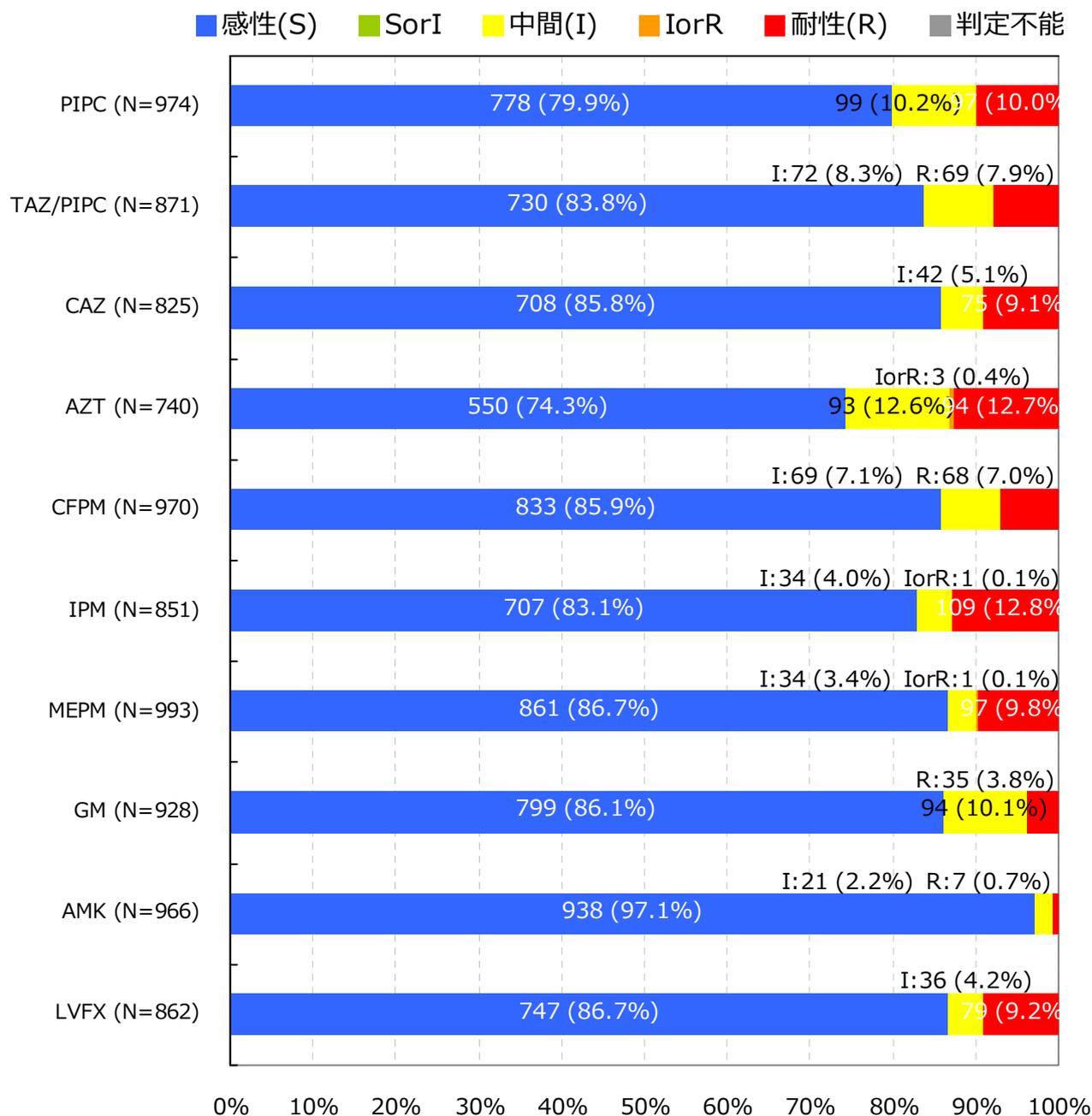
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

††集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

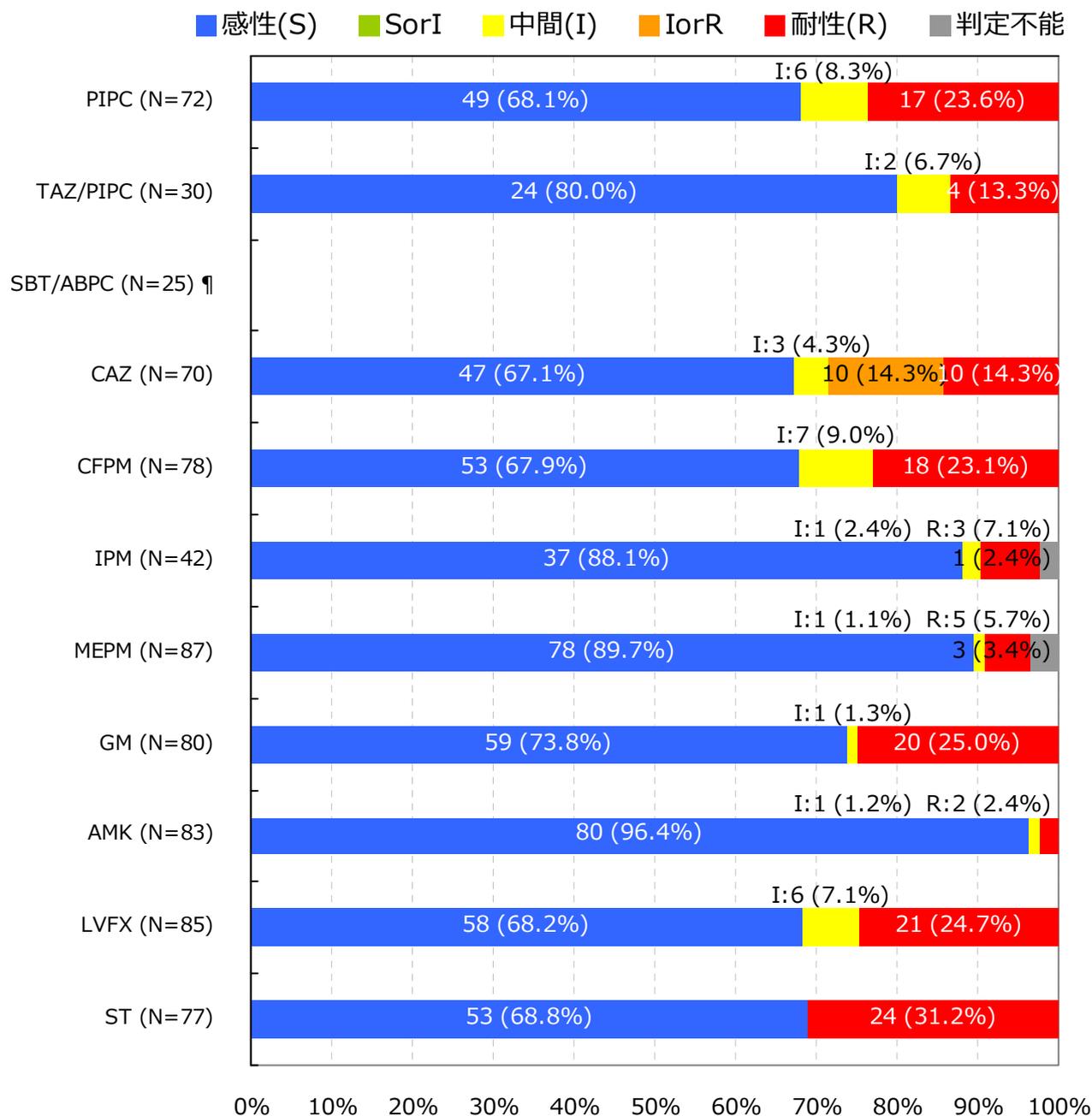
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Acinetobacter spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

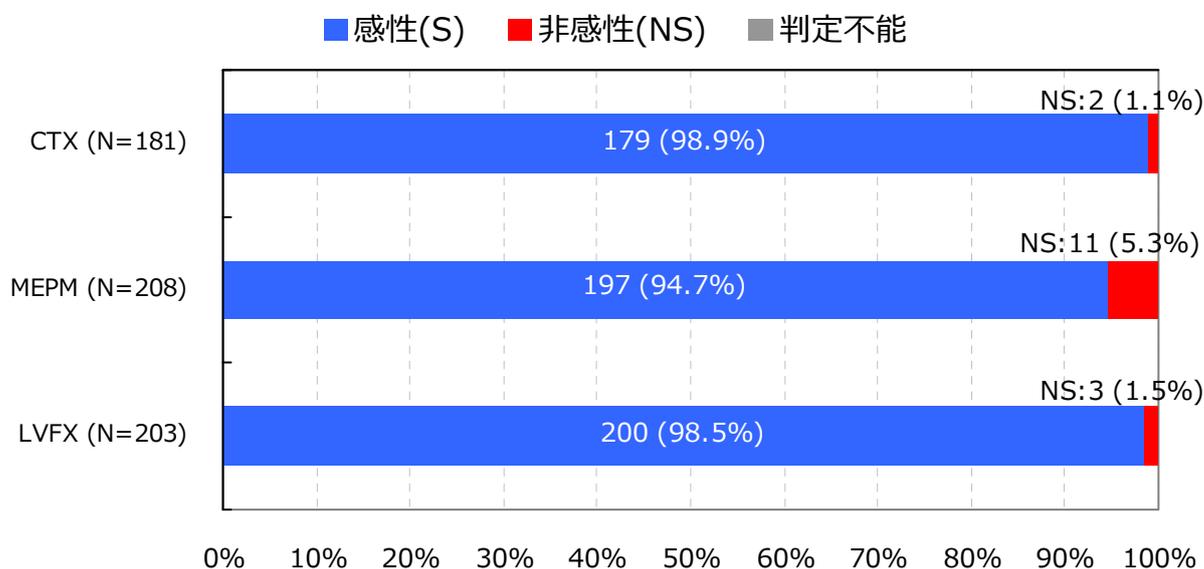
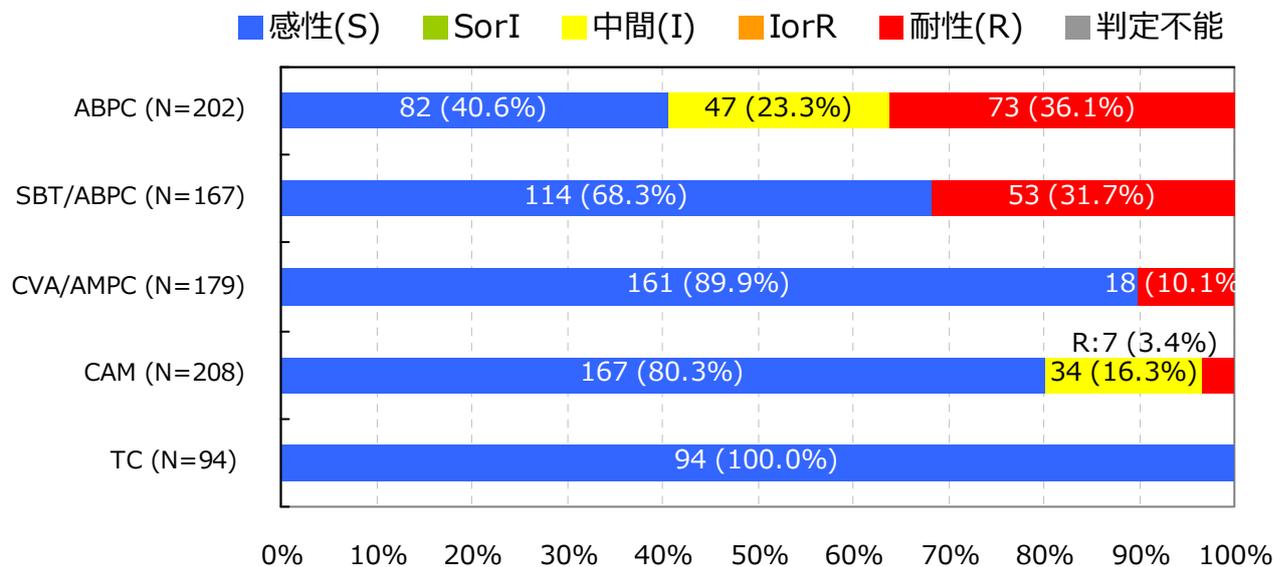
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 4400~4403と報告された菌

‡ 集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

【巻末資料1 主要菌の菌名コード / 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

主要菌の菌名コード（薬剤感受性条件なし）

| 菌名                                | 菌名コード Ver.5.1       |
|-----------------------------------|---------------------|
| <i>Staphylococcus aureus</i>      | 1301,1303-1306      |
| <i>Staphylococcus epidermidis</i> | 1312                |
| <i>Streptococcus pneumoniae</i>   | 1131                |
| <i>Enterococcus faecalis</i>      | 1201,1202           |
| <i>Enterococcus faecium</i>       | 1205,1206           |
| <i>Escherichia coli</i>           | 2001-2007           |
| <i>Klebsiella pneumoniae</i>      | 2351                |
| <i>Enterobacter</i> spp.          | 2150-2156           |
| <i>Enterobacteriaceae</i>         | 2000-2691,3150-3151 |
| <i>Pseudomonas aeruginosa</i>     | 4001                |
| <i>Acinetobacter</i> spp.         | 4400-4403           |

微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準

| 菌名   | 概要*   | 微量液体希釈法 (MIC 値)   | 菌名コード Ver.5.1                           |
|------|---|---|---|
| MRSA | MPIPC または CFX が "R" の <i>S. aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌  | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$  | 1301,1303                               |
| VRSA | VCM が微量液体希釈法で "R" の <i>S. aureus</i>  | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 1301,1303-1306                          |
| VRE  | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp.<br>・ VCM が微量液体希釈法で耐性 +<br>・ 選択培地で VRE と確認された菌 (注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く                                      | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL} \dagger$   | 1201,1202,1205,1206,1209,1210,1213-1217 |
| PRSP | PCG が微量液体希釈法で耐性 + の <i>S. pneumoniae</i>  | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/mL} \dagger$  | 1131                                    |
| MDRP | 下記全てに該当する <i>P. aeruginosa</i><br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 +<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 +<br>3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX、CPFX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL} \dagger$ ,<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL} \dagger$<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL} \dagger$<br>3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ ,<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ ,<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ ,<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ ,<br>CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4001                                    |

「微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準」について

耐性菌の菌名 + は以下の通り

MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (2015年1月より集計開始)

\* : 原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† : 感染症発生動向調査の基準に準拠

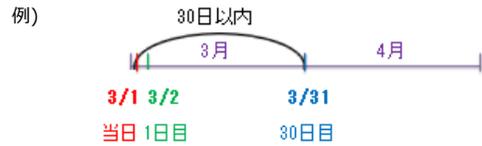
薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.2) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.2) を基に作成した。

| 菌名                 | 概要*   | 微量液体希釈法 (MIC 値)   | 菌名コード Ver.5.1           |
|--------------------|---|---|-------------------------|
| MDRA               | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp.<br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が "R"<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 +<br>3. フルオロキノロン系 (LVFX, CPFX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL} \dagger$ ,<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL} \dagger$<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL} \dagger$<br>3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ ,<br>CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4400-4403               |
| CRE                | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科<br>1. MEPM が耐性 +<br>2. IPM が耐性 +、かつ CMZ が "R"  | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/mL} \dagger$<br>2. IPM $\geq 2\mu\text{g/mL} \dagger$ かつ<br>CMZ $\geq 64\mu\text{g/mL}$   | 2000-2691,<br>3150-3151 |
| カルバペネム耐性緑膿菌        | IPM または MEPM が耐性 + の <i>P. aeruginosa</i>   | IPM $\geq 16\mu\text{g/mL} \dagger$<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL} \dagger$   | 4001                    |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌 | CTX または CTRX または CAZ が "R" の <i>K. pneumoniae</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CTRX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$  | 2351                    |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌  | CTX または CTRX または CAZ が "R" の <i>E. coli</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CTRX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$  | 2001-2007               |
| フルオロキノロン耐性大腸菌      | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, CPFX の何れか) が "R" の <i>E. coli</i>  | NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ ,<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ ,<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ ,<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ ,<br>CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$                              | 2001-2007               |

## 【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

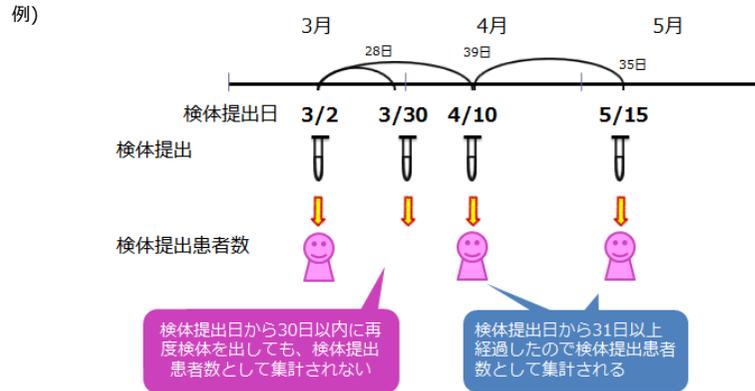
### 1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を1日目とする。検体提出日が3月1日とすると、1日目が3月2日、30日目が3月31日となる。



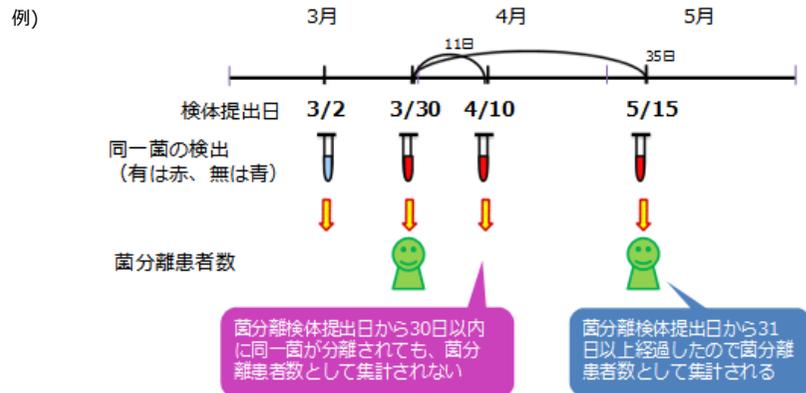
### 2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30日以内の同一患者からの複数の検体提出は1件とする。



### 3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は1件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



### 4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

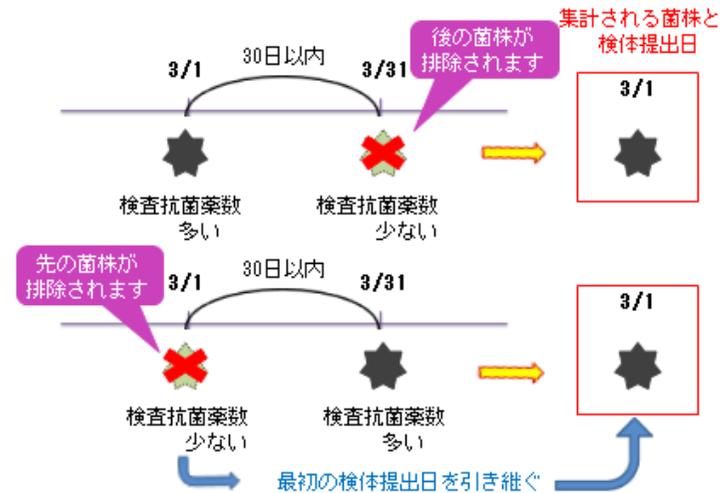
30日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に1つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC値に4倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2はMIC ≥ 4と考え、判定時はMIC = 4として扱う  
また、MIC < 16はMIC ≤ 16と考え、判定時はMIC = 16として扱う
- ② SIR判定では「SとR」の組み合わせ
- ③ +/-判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が5未満

### 5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30日以内の)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。

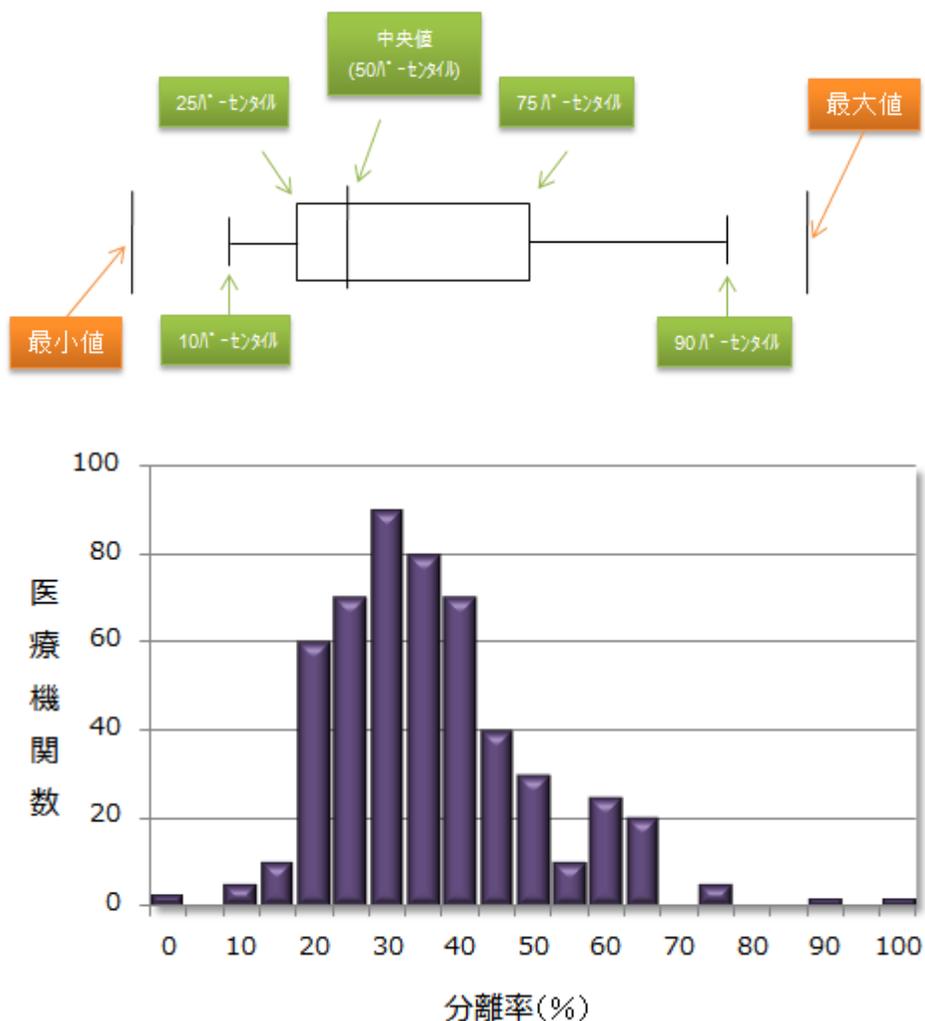
例)



## 【巻末資料 3 箱ひげ図について】

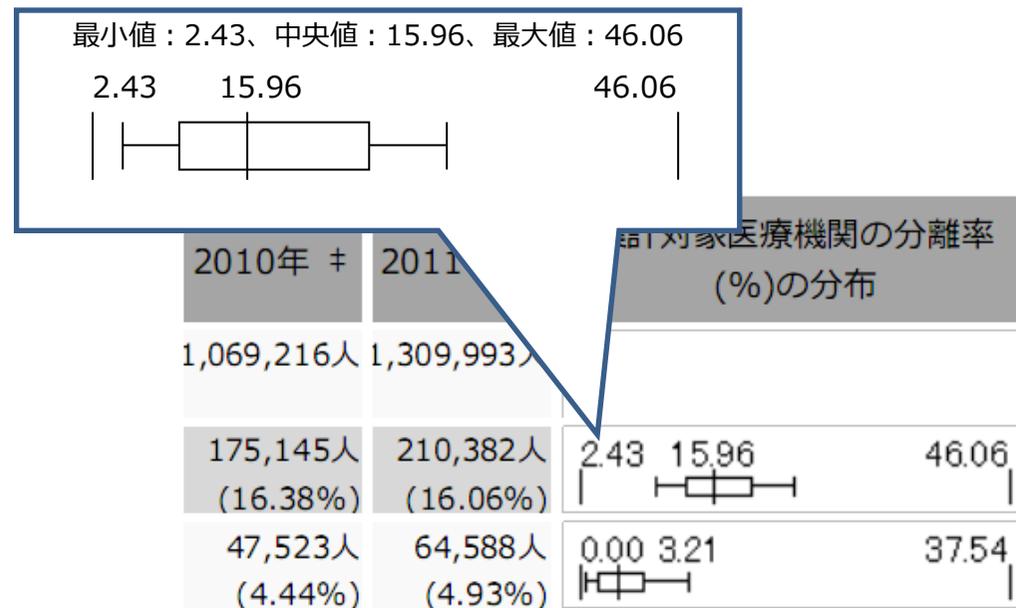
### 1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



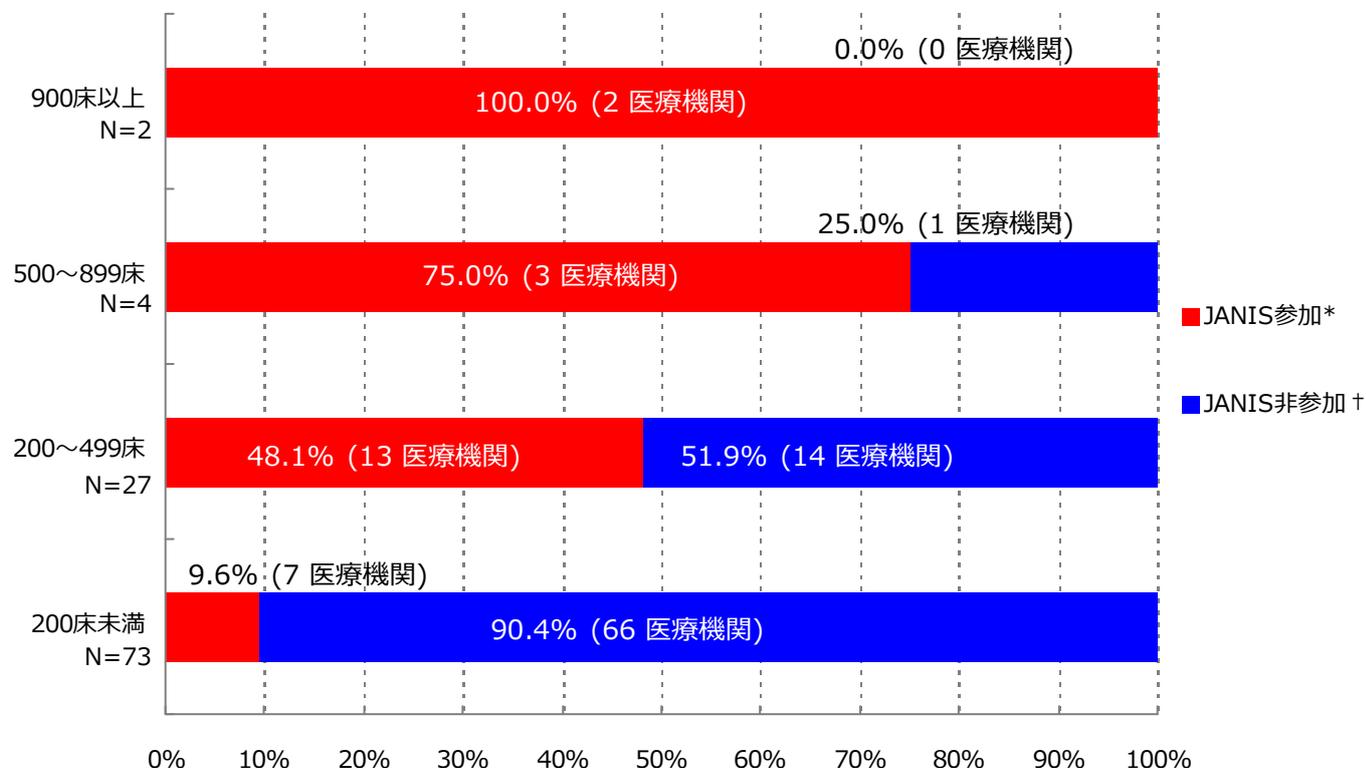
※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したものの。例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

### 2. 公開情報の箱ひげ図





### 1. 集計対象医療機関数(25医療機関)



\*JANIS参加 = 2019年1～3月 集計対象医療機関数

†JANIS非参加 = (2018年 都道府県別医療機関数 †) - (2019年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数      | 2018年 都道府県別医療機関数 † | 2019年1月～3月 集計対象医療機関数<br>(都道府県別医療機関数に占める割合) |
|----------|--------------------|--|
| 900床以上   | 2                  | 2 (100.0%)                                 |
| 500～899床 | 4                  | 3 (75.0%)                                  |
| 200～499床 | 27                 | 13 (48.1%)                                 |
| 200床未満   | 73                 | 7 (9.6%)                                   |
| 病床数不明    | -                  | 0 (-)                                      |
| 合計       | 106                | 25 (23.6%)                                 |

† 2018年医療施設（動態）調査を参照した

(栃木県)

公開情報 2019年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門 【入院検体】

## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数    | 陽性検体数<br>(分離菌数)    |
|--------|-----------|--------|--------------------|
| 呼吸器系検体 | 25        | 10,260 | 6,387<br>(14,650)  |
| 尿検体    | 25        | 4,362  | 2,370<br>(3,432)   |
| 便検体    | 24        | 1,494  | 573<br>(888)       |
| 血液検体   | 25        | 13,167 | 1,499<br>(1,645)   |
| 髄液検体   | 20        | 362    | 11<br>(17)         |
| その他    | 25        | 4,925  | 2,291<br>(4,139)   |
| 合計     | 25        | 34,570 | 13,131<br>(24,771) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

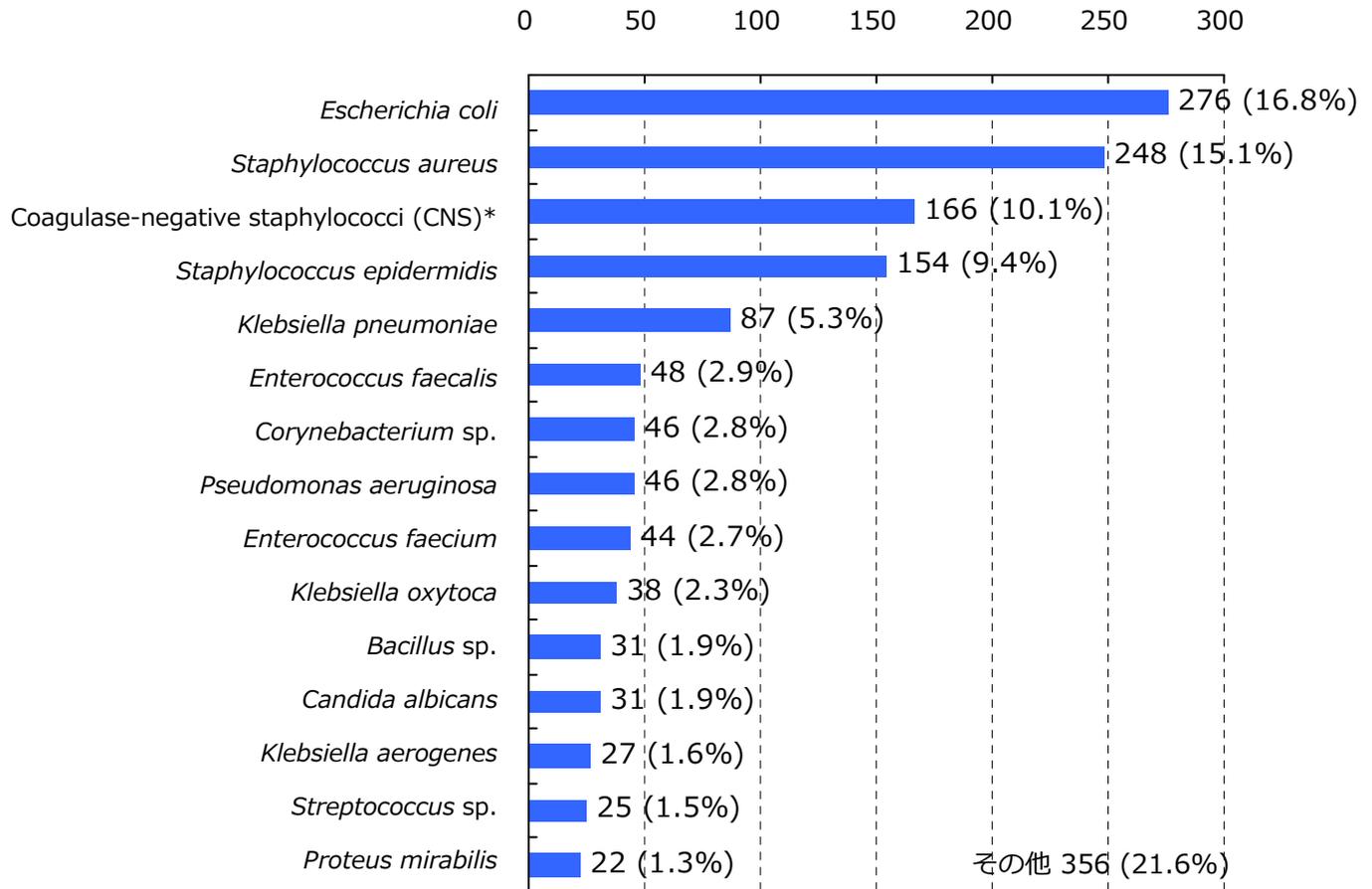
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=1,645)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

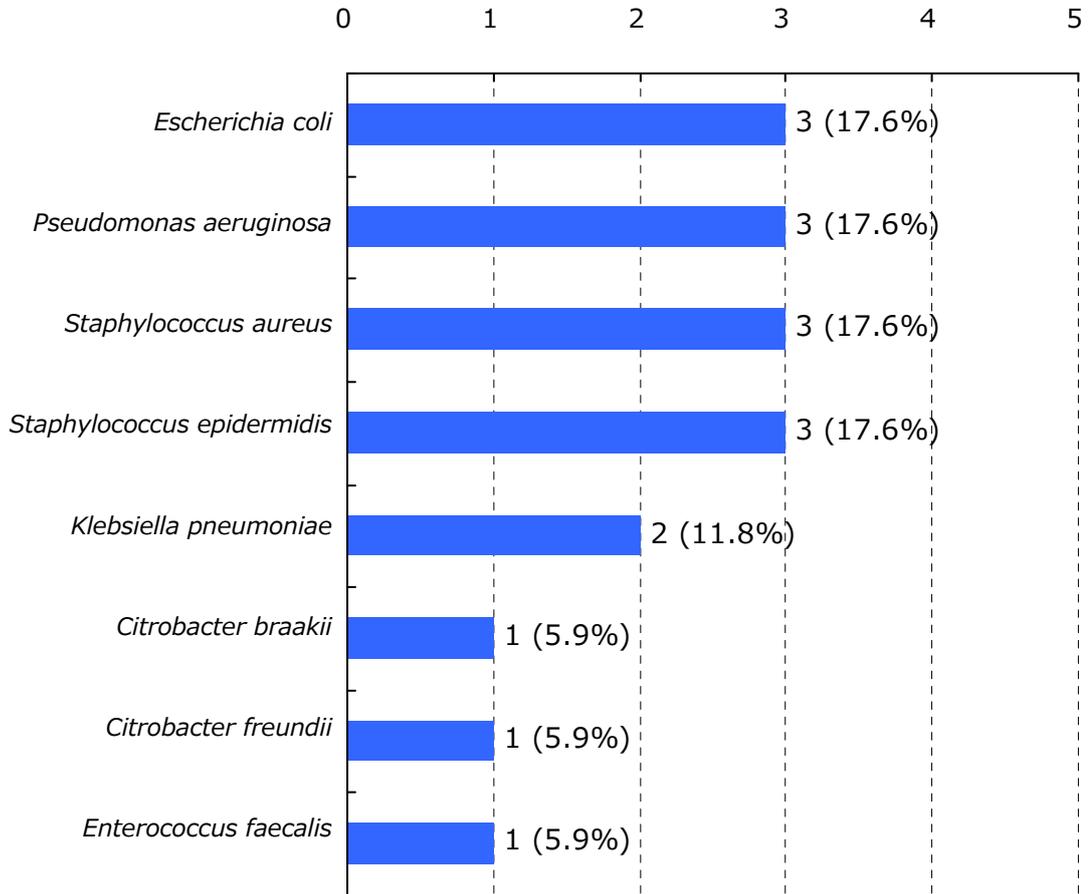
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=17)



入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

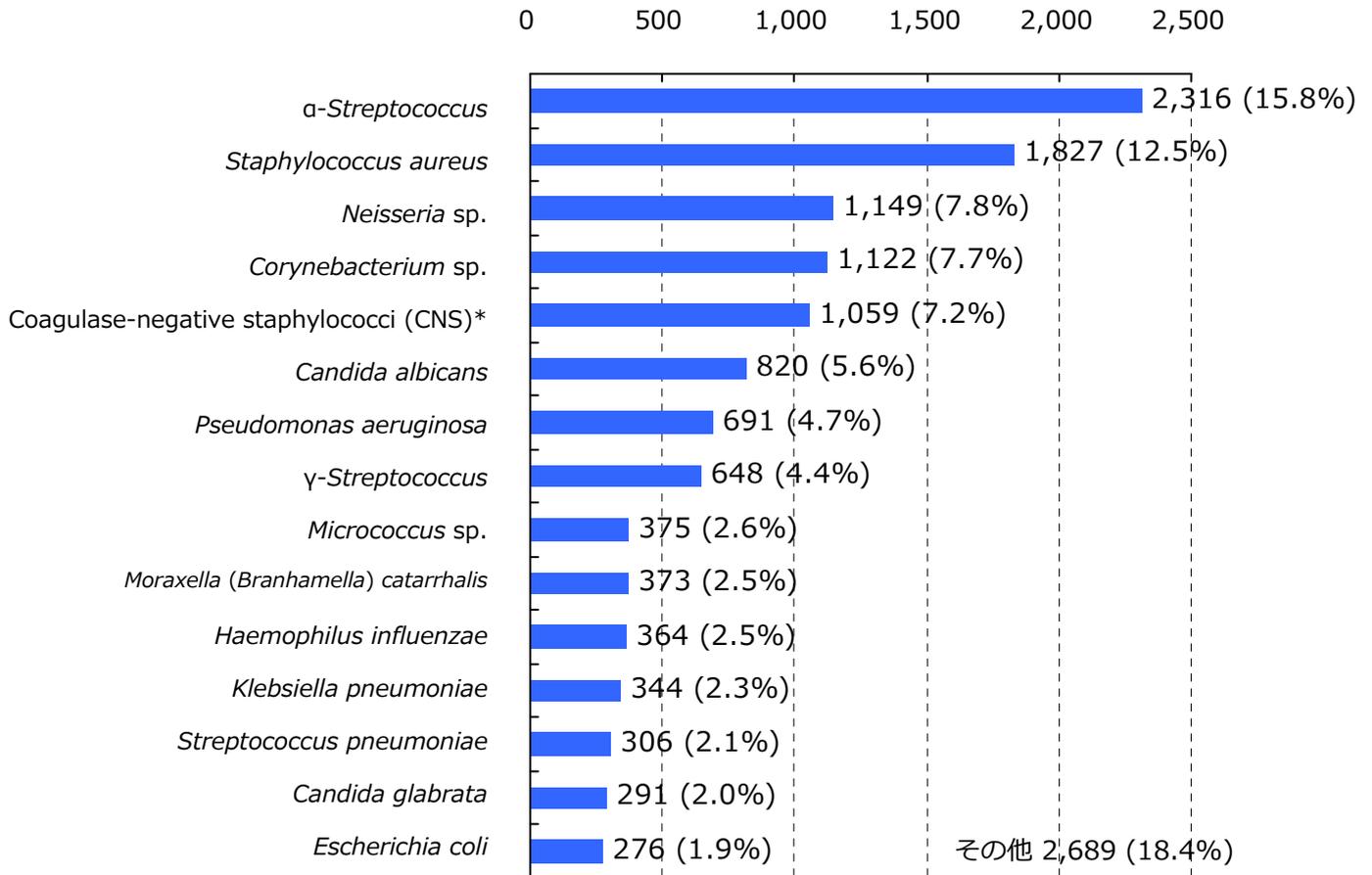
髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 呼吸器系検体分離菌 (N=14,650)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・常在菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：喀出痰(検査材料コード101)、気管内採痰(同102)、気管支洗浄液(同103)、咽頭粘液(同104)、鼻腔内(同105)、口腔内(同106)、生検材料(肺)(同107)、その他(呼吸器)(同109)、胸水(同404)

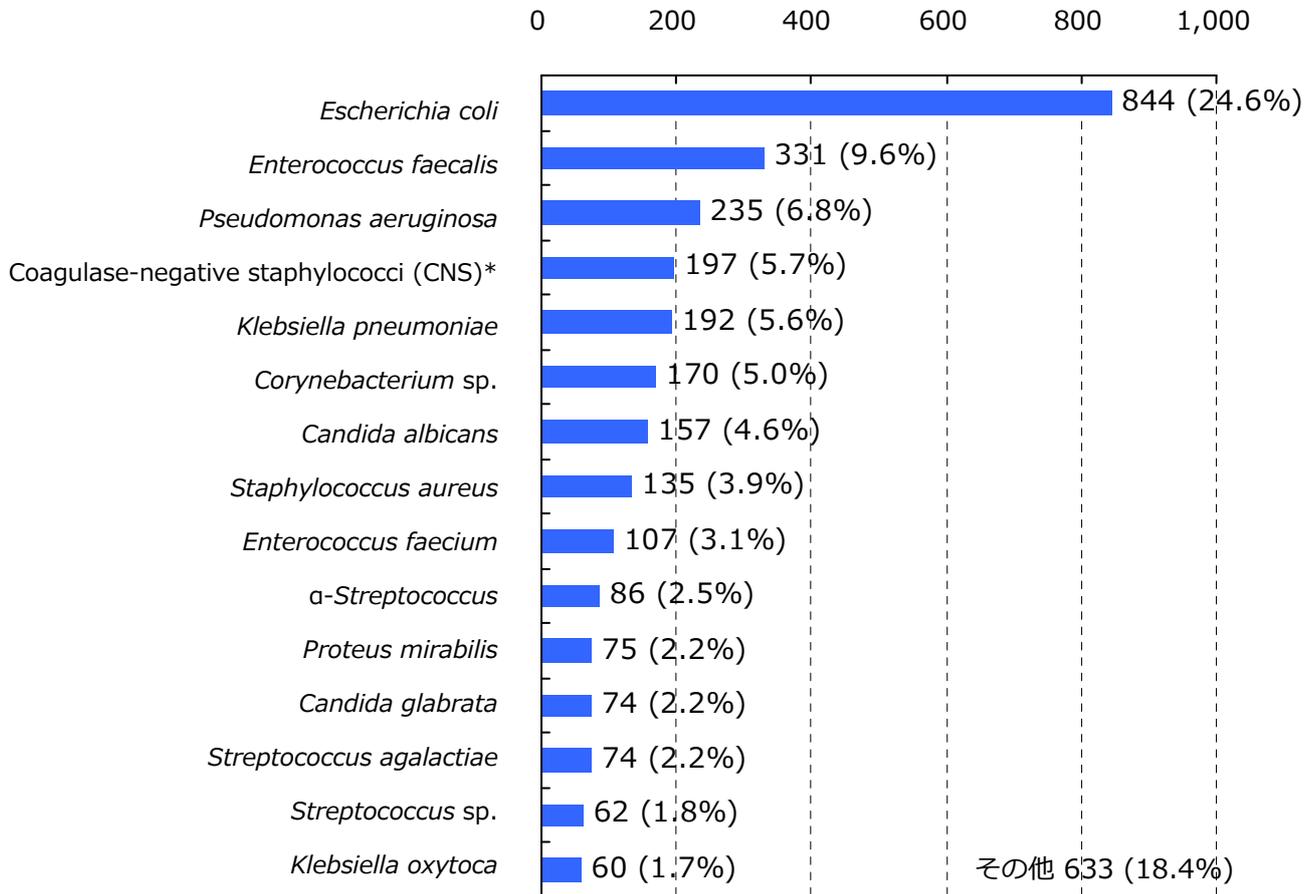
呼吸器系検体分離菌数割合 = (対象菌の呼吸器系検体分離菌数) ÷ (呼吸器系検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 尿検体分離菌 (N=3,432)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

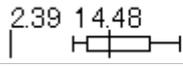
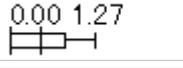
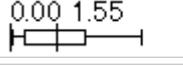
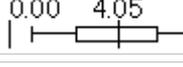
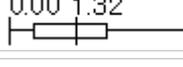
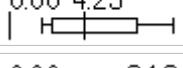
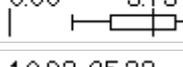
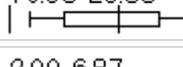
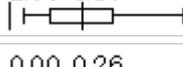
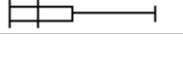
集計対象検査材料：自然排尿(検査材料コード201)、採尿カテーテル尿(同202)、留置カテーテル尿(同203)、カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能)(同206)

尿検体分離菌数割合 = (対象菌の尿検体分離菌数) ÷ (尿検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

#### 4. 主要菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                           | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布  |
|---------------------------|------------------------|--|
| 検体提出患者数(100床あたり)          | 11,880人<br>(124.8)※    |  |
| <i>S. aureus</i>          | 1,725人<br>(14.52%)     | 2.39 14.48 45.00<br>    |
| <i>S. epidermidis</i>     | 383人<br>(3.22%)        | 0.00 1.27 14.94<br>     |
| <i>S. pneumoniae</i>      | 287人<br>(2.42%)        | 0.00 1.55 11.71<br>     |
| <i>E. faecalis</i>        | 539人<br>(4.54%)        | 0.00 4.05 12.90<br>     |
| <i>E. faecium</i>         | 196人<br>(1.65%)        | 0.00 1.32 6.86<br>     |
| <i>E. coli</i>            | 1,456人<br>(12.26%)     | 4.31 14.65 25.07<br>  |
| <i>K. pneumoniae</i>      | 551人<br>(4.64%)        | 0.00 4.23 19.52<br>   |
| <i>Enterobacter spp.</i>  | 354人<br>(2.98%)        | 0.00 3.13 7.58<br>    |
| <i>Enterobacteriaceae</i> | 2,682人<br>(22.58%)     | 10.93 25.33 56.67<br> |
| <i>P. aeruginosa</i>      | 731人<br>(6.15%)        | 2.00 6.87 25.24<br>   |
| <i>Acinetobacter spp.</i> | 68人<br>(0.57%)         | 0.00 0.26 3.25<br>    |

入院として報告された検体を集計

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

※ 病床数が登録されている医療機関のみが対象

## 5. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                        | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布       |
|------------------------|------------------------|-------------------------------|
| 検体提出患者数(100床あたり)       | 11,880人<br>(124.8)※    |                               |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)   | 729人<br>(6.14%)        | 0.00 6.20 30.00<br>  H  ----- |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>                      |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)      | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>                      |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)      | 88人<br>(0.74%)         | 0.00 0.62 4.01<br> -----  H   |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP)          | 1人<br>(0.01%)          | 0.00 0.00 0.26<br> -----      |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)    | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>                      |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)   | 32人<br>(0.27%)         | 0.00 0.00 1.14<br> -----      |
| カルバペネム耐性緑膿菌            | 107人<br>(0.90%)        | 0.00 0.75 7.53<br>  H  -----  |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌     | 45人<br>(0.38%)         | 0.00 0.00 9.52<br>  H  -----  |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌      | 240人<br>(2.02%)        | 0.00 1.80 12.90<br>  H  ----- |
| フルオロキノロン耐性大腸菌          | 452人<br>(3.80%)        | 0.00 4.27 13.98<br>  H  ----- |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計  
MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

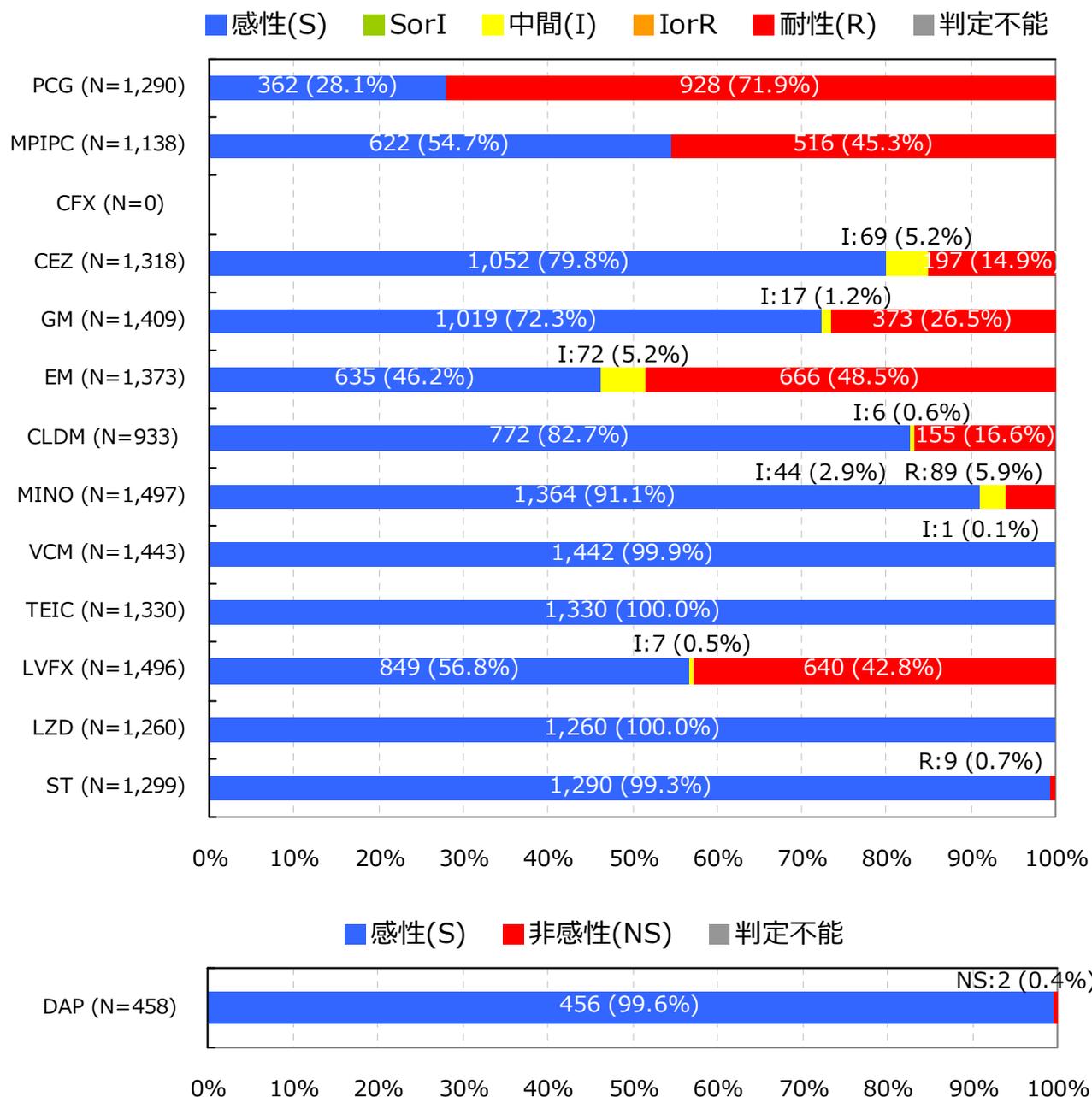
= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

※ 病床数が登録されている医療機関のみが対象

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Staphylococcus aureus (ALL) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

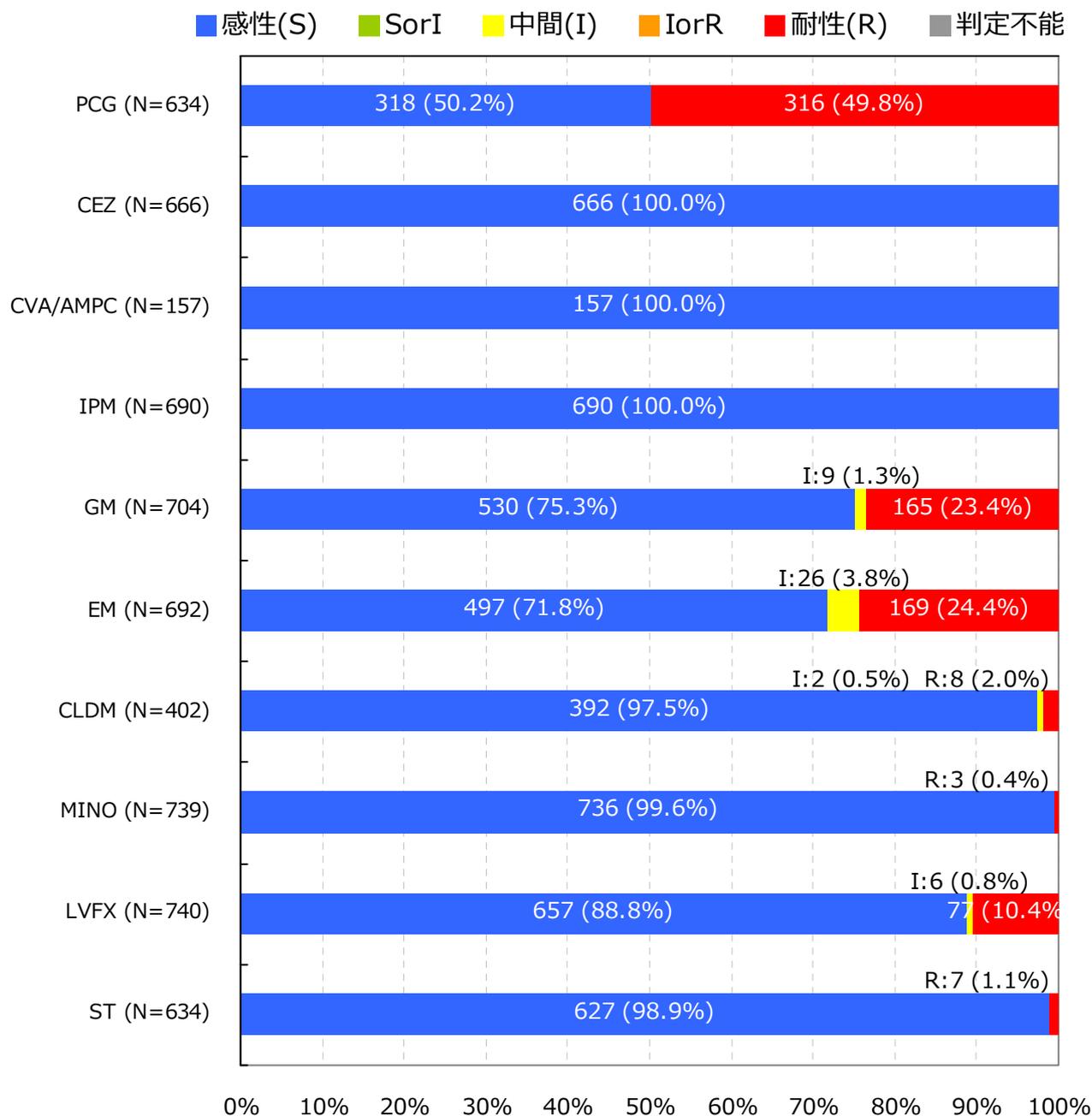
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

†菌名コード: 1301, 1303～1306と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

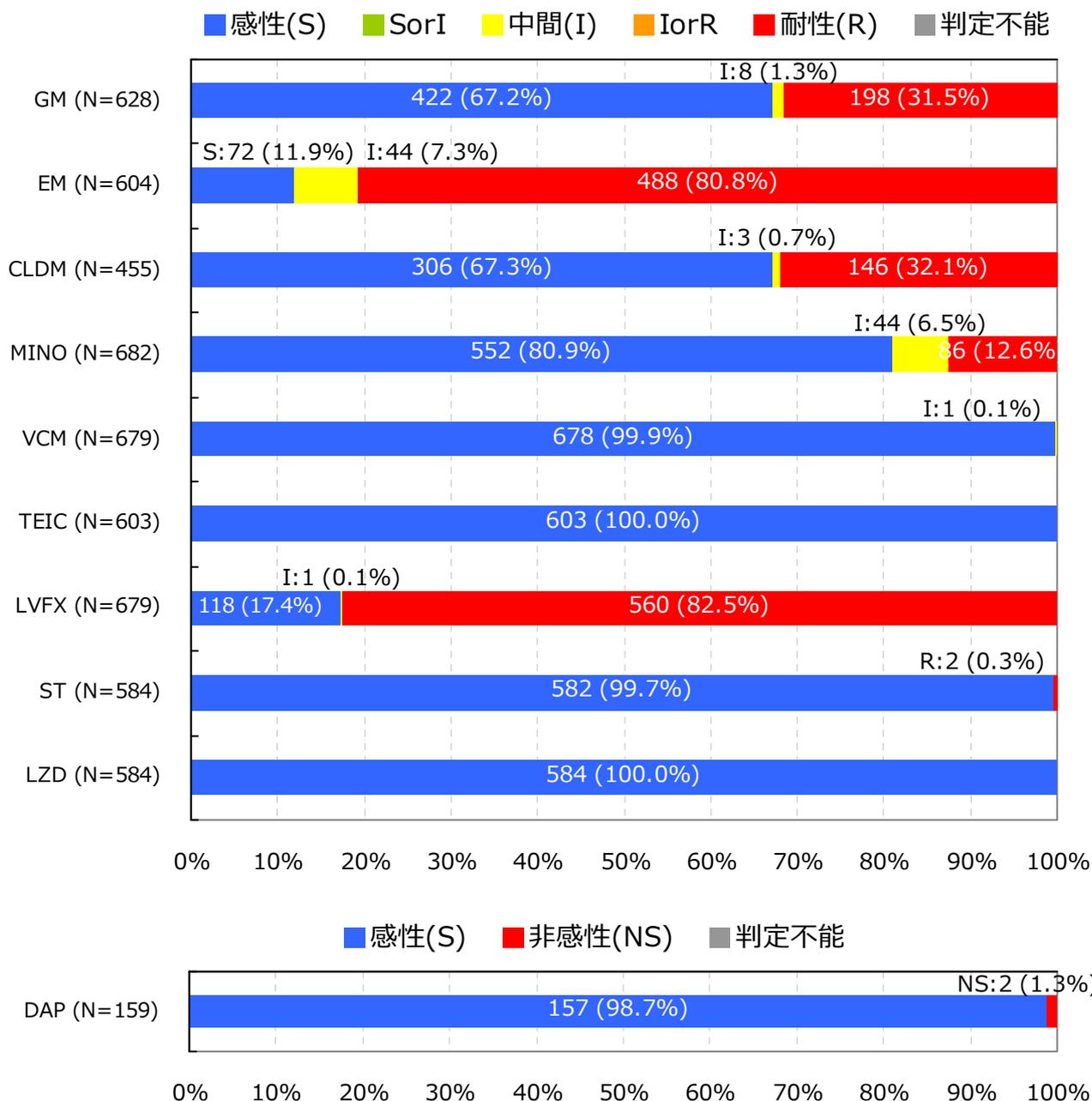
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1304, 1305, 1306と報告された菌、または菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208 (オキサリリン) および抗菌薬コード：1606 (セフォキシチン) の感受性結果「S」の菌 (一方が「S」で他方が未測定の場合を含む)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

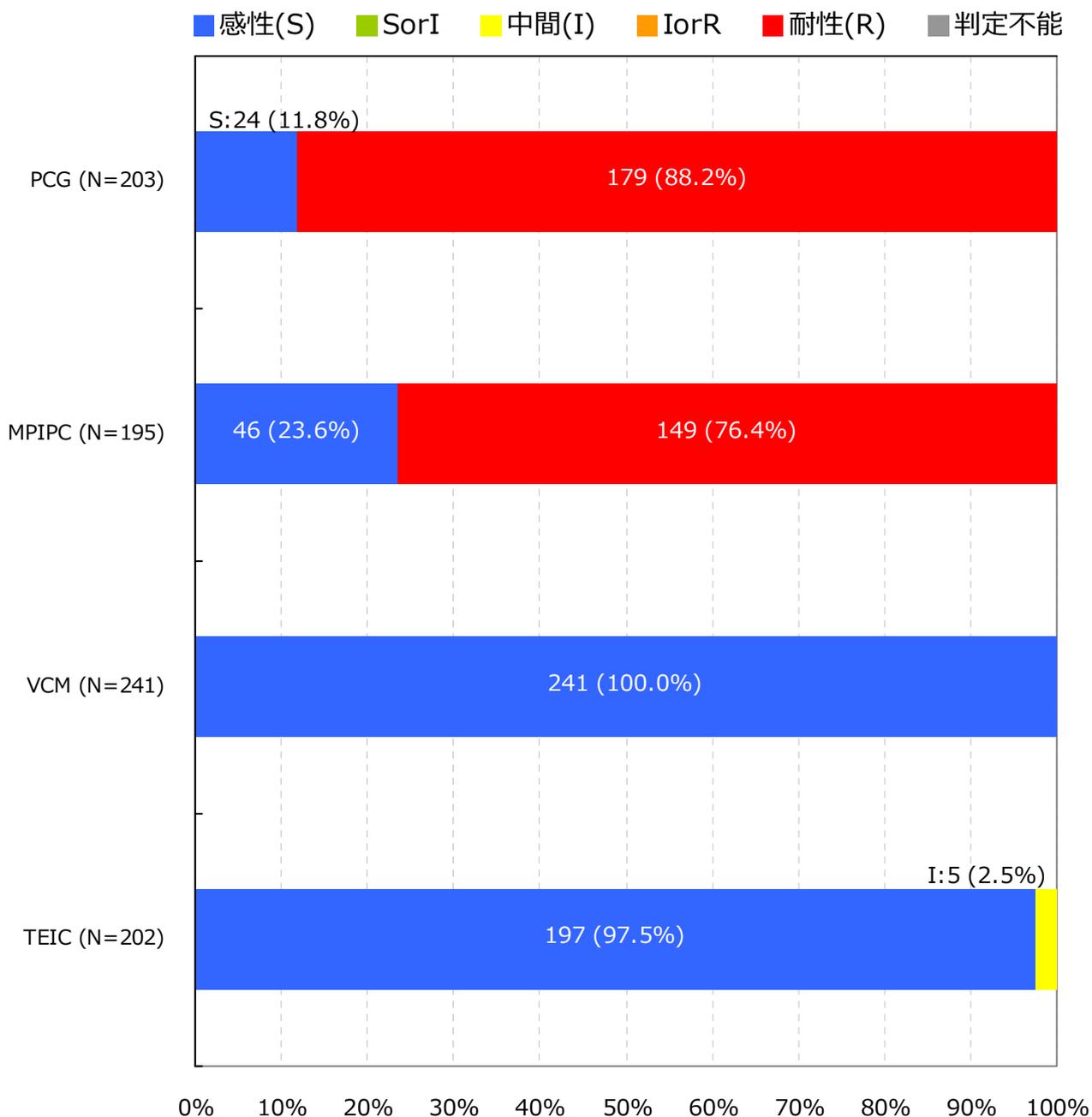
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌、または菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) または抗菌薬コード : 1606 (セフォキシチン) の感受性結果「R」の菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

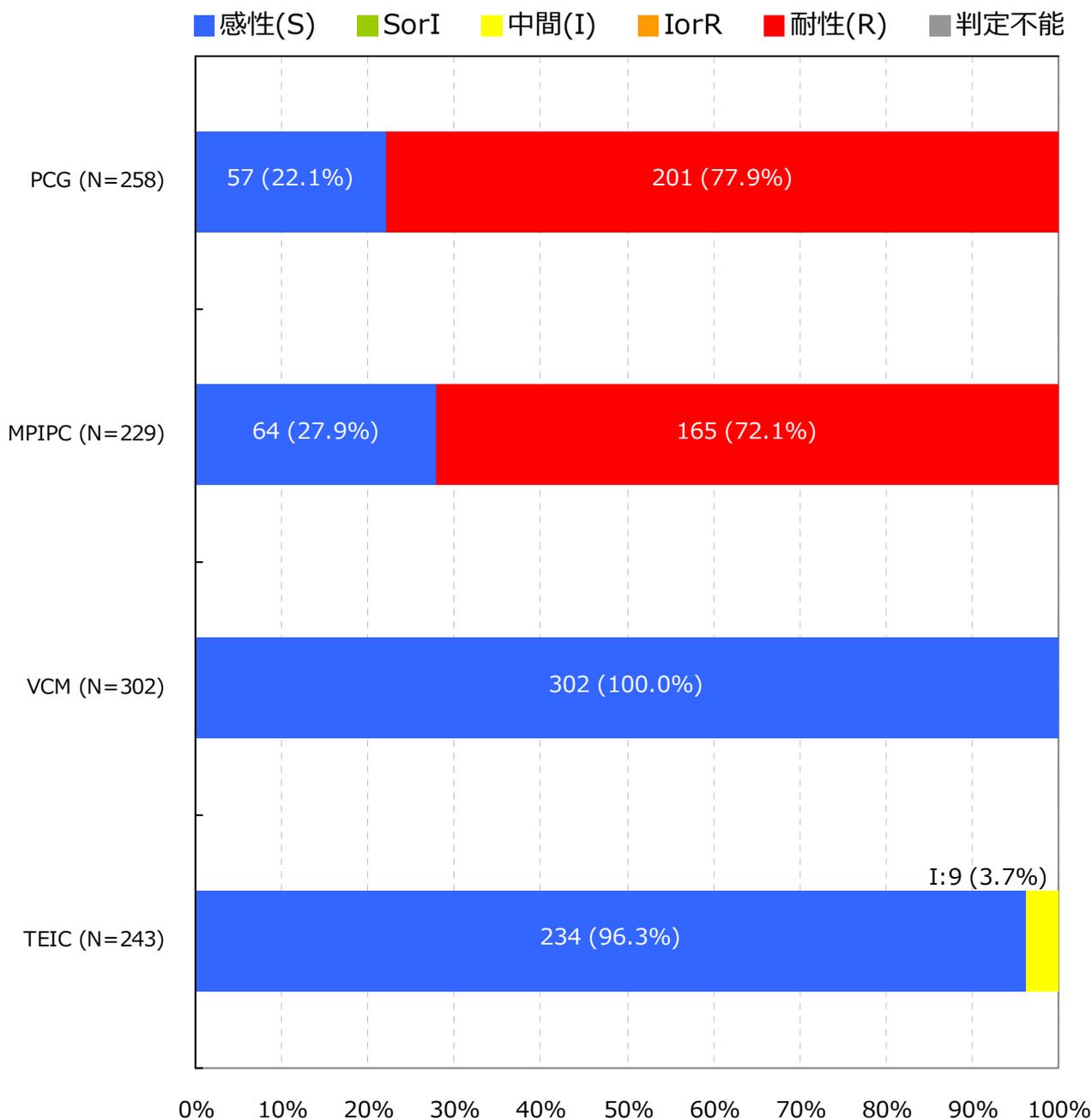
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

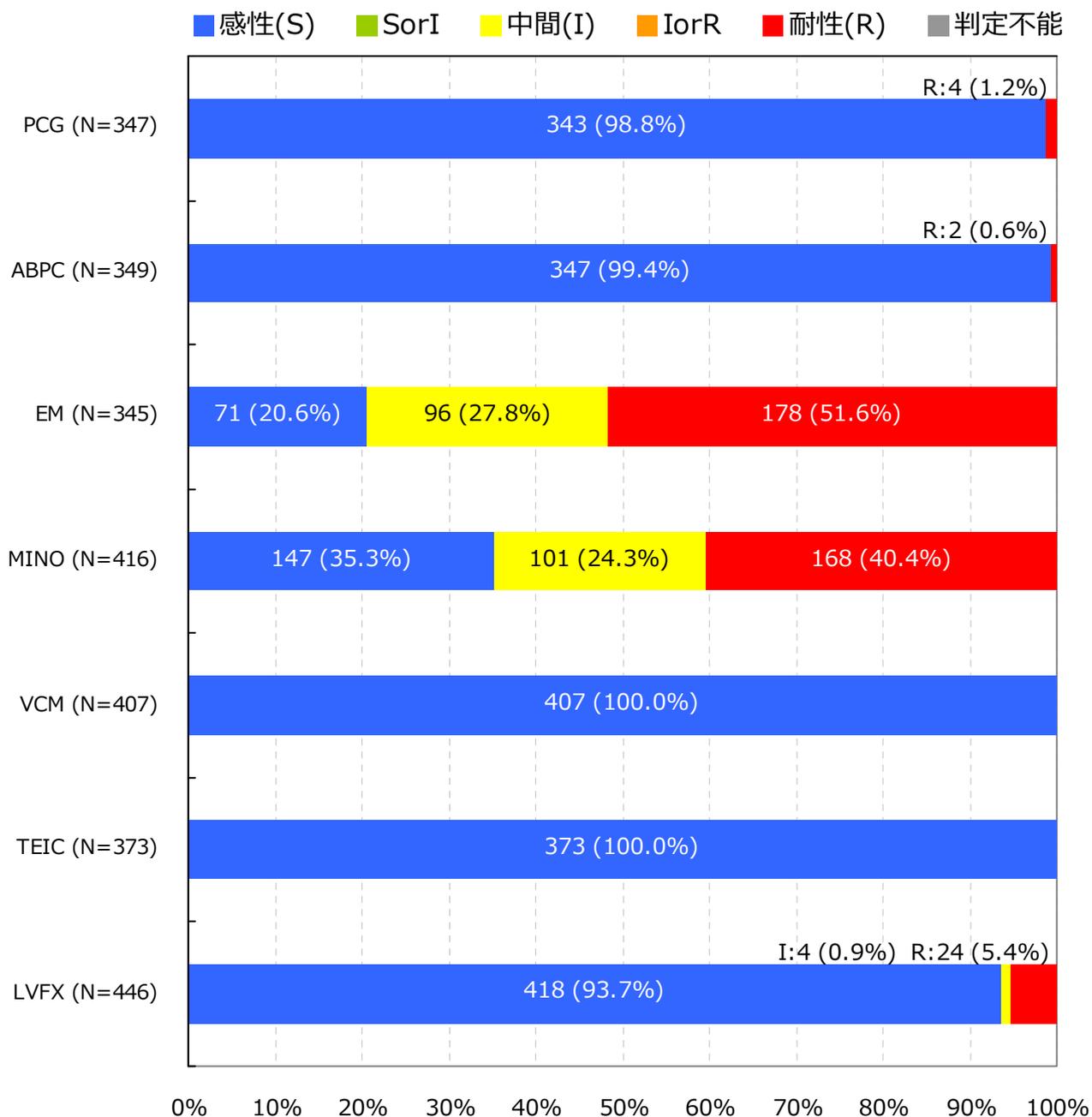
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1205, 1206と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

(栃木県)

公開情報 2019年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門 【入院検体】

## 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †

報告はありませんでした

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

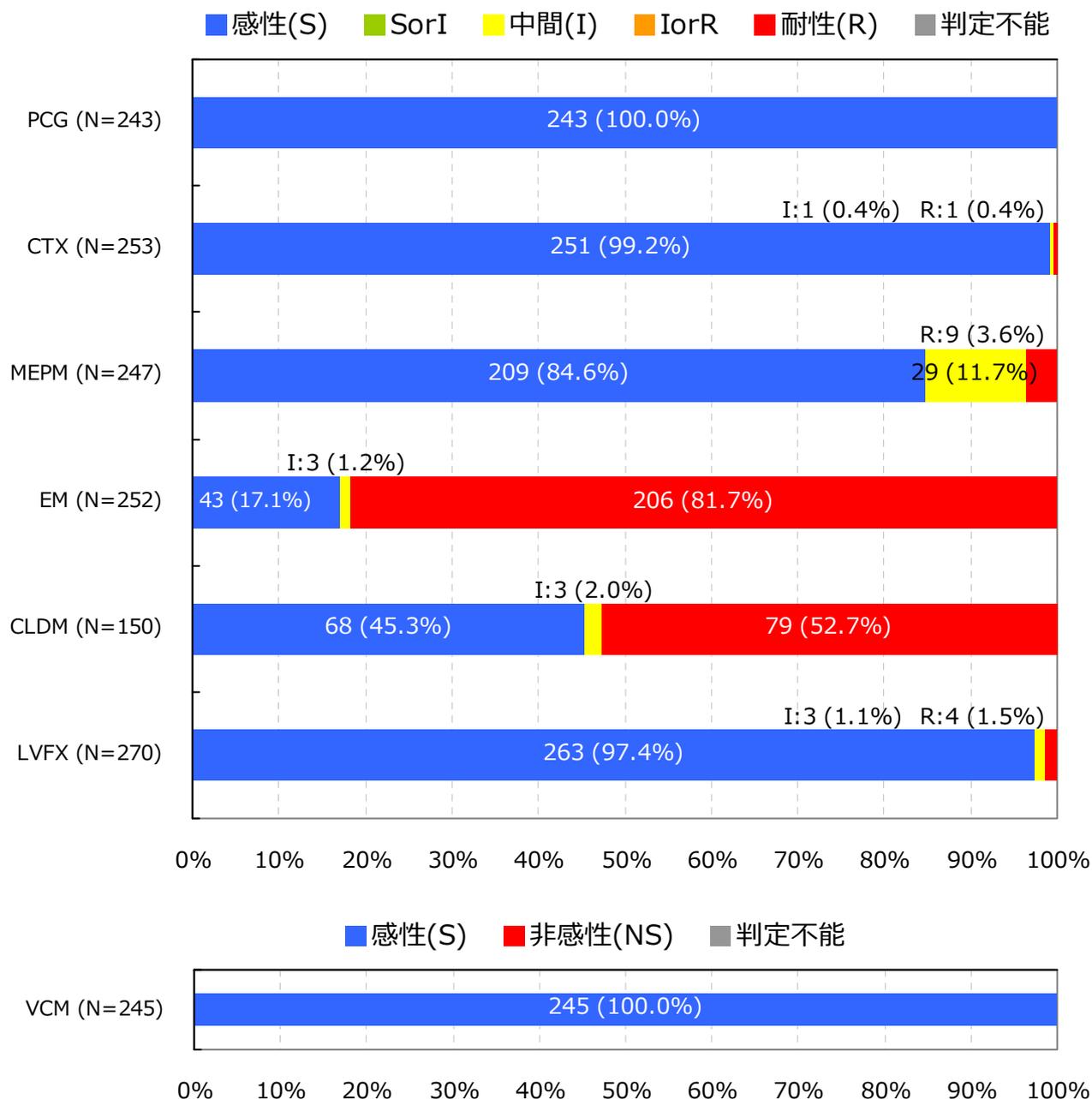
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1131と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

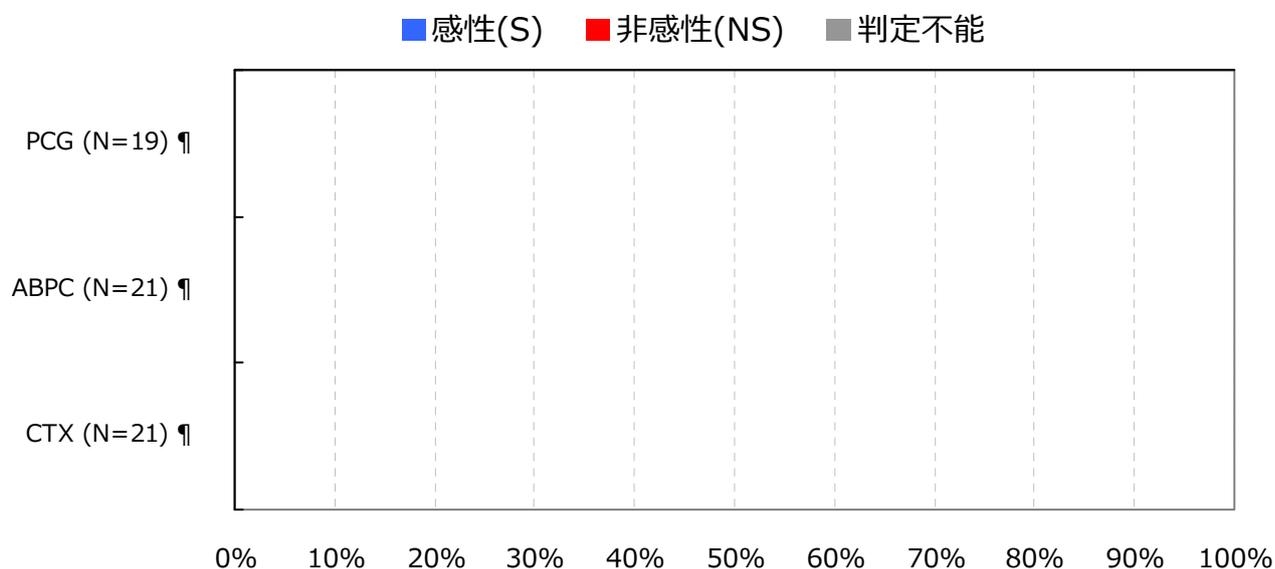
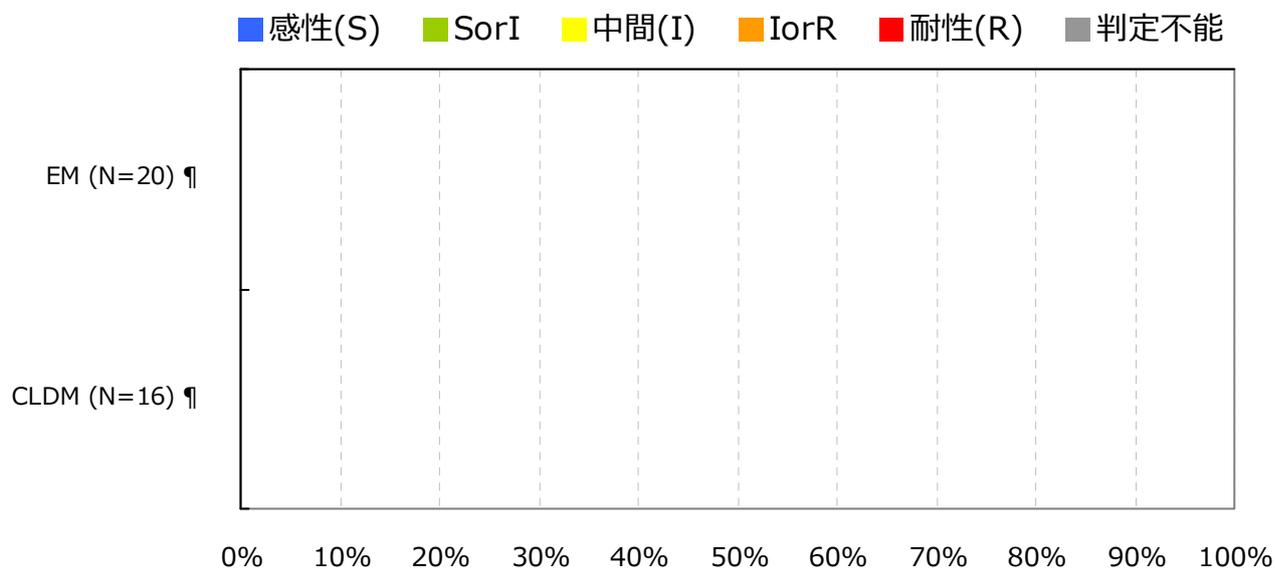
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

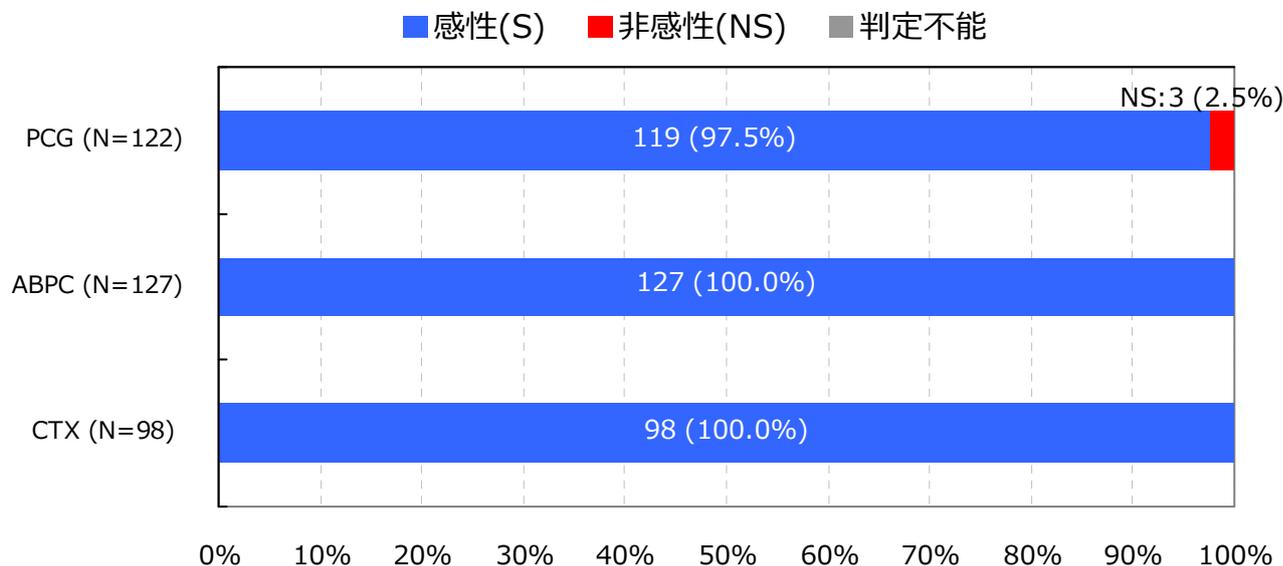
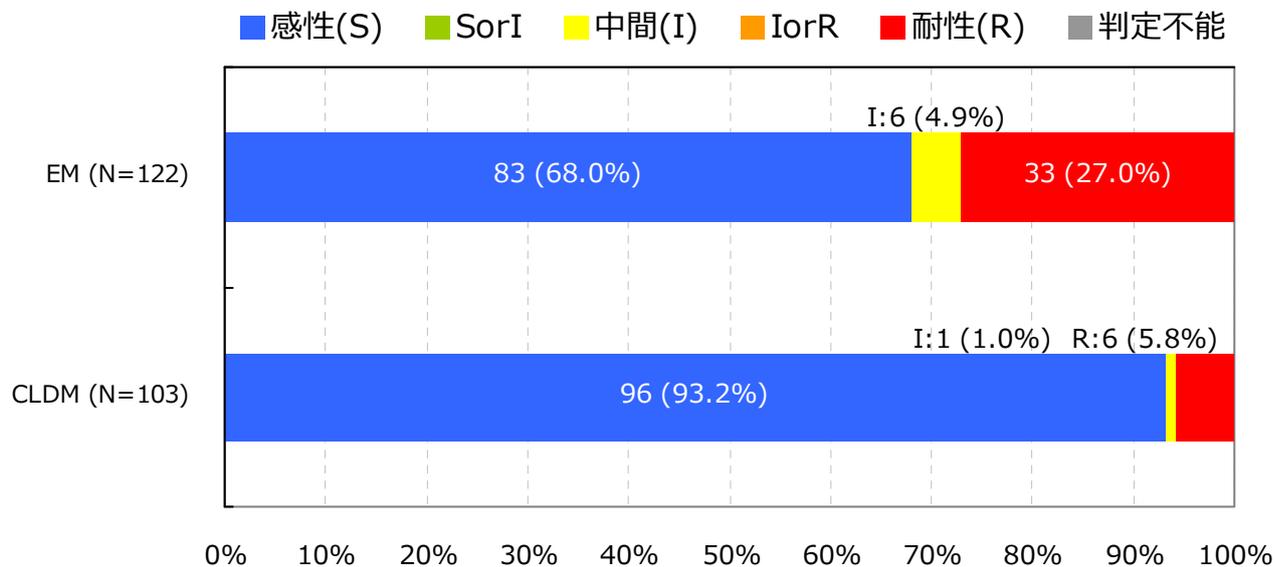
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌

¶ 集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

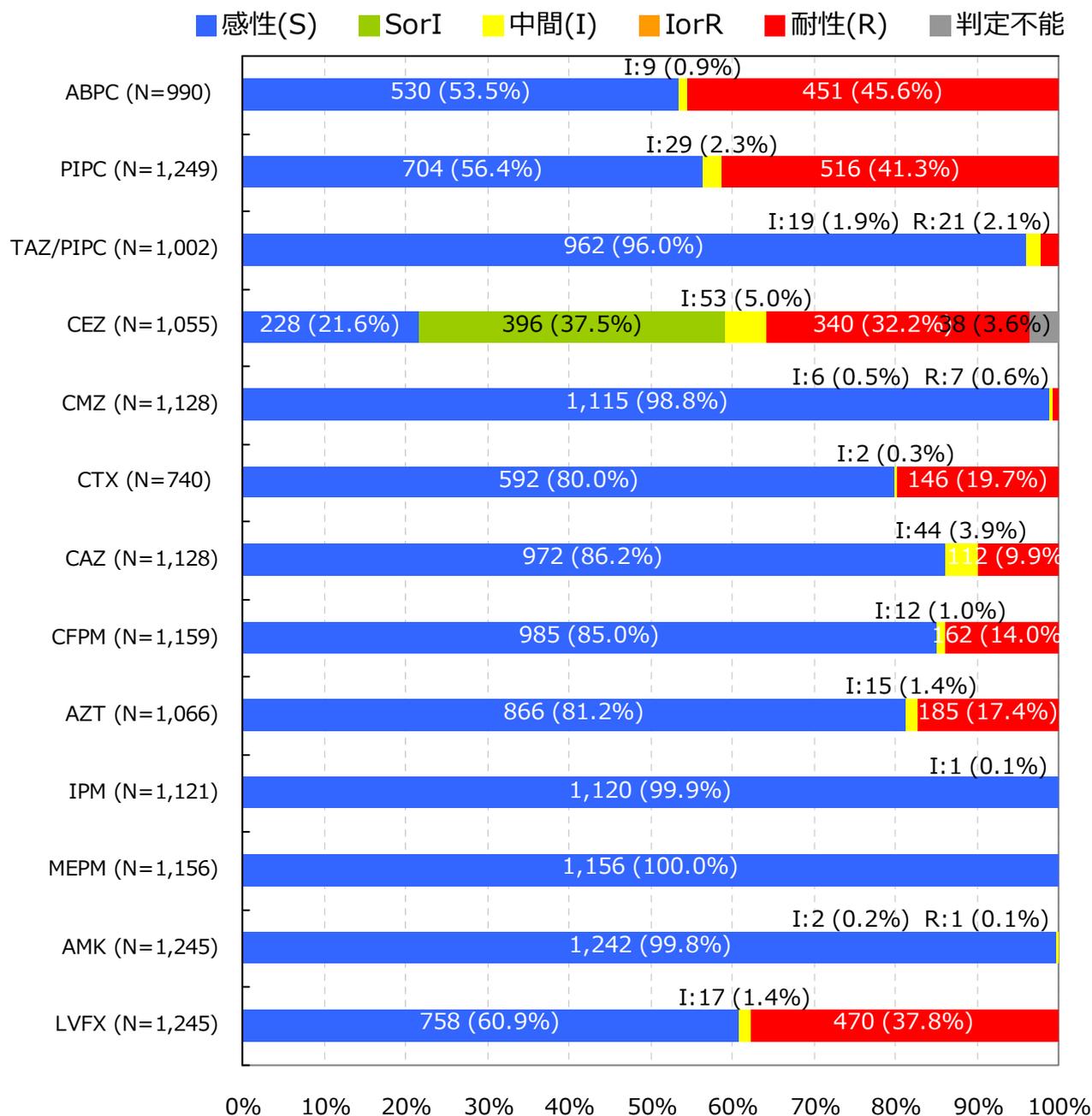
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1114と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

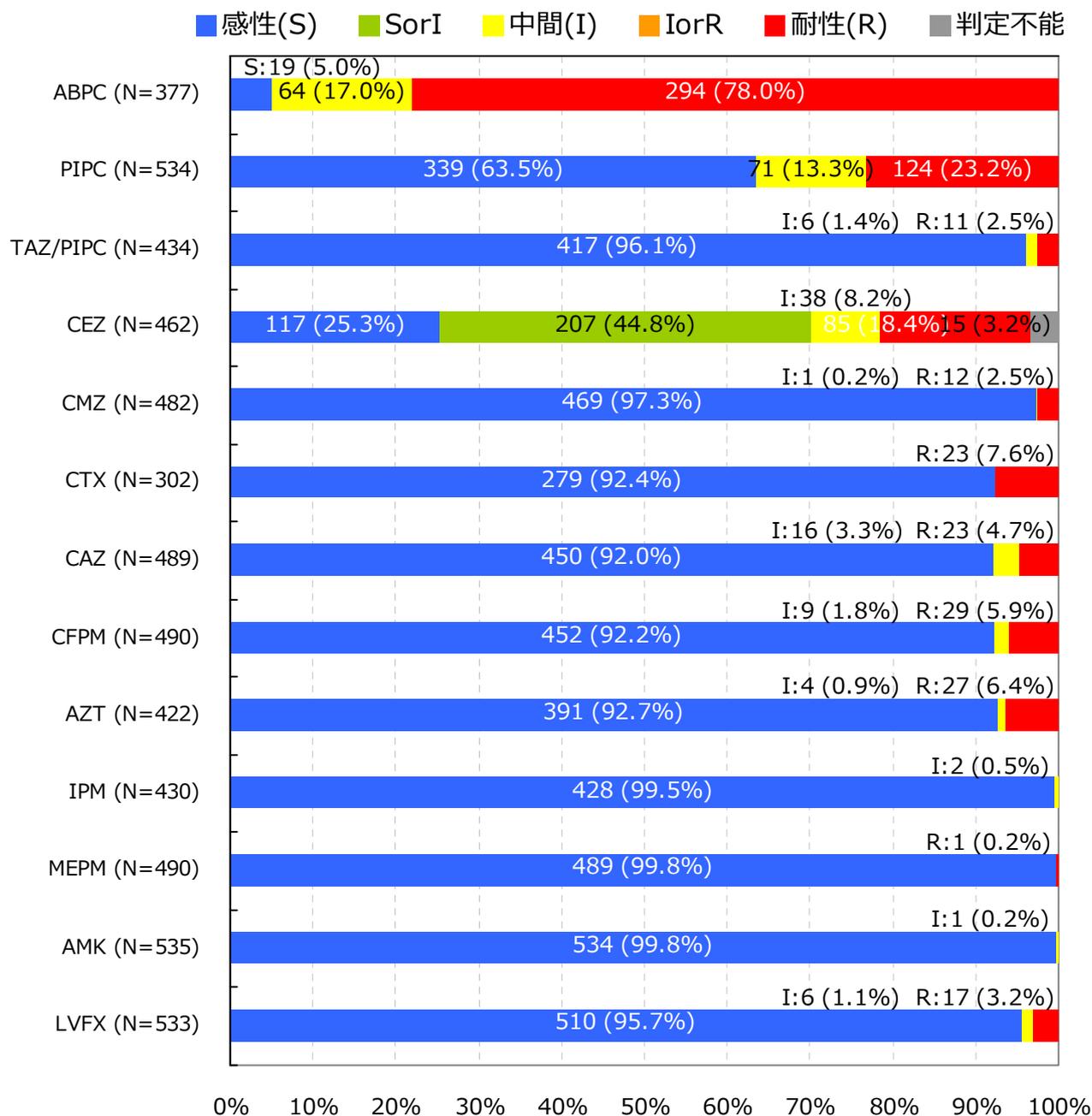
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

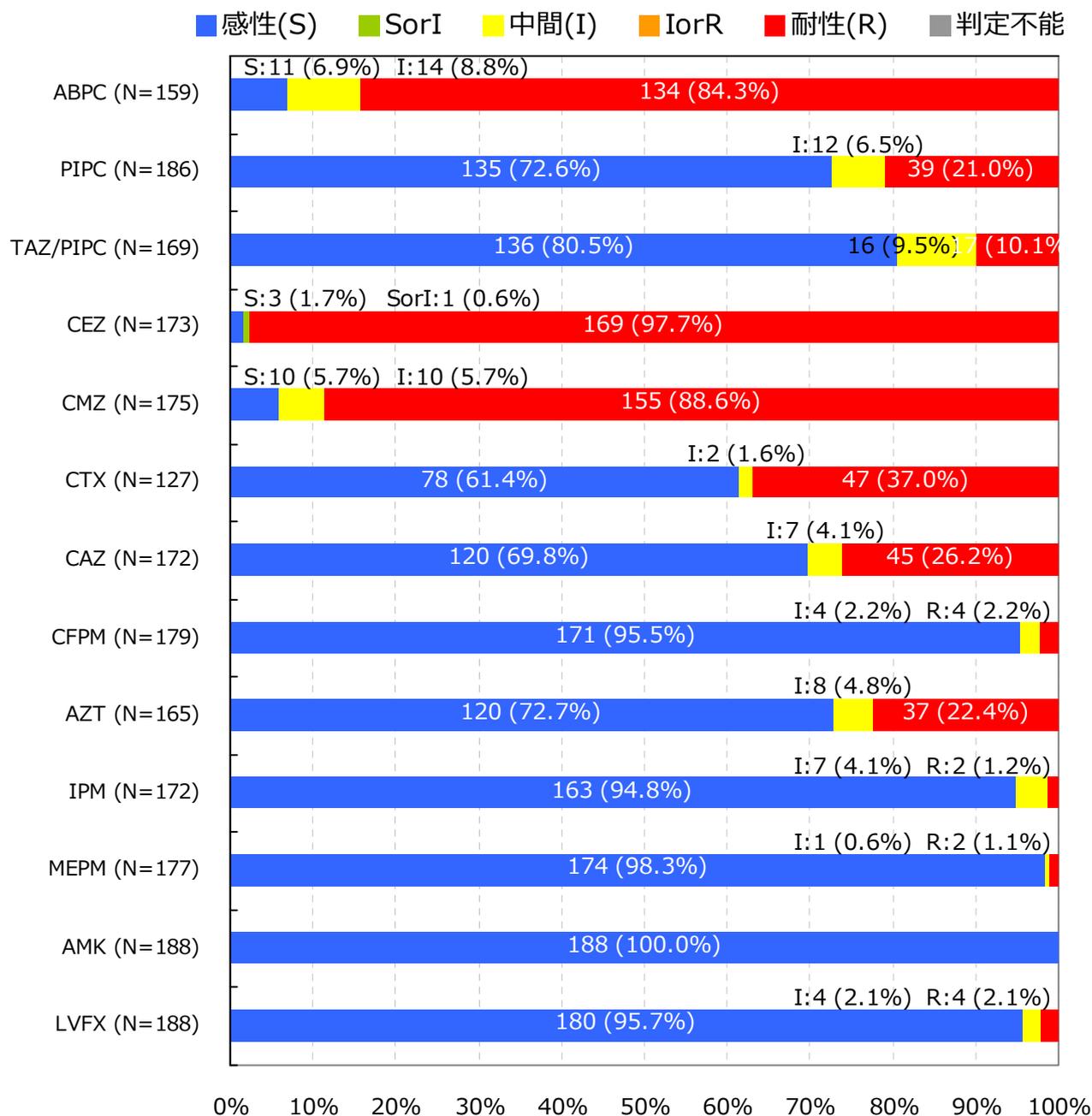
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2351と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

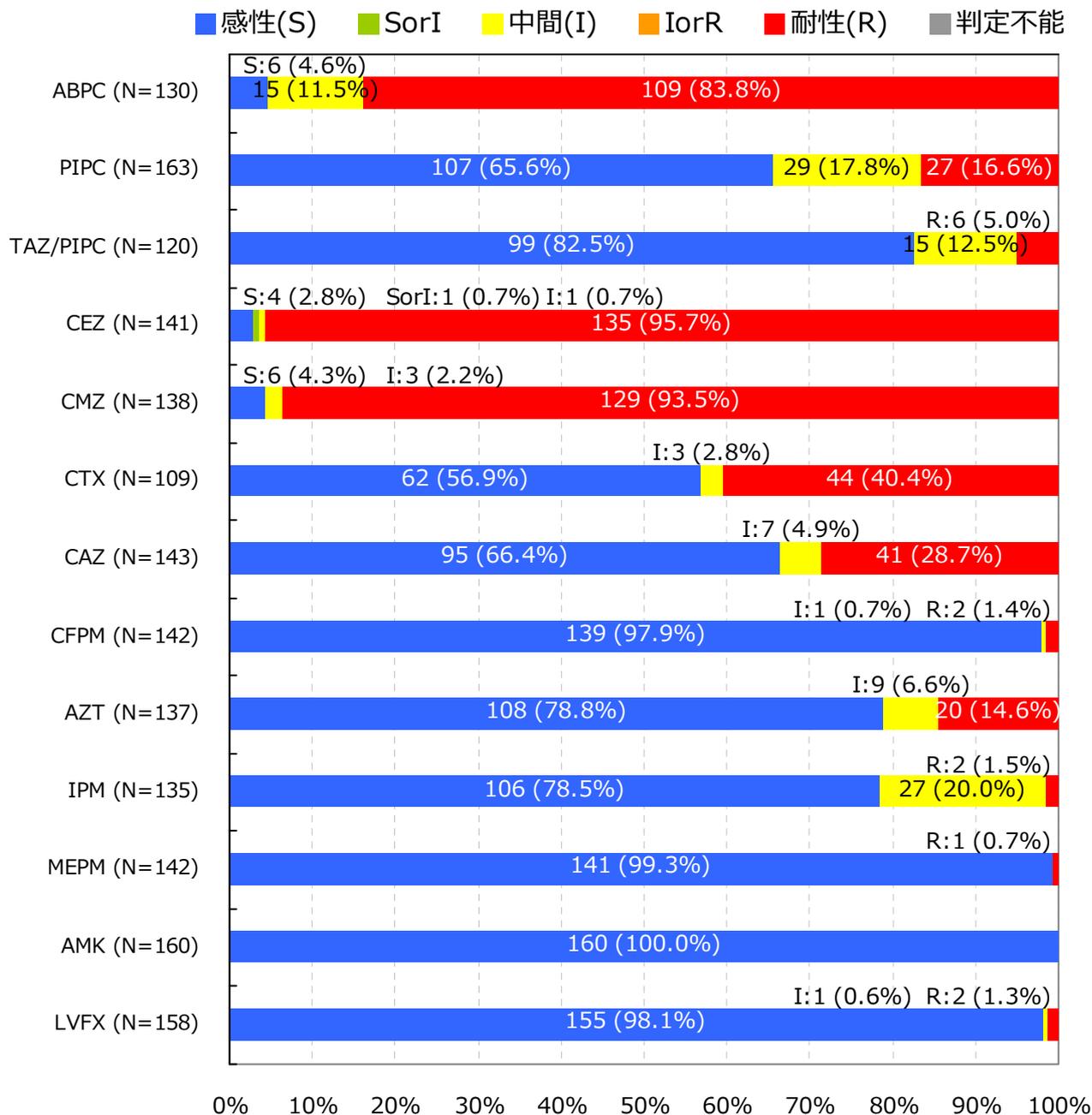
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2151と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

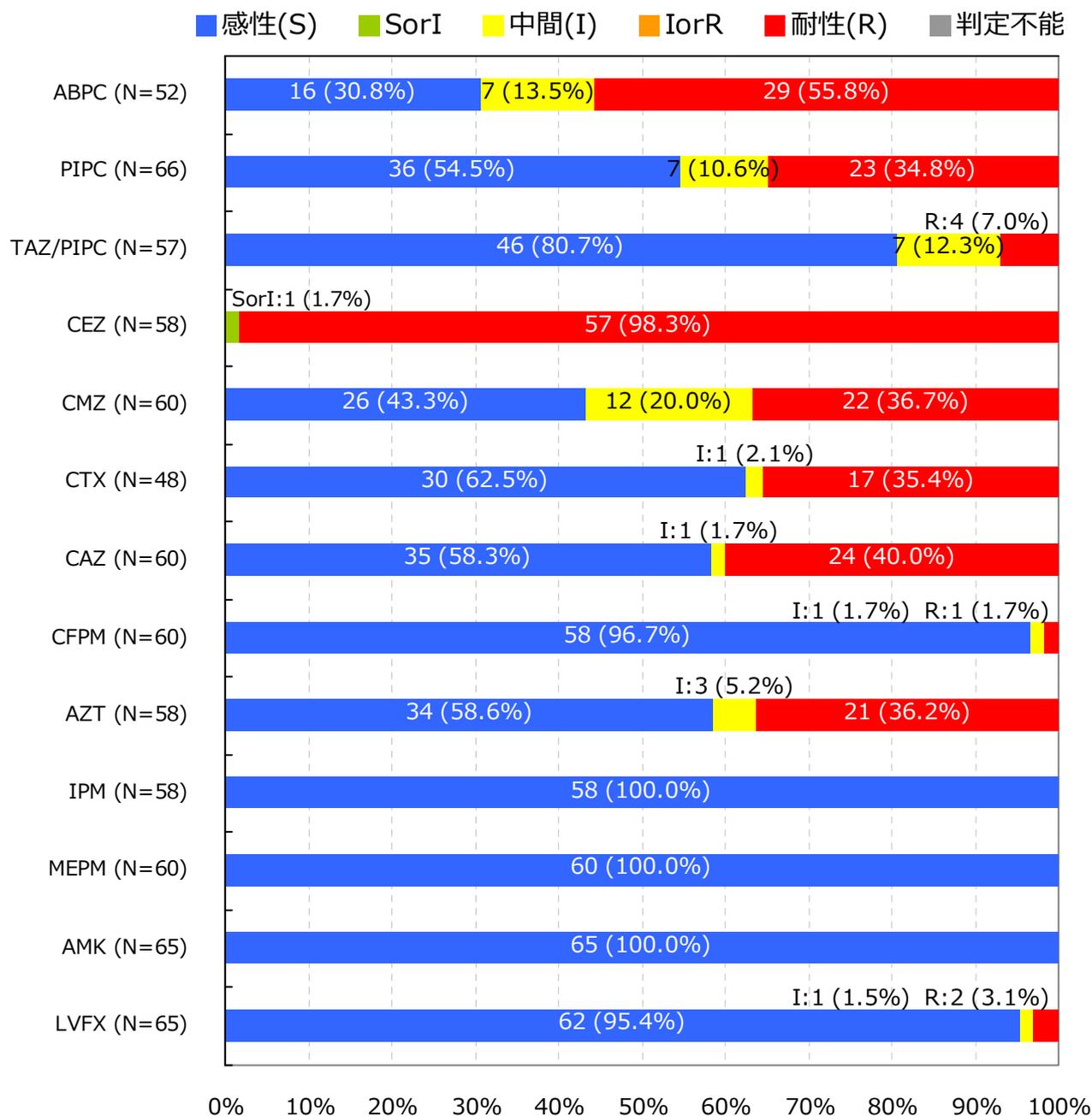
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2152と報告された菌 (旧名: *Enterobacter aerogenes*)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

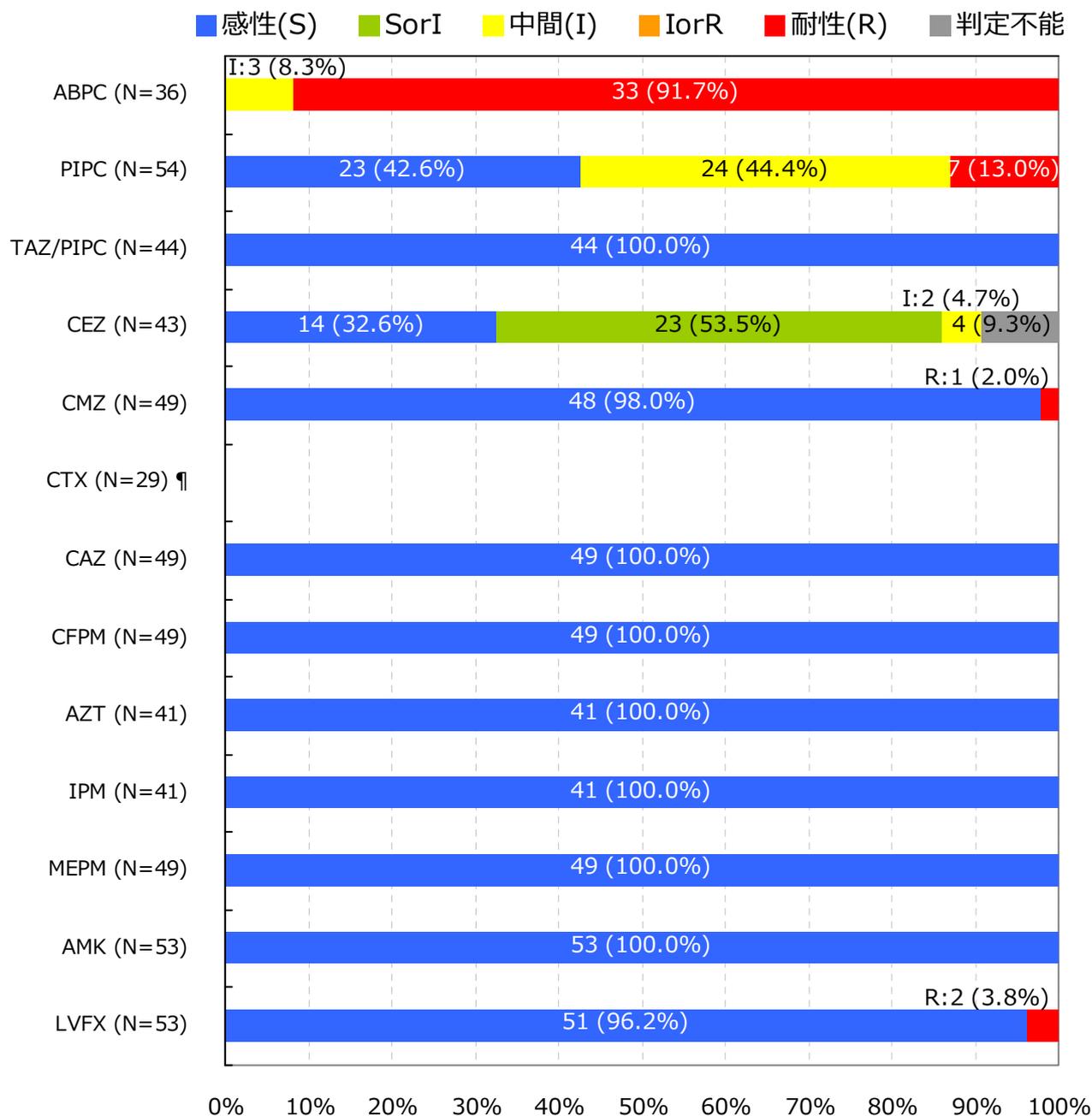
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

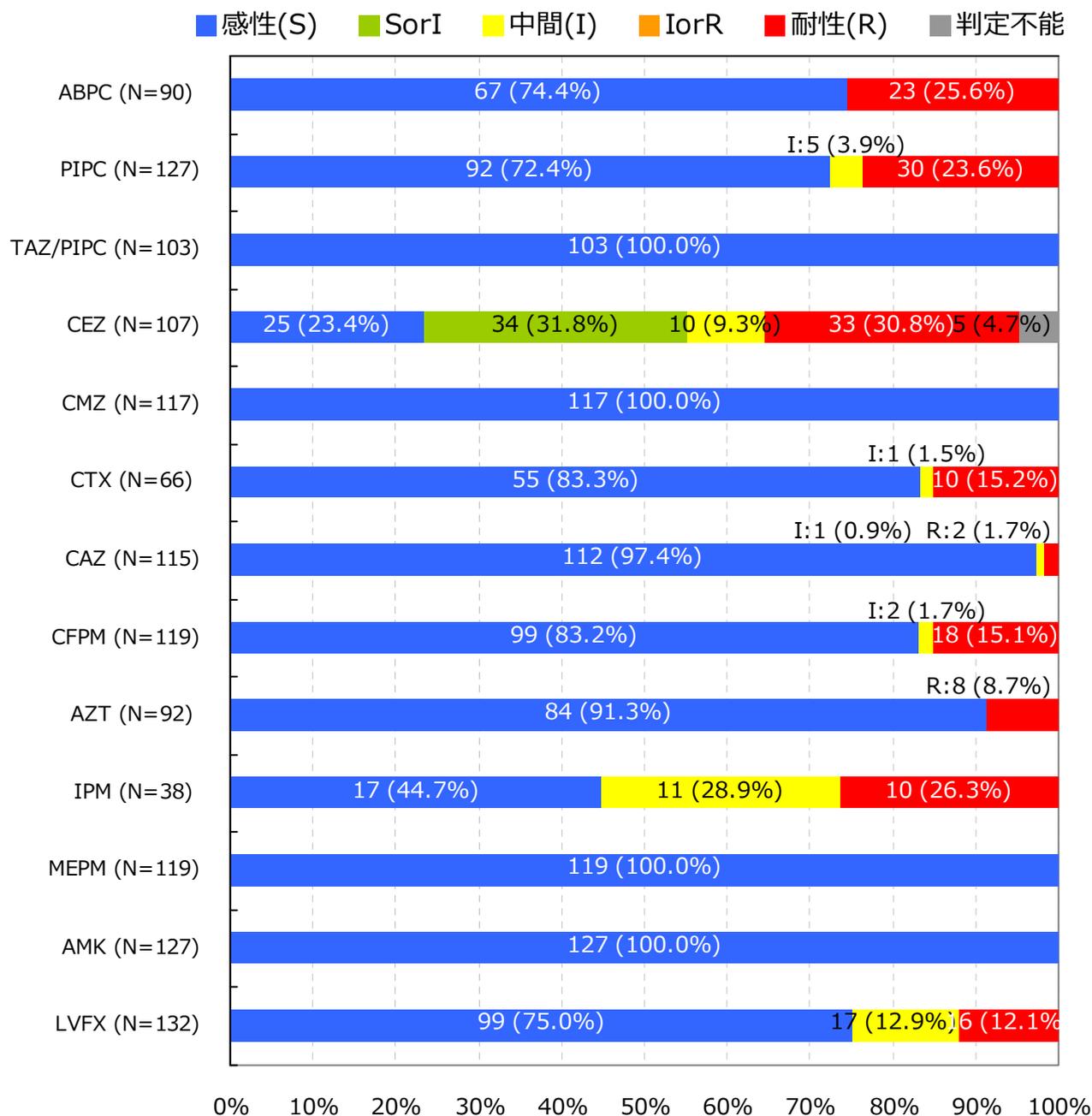
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

¶集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

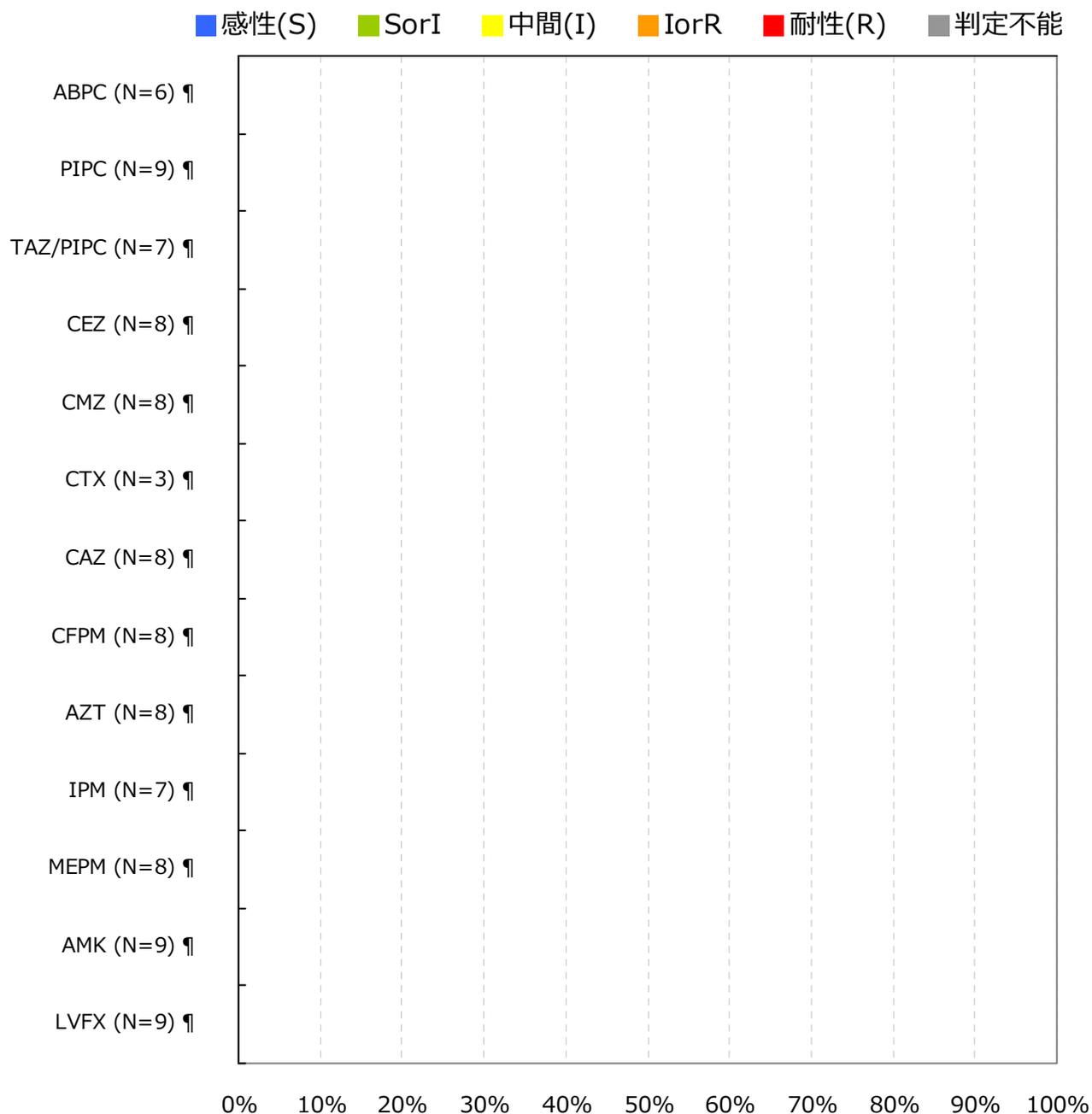
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

## 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

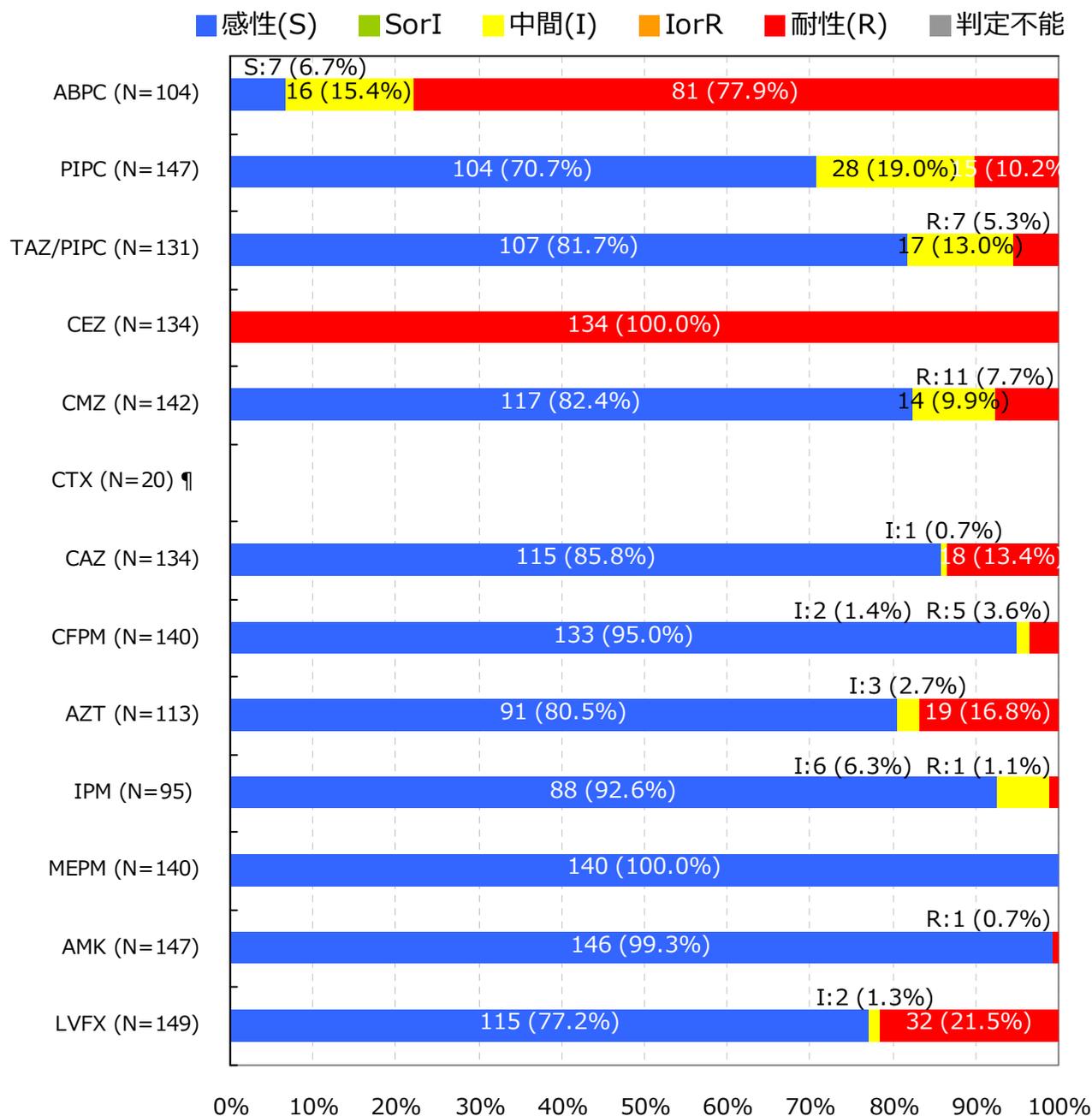
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

¶集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

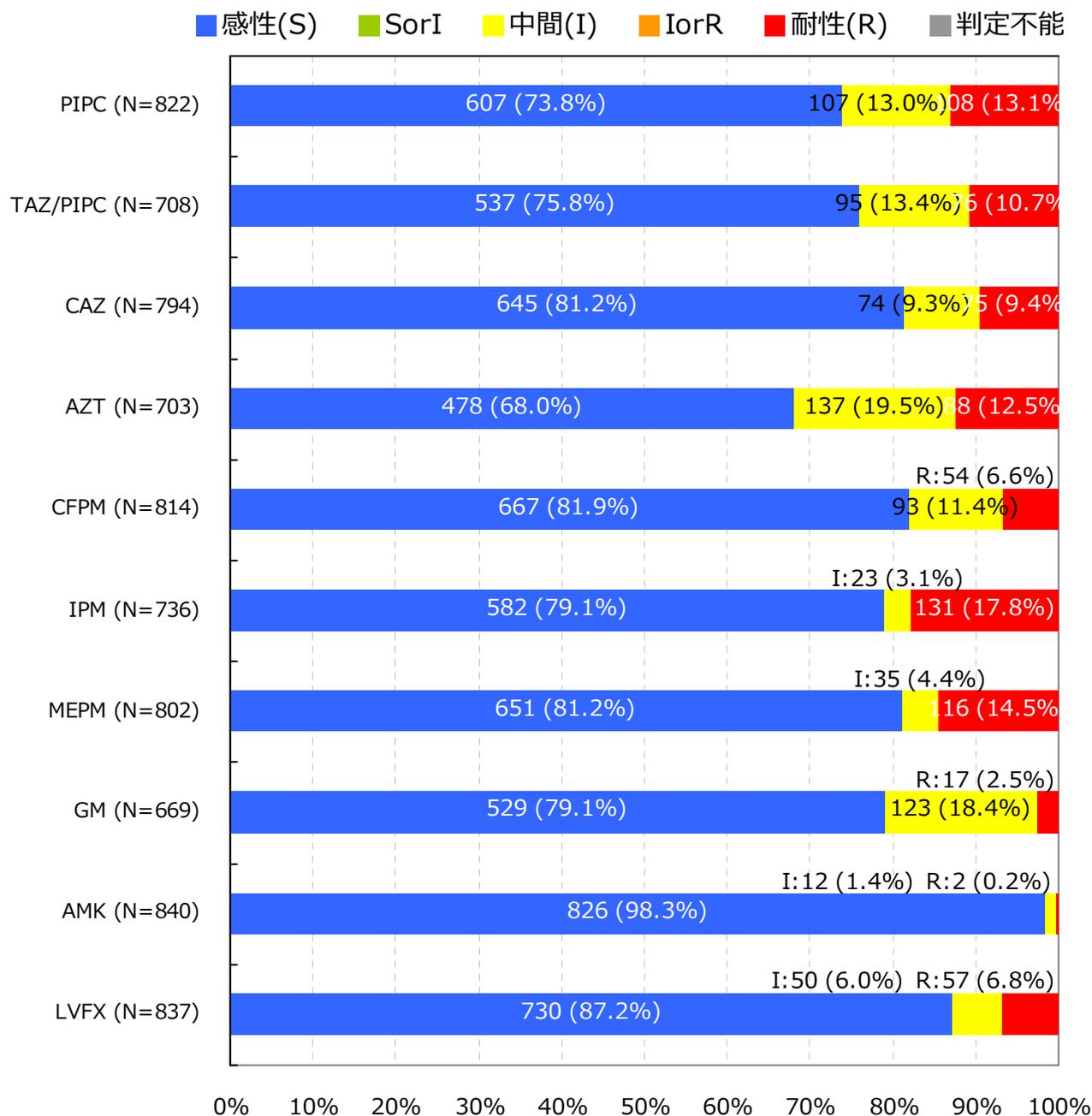
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

††集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

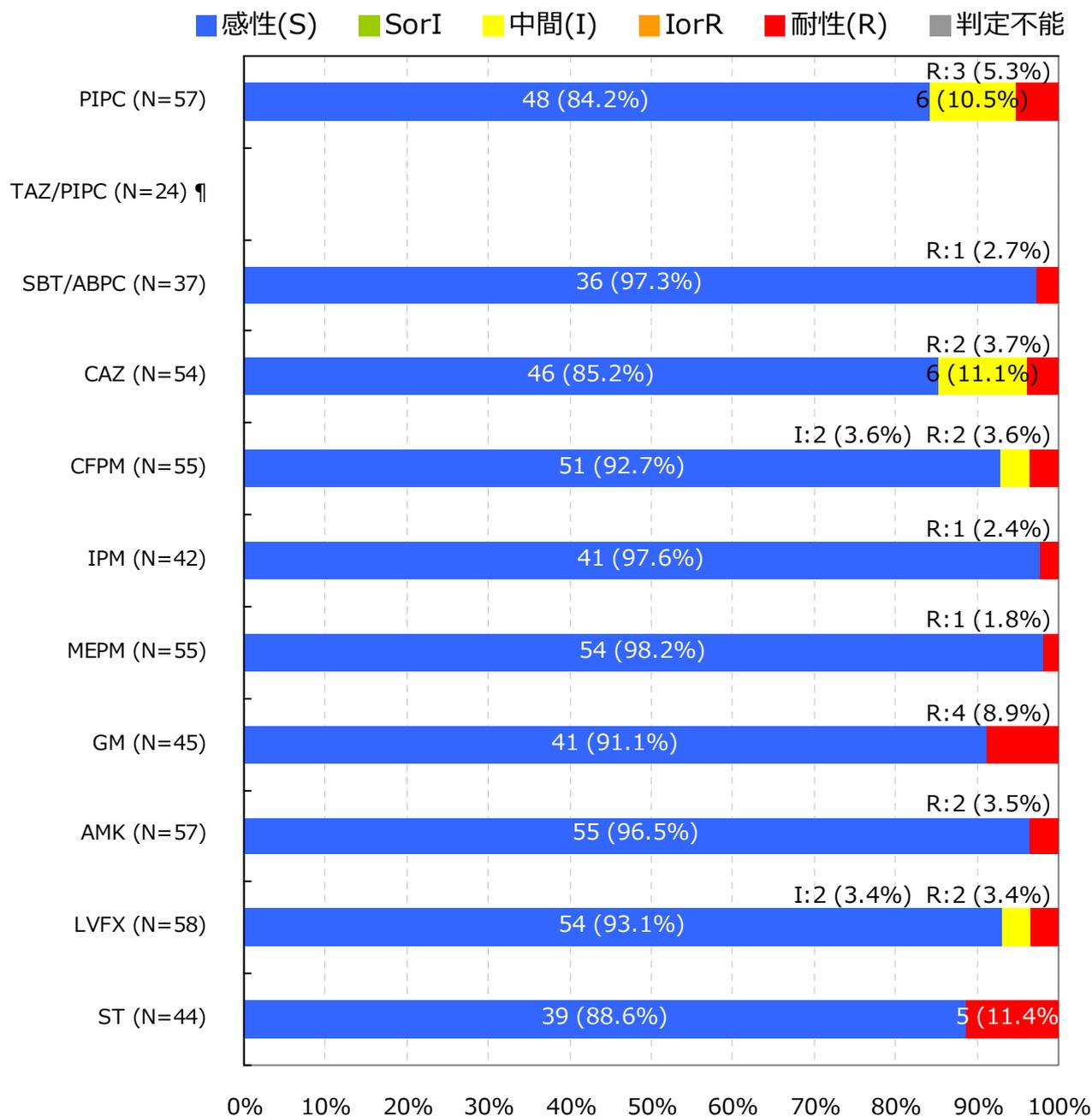
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

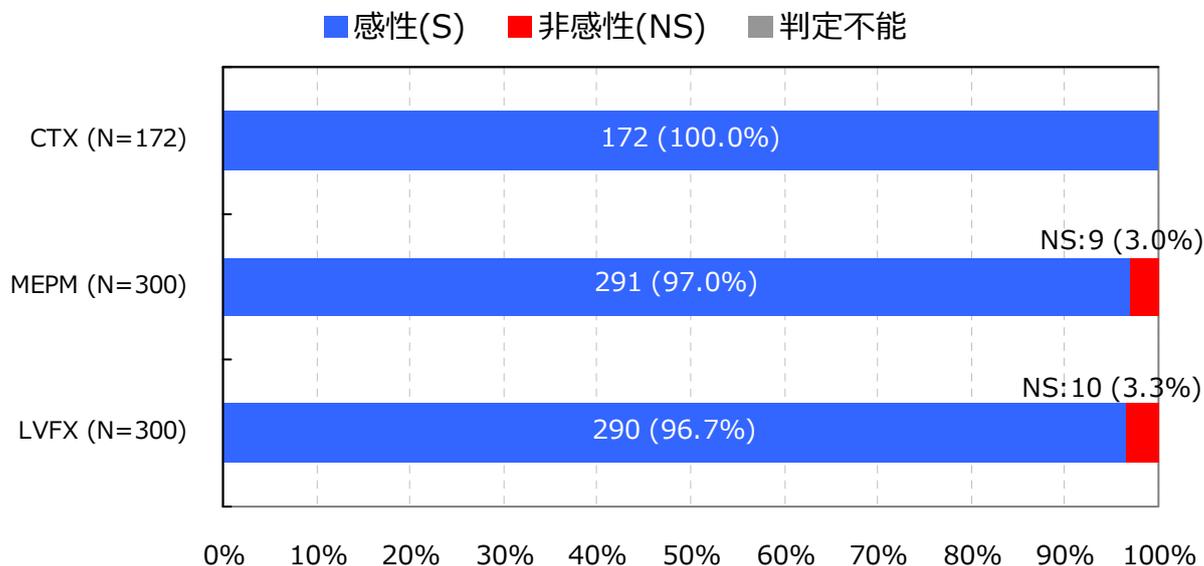
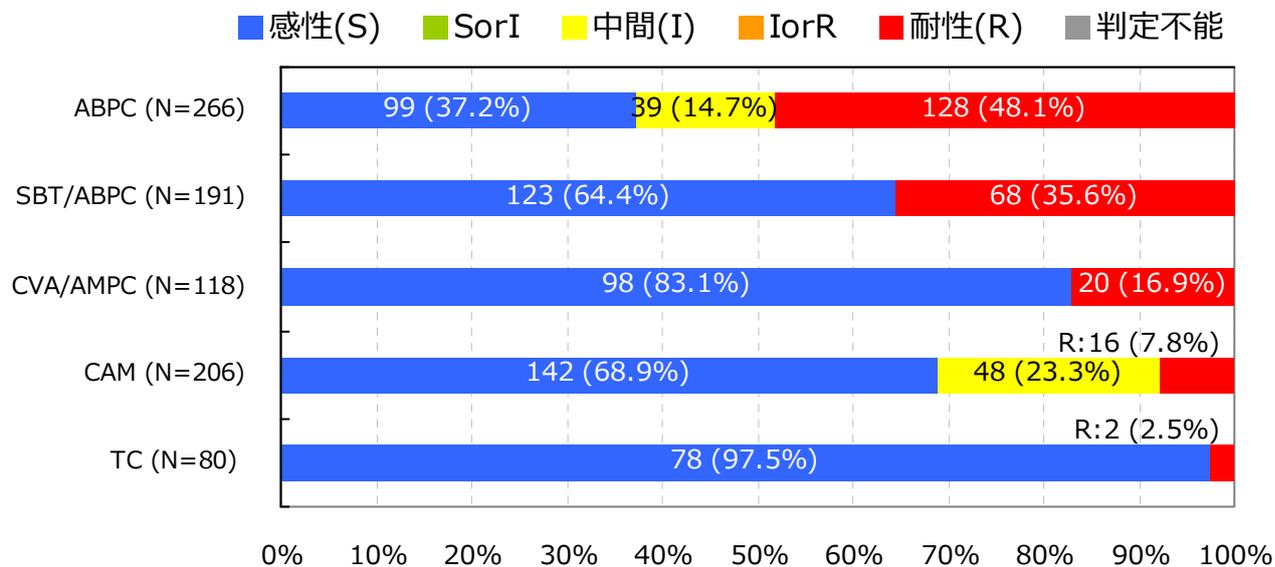
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 4400~4403と報告された菌

‡ 集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

【巻末資料1 主要菌の菌名コード / 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

主要菌の菌名コード（薬剤感受性条件なし）

| 菌名                                | 菌名コード Ver.5.1       |
|-----------------------------------|---------------------|
| <i>Staphylococcus aureus</i>      | 1301,1303-1306      |
| <i>Staphylococcus epidermidis</i> | 1312                |
| <i>Streptococcus pneumoniae</i>   | 1131                |
| <i>Enterococcus faecalis</i>      | 1201,1202           |
| <i>Enterococcus faecium</i>       | 1205,1206           |
| <i>Escherichia coli</i>           | 2001-2007           |
| <i>Klebsiella pneumoniae</i>      | 2351                |
| <i>Enterobacter</i> spp.          | 2150-2156           |
| <i>Enterobacteriaceae</i>         | 2000-2691,3150-3151 |
| <i>Pseudomonas aeruginosa</i>     | 4001                |
| <i>Acinetobacter</i> spp.         | 4400-4403           |

「微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準」について

耐性菌の菌名は以下の通り

MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015年1月より集計開始）

\* : 原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† : 感染症発生動向調査の基準に準拠

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.2) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.2) を基に作成した。

微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準

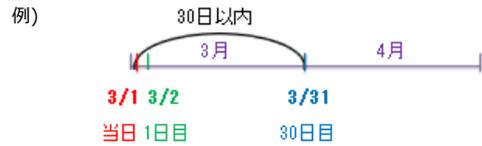
| 菌名   | 概要*   | 微量液体希釈法 (MIC 値)  | 菌名コード Ver.5.1                           |
|------|---|--|---|
| MRSA | MPIPC または CFX が "R" の <i>S. aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌  | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$   | 1301,1303                               |
| VRSA | VCM が微量液体希釈法で "R" の <i>S. aureus</i>  | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$  | 1301,1303-1306                          |
| VRE  | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp.<br>・ VCM が微量液体希釈法で耐性 +<br>・ 選択培地で VRE と確認された菌 (注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く                                      | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †  | 1201,1202,1205,1206,1209,1210,1213-1217 |
| PRSP | PCG が微量液体希釈法で耐性 + の <i>S. pneumoniae</i>  | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/mL}$ †   | 1131                                    |
| MDRP | 下記全てに該当する <i>P. aeruginosa</i><br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 +<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 +<br>3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX、CPFX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †、<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ †<br>3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ 、<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、<br>CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4001                                    |

| 菌名                 | 概要*   | 微量液体希釈法 (MIC 値)  | 菌名コード Ver.5.1       |
|--------------------|---|--|---------------------|
| MDRA               | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp.<br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が "R"<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 +<br>3. フルオロキノロン系 (LVFX, CPFX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †、<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ †<br>3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、<br>CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4400-4403           |
| CRE                | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科<br>1. MEPM が耐性 +<br>2. IPM が耐性 +、かつ CMZ が "R"  | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ †<br>2. IPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ † かつ<br>CMZ $\geq 64\mu\text{g/mL}$  | 2000-2691,3150-3151 |
| カルバペネム耐性緑膿菌        | IPM または MEPM が耐性 + の <i>P. aeruginosa</i>   | IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †  | 4001                |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌 | CTX または CTRX または CAZ が "R" の <i>K. pneumoniae</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CTRX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 2351                |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌  | CTX または CTRX または CAZ が "R" の <i>E. coli</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CTRX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 2001-2007           |
| フルオロキノロン耐性大腸菌      | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, CPFX の何れか) が "R" の <i>E. coli</i>  | NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ 、<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、<br>CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$           | 2001-2007           |

## 【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

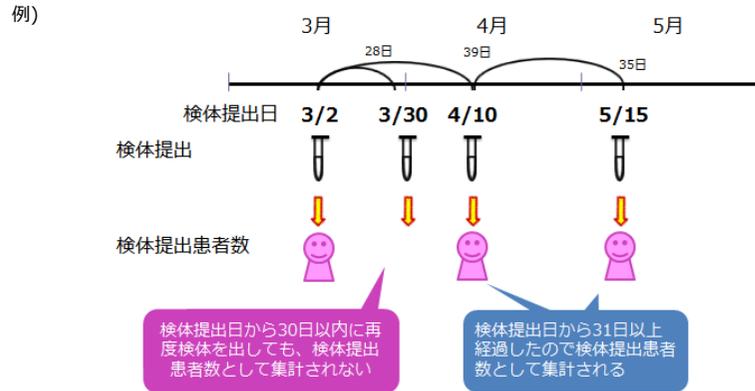
### 1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を1日目とする。検体提出日が3月1日とすると、1日目が3月2日、30日目が3月31日となる。



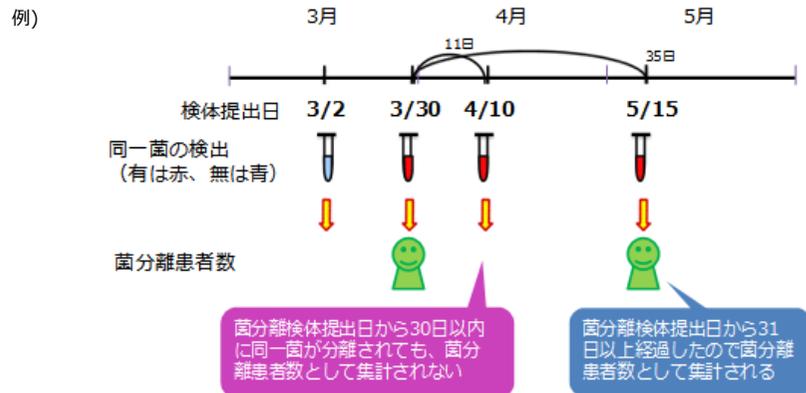
### 2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30日以内の同一患者からの複数の検体提出は1件とする。



### 3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は1件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



### 4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

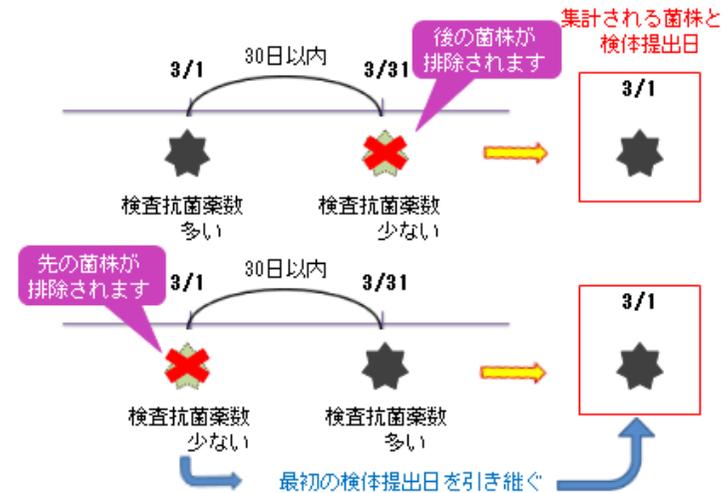
30日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に1つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC値に4倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2はMIC ≥ 4と考え、判定時はMIC = 4として扱う  
また、MIC < 16はMIC ≤ 16と考え、判定時はMIC = 16として扱う
- ② SIR判定では「SとR」の組み合わせ
- ③ +/-判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が5未満

### 5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬が(30日以内の)先の菌株の検査抗菌薬より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。

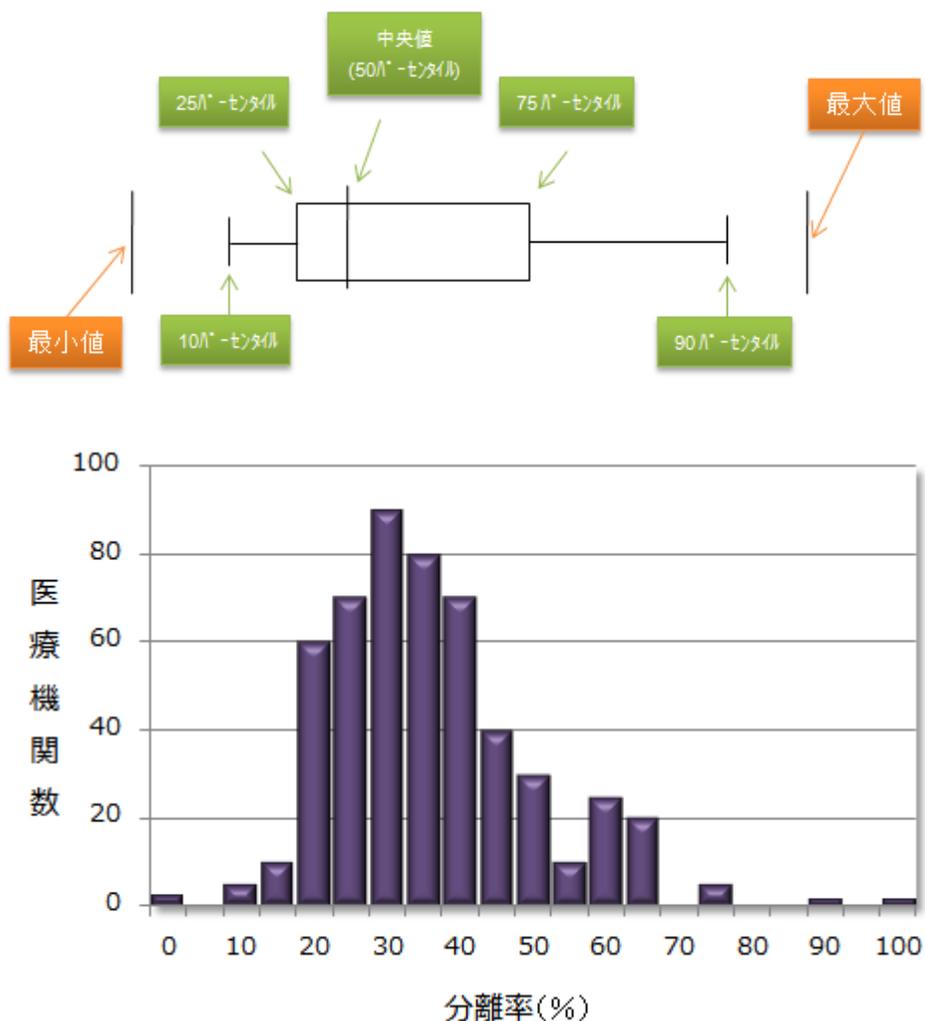
例)



## 【巻末資料 3 箱ひげ図について】

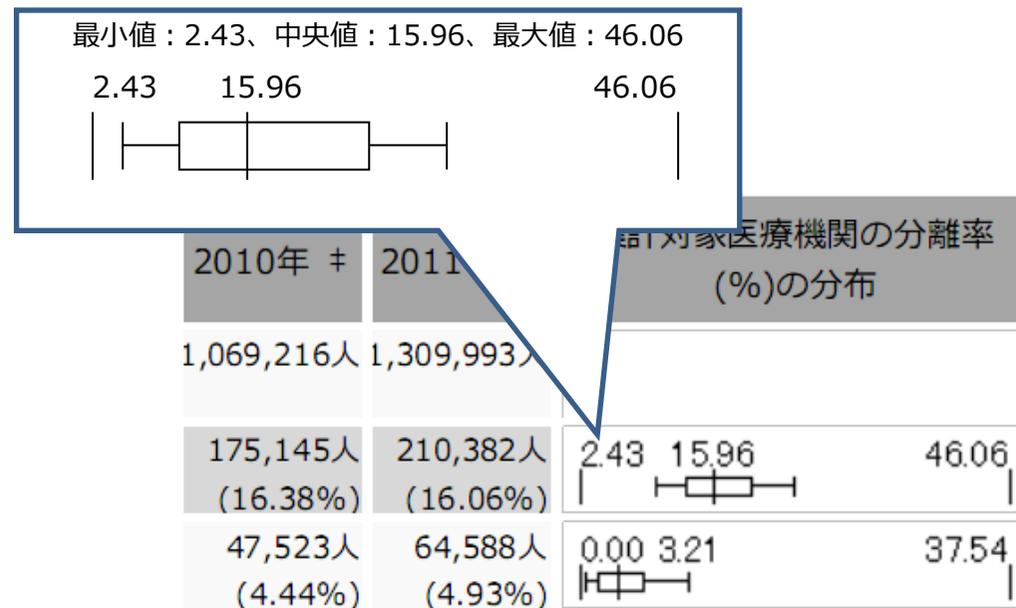
### 1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



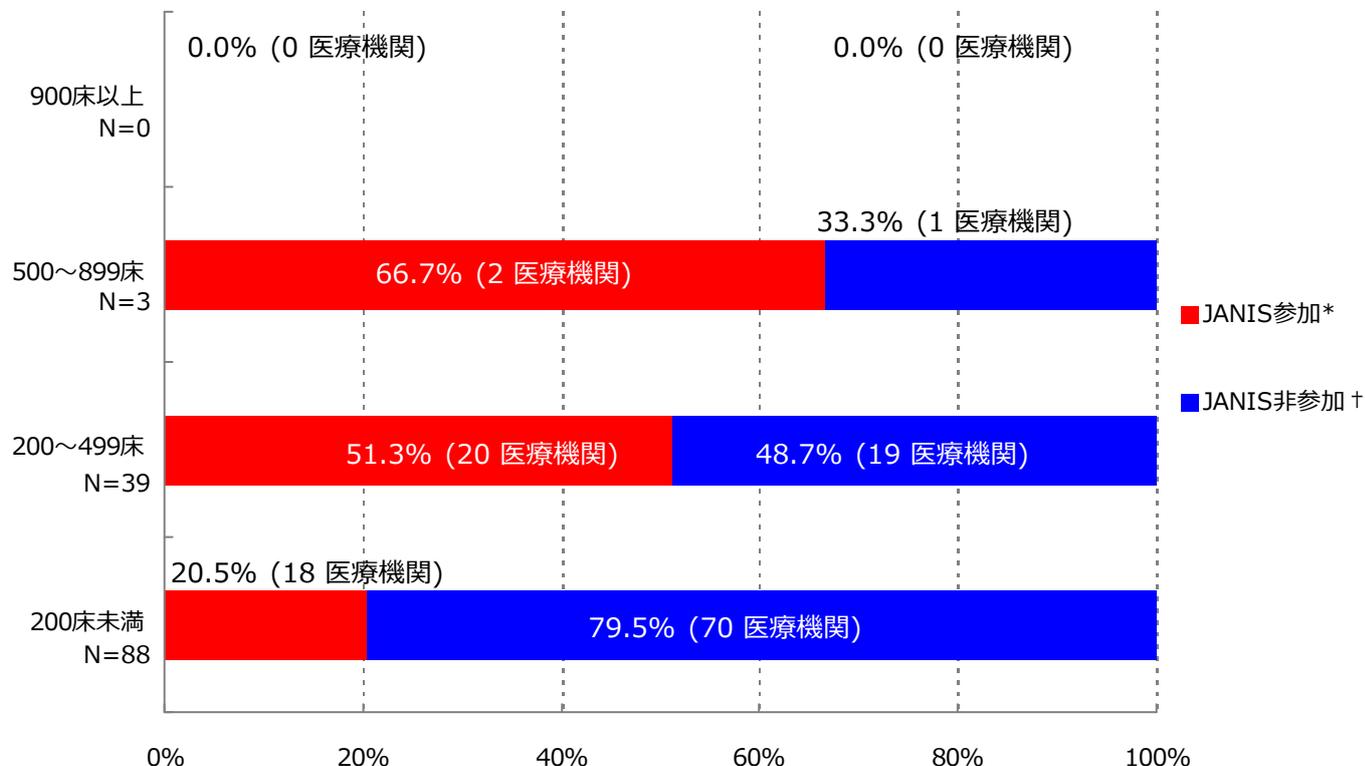
※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したものの。例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

### 2. 公開情報の箱ひげ図





### 1. 集計対象医療機関数(40医療機関)



\*JANIS参加 = 2019年1～3月 集計対象医療機関数

†JANIS非参加 = (2018年 都道府県別医療機関数 †) - (2019年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数      | 2018年 都道府県別医療機関数 † | 2019年1月～3月 集計対象医療機関数<br>(都道府県別医療機関数に占める割合) |
|----------|--------------------|--|
| 900床以上   | 0                  | 0 ( 0.0% )                                 |
| 500～899床 | 3                  | 2 ( 66.7% )                                |
| 200～499床 | 39                 | 20 ( 51.3% )                               |
| 200床未満   | 88                 | 18 ( 20.5% )                               |
| 病床数不明    | -                  | 0 ( - )                                    |
| 合計       | 130                | 40 ( 30.8% )                               |

† 2018年医療施設（動態）調査を参照した

(群馬県)

公開情報 2019年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門 【入院検体】



## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数    | 陽性検体数<br>(分離菌数)    |
|--------|-----------|--------|--------------------|
| 呼吸器系検体 | 40        | 8,282  | 5,562<br>(12,223)  |
| 尿検体    | 40        | 3,639  | 2,131<br>(3,212)   |
| 便検体    | 37        | 1,675  | 796<br>(1,467)     |
| 血液検体   | 39        | 7,693  | 1,095<br>(1,240)   |
| 髄液検体   | 20        | 235    | 19<br>(21)         |
| その他    | 38        | 4,563  | 1,878<br>(3,333)   |
| 合計     | 40        | 26,087 | 11,481<br>(21,496) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

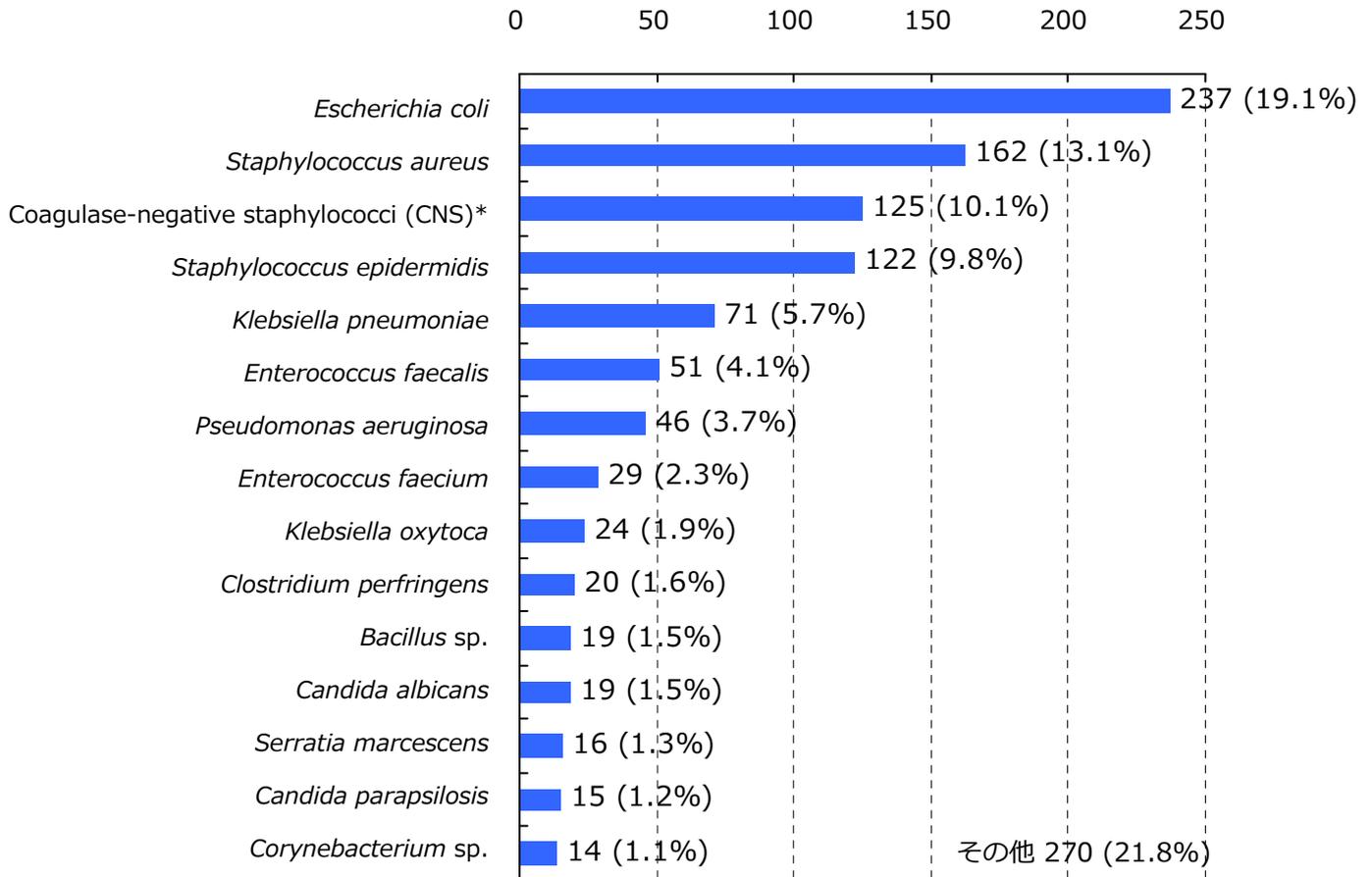
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=1,240)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

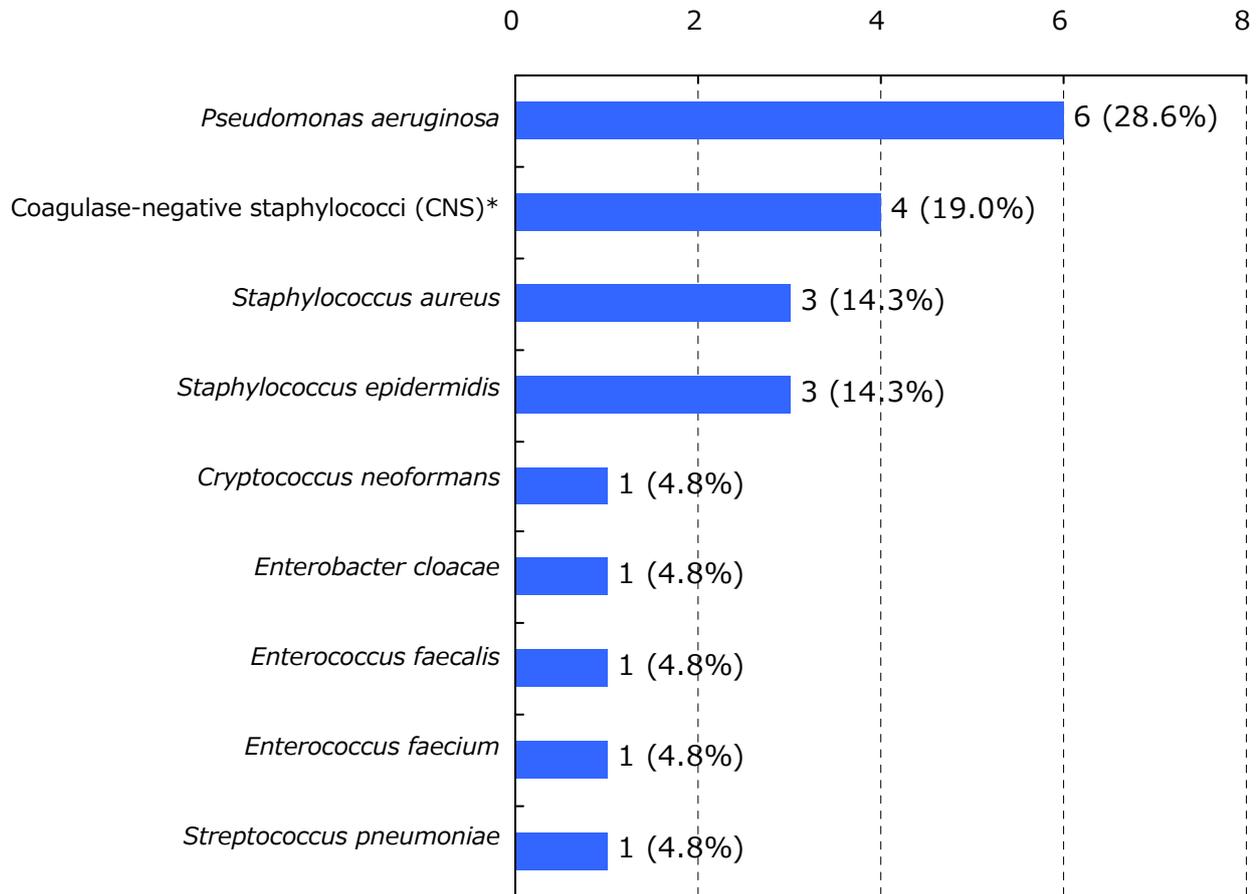
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=21)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

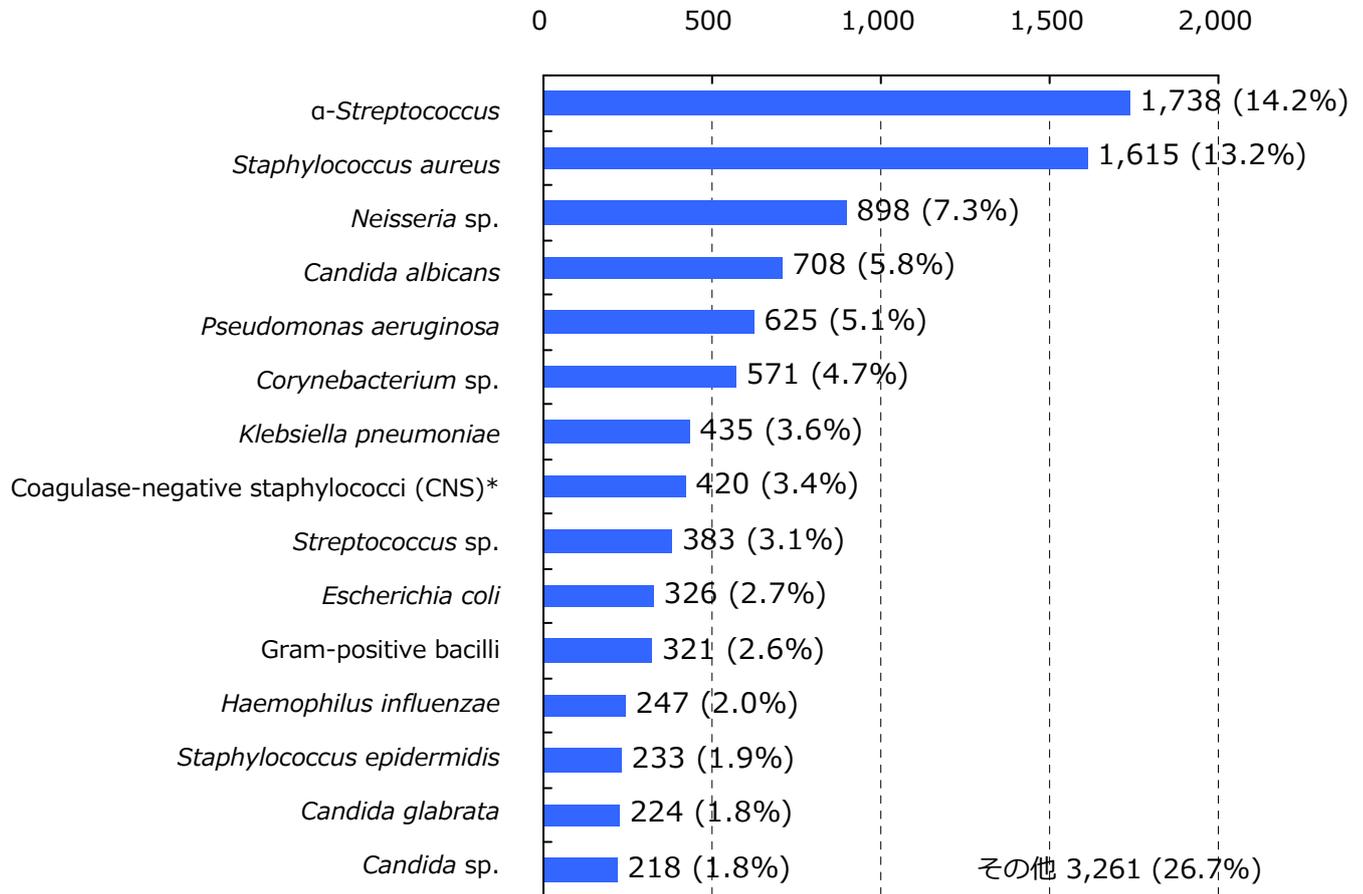
髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 呼吸器系検体分離菌 (N=12,223)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外)

入院検体のうち、起因菌・常在菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：喀出痰(検査材料コード101)、気管内採痰(同102)、気管支洗浄液(同103)、咽頭粘液(同104)、鼻腔内(同105)、口腔内(同106)、生検材料(肺)(同107)、その他(呼吸器)(同109)、胸水(同404)

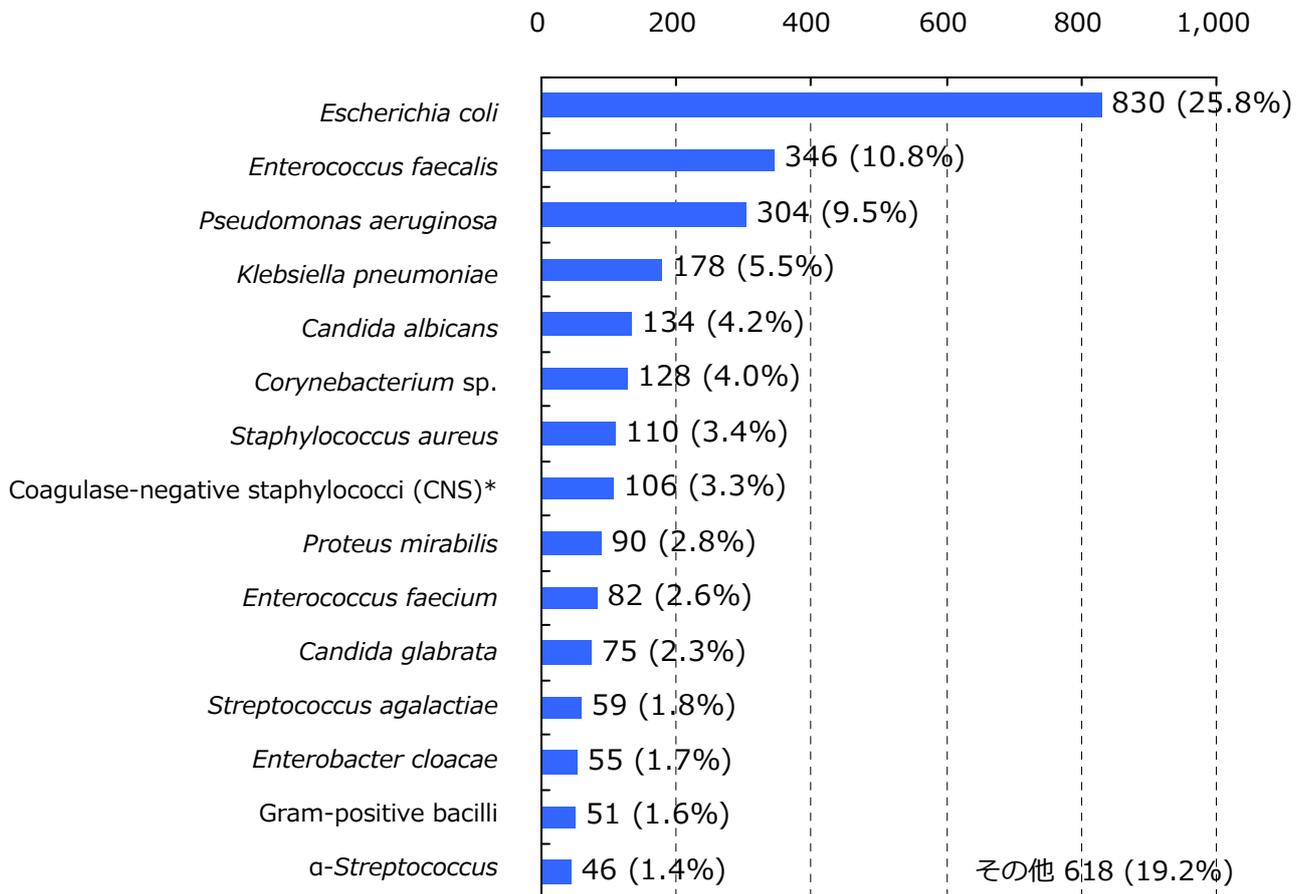
呼吸器系検体分離菌数割合 = (対象菌の呼吸器系検体分離菌数) ÷ (呼吸器系検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 尿検体分離菌 (N=3,212)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：自然排尿(検査材料コード201)、採尿カテーテル尿(同202)、留置カテーテル尿(同203)、カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能)(同206)

尿検体分離菌数割合 = (対象菌の尿検体分離菌数) ÷ (尿検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

## 4. 主要菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                           | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布 |
|---------------------------|------------------------|-------------------------|
| 検体提出患者数(100床あたり)          | 10,550人<br>(99.8)※     |                         |
| <i>S. aureus</i>          | 1,549人<br>(14.68%)     | 3.45 15.54 37.50        |
| <i>S. epidermidis</i>     | 454人<br>(4.30%)        | 0.00 2.15 12.82         |
| <i>S. pneumoniae</i>      | 175人<br>(1.66%)        | 0.00 1.03 7.14          |
| <i>E. faecalis</i>        | 580人<br>(5.50%)        | 0.00 4.02 13.99         |
| <i>E. faecium</i>         | 183人<br>(1.73%)        | 0.00 0.74 8.82          |
| <i>E. coli</i>            | 1,439人<br>(13.64%)     | 0.96 13.63 30.88        |
| <i>K. pneumoniae</i>      | 638人<br>(6.05%)        | 0.00 5.43 20.45         |
| <i>Enterobacter spp.</i>  | 379人<br>(3.59%)        | 0.00 2.27 8.77          |
| <i>Enterobacteriaceae</i> | 2,739人<br>(25.96%)     | 7.69 26.88 56.45        |
| <i>P. aeruginosa</i>      | 712人<br>(6.75%)        | 1.15 6.60 46.43         |
| <i>Acinetobacter spp.</i> | 65人<br>(0.62%)         | 0.00 0.09 2.63          |

入院として報告された検体を集計

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

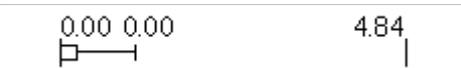
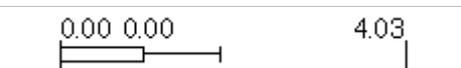
全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

※ 病床数が登録されている医療機関のみが対象

## 5. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                        | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布  |
|------------------------|------------------------|--|
| 検体提出患者数(100床あたり)       | 10,550人<br>(99.8)※     |  |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)   | 721人<br>(6.83%)        | 0.00 6.95 34.68<br>   |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>              |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)      | 5人<br>(0.05%)          | 0.00 0.00 1.66<br>    |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)      | 69人<br>(0.65%)         | 0.00 0.00 7.14<br>    |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP)          | 4人<br>(0.04%)          | 0.00 0.00 0.81<br>   |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)    | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>            |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)   | 46人<br>(0.44%)         | 0.00 0.00 4.84<br>  |
| カルバペネム耐性緑膿菌            | 71人<br>(0.67%)         | 0.00 0.00 4.03<br>  |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌     | 42人<br>(0.40%)         | 0.00 0.00 7.26<br>  |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌      | 311人<br>(2.95%)        | 0.00 2.57 21.77<br> |
| フルオロキノロン耐性大腸菌          | 398人<br>(3.77%)        | 0.00 3.73 20.16<br> |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

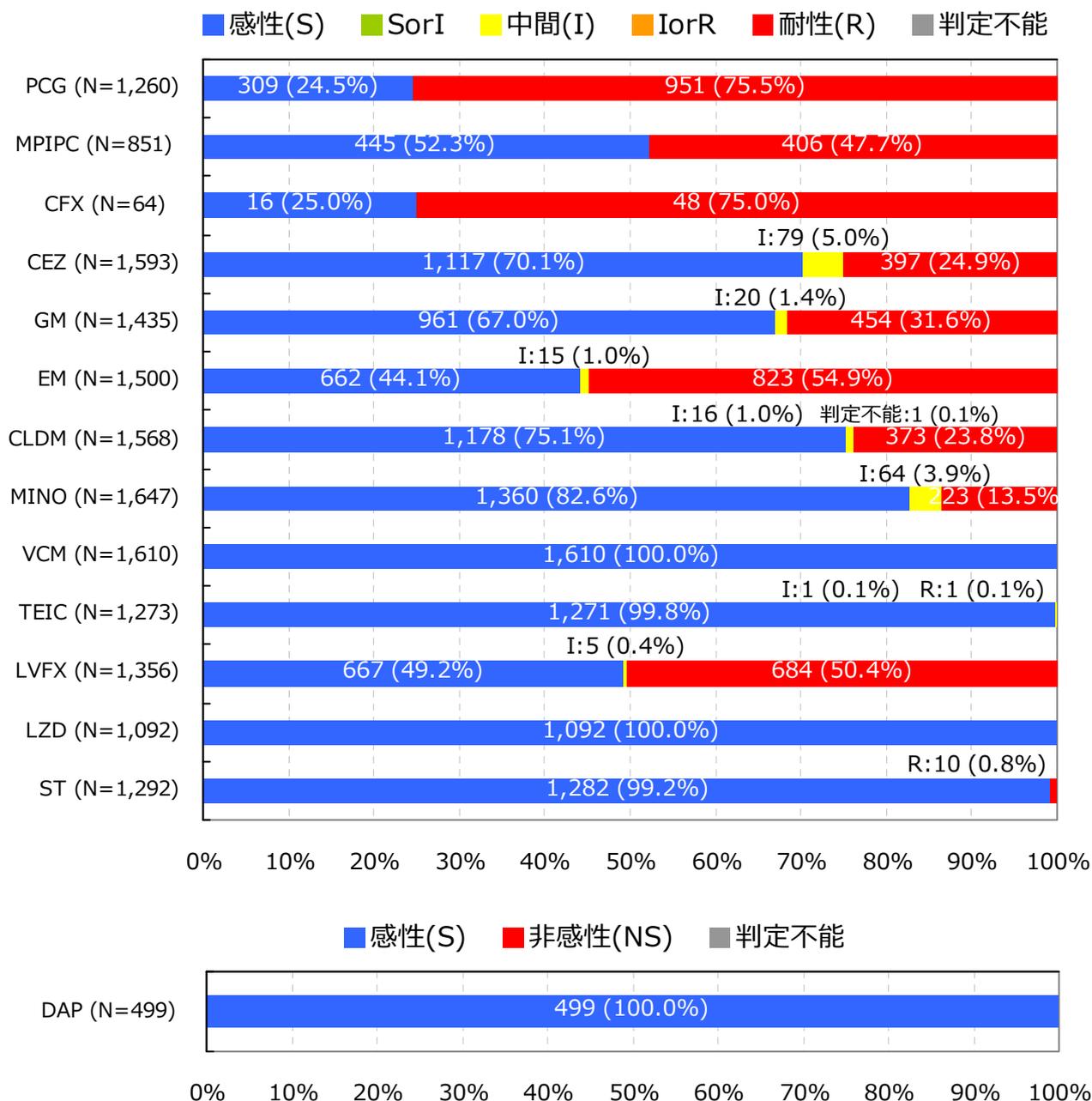
= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

※ 病床数が登録されている医療機関のみが対象

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Staphylococcus aureus (ALL) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

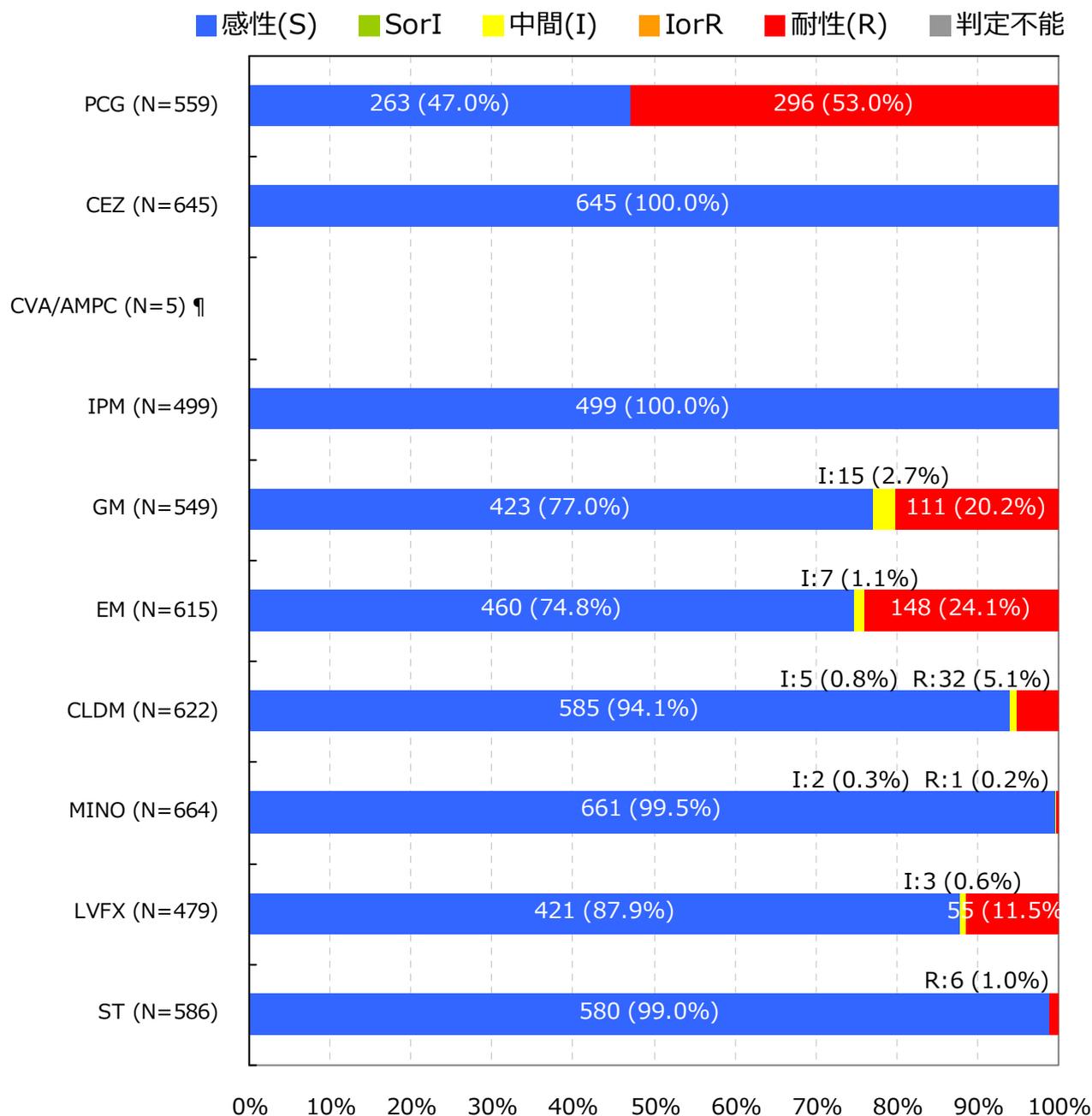
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

†菌名コード: 1301, 1303～1306と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

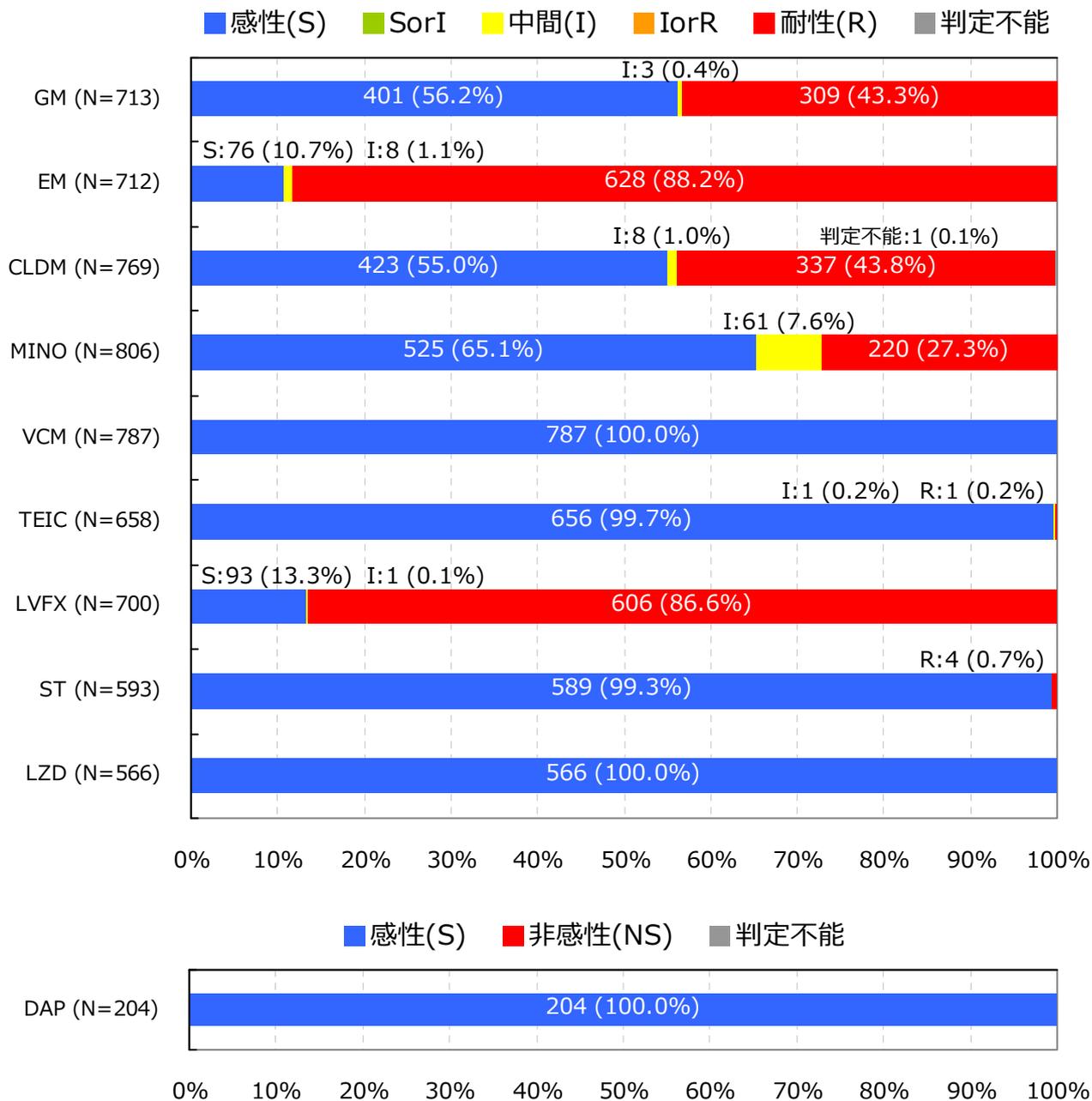
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1304, 1305, 1306と報告された菌、または菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208 (オキサリリン) および抗菌薬コード：1606 (セフォキシチン) の感受性結果「S」の菌 (一方が「S」で他方が未測定の場合を含む)

†† 集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

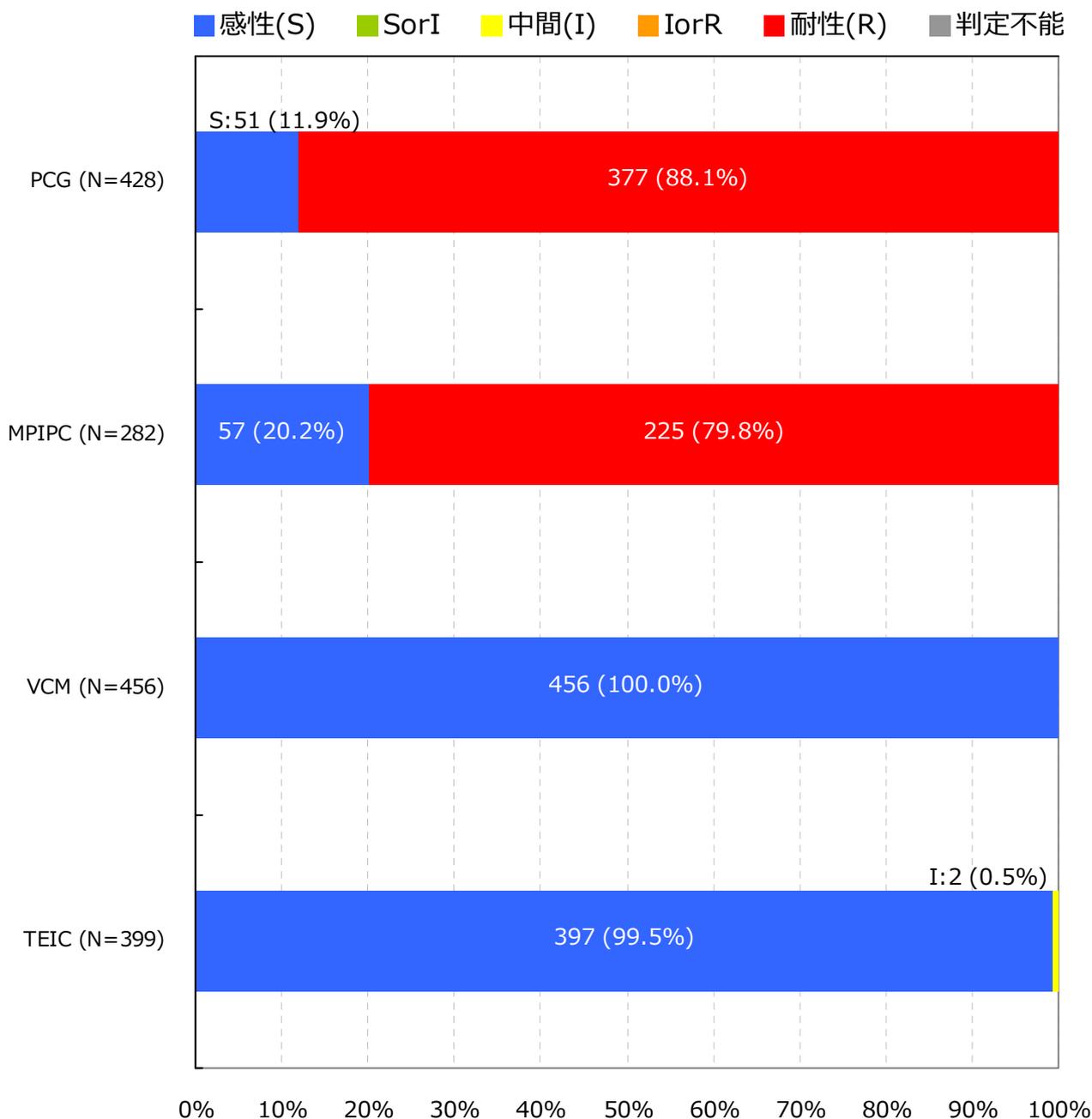
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌、または菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) または抗菌薬コード : 1606 (セフォキシチン) の感受性結果「R」の菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

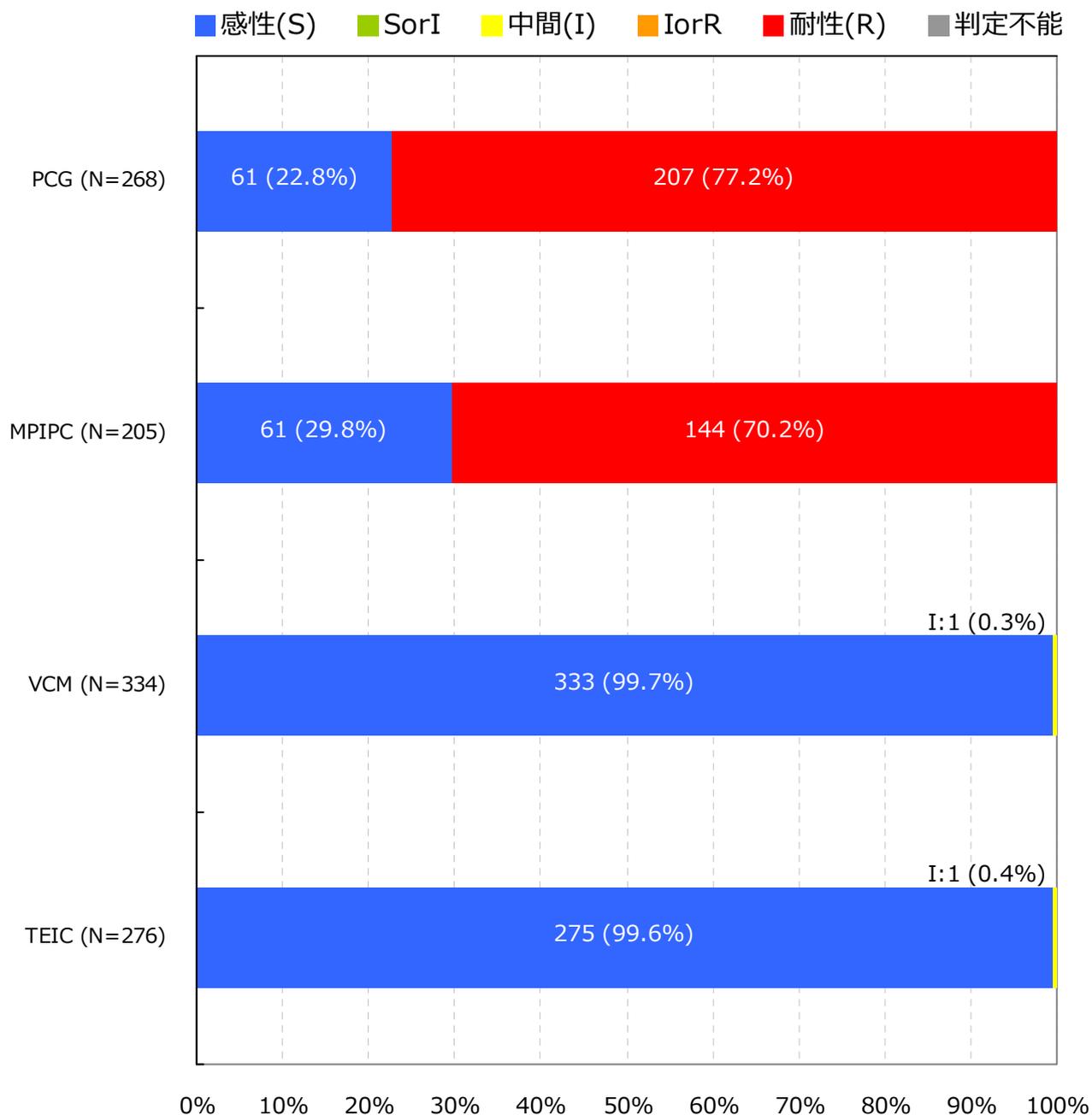
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

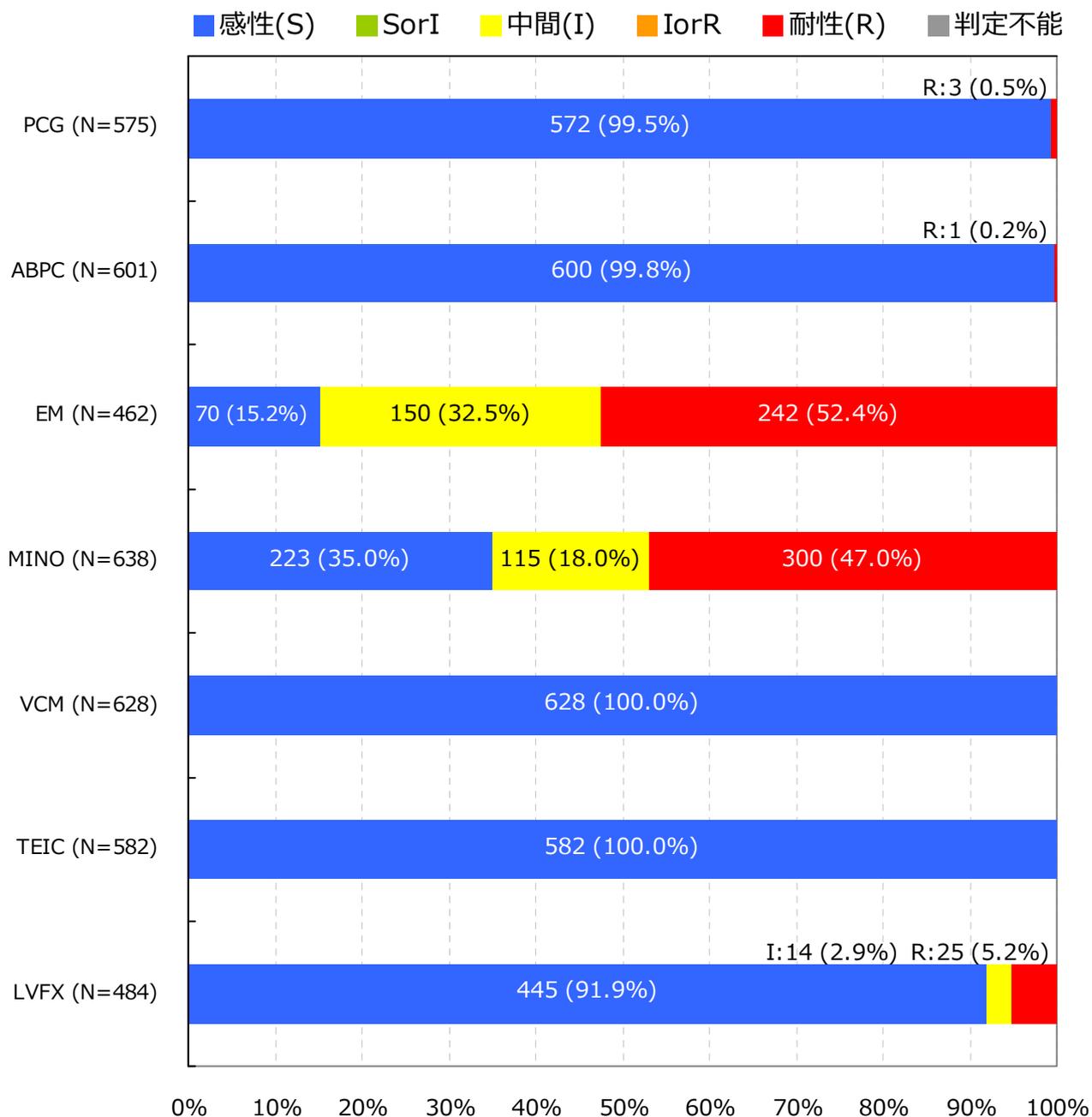
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

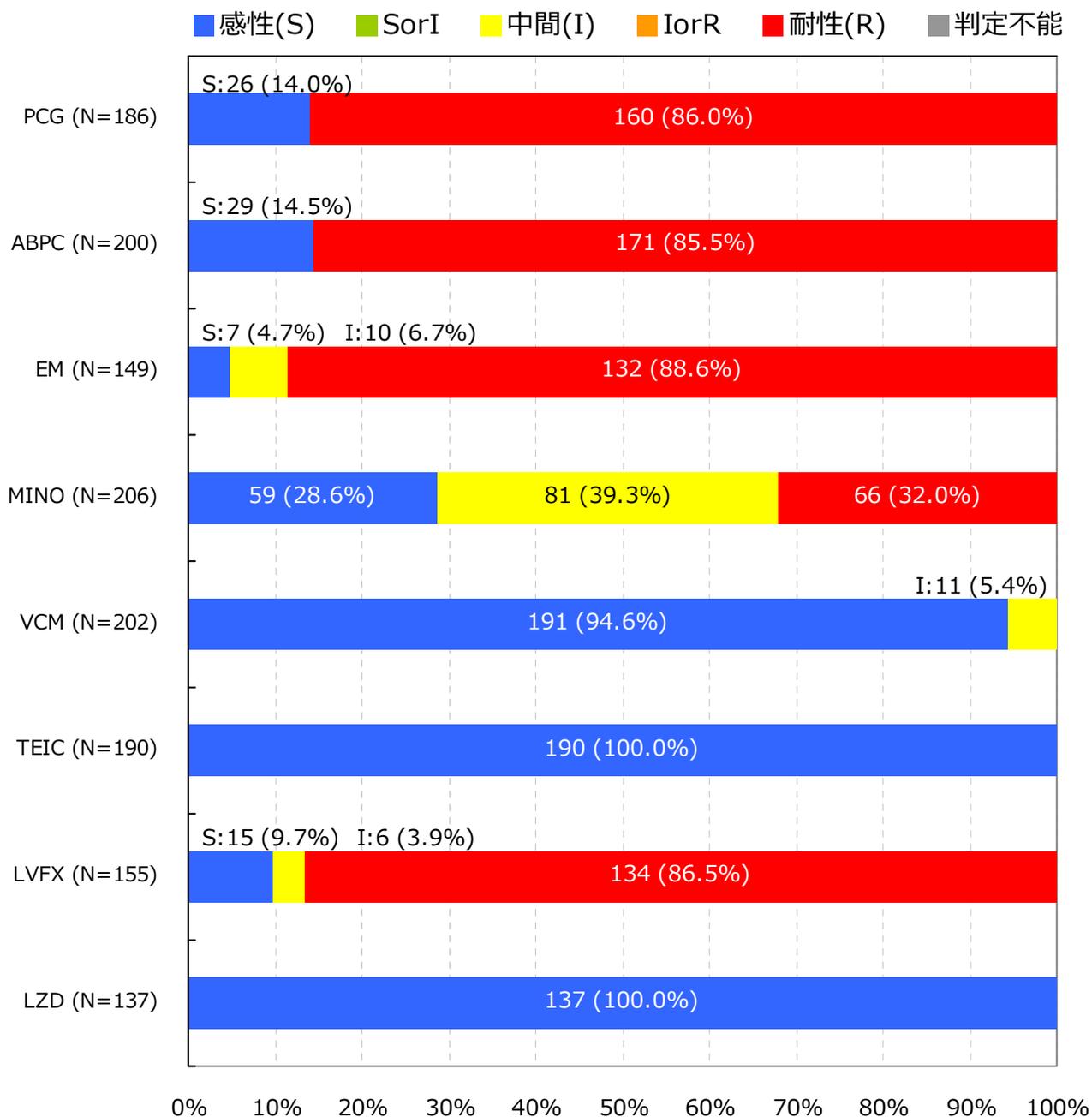
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

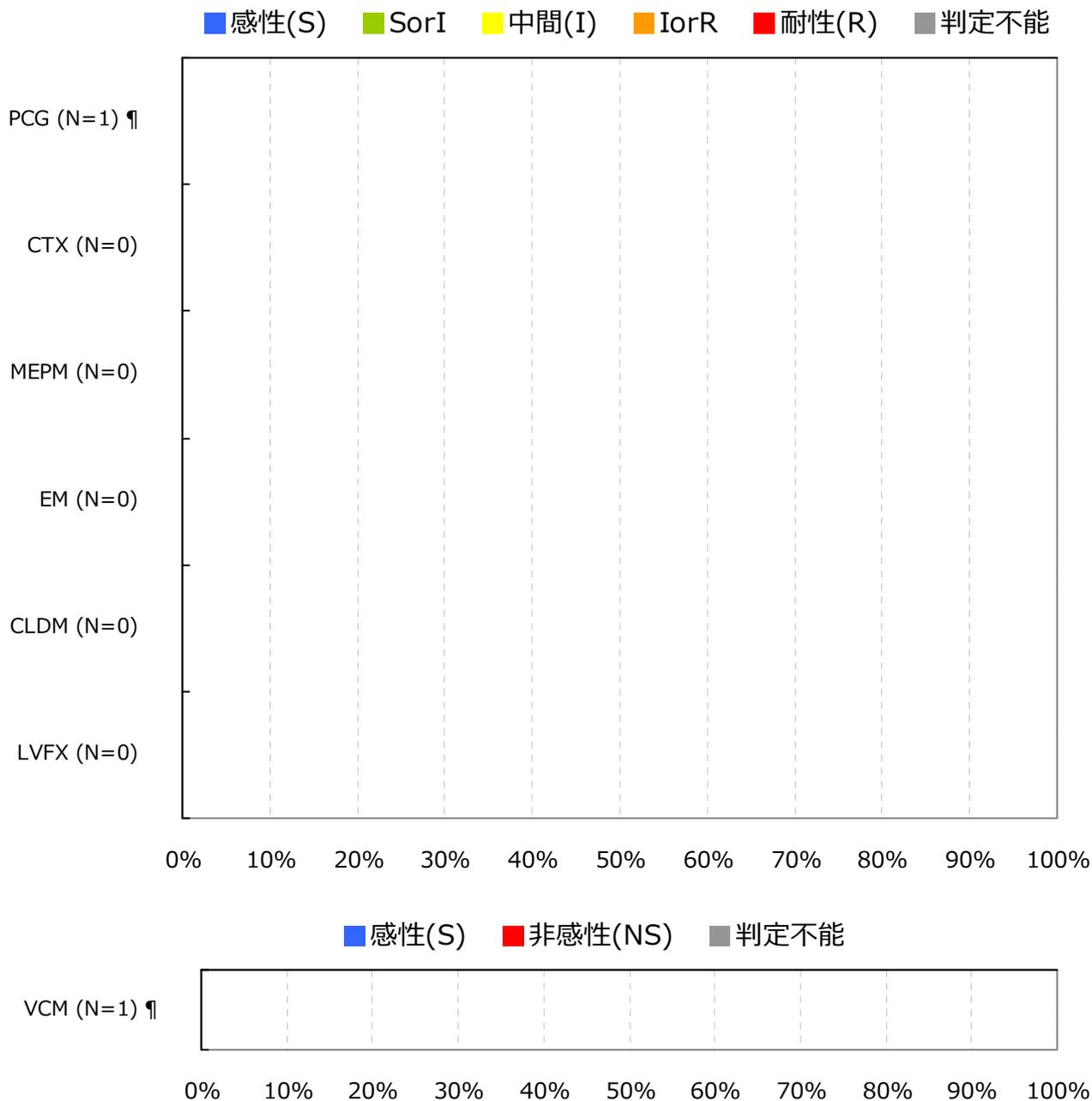
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1205, 1206と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

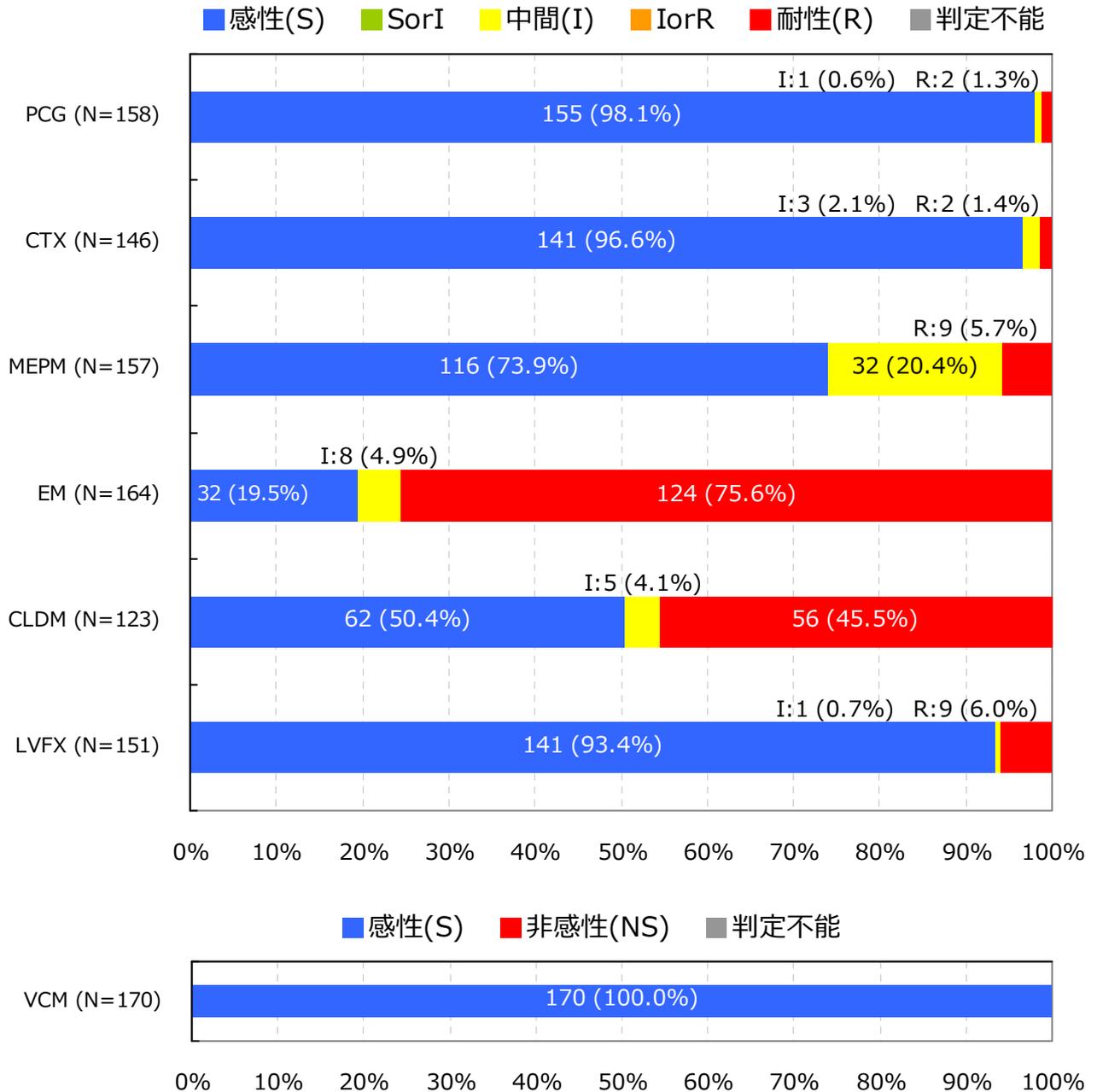
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1131と報告された菌

‡ 集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

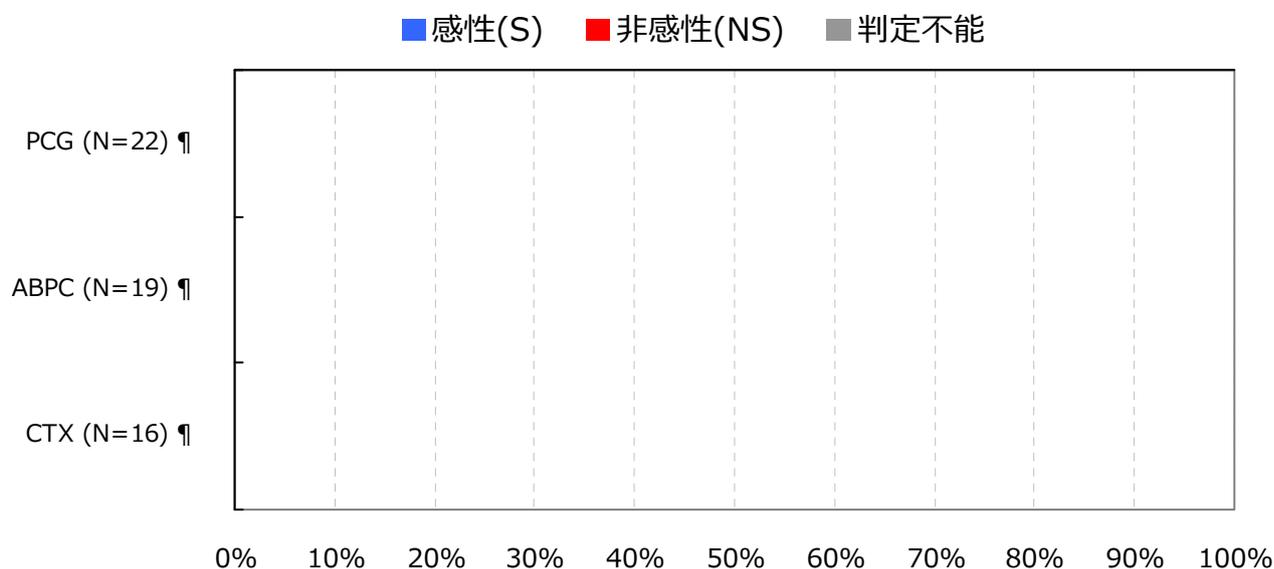
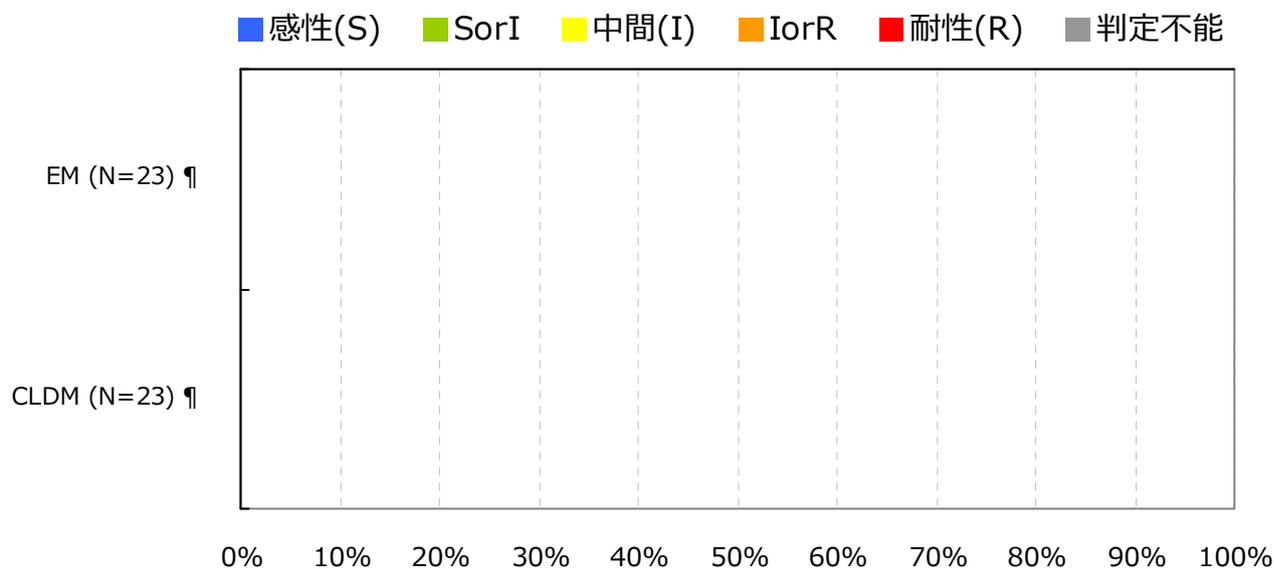
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

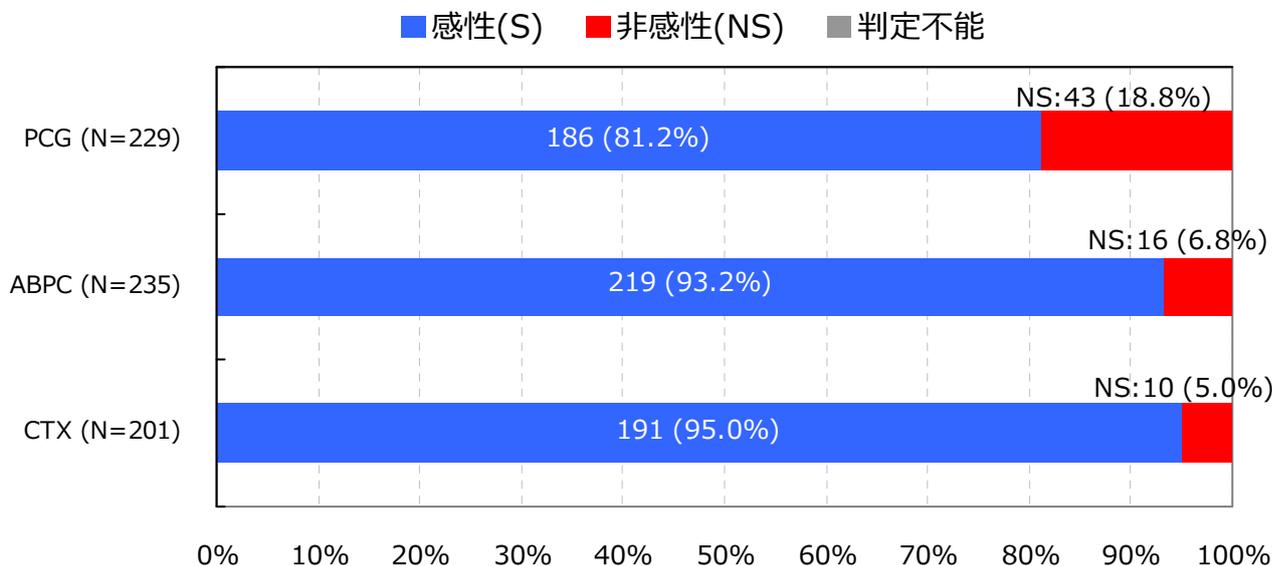
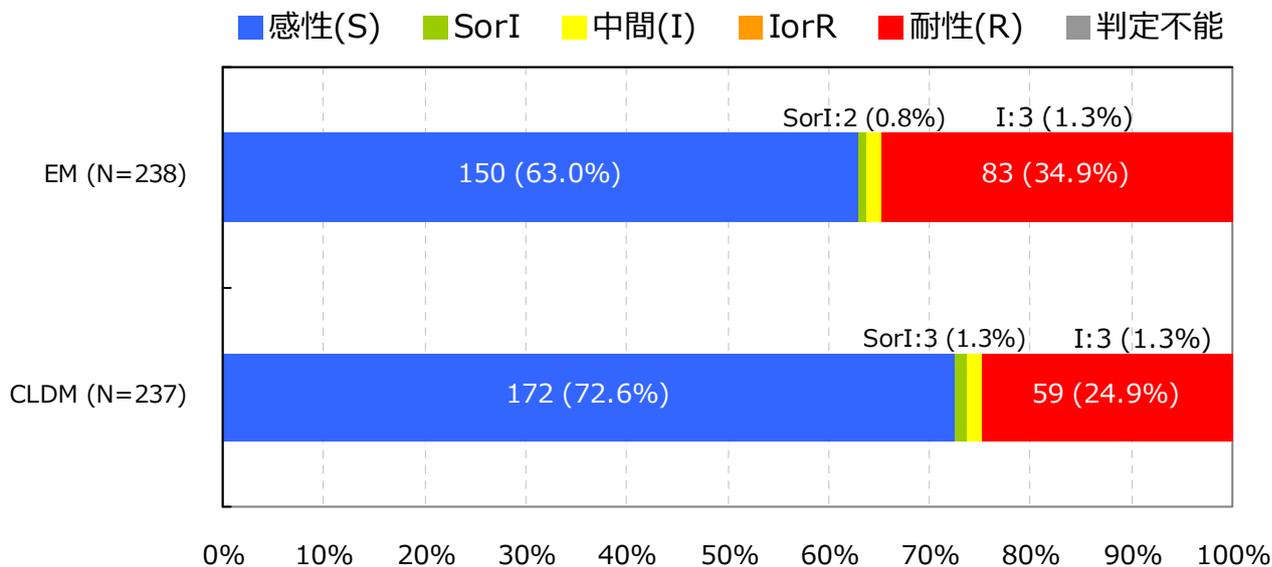
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌

¶ 集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

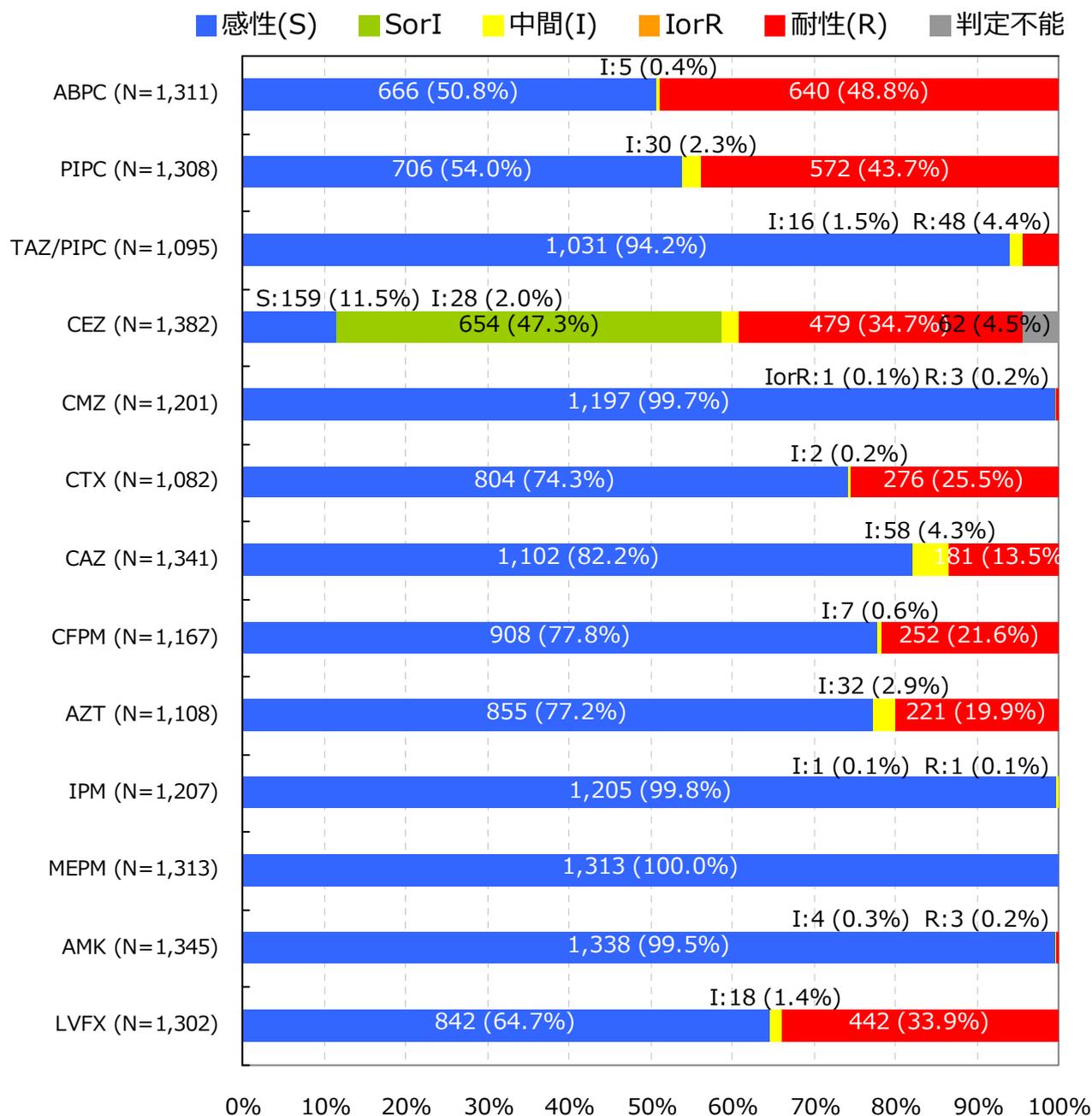
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1114と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

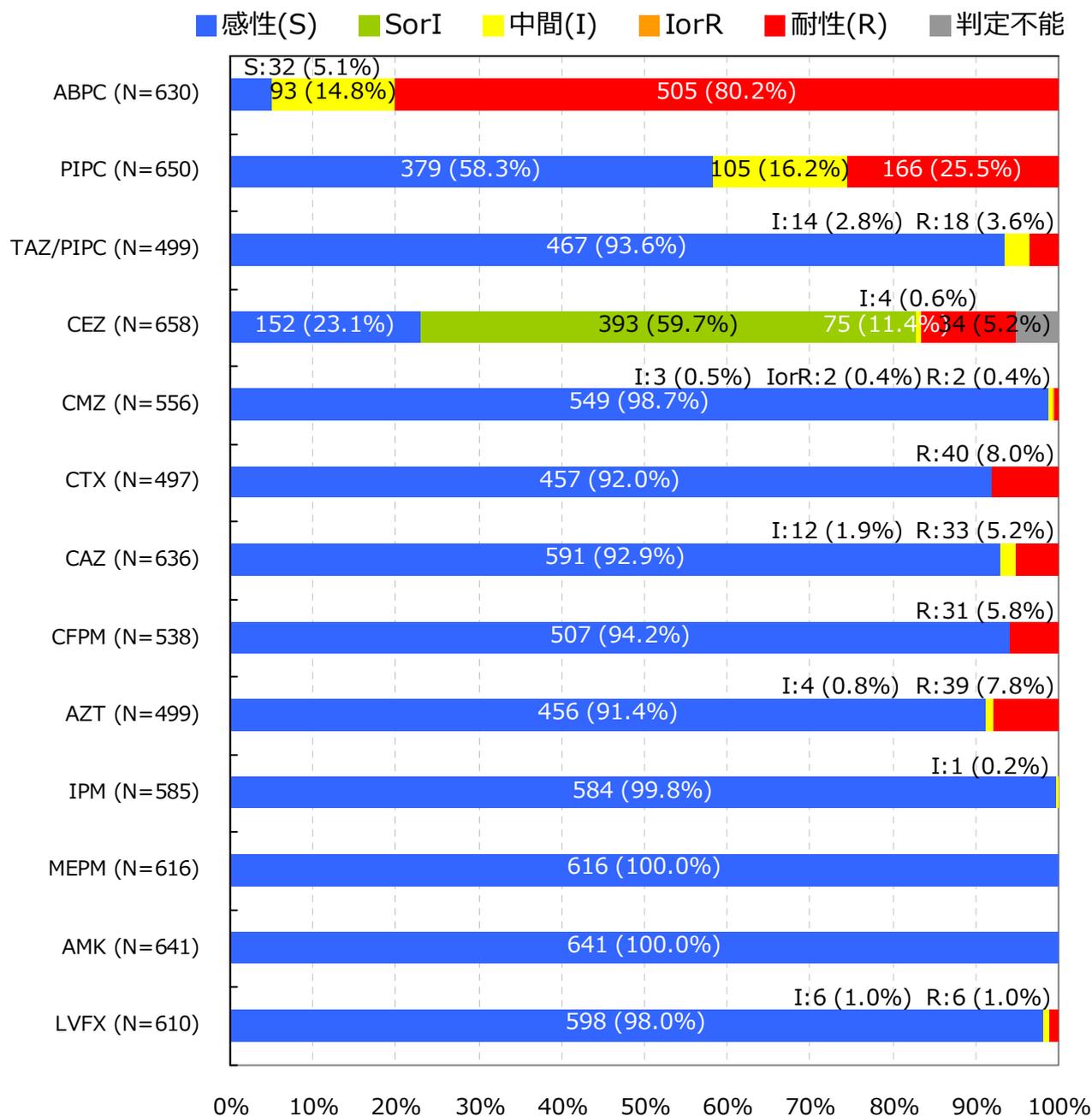
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

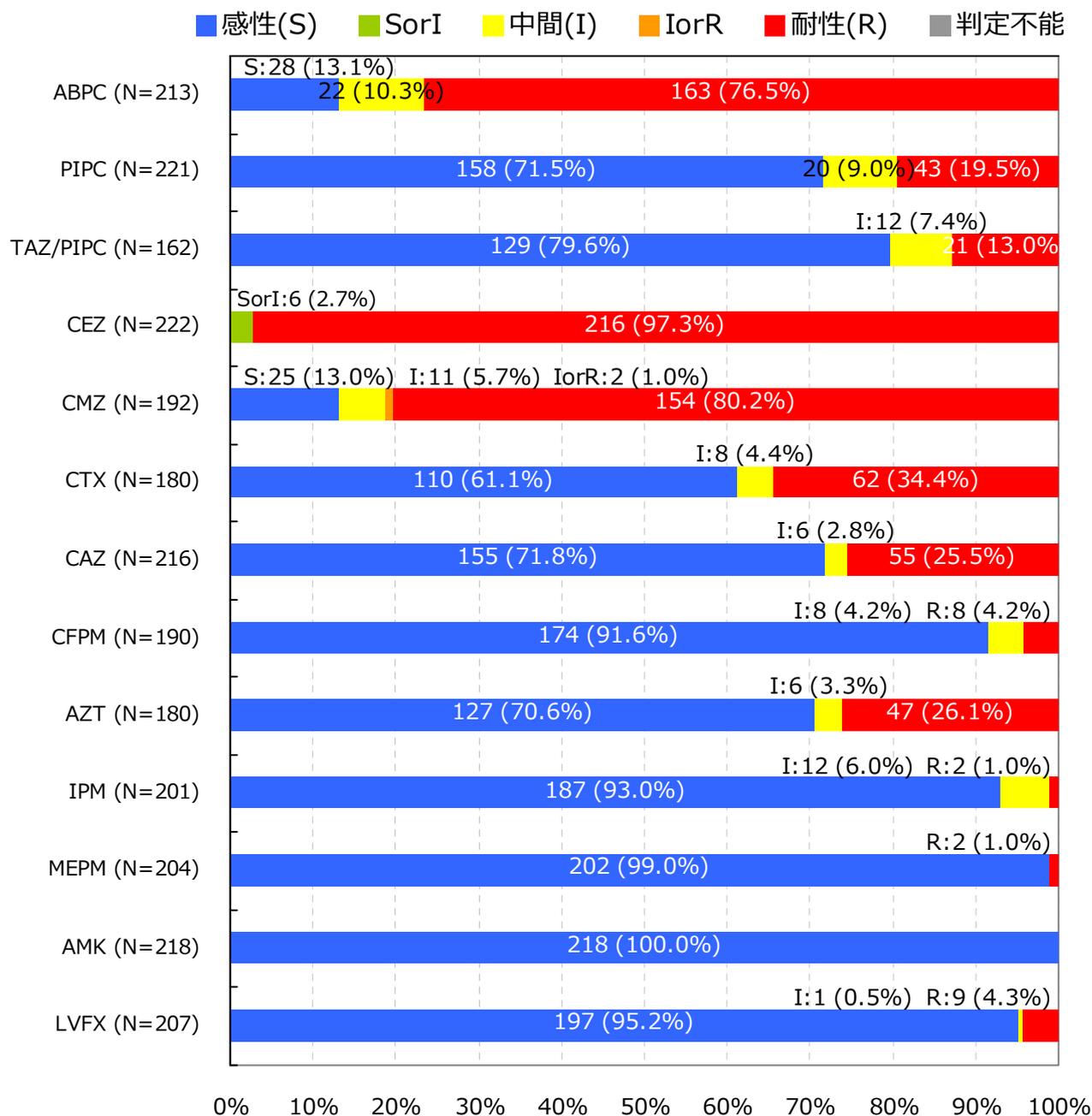
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2351と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

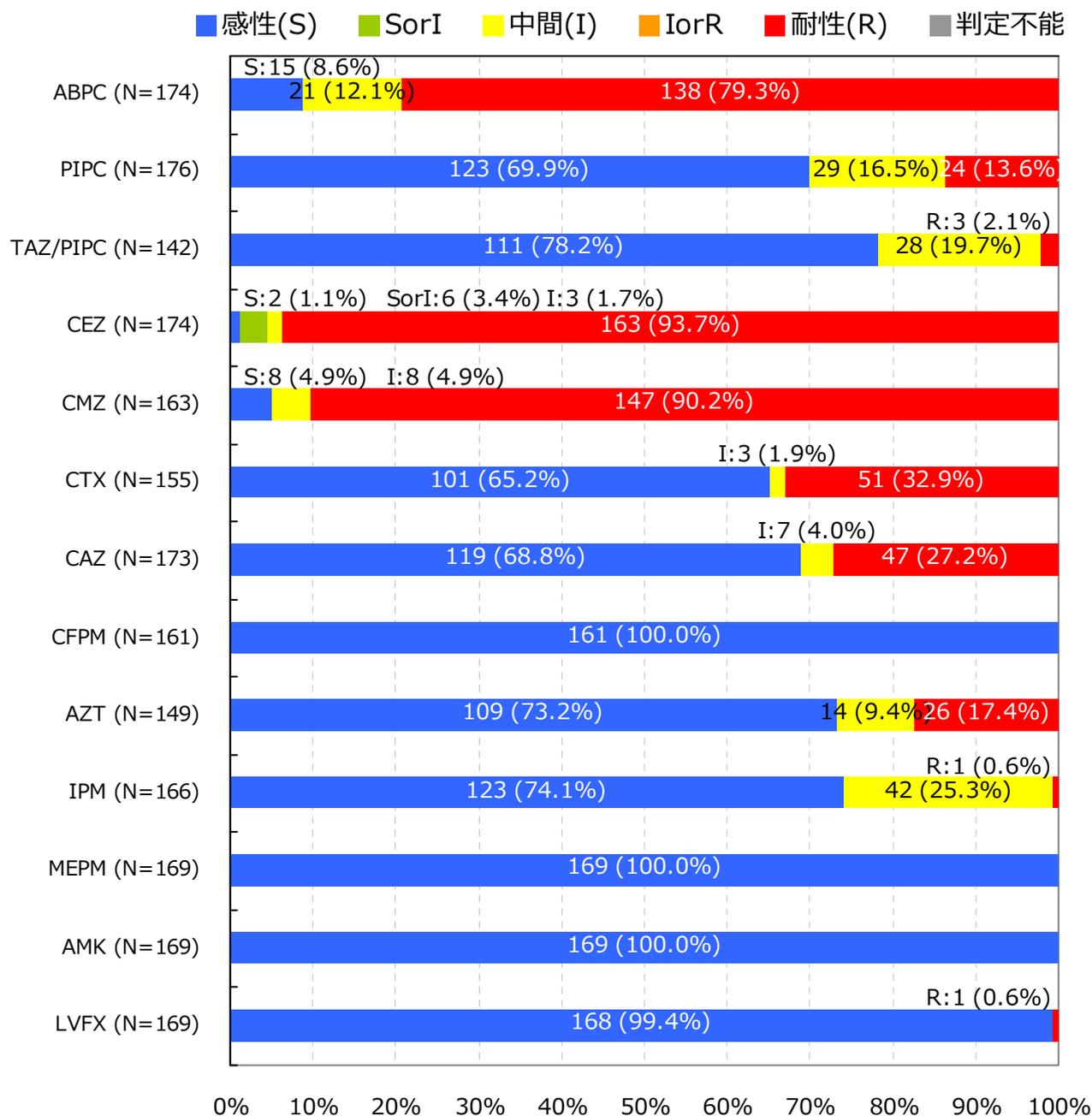
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2151と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

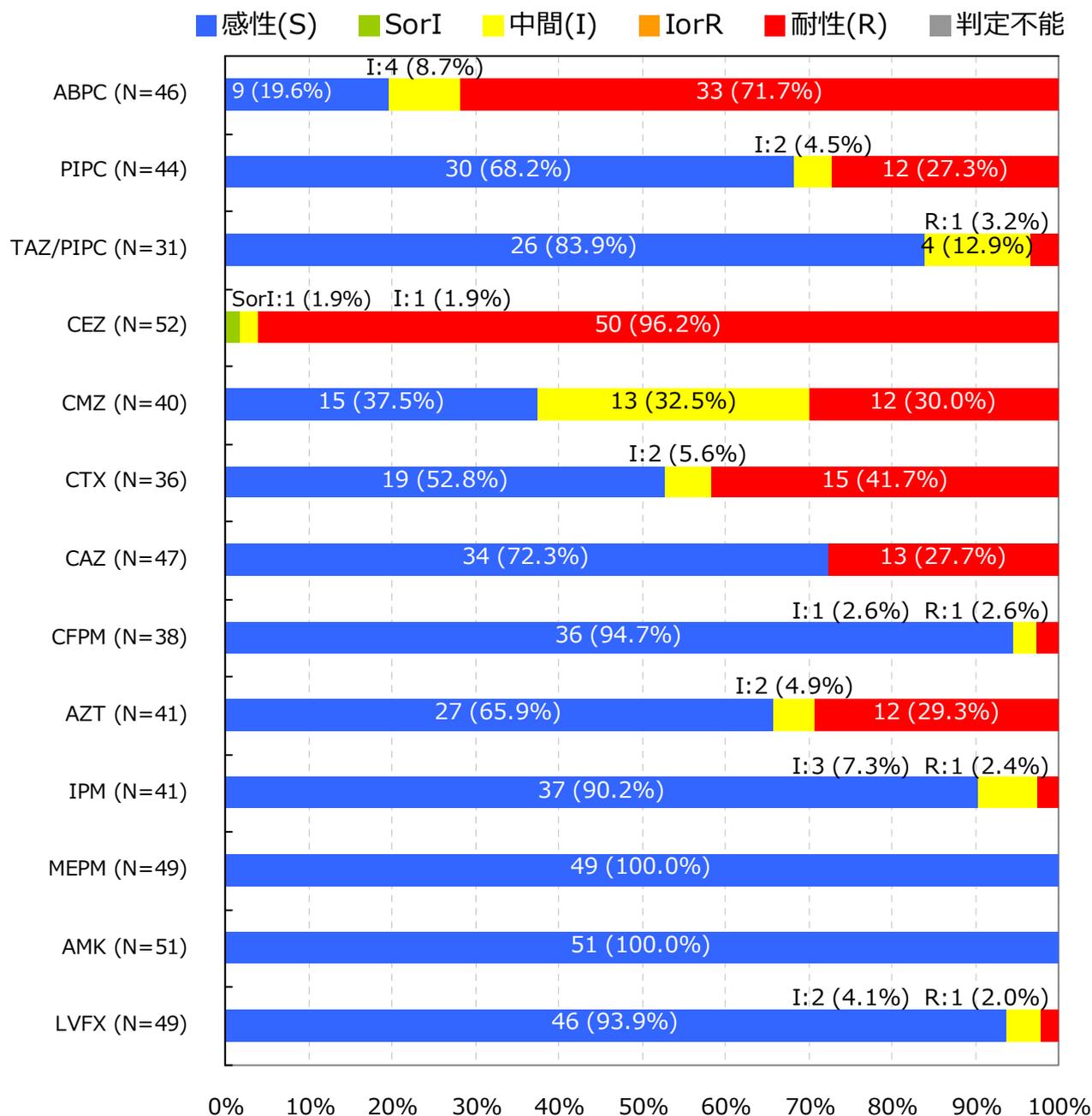
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2152と報告された菌 (旧名 : *Enterobacter aerogenes*)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

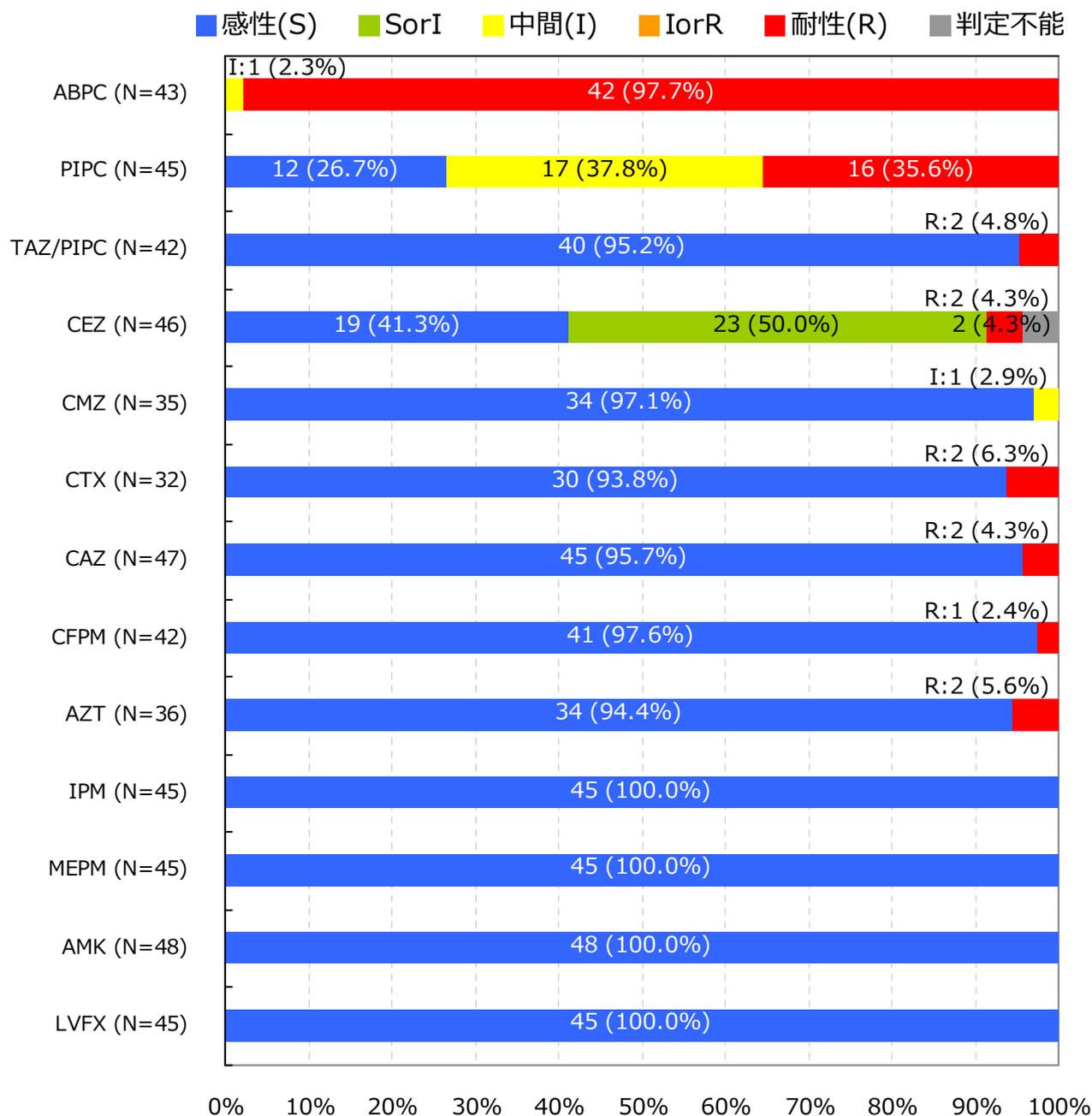
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

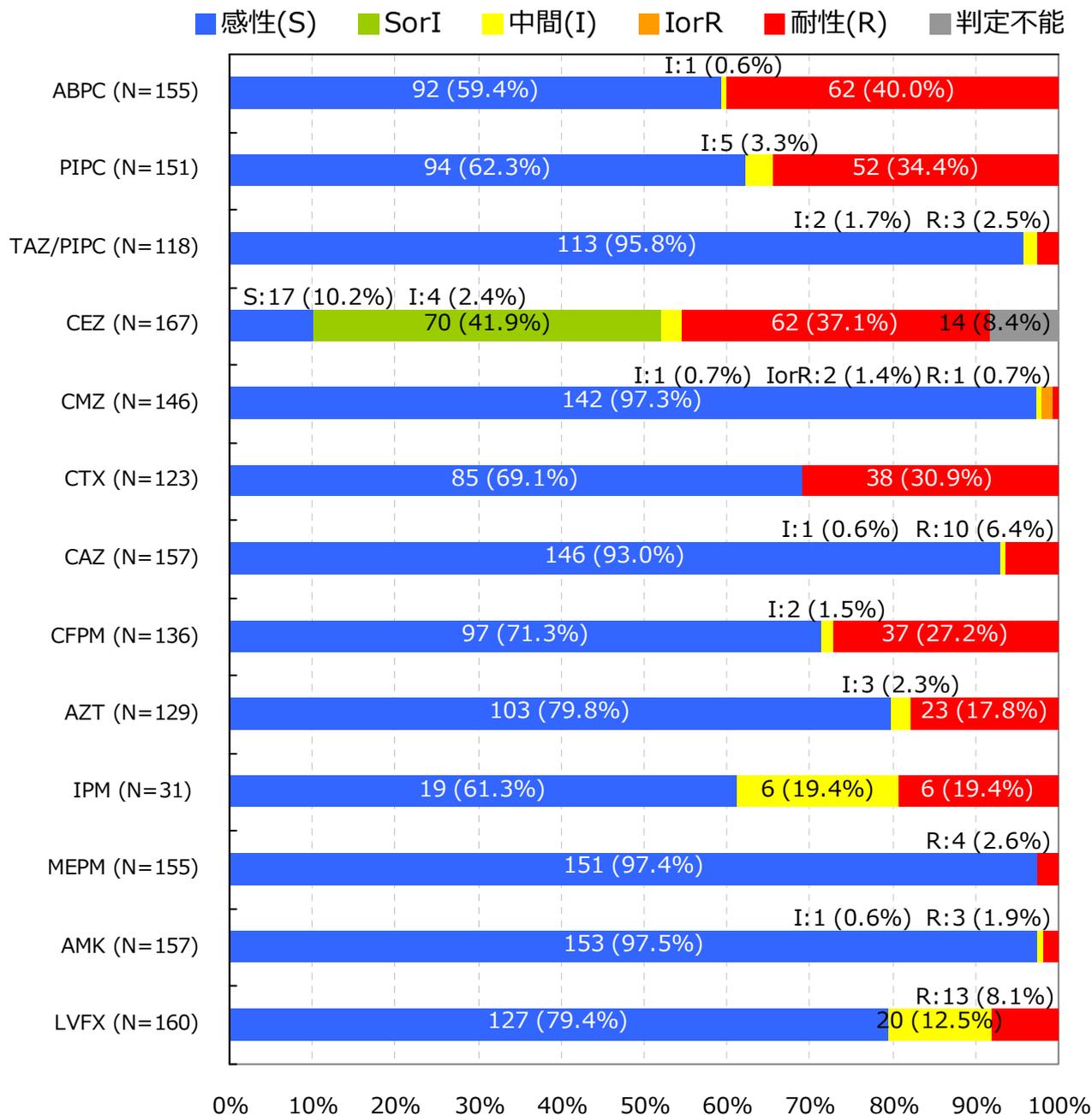
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

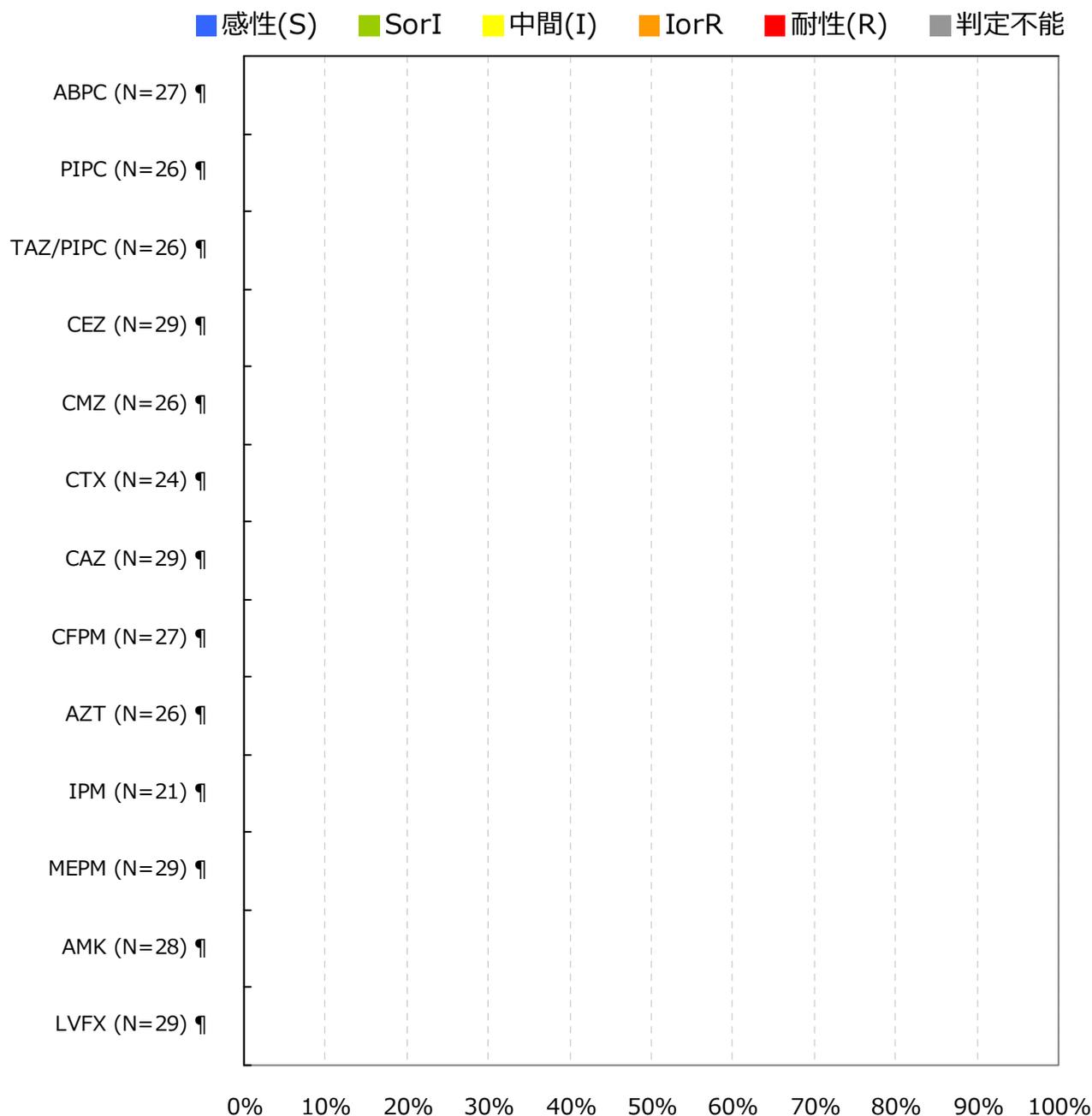
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2201と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

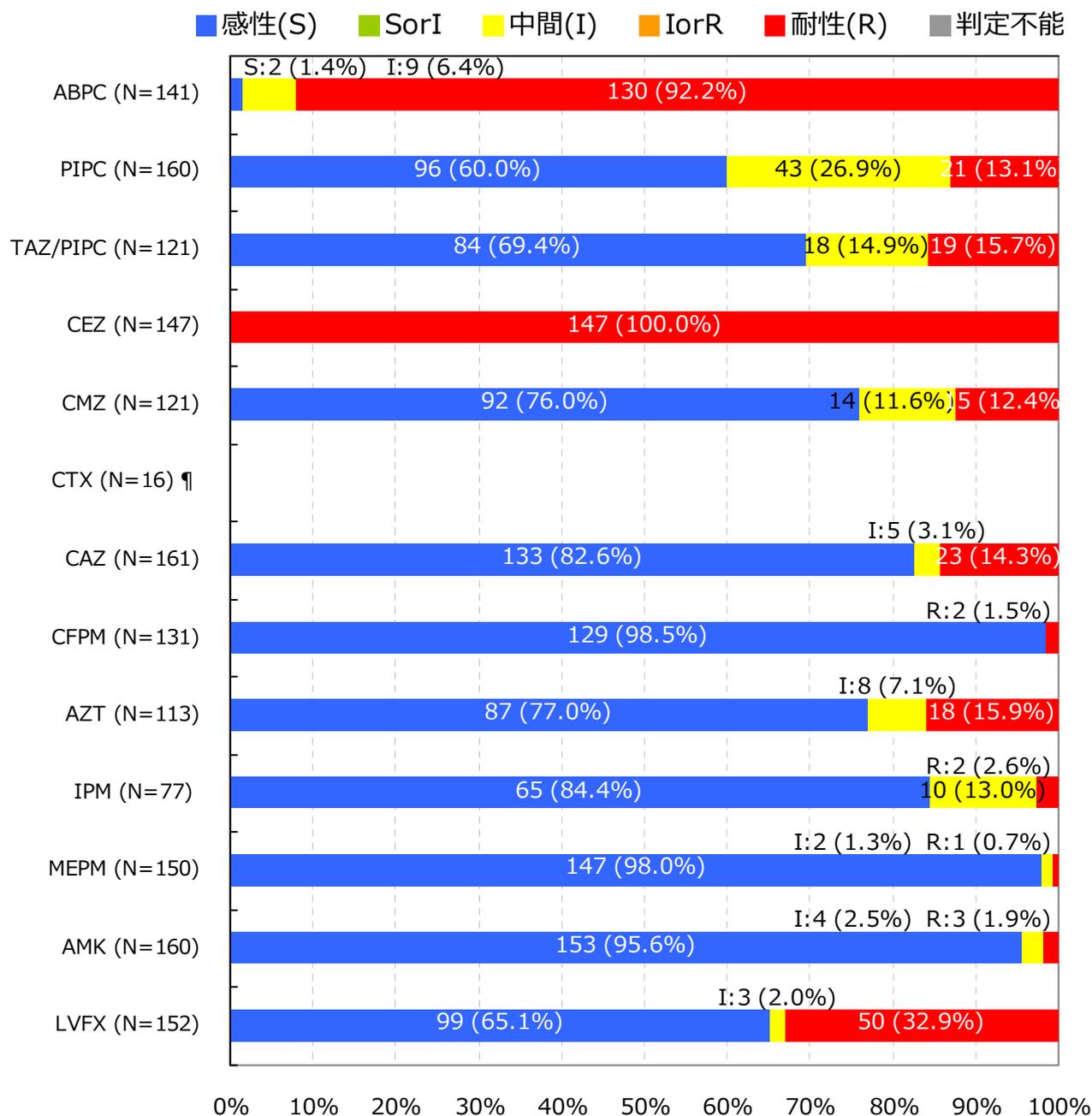
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

¶集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

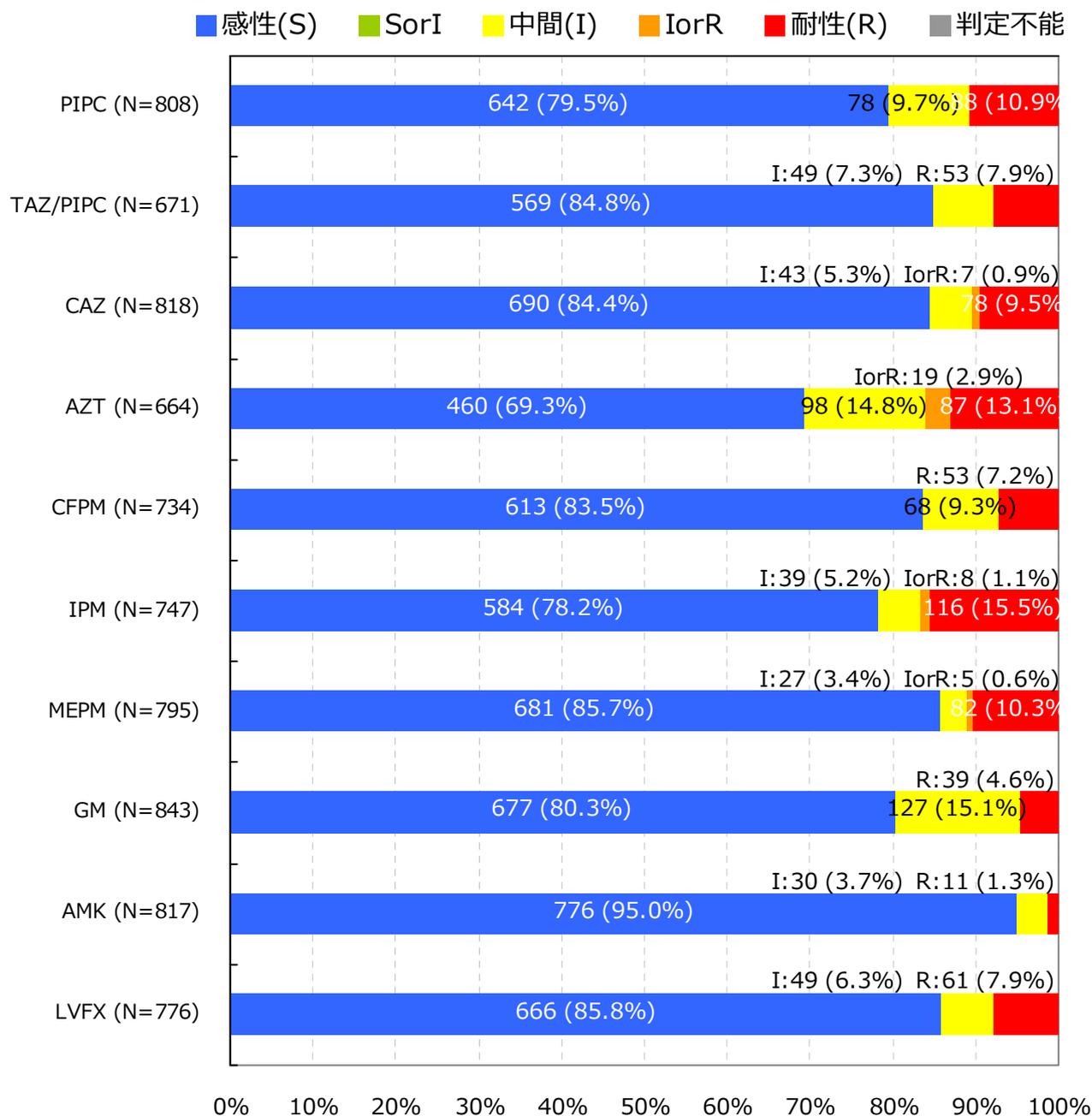
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

††集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

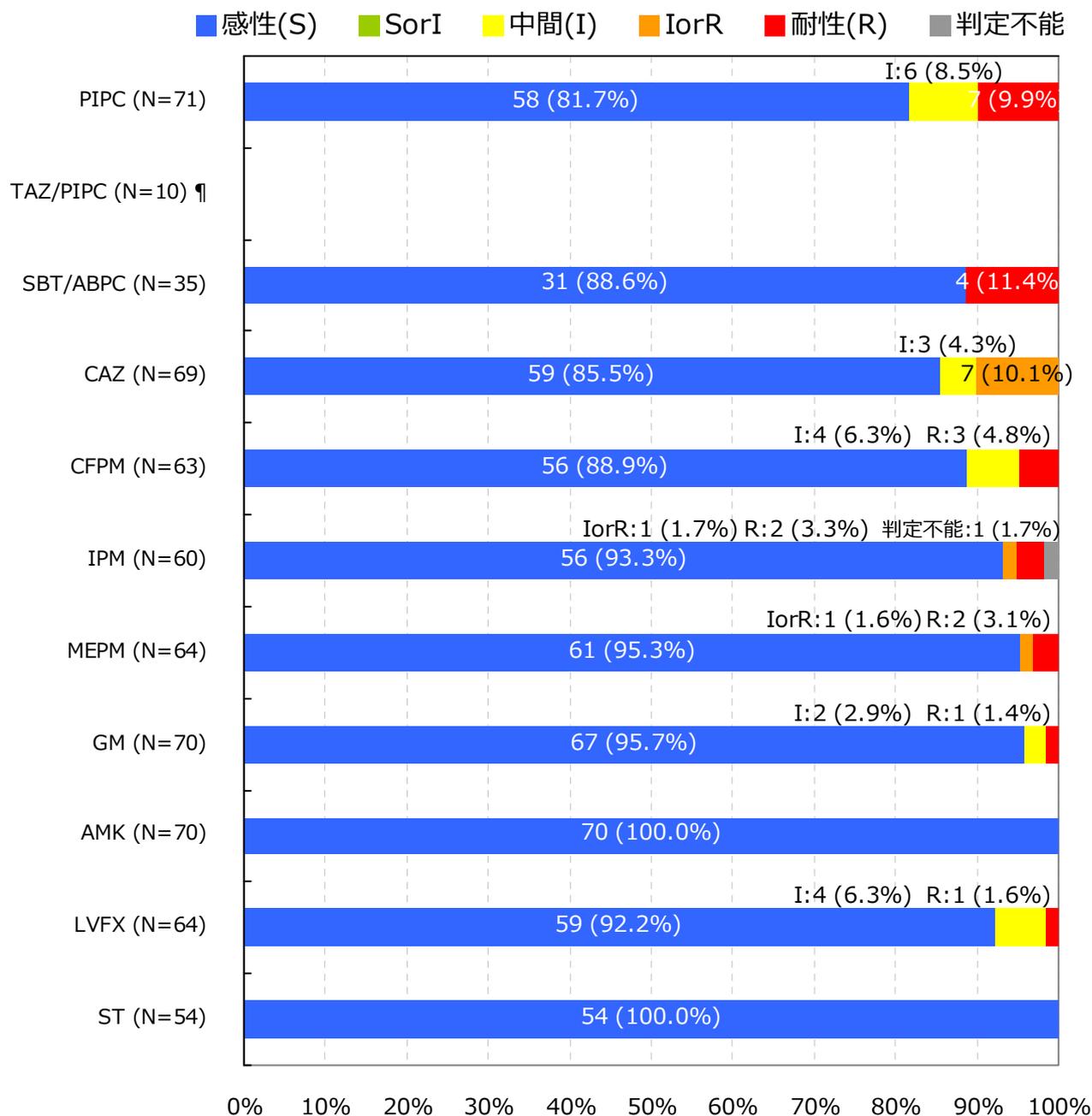
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

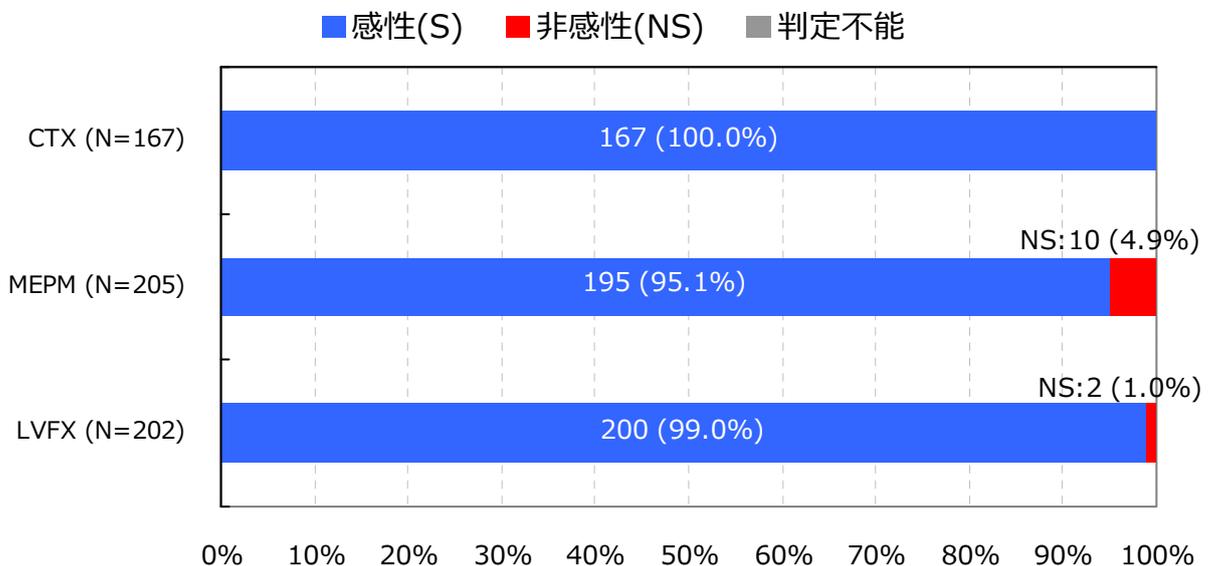
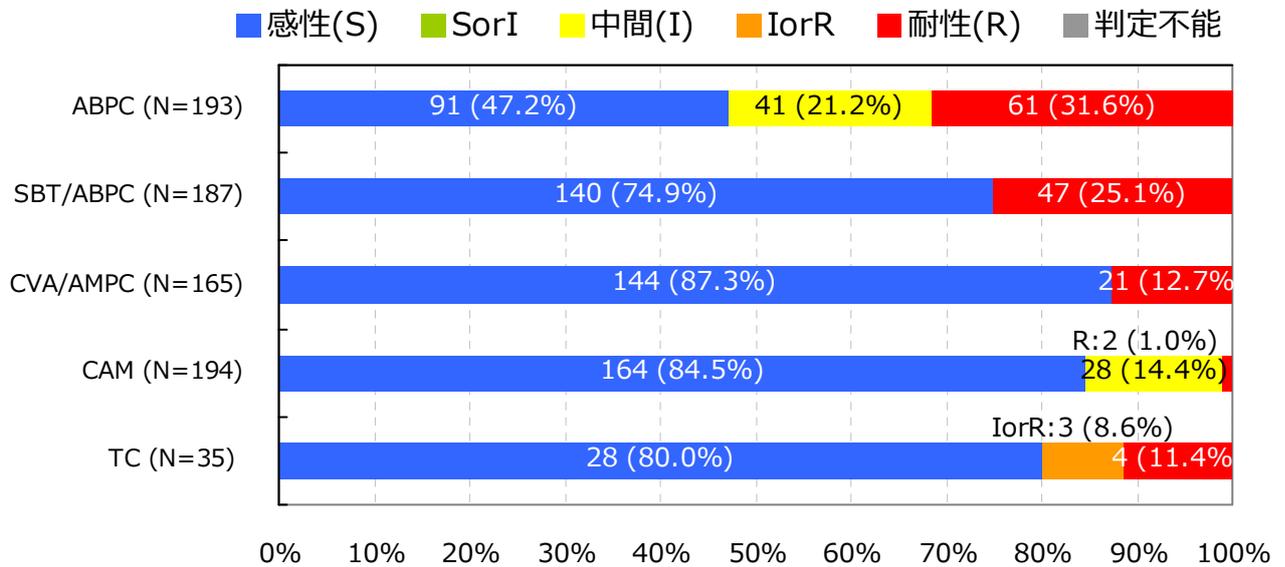
† 菌名コード: 4400~4403と報告された菌

‡ 集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない



### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

【巻末資料1 主要菌の菌名コード / 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

主要菌の菌名コード（薬剤感受性条件なし）

| 菌名                                | 菌名コード Ver.5.1       |
|-----------------------------------|---------------------|
| <i>Staphylococcus aureus</i>      | 1301,1303-1306      |
| <i>Staphylococcus epidermidis</i> | 1312                |
| <i>Streptococcus pneumoniae</i>   | 1131                |
| <i>Enterococcus faecalis</i>      | 1201,1202           |
| <i>Enterococcus faecium</i>       | 1205,1206           |
| <i>Escherichia coli</i>           | 2001-2007           |
| <i>Klebsiella pneumoniae</i>      | 2351                |
| <i>Enterobacter</i> spp.          | 2150-2156           |
| <i>Enterobacteriaceae</i>         | 2000-2691,3150-3151 |
| <i>Pseudomonas aeruginosa</i>     | 4001                |
| <i>Acinetobacter</i> spp.         | 4400-4403           |

「微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準」について

耐性菌の菌名は以下の通り

MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015年1月より集計開始）

\* : 原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† : 感染症発生動向調査の基準に準拠

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.2) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.2) を基に作成した。

微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準

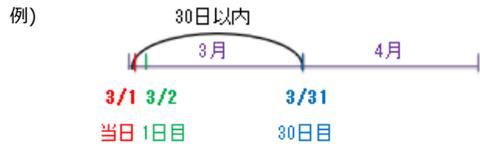
| 菌名   | 概要*   | 微量液体希釈法 (MIC 値)  | 菌名コード Ver.5.1                           |
|------|---|--|---|
| MRSA | MPIPC または CFX が "R" の <i>S. aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌  | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$   | 1301,1303                               |
| VRSA | VCM が微量液体希釈法で "R" の <i>S. aureus</i>  | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$  | 1301,1303-1306                          |
| VRE  | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp.<br>・ VCM が微量液体希釈法で耐性 +<br>・ 選択培地で VRE と確認された菌 (注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く                                      | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †  | 1201,1202,1205,1206,1209,1210,1213-1217 |
| PRSP | PCG が微量液体希釈法で耐性 + の <i>S. pneumoniae</i>  | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/mL}$ †   | 1131                                    |
| MDRP | 下記全てに該当する <i>P. aeruginosa</i><br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 +<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 +<br>3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX、CPFX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †、<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ †<br>3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ 、<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、<br>CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4001                                    |

| 菌名                 | 概要*   | 微量液体希釈法 (MIC 値)  | 菌名コード Ver.5.1       |
|--------------------|---|--|---------------------|
| MDRA               | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp.<br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が "R"<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 +<br>3. フルオロキノロン系 (LVFX, CPFX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †、<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ †<br>3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、<br>CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4400-4403           |
| CRE                | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科<br>1. MEPM が耐性 +<br>2. IPM が耐性 +、かつ CMZ が "R"  | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ †<br>2. IPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ † かつ<br>CMZ $\geq 64\mu\text{g/mL}$  | 2000-2691,3150-3151 |
| カルバペネム耐性緑膿菌        | IPM または MEPM が耐性 + の <i>P. aeruginosa</i>   | IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †  | 4001                |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌 | CTX または CTRX または CAZ が "R" の <i>K. pneumoniae</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CTRX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 2351                |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌  | CTX または CTRX または CAZ が "R" の <i>E. coli</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CTRX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 2001-2007           |
| フルオロキノロン耐性大腸菌      | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, CPFX の何れか) が "R" の <i>E. coli</i>  | NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ 、<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、<br>CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$           | 2001-2007           |

## 【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

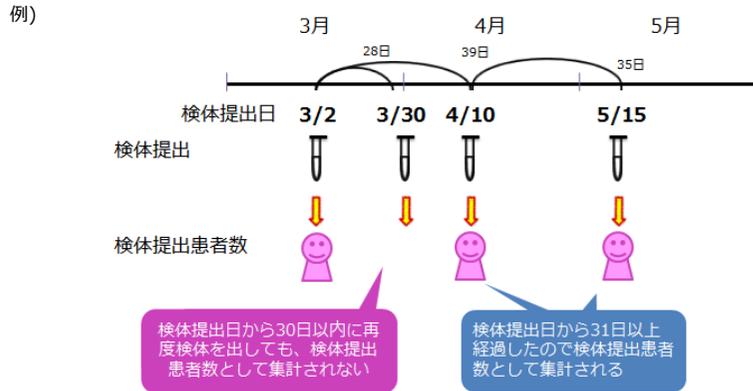
### 1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を1日目とする。検体提出日が3月1日とすると、1日目が3月2日、30日目が3月31日となる。



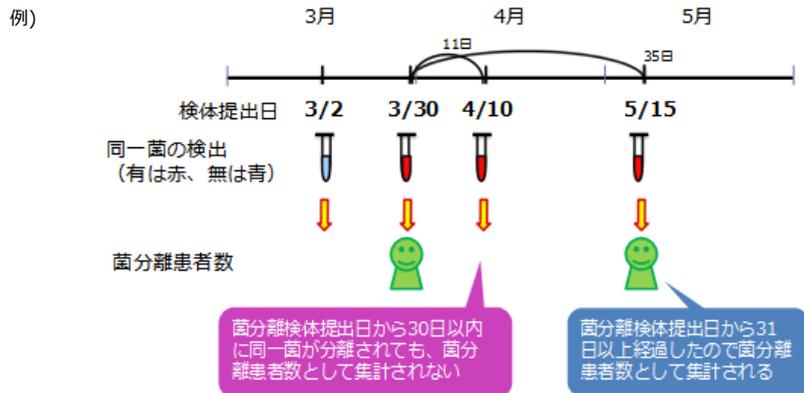
### 2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30日以内の同一患者からの複数の検体提出は1件とする。



### 3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は1件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



### 4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

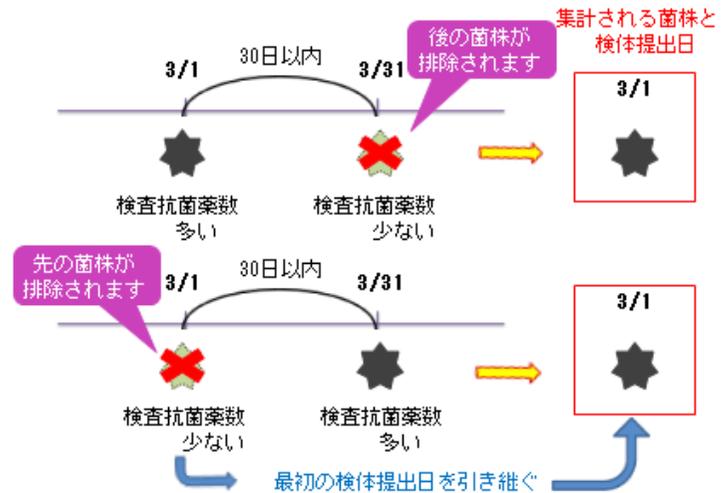
30日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に1つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC値に4倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2はMIC ≥ 4と考え、判定時はMIC = 4として扱う  
また、MIC < 16はMIC ≤ 16と考え、判定時はMIC = 16として扱う
- ② SIR判定では「SとR」の組み合わせ
- ③ +/-判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が5未満

### 5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬が(30日以内の)先の菌株の検査抗菌薬より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。

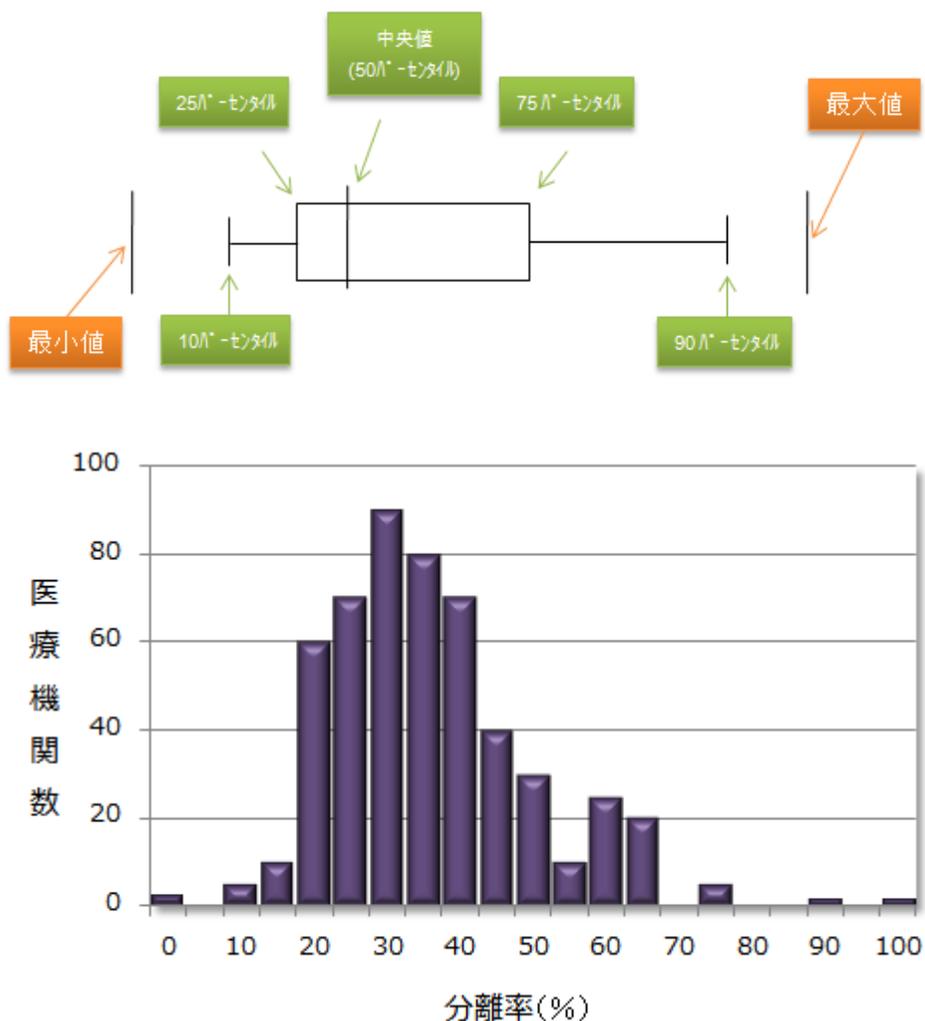
例)



## 【巻末資料 3 箱ひげ図について】

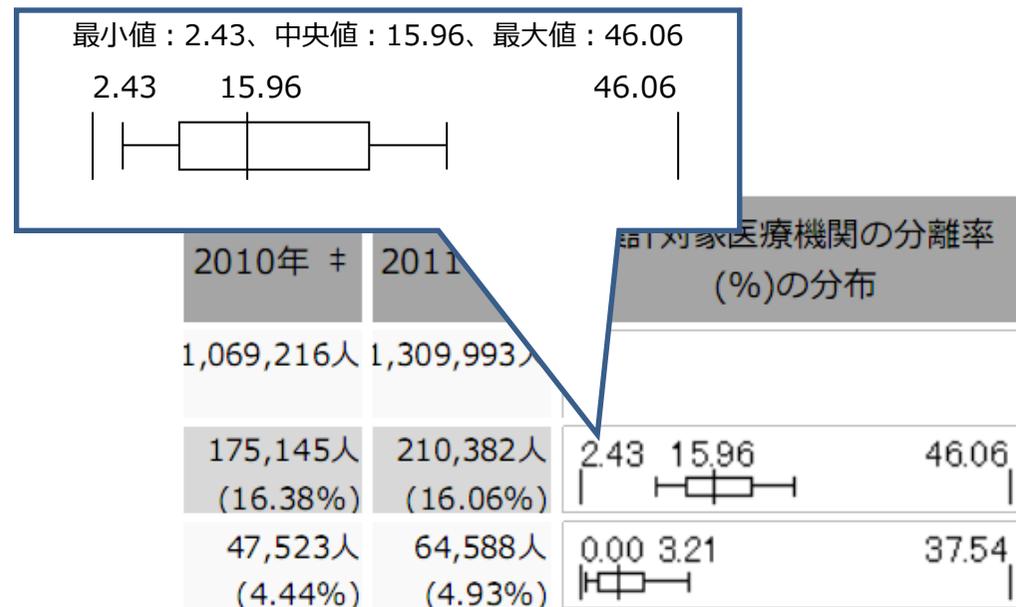
### 1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



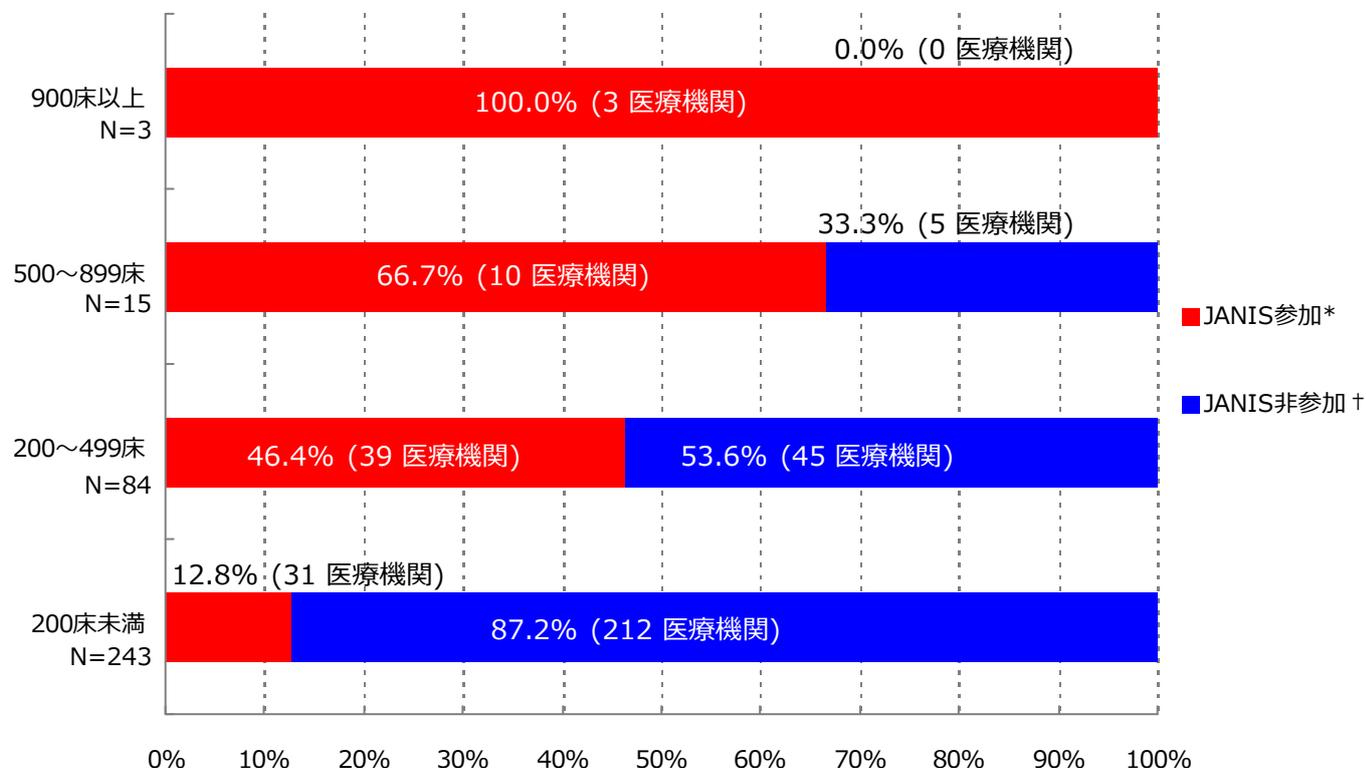
※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したものの。例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

### 2. 公開情報の箱ひげ図





### 1. 集計対象医療機関数(83医療機関)



\*JANIS参加 = 2019年1～3月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2018年 都道府県別医療機関数 †) - (2019年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数      | 2018年 都道府県別医療機関数 † | 2019年1月～3月 集計対象医療機関数<br>(都道府県別医療機関数に占める割合) |
|----------|--------------------|--|
| 900床以上   | 3                  | 3 (100.0%)                                 |
| 500～899床 | 15                 | 10 (66.7%)                                 |
| 200～499床 | 84                 | 39 (46.4%)                                 |
| 200床未満   | 243                | 31 (12.8%)                                 |
| 病床数不明    | -                  | 0 (-)                                      |
| 合計       | 345                | 83 (24.1%)                                 |

† 2018年医療施設(動態)調査を参照した

(埼玉県)

公開情報 2019年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門 【入院検体】



## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数    | 陽性検体数<br>(分離菌数)    |
|--------|-----------|--------|--------------------|
| 呼吸器系検体 | 83        | 23,451 | 16,219<br>(34,600) |
| 尿検体    | 82        | 12,734 | 6,838<br>(10,483)  |
| 便検体    | 79        | 9,166  | 4,085<br>(8,372)   |
| 血液検体   | 82        | 28,955 | 4,074<br>(4,569)   |
| 髄液検体   | 43        | 1,149  | 57<br>(63)         |
| その他    | 80        | 13,521 | 6,711<br>(11,964)  |
| 合計     | 83        | 88,976 | 37,984<br>(70,051) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

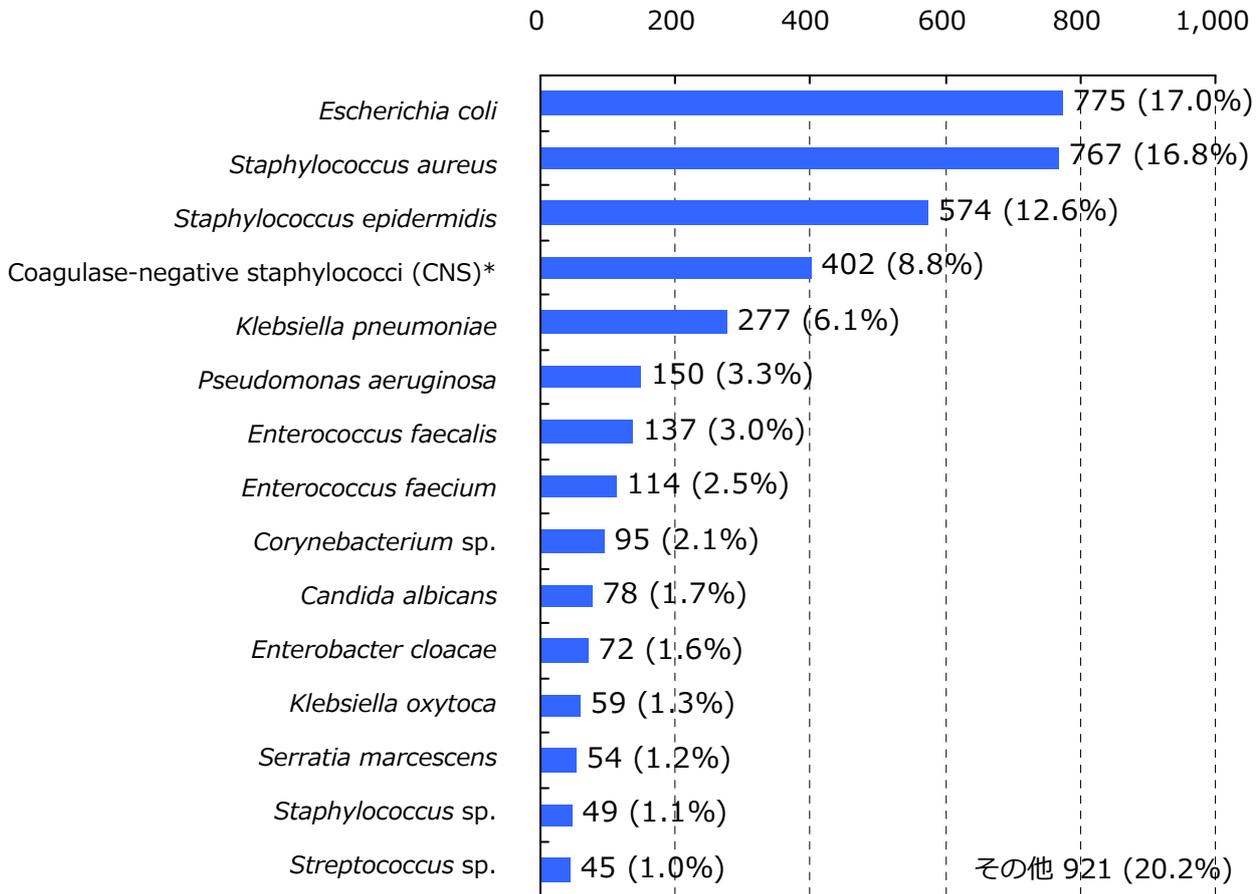
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=4,569)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

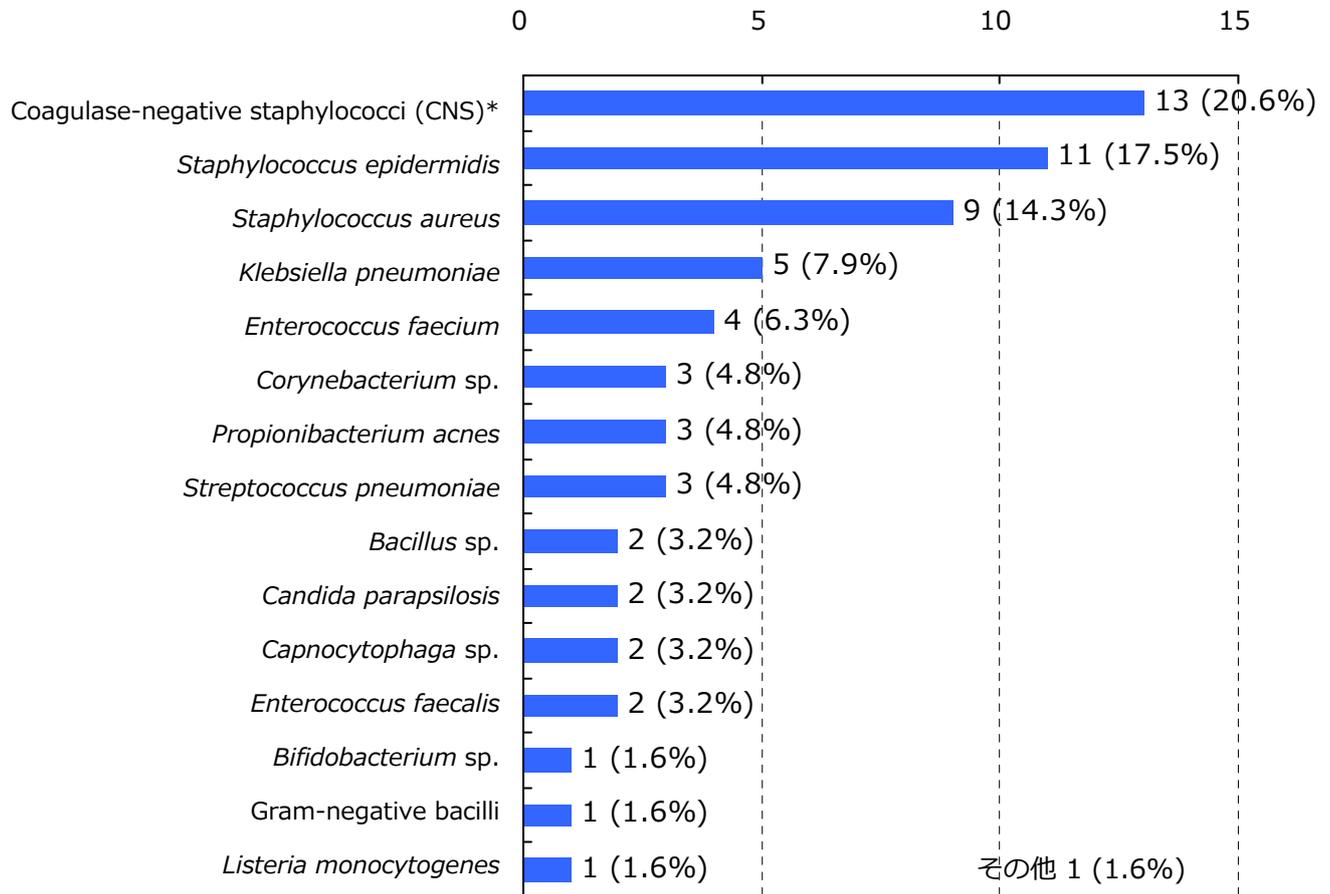
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=63)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

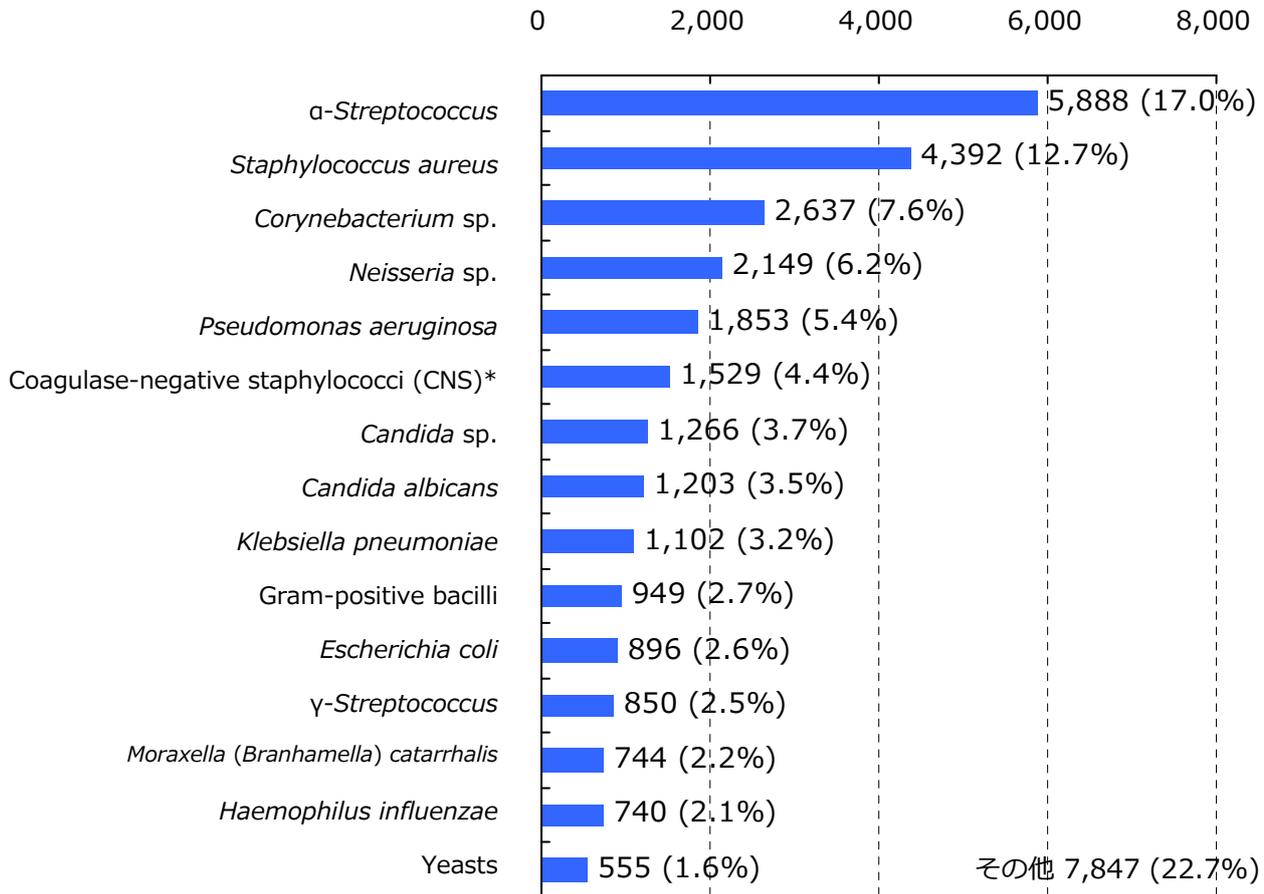
髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 呼吸器系検体分離菌 (N=34,600)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・常在菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：喀出痰(検査材料コード101)、気管内採痰(同102)、気管支洗浄液(同103)、咽頭粘液(同104)、鼻腔内(同105)、口腔内(同106)、生検材料(肺)(同107)、その他(呼吸器)(同109)、胸水(同404)

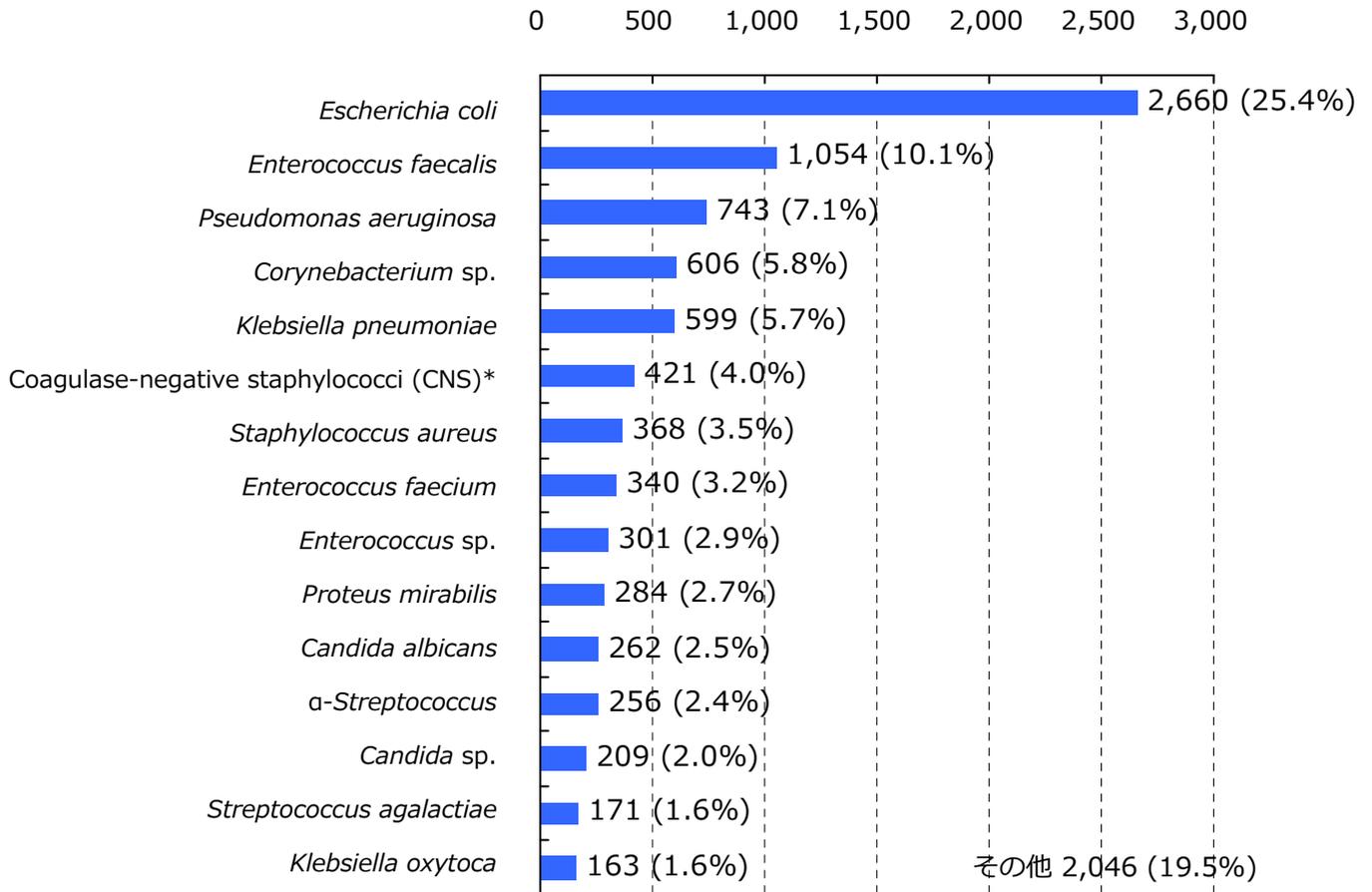
呼吸器系検体分離菌数割合 = (対象菌の呼吸器系検体分離菌数) ÷ (呼吸器系検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 尿検体分離菌 (N=10,483)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

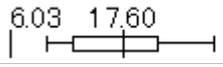
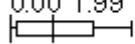
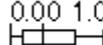
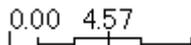
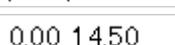
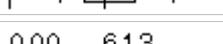
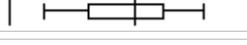
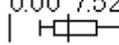
集計対象検査材料：自然排尿(検査材料コード201)、採尿カテーテル尿(同202)、留置カテーテル尿(同203)、カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能)(同206)

尿検体分離菌数割合 = (対象菌の尿検体分離菌数) ÷ (尿検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

## 4. 主要菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                           | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布   |
|---------------------------|------------------------|---|
| 検体提出患者数(100床あたり)          | 32,636人<br>(124.3)※    |   |
| <i>S. aureus</i>          | 4,704人<br>(14.41%)     | 6.03 17.60 41.07<br>   |
| <i>S. epidermidis</i>     | 1,123人<br>(3.44%)      | 0.00 1.99 16.49<br>    |
| <i>S. pneumoniae</i>      | 501人<br>(1.54%)        | 0.00 1.00 10.55<br>    |
| <i>E. faecalis</i>        | 1,622人<br>(4.97%)      | 0.00 4.57 15.85<br>    |
| <i>E. faecium</i>         | 614人<br>(1.88%)        | 0.00 1.10 6.54<br>     |
| <i>E. coli</i>            | 5,262人<br>(16.12%)     | 0.00 14.50 52.87<br>  |
| <i>K. pneumoniae</i>      | 1,924人<br>(5.90%)      | 0.00 6.13 17.65<br>  |
| <i>Enterobacter spp.</i>  | 1,266人<br>(3.88%)      | 0.00 3.57 9.87<br>   |
| <i>Enterobacteriaceae</i> | 9,030人<br>(27.67%)     | 0.00 28.57 63.53<br> |
| <i>P. aeruginosa</i>      | 2,351人<br>(7.20%)      | 0.00 7.52 44.12<br>  |
| <i>Acinetobacter spp.</i> | 243人<br>(0.74%)        | 0.00 0.37 11.76<br>  |

入院として報告された検体を集計

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

※ 病床数が登録されている医療機関のみが対象

## 5. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                        | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布 |
|------------------------|------------------------|-------------------------|
| 検体提出患者数(100床あたり)       | 32,636人<br>(124.3)※    |                         |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)   | 1,991人<br>(6.10%)      | 0.00 7.69 36.61<br>  H  |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>                |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)      | 9人<br>(0.03%)          | 0.00 0.00 0.54<br>      |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)      | 135人<br>(0.41%)        | 0.00 0.00 3.11<br>  H   |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP)          | 10人<br>(0.03%)         | 0.00 0.00 6.06<br>      |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)    | 5人<br>(0.02%)          | 0.00 0.00 0.41<br>      |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)   | 103人<br>(0.32%)        | 0.00 0.00 2.68<br>  H   |
| カルバペネム耐性緑膿菌            | 231人<br>(0.71%)        | 0.00 0.44 8.75<br>  H   |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌     | 182人<br>(0.56%)        | 0.00 0.21 6.21<br>  H   |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌      | 1,173人<br>(3.59%)      | 0.00 3.47 19.63<br>  H  |
| フルオロキノロン耐性大腸菌          | 1,674人<br>(5.13%)      | 0.00 4.99 22.90<br>  H  |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

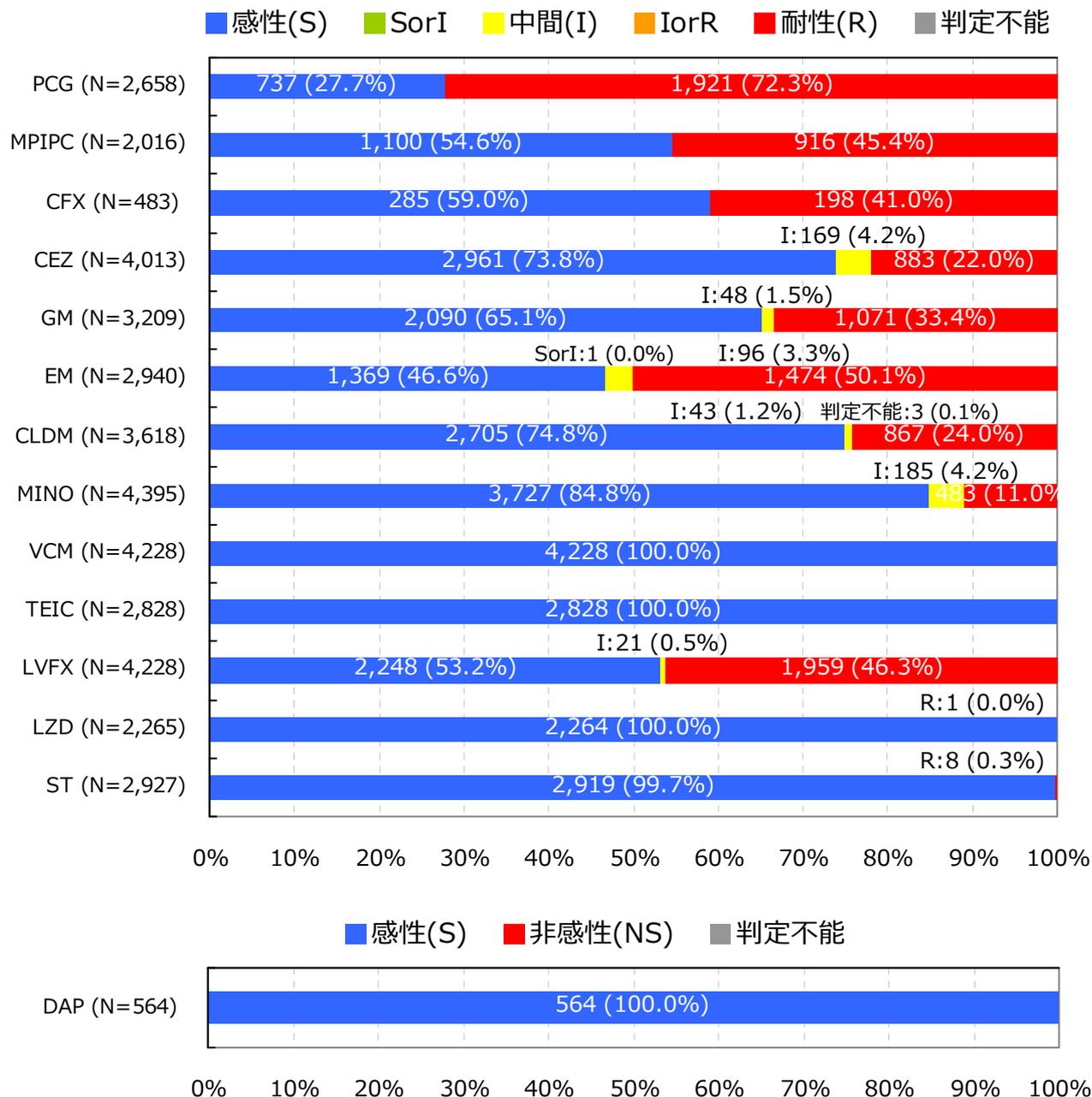
= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

※ 病床数が登録されている医療機関のみが対象

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Staphylococcus aureus (ALL) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

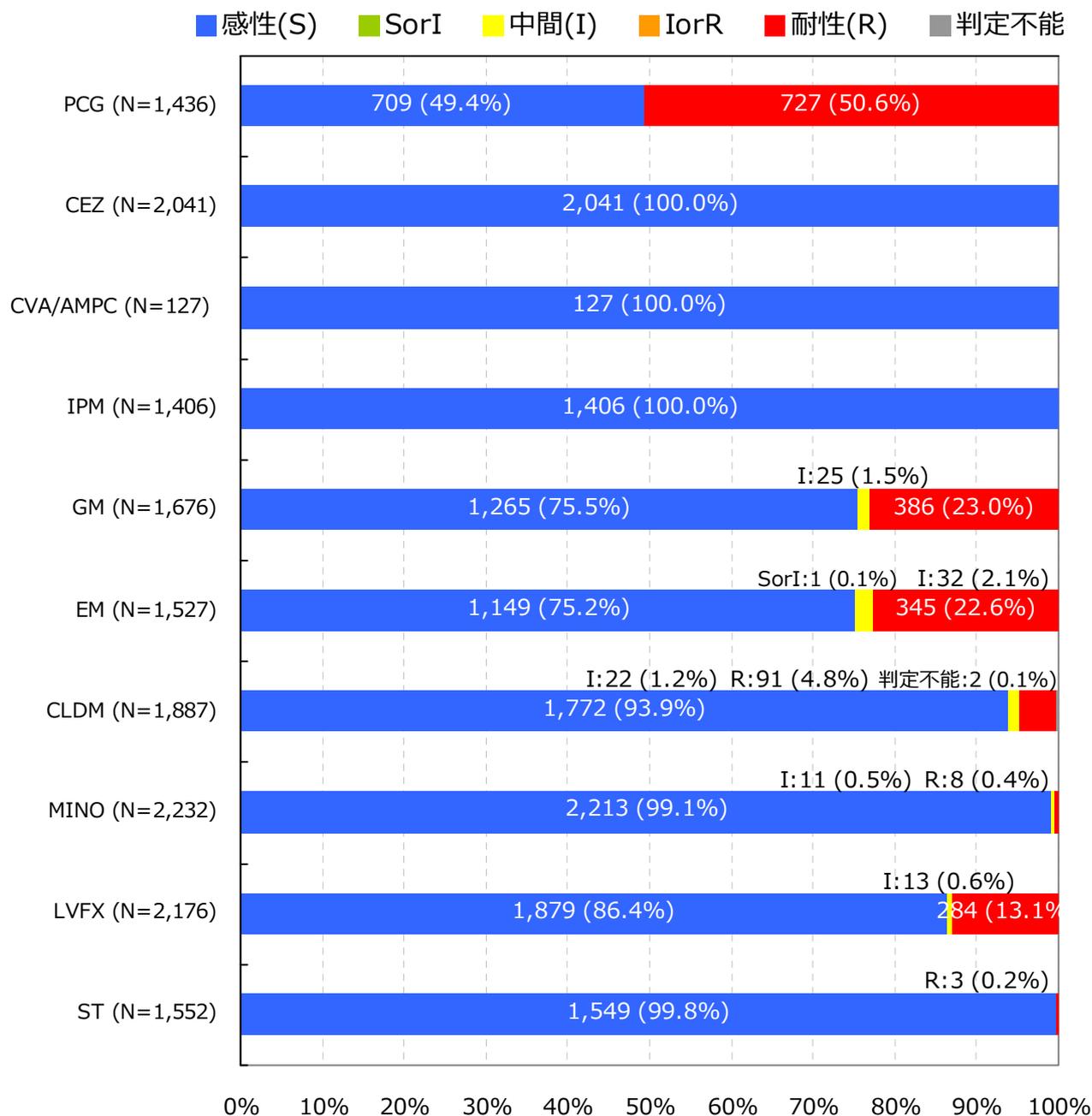
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

†菌名コード: 1301, 1303～1306と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

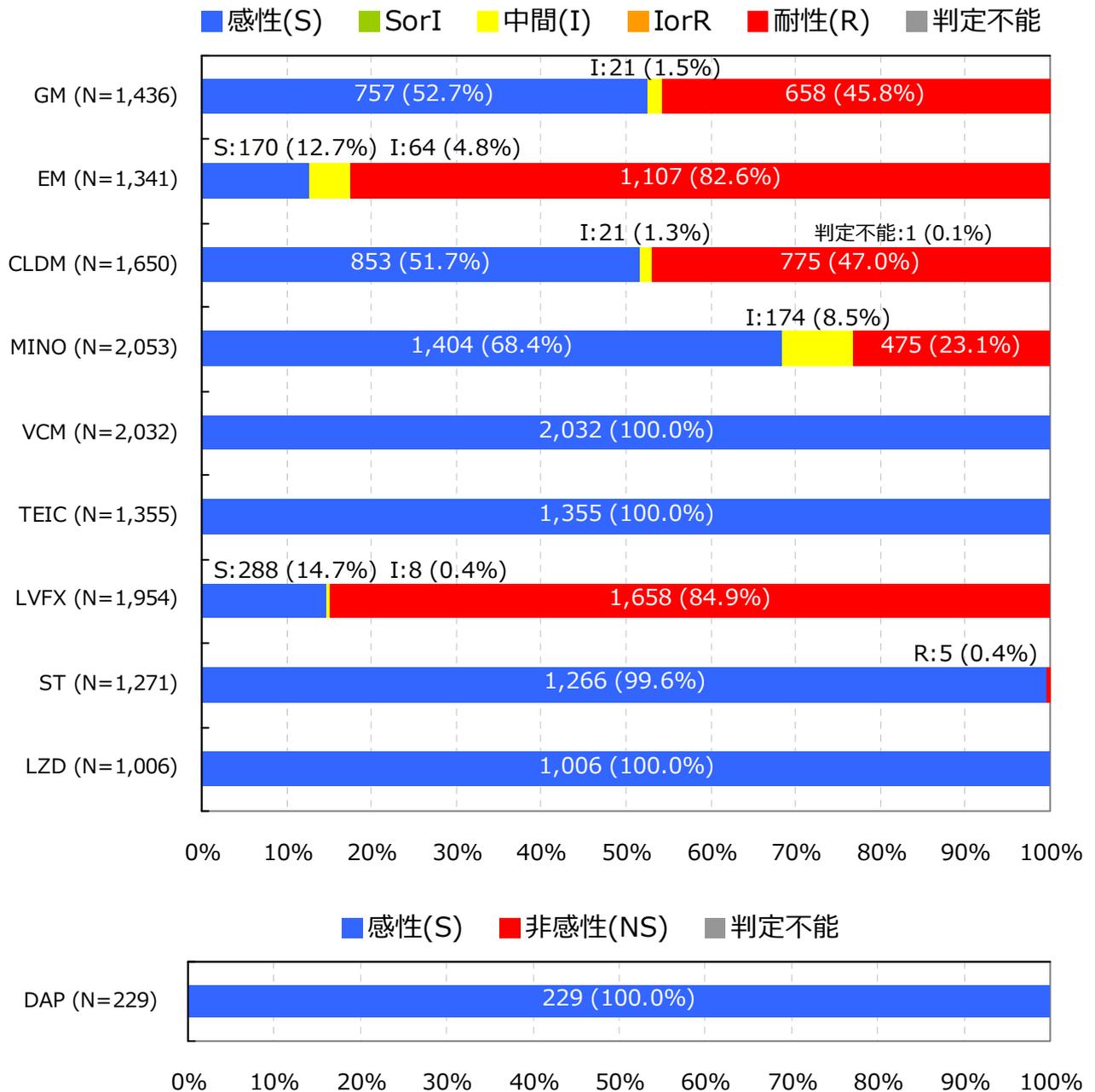
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1304, 1305, 1306と報告された菌、または菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208 (オキサリリン) および抗菌薬コード：1606 (セフォキシチン) の感受性結果「S」の菌 (一方が「S」で他方が未測定の場合を含む)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Staphylococcus aureus (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

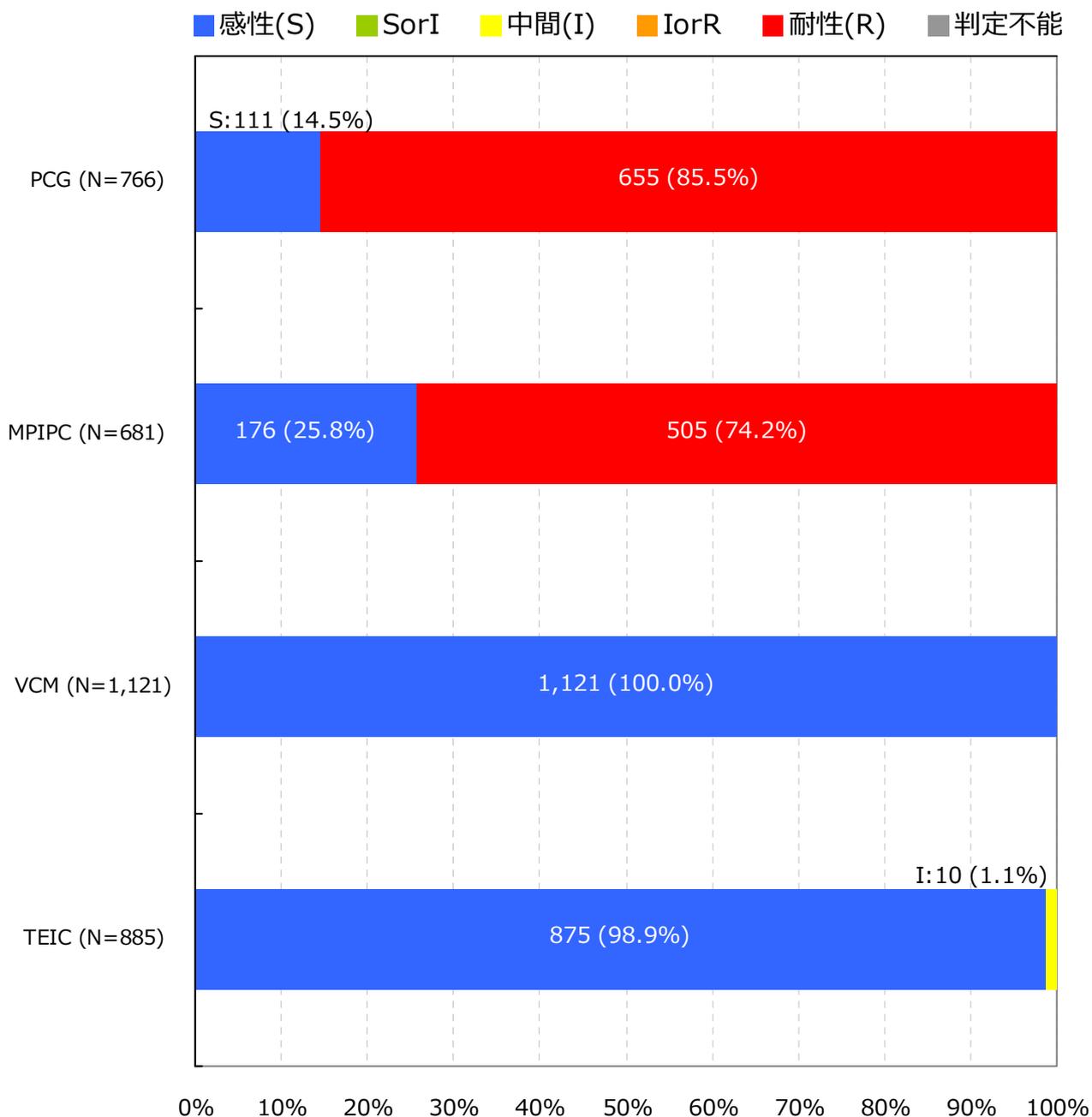
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1303と報告された菌、または菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208（オキサシリン）または抗菌薬コード：1606（セフォキシチン）の感受性結果「R」の菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

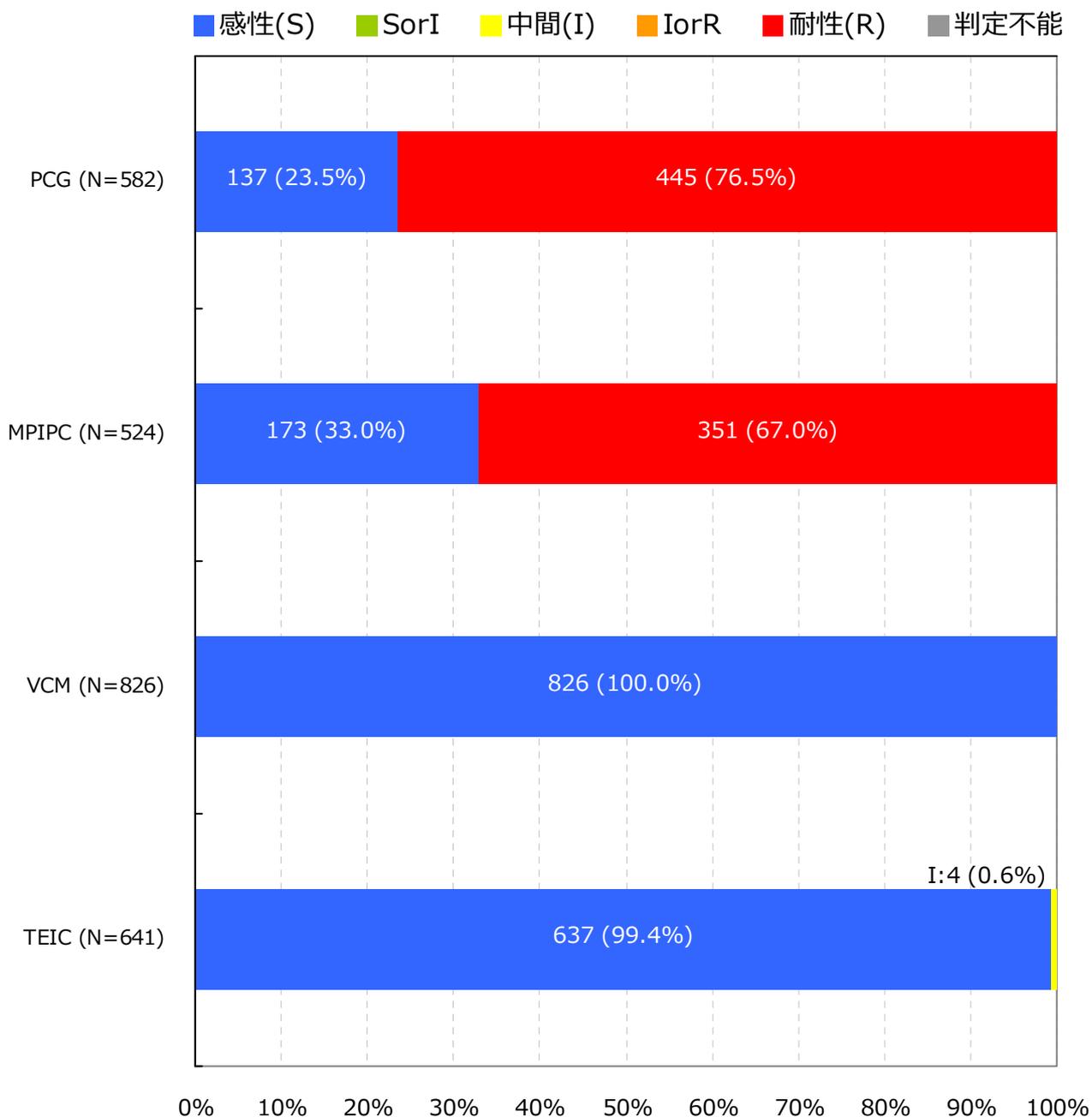
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

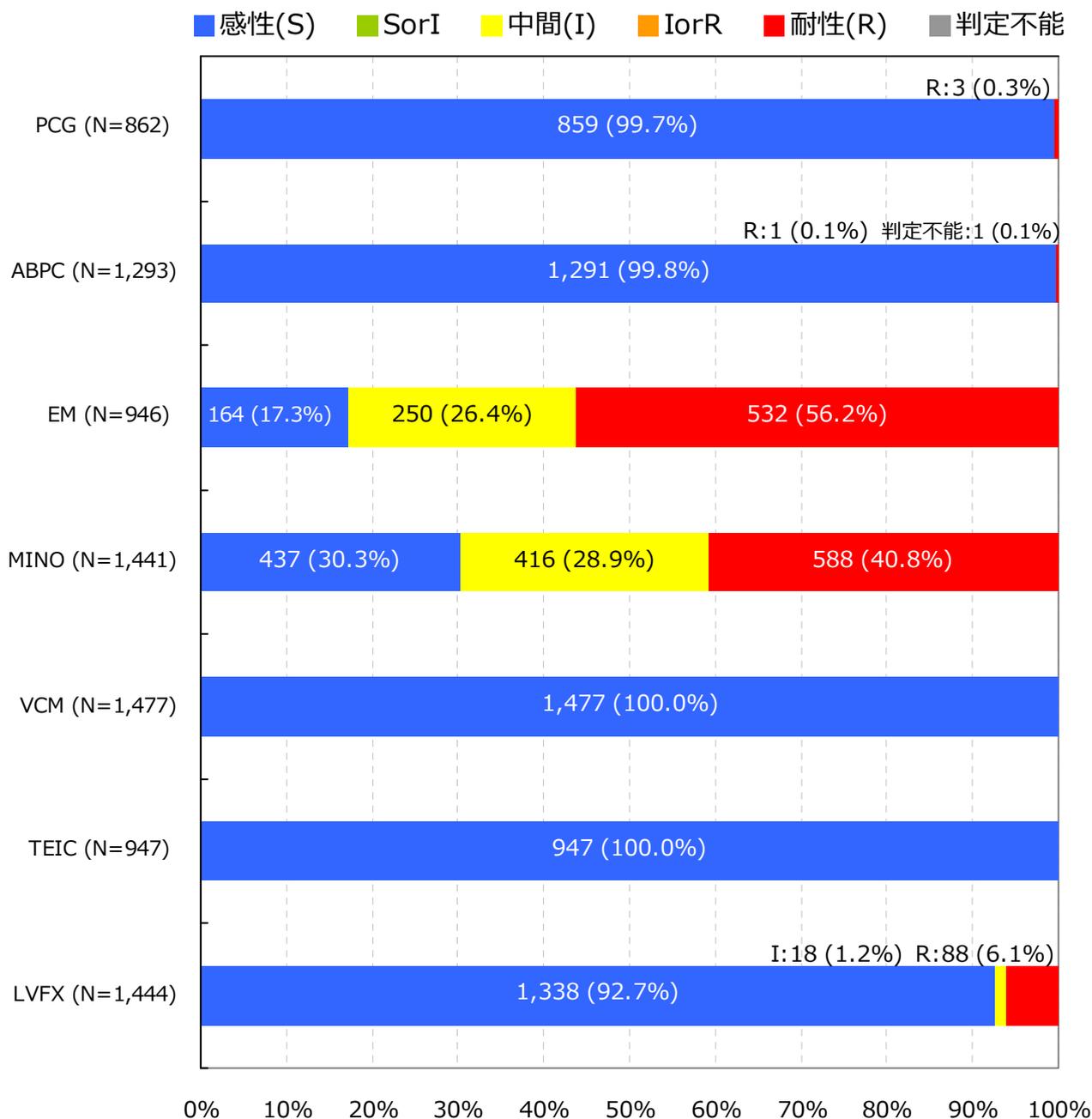
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

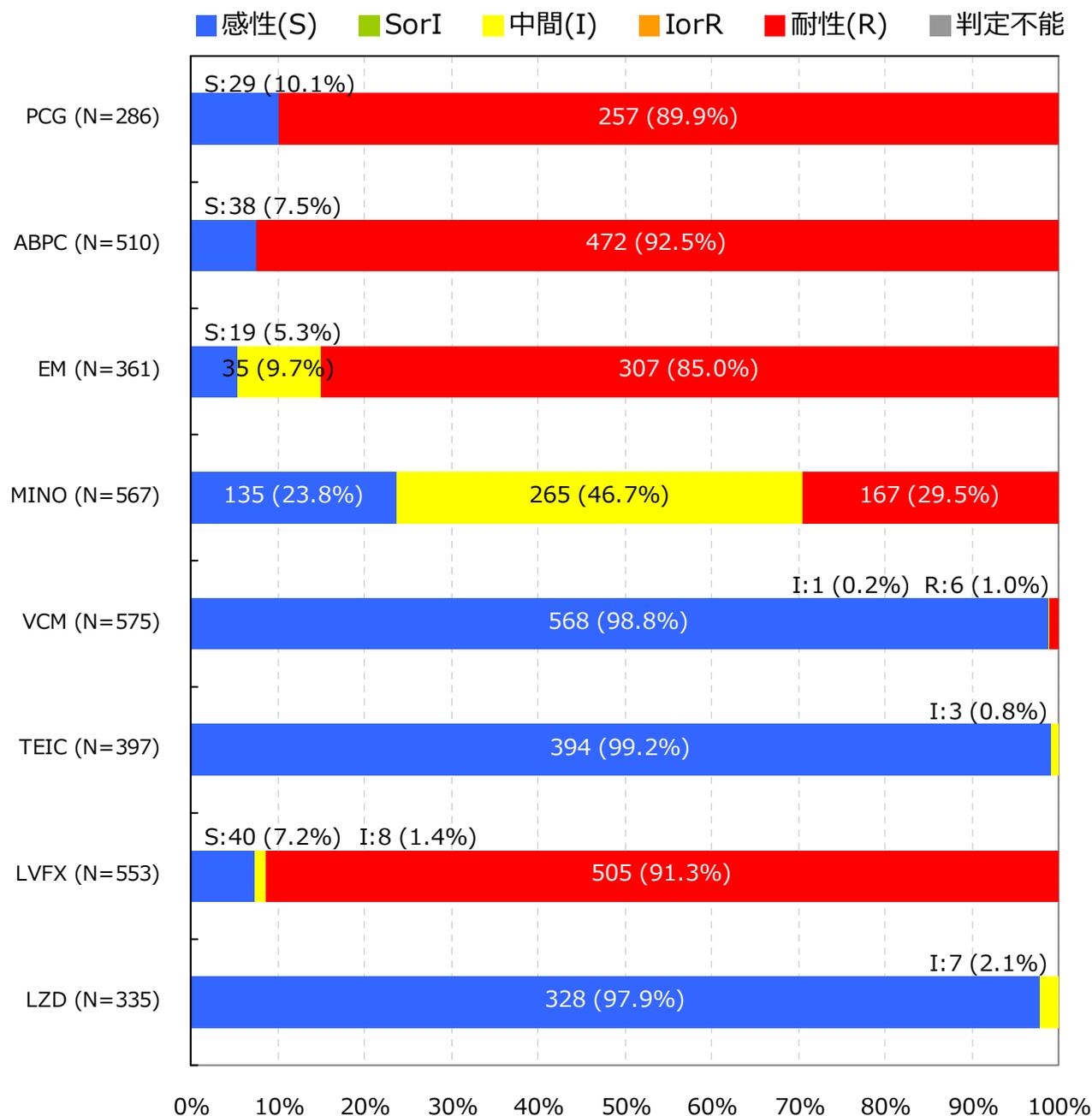
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

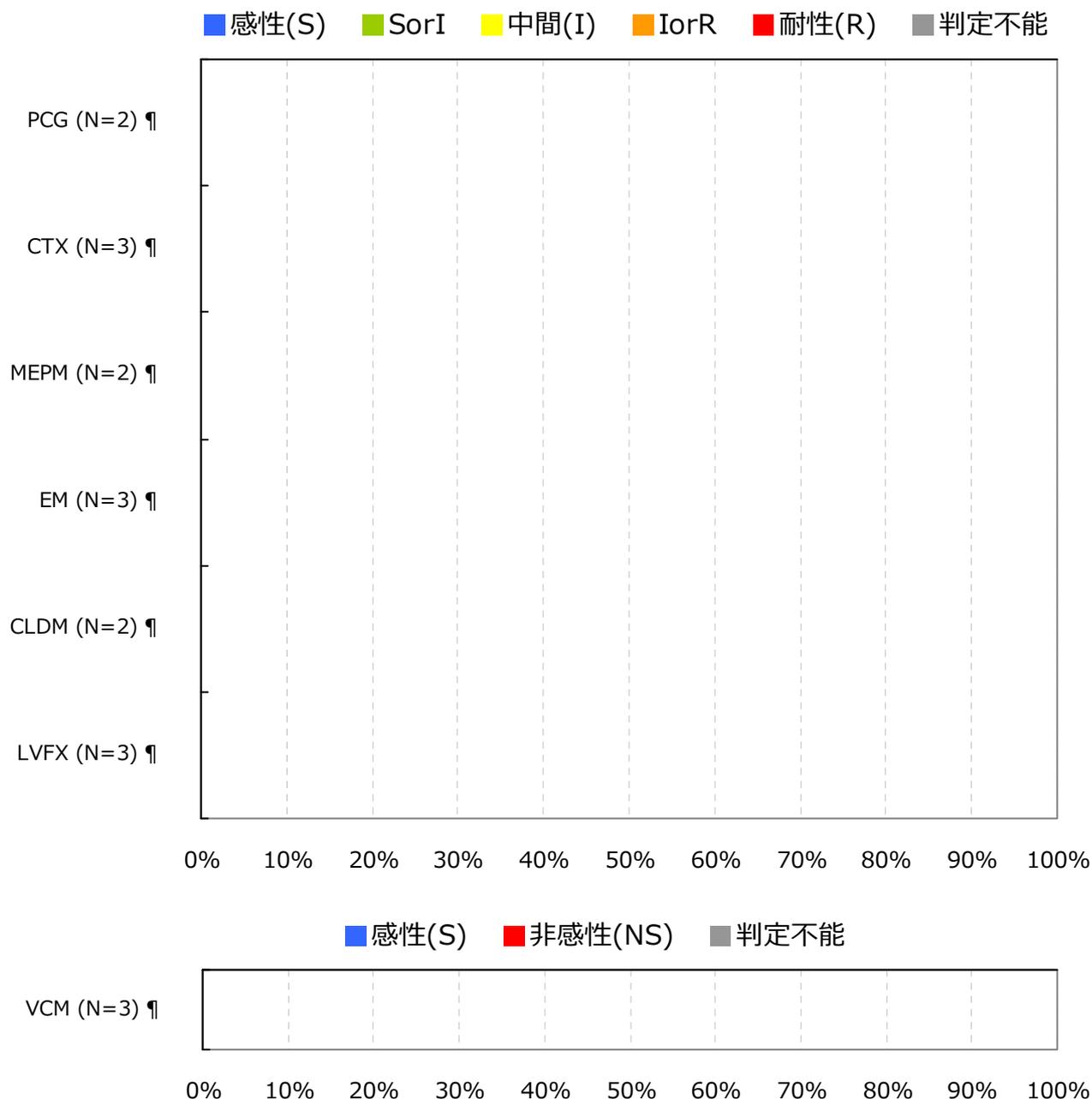
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1205, 1206と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

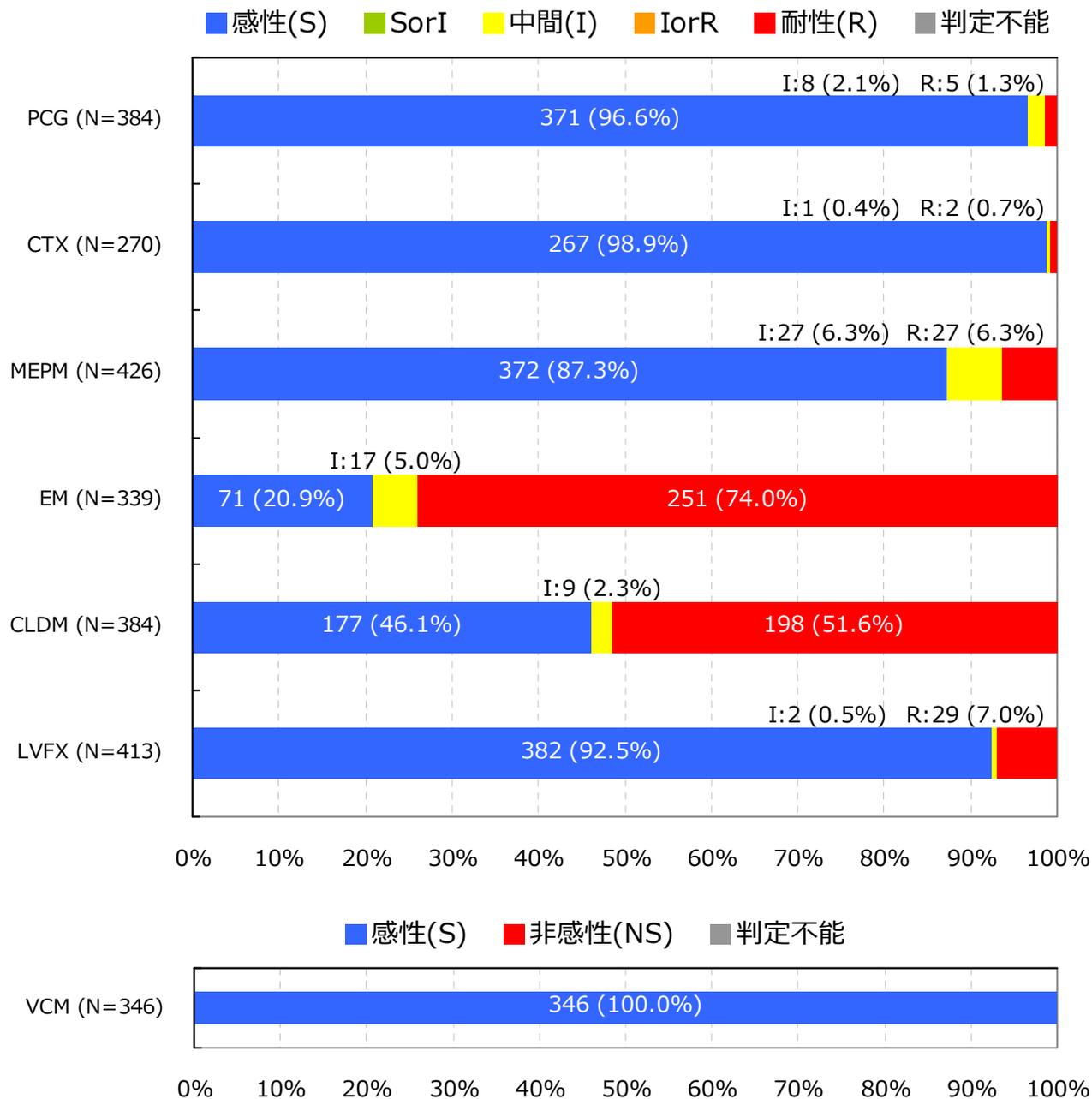
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1131と報告された菌

¶ 集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

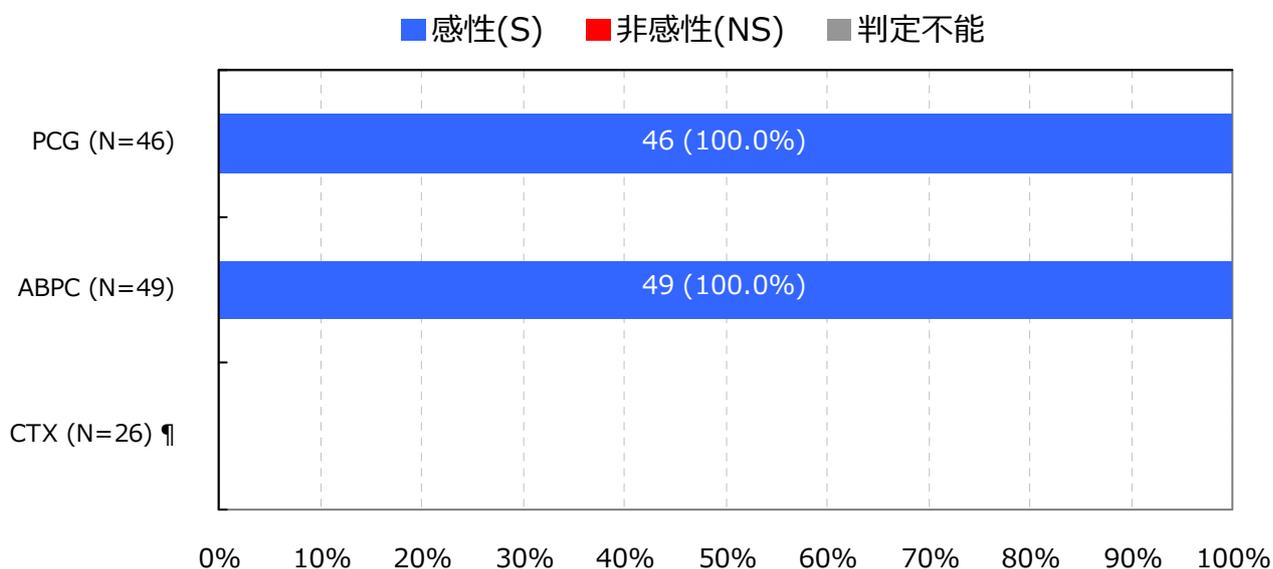
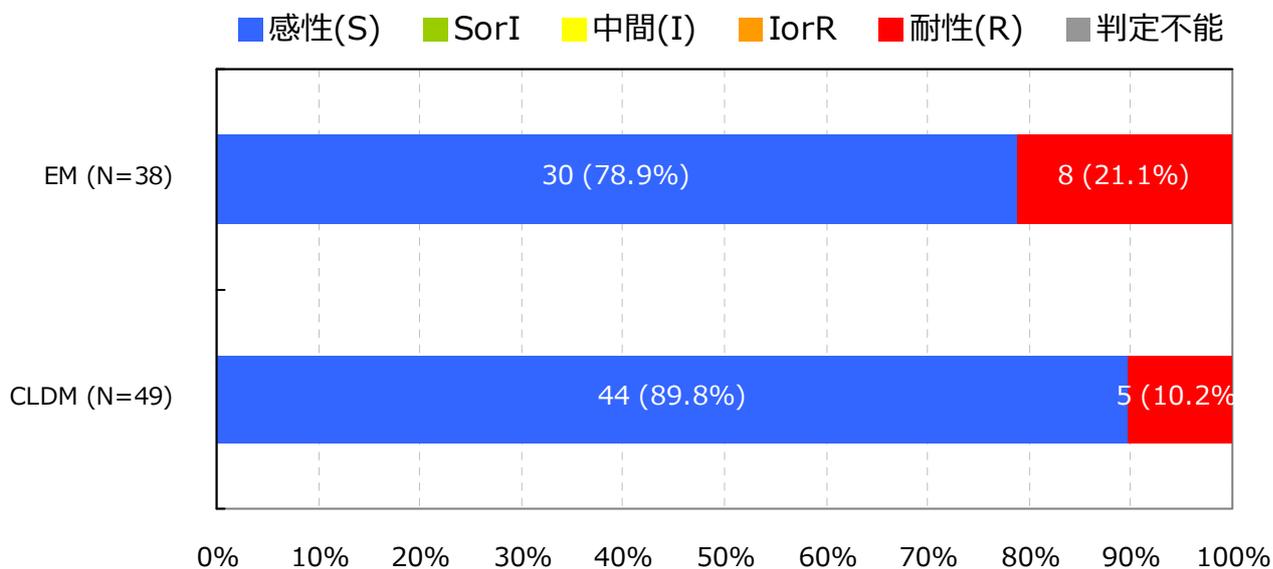
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

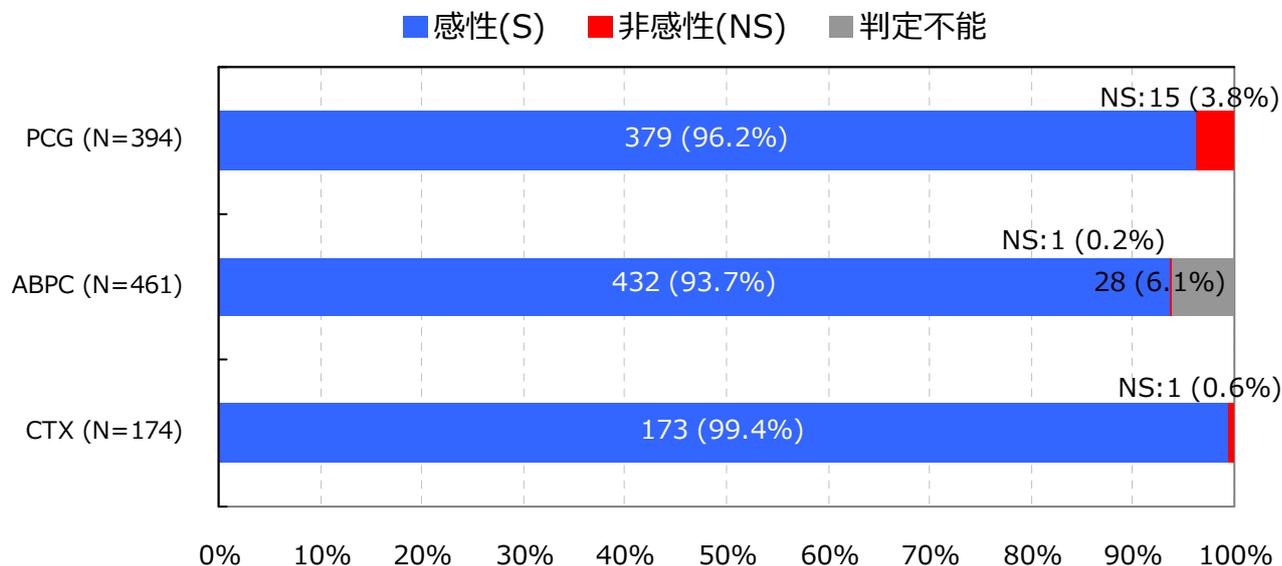
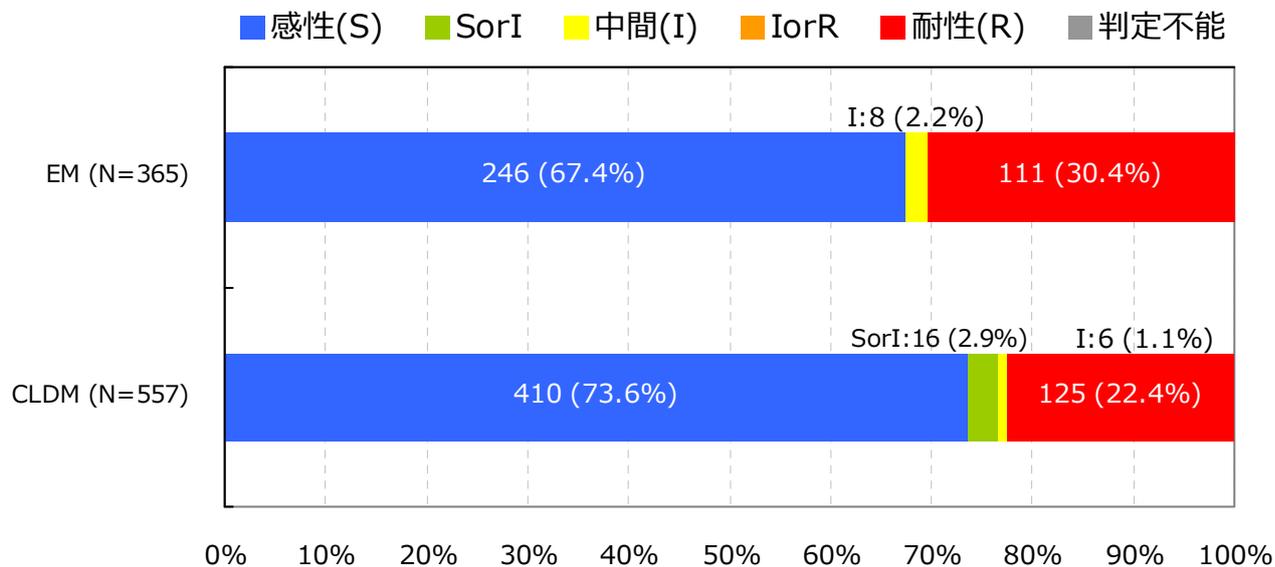
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌

¶ 集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

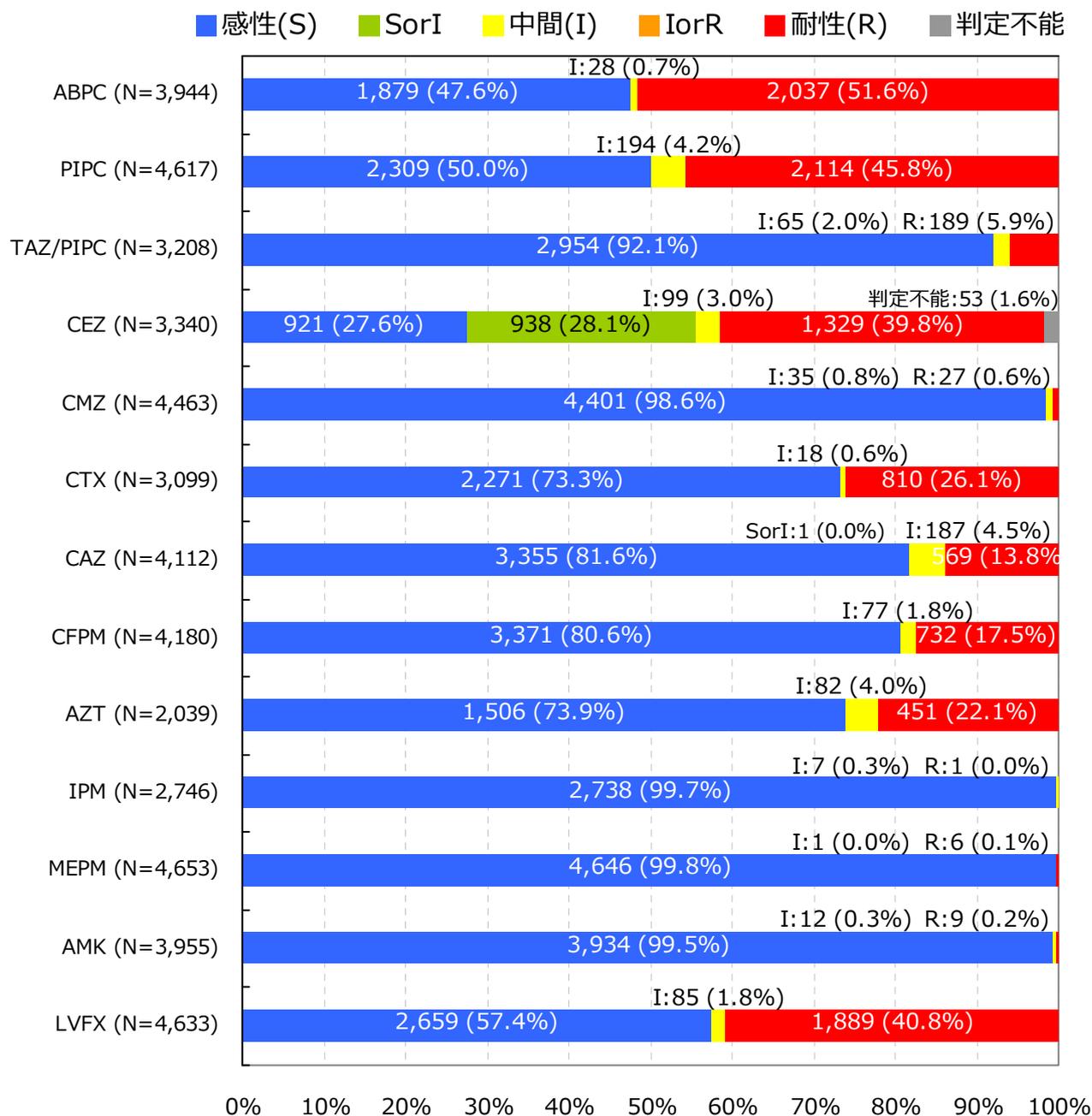
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1114と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

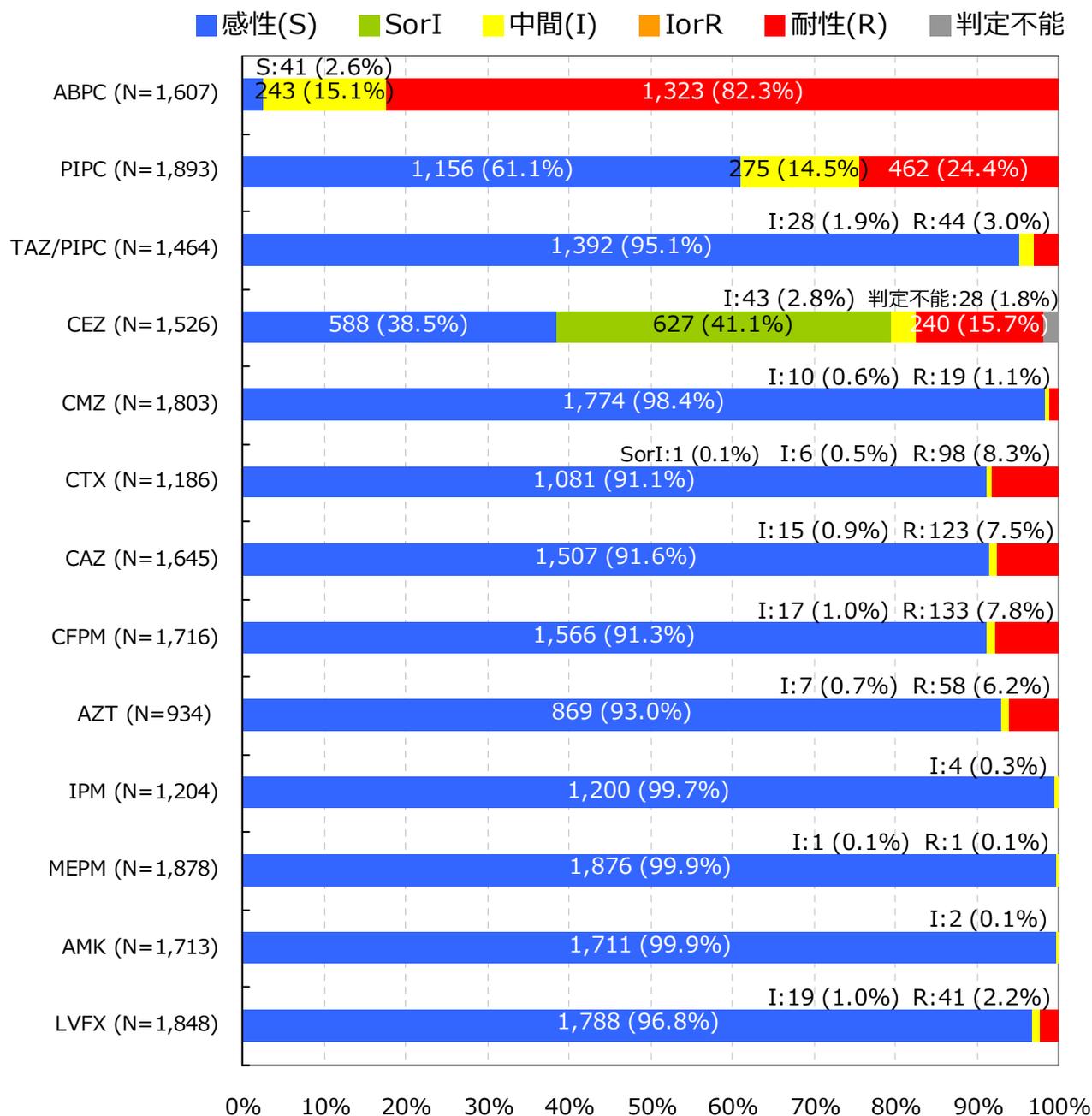
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

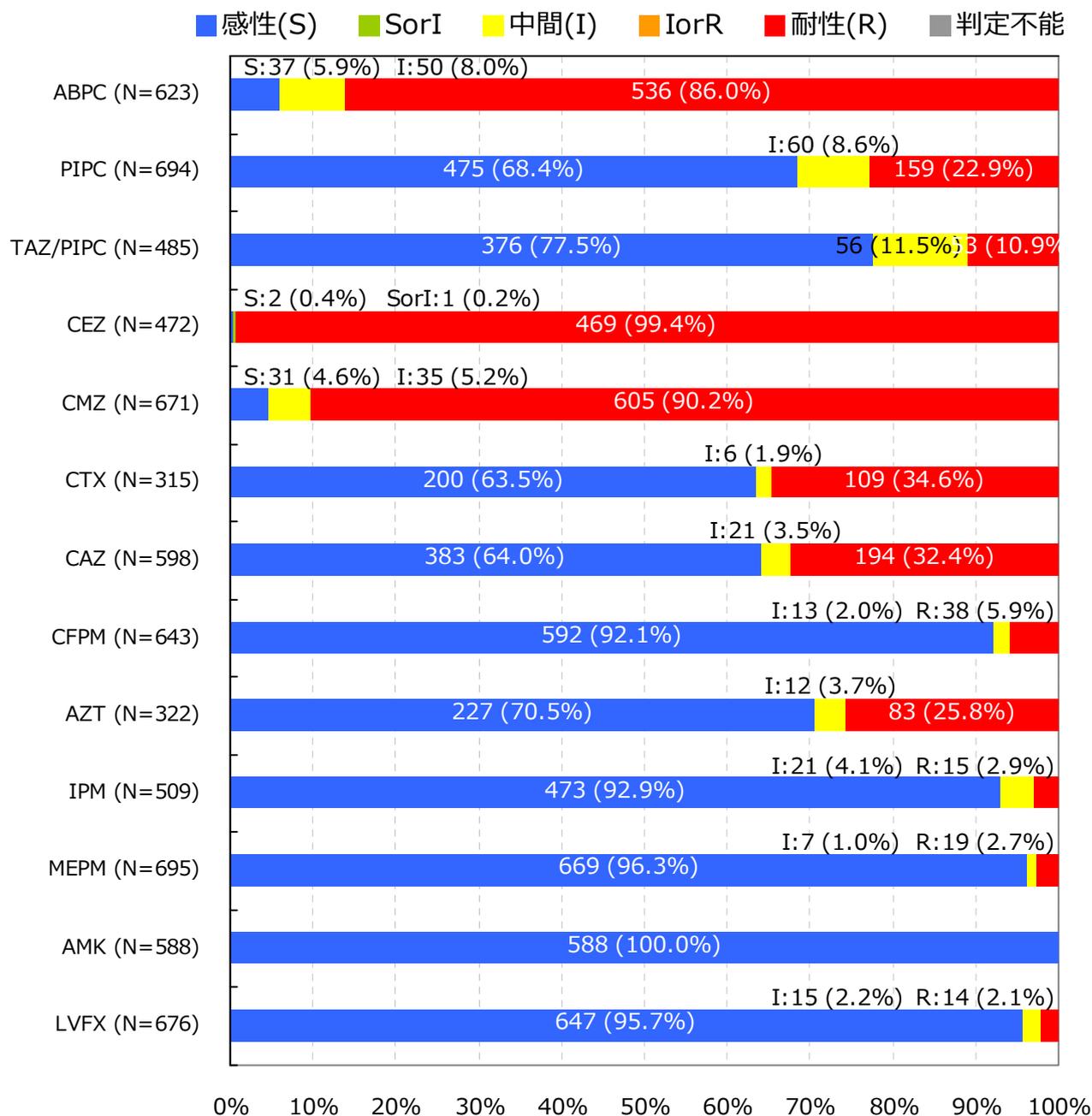
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2351と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

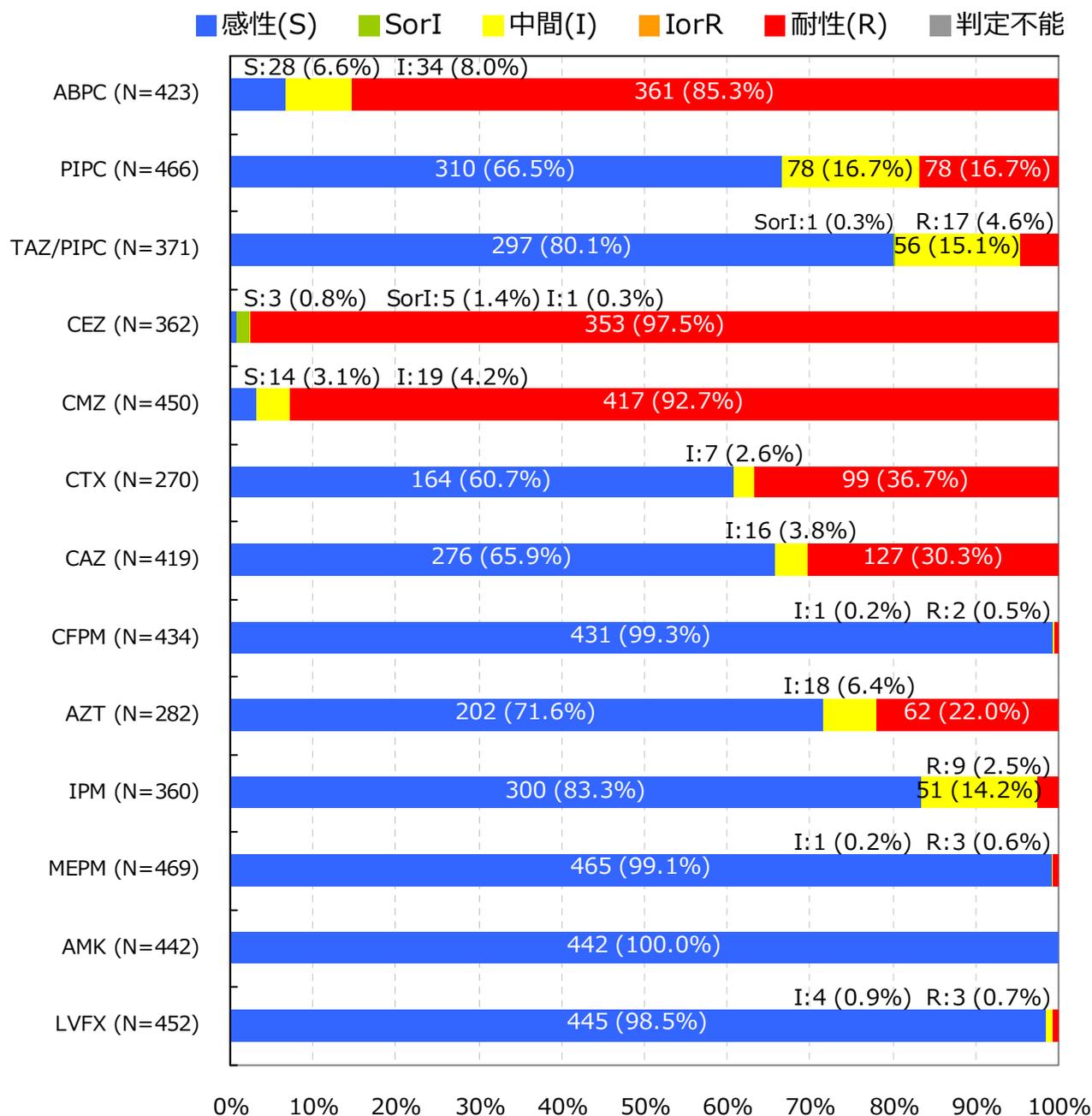
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2151と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

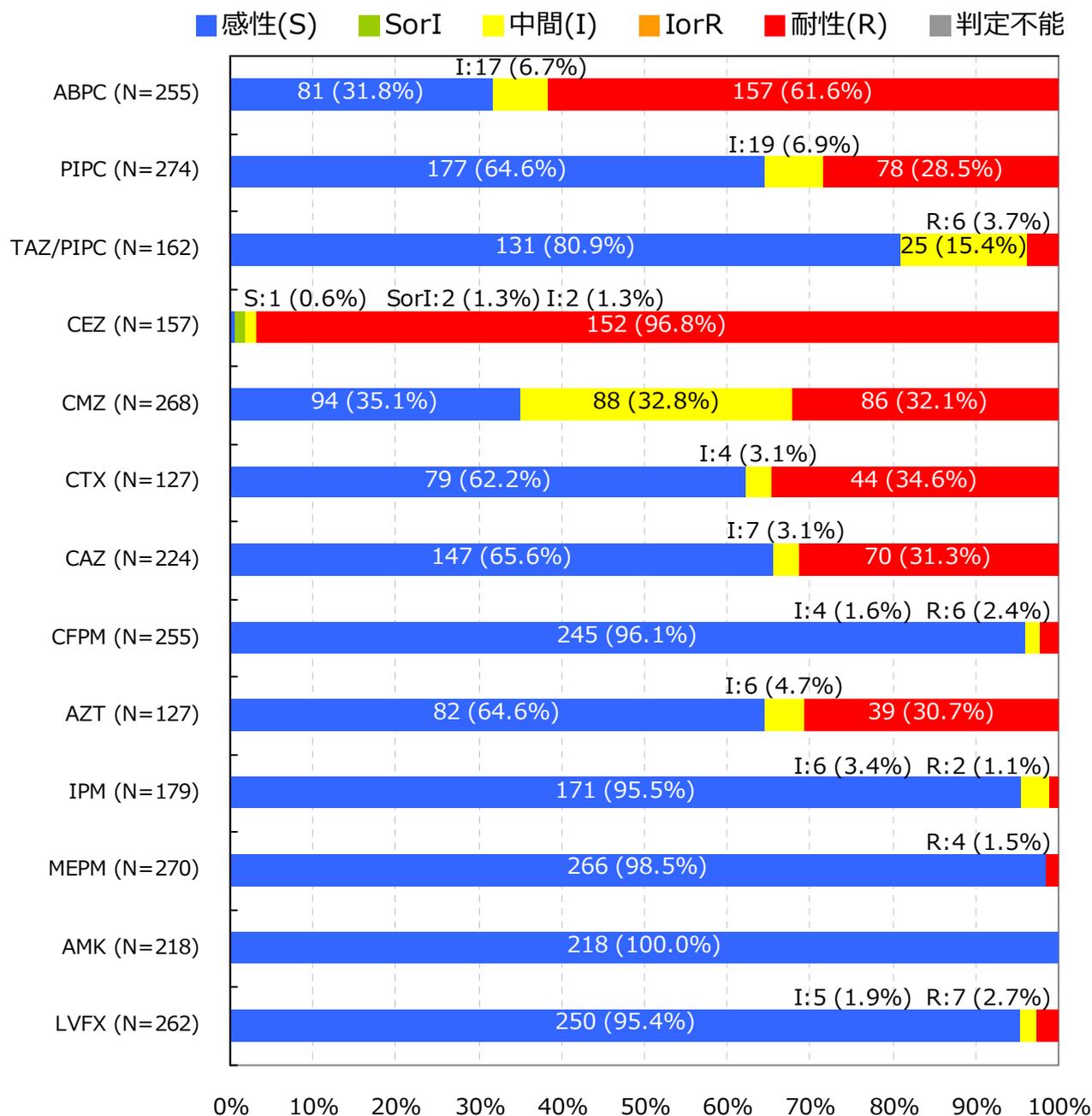
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2152と報告された菌 (旧名: *Enterobacter aerogenes*)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

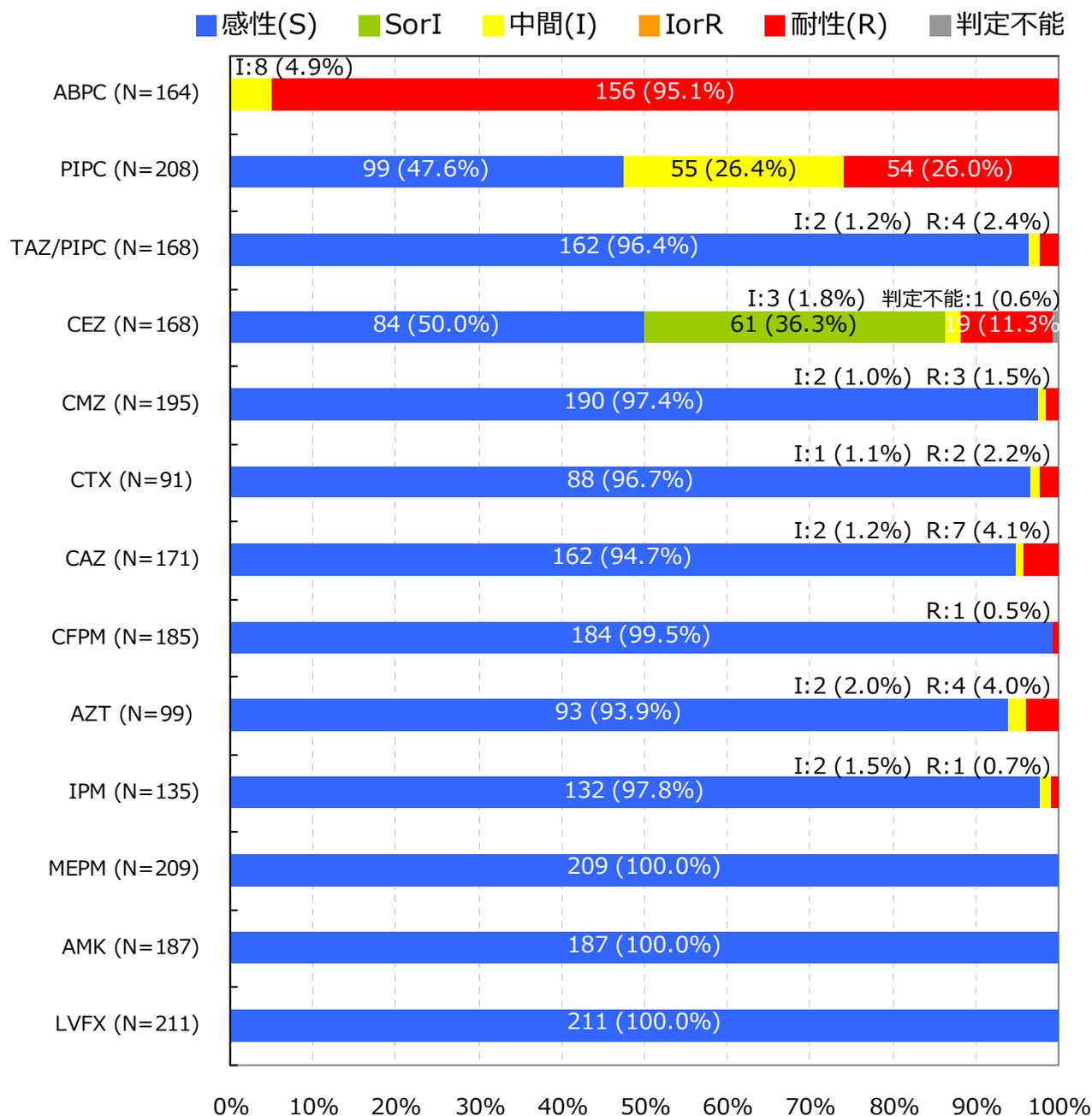
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

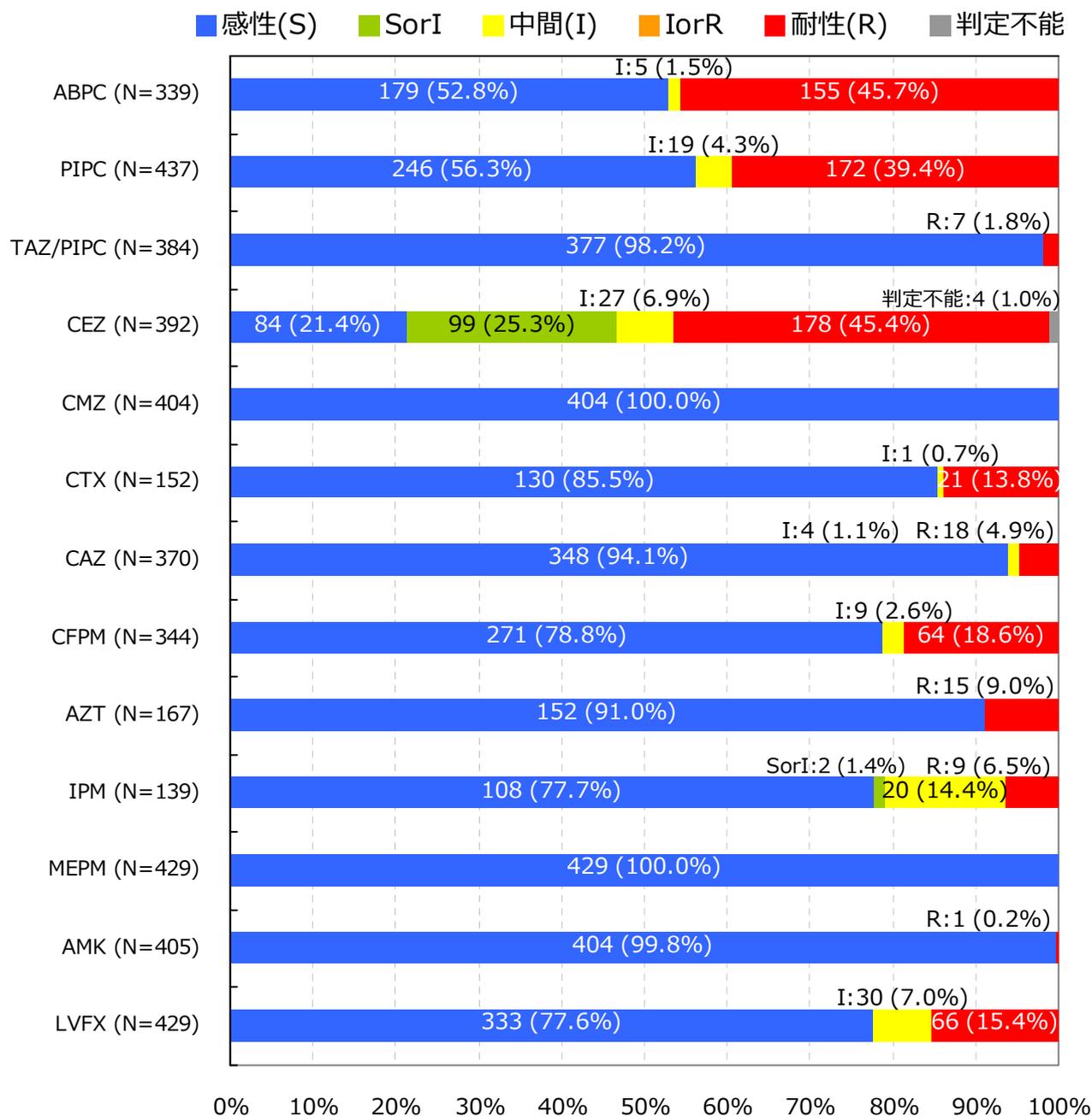
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

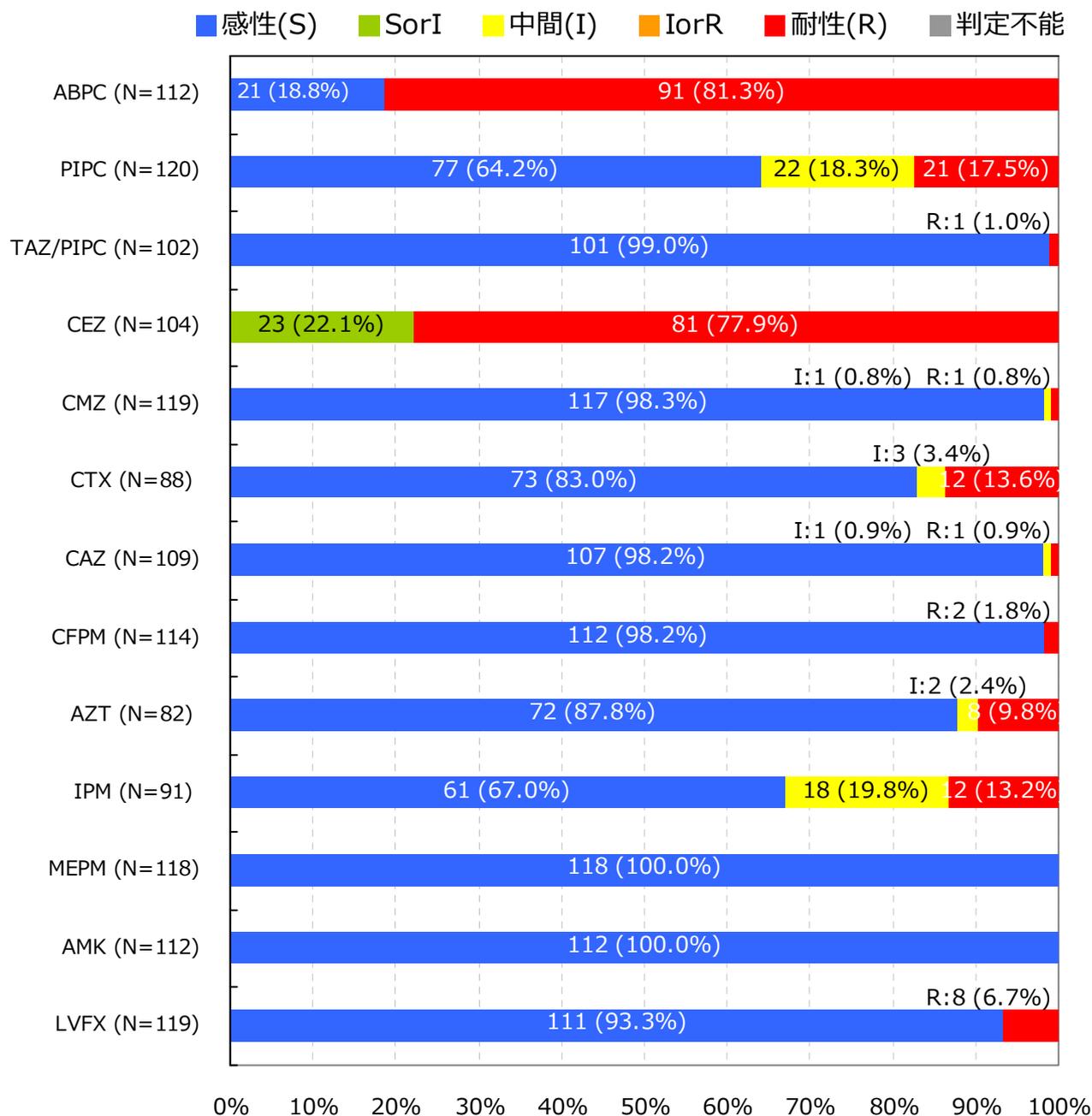
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

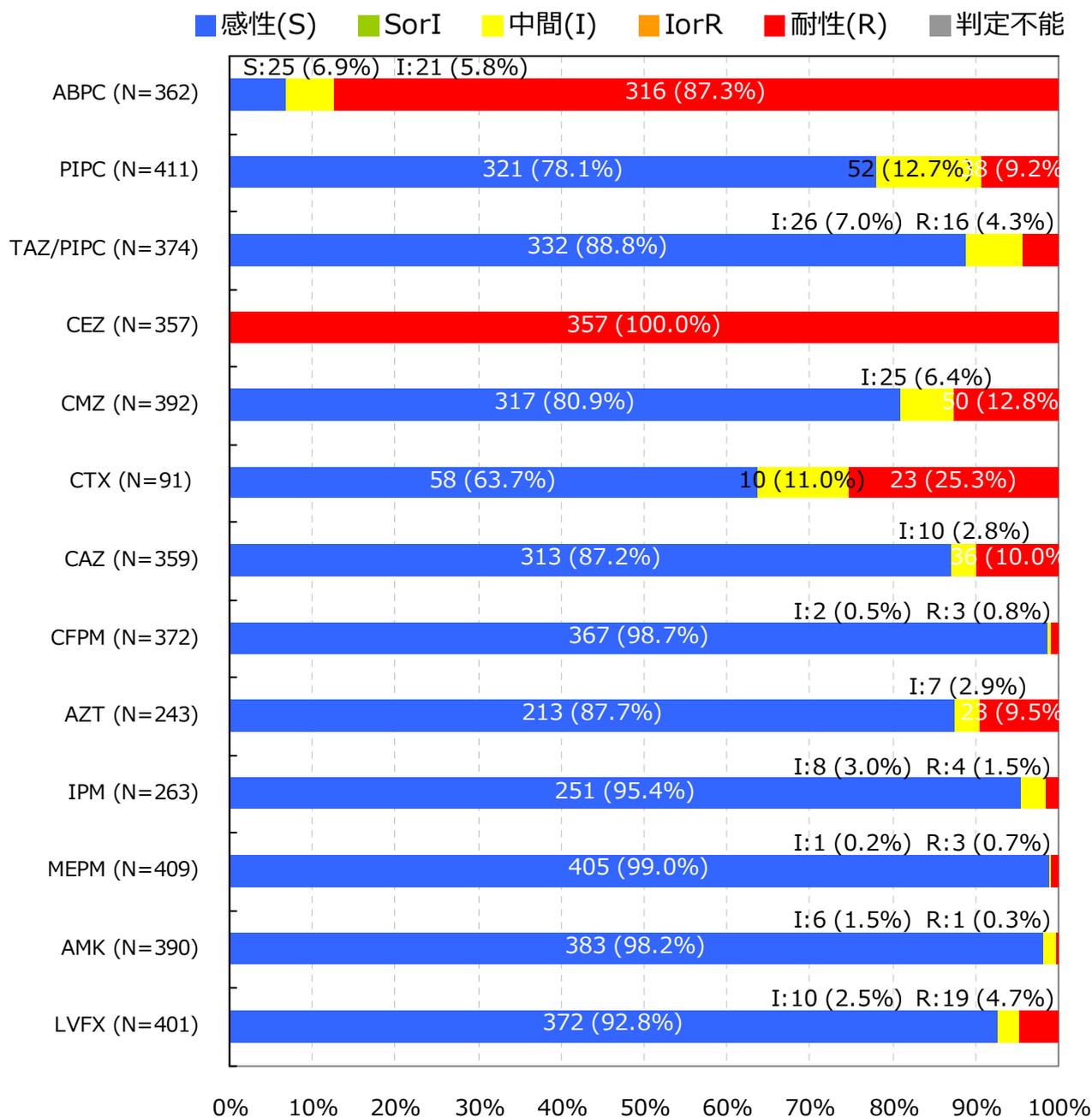
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2202と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

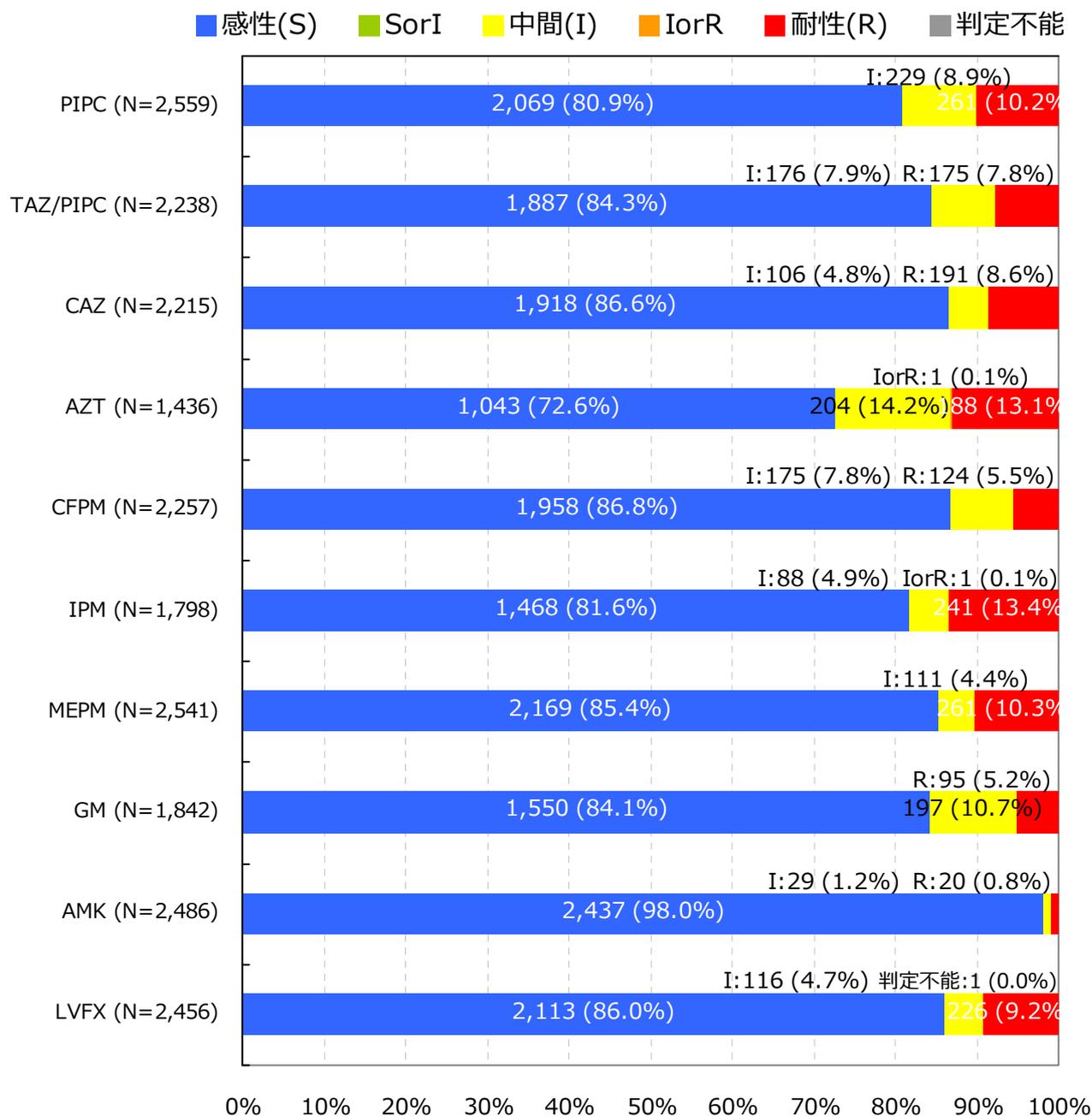
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

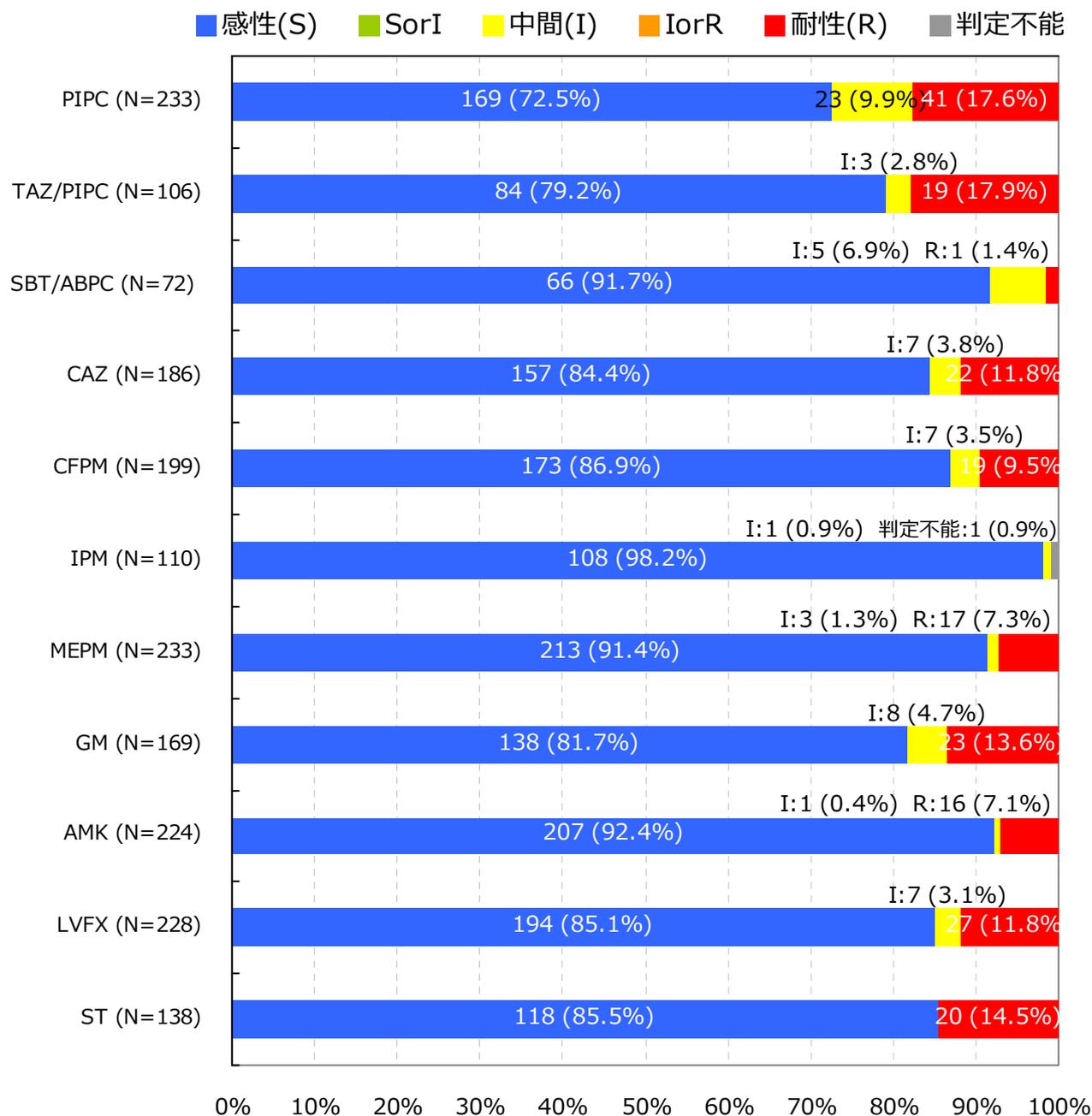
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

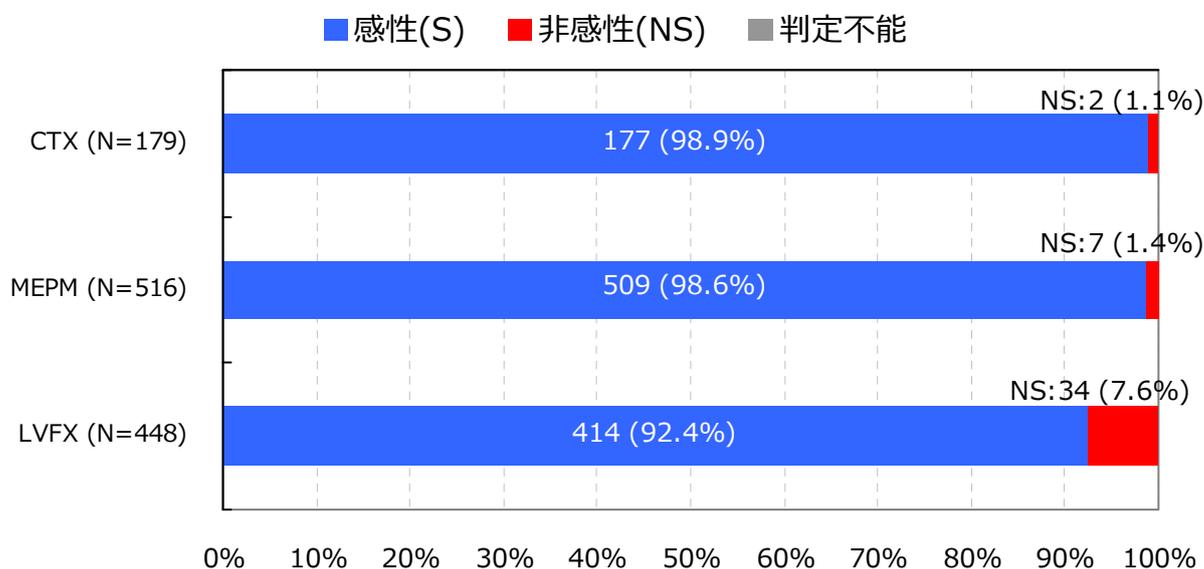
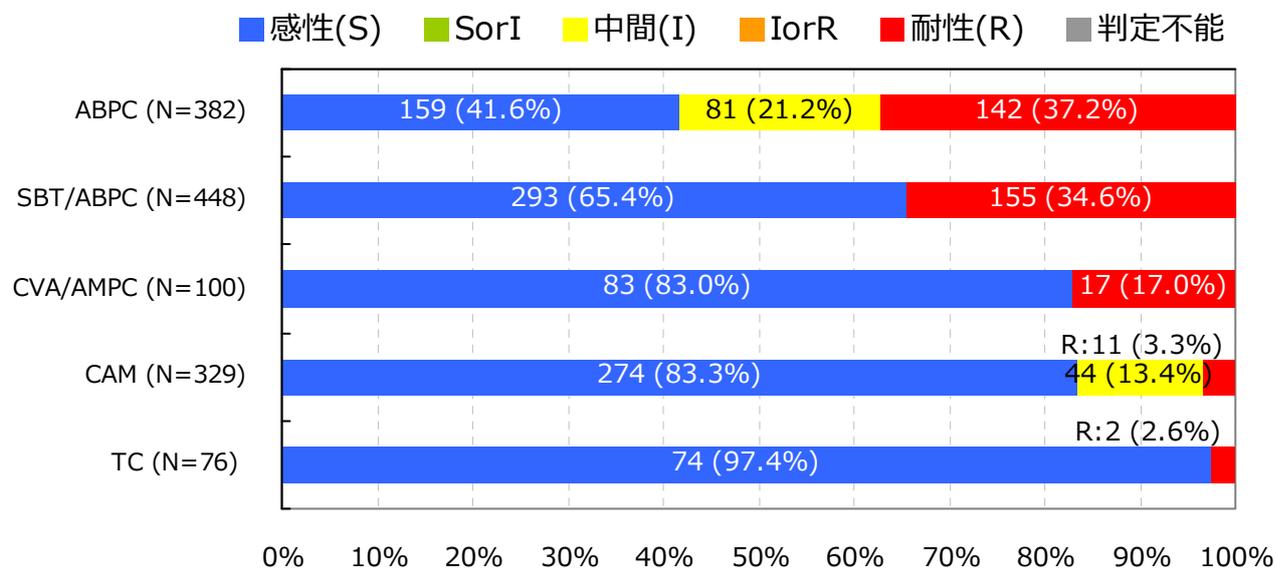
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 4400~4403と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

【巻末資料1 主要菌の菌名コード / 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

主要菌の菌名コード（薬剤感受性条件なし）

| 菌名                                | 菌名コード Ver.5.1       |
|-----------------------------------|---------------------|
| <i>Staphylococcus aureus</i>      | 1301,1303-1306      |
| <i>Staphylococcus epidermidis</i> | 1312                |
| <i>Streptococcus pneumoniae</i>   | 1131                |
| <i>Enterococcus faecalis</i>      | 1201,1202           |
| <i>Enterococcus faecium</i>       | 1205,1206           |
| <i>Escherichia coli</i>           | 2001-2007           |
| <i>Klebsiella pneumoniae</i>      | 2351                |
| <i>Enterobacter</i> spp.          | 2150-2156           |
| <i>Enterobacteriaceae</i>         | 2000-2691,3150-3151 |
| <i>Pseudomonas aeruginosa</i>     | 4001                |
| <i>Acinetobacter</i> spp.         | 4400-4403           |

「微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準」について

耐性菌の菌名は以下の通り

MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015年1月より集計開始）

\* : 原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† : 感染症発生動向調査の基準に準拠

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.2) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.2) を基に作成した。

微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準

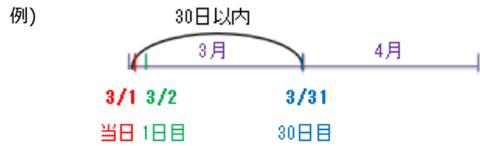
| 菌名   | 概要*  | 微量液体希釈法 (MIC 値)   | 菌名コード Ver.5.1                           |
|------|--|---|---|
| MRSA | MPIPC または CFX が "R" の <i>S. aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌   | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$  | 1301,1303                               |
| VRSA | VCM が微量液体希釈法で "R" の <i>S. aureus</i>   | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 1301,1303-1306                          |
| VRE  | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp.<br>・ VCM が微量液体希釈法で耐性 +<br>・ 選択培地で VRE と確認された菌 (注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く                                       | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †   | 1201,1202,1205,1206,1209,1210,1213-1217 |
| PRSP | PCG が微量液体希釈法で耐性 + の <i>S. pneumoniae</i>   | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/mL}$ †  | 1131                                    |
| MDRP | 下記全てに該当する <i>P. aeruginosa</i><br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 +<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 +<br>3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, CPFY の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †, MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ †<br>3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ , OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , CPFY $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4001                                    |

| 菌名                 | 概要*   | 微量液体希釈法 (MIC 値)  | 菌名コード Ver.5.1        |
|--------------------|---|--|----------------------|
| MDRA               | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp.<br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が "R"<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 +<br>3. フルオロキノロン系 (LVFX, CPFY の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †, MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ †<br>3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , CPFY $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4400-4403            |
| CRE                | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科<br>1. MEPM が耐性 +<br>2. IPM が耐性 +, かつ CMZ が "R"   | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ †<br>2. IPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ † かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g/mL}$   | 2000-2691, 3150-3151 |
| カルバペネム耐性緑膿菌        | IPM または MEPM が耐性 + の <i>P. aeruginosa</i>   | IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †  | 4001                 |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌 | CTX または CTRX または CAZ が "R" の <i>K. pneumoniae</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CTRX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 2351                 |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌  | CTX または CTRX または CAZ が "R" の <i>E. coli</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CTRX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 2001-2007            |
| フルオロキノロン耐性大腸菌      | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, CPFY の何れか) が "R" の <i>E. coli</i>  | NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ , OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , CPFY $\geq 4\mu\text{g/mL}$                 | 2001-2007            |

## 【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

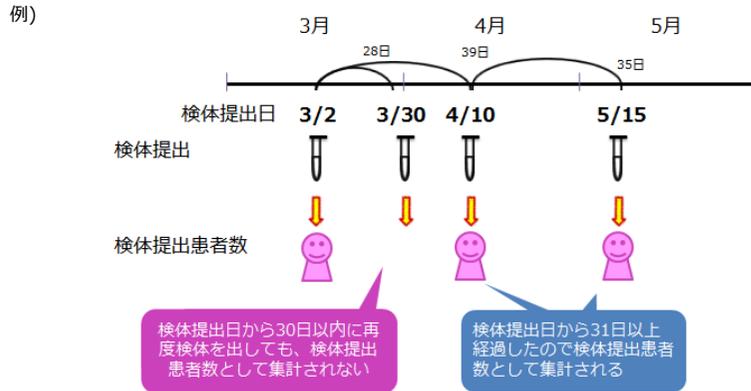
### 1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を1日目とする。検体提出日が3月1日とすると、1日目が3月2日、30日目が3月31日となる。



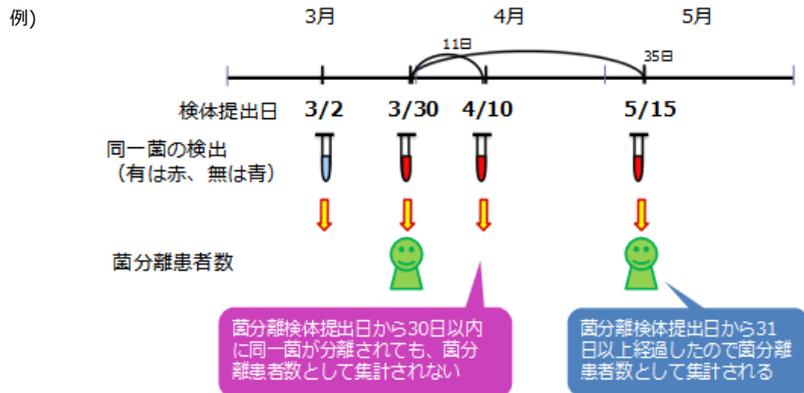
### 2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30日以内の同一患者からの複数の検体提出は1件とする。



### 3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は1件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



### 4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

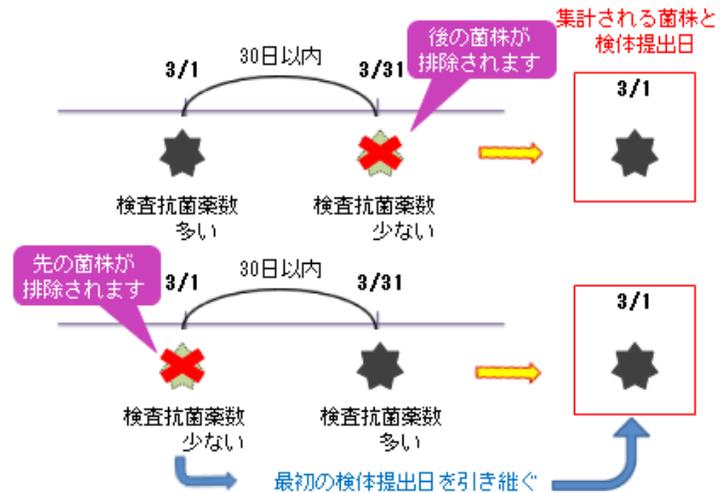
30日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に1つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC値に4倍以上の違いがある  
ただし、 $MIC > 2$  は  $MIC \geq 4$  と考え、判定時は  $MIC = 4$  として扱う  
また、 $MIC < 16$  は  $MIC \leq 16$  と考え、判定時は  $MIC = 16$  として扱う
- ② SIR判定では「SとR」の組み合わせ
- ③ +/-判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が5未満

### 5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30日以内の)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。

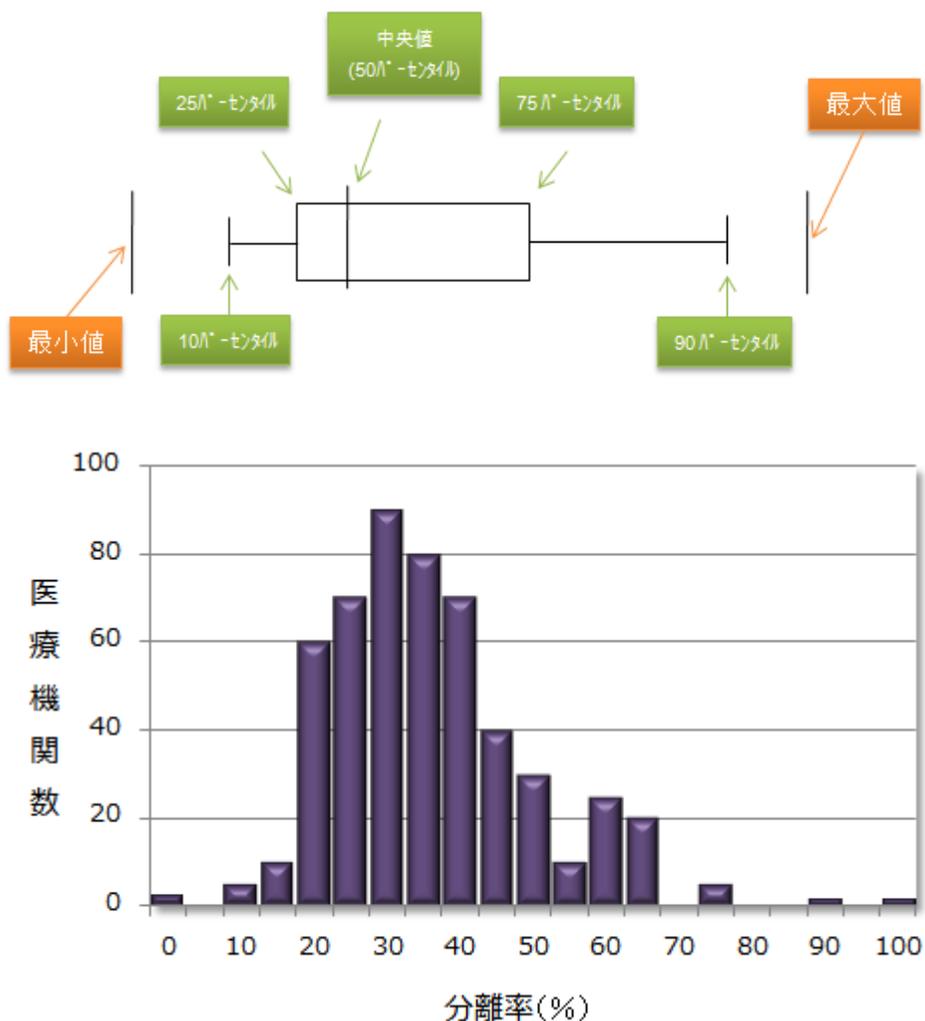
例)



## 【巻末資料 3 箱ひげ図について】

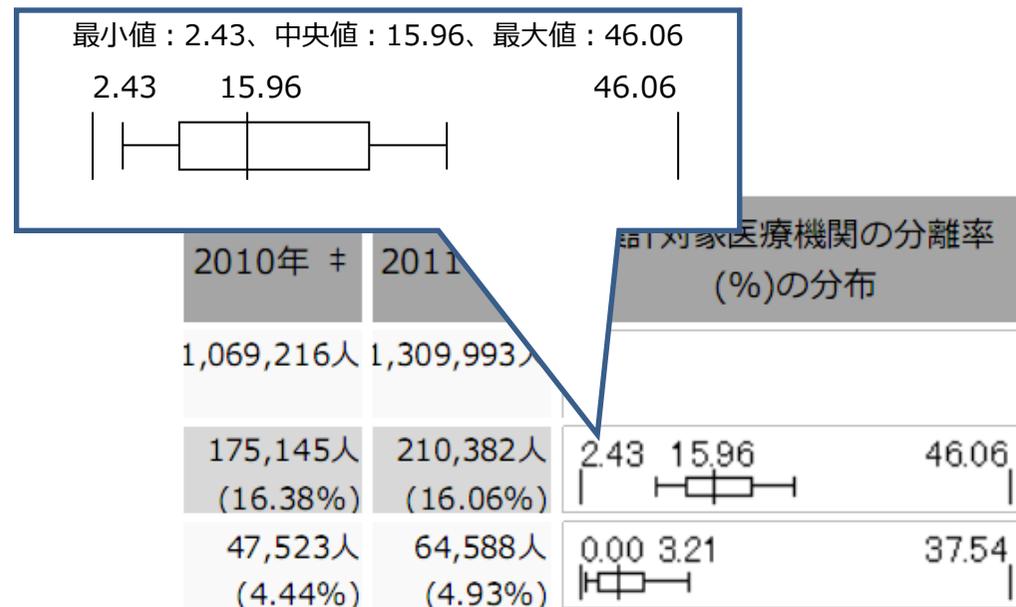
### 1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



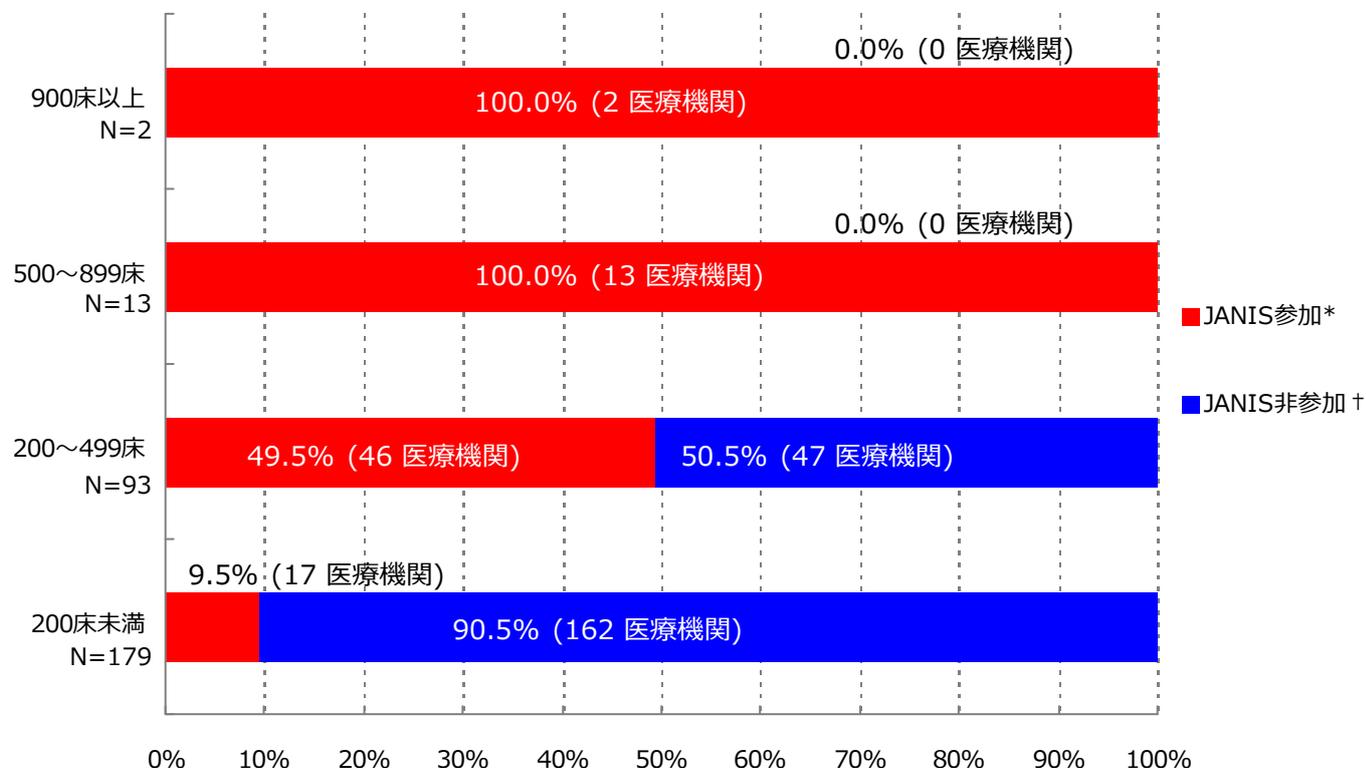
※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したものの。例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

### 2. 公開情報の箱ひげ図





### 1. 集計対象医療機関数(78医療機関)



\*JANIS参加 = 2019年1～3月 集計対象医療機関数

†JANIS非参加 = (2018年 都道府県別医療機関数 †) - (2019年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数      | 2018年 都道府県別医療機関数 † | 2019年1月～3月 集計対象医療機関数<br>(都道府県別医療機関数に占める割合) |
|----------|--------------------|--|
| 900床以上   | 2                  | 2 (100.0%)                                 |
| 500～899床 | 13                 | 13 (100.0%)                                |
| 200～499床 | 93                 | 46 (49.5%)                                 |
| 200床未満   | 179                | 17 (9.5%)                                  |
| 病床数不明    | -                  | 0 (-)                                      |
| 合計       | 287                | 78 (27.2%)                                 |

† 2018年医療施設(動態)調査を参照した

(千葉県)

公開情報 2019年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門 【入院検体】

## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数    | 陽性検体数<br>(分離菌数)    |
|--------|-----------|--------|--------------------|
| 呼吸器系検体 | 78        | 25,030 | 16,632<br>(37,645) |
| 尿検体    | 78        | 13,505 | 7,235<br>(10,965)  |
| 便検体    | 76        | 5,527  | 2,666<br>(4,850)   |
| 血液検体   | 75        | 32,718 | 4,264<br>(5,187)   |
| 髄液検体   | 51        | 922    | 41<br>(47)         |
| その他    | 77        | 15,810 | 6,835<br>(12,218)  |
| 合計     | 78        | 93,512 | 37,673<br>(70,912) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

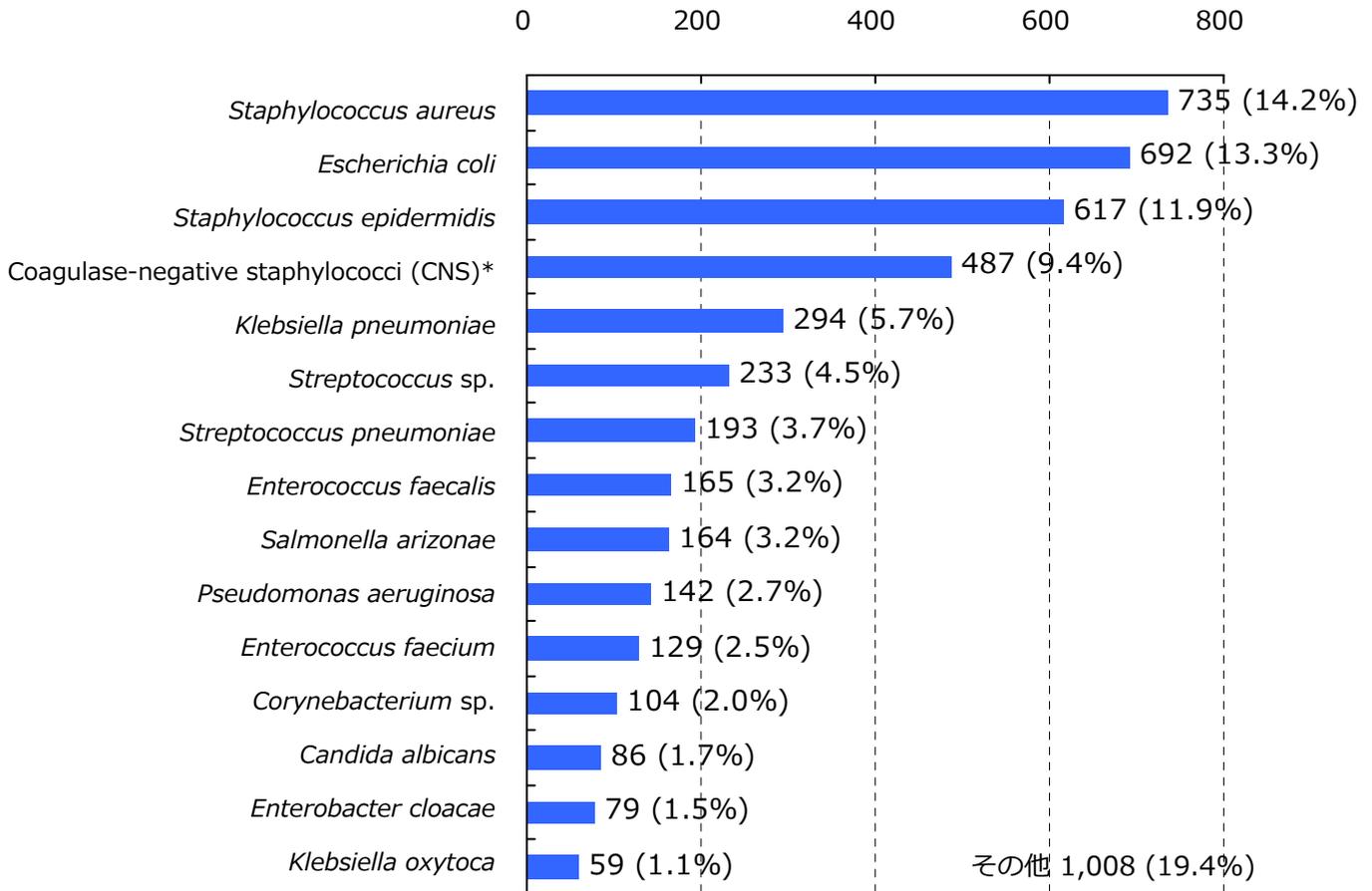
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=5,187)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

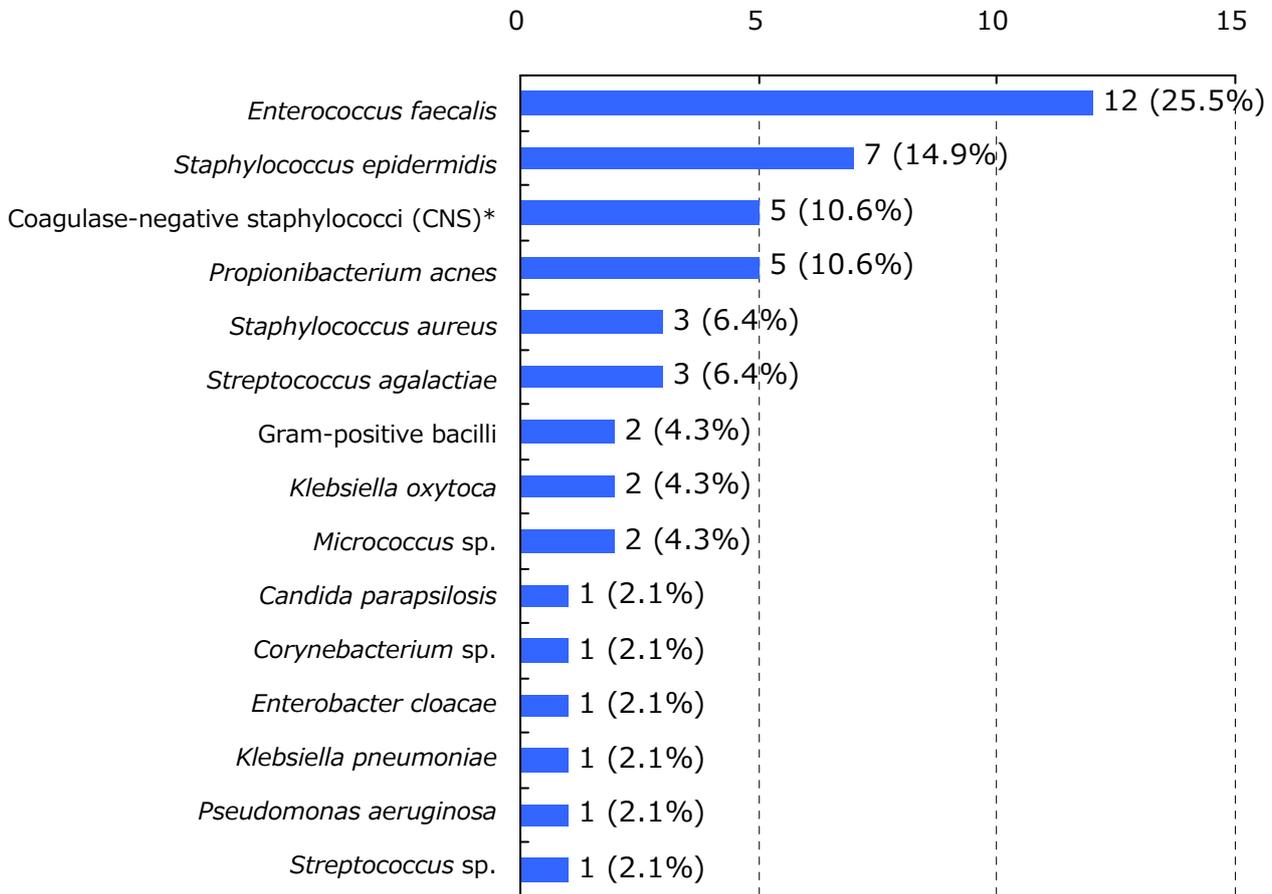
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=47)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

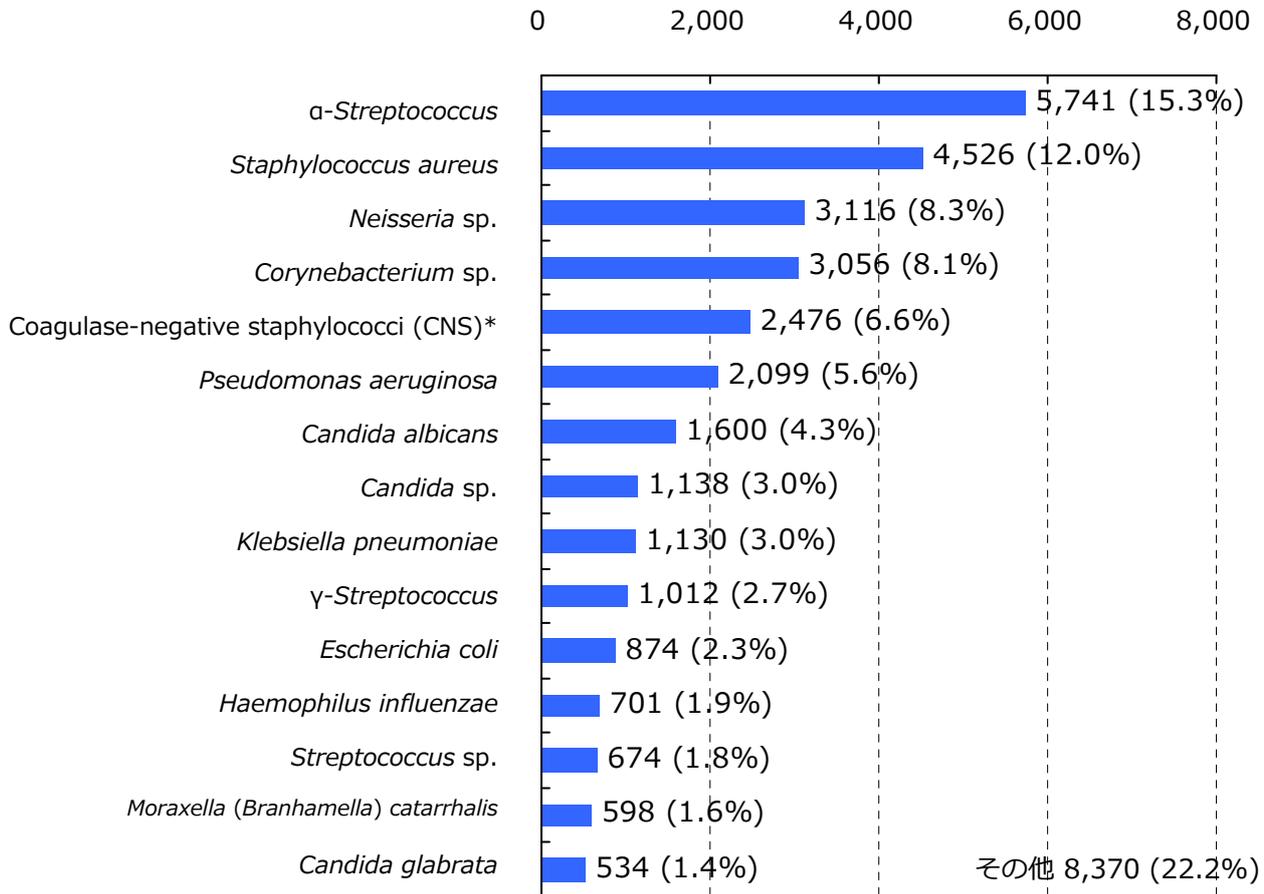
(千葉県)

公開情報 2019年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門 【入院検体】

### 3. 検査材料別分離菌数割合

呼吸器系検体分離菌 (N=37,645)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・常在菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：喀出痰(検査材料コード101)、気管内採痰(同102)、気管支洗浄液(同103)、咽頭粘液(同104)、鼻腔内(同105)、口腔内(同106)、生検材料(肺)(同107)、その他(呼吸器)(同109)、胸水(同404)

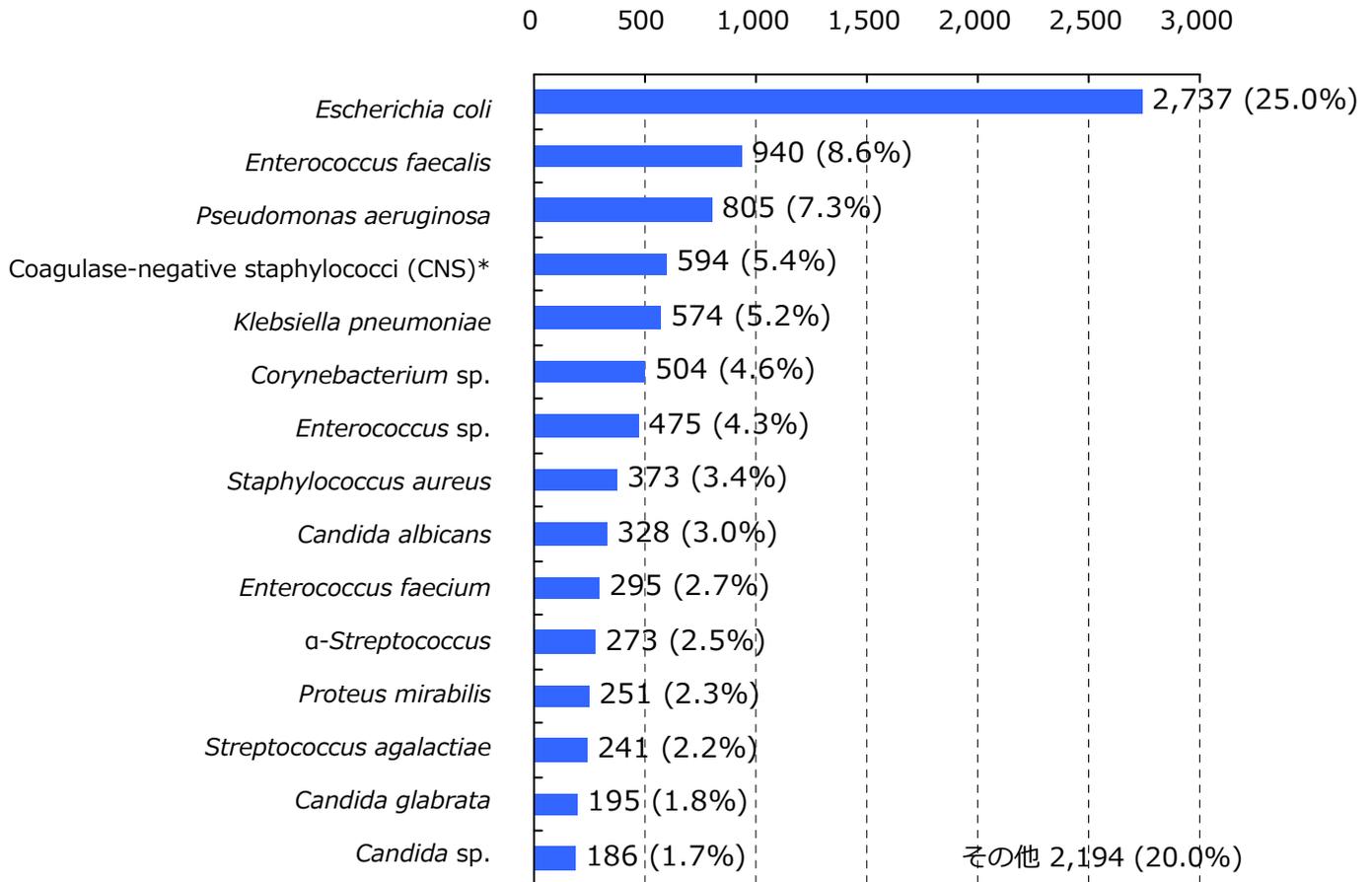
呼吸器系検体分離菌数割合 = (対象菌の呼吸器系検体分離菌数) ÷ (呼吸器系検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 尿検体分離菌 (N=10,965)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：自然排尿(検査材料コード201)、採尿カテーテル尿(同202)、留置カテーテル尿(同203)、カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能)(同206)

尿検体分離菌数割合 = (対象菌の尿検体分離菌数) ÷ (尿検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

## 4. 主要菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                           | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布          |
|---------------------------|------------------------|----------------------------------|
| 検体提出患者数(100床あたり)          | 32,129人<br>(116.1)※    |                                  |
| <i>S. aureus</i>          | 4,469人<br>(13.91%)     | 0.00 15.46 38.24<br> ----- ----- |
| <i>S. epidermidis</i>     | 833人<br>(2.59%)        | 0.00 1.80 8.87<br> ----- -----   |
| <i>S. pneumoniae</i>      | 516人<br>(1.61%)        | 0.00 0.98 38.55<br> ----- -----  |
| <i>E. faecalis</i>        | 1,656人<br>(5.15%)      | 0.00 3.97 14.96<br> ----- -----  |
| <i>E. faecium</i>         | 662人<br>(2.06%)        | 0.00 1.33 10.25<br> ----- -----  |
| <i>E. coli</i>            | 4,564人<br>(14.21%)     | 0.00 13.85 45.37<br> ----- ----- |
| <i>K. pneumoniae</i>      | 1,859人<br>(5.79%)      | 0.00 5.89 15.94<br> ----- -----  |
| <i>Enterobacter spp.</i>  | 1,221人<br>(3.80%)      | 0.00 3.48 11.76<br> ----- -----  |
| <i>Enterobacteriaceae</i> | 8,419人<br>(26.20%)     | 0.00 26.25 65.43<br> ----- ----- |
| <i>P. aeruginosa</i>      | 2,437人<br>(7.59%)      | 0.00 7.13 38.24<br> ----- -----  |
| <i>Acinetobacter spp.</i> | 225人<br>(0.70%)        | 0.00 0.44 9.09<br> ----- -----   |

入院として報告された検体を集計

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

※ 病床数が登録されている医療機関のみが対象

### 5. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                        | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布 |
|------------------------|------------------------|-------------------------|
| 検体提出患者数(100床あたり)       | 32,129人<br>(116.1)※    |                         |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)   | 2,109人<br>(6.56%)      | 0.00 6.39 35.29         |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人<br>(0.00%)          | 0.00                    |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)      | 7人<br>(0.02%)          | 0.00 0.00 2.44          |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)      | 161人<br>(0.50%)        | 0.00 0.07 3.61          |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP)          | 26人<br>(0.08%)         | 0.00 0.00 2.63          |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)    | 0人<br>(0.00%)          | 0.00                    |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)   | 56人<br>(0.17%)         | 0.00 0.00 2.94          |
| カルバペネム耐性緑膿菌            | 250人<br>(0.78%)        | 0.00 0.52 4.38          |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌     | 103人<br>(0.32%)        | 0.00 0.14 5.88          |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌      | 981人<br>(3.05%)        | 0.00 2.75 26.83         |
| フルオロキノロン耐性大腸菌          | 1,380人<br>(4.30%)      | 0.00 4.02 27.44         |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

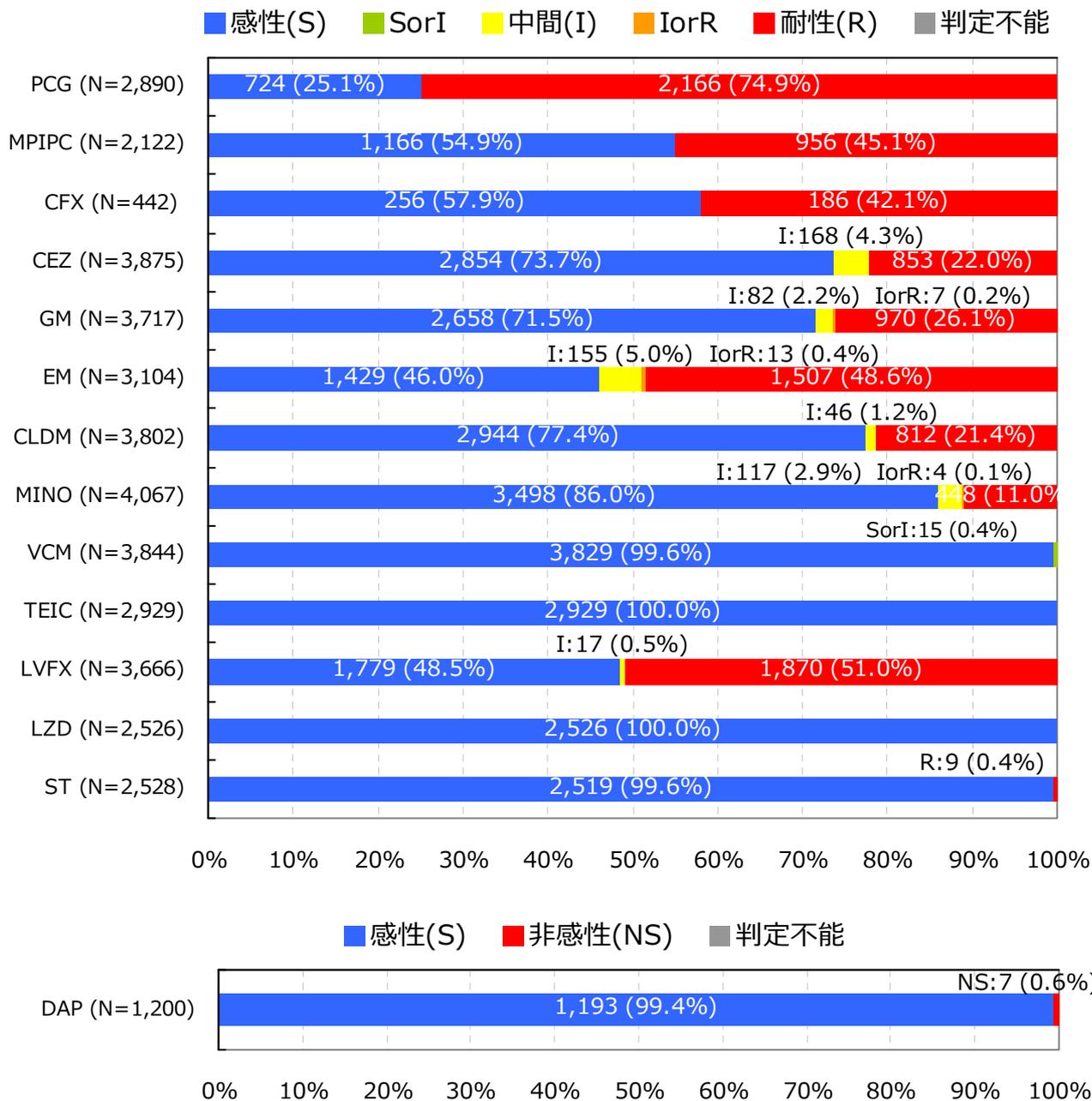
= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

※ 病床数が登録されている医療機関のみが対象

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (ALL) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

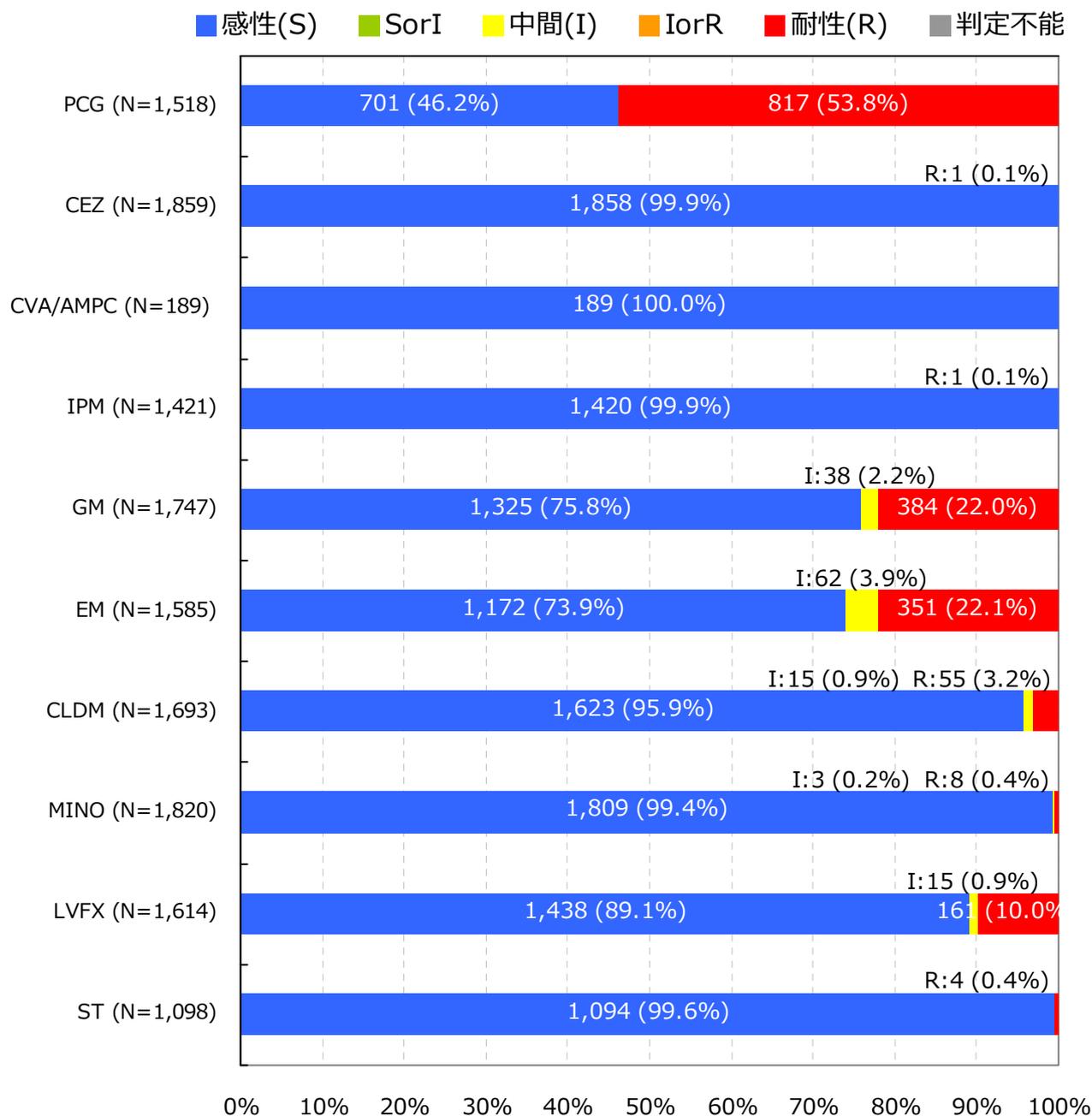
†菌名コード: 1301, 1303～1306と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない



### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

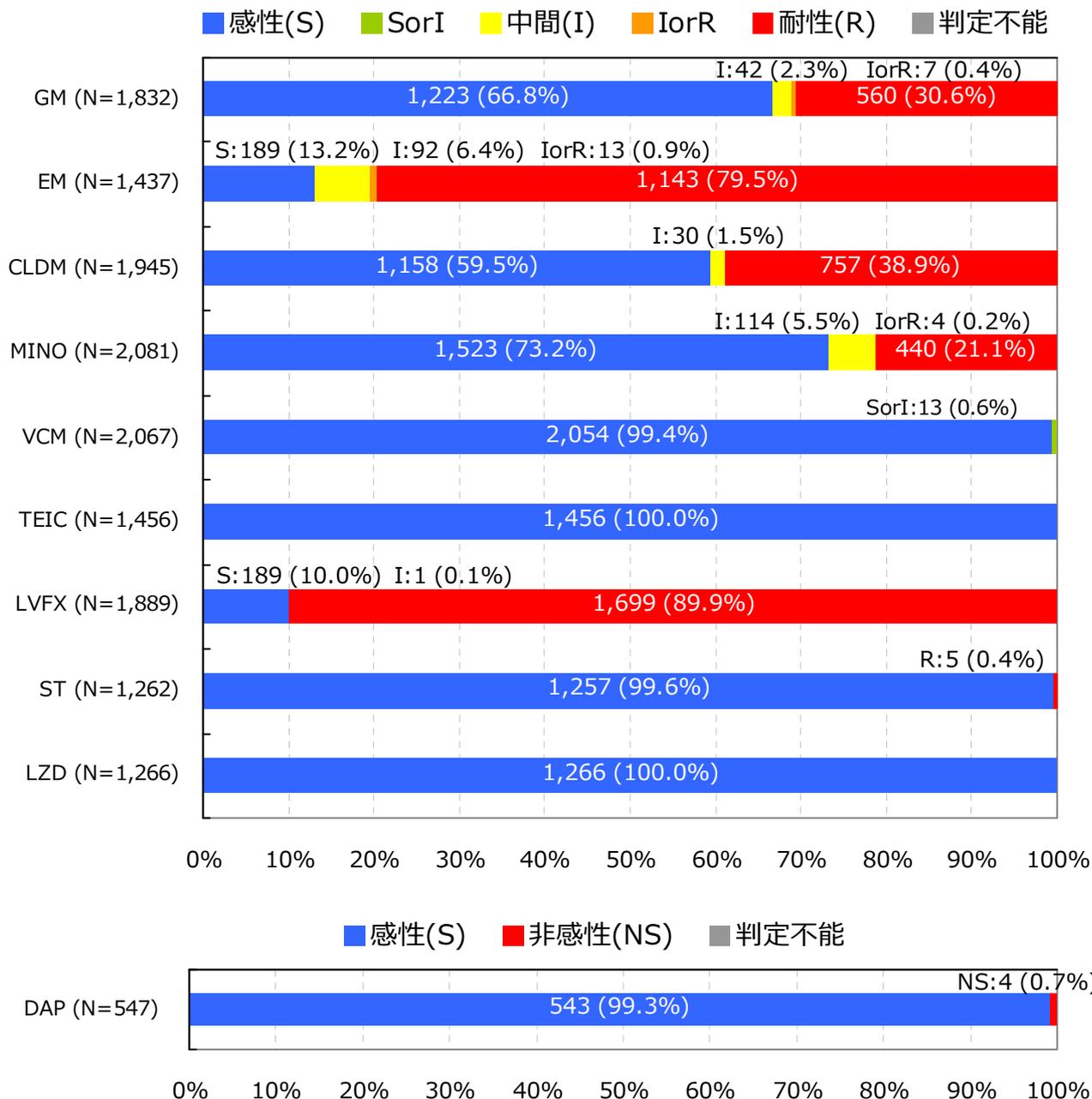
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1304, 1305, 1306と報告された菌、または菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208（オキサリリン）および抗菌薬コード：1606（セフォキシチン）の感受性結果「S」の菌（一方が「S」で他方が未測定の場合を含む）

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

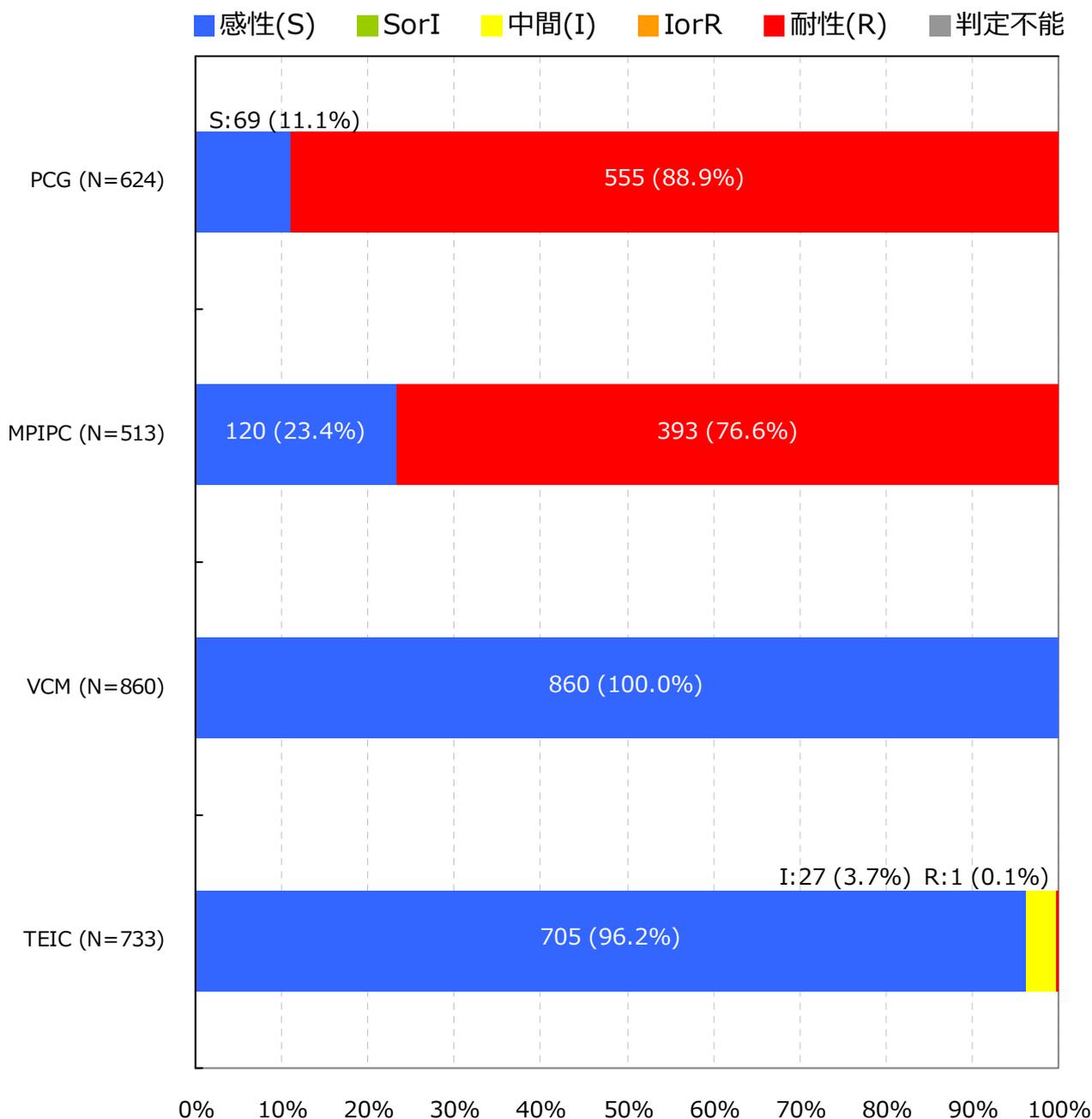
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1303と報告された菌、または菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208（オキサシリン）または抗菌薬コード：1606（セフォキシチン）の感受性結果「R」の菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

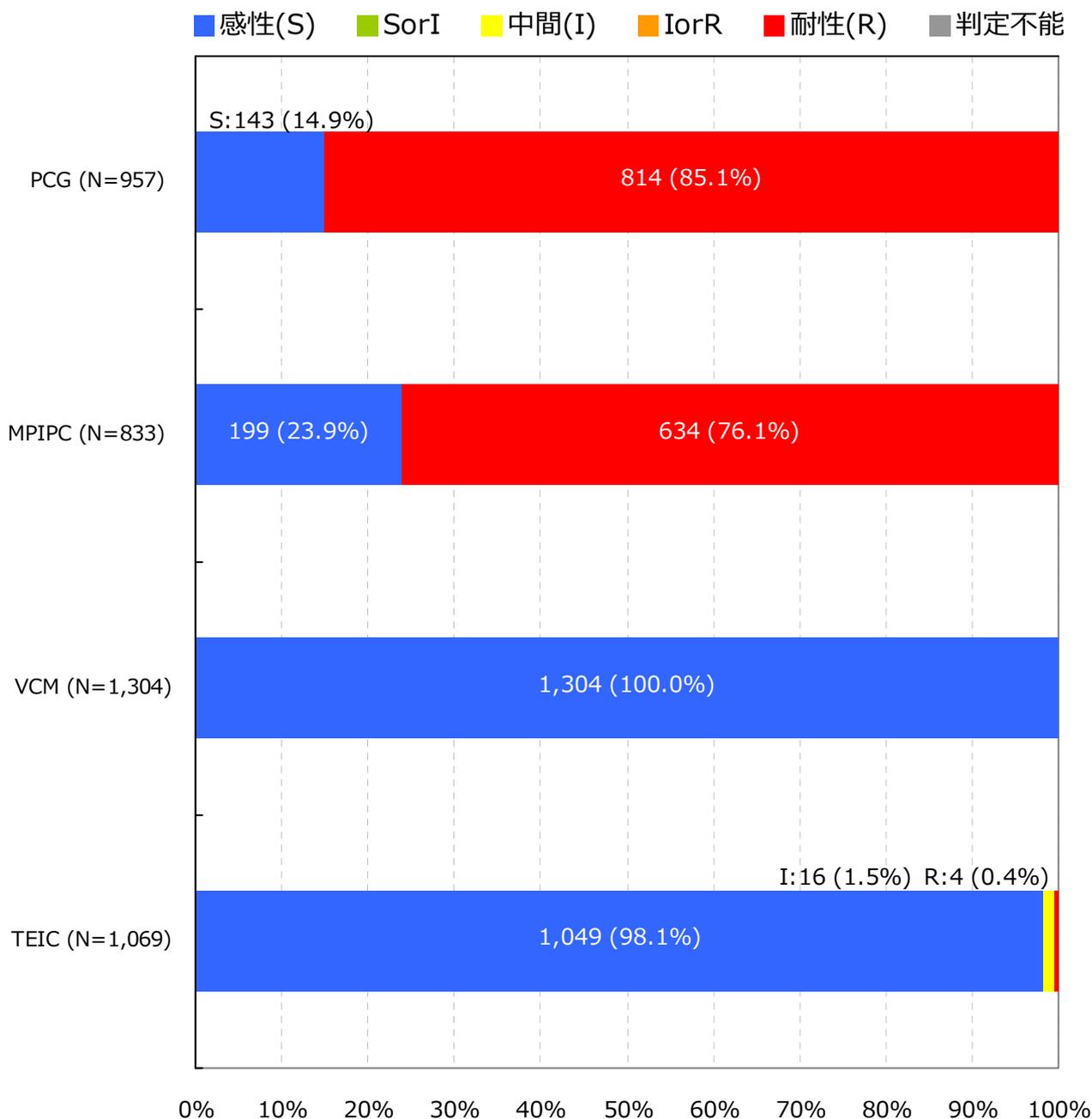
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

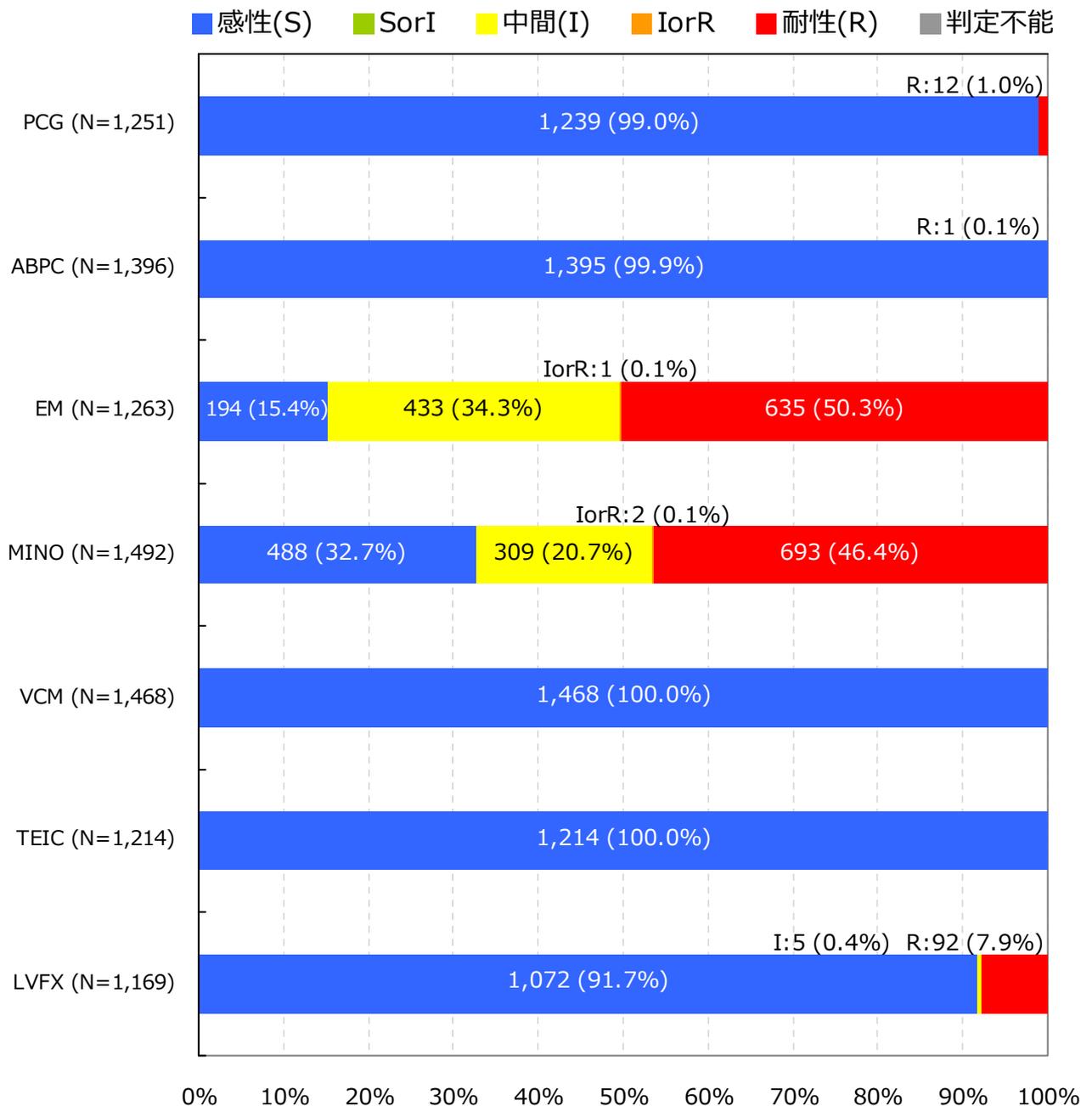
† 菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない



### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

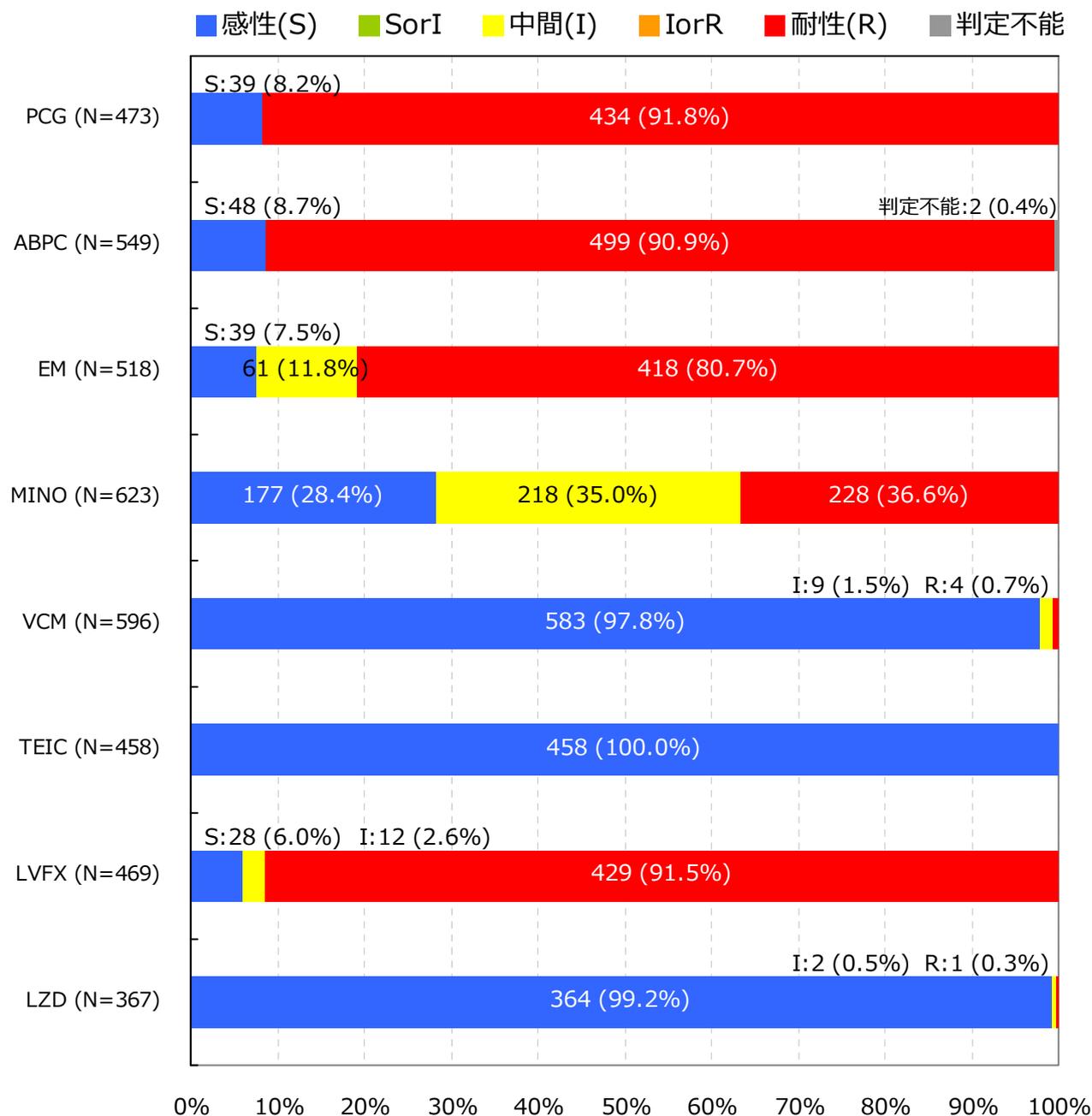
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1205, 1206と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

(千葉県)

公開情報 2019年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門 【入院検体】

## 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †

報告はありませんでした

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

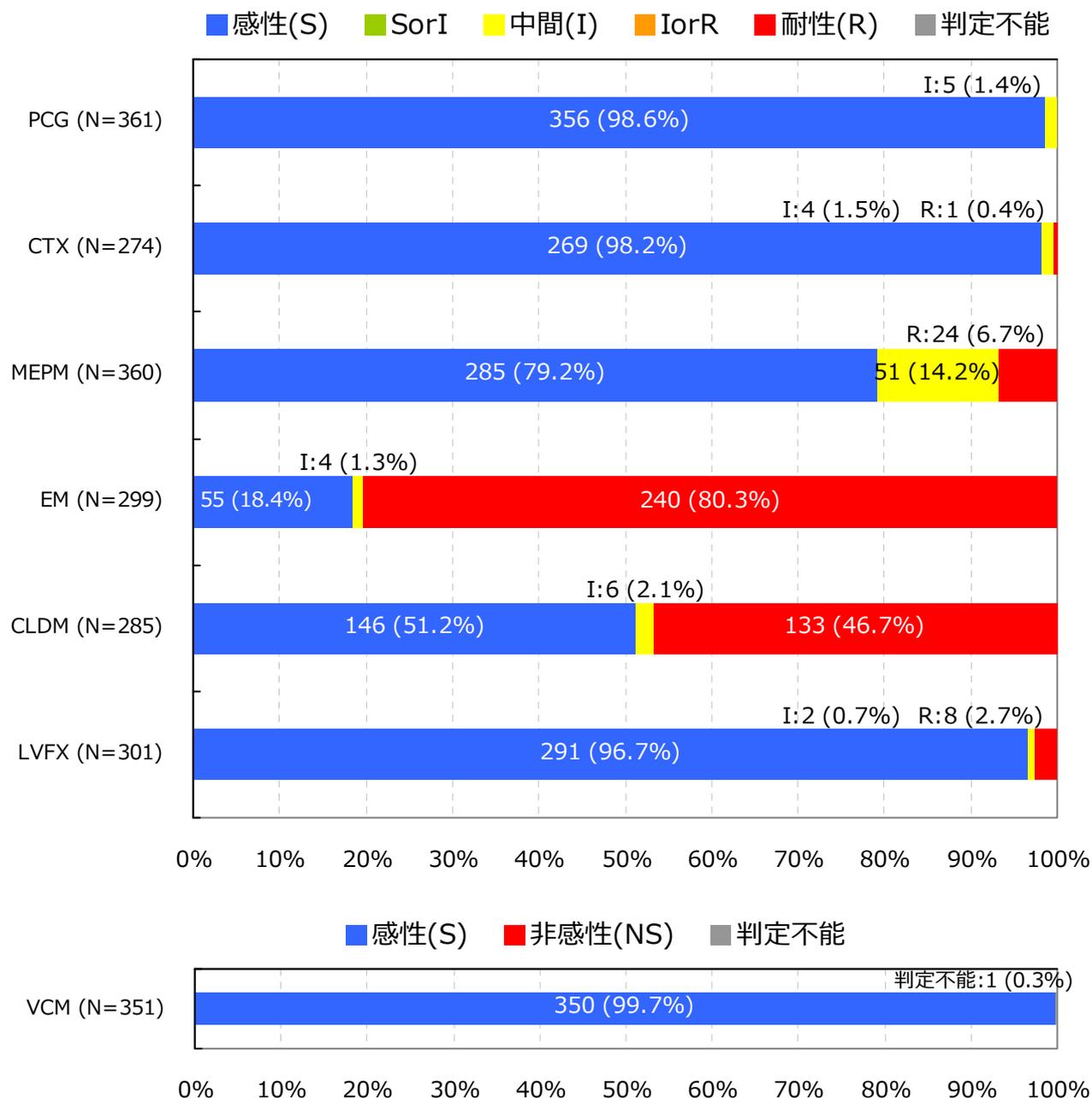
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1131と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

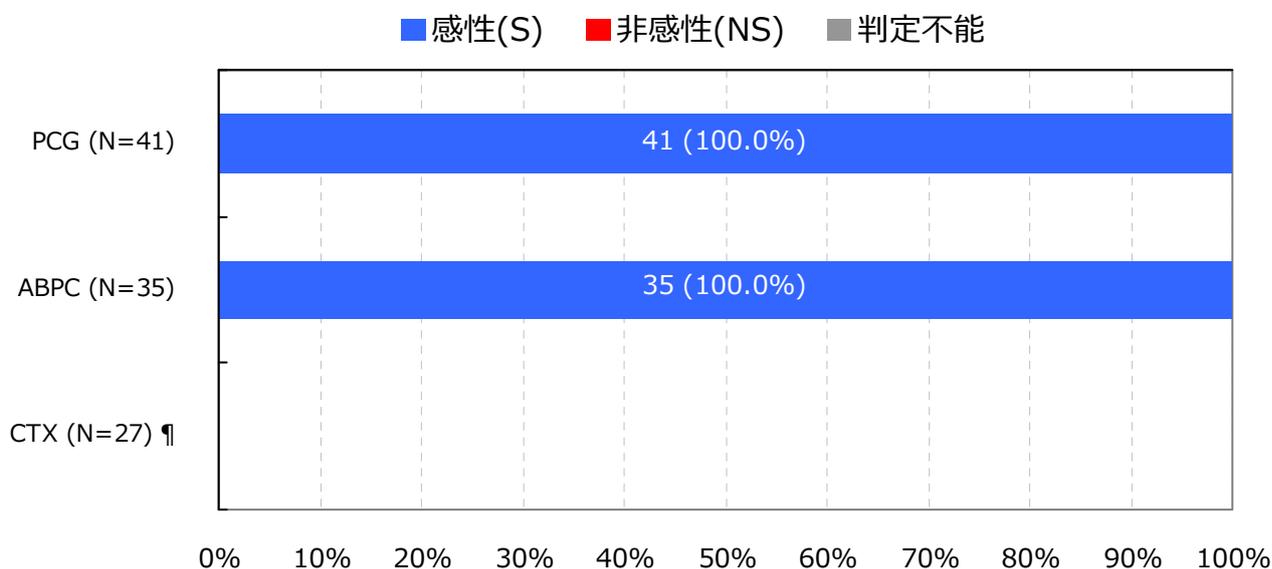
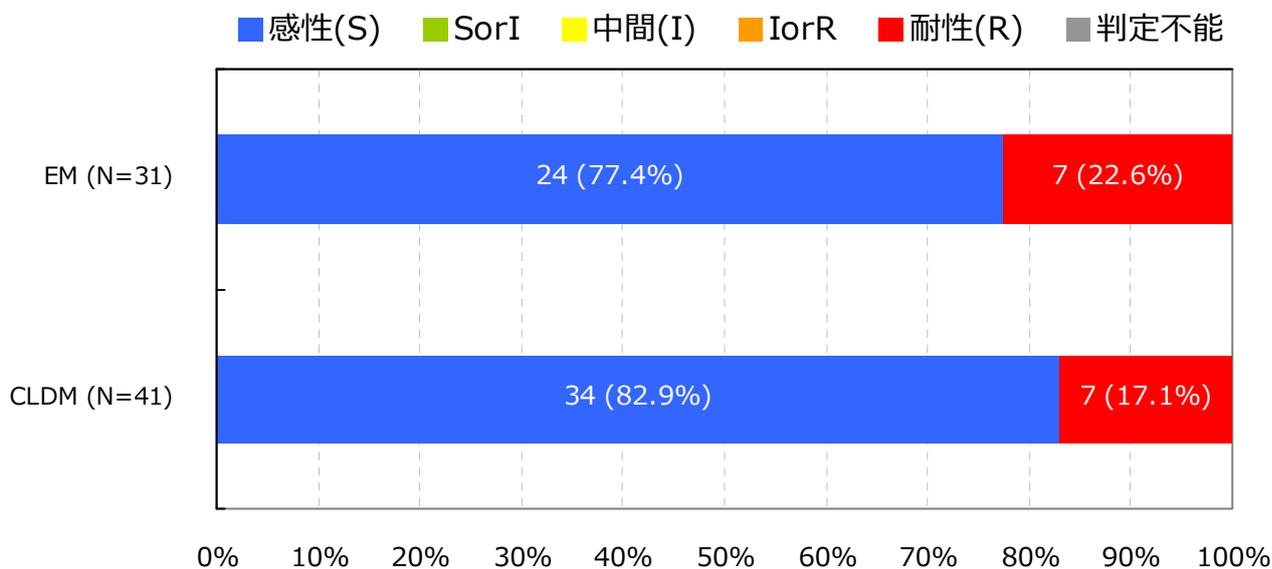
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

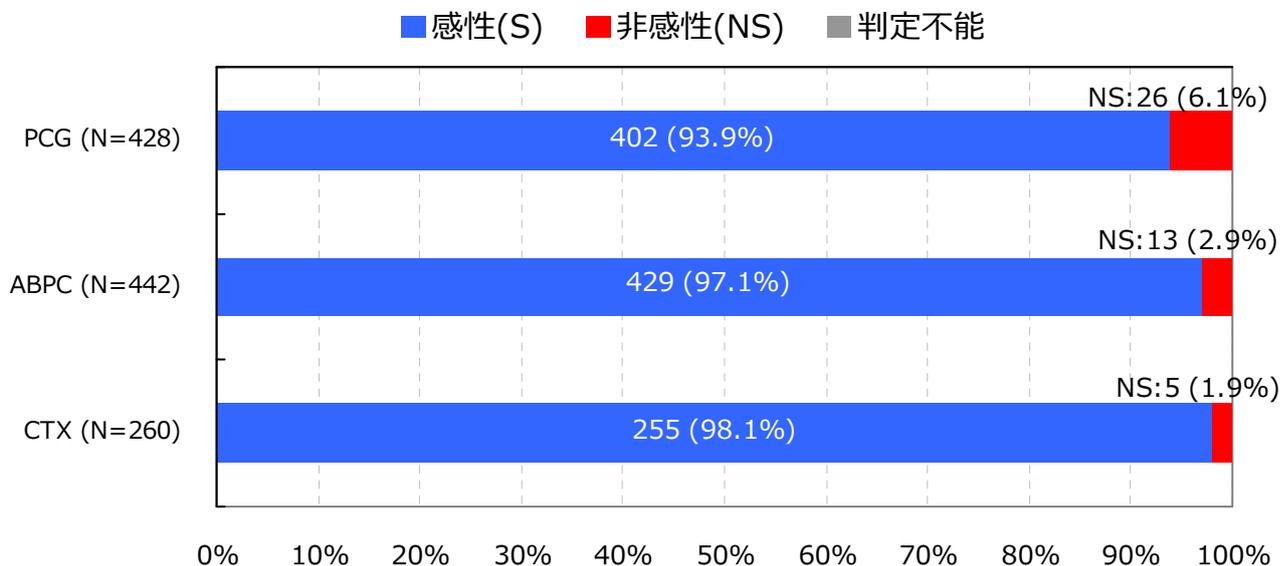
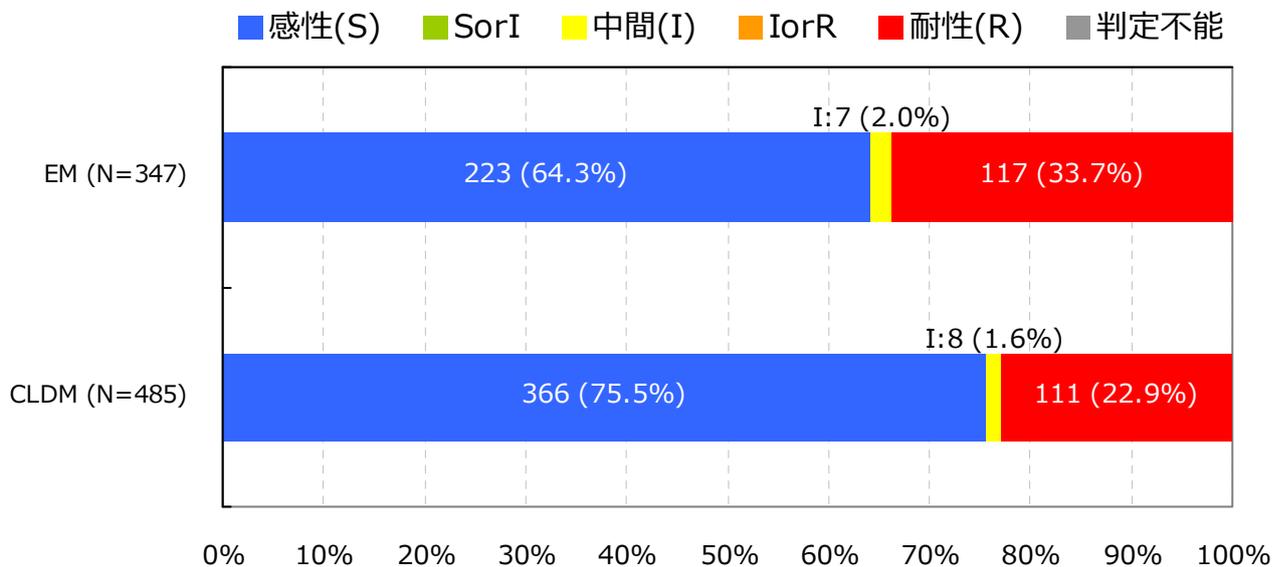
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌

¶ 集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

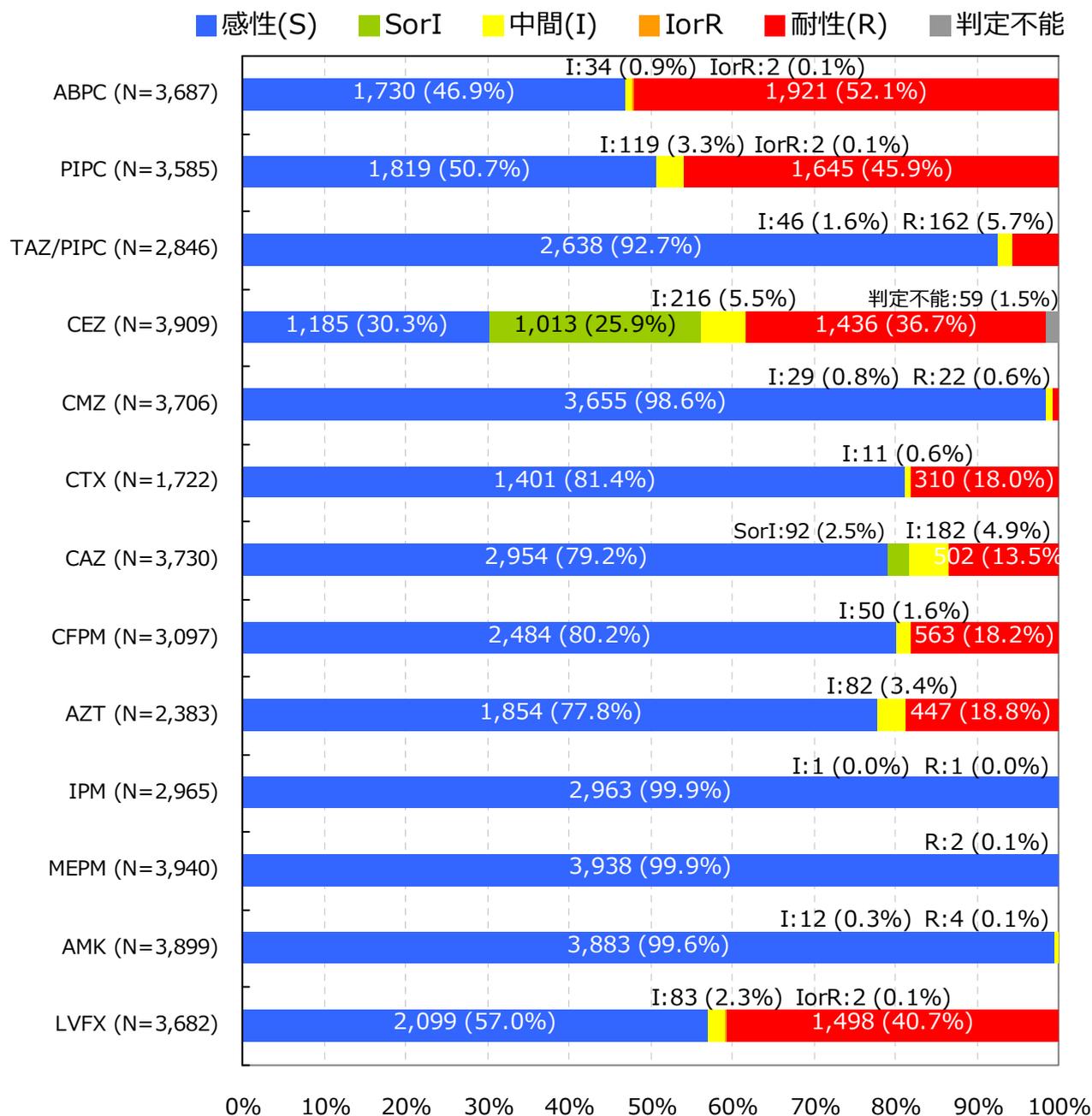
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1114と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

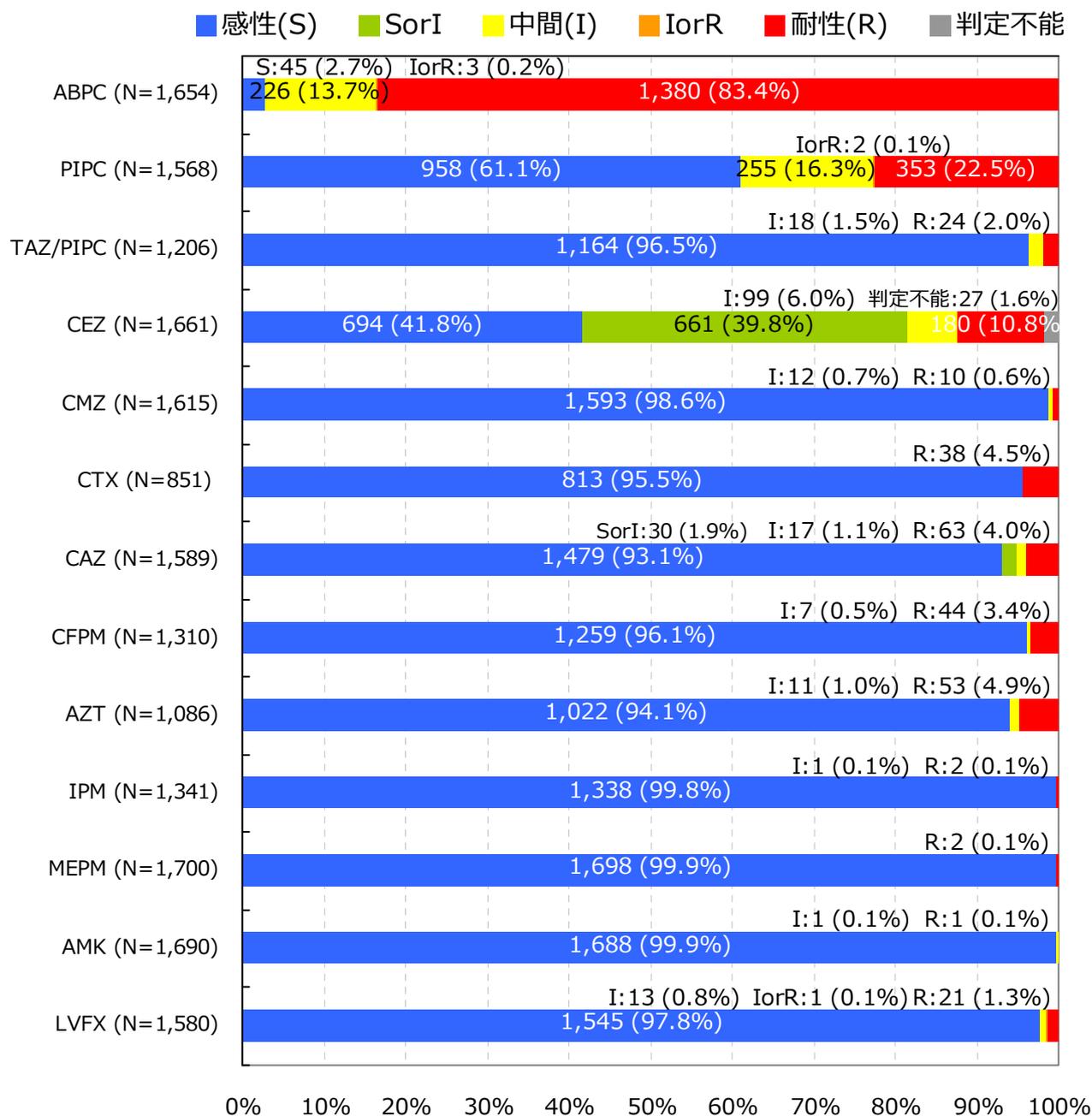
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

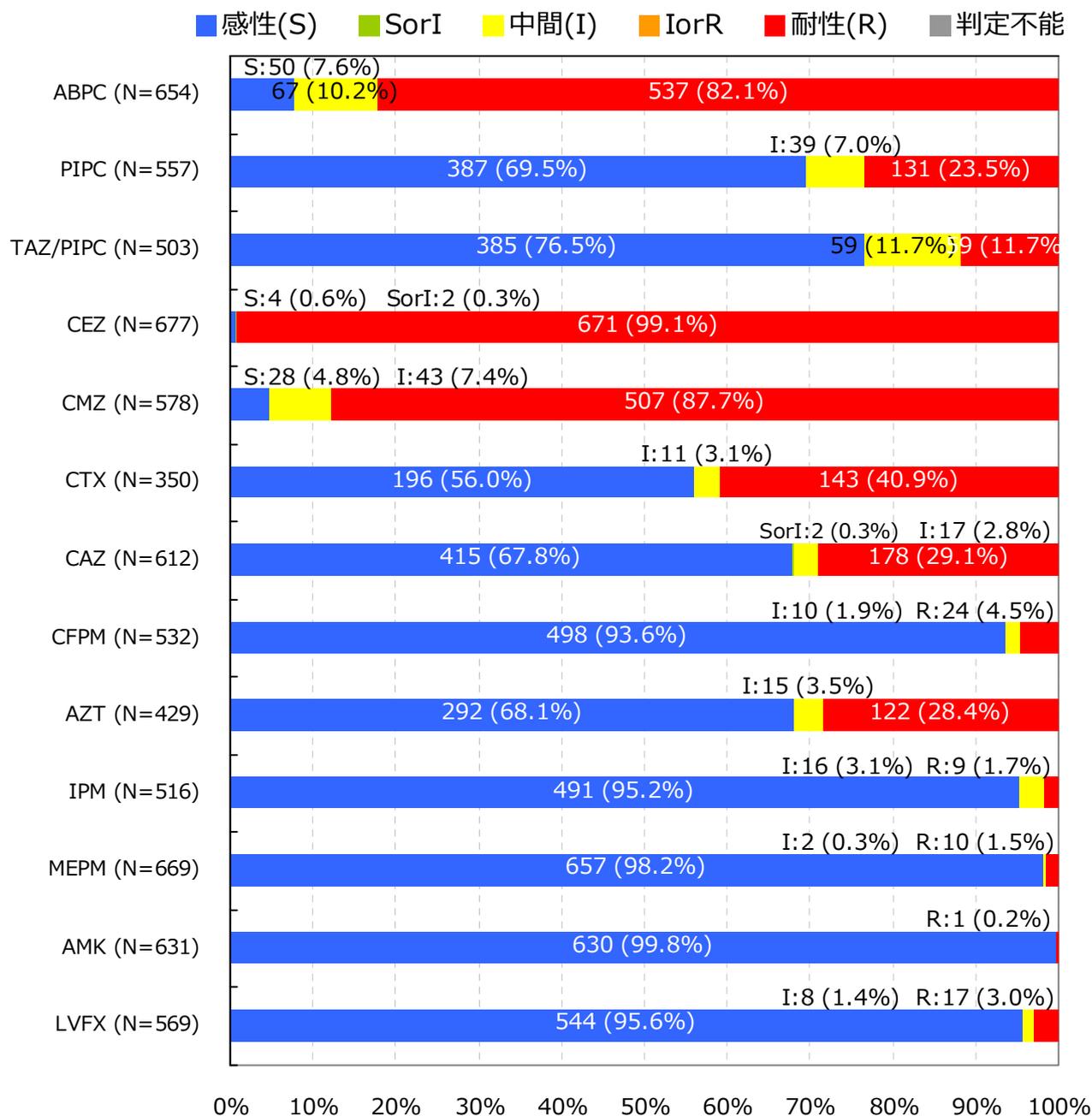
† 菌名コード：2351と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない



### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

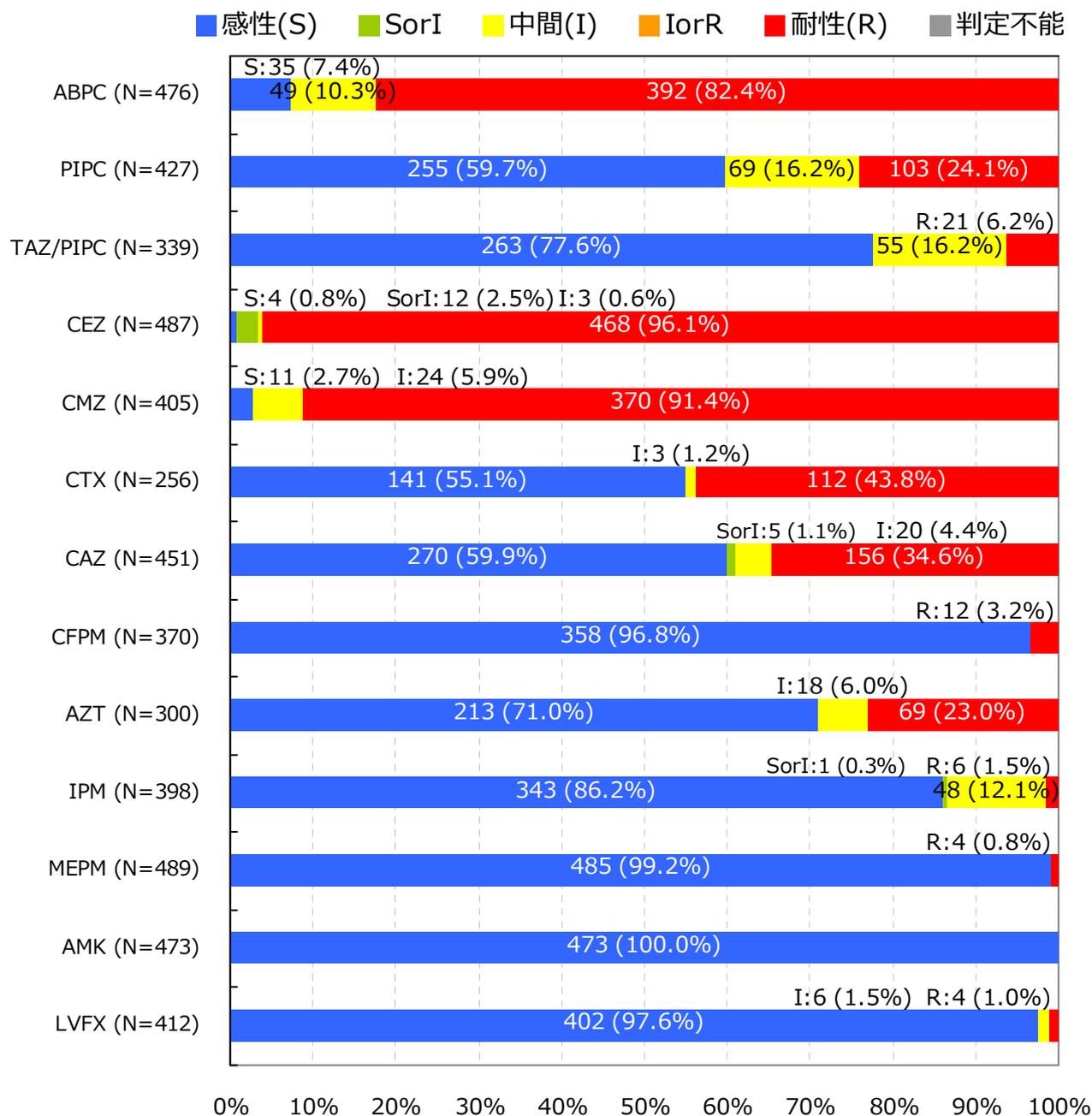
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2151と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

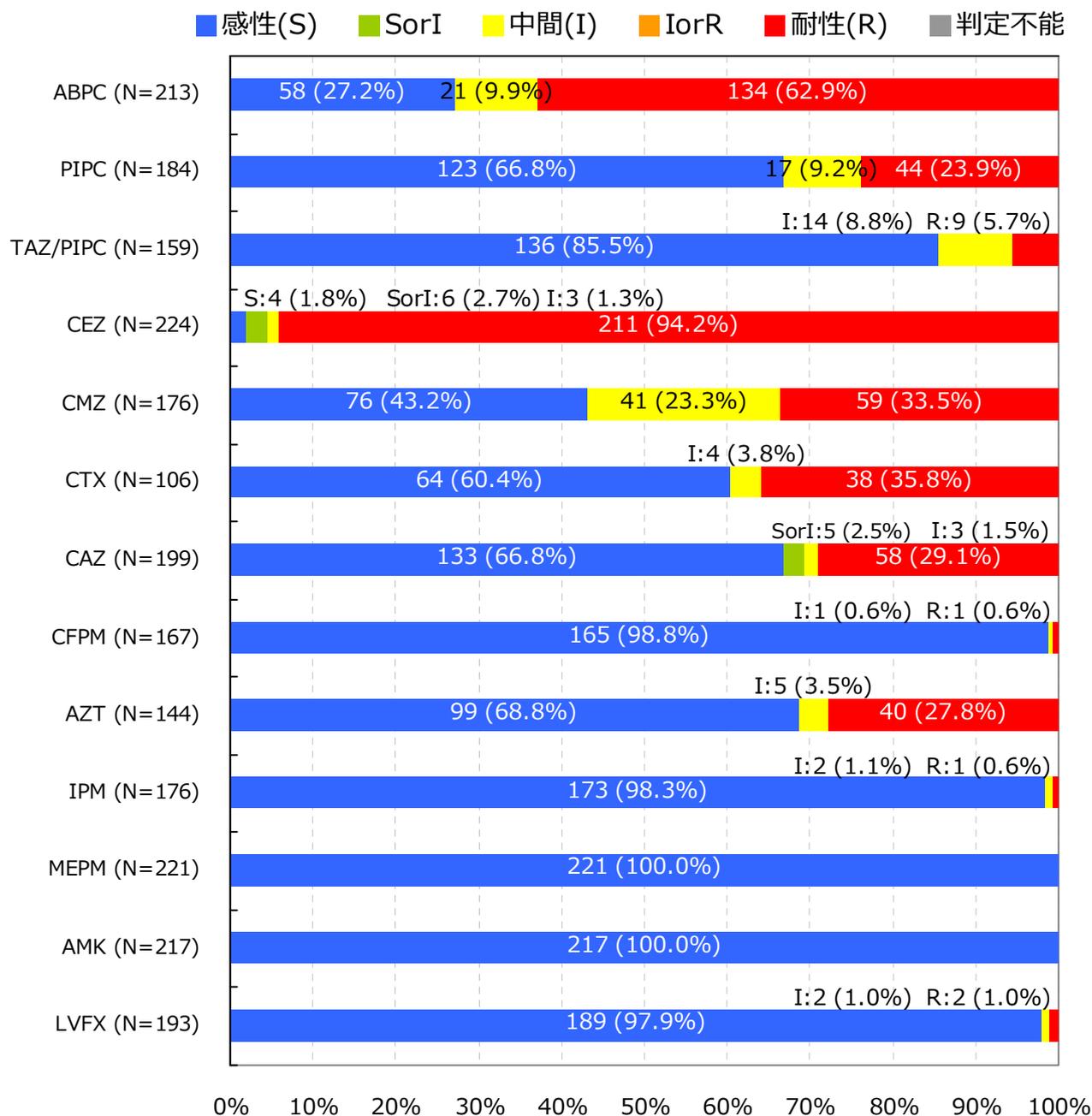
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2152と報告された菌 (旧名: *Enterobacter aerogenes*)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

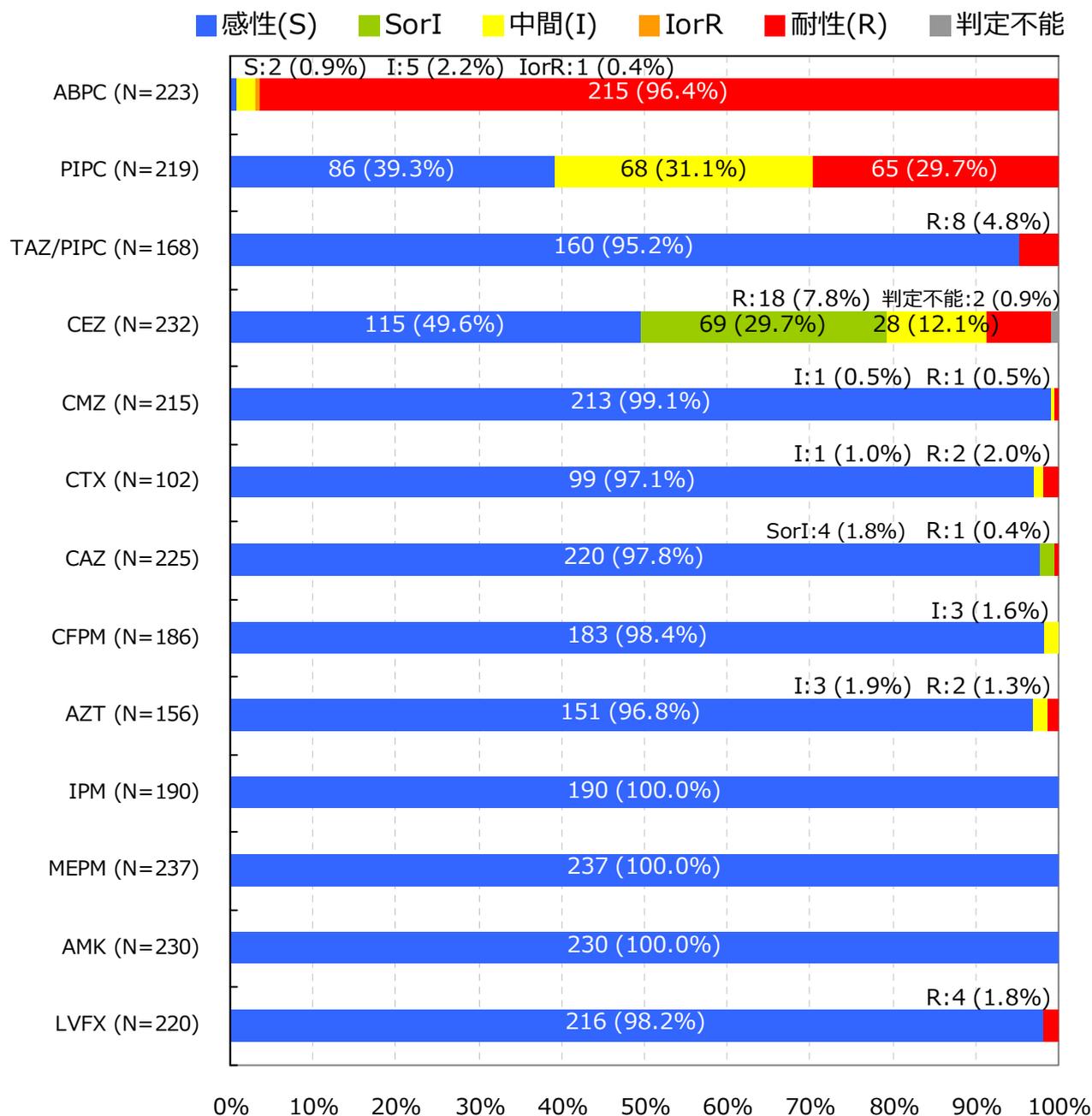
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

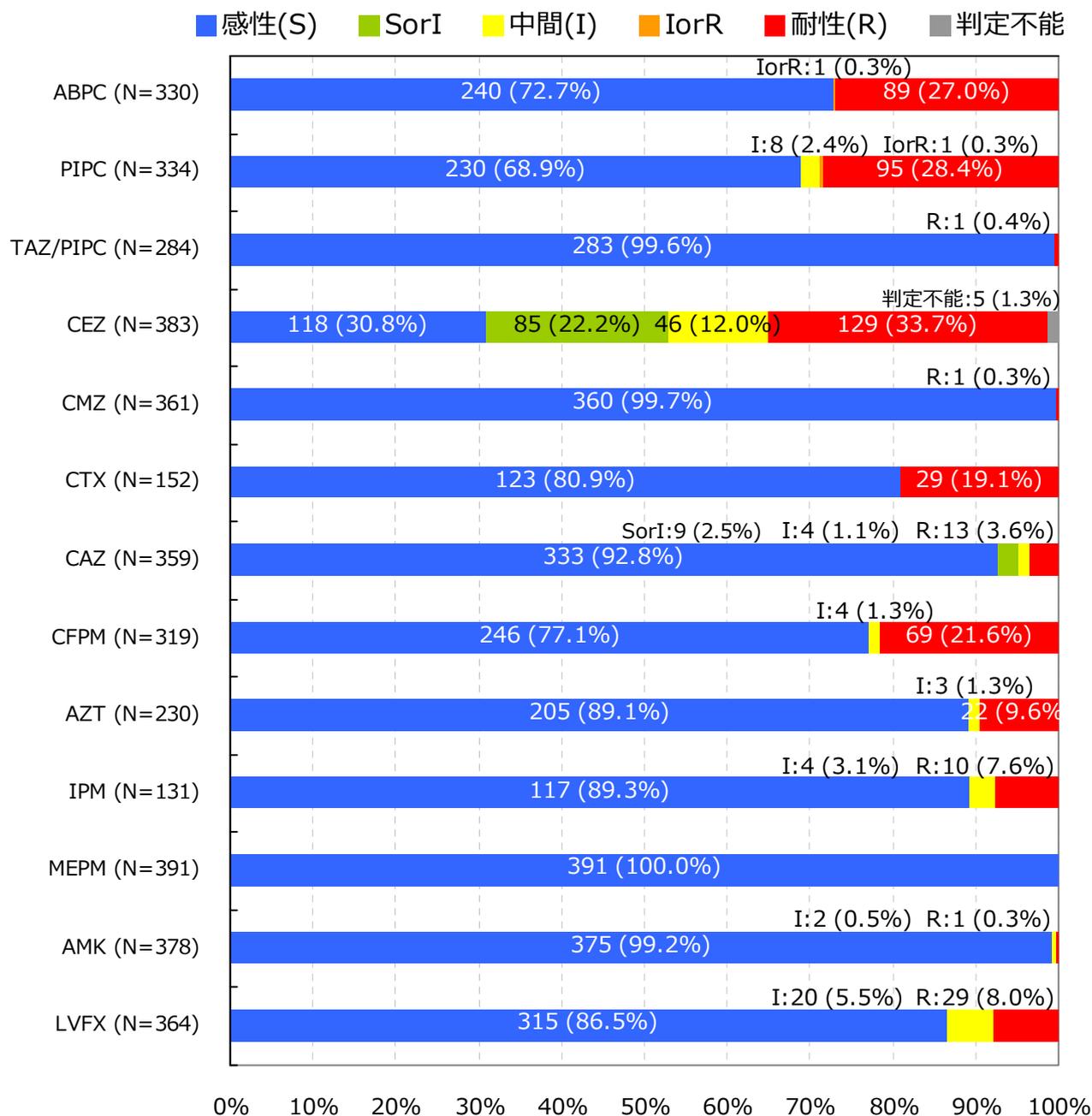
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

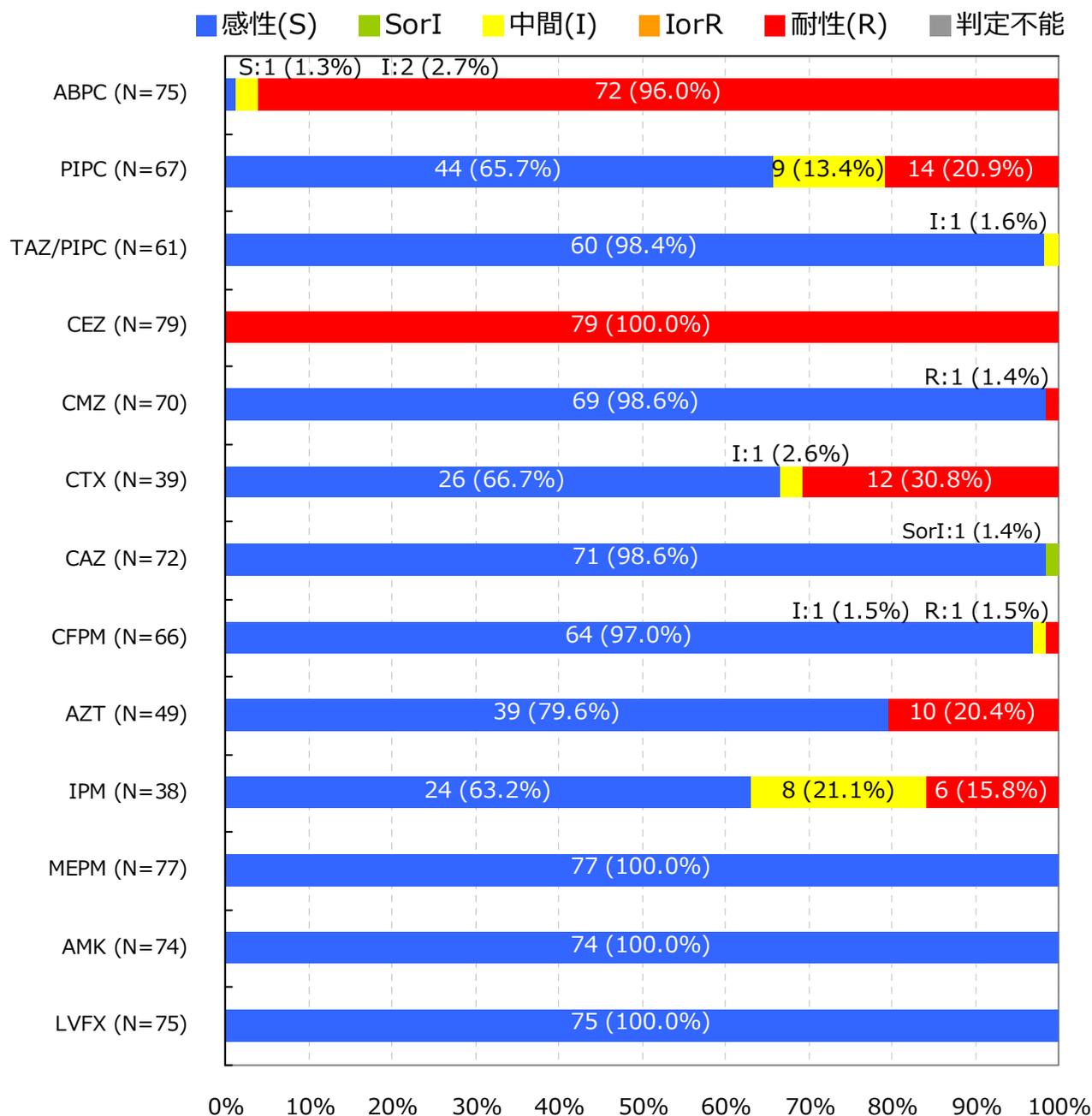
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

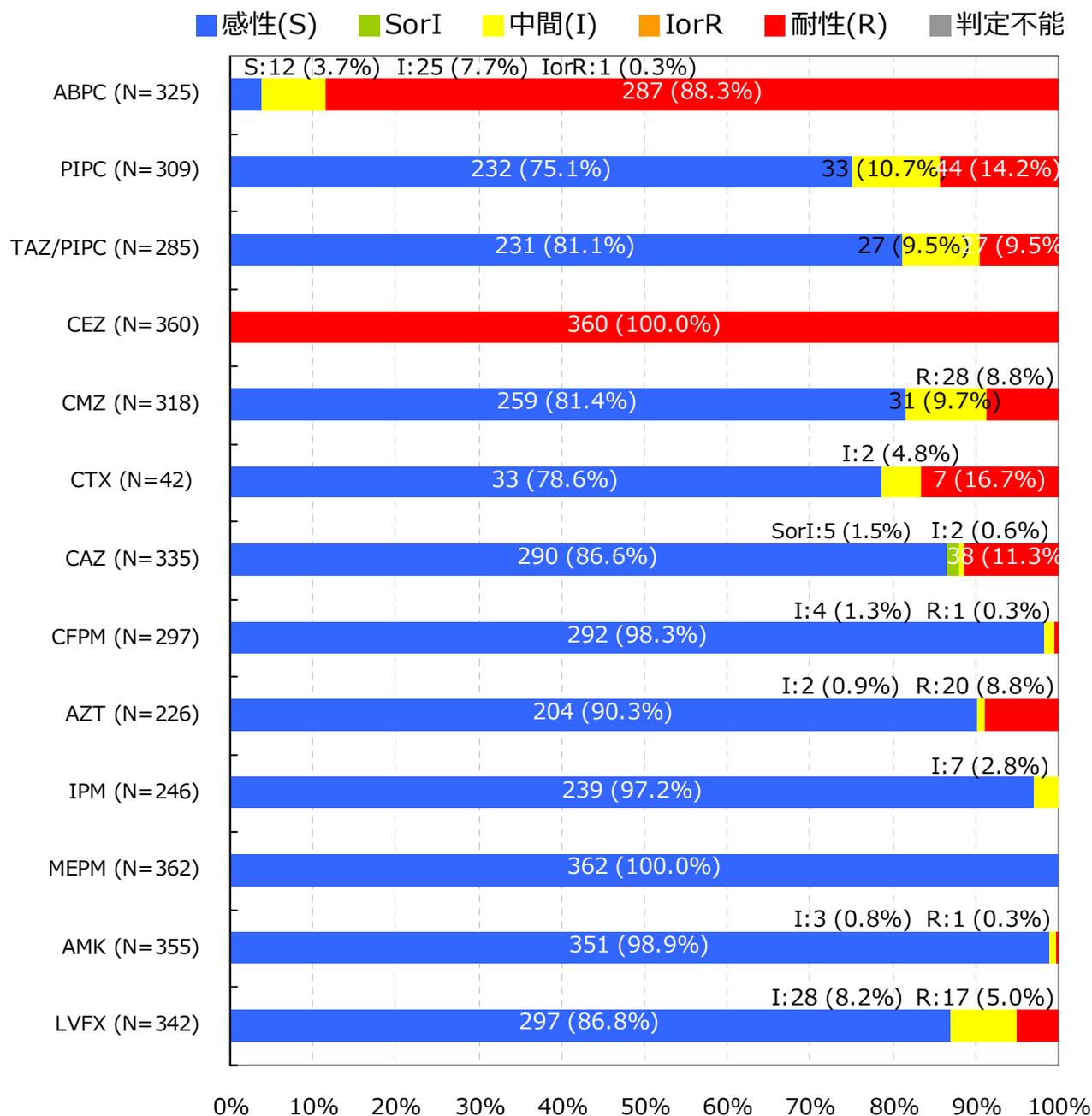
† 菌名コード：2202と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない



### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

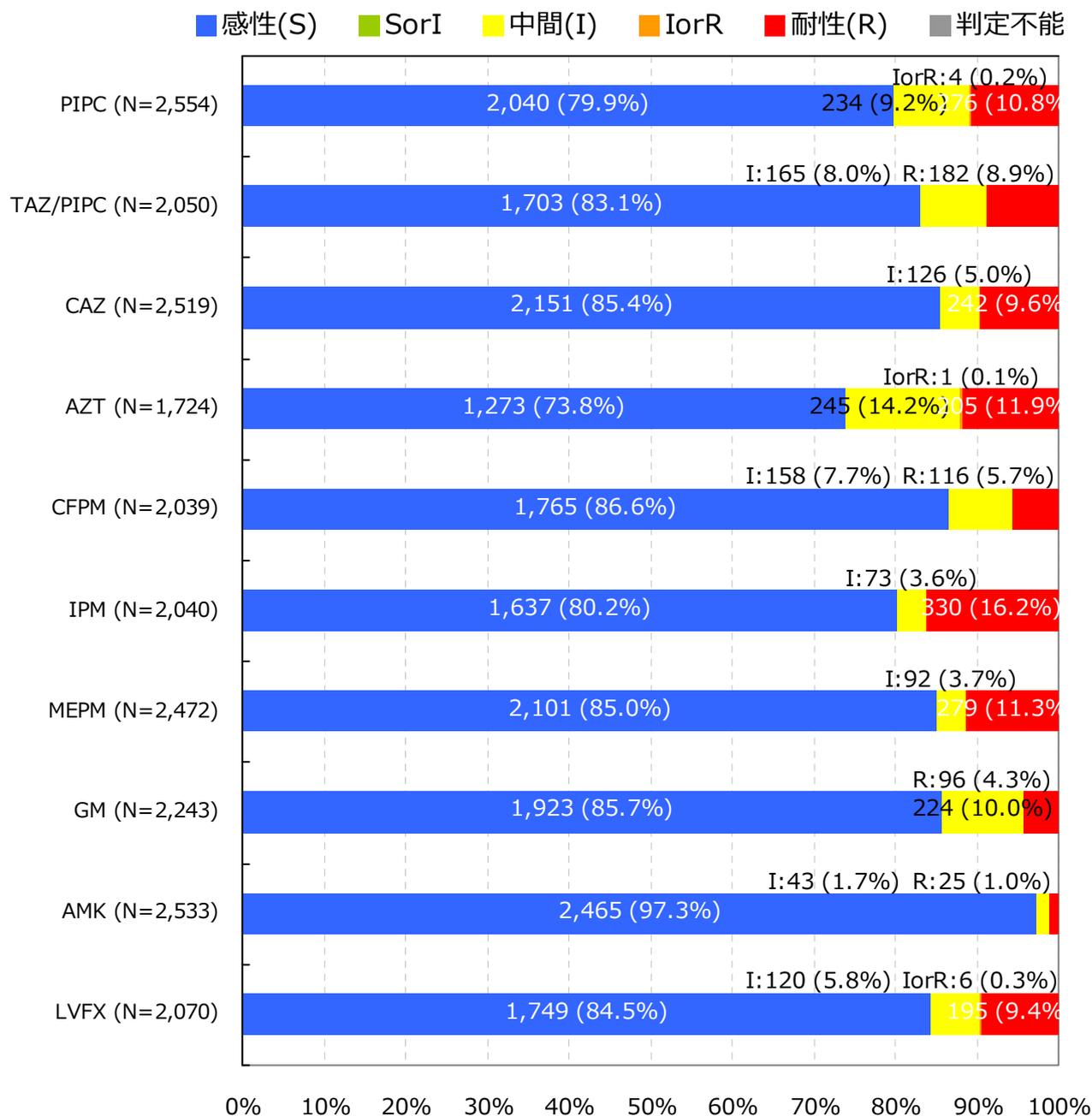
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

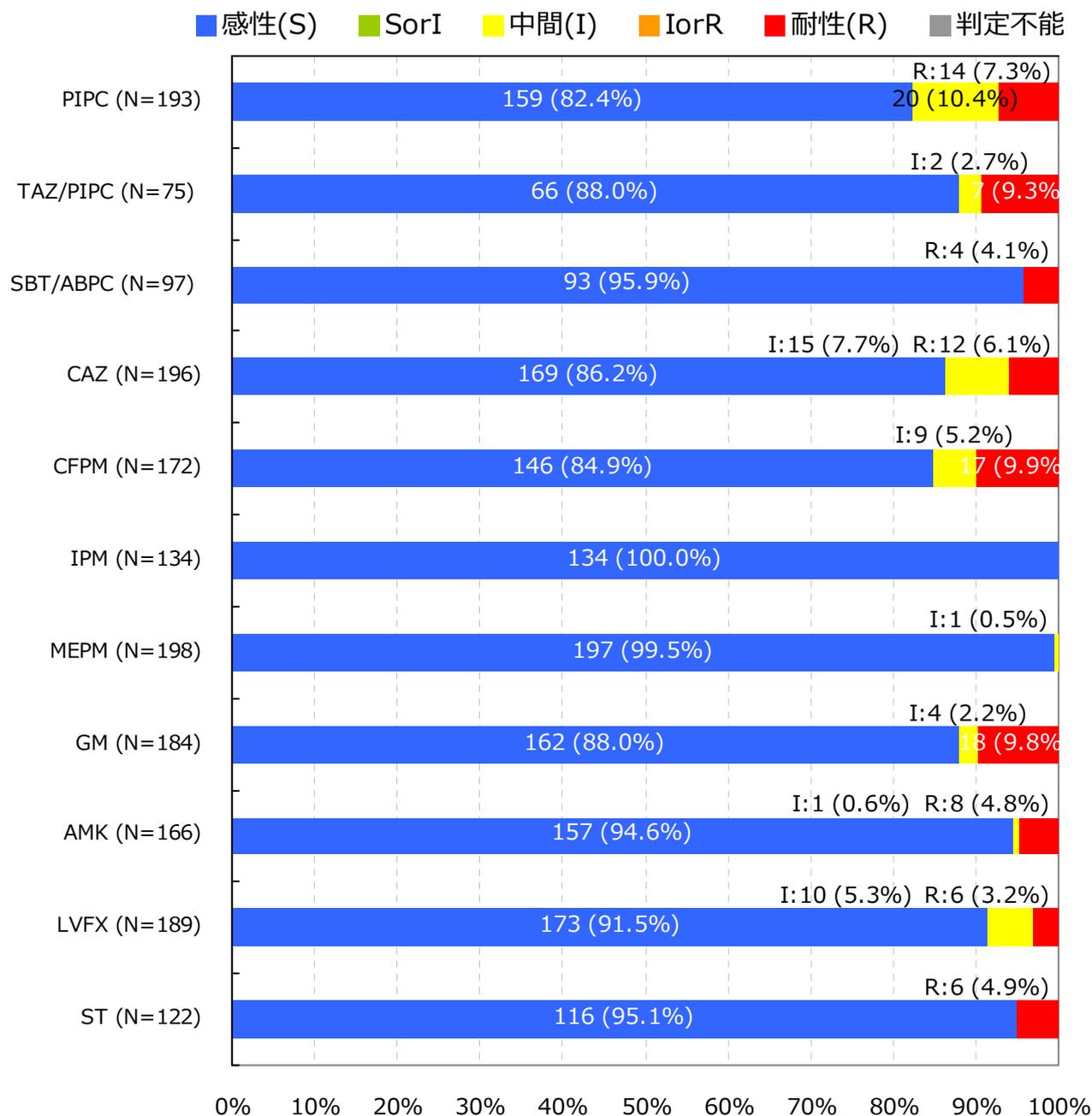
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 4001と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

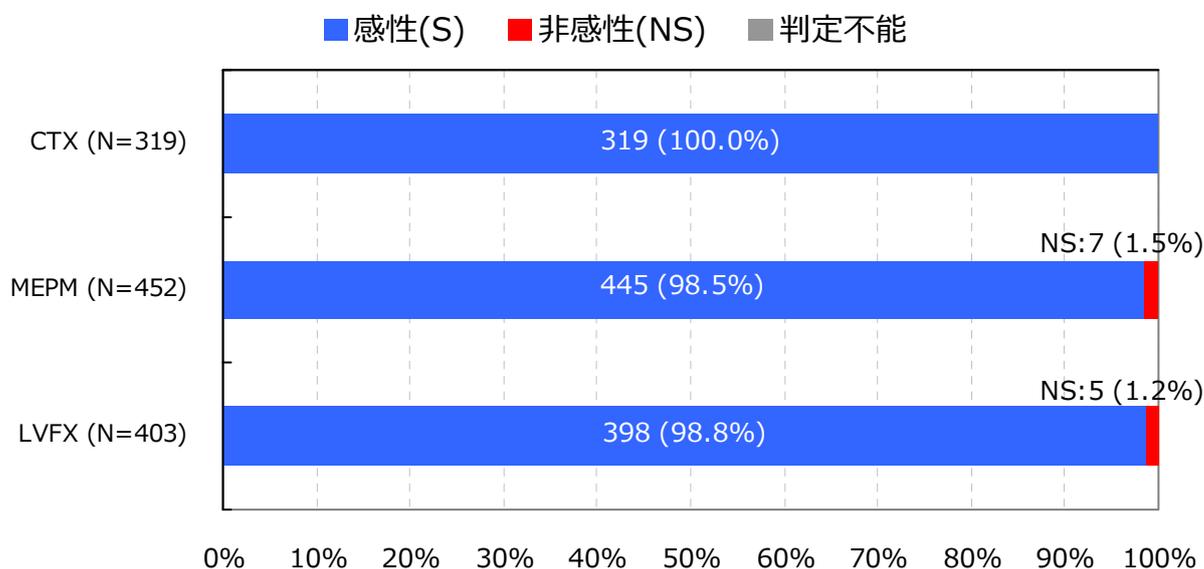
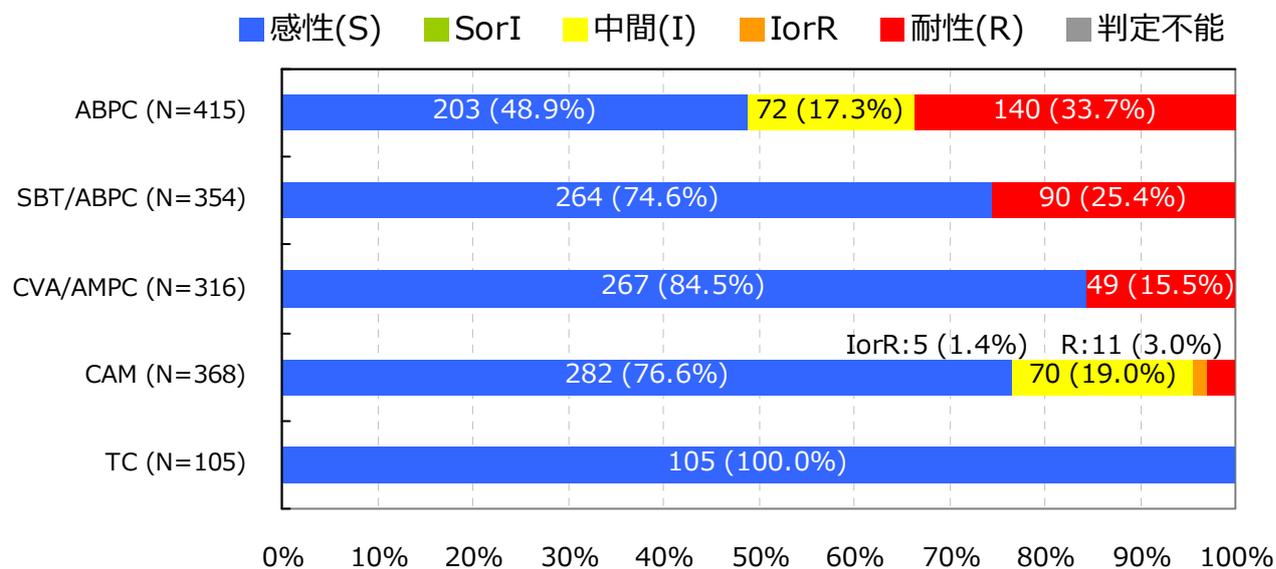
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 4400~4403と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

【巻末資料1 主要菌の菌名コード / 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

主要菌の菌名コード（薬剤感受性条件なし）

| 菌名                                | 菌名コード Ver.5.1       |
|-----------------------------------|---------------------|
| <i>Staphylococcus aureus</i>      | 1301,1303-1306      |
| <i>Staphylococcus epidermidis</i> | 1312                |
| <i>Streptococcus pneumoniae</i>   | 1131                |
| <i>Enterococcus faecalis</i>      | 1201,1202           |
| <i>Enterococcus faecium</i>       | 1205,1206           |
| <i>Escherichia coli</i>           | 2001-2007           |
| <i>Klebsiella pneumoniae</i>      | 2351                |
| <i>Enterobacter</i> spp.          | 2150-2156           |
| <i>Enterobacteriaceae</i>         | 2000-2691,3150-3151 |
| <i>Pseudomonas aeruginosa</i>     | 4001                |
| <i>Acinetobacter</i> spp.         | 4400-4403           |

「微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準」について

耐性菌の菌名は以下の通り

MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015年1月より集計開始）

\* : 原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† : 感染症発生動向調査の基準に準拠

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.2) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.2) を基に作成した。

微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準

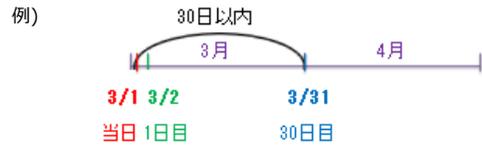
| 菌名   | 概要*  | 微量液体希釈法 (MIC 値)   | 菌名コード Ver.5.1                           |
|------|--|---|---|
| MRSA | MPIPC または CFX が "R" の <i>S. aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌   | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$  | 1301,1303                               |
| VRSA | VCM が微量液体希釈法で "R" の <i>S. aureus</i>   | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 1301,1303-1306                          |
| VRE  | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp.<br>・ VCM が微量液体希釈法で耐性 +<br>・ 選択培地で VRE と確認された菌 (注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く                                       | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †   | 1201,1202,1205,1206,1209,1210,1213-1217 |
| PRSP | PCG が微量液体希釈法で耐性 + の <i>S. pneumoniae</i>   | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/mL}$ †  | 1131                                    |
| MDRP | 下記全てに該当する <i>P. aeruginosa</i><br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 +<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 +<br>3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, CPFY の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †, MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ †<br>3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ , OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , CPFY $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4001                                    |

| 菌名                 | 概要*   | 微量液体希釈法 (MIC 値)  | 菌名コード Ver.5.1        |
|--------------------|---|--|----------------------|
| MDRA               | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp.<br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が "R"<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 +<br>3. フルオロキノロン系 (LVFX, CPFY の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †, MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ †<br>3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , CPFY $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4400-4403            |
| CRE                | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科<br>1. MEPM が耐性 +<br>2. IPM が耐性 +, かつ CMZ が "R"   | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ †<br>2. IPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ † かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g/mL}$   | 2000-2691, 3150-3151 |
| カルバペネム耐性緑膿菌        | IPM または MEPM が耐性 + の <i>P. aeruginosa</i>   | IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †  | 4001                 |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌 | CTX または CTRX または CAZ が "R" の <i>K. pneumoniae</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CTRX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 2351                 |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌  | CTX または CTRX または CAZ が "R" の <i>E. coli</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CTRX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 2001-2007            |
| フルオロキノロン耐性大腸菌      | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, CPFY の何れか) が "R" の <i>E. coli</i>  | NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ , OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , CPFY $\geq 4\mu\text{g/mL}$                 | 2001-2007            |

## 【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

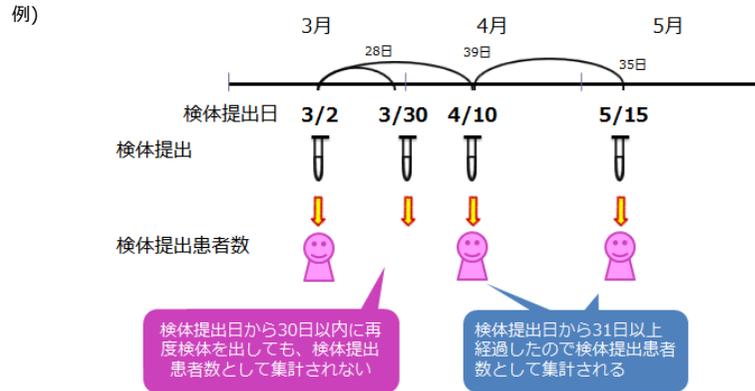
### 1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を1日目とする。検体提出日が3月1日とすると、1日目が3月2日、30日目が3月31日となる。



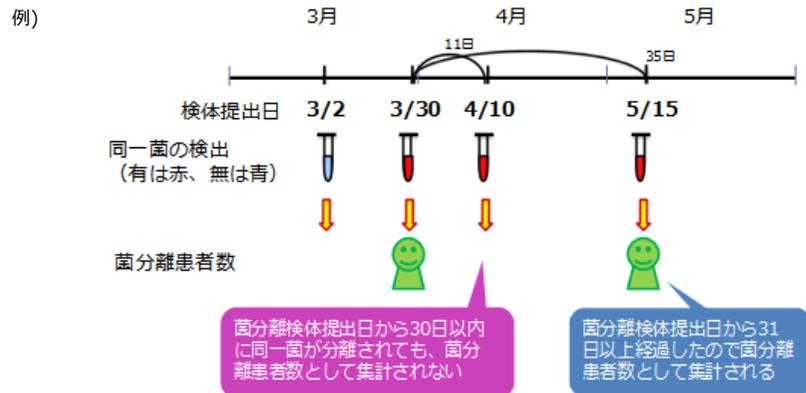
### 2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30日以内の同一患者からの複数の検体提出は1件とする。



### 3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は1件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



### 4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

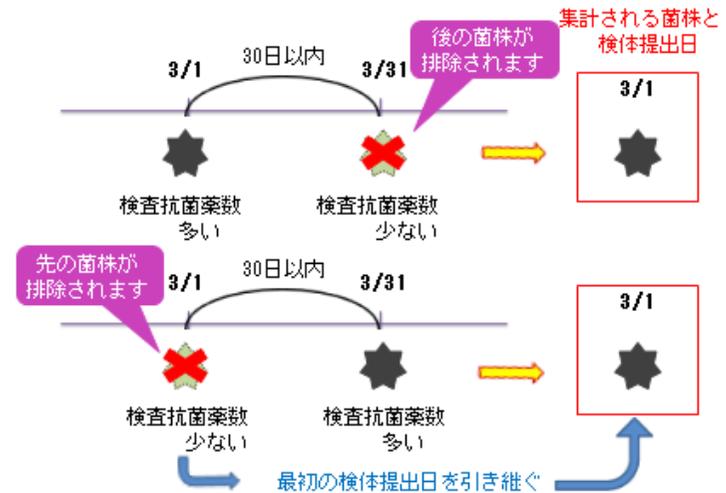
30日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に1つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC値に4倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2はMIC ≥ 4と考え、判定時はMIC = 4として扱う  
また、MIC < 16はMIC ≤ 16と考え、判定時はMIC = 16として扱う
- ② SIR判定では「SとR」の組み合わせ
- ③ +/-判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が5未満

### 5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30日以内の)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。

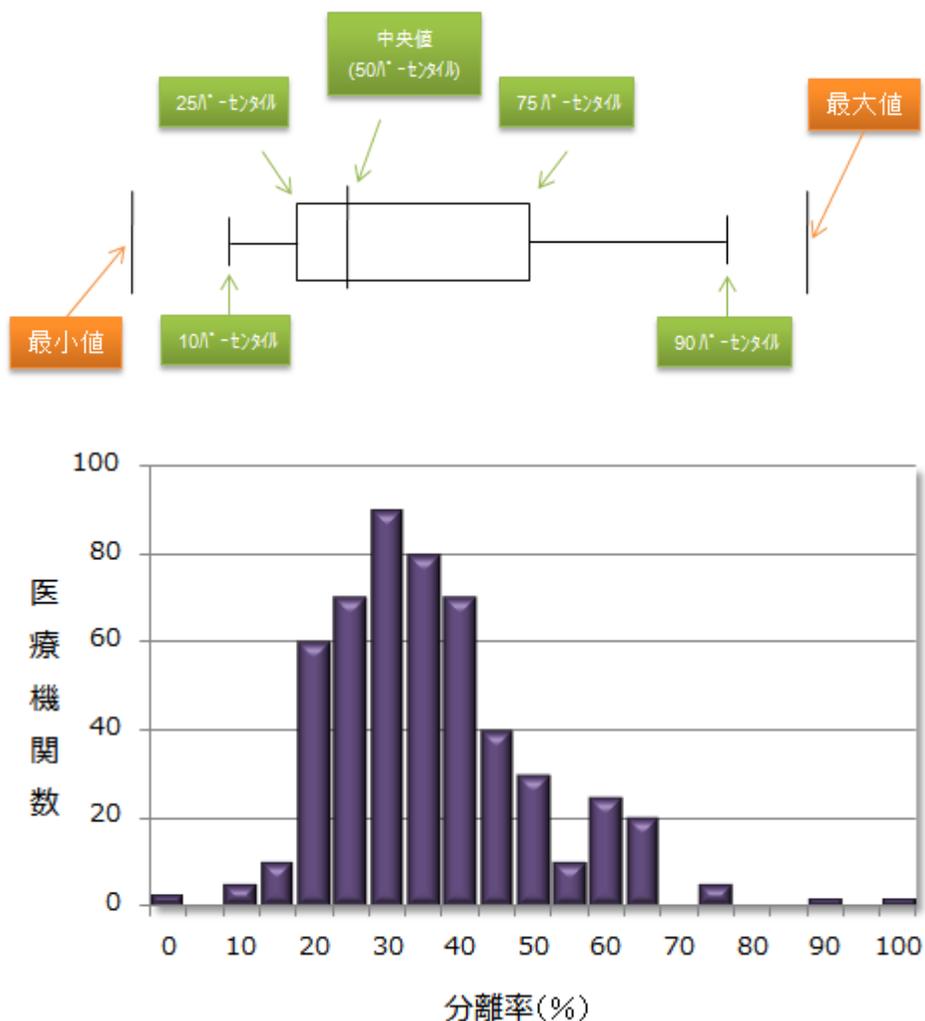
例)



## 【巻末資料 3 箱ひげ図について】

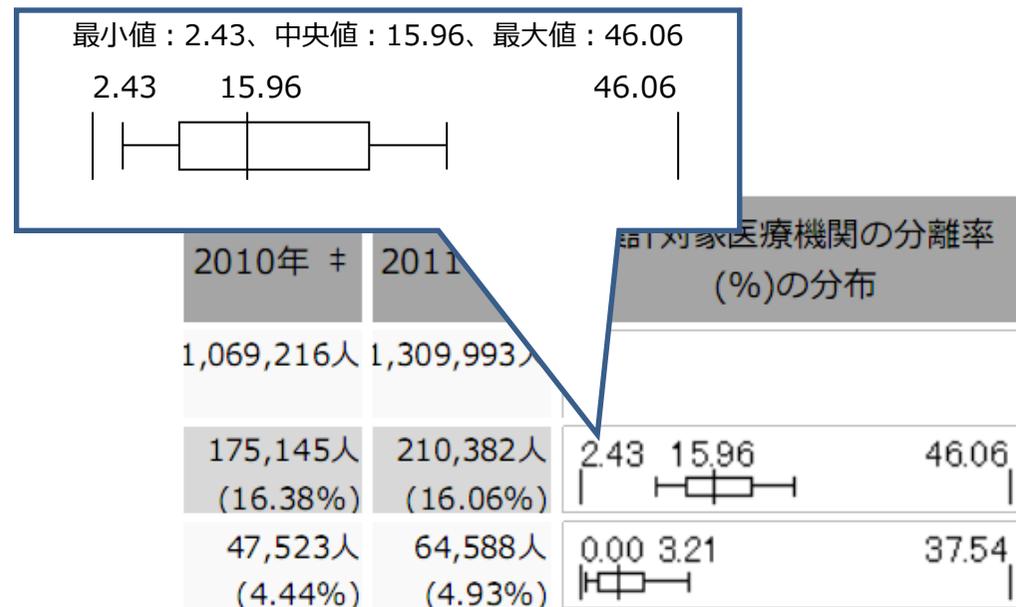
### 1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



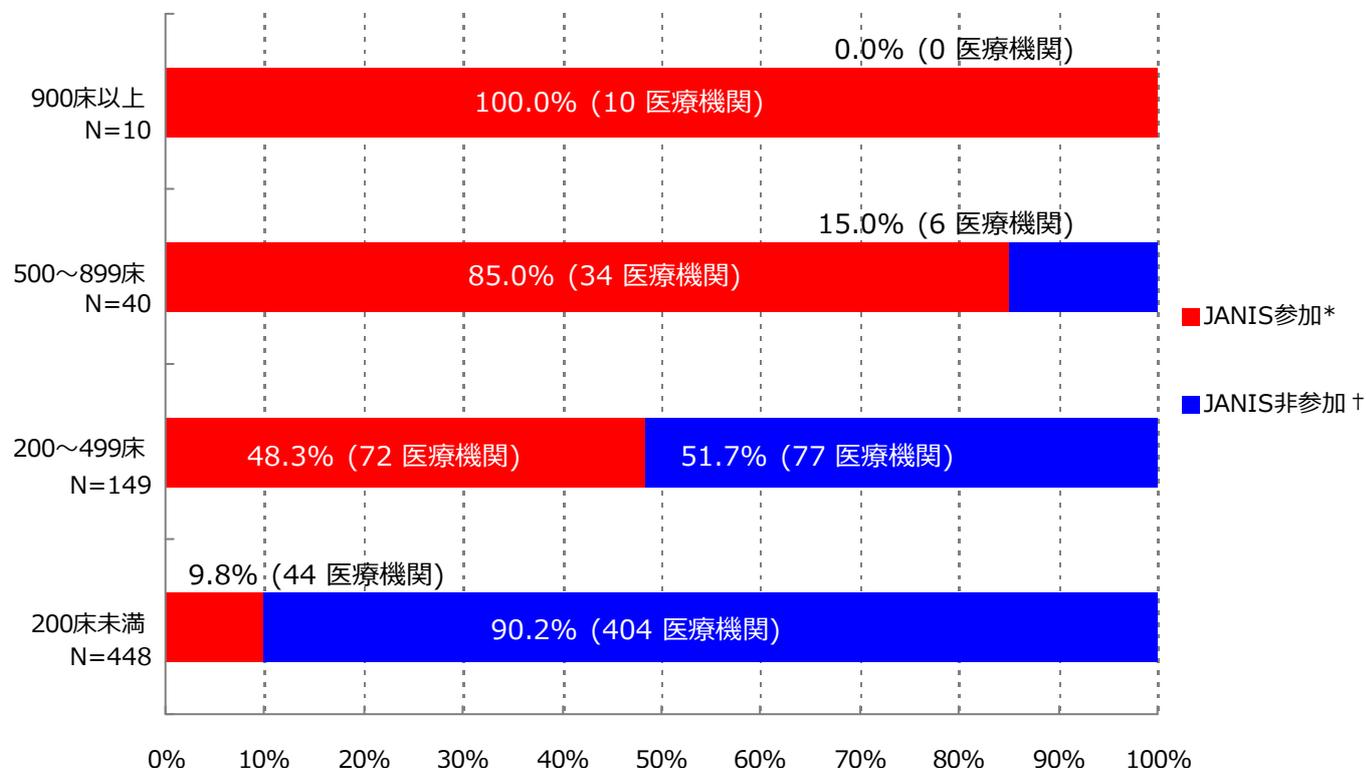
※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したものの。例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

### 2. 公開情報の箱ひげ図





### 1. 集計対象医療機関数(160医療機関)



\*JANIS参加 = 2019年1～3月 集計対象医療機関数

†JANIS非参加 = (2018年 都道府県別医療機関数 †) - (2019年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数      | 2018年 都道府県別医療機関数 † | 2019年1月～3月 集計対象医療機関数<br>(都道府県別医療機関数に占める割合) |          |
|----------|--------------------|--|----------|
| 900床以上   | 10                 | 10   | (100.0%) |
| 500～899床 | 40                 | 34   | (85.0%)  |
| 200～499床 | 149                | 72   | (48.3%)  |
| 200床未満   | 448                | 44   | (9.8%)   |
| 病床数不明    | -                  | 0  | ( - )    |
| 合計       | 647                | 160  | (24.7%)  |

† 2018年医療施設(動態)調査を参照した

(東京都)

公開情報 2019年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門 【入院検体】



## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数     | 陽性検体数<br>(分離菌数)     |
|--------|-----------|---------|---------------------|
| 呼吸器系検体 | 160       | 65,748  | 37,034<br>(80,224)  |
| 尿検体    | 160       | 31,998  | 16,527<br>(25,911)  |
| 便検体    | 156       | 16,401  | 6,879<br>(13,229)   |
| 血液検体   | 157       | 89,176  | 10,557<br>(11,952)  |
| 髄液検体   | 113       | 2,816   | 113<br>(119)        |
| その他    | 158       | 43,815  | 18,827<br>(34,095)  |
| 合計     | 160       | 249,954 | 89,937<br>(165,530) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

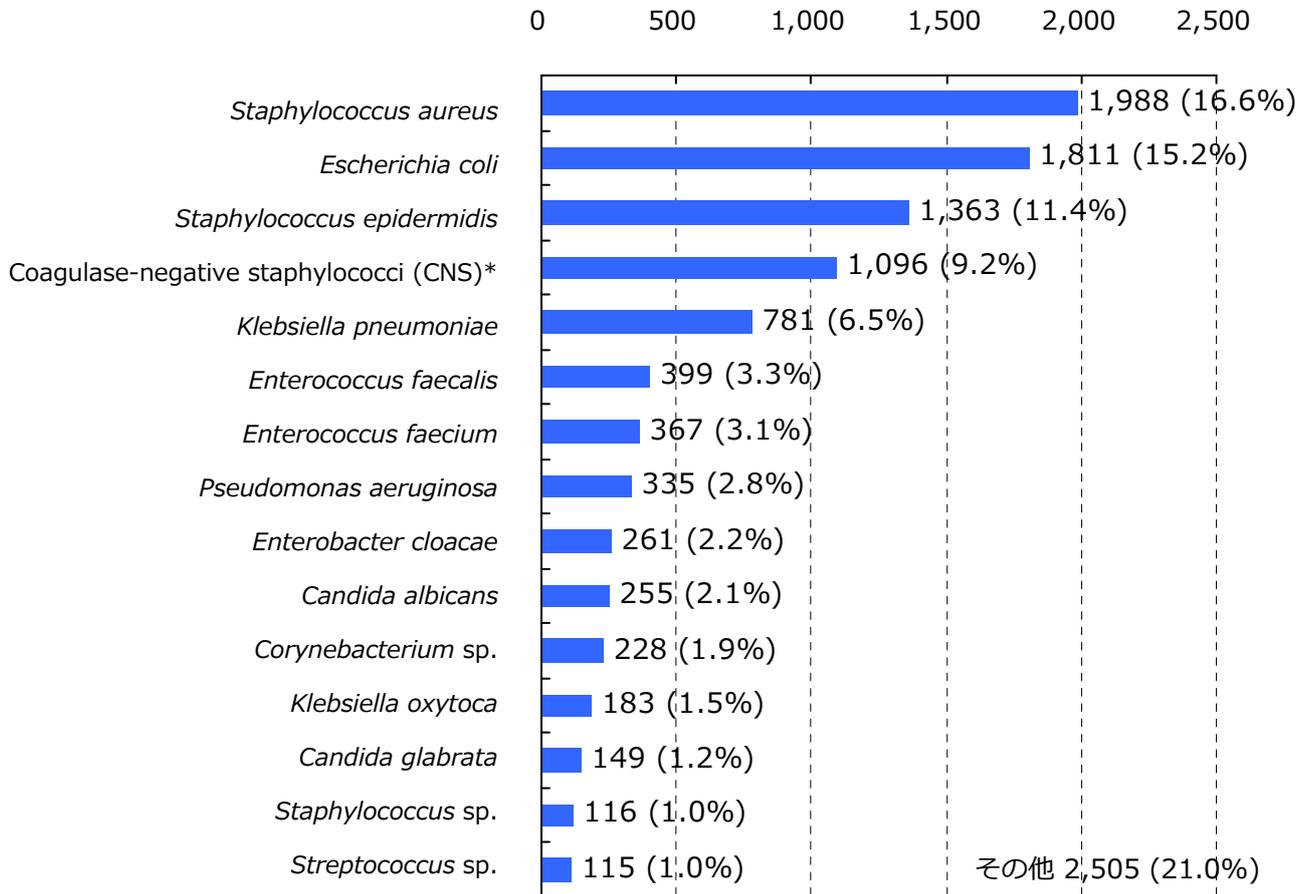
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=11,952)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

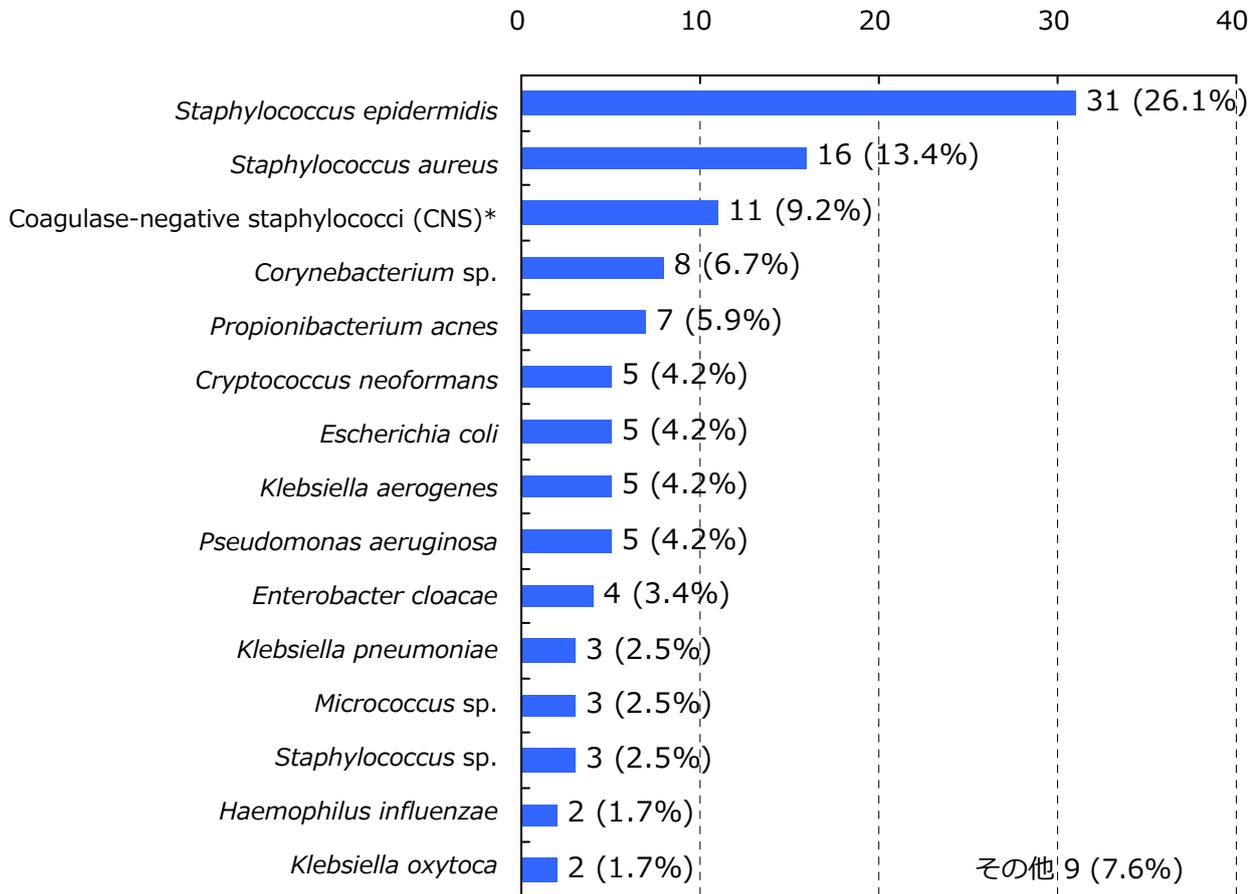
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=119)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

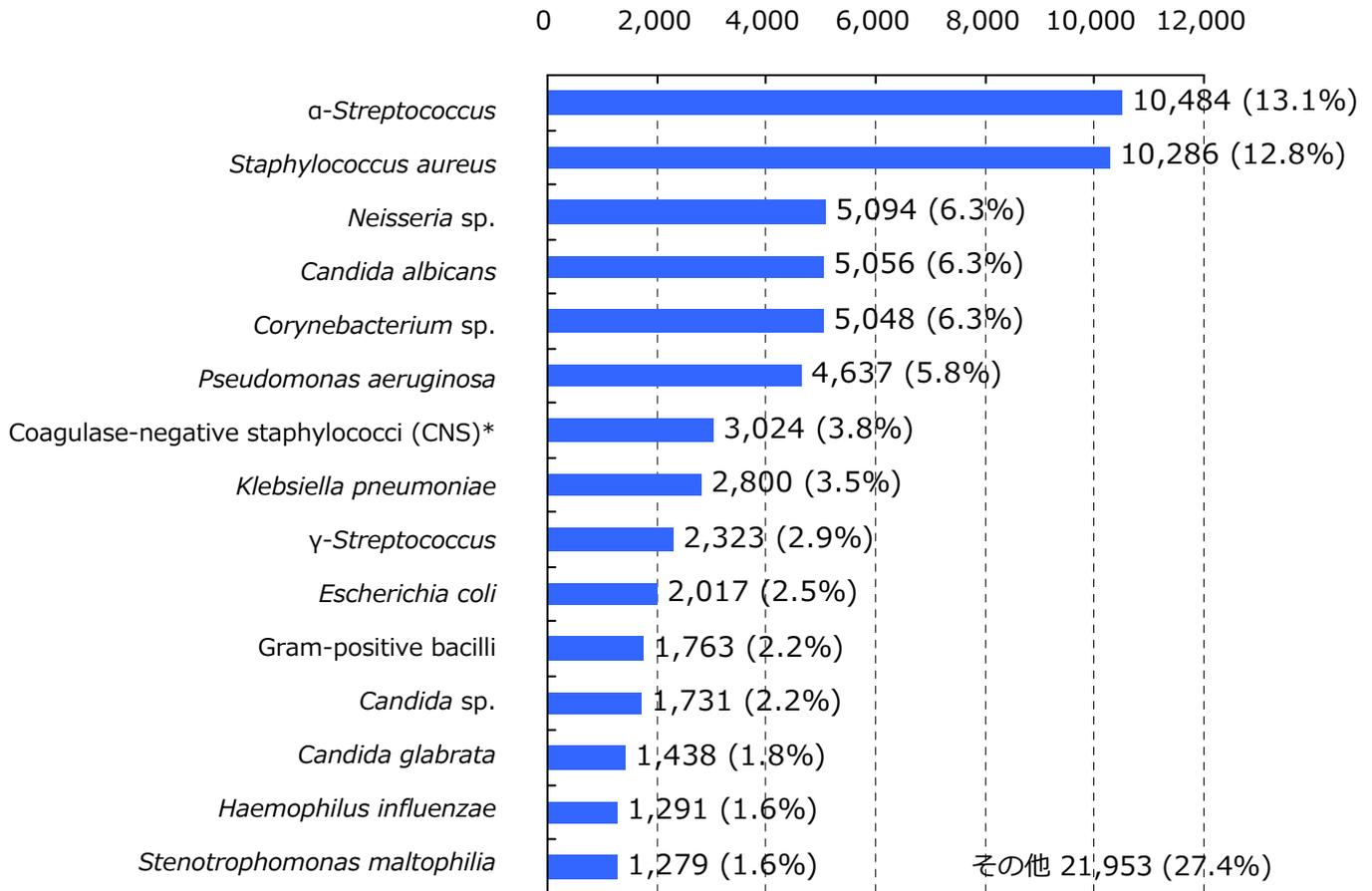
髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 呼吸器系検体分離菌 (N=80,224)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・常在菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：喀出痰(検査材料コード101)、気管内採痰(同102)、気管支洗浄液(同103)、咽頭粘液(同104)、鼻腔内(同105)、口腔内(同106)、生検材料(肺)(同107)、その他(呼吸器)(同109)、胸水(同404)

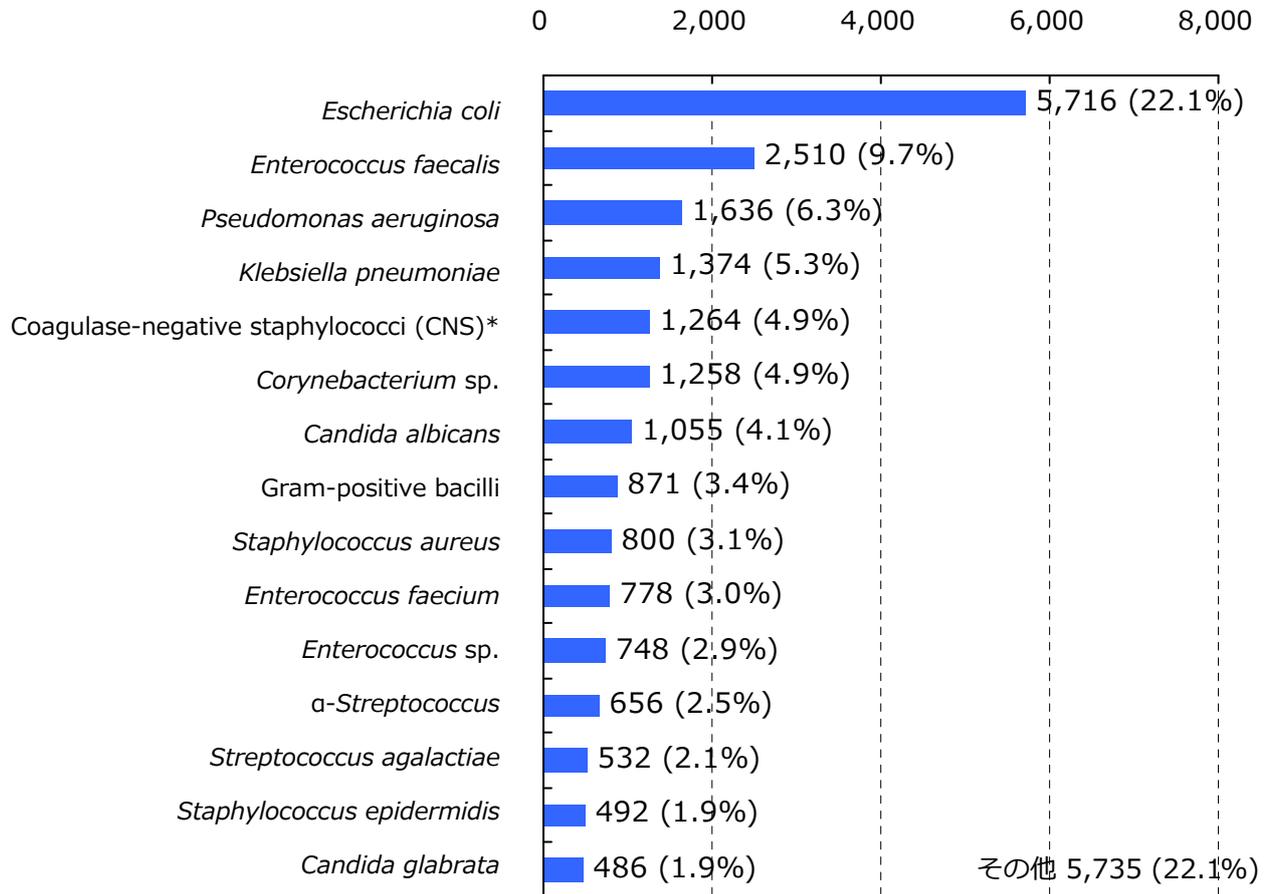
呼吸器系検体分離菌数割合 = (対象菌の呼吸器系検体分離菌数) ÷ (呼吸器系検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 尿検体分離菌 (N=25,911)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

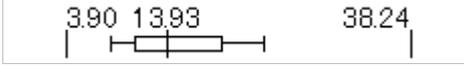
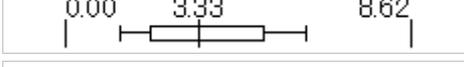
集計対象検査材料：自然排尿(検査材料コード201)、採尿カテーテル尿(同202)、留置カテーテル尿(同203)、カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能)(同206)

尿検体分離菌数割合 = (対象菌の尿検体分離菌数) ÷ (尿検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

#### 4. 主要菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                           | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布   |
|---------------------------|------------------------|---|
| 検体提出患者数(100床あたり)          | 81,246人<br>(128.5)※    |   |
| <i>S. aureus</i>          | 10,711人<br>(13.18%)    | 3.90 13.93 38.24<br>   |
| <i>S. epidermidis</i>     | 2,762人<br>(3.40%)      | 0.00 1.80 31.17<br>    |
| <i>S. pneumoniae</i>      | 843人<br>(1.04%)        | 0.00 0.82 6.33<br>     |
| <i>E. faecalis</i>        | 4,369人<br>(5.38%)      | 0.00 4.54 28.36<br>    |
| <i>E. faecium</i>         | 1,790人<br>(2.20%)      | 0.00 1.61 24.68<br>    |
| <i>E. coli</i>            | 10,080人<br>(12.41%)    | 2.32 13.11 43.28<br>  |
| <i>K. pneumoniae</i>      | 4,557人<br>(5.61%)      | 0.00 5.86 32.09<br>  |
| <i>Enterobacter spp.</i>  | 2,997人<br>(3.69%)      | 0.00 3.33 8.62<br>   |
| <i>Enterobacteriaceae</i> | 18,893人<br>(23.25%)    | 6.96 24.46 72.39<br> |
| <i>P. aeruginosa</i>      | 5,425人<br>(6.68%)      | 0.00 6.69 44.12<br>  |
| <i>Acinetobacter spp.</i> | 622人<br>(0.77%)        | 0.00 0.49 6.33<br>   |

入院として報告された検体を集計

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

$$= (\text{集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計}) \div (\text{集計対象医療機関の検体提出患者数合計}) \times 100$$

$$¶\text{分離率} = (\text{対象菌の分離患者数}) \div (\text{検体提出患者数}) \times 100$$

※ 病床数が登録されている医療機関のみが対象

## 5. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                        | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布  |
|------------------------|------------------------|--|
| 検体提出患者数(100床あたり)       | 81,246人<br>(128.5)※    |  |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)   | 4,274人<br>(5.26%)      | 1.16 5.21 24.66<br>   |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>              |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)      | 11人<br>(0.01%)         | 0.00 0.00 1.04<br>    |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)      | 305人<br>(0.38%)        | 0.00 0.18 5.06<br>    |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP)          | 42人<br>(0.05%)         | 0.00 0.00 0.67<br>    |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)    | 1人<br>(0.00%)          | 0.00 0.00 0.15<br>  |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)   | 247人<br>(0.30%)        | 0.00 0.00 1.47<br>  |
| カルバペネム耐性緑膿菌            | 478人<br>(0.59%)        | 0.00 0.33 9.70<br>  |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌     | 369人<br>(0.45%)        | 0.00 0.17 17.65<br> |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌      | 2,373人<br>(2.92%)      | 0.00 2.95 21.64<br> |
| フルオロキノロン耐性大腸菌          | 3,308人<br>(4.07%)      | 0.00 4.46 22.39<br> |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

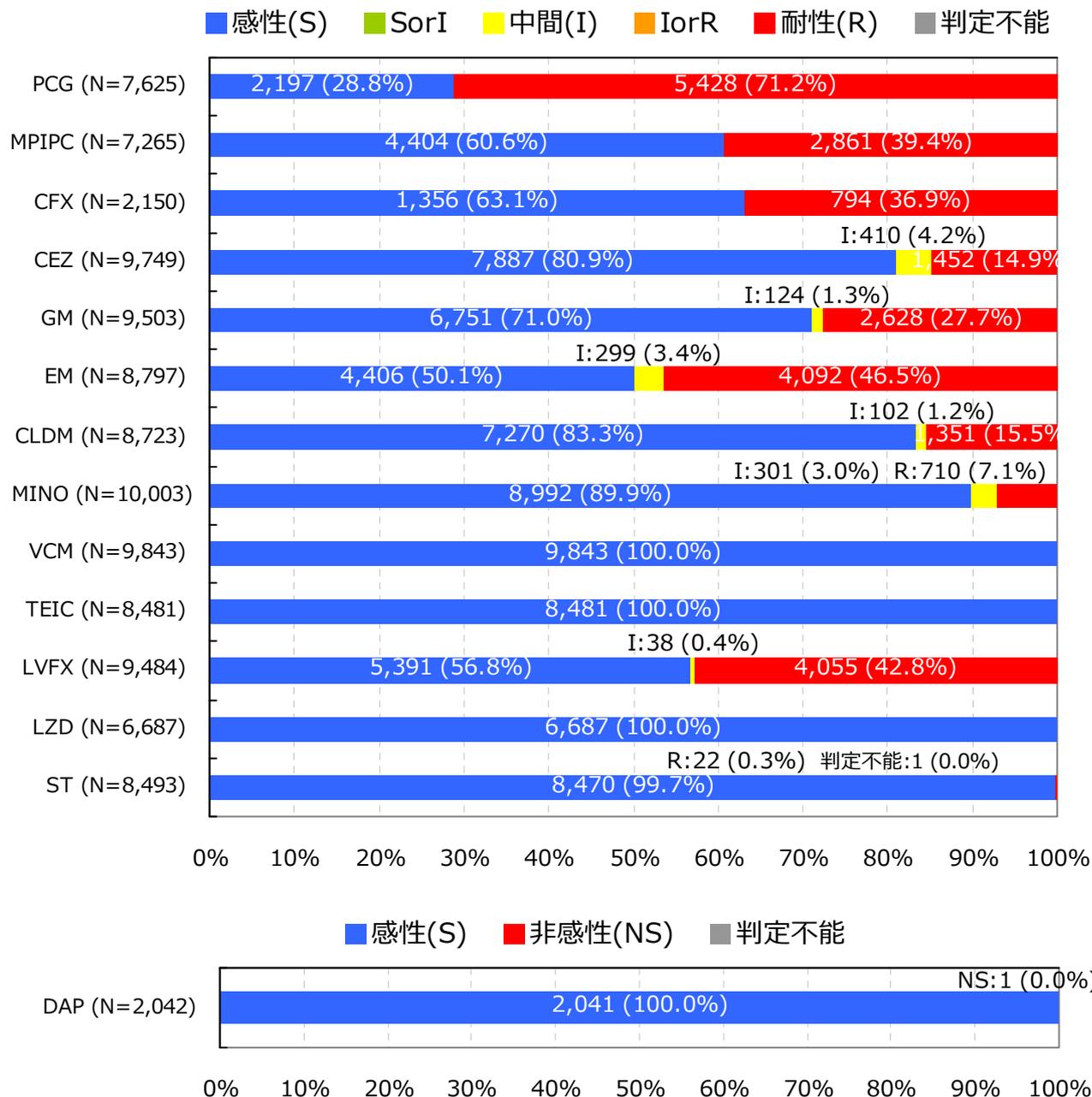
= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

※ 病床数が登録されている医療機関のみが対象

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (ALL) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

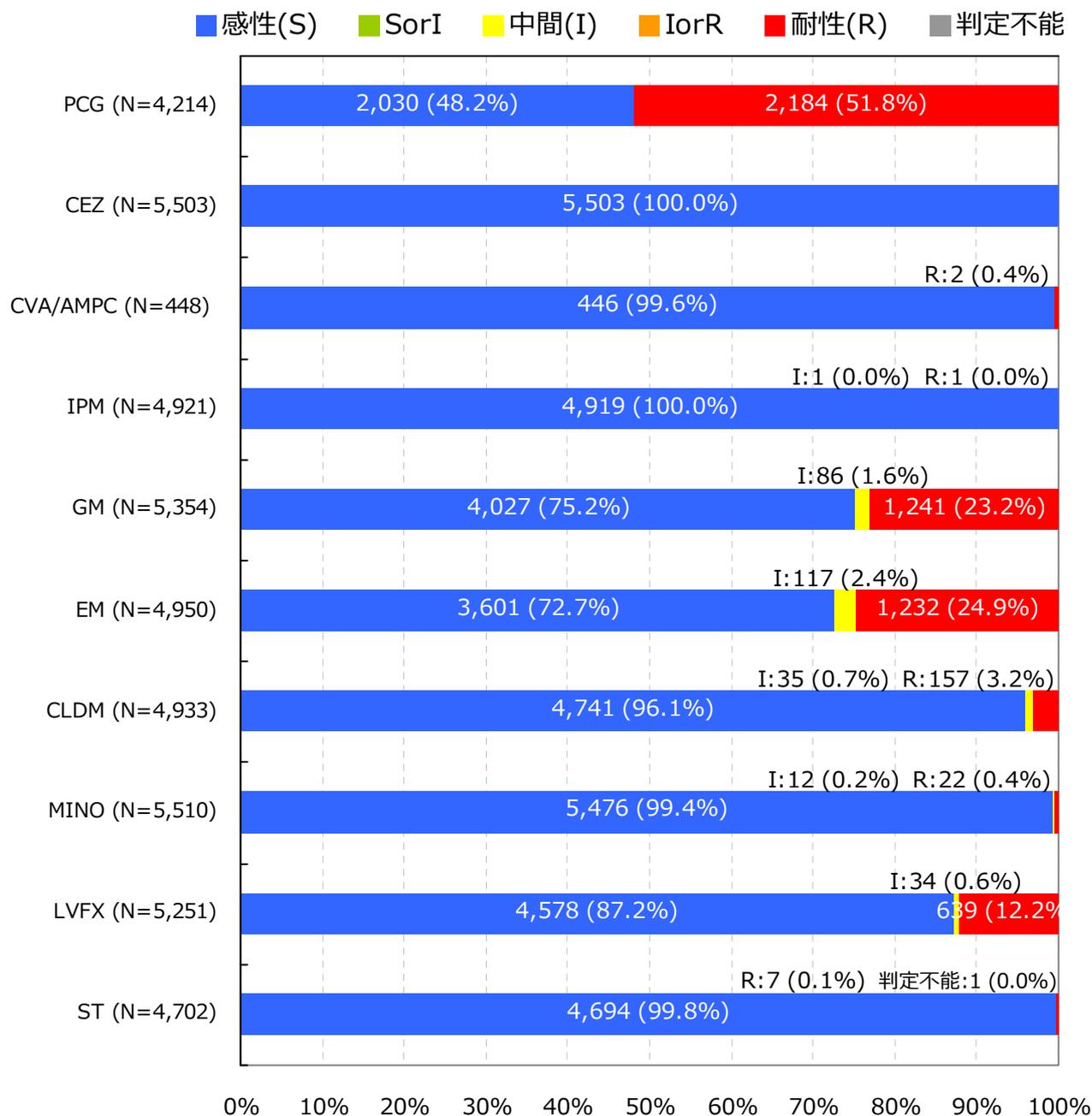
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

†菌名コード: 1301, 1303～1306と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

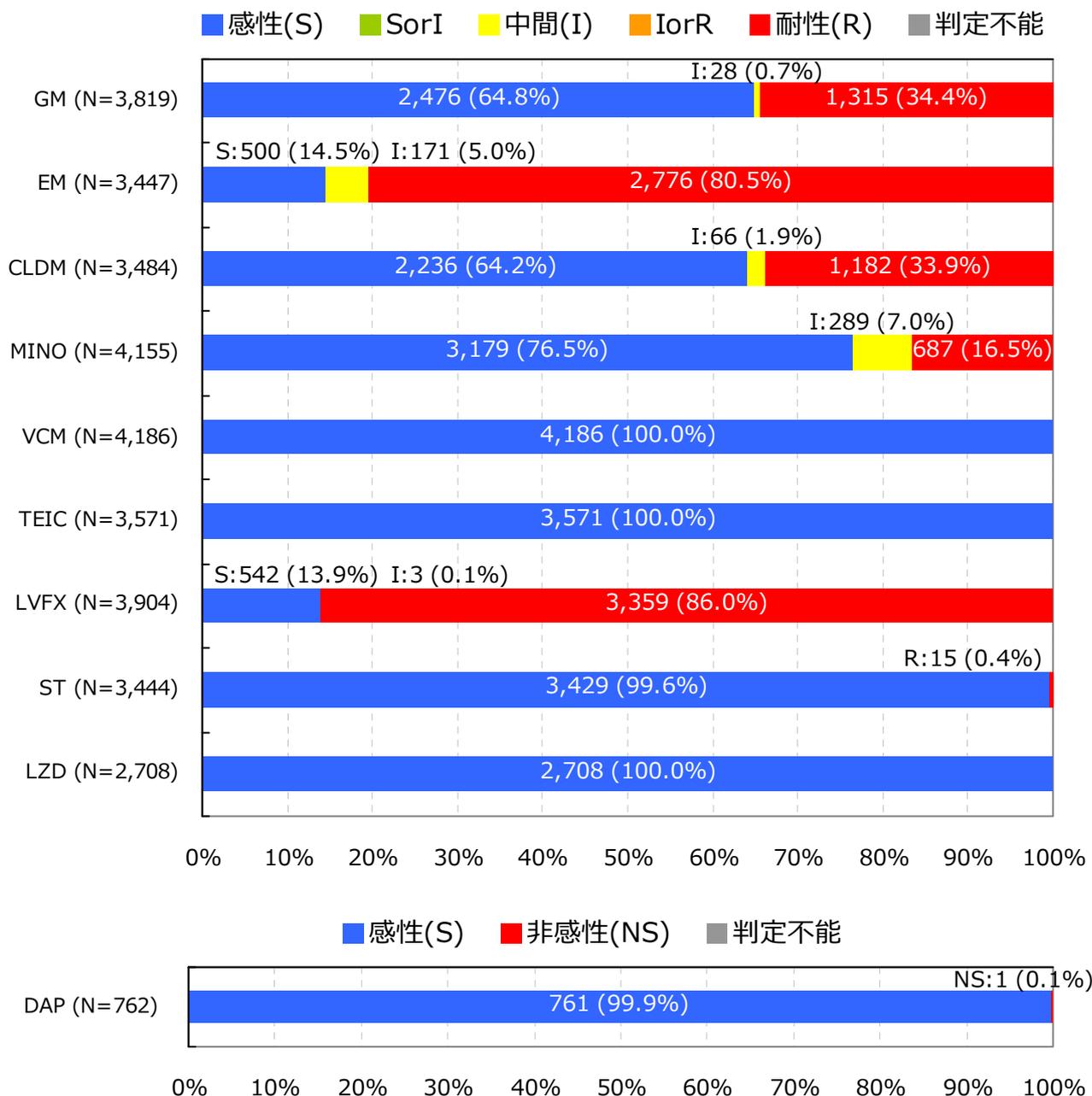
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1304, 1305, 1306と報告された菌、または菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208 (オキサリリン) および抗菌薬コード：1606 (セフォキシチン) の感受性結果「S」の菌 (一方が「S」で他方が未測定の場合を含む)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

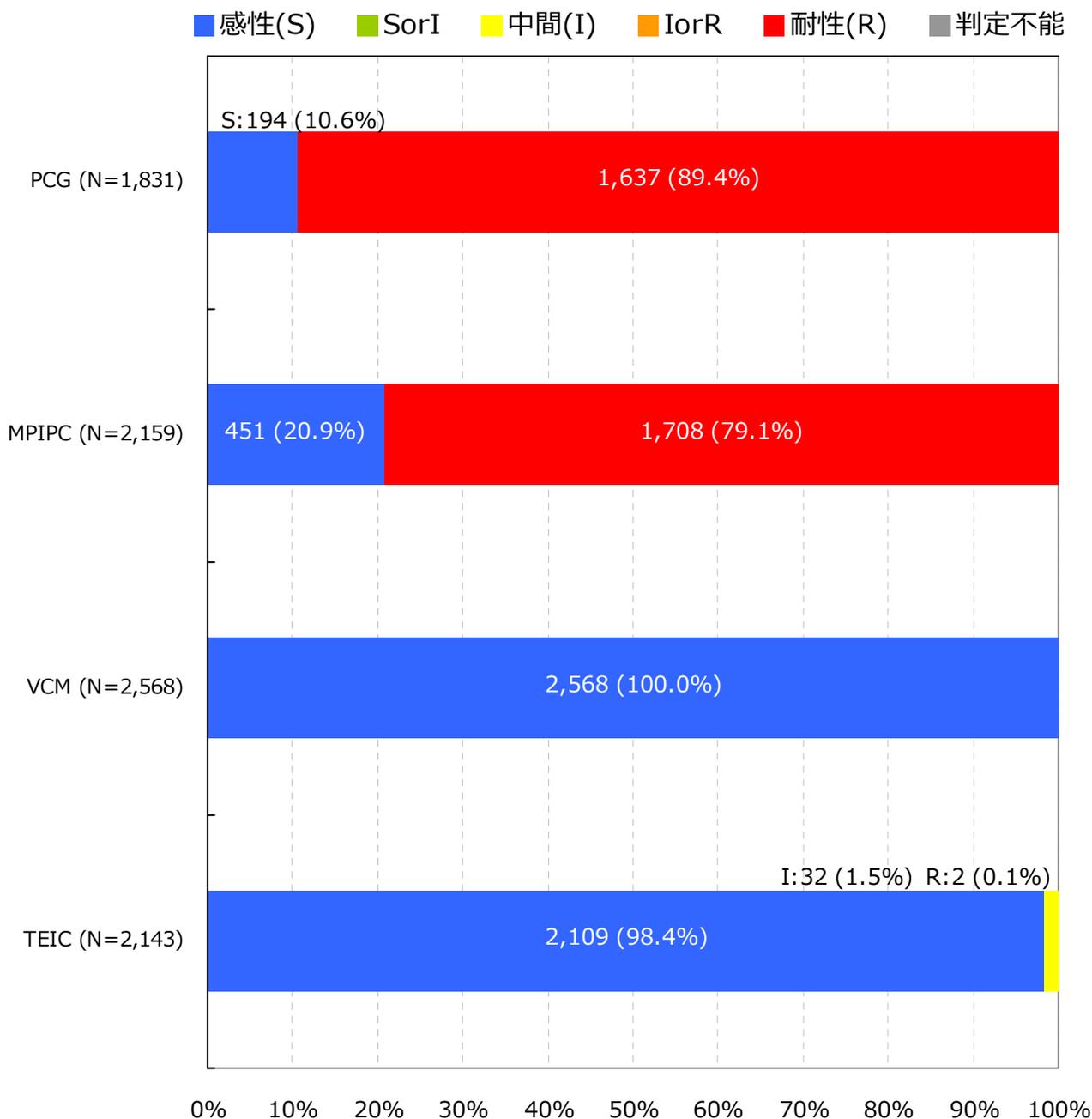
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1303と報告された菌、または菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208（オキサシリン）または抗菌薬コード：1606（セフォキシチン）の感受性結果「R」の菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

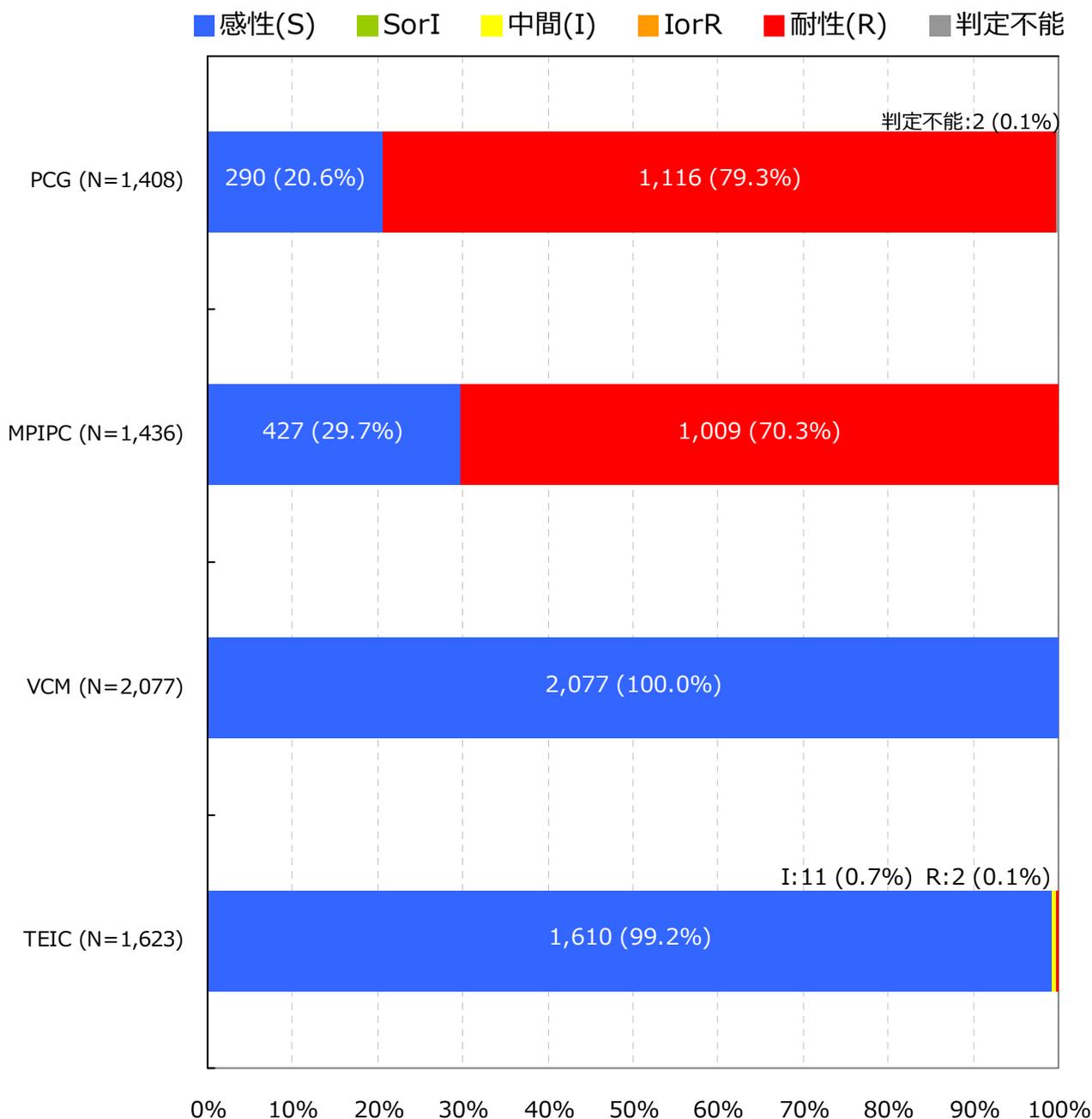
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

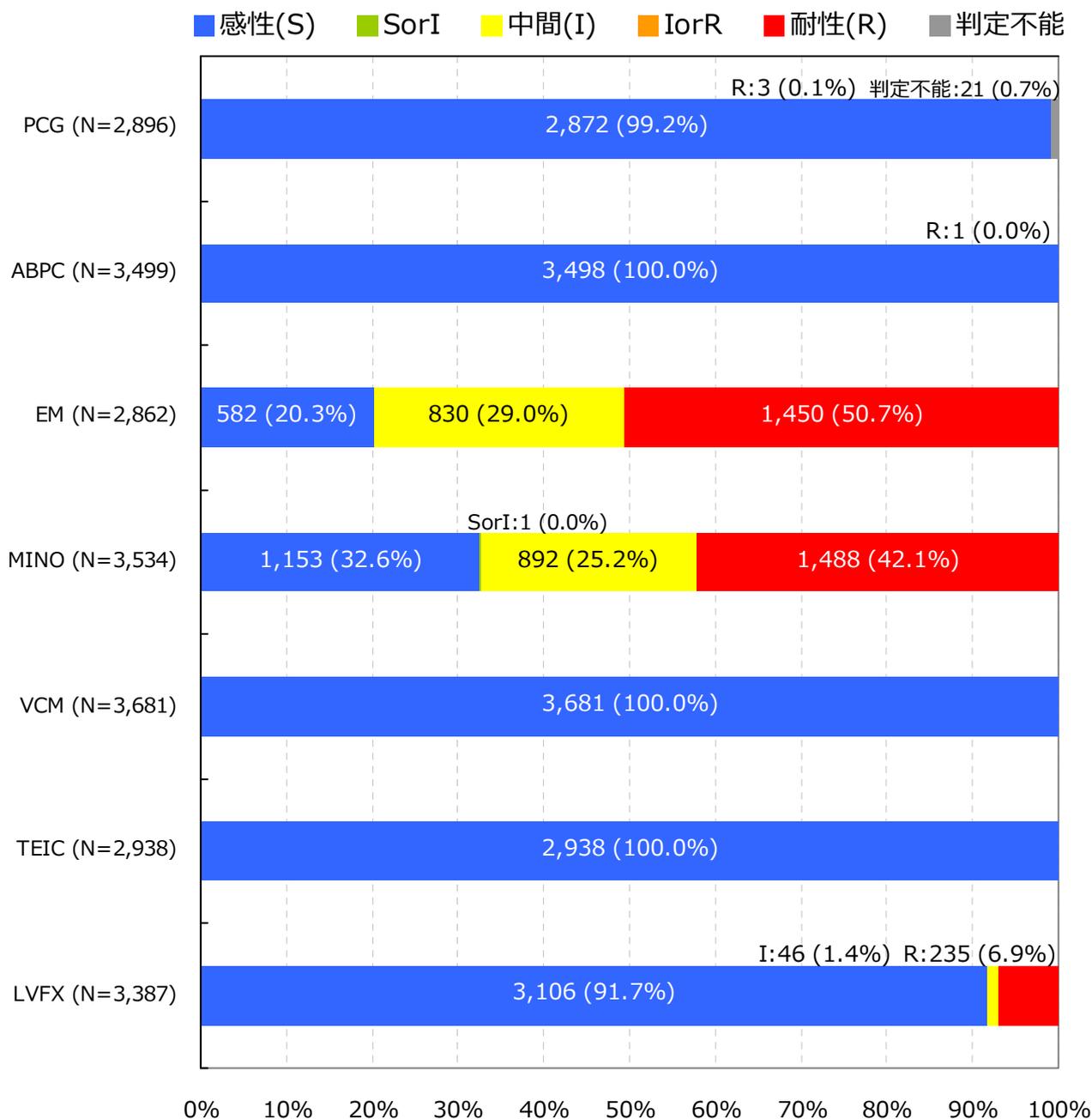
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

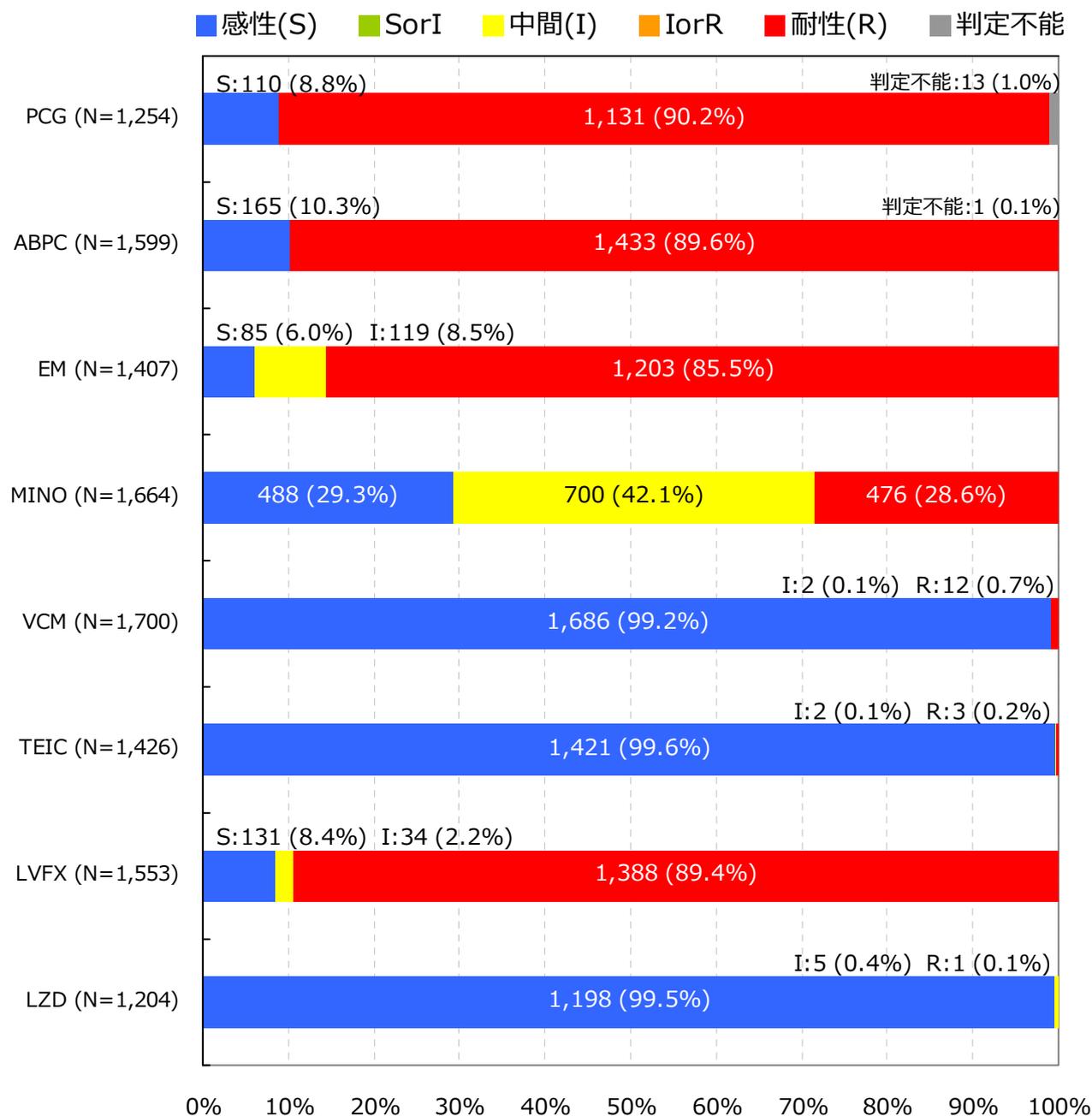
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1205, 1206と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

(東京都)

公開情報 2019年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門 【入院検体】

## 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †

報告はありませんでした

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

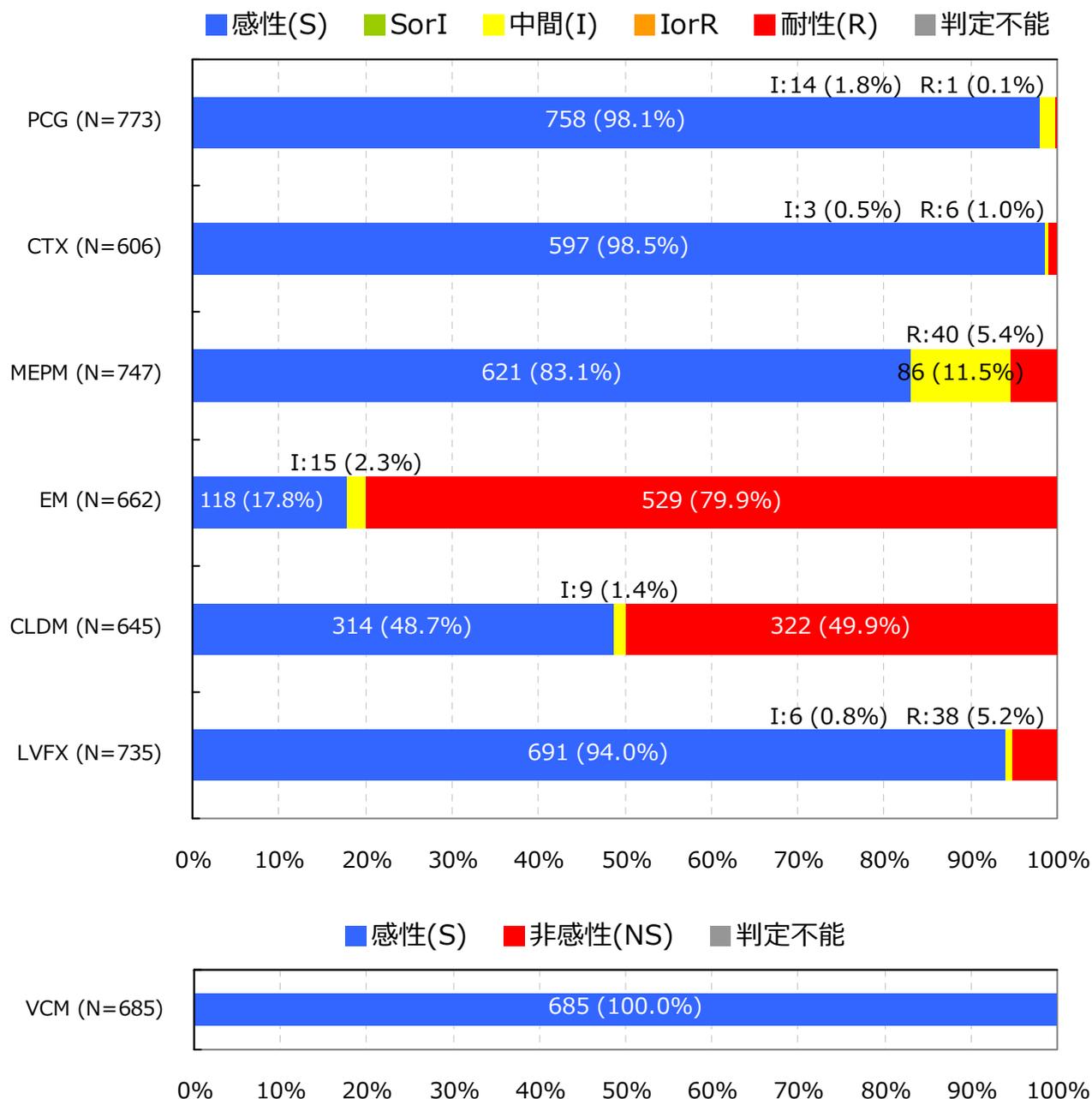
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1131と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

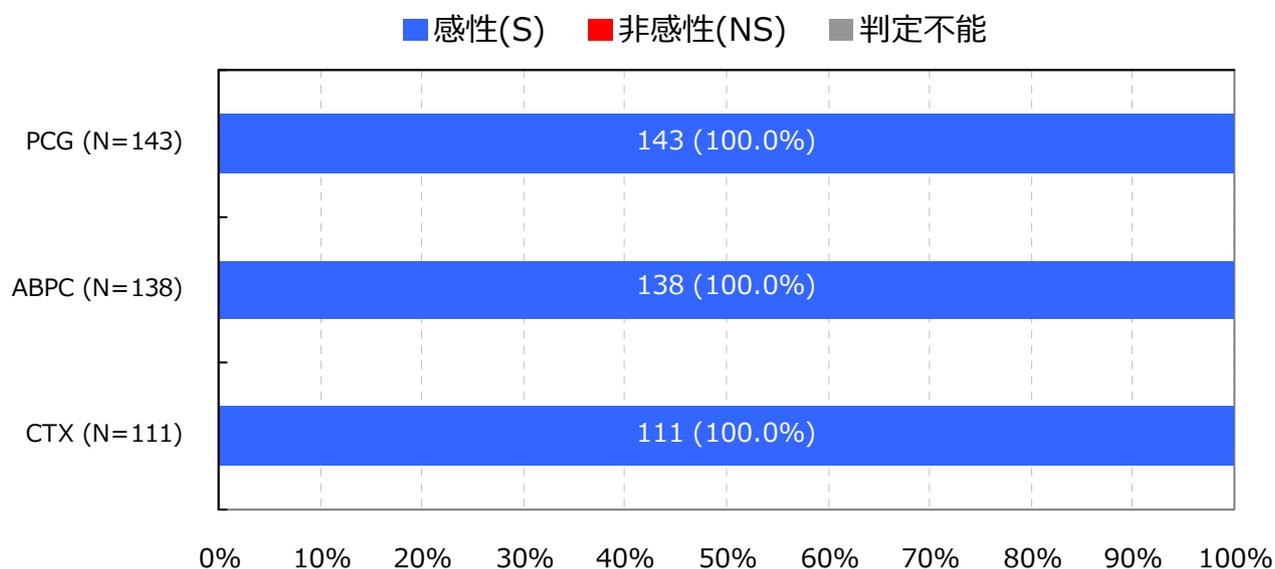
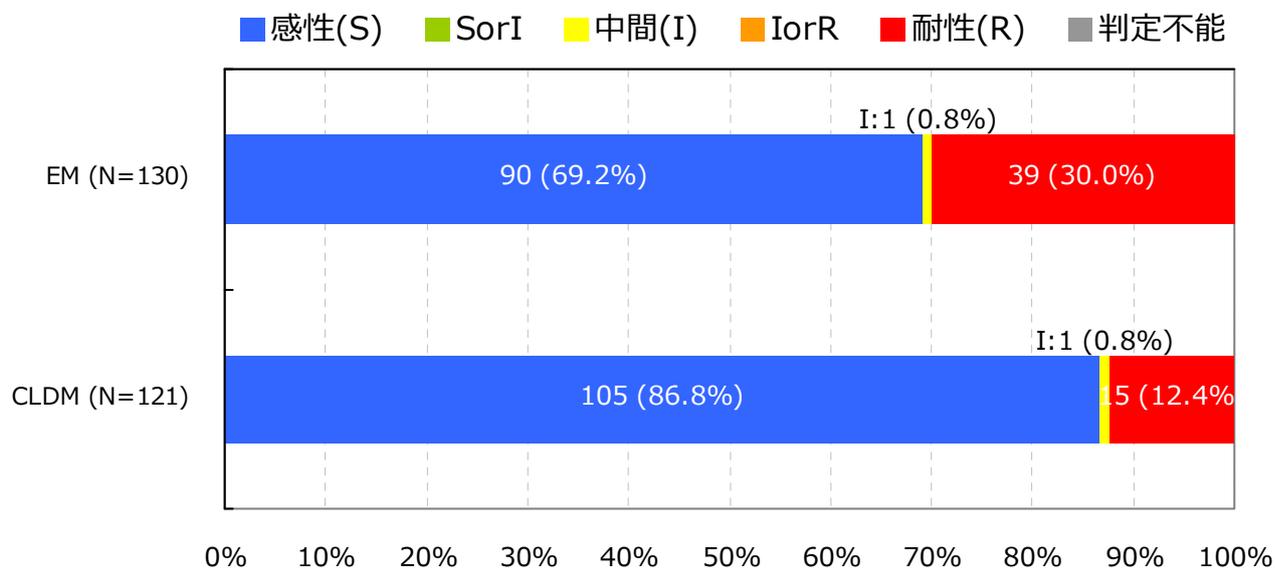
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

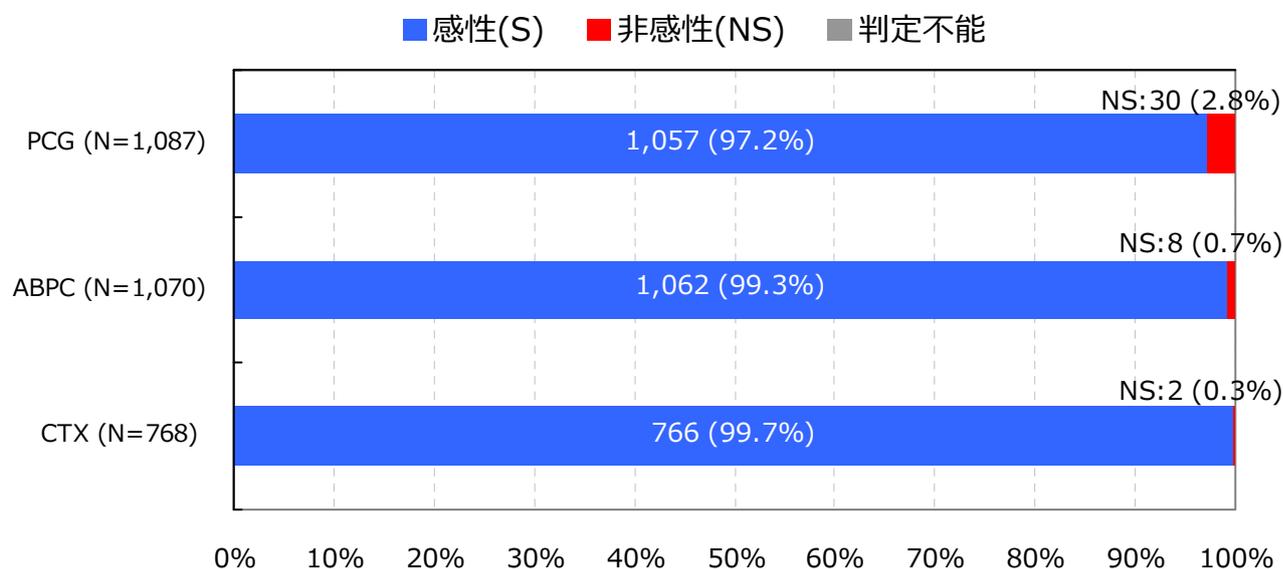
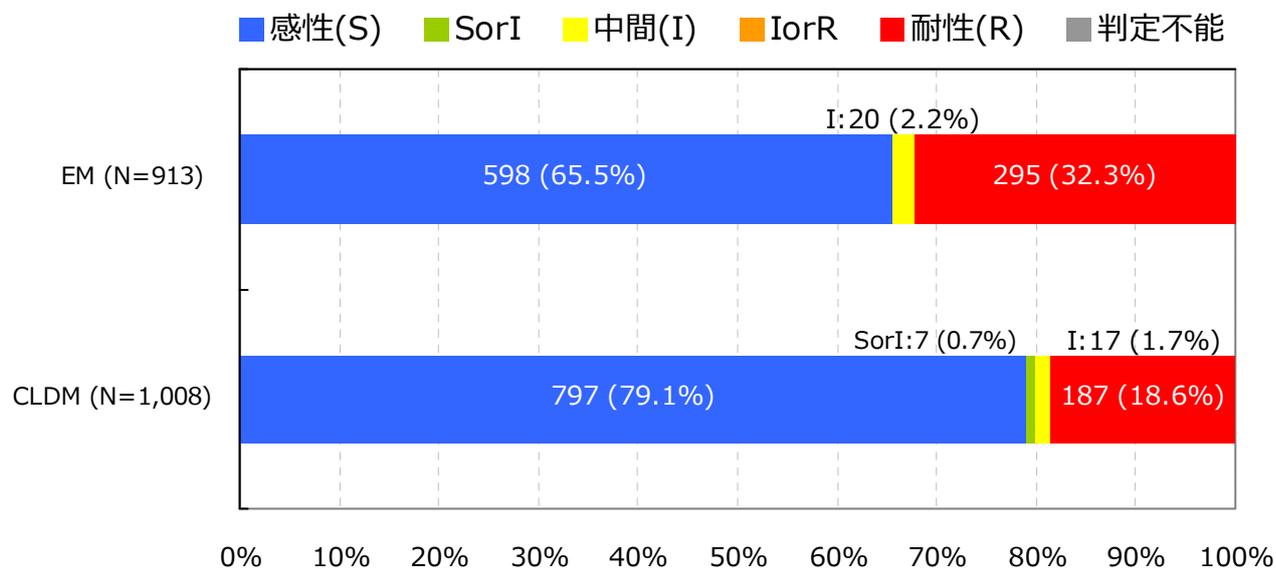
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1111と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

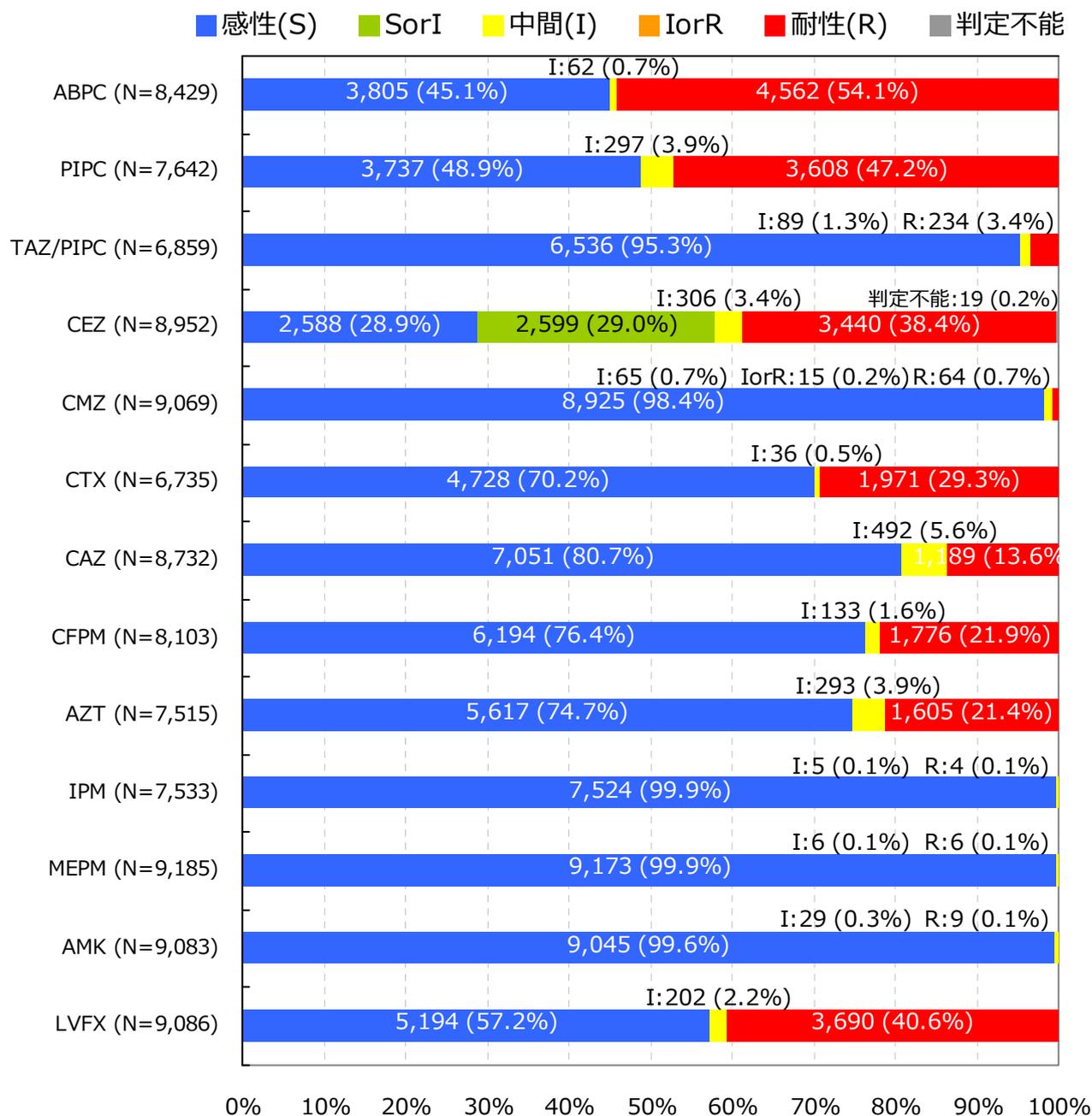
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1114と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

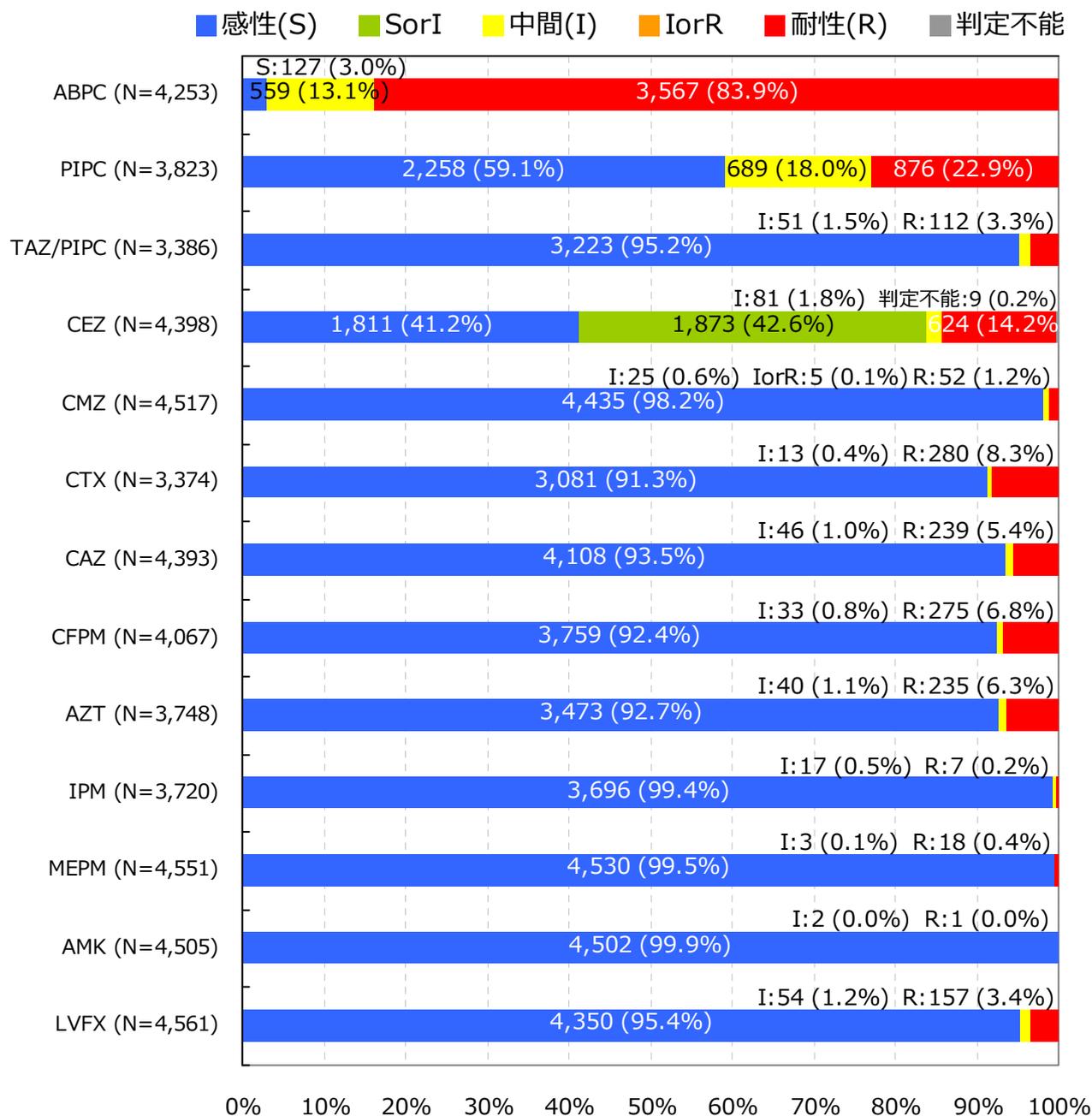
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

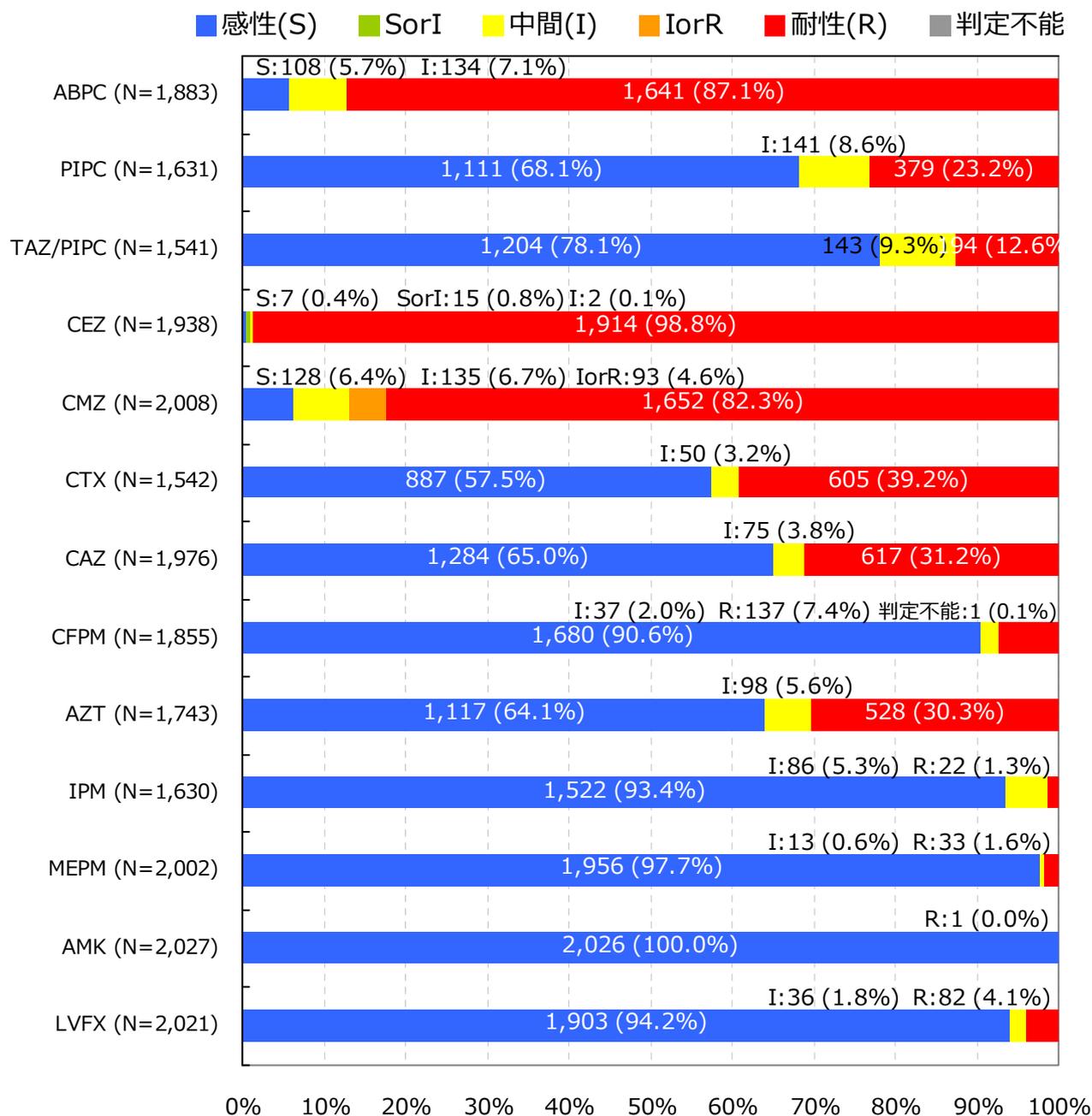
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2351と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

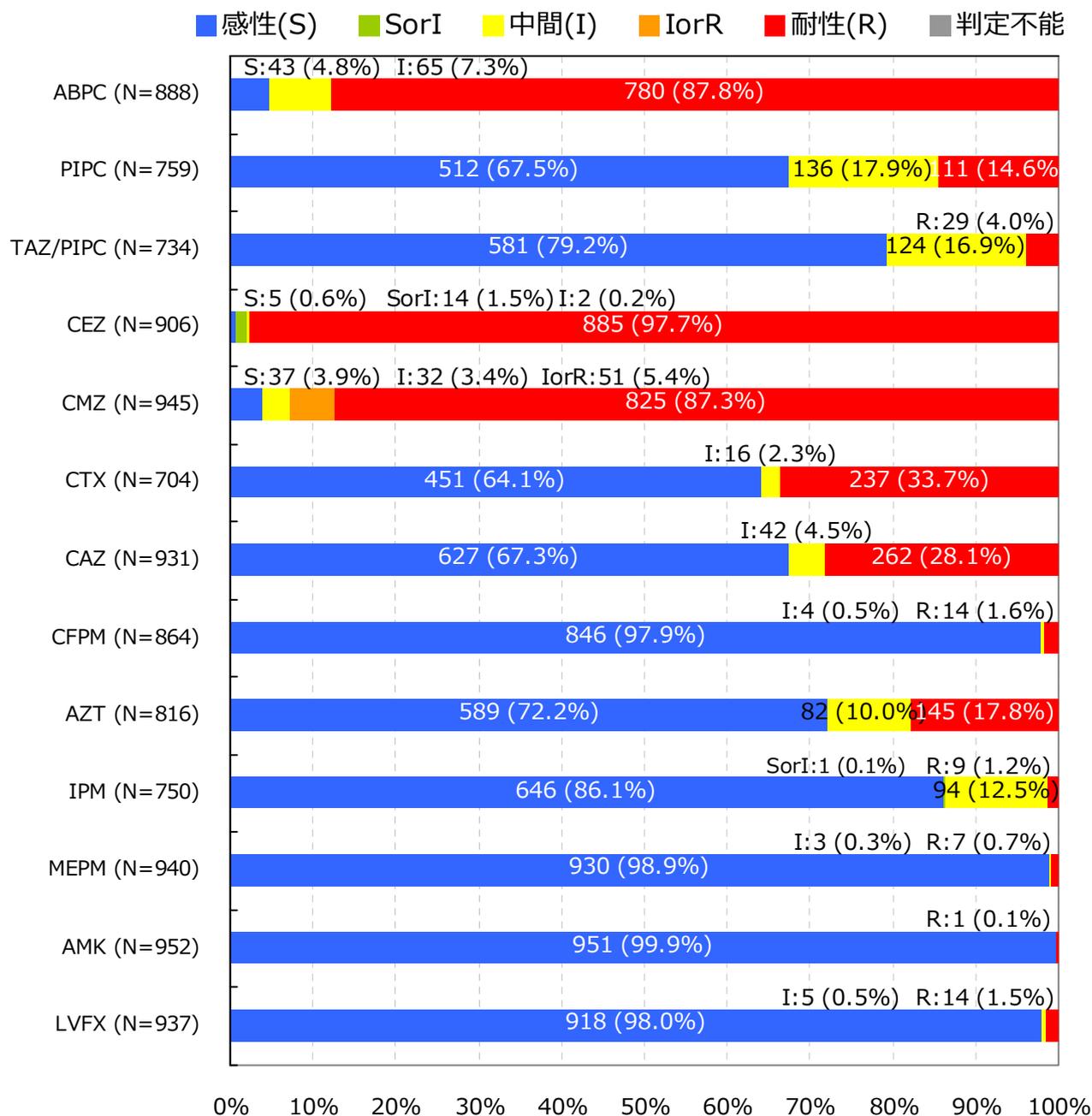
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2151と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

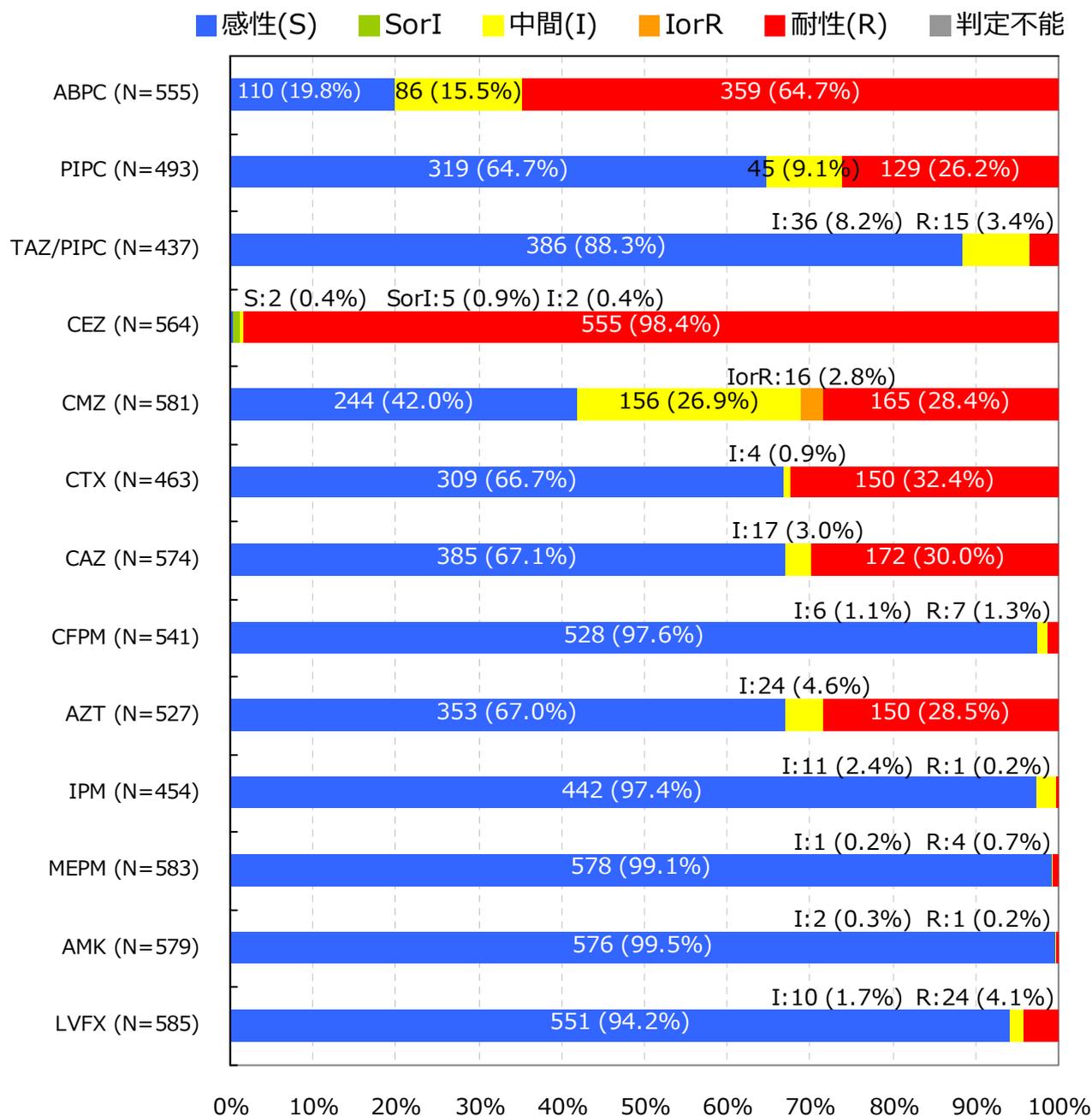
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2152と報告された菌 (旧名: *Enterobacter aerogenes*)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

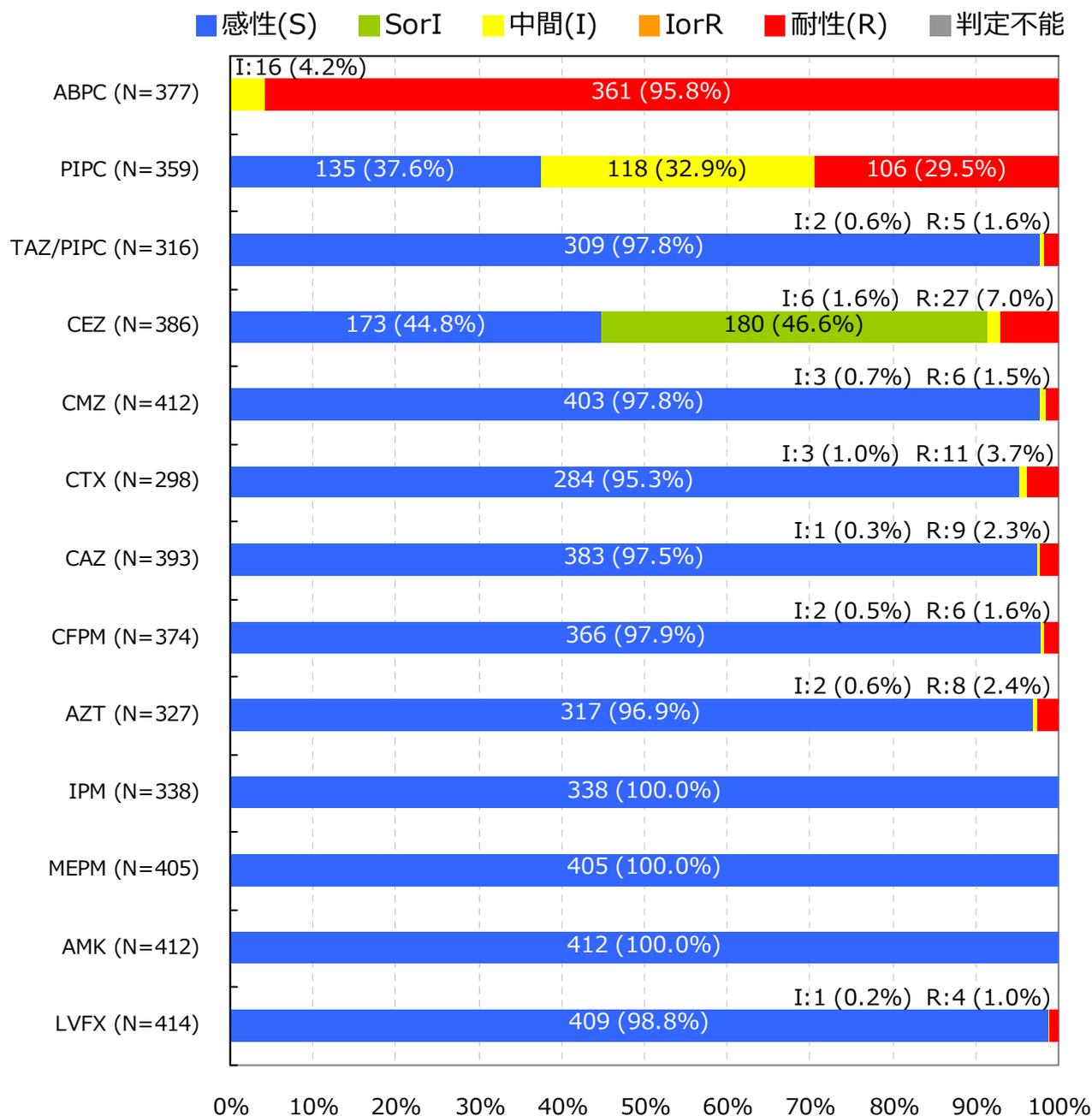
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

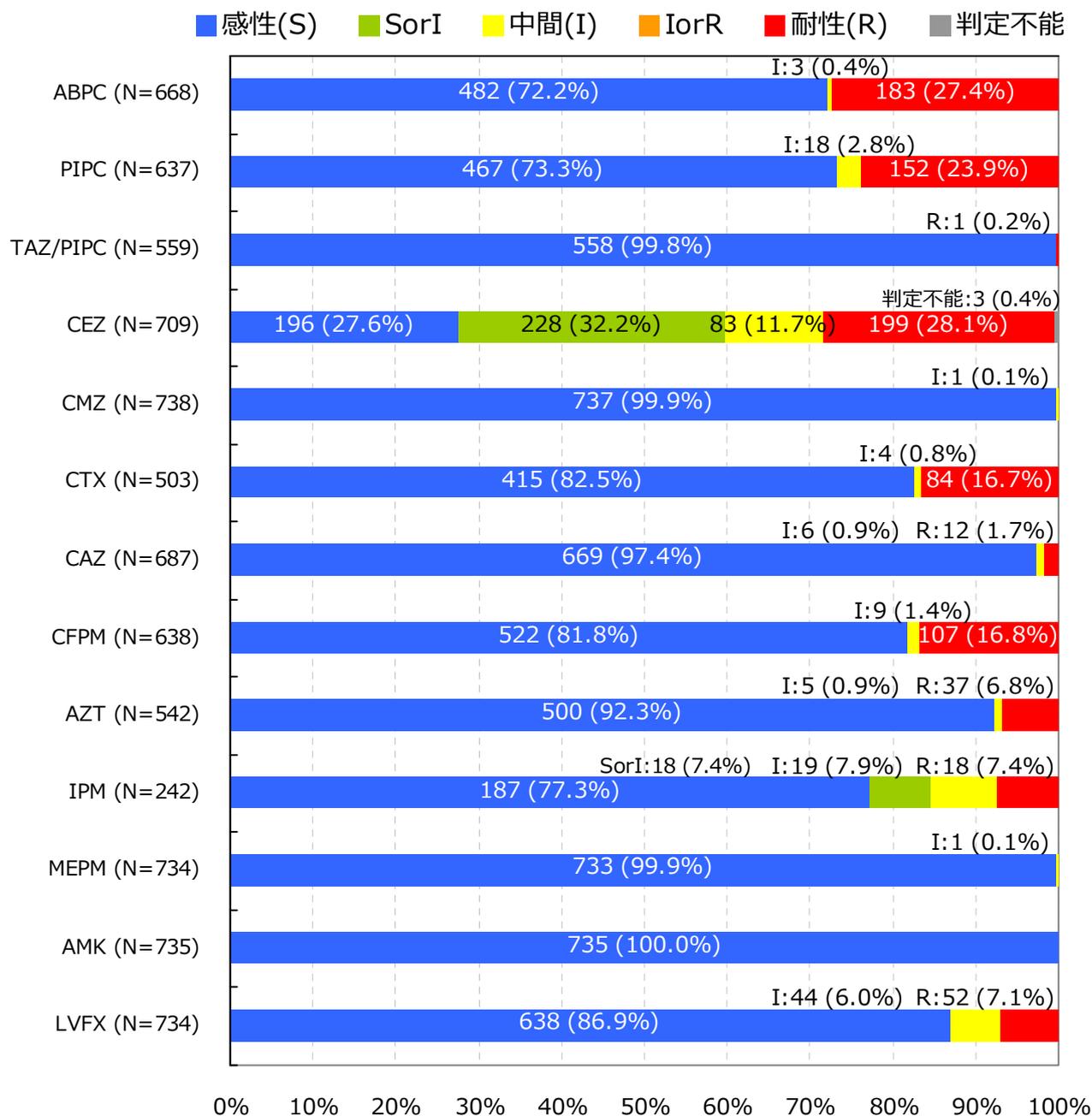
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

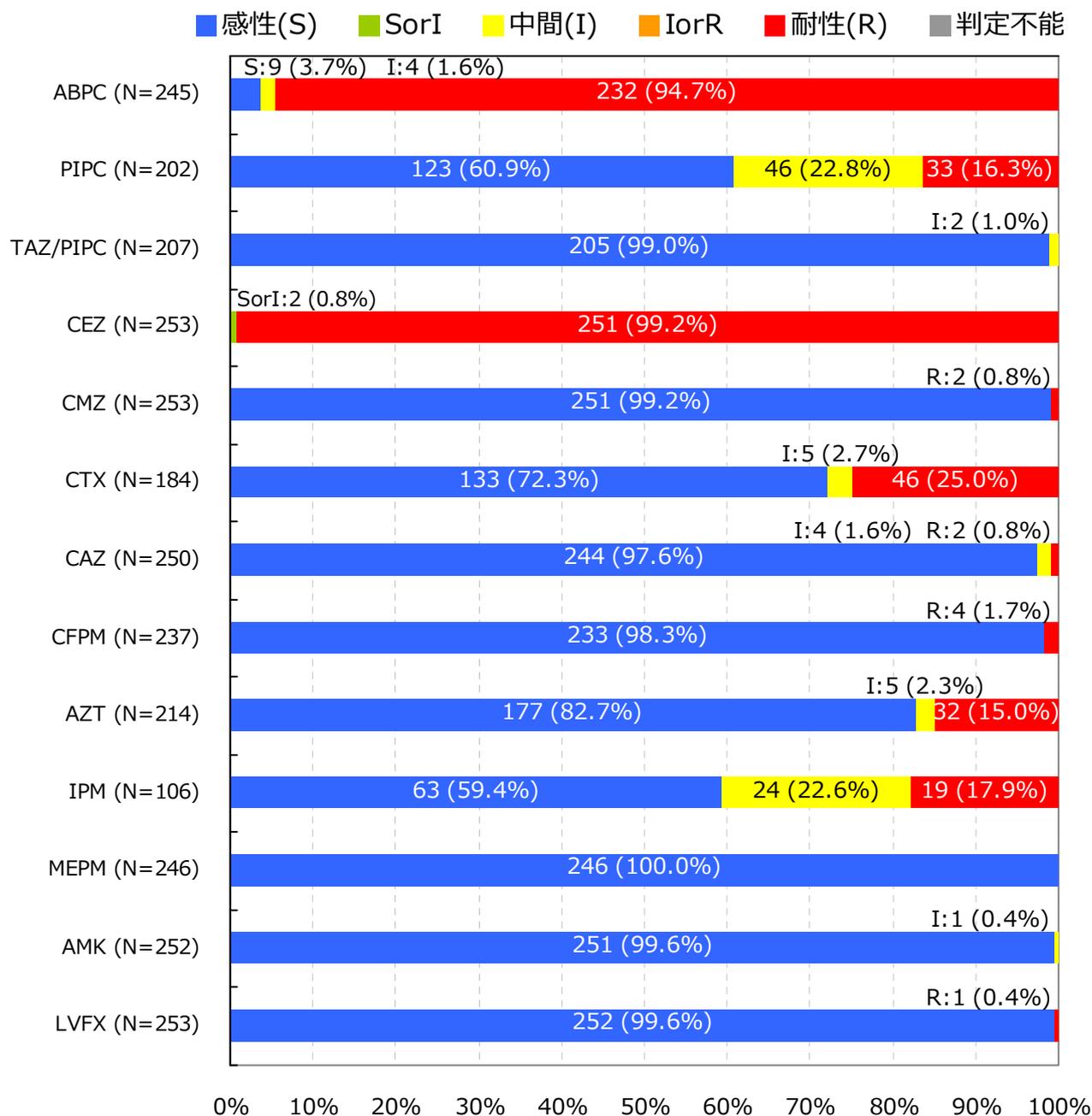
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2201と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

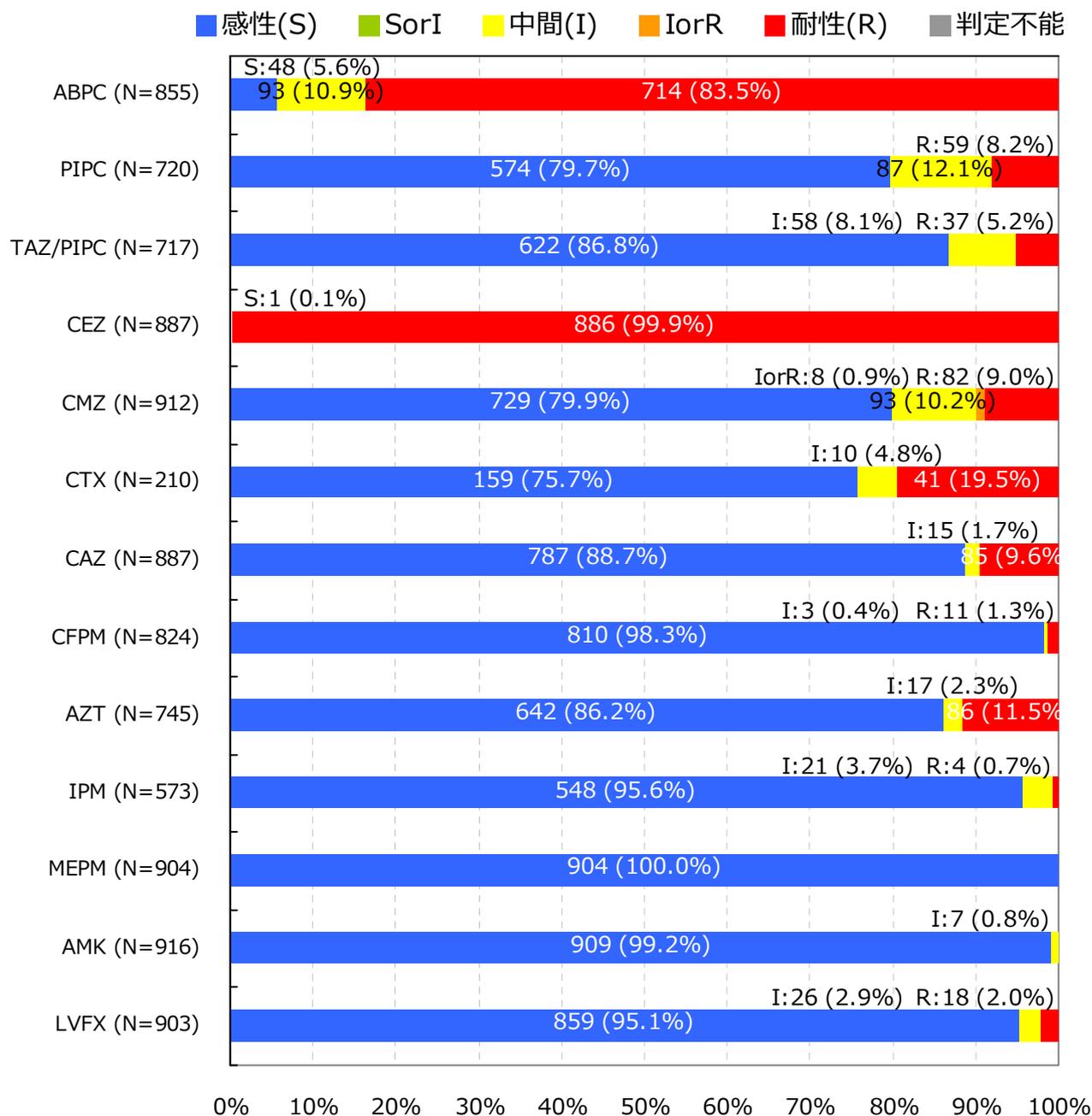
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

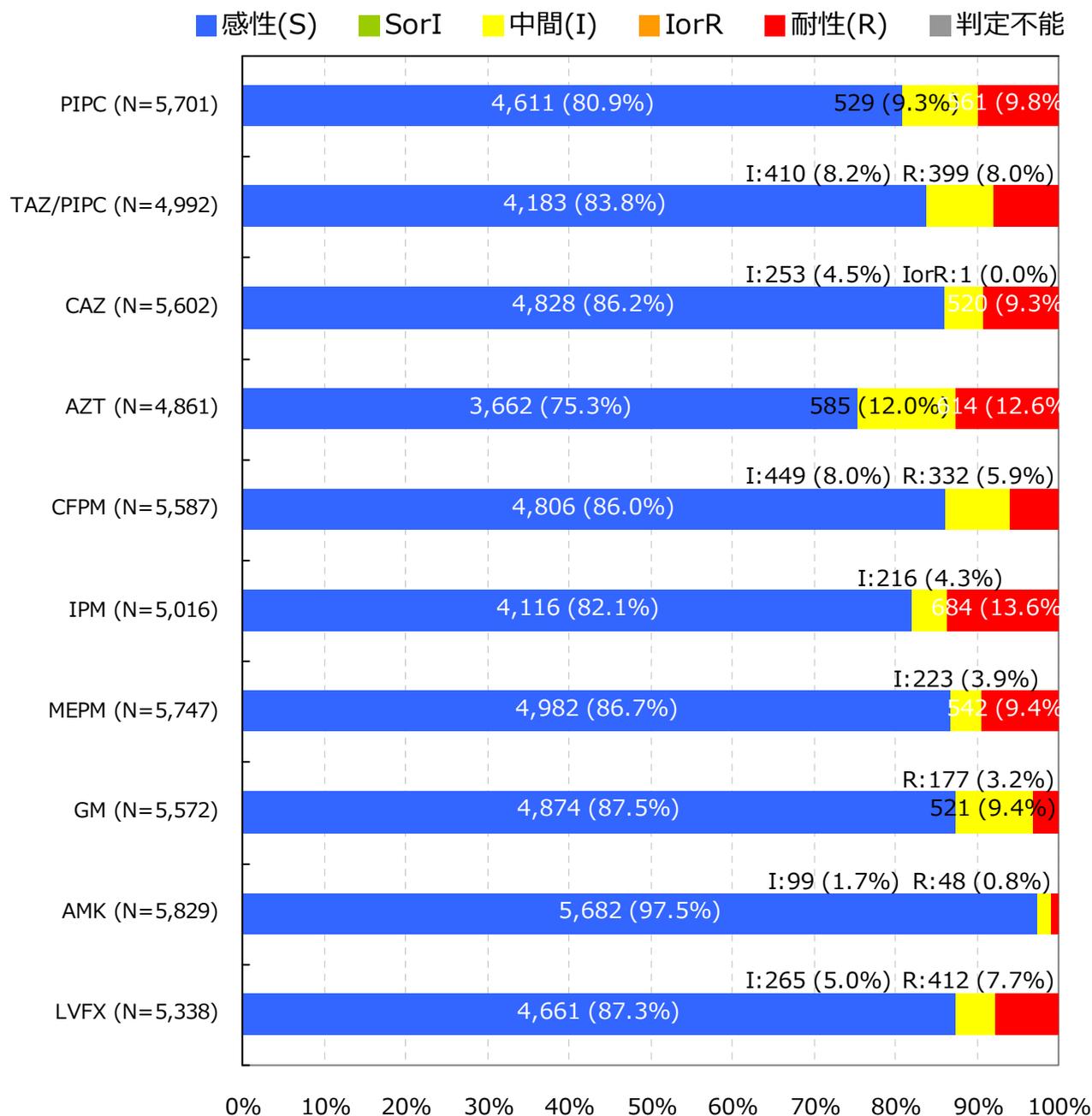
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

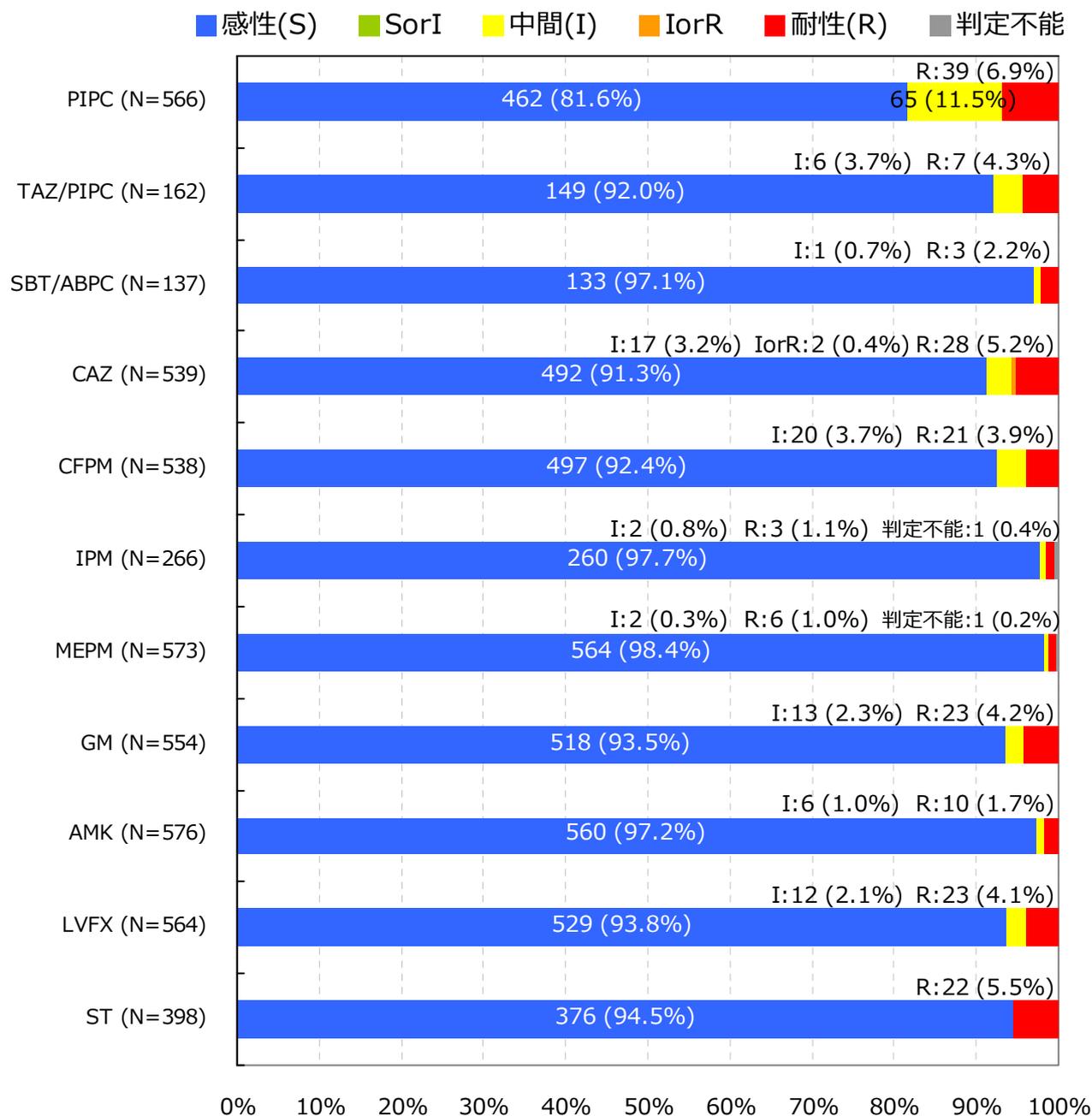
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

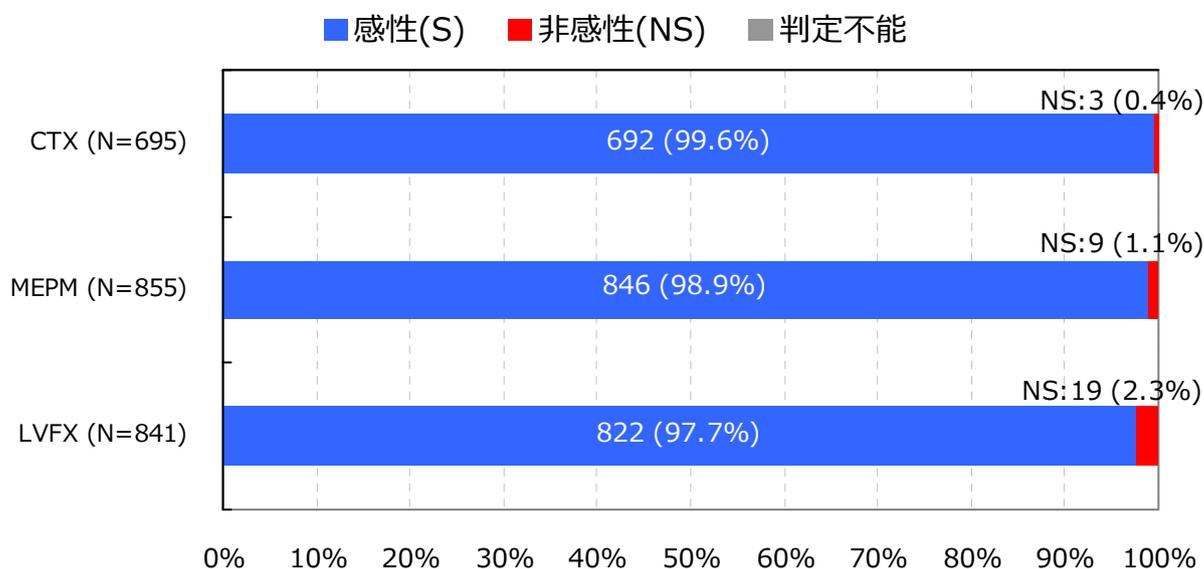
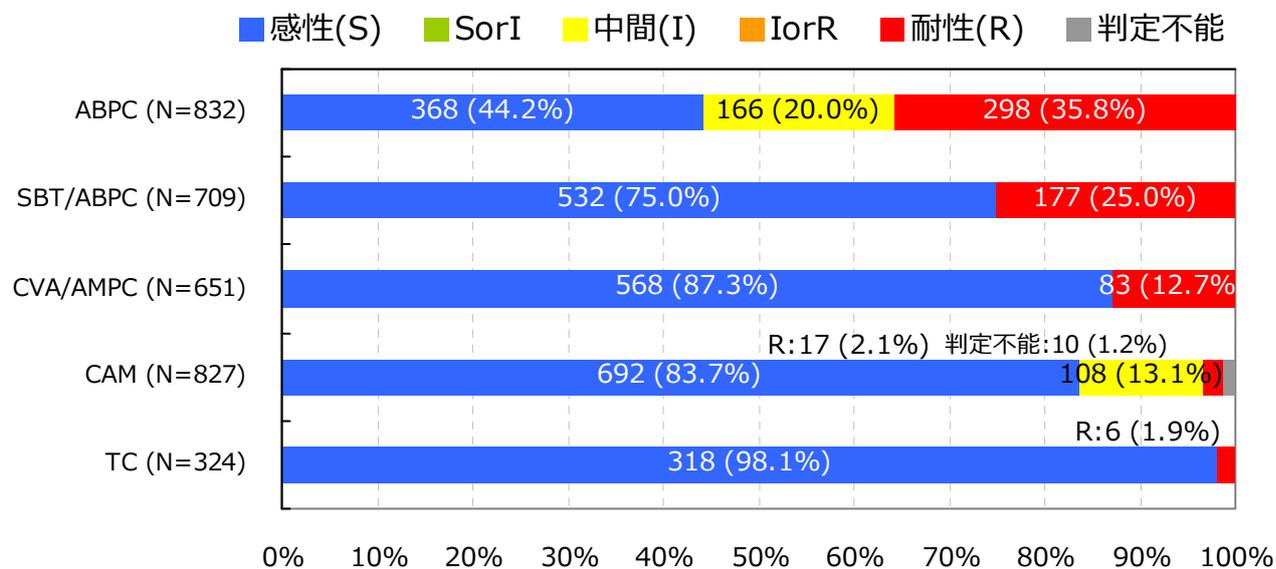
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 4400~4403と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

【巻末資料1 主要菌の菌名コード / 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

主要菌の菌名コード（薬剤感受性条件なし）

| 菌名                                | 菌名コード Ver.5.1       |
|-----------------------------------|---------------------|
| <i>Staphylococcus aureus</i>      | 1301,1303-1306      |
| <i>Staphylococcus epidermidis</i> | 1312                |
| <i>Streptococcus pneumoniae</i>   | 1131                |
| <i>Enterococcus faecalis</i>      | 1201,1202           |
| <i>Enterococcus faecium</i>       | 1205,1206           |
| <i>Escherichia coli</i>           | 2001-2007           |
| <i>Klebsiella pneumoniae</i>      | 2351                |
| <i>Enterobacter</i> spp.          | 2150-2156           |
| <i>Enterobacteriaceae</i>         | 2000-2691,3150-3151 |
| <i>Pseudomonas aeruginosa</i>     | 4001                |
| <i>Acinetobacter</i> spp.         | 4400-4403           |

微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準

| 菌名   | 概要*   | 微量液体希釈法 (MIC 値)   | 菌名コード Ver.5.1                           |
|------|---|---|---|
| MRSA | MPIPC または CFX が “R” の <i>S. aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌  | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$  | 1301,1303                               |
| VRSA | VCM が微量液体希釈法で “R” の <i>S. aureus</i>  | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 1301,1303-1306                          |
| VRE  | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp.<br>・ VCM が微量液体希釈法で耐性 +<br>・ 選択培地で VRE と確認された菌 (注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く                                      | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL} \dagger$   | 1201,1202,1205,1206,1209,1210,1213-1217 |
| PRSP | PCG が微量液体希釈法で耐性 + の <i>S. pneumoniae</i>  | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/mL} \dagger$  | 1131                                    |
| MDRP | 下記全てに該当する <i>P. aeruginosa</i><br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 +<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 +<br>3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX、CPFX の何れか) が “R” | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL} \dagger$ 、<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL} \dagger$<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL} \dagger$<br>3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ 、<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、<br>CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4001                                    |

「微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準」について

耐性菌の菌名 + は以下の通り

MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (2015年1月より集計開始)

\* : 原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† : 感染症発生動向調査の基準に準拠

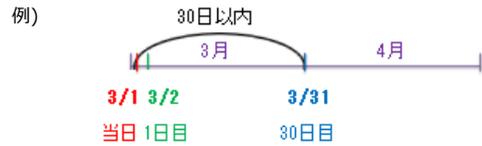
薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.2) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.2) を基に作成した。

| 菌名                 | 概要*   | 微量液体希釈法 (MIC 値)   | 菌名コード Ver.5.1           |
|--------------------|---|---|-------------------------|
| MDRA               | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp.<br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が “R”<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 +<br>3. フルオロキノロン系 (LVFX, CPFX の何れか) が “R” | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL} \dagger$ 、<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL} \dagger$<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL} \dagger$<br>3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、<br>CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4400-4403               |
| CRE                | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科<br>1. MEPM が耐性 +<br>2. IPM が耐性 +、かつ CMZ が “R”  | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/mL} \dagger$<br>2. IPM $\geq 2\mu\text{g/mL} \dagger$ かつ<br>CMZ $\geq 64\mu\text{g/mL}$   | 2000-2691,<br>3150-3151 |
| カルバペネム耐性緑膿菌        | IPM または MEPM が耐性 + の <i>P. aeruginosa</i>   | IPM $\geq 16\mu\text{g/mL} \dagger$<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL} \dagger$   | 4001                    |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌 | CTX または CTRX または CAZ が “R” の <i>K. pneumoniae</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CTRX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$  | 2351                    |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌  | CTX または CTRX または CAZ が “R” の <i>E. coli</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CTRX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$  | 2001-2007               |
| フルオロキノロン耐性大腸菌      | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, CPFX の何れか) が “R” の <i>E. coli</i>  | NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ 、<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、<br>CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$                              | 2001-2007               |

## 【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

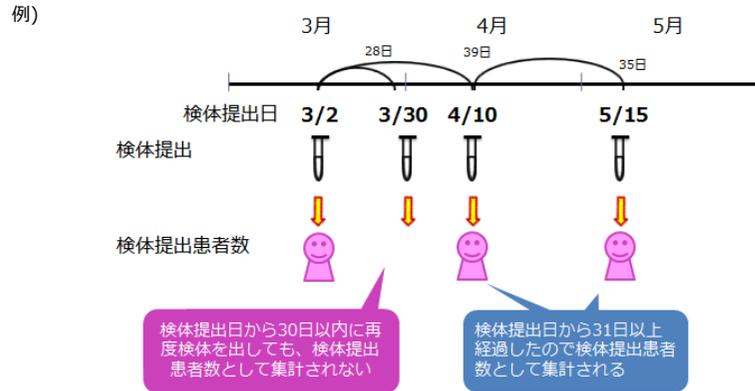
### 1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を1日目とする。検体提出日が3月1日とすると、1日目が3月2日、30日目が3月31日となる。



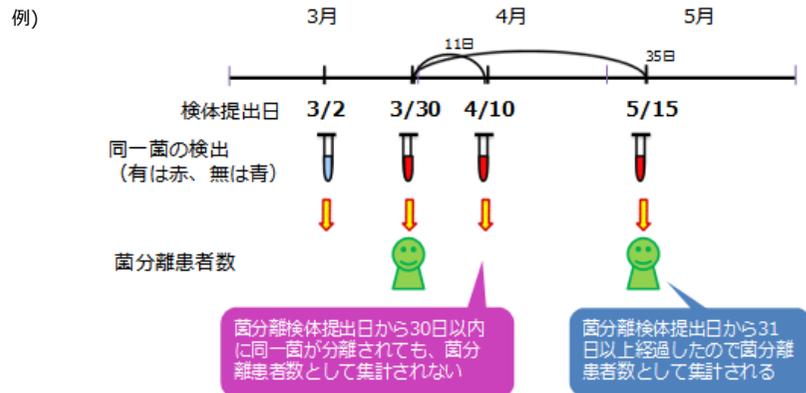
### 2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30日以内の同一患者からの複数の検体提出は1件とする。



### 3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は1件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



### 4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

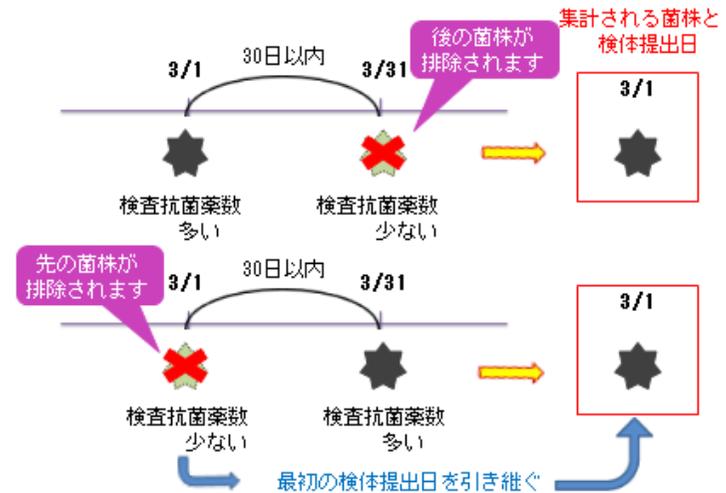
30日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に1つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC値に4倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2はMIC ≥ 4と考え、判定時はMIC = 4として扱う  
また、MIC < 16はMIC ≤ 16と考え、判定時はMIC = 16として扱う
- ② SIR判定では「SとR」の組み合わせ
- ③ +/-判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が5未満

### 5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30日以内の)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。

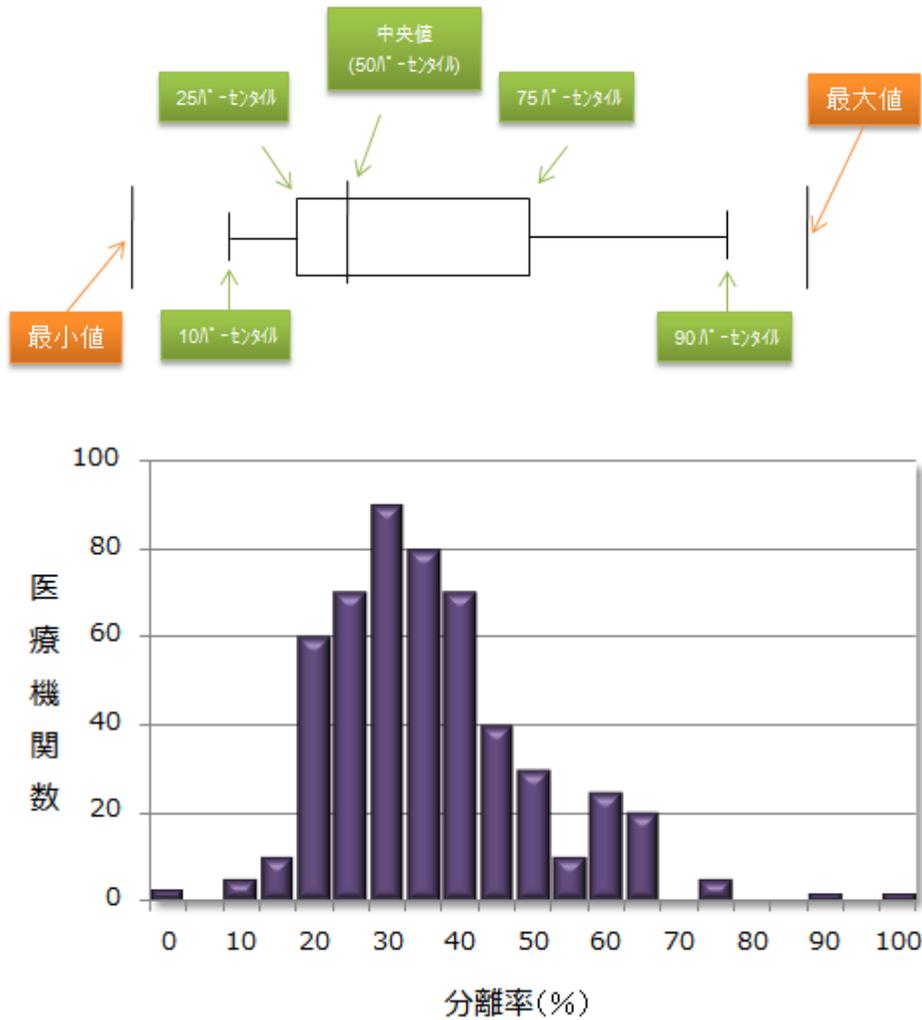
例)



【巻末資料 3 箱ひげ図について】

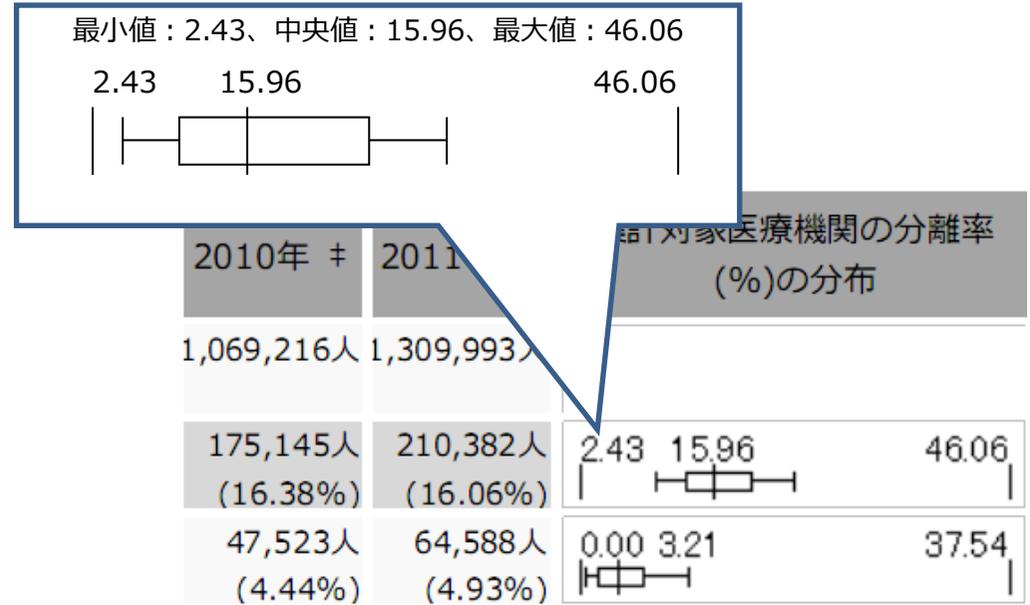
1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



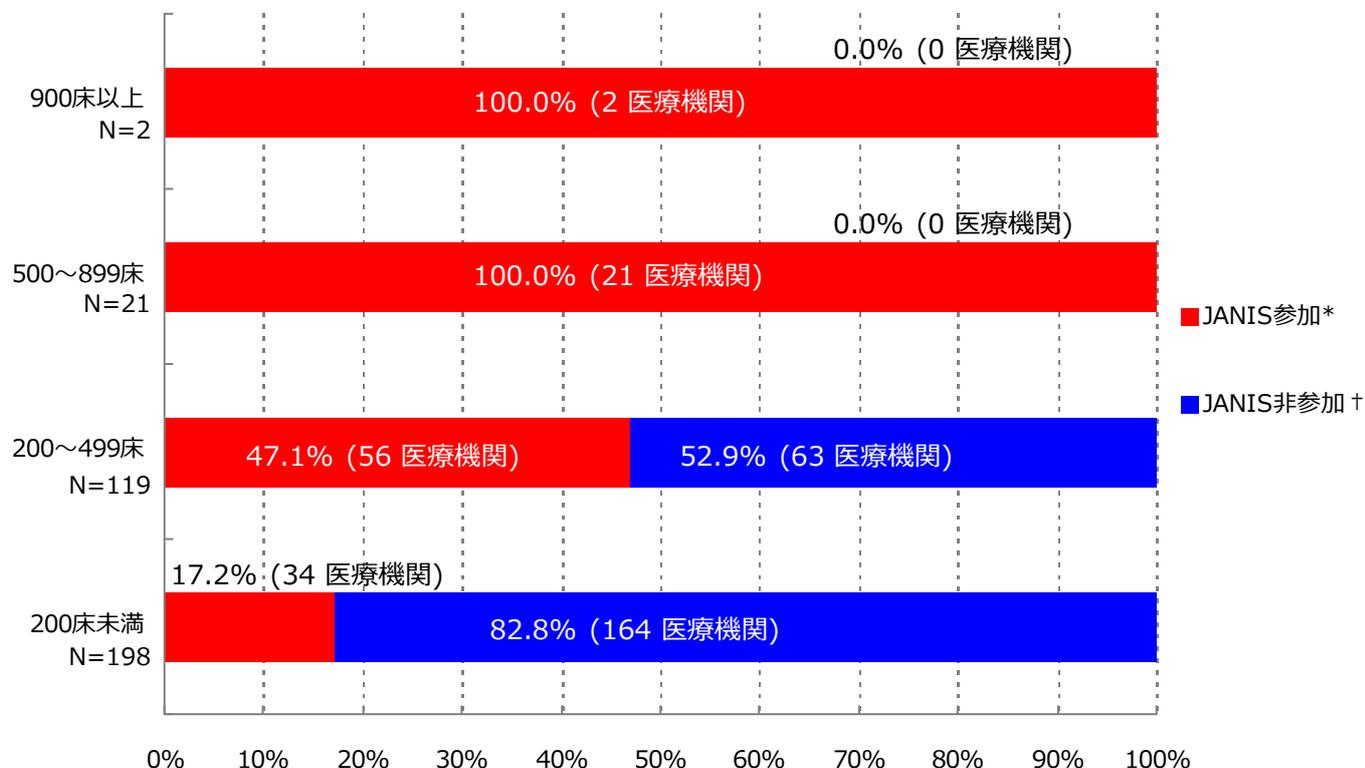
※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したものの。例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

2. 公開情報の箱ひげ図





### 1. 集計対象医療機関数(113医療機関)



\*JANIS参加 = 2019年1～3月 集計対象医療機関数

†JANIS非参加 = (2018年 都道府県別医療機関数 †) - (2019年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数      | 2018年 都道府県別医療機関数 † | 2019年1月～3月 集計対象医療機関数<br>(都道府県別医療機関数に占める割合) |
|----------|--------------------|--|
| 900床以上   | 2                  | 2 (100.0%)                                 |
| 500～899床 | 21                 | 21 (100.0%)                                |
| 200～499床 | 119                | 56 (47.1%)                                 |
| 200床未満   | 198                | 34 (17.2%)                                 |
| 病床数不明    | -                  | 0 (-)                                      |
| 合計       | 340                | 113 (33.2%)                                |

† 2018年医療施設(動態)調査を参照した

## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数     | 陽性検体数<br>(分離菌数)    |
|--------|-----------|---------|--------------------|
| 呼吸器系検体 | 113       | 33,071  | 21,625<br>(44,113) |
| 尿検体    | 112       | 17,877  | 9,872<br>(14,810)  |
| 便検体    | 112       | 10,787  | 2,823<br>(5,124)   |
| 血液検体   | 109       | 46,137  | 6,567<br>(7,259)   |
| 髄液検体   | 75        | 1,576   | 80<br>(93)         |
| その他    | 111       | 22,061  | 9,971<br>(17,298)  |
| 合計     | 113       | 131,509 | 50,938<br>(88,697) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

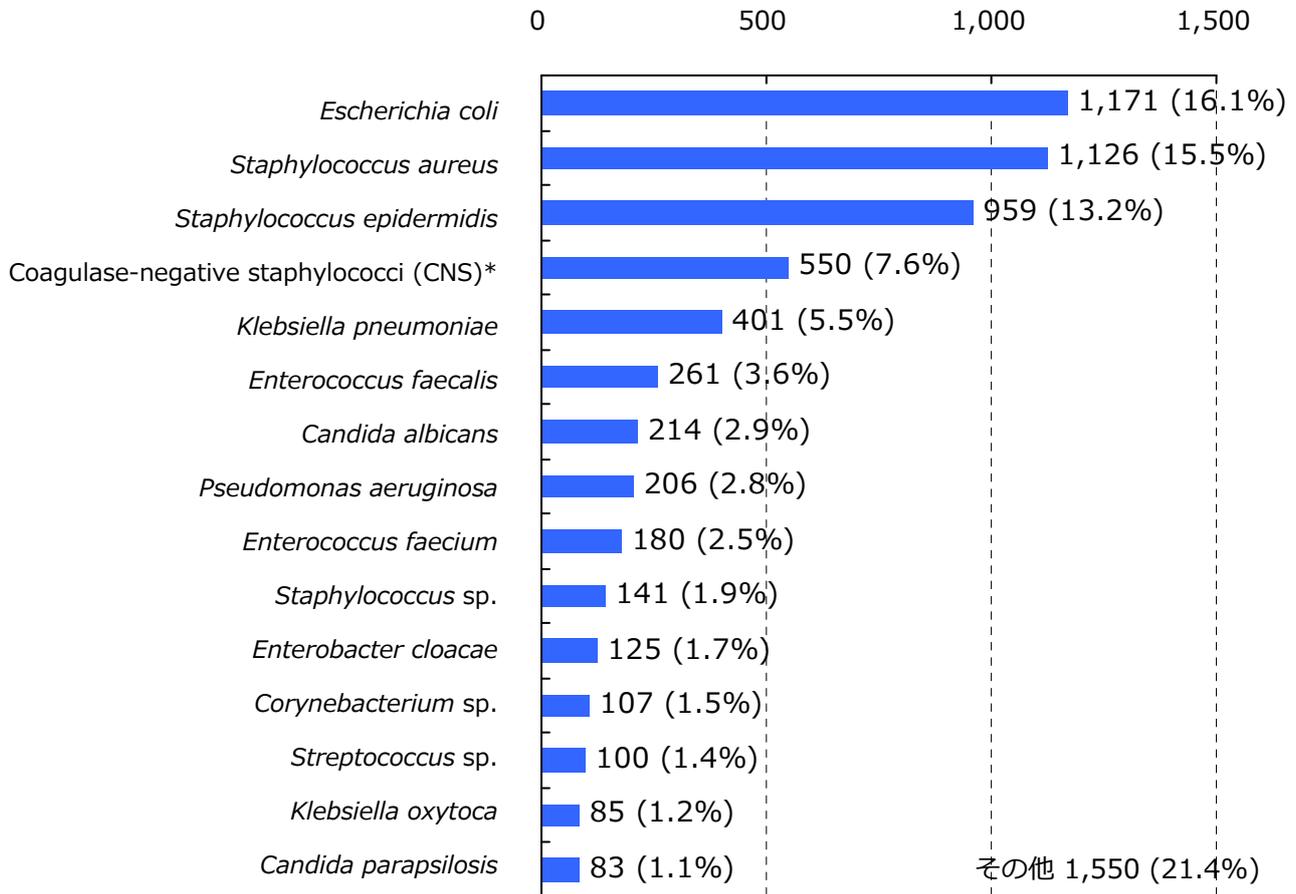
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=7,259)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

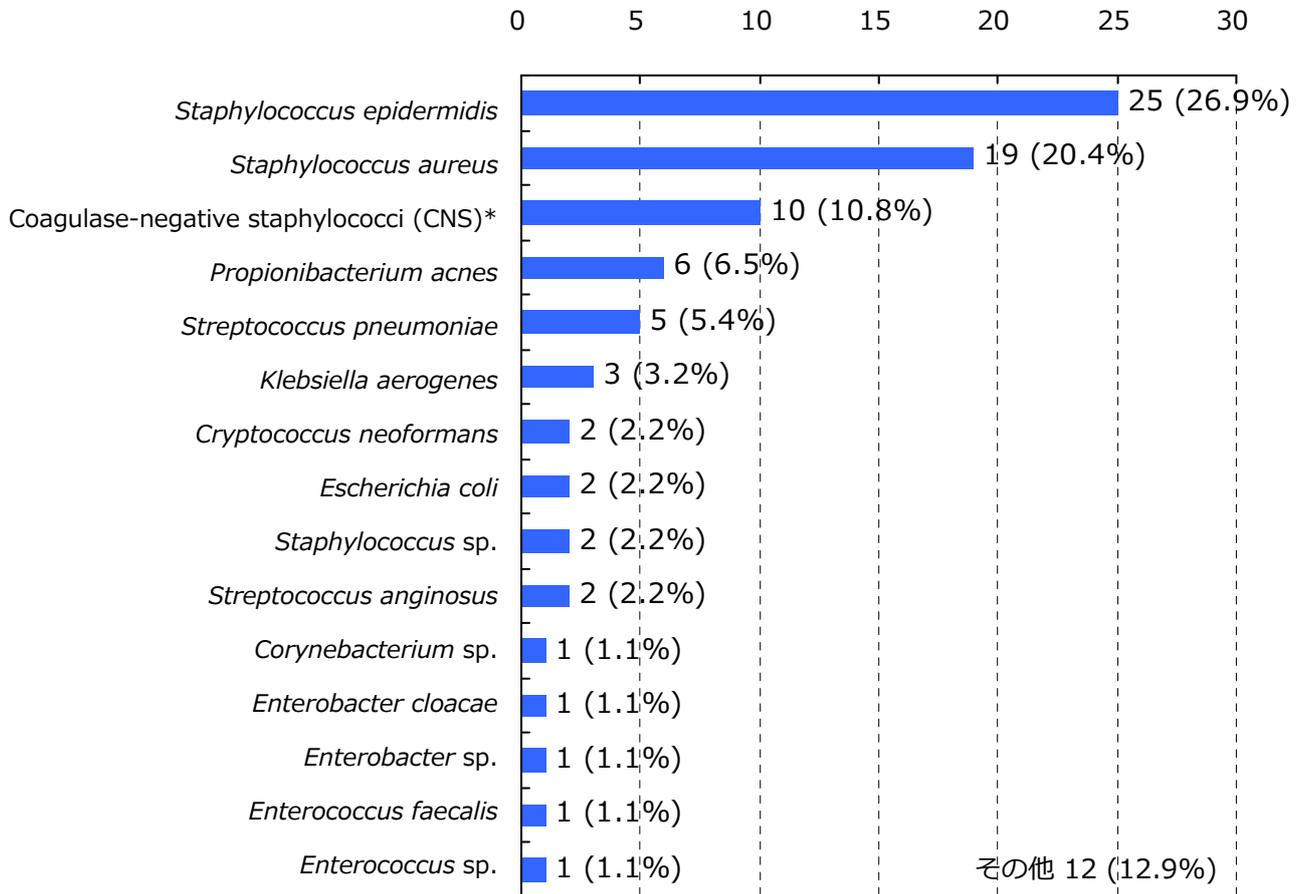
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=93)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

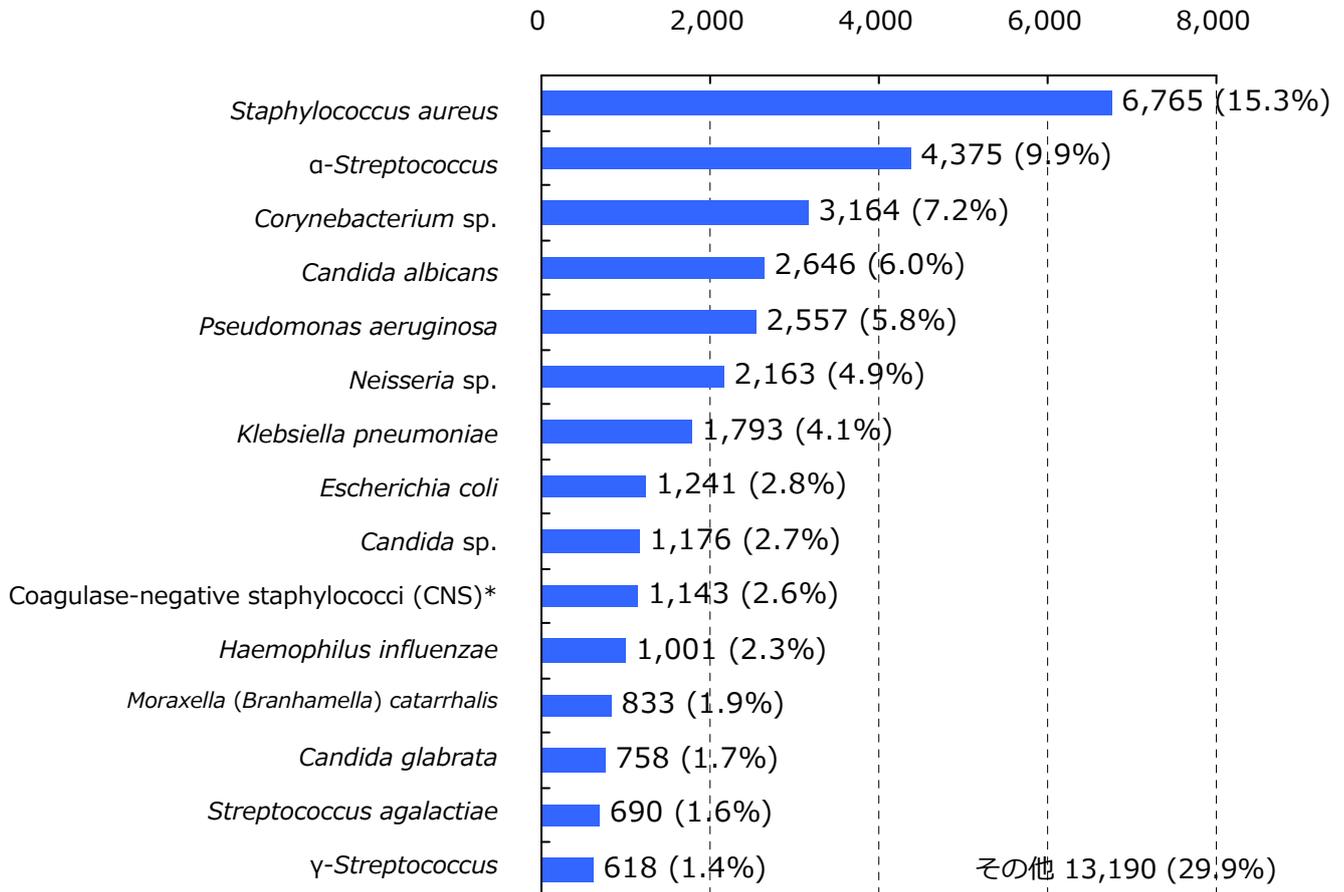
髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 呼吸器系検体分離菌 (N=44,113)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・常在菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：喀出痰(検査材料コード101)、気管内採痰(同102)、気管支洗浄液(同103)、咽頭粘液(同104)、鼻腔内(同105)、口腔内(同106)、生検材料(肺)(同107)、その他(呼吸器)(同109)、胸水(同404)

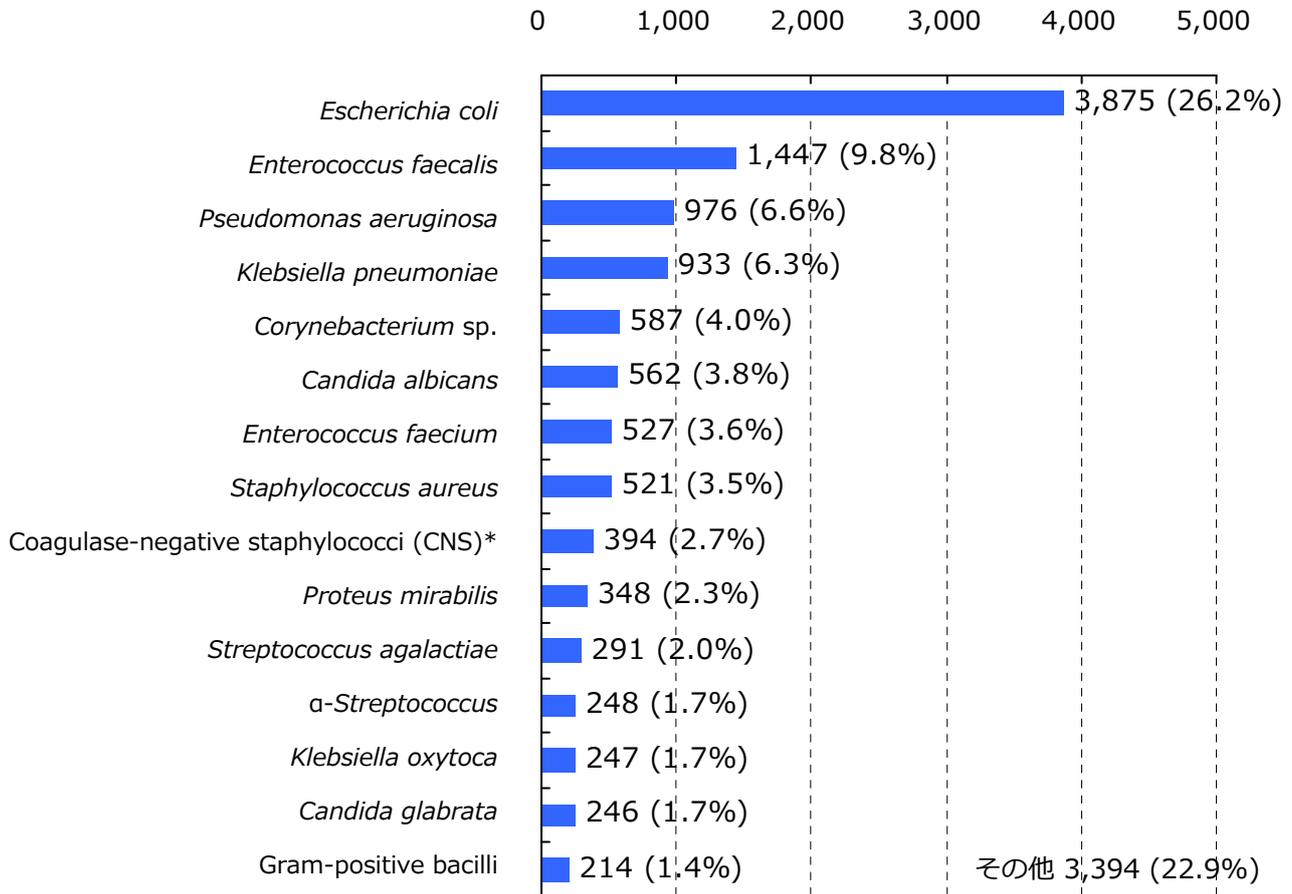
呼吸器系検体分離菌数割合 = (対象菌の呼吸器系検体分離菌数) ÷ (呼吸器系検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 尿検体分離菌 (N=14,810)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：自然排尿(検査材料コード201)、採尿カテーテル尿(同202)、留置カテーテル尿(同203)、カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能)(同206)

尿検体分離菌数割合 = (対象菌の尿検体分離菌数) ÷ (尿検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

## 4. 主要菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                           | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布 |
|---------------------------|------------------------|-------------------------|
| 検体提出患者数(100床あたり)          | 47,631人<br>(124.2)※    |                         |
| <i>S. aureus</i>          | 7,013人<br>(14.72%)     | 0.00 15.82 49.15<br>    |
| <i>S. epidermidis</i>     | 1,874人<br>(3.93%)      | 0.00 2.70 13.66<br>     |
| <i>S. pneumoniae</i>      | 581人<br>(1.22%)        | 0.00 0.85 7.55<br>      |
| <i>E. faecalis</i>        | 2,405人<br>(5.05%)      | 0.00 4.64 20.00<br>     |
| <i>E. faecium</i>         | 1,050人<br>(2.20%)      | 0.00 1.96 9.57<br>      |
| <i>E. coli</i>            | 6,463人<br>(13.57%)     | 0.00 14.39 30.55<br>    |
| <i>K. pneumoniae</i>      | 2,899人<br>(6.09%)      | 0.00 5.90 17.28<br>     |
| <i>Enterobacter spp.</i>  | 1,820人<br>(3.82%)      | 0.00 3.27 10.04<br>     |
| <i>Enterobacteriaceae</i> | 12,155人<br>(25.52%)    | 0.00 28.42 62.15<br>    |
| <i>P. aeruginosa</i>      | 3,093人<br>(6.49%)      | 1.20 6.59 39.62<br>     |
| <i>Acinetobacter spp.</i> | 331人<br>(0.69%)        | 0.00 0.47 25.00<br>     |

入院として報告された検体を集計

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

※ 病床数が登録されている医療機関のみが対象

## 5. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                        | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布 |
|------------------------|------------------------|-------------------------|
| 検体提出患者数(100床あたり)       | 47,631人<br>(124.2)※    |                         |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)   | 3,138人<br>(6.59%)      | 0.00 8.06 38.98<br>  H  |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>                |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)      | 5人<br>(0.01%)          | 0.00 0.00 0.57<br>      |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)      | 181人<br>(0.38%)        | 0.00 0.15 5.66<br>  H   |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP)          | 15人<br>(0.03%)         | 0.00 0.00 1.69<br>      |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)    | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>                |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)   | 134人<br>(0.28%)        | 0.00 0.00 2.47<br>  H   |
| カルバペネム耐性緑膿菌            | 265人<br>(0.56%)        | 0.00 0.41 5.66<br>  H   |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌     | 283人<br>(0.59%)        | 0.00 0.24 10.29<br>  H  |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌      | 1,392人<br>(2.92%)      | 0.00 3.23 18.64<br>  H  |
| フルオロキノロン耐性大腸菌          | 1,990人<br>(4.18%)      | 0.00 4.43 20.34<br>  H  |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

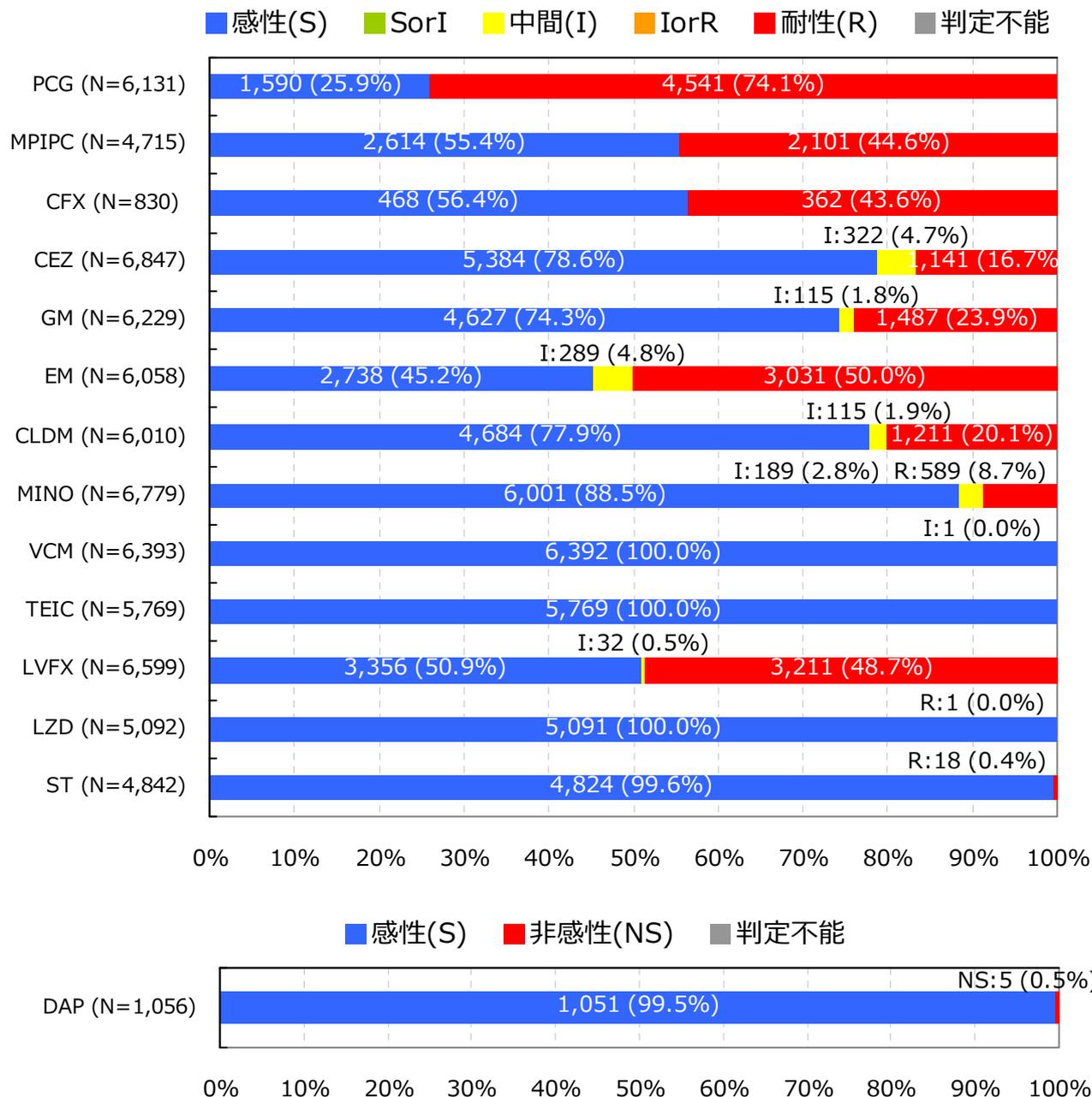
= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

※ 病床数が登録されている医療機関のみが対象

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (ALL) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

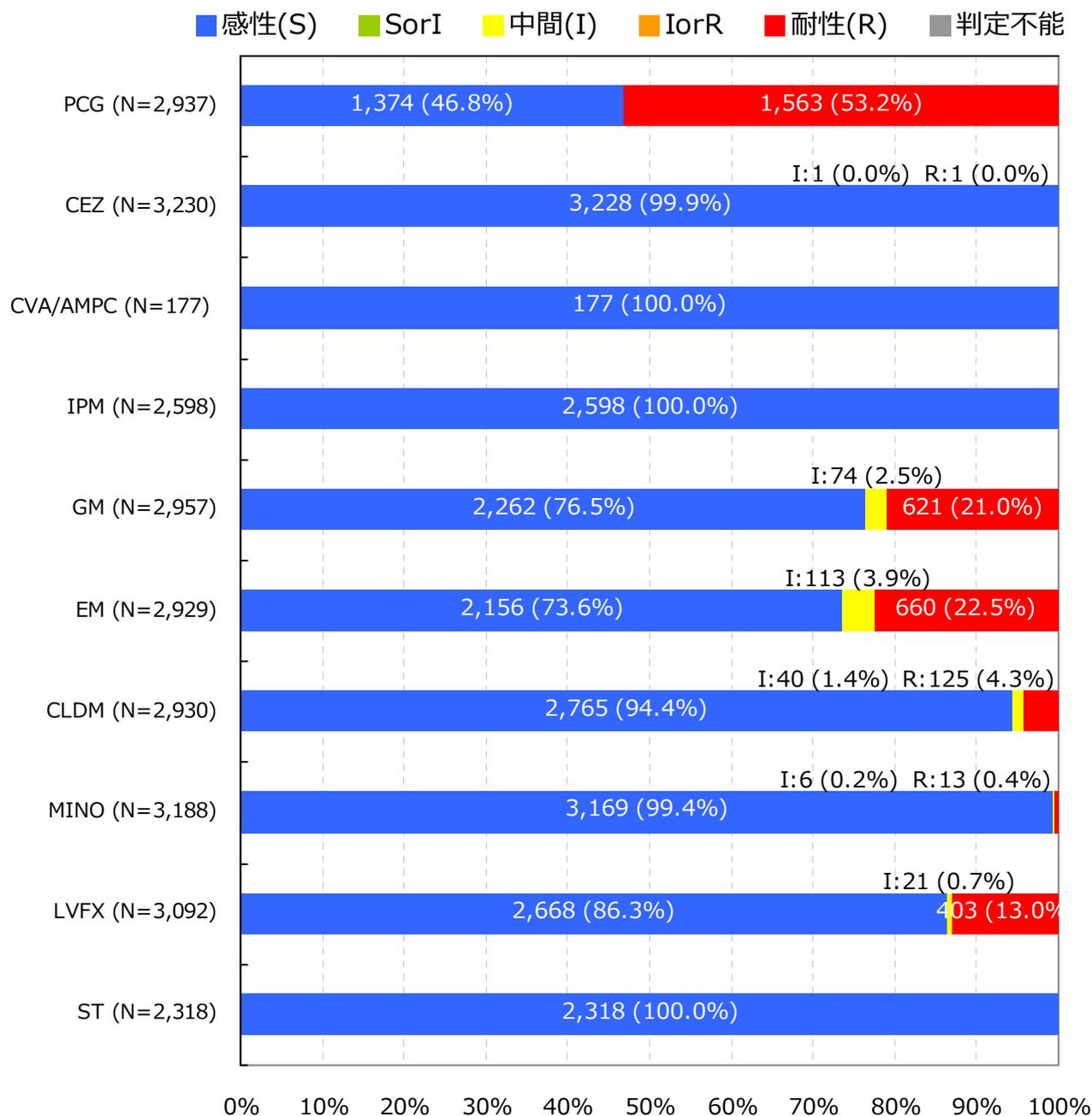
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

†菌名コード: 1301, 1303～1306と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

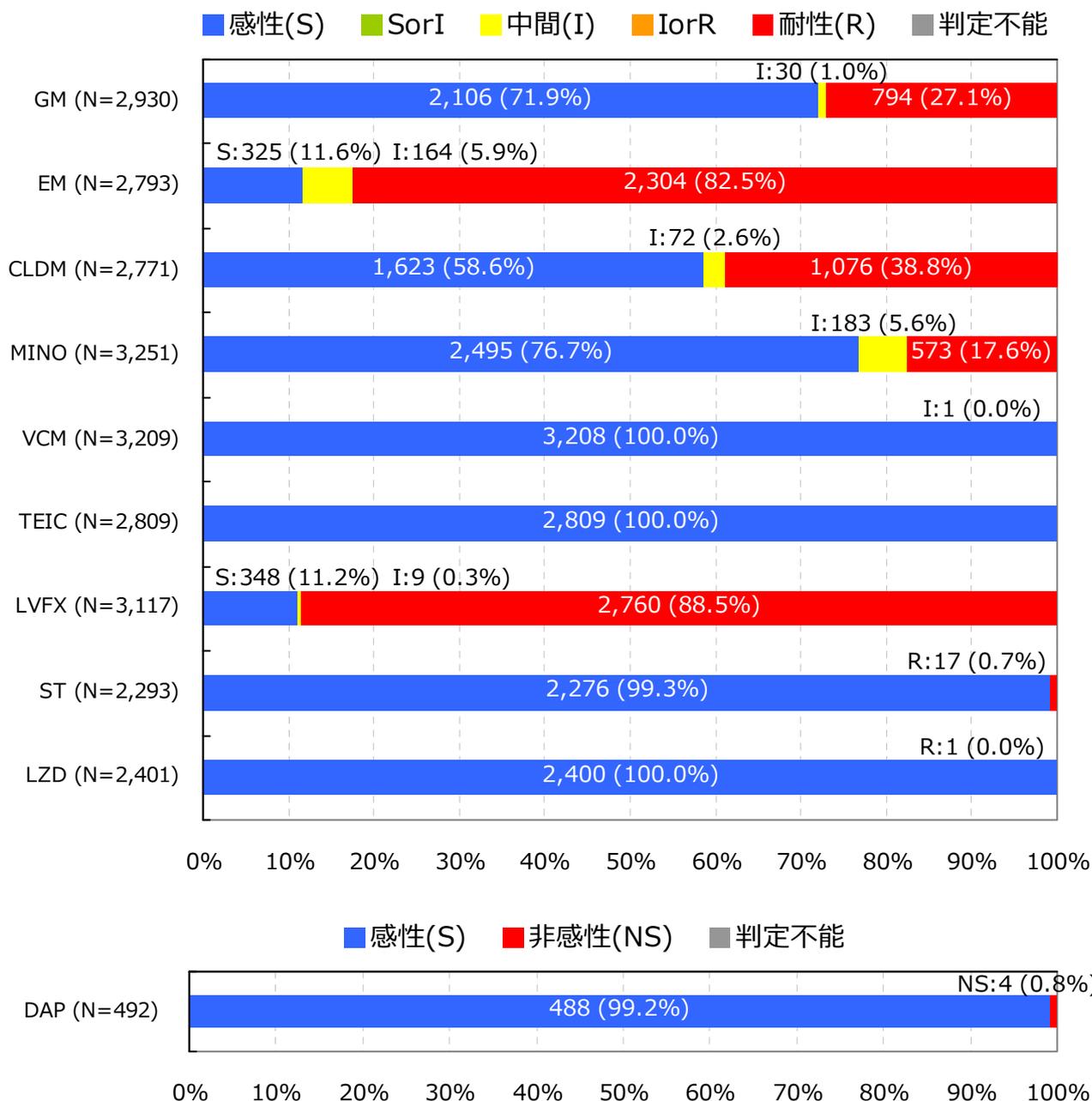
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1304, 1305, 1306と報告された菌、または菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208 (オキサリリン) および抗菌薬コード：1606 (セフォキシチン) の感受性結果「S」の菌 (一方が「S」で他方が未測定の場合を含む)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Staphylococcus aureus (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

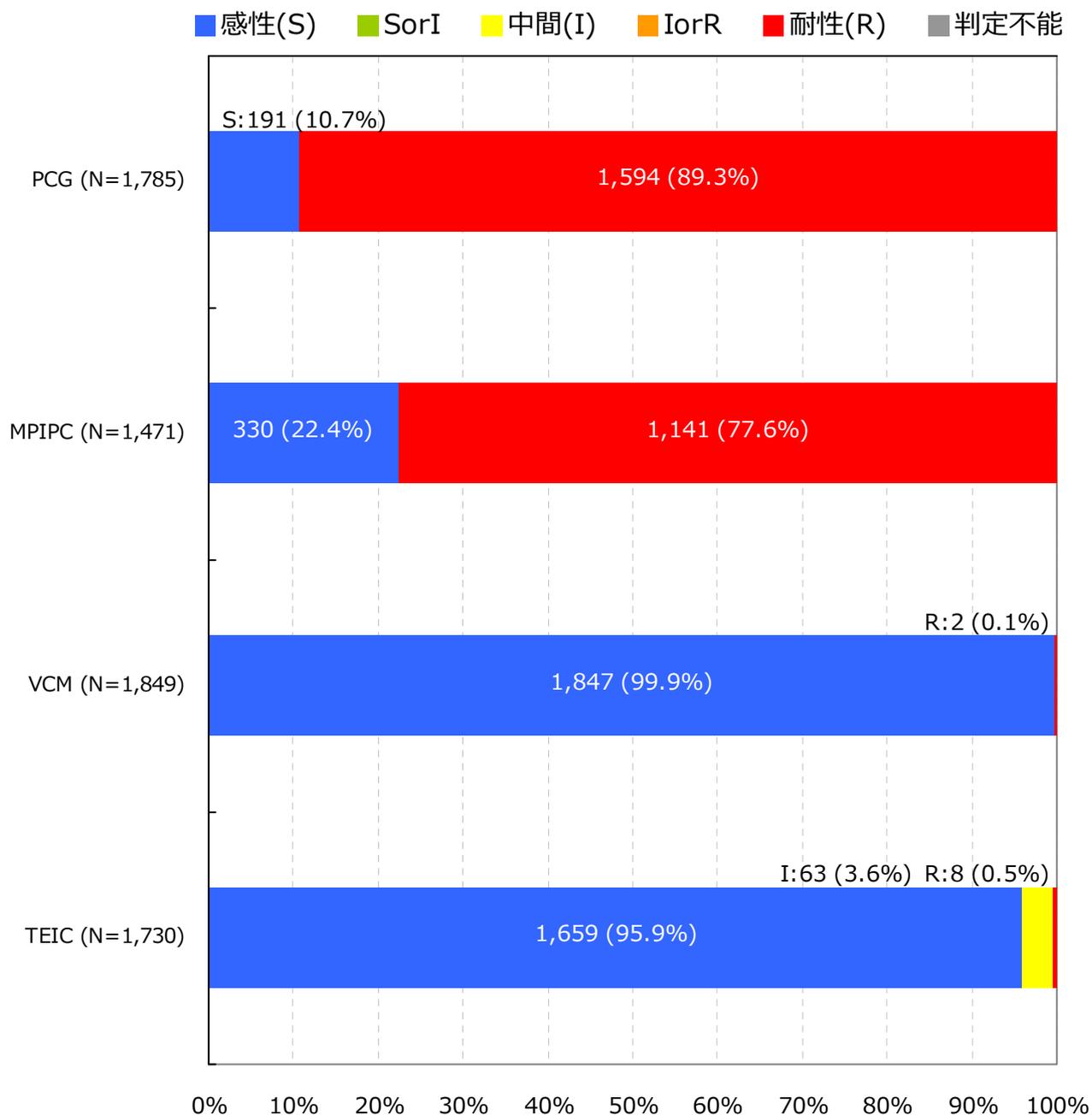
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌、または菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) または抗菌薬コード : 1606 (セフォキシチン) の感受性結果「R」の菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

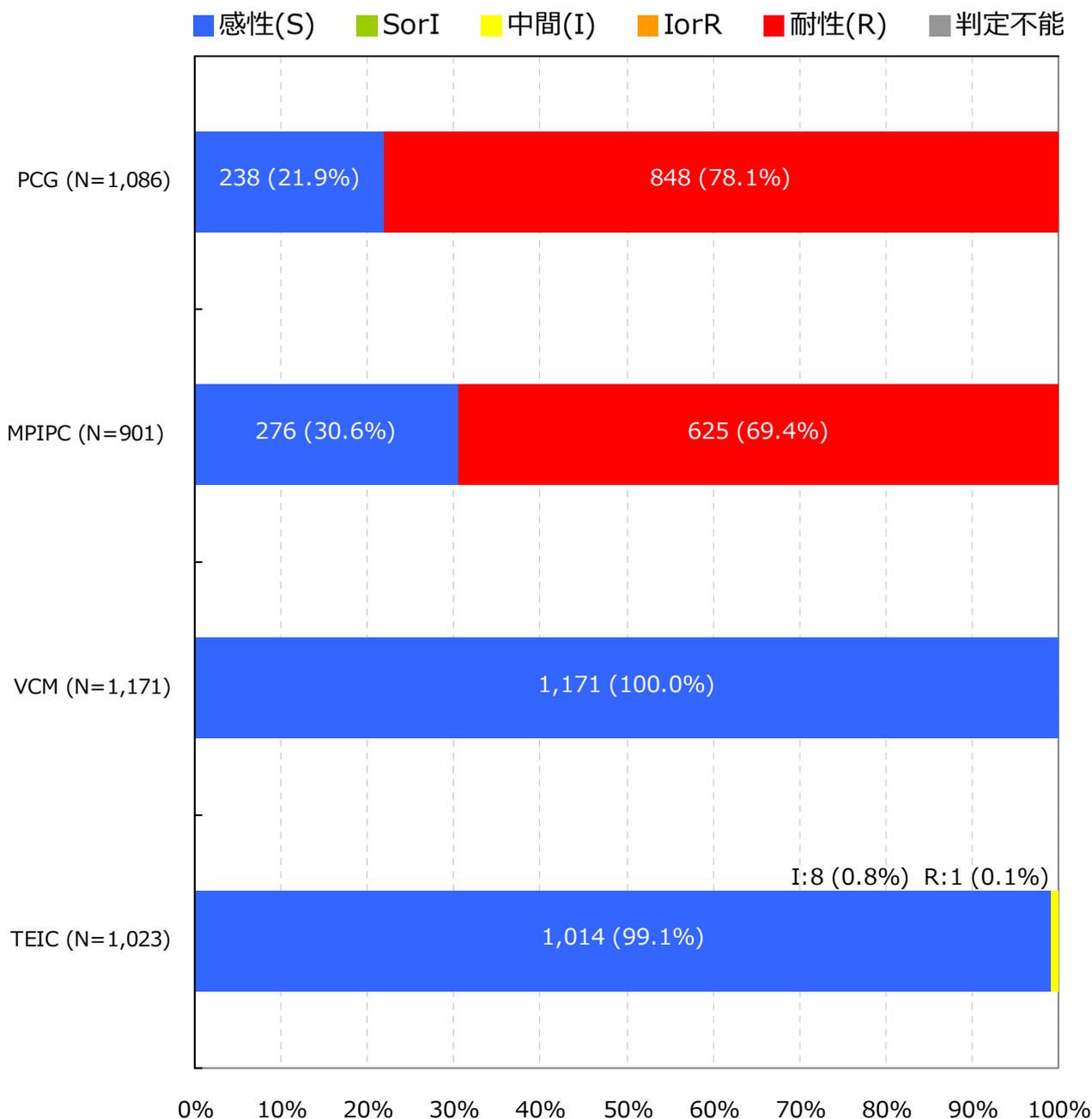
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

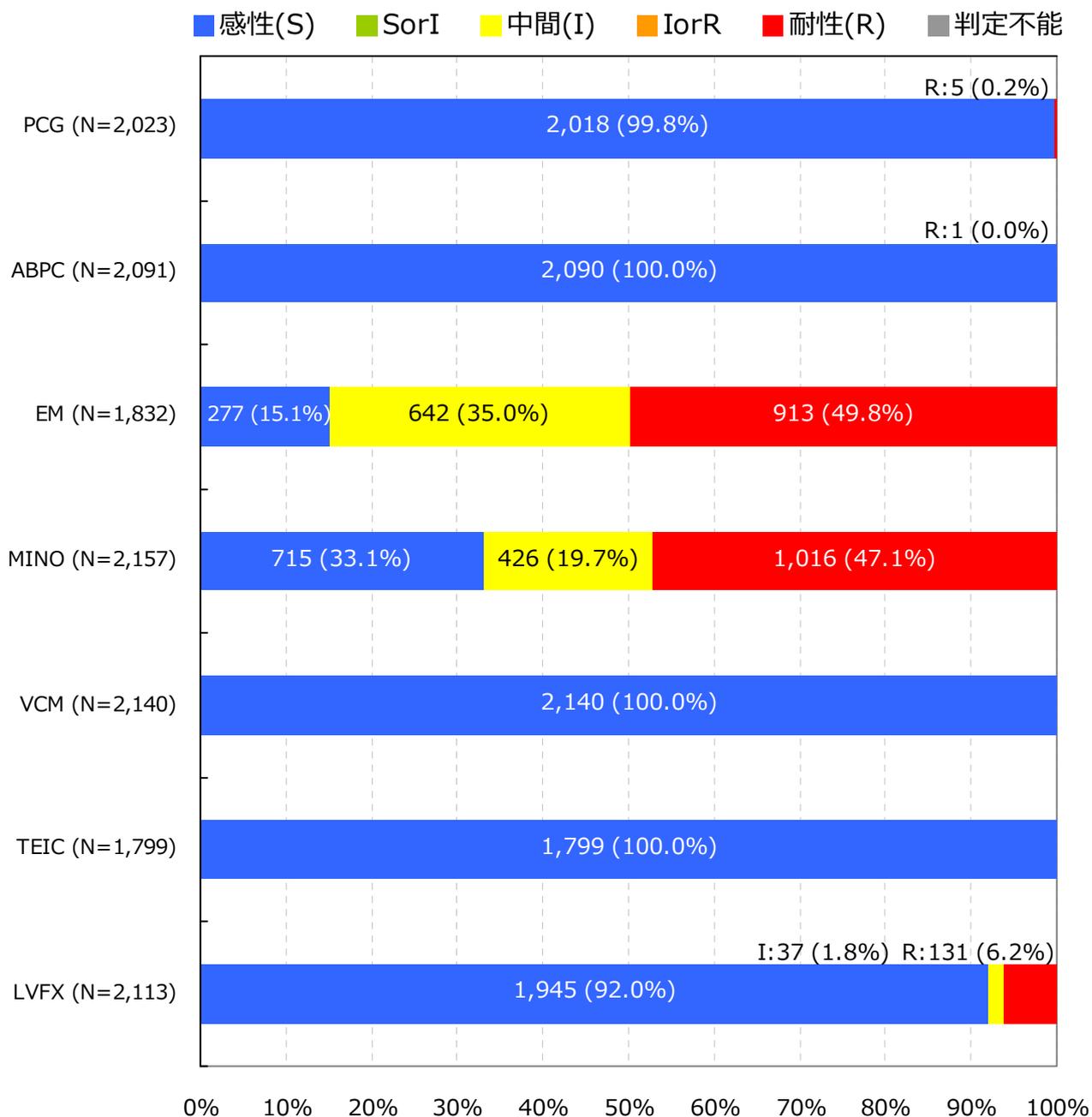
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

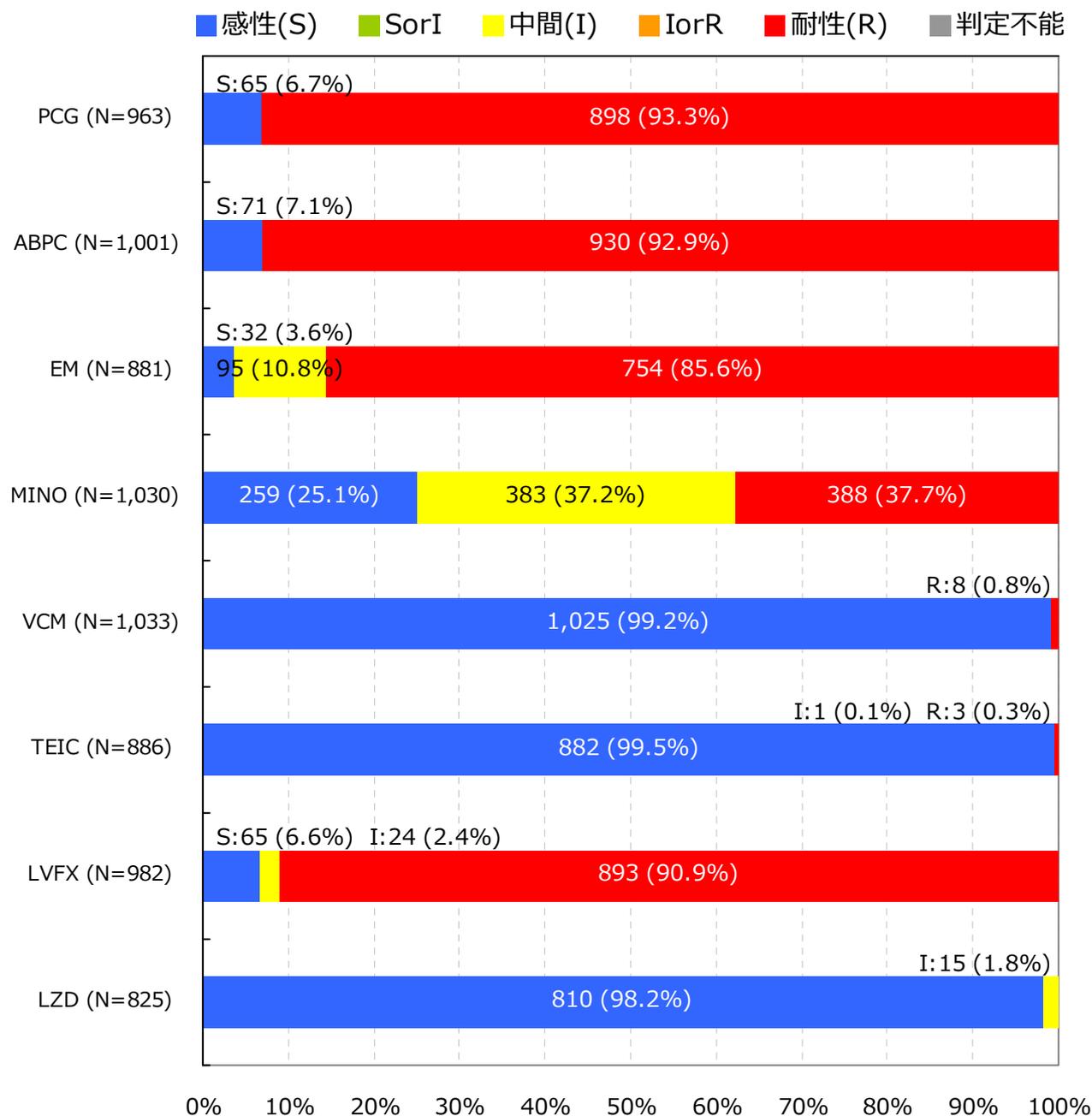
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

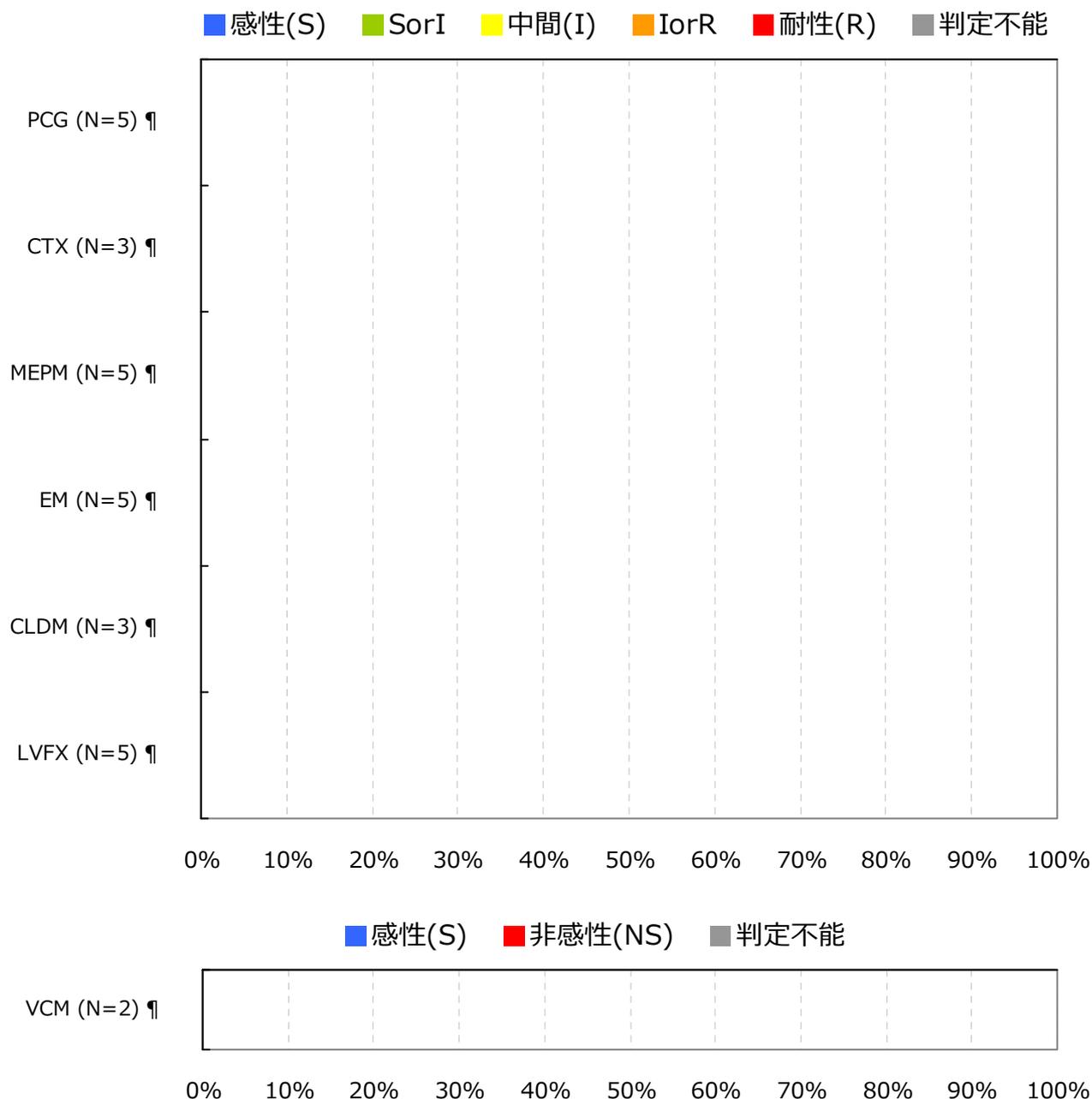
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1205, 1206と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

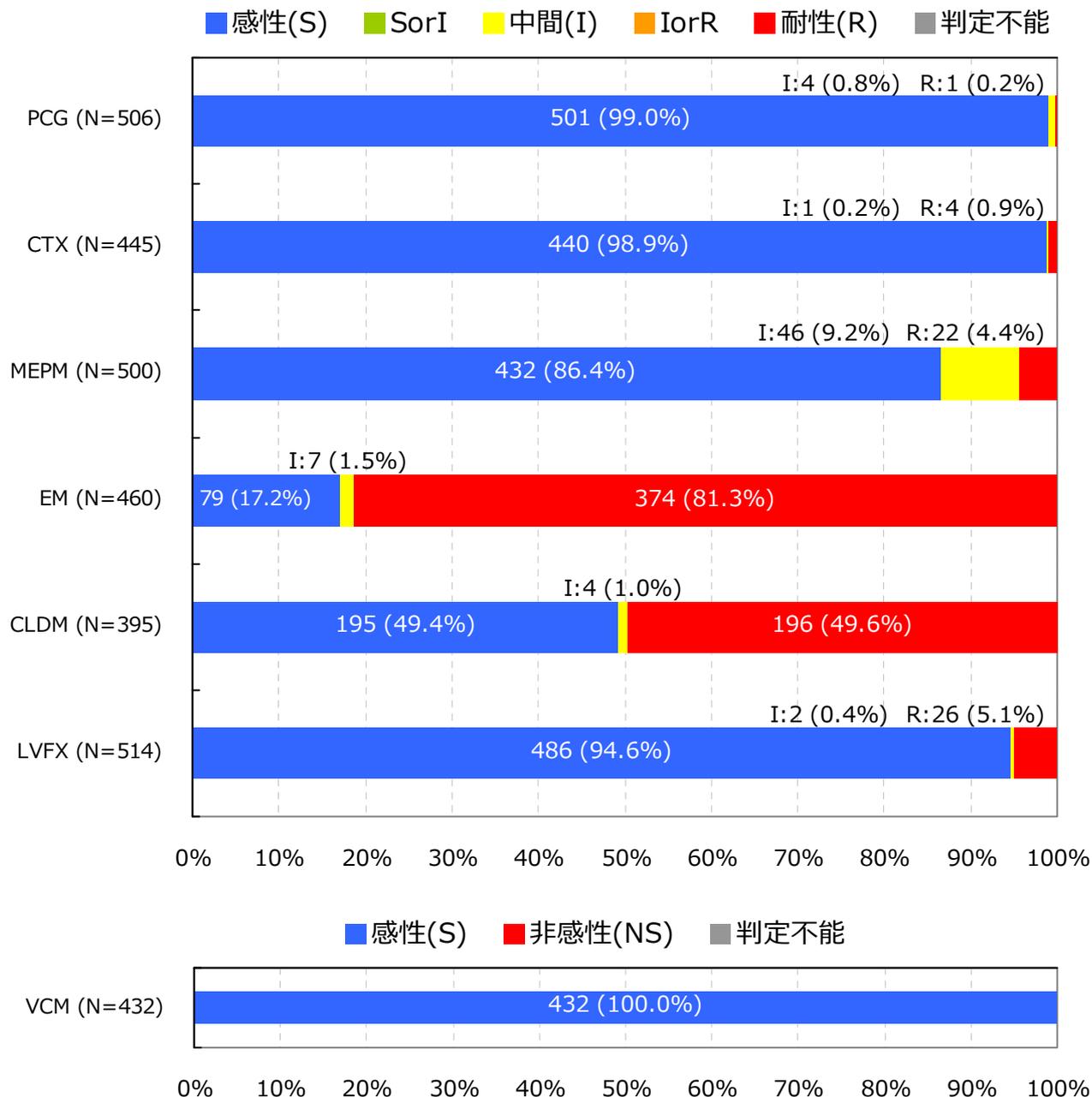
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

¶ 集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

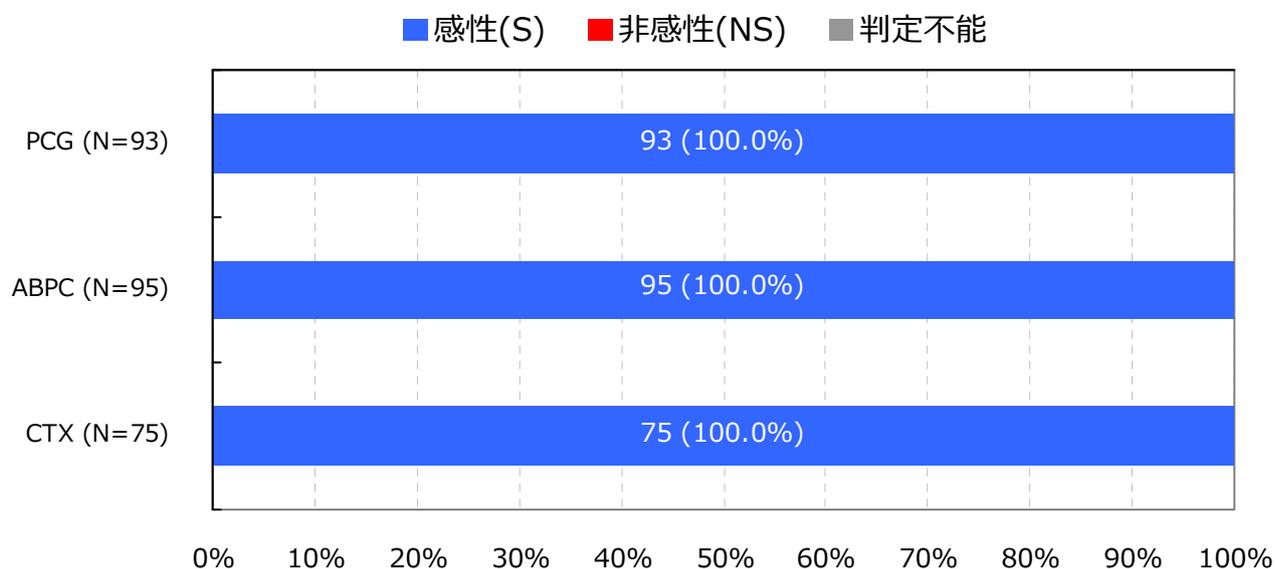
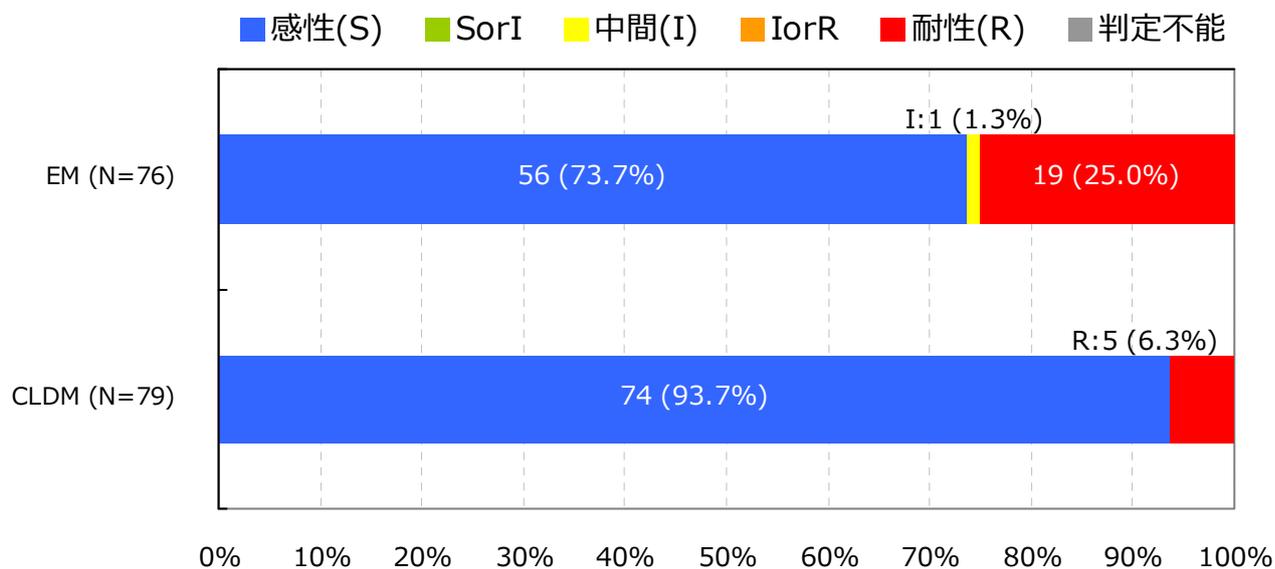
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

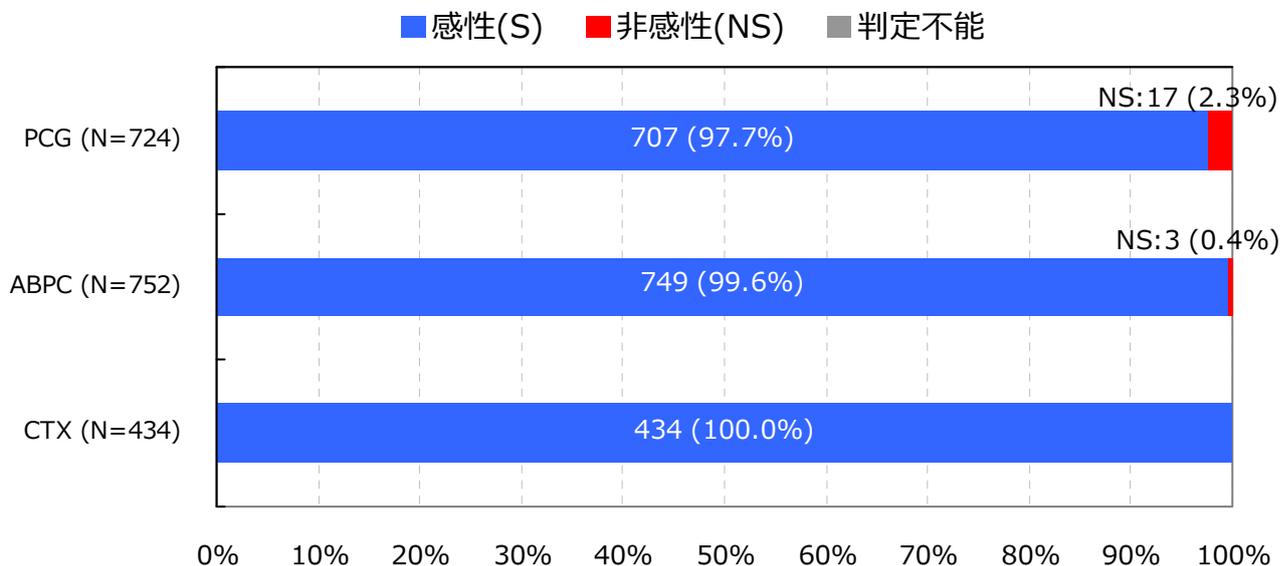
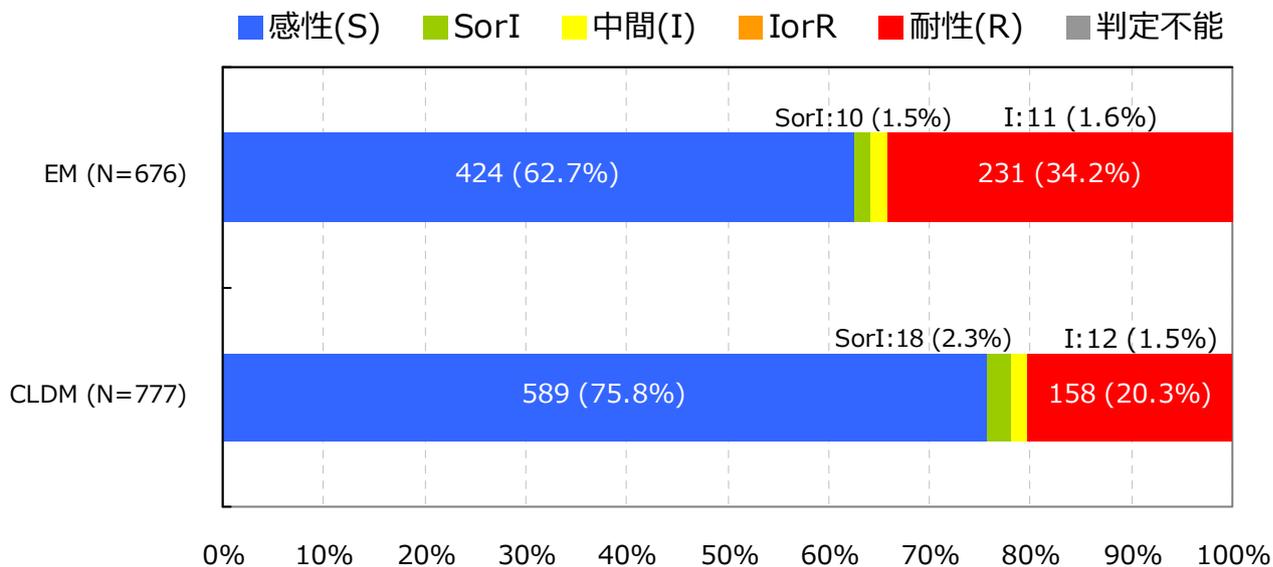
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1111と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

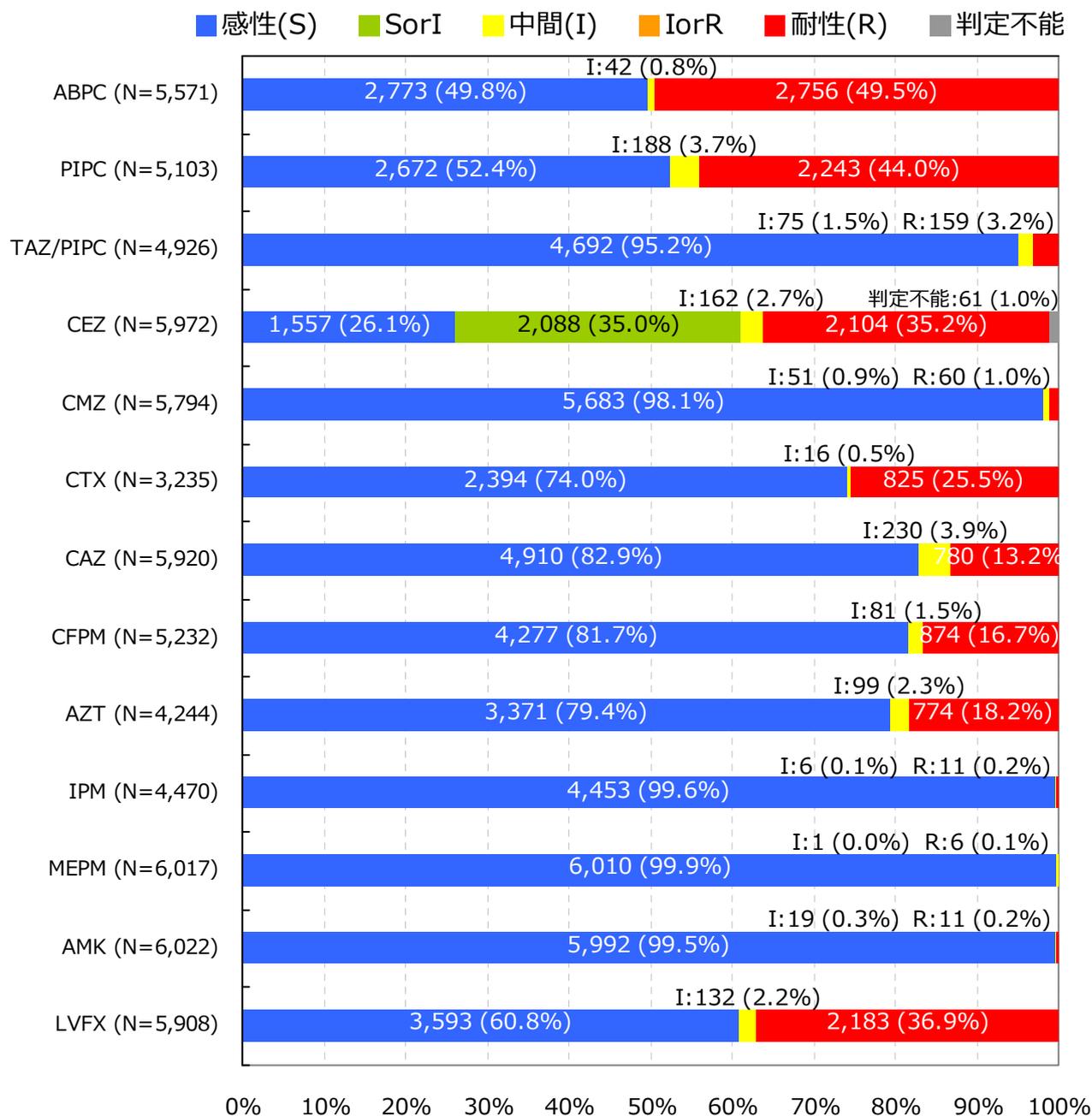
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1114と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

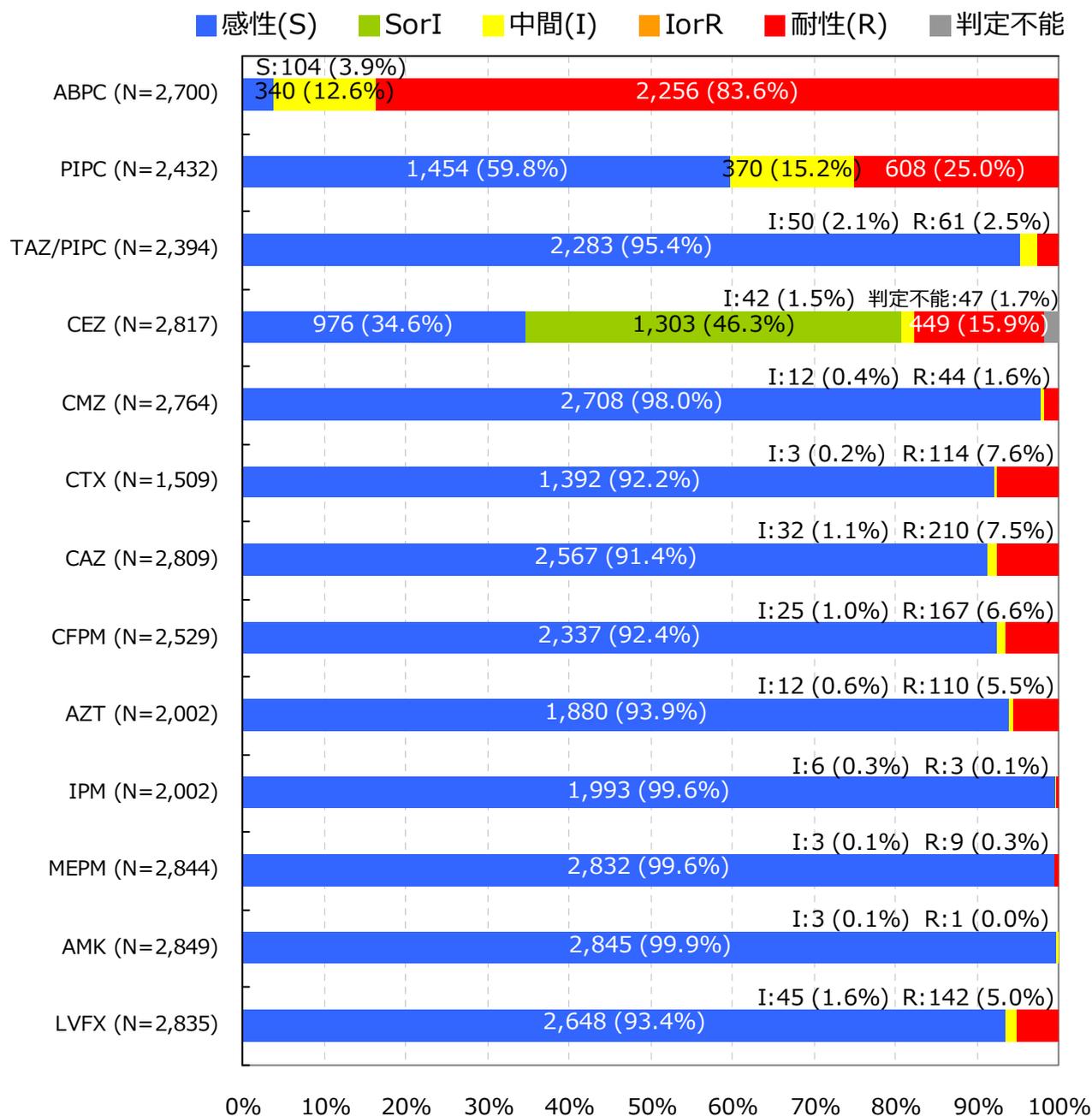
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

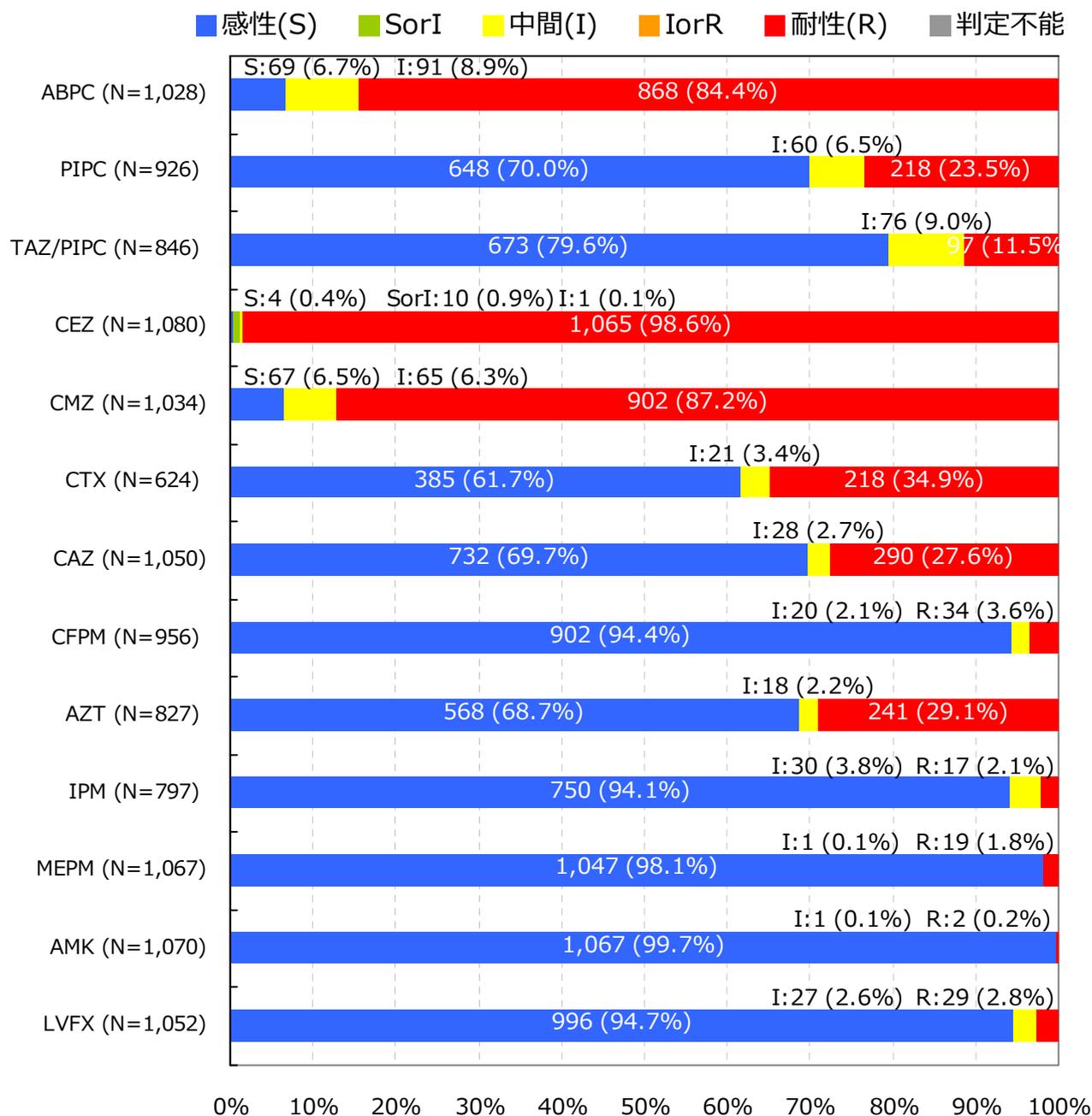
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2351と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

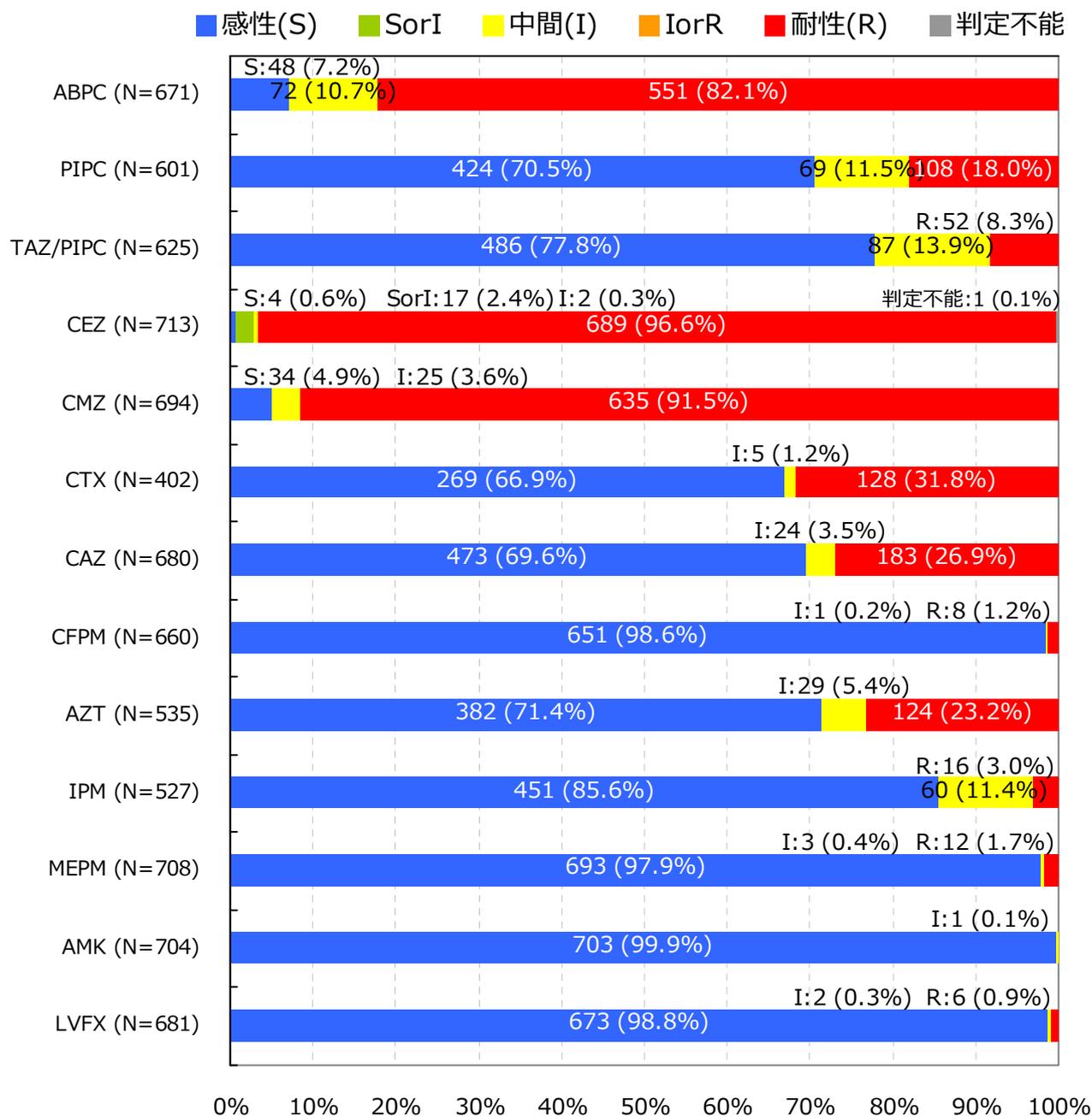
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2151と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

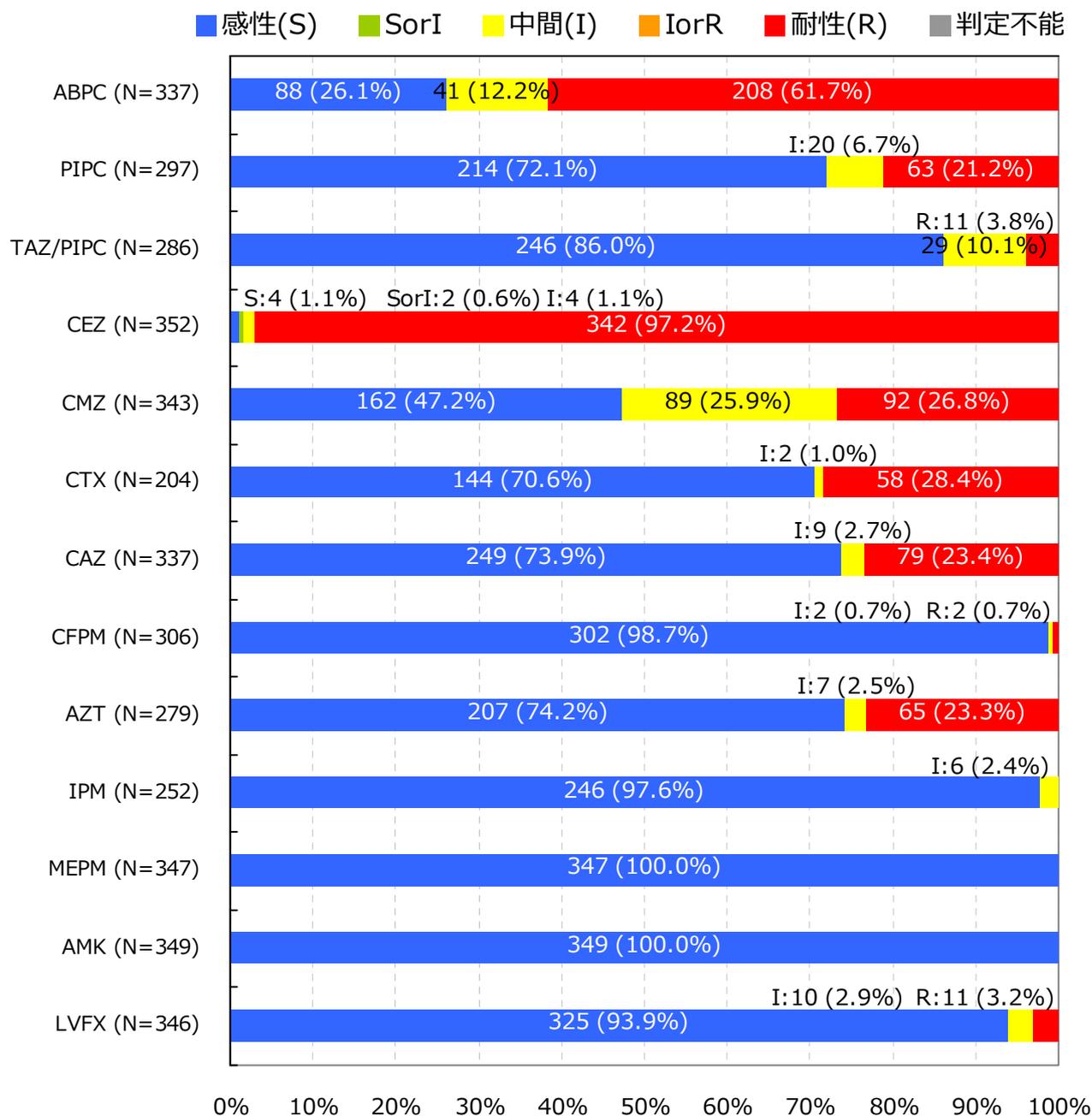
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2152と報告された菌 (旧名: *Enterobacter aerogenes*)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

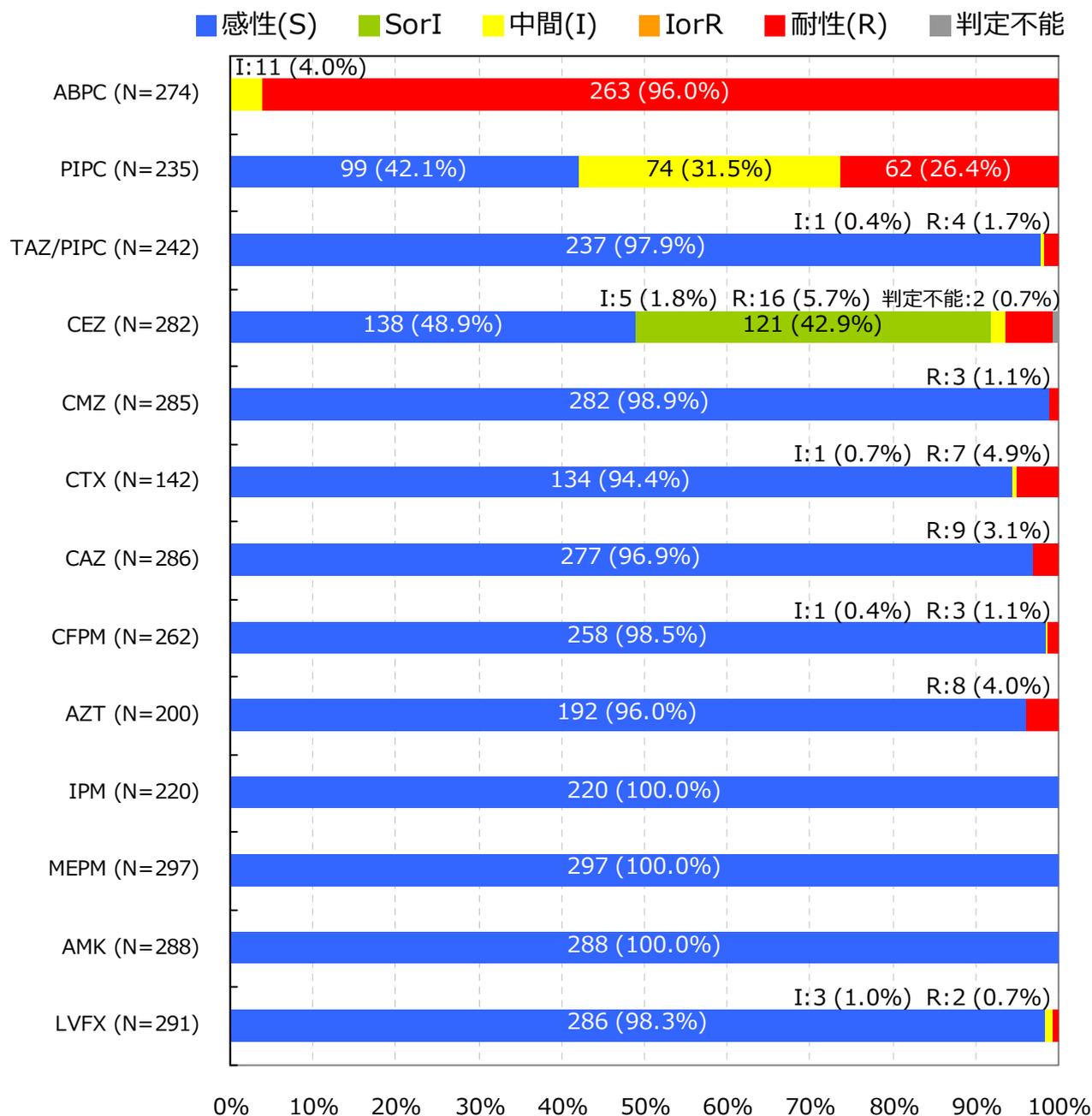
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

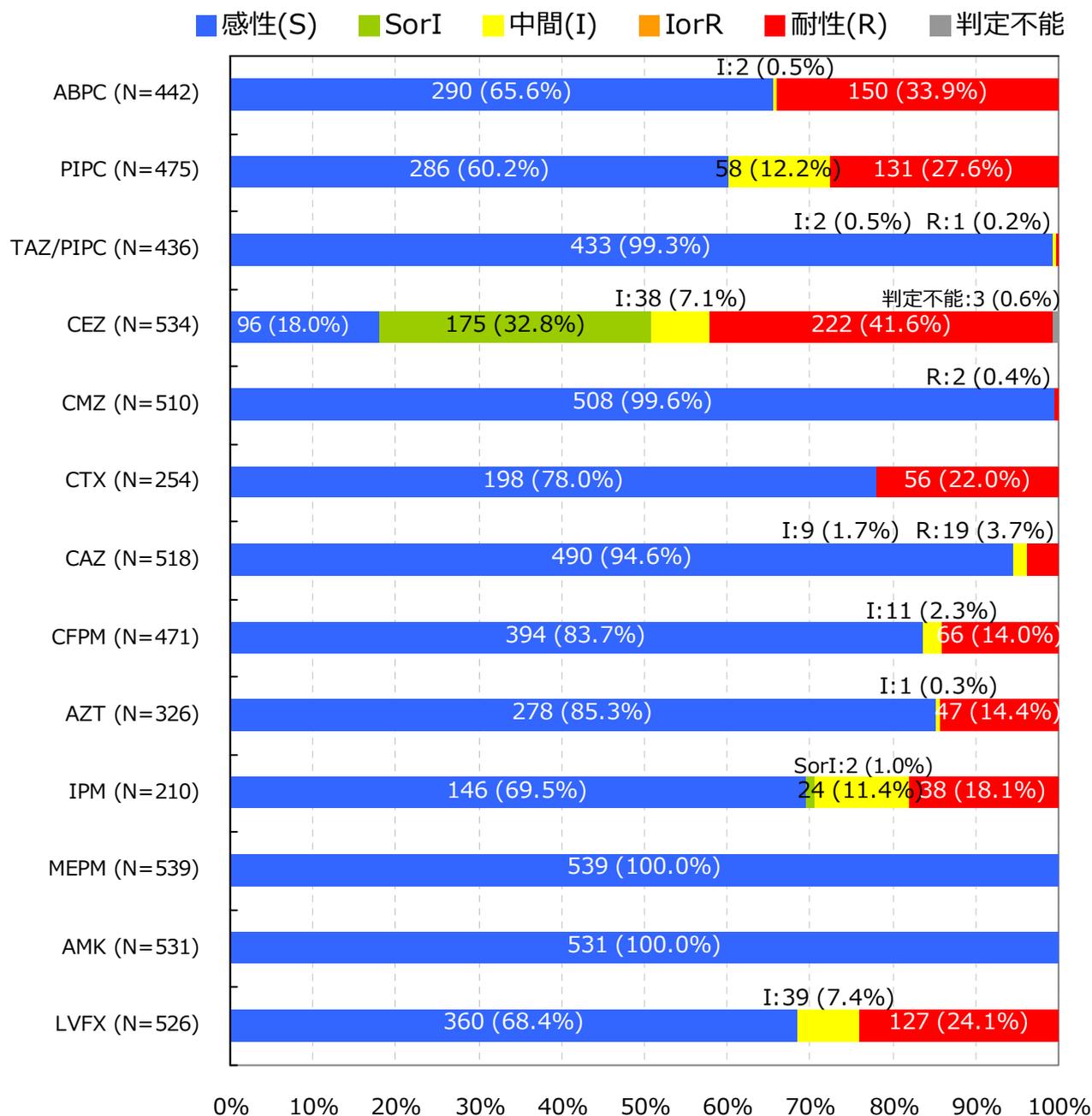
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

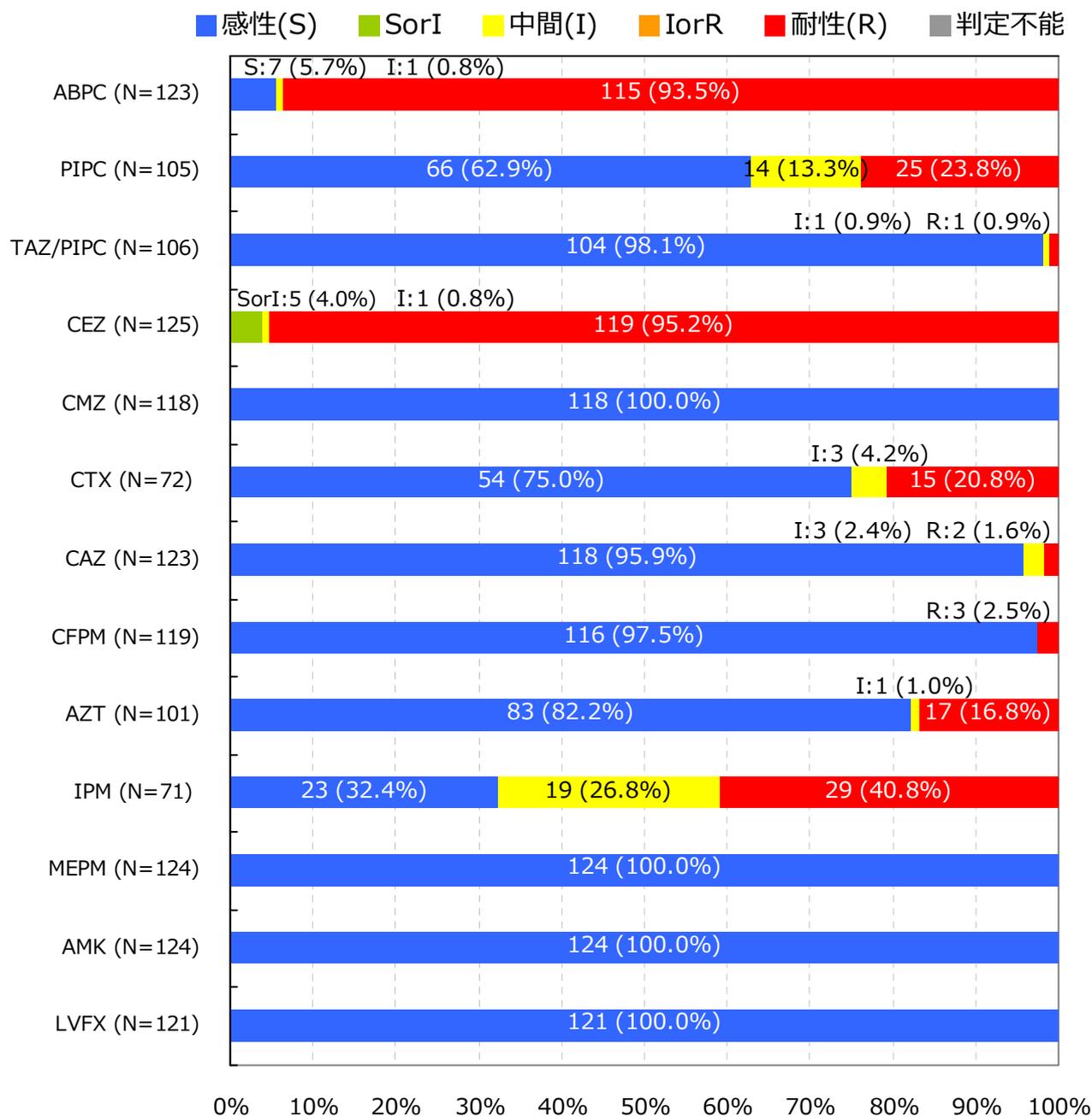
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2201と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

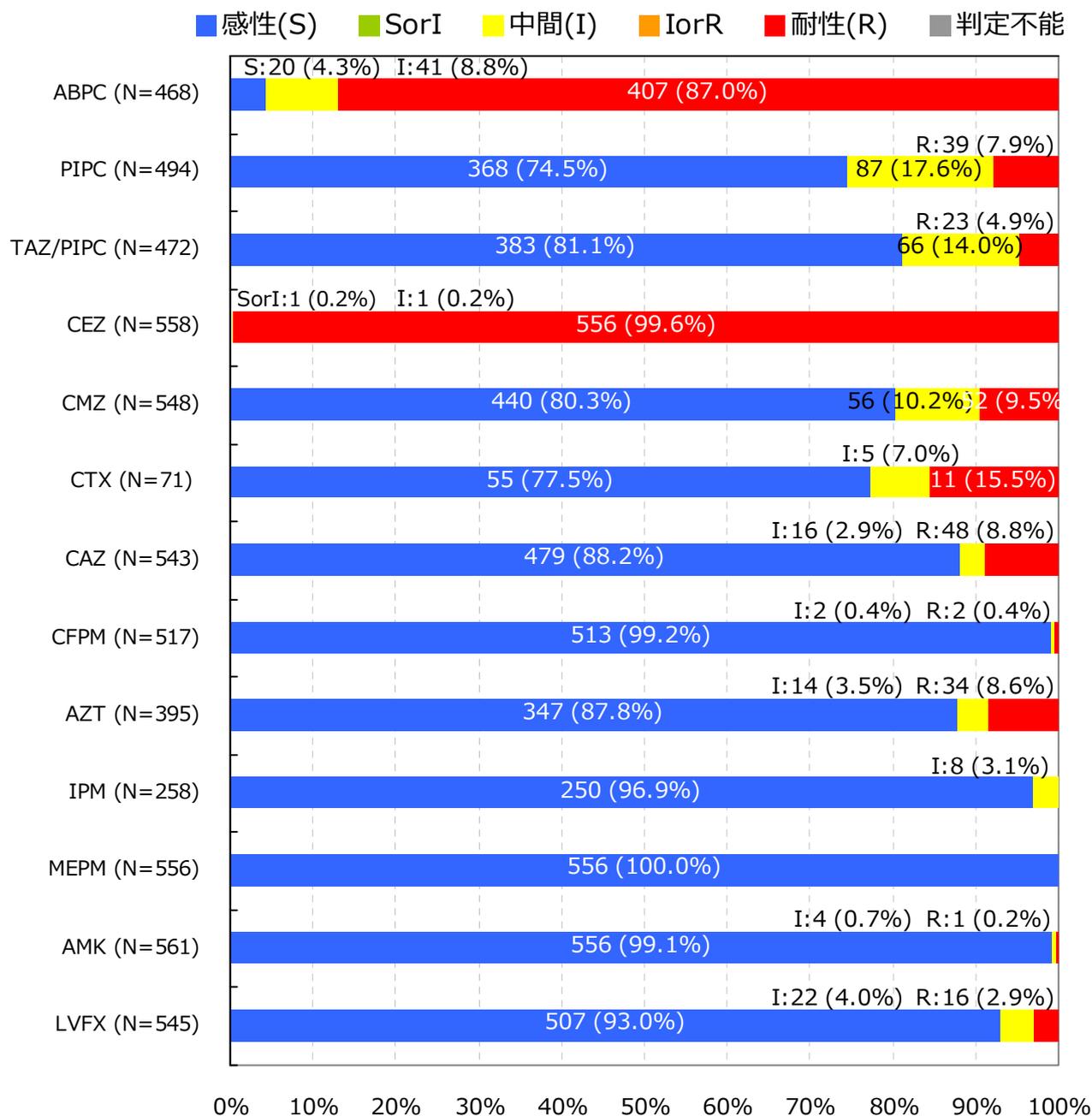
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

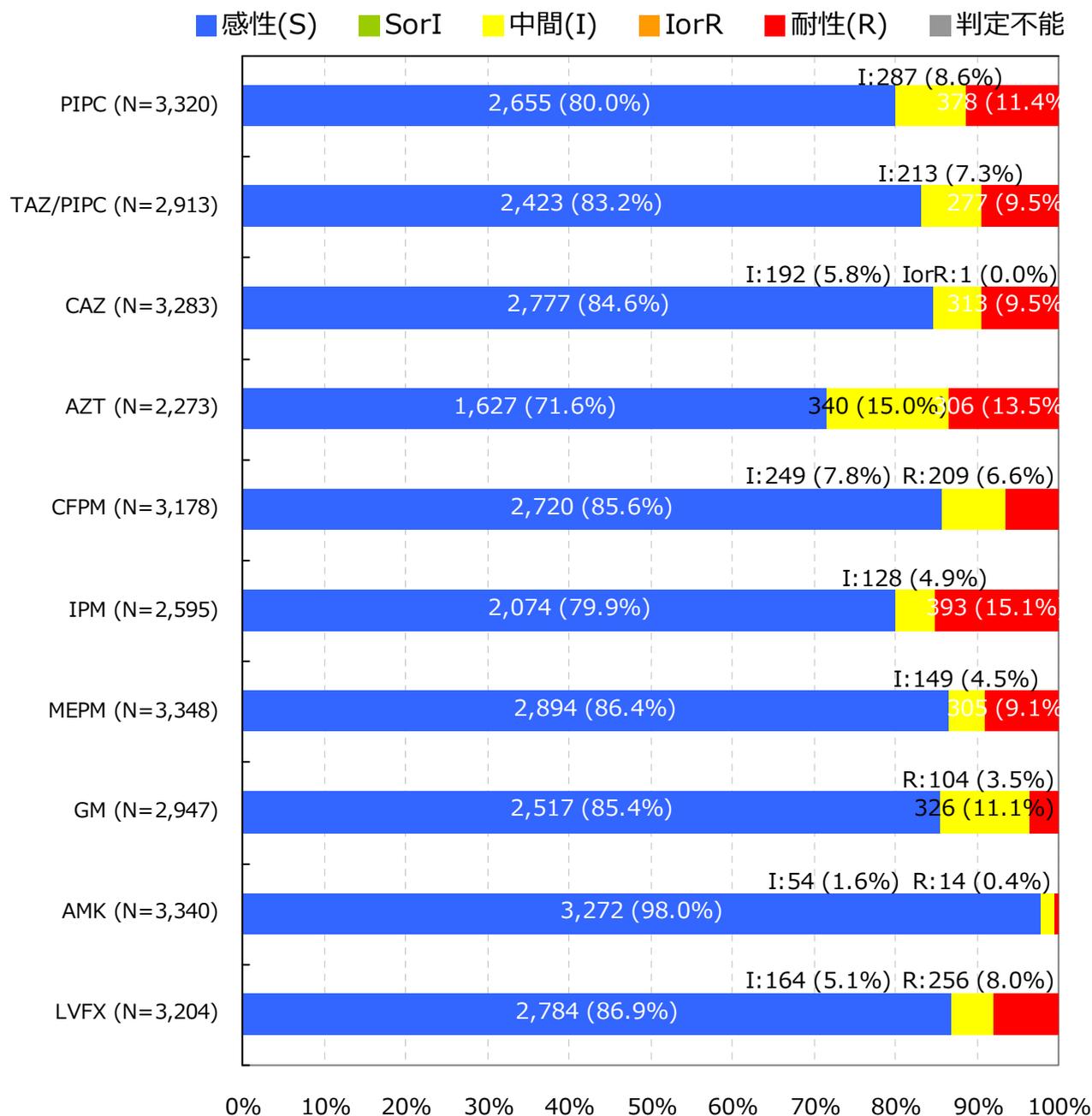
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

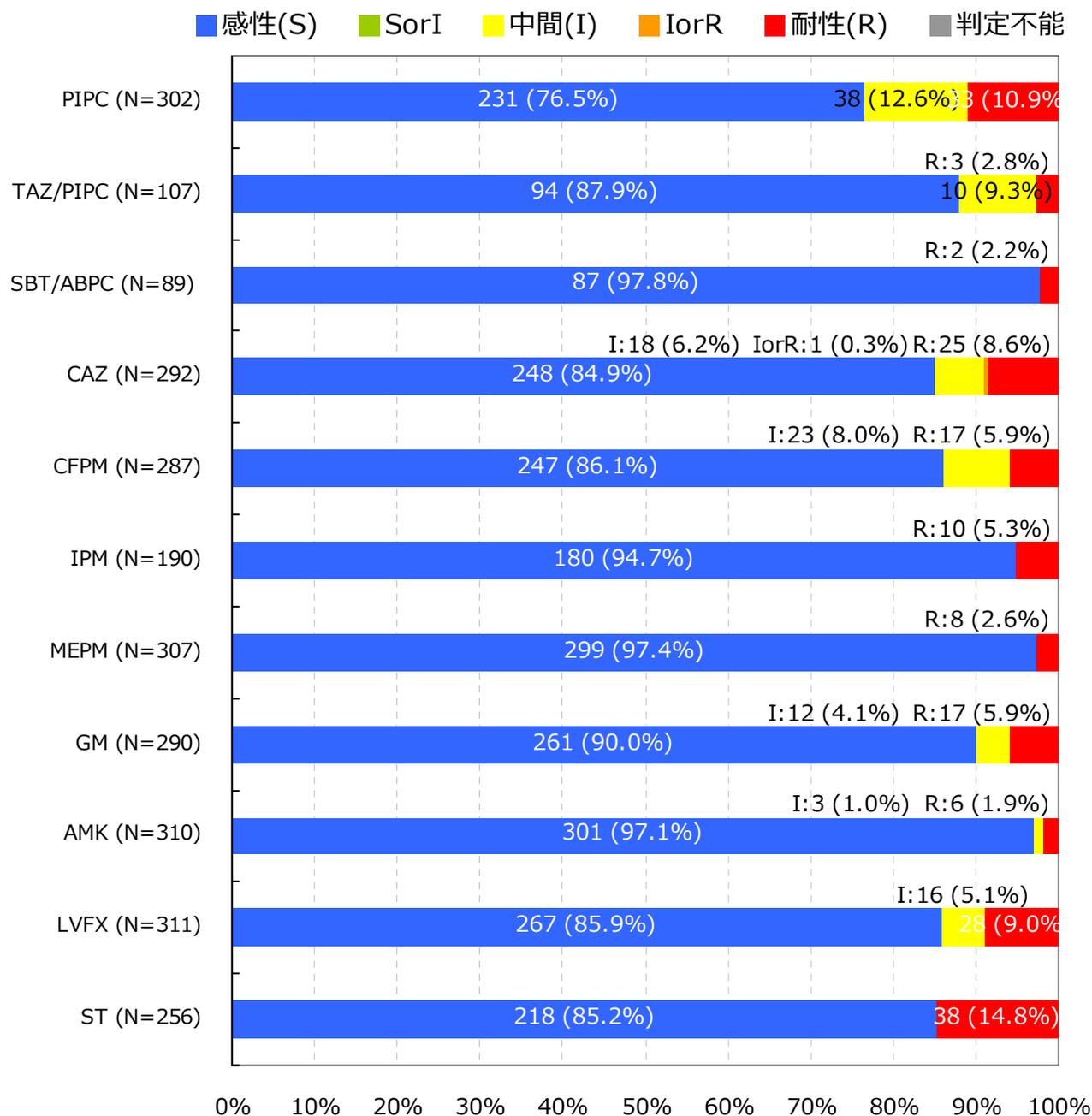
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

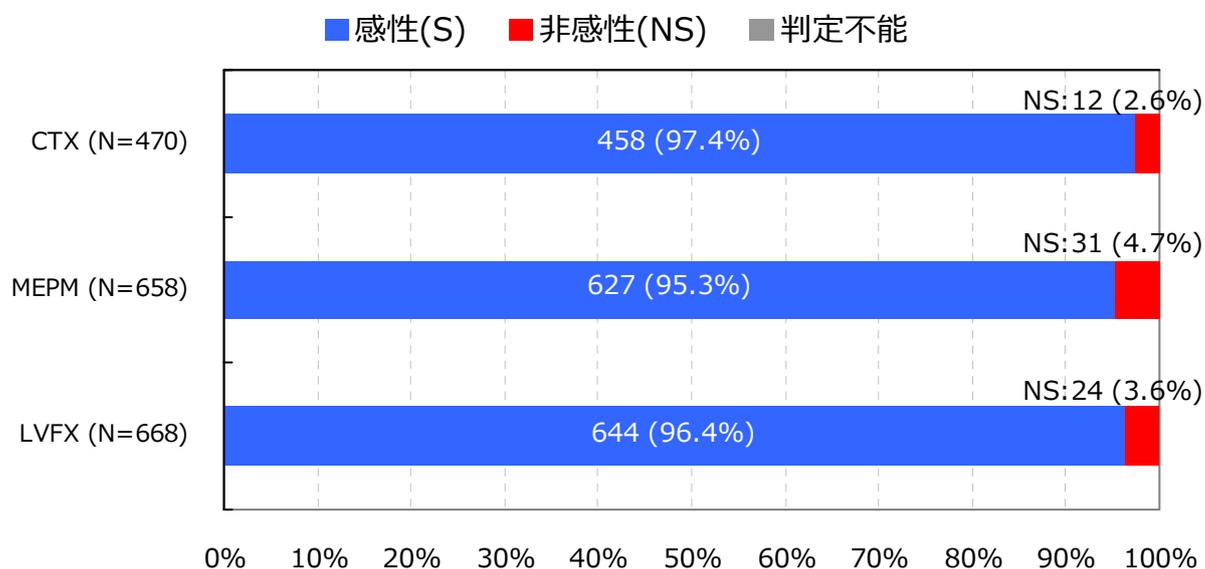
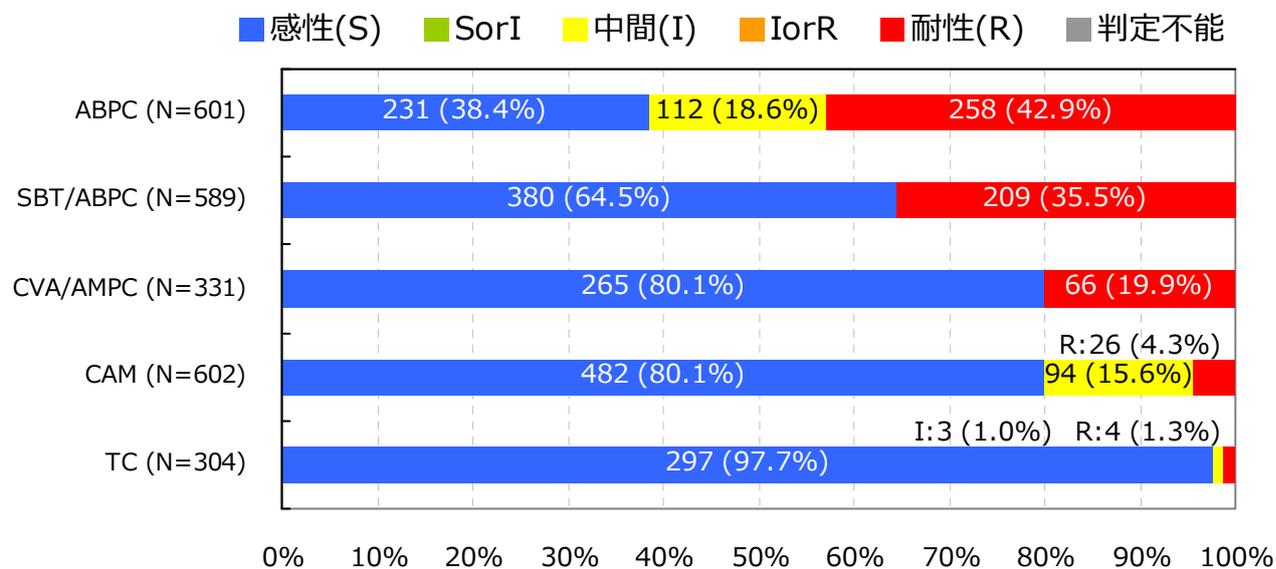
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 4400~4403と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

【巻末資料1 主要菌の菌名コード / 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

主要菌の菌名コード（薬剤感受性条件なし）

| 菌名                                | 菌名コード Ver.5.1       |
|-----------------------------------|---------------------|
| <i>Staphylococcus aureus</i>      | 1301,1303-1306      |
| <i>Staphylococcus epidermidis</i> | 1312                |
| <i>Streptococcus pneumoniae</i>   | 1131                |
| <i>Enterococcus faecalis</i>      | 1201,1202           |
| <i>Enterococcus faecium</i>       | 1205,1206           |
| <i>Escherichia coli</i>           | 2001-2007           |
| <i>Klebsiella pneumoniae</i>      | 2351                |
| <i>Enterobacter</i> spp.          | 2150-2156           |
| <i>Enterobacteriaceae</i>         | 2000-2691,3150-3151 |
| <i>Pseudomonas aeruginosa</i>     | 4001                |
| <i>Acinetobacter</i> spp.         | 4400-4403           |

「微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準」について

耐性菌の菌名は以下の通り

MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015年1月より集計開始）

\* : 原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† : 感染症発生動向調査の基準に準拠

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.2) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.2) を基に作成した。

微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準

| 菌名   | 概要*  | 微量液体希釈法 (MIC 値)   | 菌名コード Ver.5.1                           |
|------|--|---|---|
| MRSA | MPIPC または CFX が "R" の <i>S. aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌   | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$  | 1301,1303                               |
| VRSA | VCM が微量液体希釈法で "R" の <i>S. aureus</i>   | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 1301,1303-1306                          |
| VRE  | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp.<br>・ VCM が微量液体希釈法で耐性 +<br>・ 選択培地で VRE と確認された菌 (注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く                                       | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †   | 1201,1202,1205,1206,1209,1210,1213-1217 |
| PRSP | PCG が微量液体希釈法で耐性 + の <i>S. pneumoniae</i>   | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/mL}$ †  | 1131                                    |
| MDRP | 下記全てに該当する <i>P. aeruginosa</i><br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 +<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 +<br>3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, CPFX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †, MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ †<br>3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ , OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4001                                    |

| 菌名                 | 概要*   | 微量液体希釈法 (MIC 値)  | 菌名コード Ver.5.1        |
|--------------------|---|--|----------------------|
| MDRA               | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp.<br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が "R"<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 +<br>3. フルオロキノロン系 (LVFX, CPFX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †, MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ †<br>3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4400-4403            |
| CRE                | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科<br>1. MEPM が耐性 +<br>2. IPM が耐性 +, かつ CMZ が "R"   | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ †<br>2. IPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ † かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g/mL}$   | 2000-2691, 3150-3151 |
| カルバペネム耐性緑膿菌        | IPM または MEPM が耐性 + の <i>P. aeruginosa</i>   | IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †  | 4001                 |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌 | CTX または CTRX または CAZ が "R" の <i>K. pneumoniae</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CTRX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 2351                 |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌  | CTX または CTRX または CAZ が "R" の <i>E. coli</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CTRX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 2001-2007            |
| フルオロキノロン耐性大腸菌      | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, CPFX の何れか) が "R" の <i>E. coli</i>  | NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ , OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$                 | 2001-2007            |

## 【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

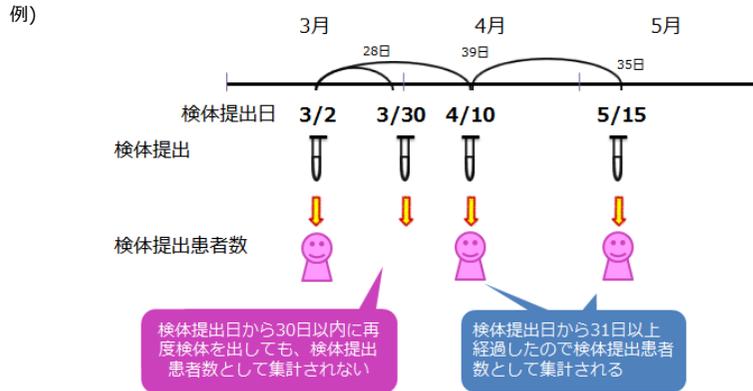
### 1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を1日目とする。検体提出日が3月1日とすると、1日目が3月2日、30日目が3月31日となる。



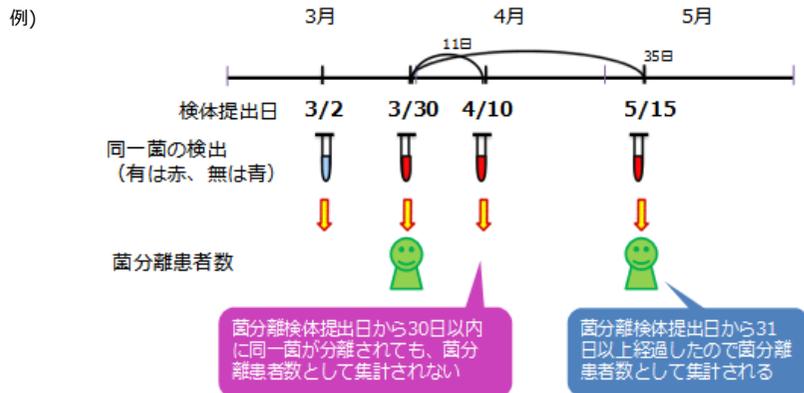
### 2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30日以内の同一患者からの複数の検体提出は1件とする。



### 3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は1件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



### 4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

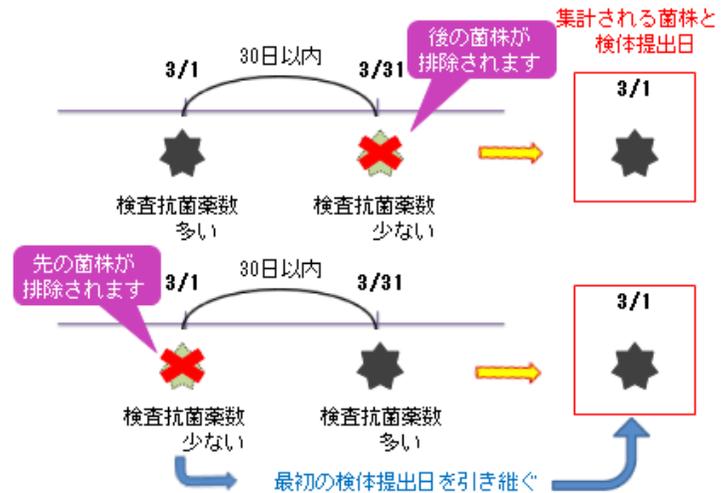
30日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に1つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC値に4倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2はMIC ≥ 4と考え、判定時はMIC = 4として扱う  
また、MIC < 16はMIC ≤ 16と考え、判定時はMIC = 16として扱う
- ② SIR判定では「SとR」の組み合わせ
- ③ +/-判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が5未満

### 5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30日以内の)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。

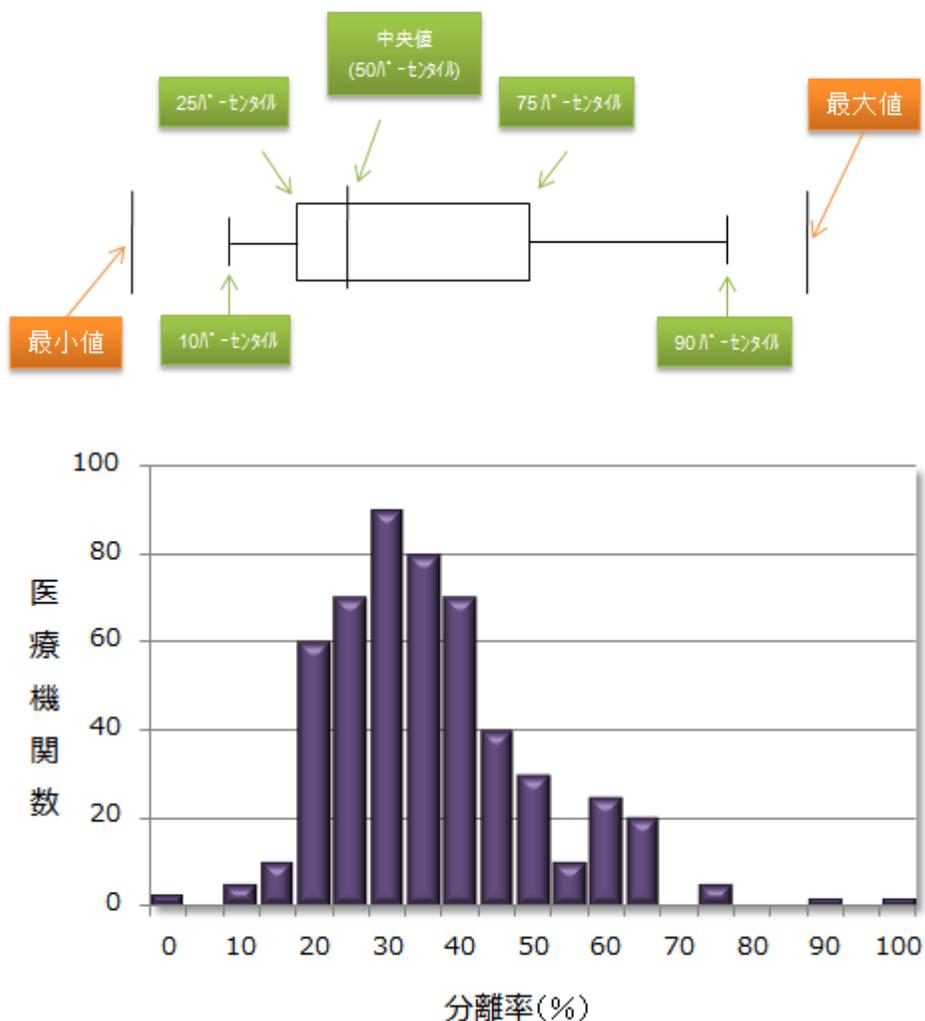
例)



## 【巻末資料 3 箱ひげ図について】

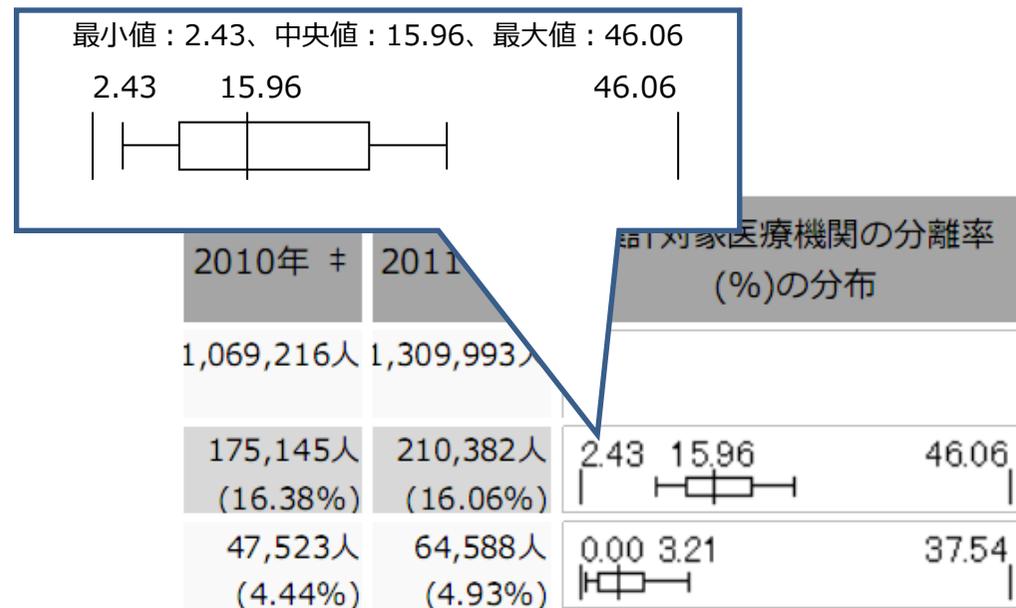
### 1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



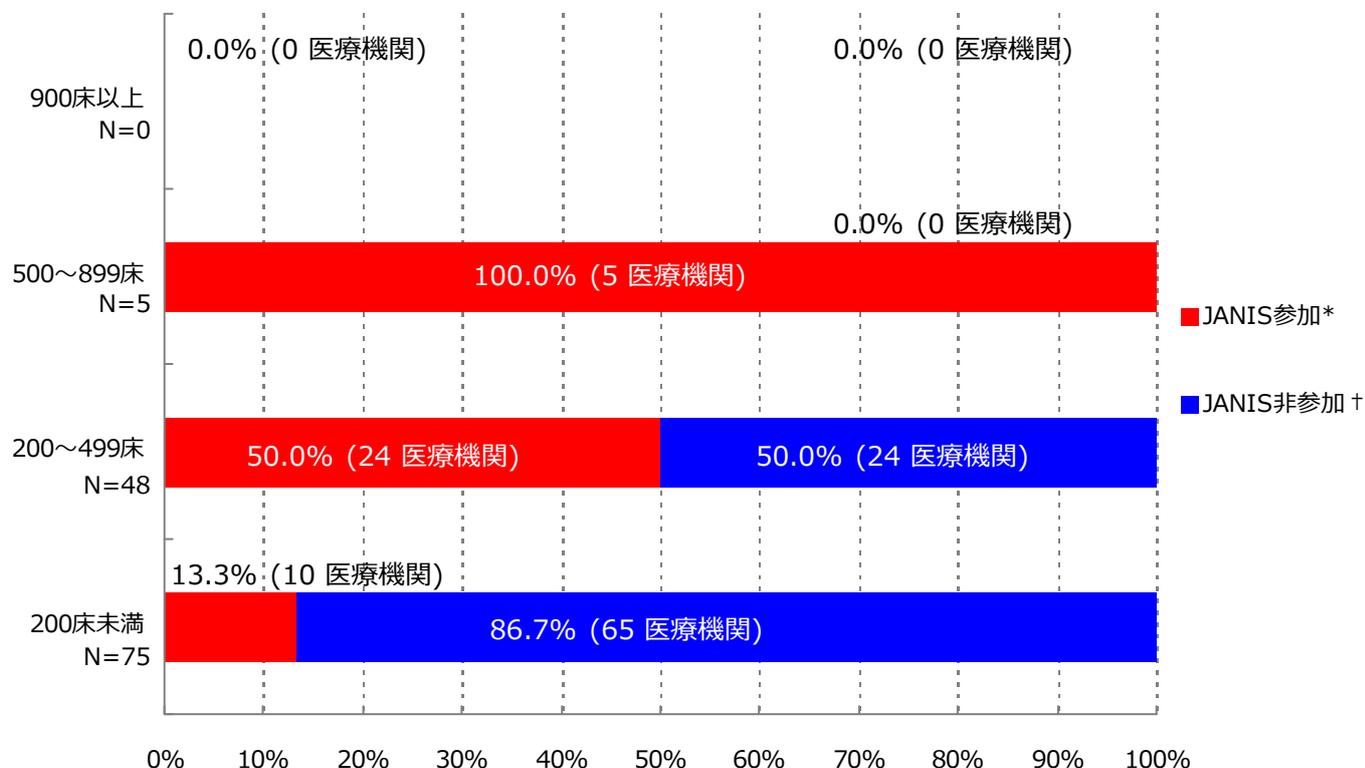
※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したものの。例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

### 2. 公開情報の箱ひげ図





### 1. 集計対象医療機関数(39医療機関)



\*JANIS参加 = 2019年1～3月 集計対象医療機関数

†JANIS非参加 = (2018年 都道府県別医療機関数 †) - (2019年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数      | 2019年1月～3月 集計対象医療機関数<br>(都道府県別医療機関数に占める割合) |              |
|----------|--|--------------|
|          | 2018年 都道府県別医療機関数 †                         | 割合           |
| 900床以上   | 0  | 0 ( 0.0% )   |
| 500～899床 | 5  | 5 (100.0% )  |
| 200～499床 | 48   | 24 ( 50.0% ) |
| 200床未満   | 75   | 10 ( 13.3% ) |
| 病床数不明    | -  | 0 ( - )      |
| 合計       | 128  | 39 ( 30.5% ) |

† 2018年医療施設（動態）調査を参照した

(新潟県)

公開情報 2019年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門 【入院検体】



## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数    | 陽性検体数<br>(分離菌数)    |
|--------|-----------|--------|--------------------|
| 呼吸器系検体 | 39        | 8,043  | 3,998<br>(7,383)   |
| 尿検体    | 39        | 3,447  | 2,226<br>(3,401)   |
| 便検体    | 39        | 2,212  | 1,114<br>(1,958)   |
| 血液検体   | 39        | 10,057 | 1,379<br>(1,508)   |
| 髄液検体   | 26        | 223    | 17<br>(17)         |
| その他    | 39        | 4,118  | 2,137<br>(4,157)   |
| 合計     | 39        | 28,100 | 10,871<br>(18,424) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

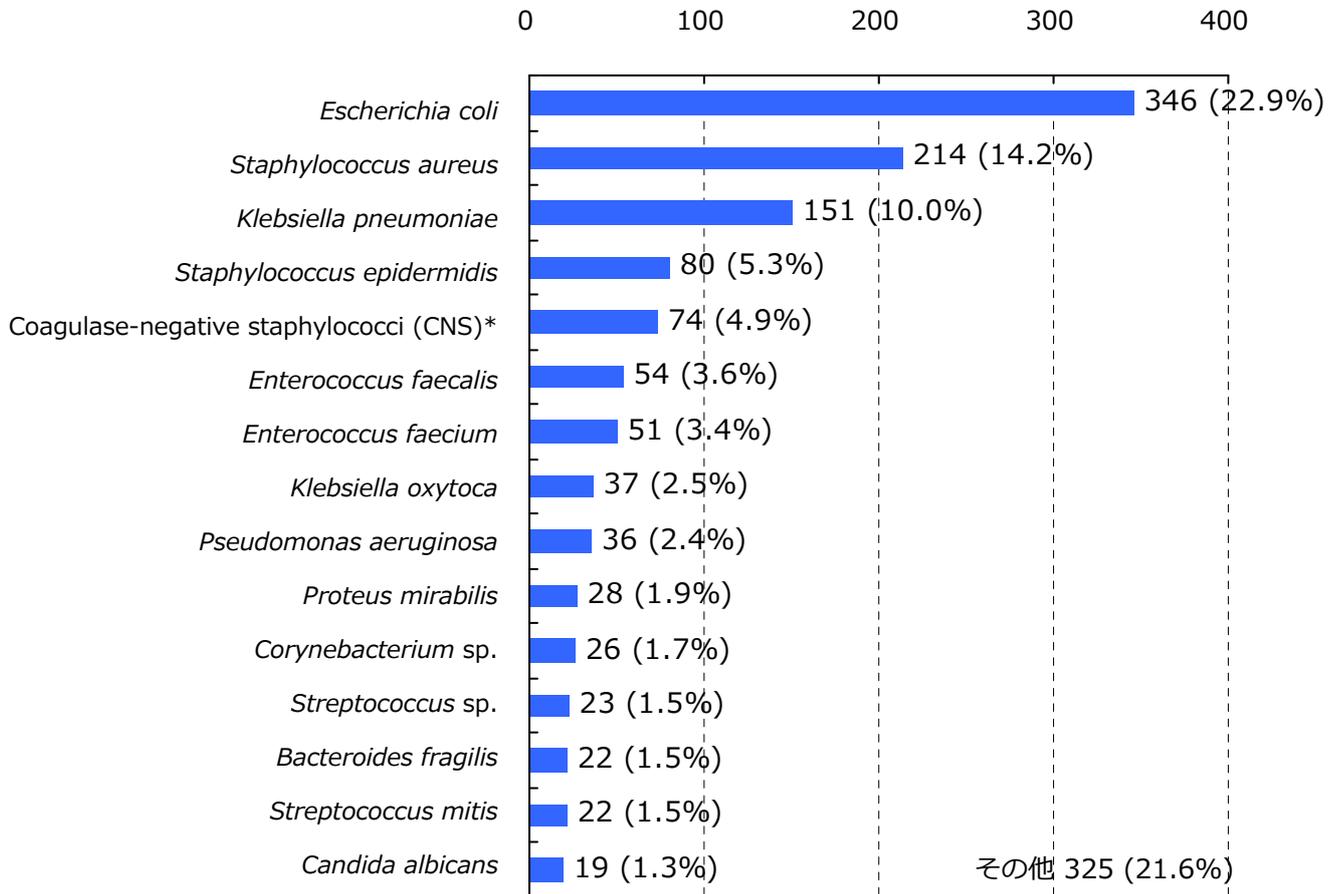
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=1,508)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

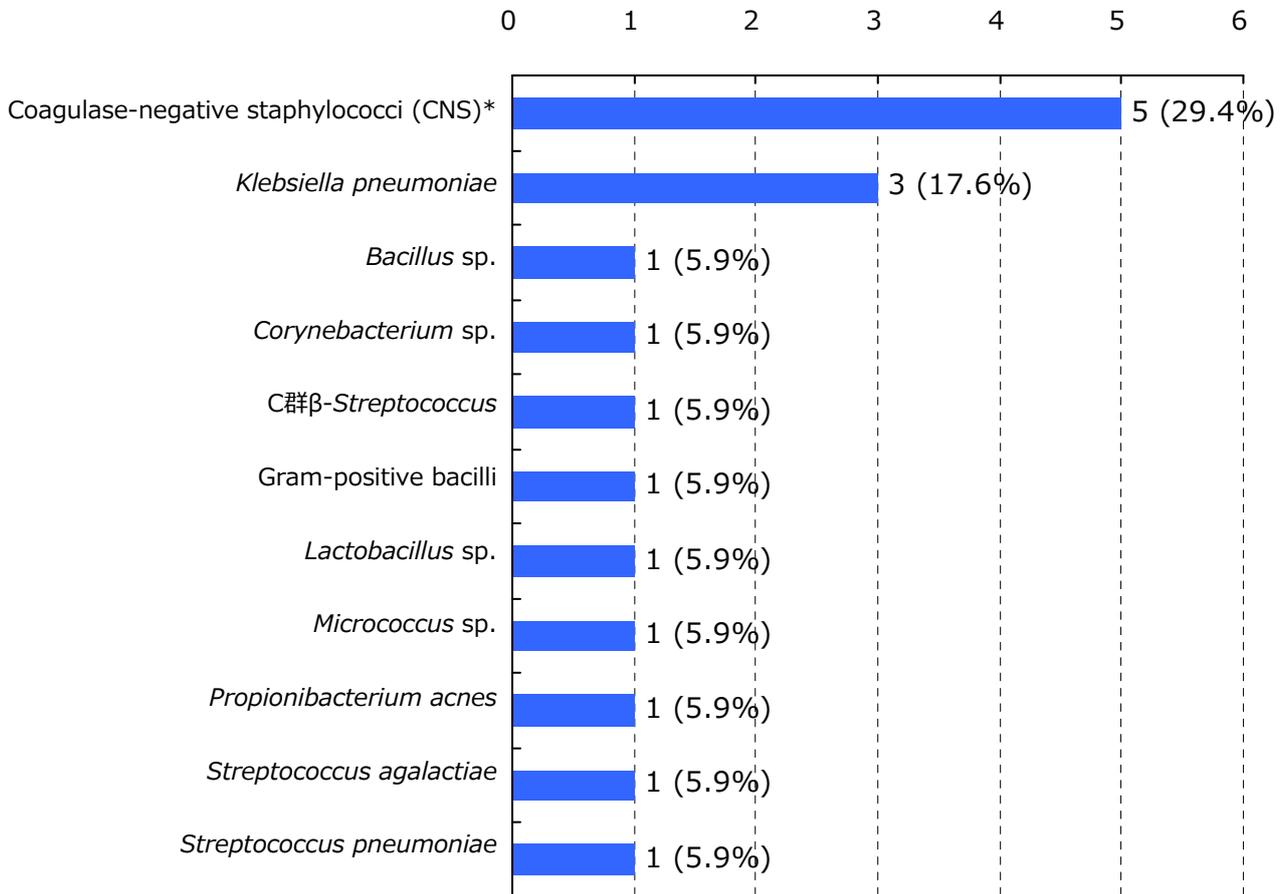
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=17)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

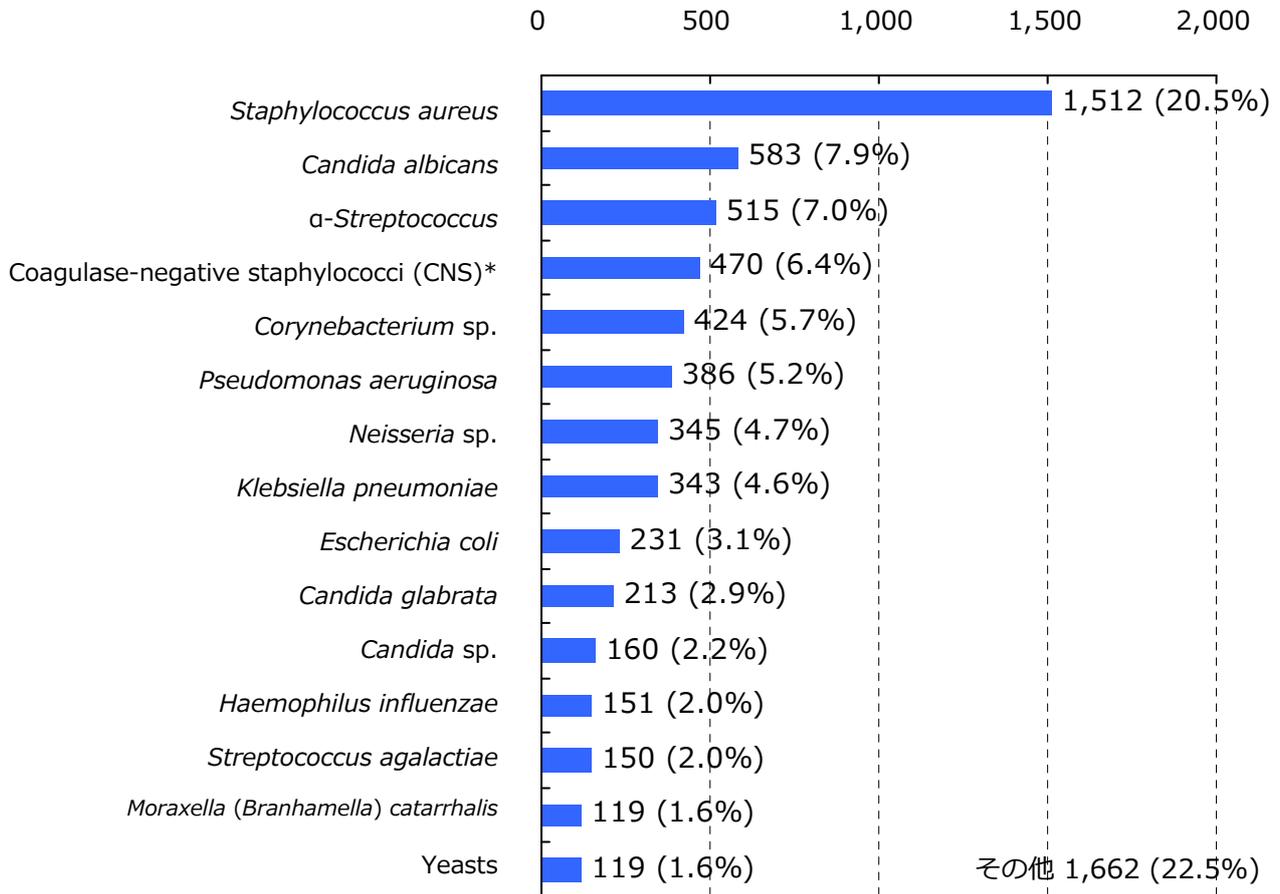
髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 呼吸器系検体分離菌 (N=7,383)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・常在菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：喀出痰(検査材料コード101)、気管内採痰(同102)、気管支洗浄液(同103)、咽頭粘液(同104)、鼻腔内(同105)、口腔内(同106)、生検材料(肺)(同107)、その他(呼吸器)(同109)、胸水(同404)

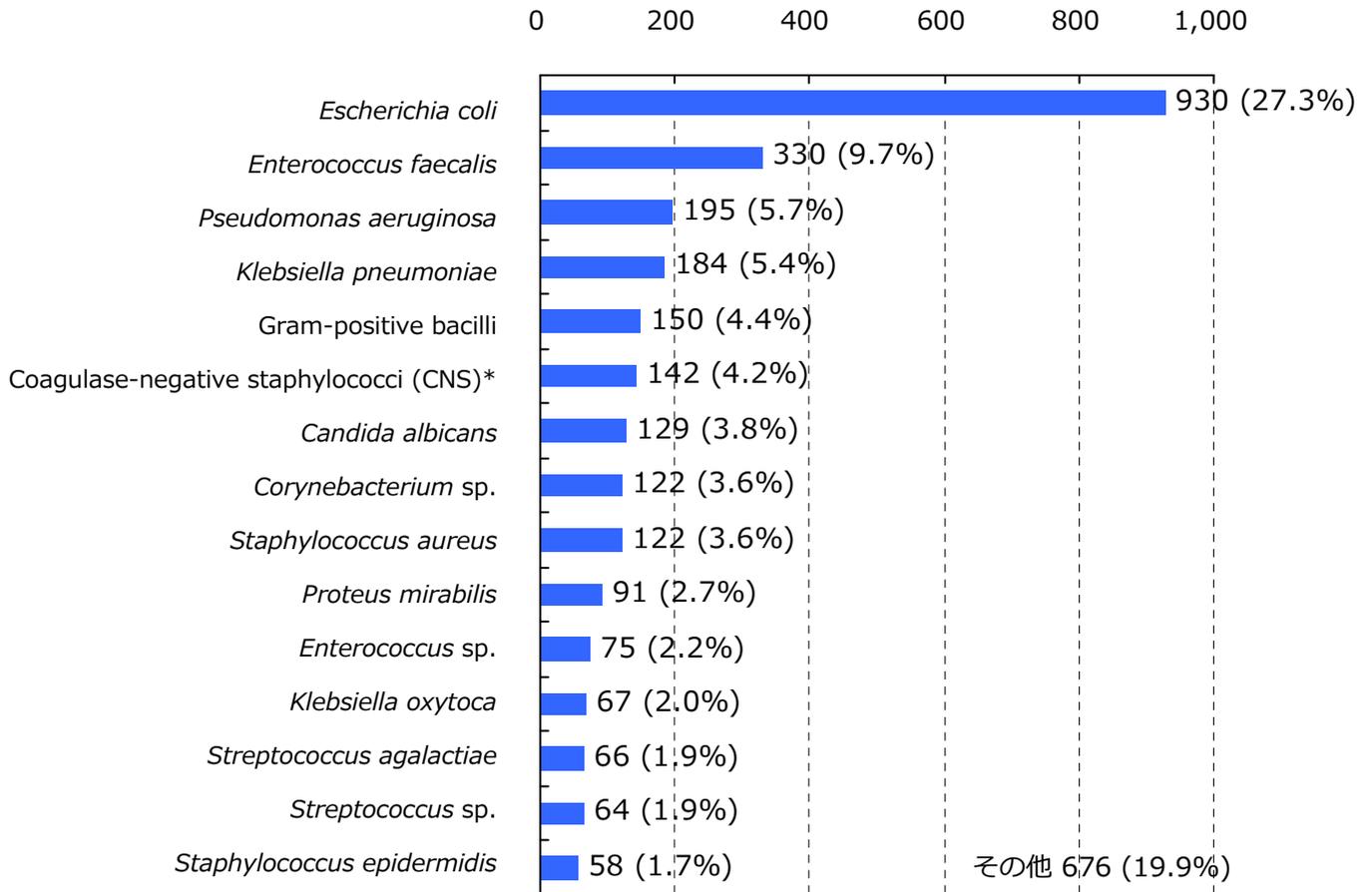
呼吸器系検体分離菌数割合 = (対象菌の呼吸器系検体分離菌数) ÷ (呼吸器系検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 尿検体分離菌 (N=3,401)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

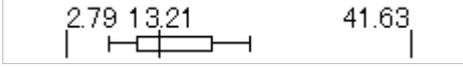
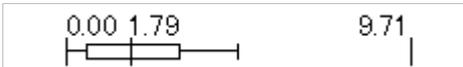
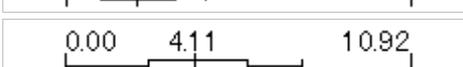
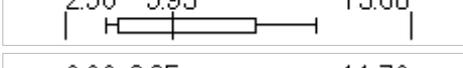
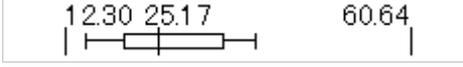
集計対象検査材料：自然排尿(検査材料コード201)、採尿カテーテル尿(同202)、留置カテーテル尿(同203)、カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能)(同206)

尿検体分離菌数割合 = (対象菌の尿検体分離菌数) ÷ (尿検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

## 4. 主要菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                           | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布  |
|---------------------------|------------------------|--|
| 検体提出患者数(100床あたり)          | 12,635人<br>(98.4)※     |  |
| <i>S. aureus</i>          | 1,811人<br>(14.33%)     | 2.79 13.21 41.63<br>    |
| <i>S. epidermidis</i>     | 284人<br>(2.25%)        | 0.00 1.79 9.71<br>      |
| <i>S. pneumoniae</i>      | 114人<br>(0.90%)        | 0.00 0.87 4.26<br>      |
| <i>E. faecalis</i>        | 548人<br>(4.34%)        | 0.00 4.11 10.92<br>     |
| <i>E. faecium</i>         | 159人<br>(1.26%)        | 0.00 0.97 3.19<br>      |
| <i>E. coli</i>            | 1,620人<br>(12.82%)     | 5.76 13.21 38.30<br>   |
| <i>K. pneumoniae</i>      | 710人<br>(5.62%)        | 2.50 5.93 13.68<br>   |
| <i>Enterobacter spp.</i>  | 359人<br>(2.84%)        | 0.00 2.65 11.70<br>   |
| <i>Enterobacteriaceae</i> | 2,937人<br>(23.24%)     | 12.30 25.17 60.64<br> |
| <i>P. aeruginosa</i>      | 570人<br>(4.51%)        | 0.00 4.33 18.95<br>   |
| <i>Acinetobacter spp.</i> | 53人<br>(0.42%)         | 0.00 0.35 2.74<br>    |

入院として報告された検体を集計

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

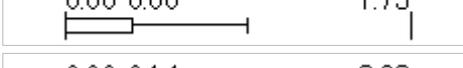
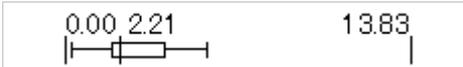
全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

※ 病床数が登録されている医療機関のみが対象

## 5. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                        | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布  |
|------------------------|------------------------|--|
| 検体提出患者数(100床あたり)       | 12,635人<br>(98.4)※     |  |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)   | 930人<br>(7.36%)        | 1.05 5.83 38.64<br>   |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>              |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)      | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>              |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)      | 29人<br>(0.23%)         | 0.00 0.00 2.13<br>    |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP)          | 1人<br>(0.01%)          | 0.00 0.00 0.12<br>    |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)    | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>             |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)   | 30人<br>(0.24%)         | 0.00 0.00 1.73<br>  |
| カルバペネム耐性緑膿菌            | 54人<br>(0.43%)         | 0.00 0.14 3.68<br>  |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌     | 26人<br>(0.21%)         | 0.00 0.00 3.13<br>  |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌      | 298人<br>(2.36%)        | 0.00 2.21 13.83<br> |
| フルオロキノロン耐性大腸菌          | 494人<br>(3.91%)        | 0.00 4.24 13.83<br> |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

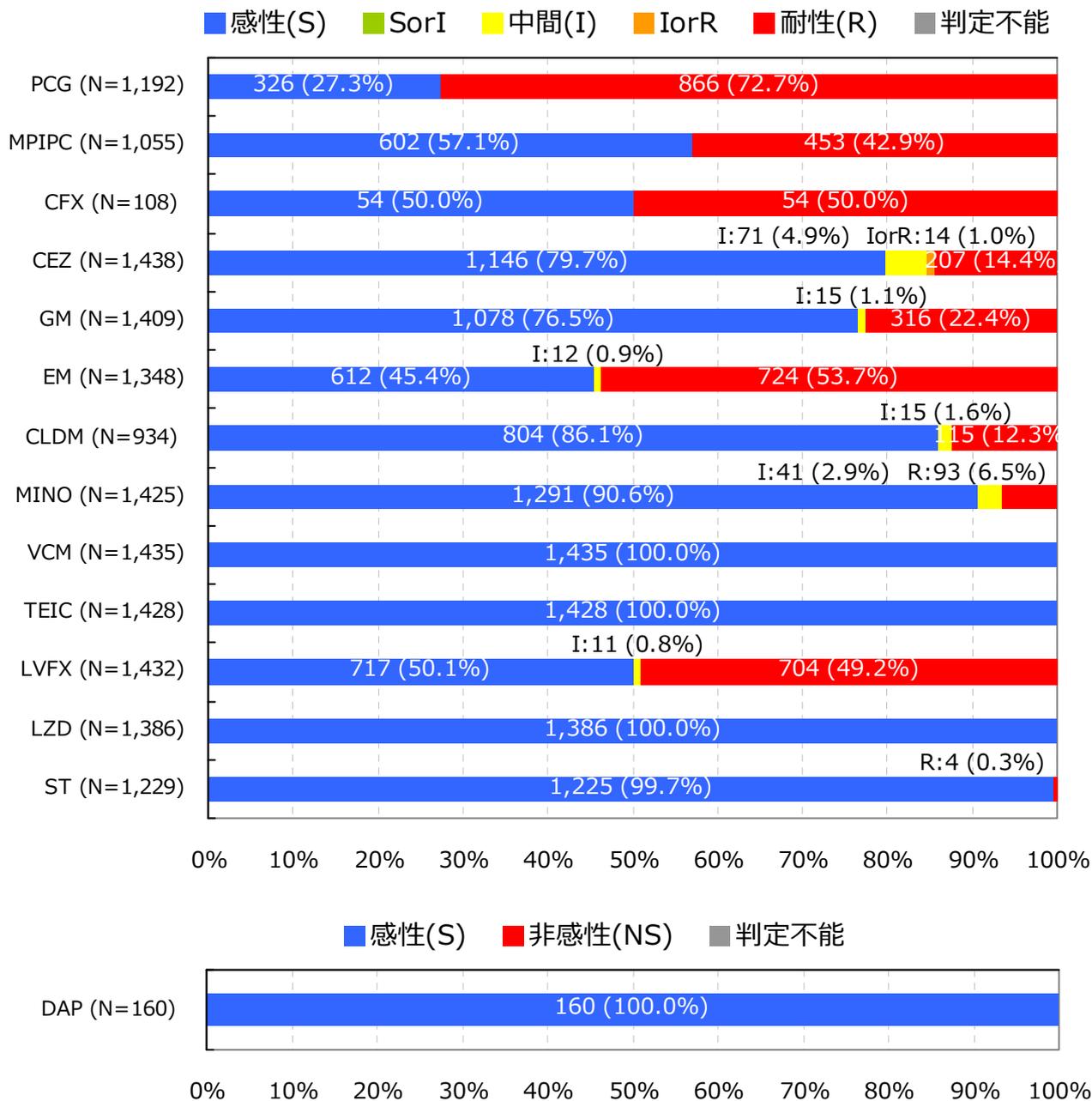
= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

※ 病床数が登録されている医療機関のみが対象

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (ALL) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

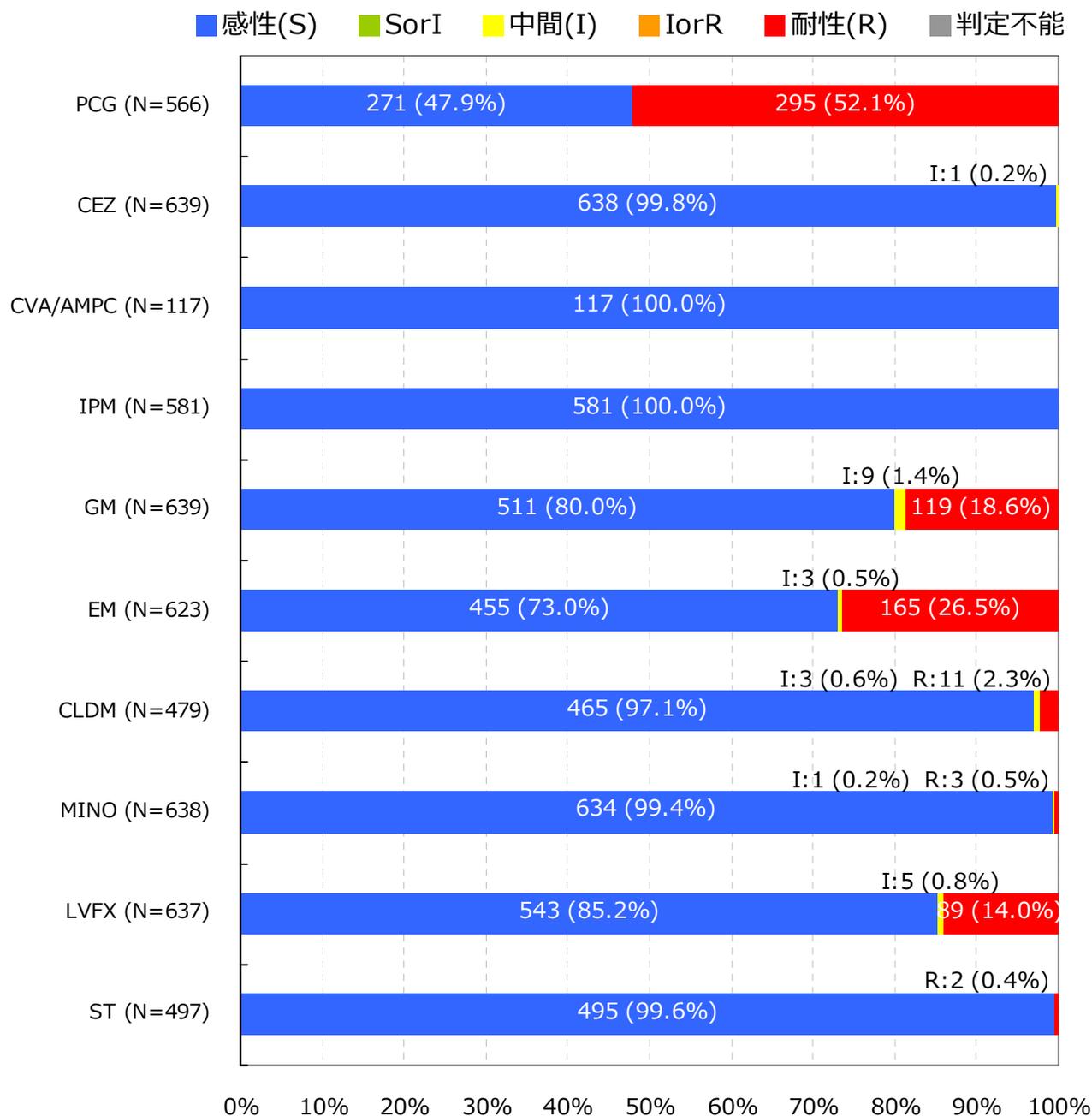
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

†菌名コード: 1301, 1303～1306と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

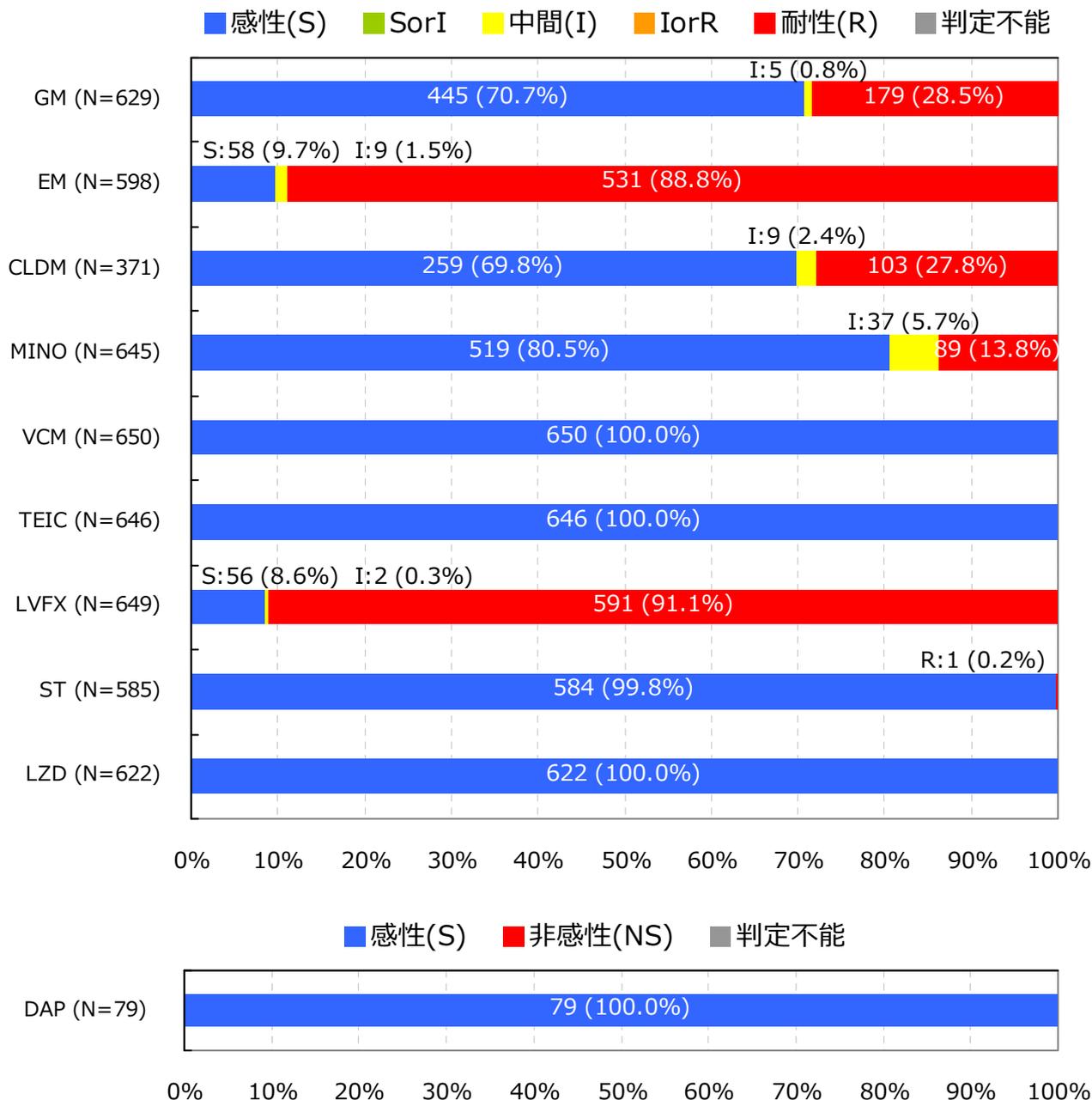
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1304, 1305, 1306と報告された菌、または菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208 (オキサリリン) および抗菌薬コード：1606 (セフォキシチン) の感受性結果「S」の菌 (一方が「S」で他方が未測定の場合を含む)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

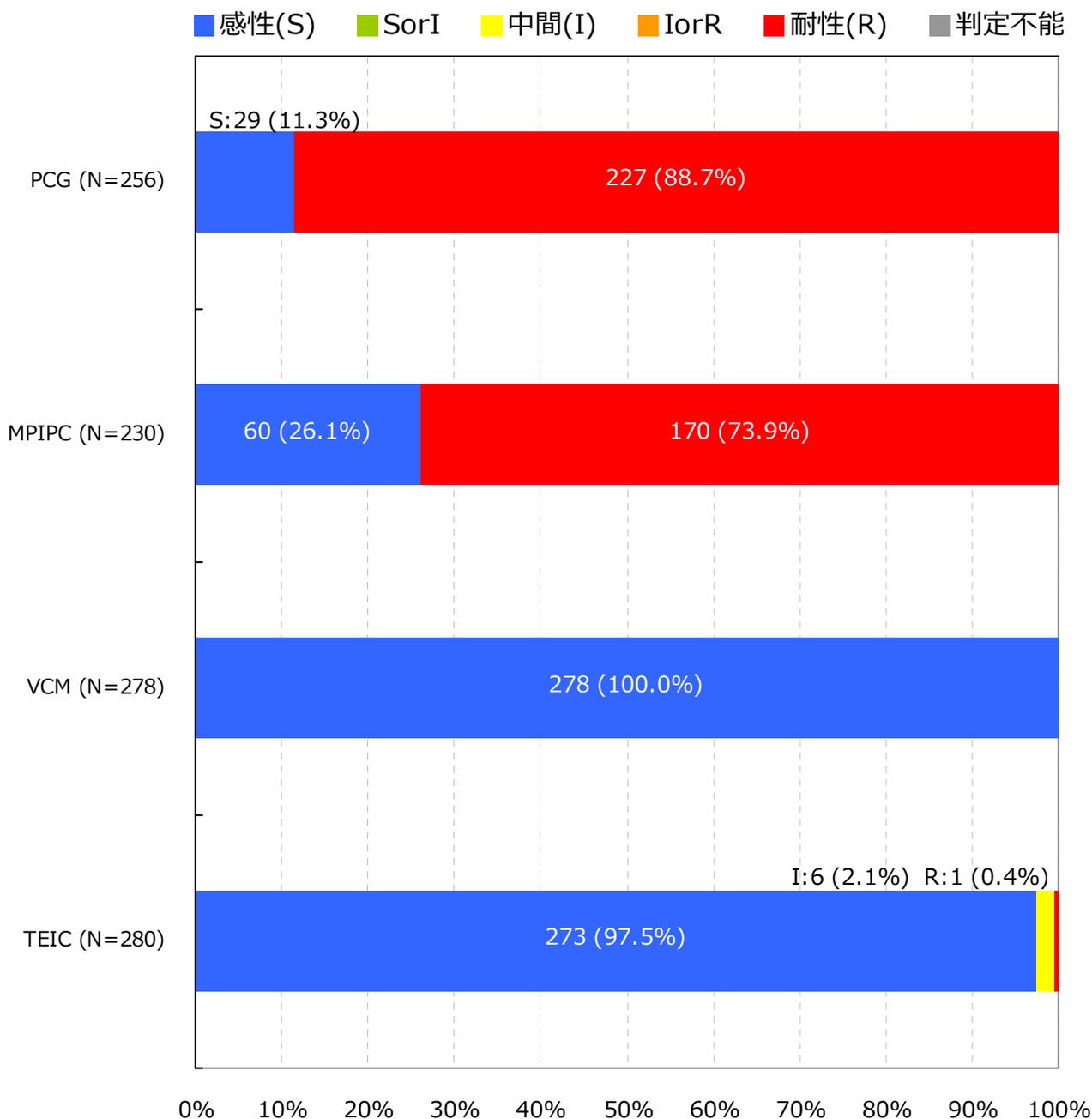
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1303と報告された菌、または菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208（オキサシリン）または抗菌薬コード：1606（セフォキシチン）の感受性結果「R」の菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

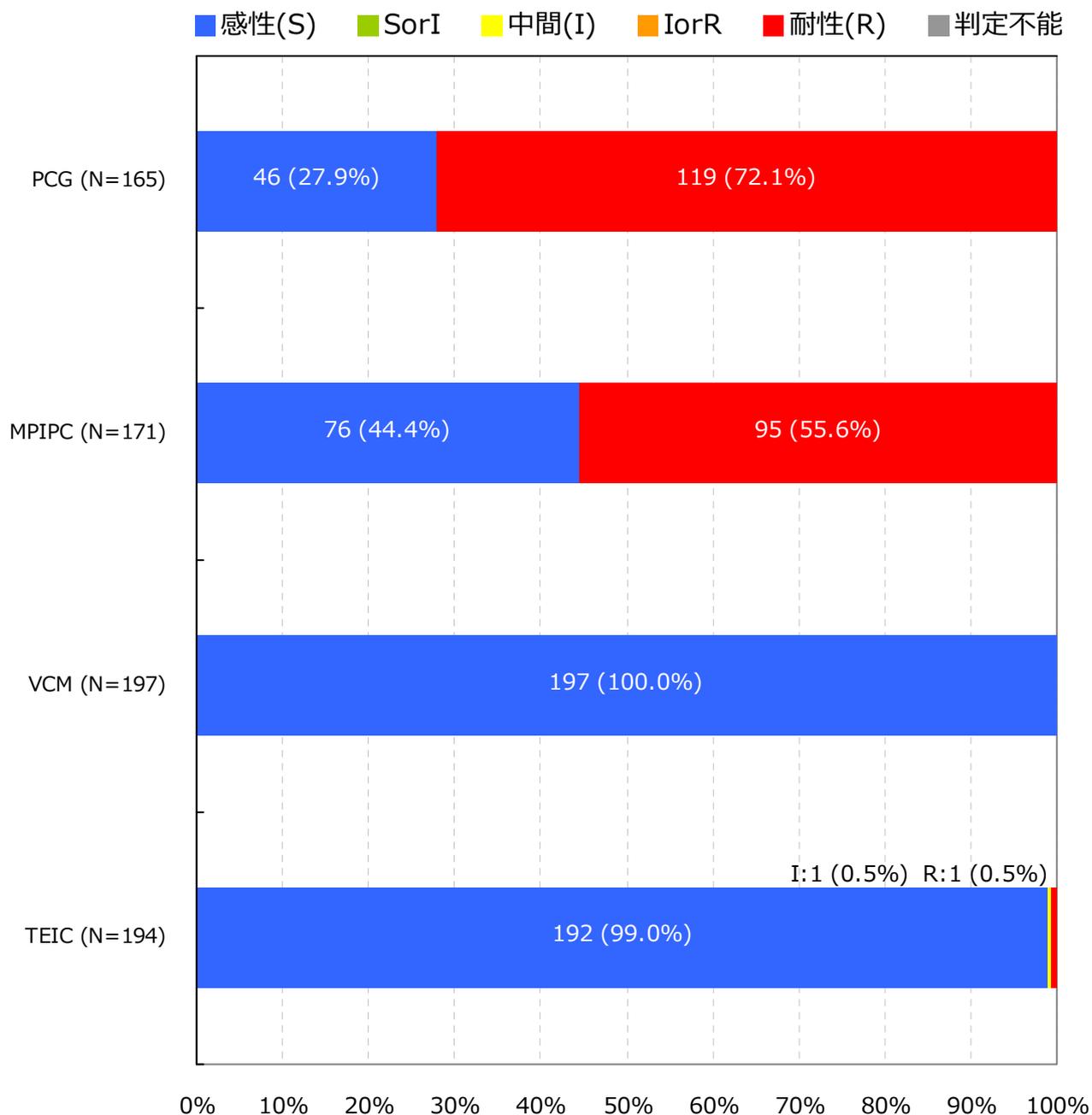
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

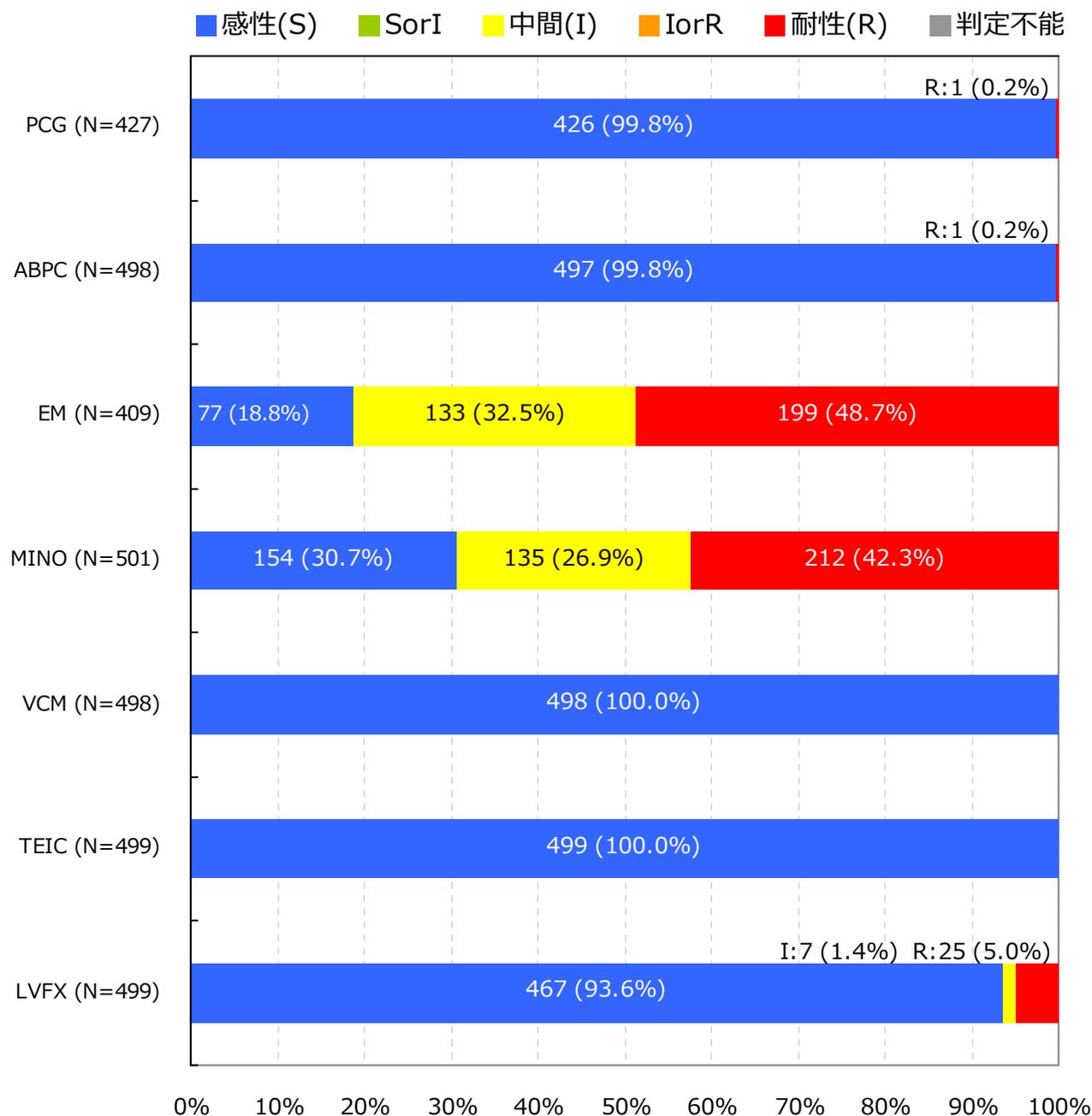
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

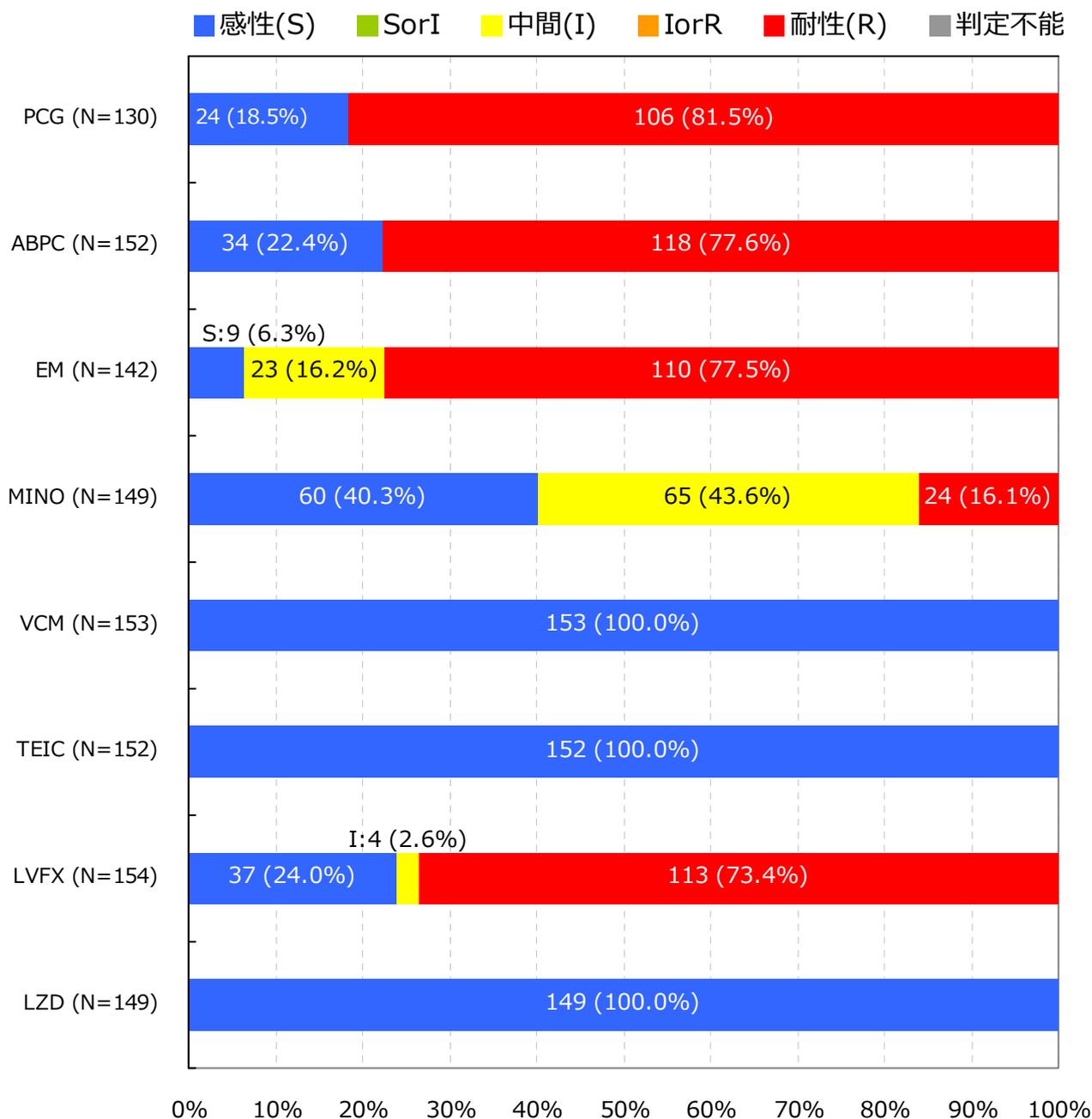
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

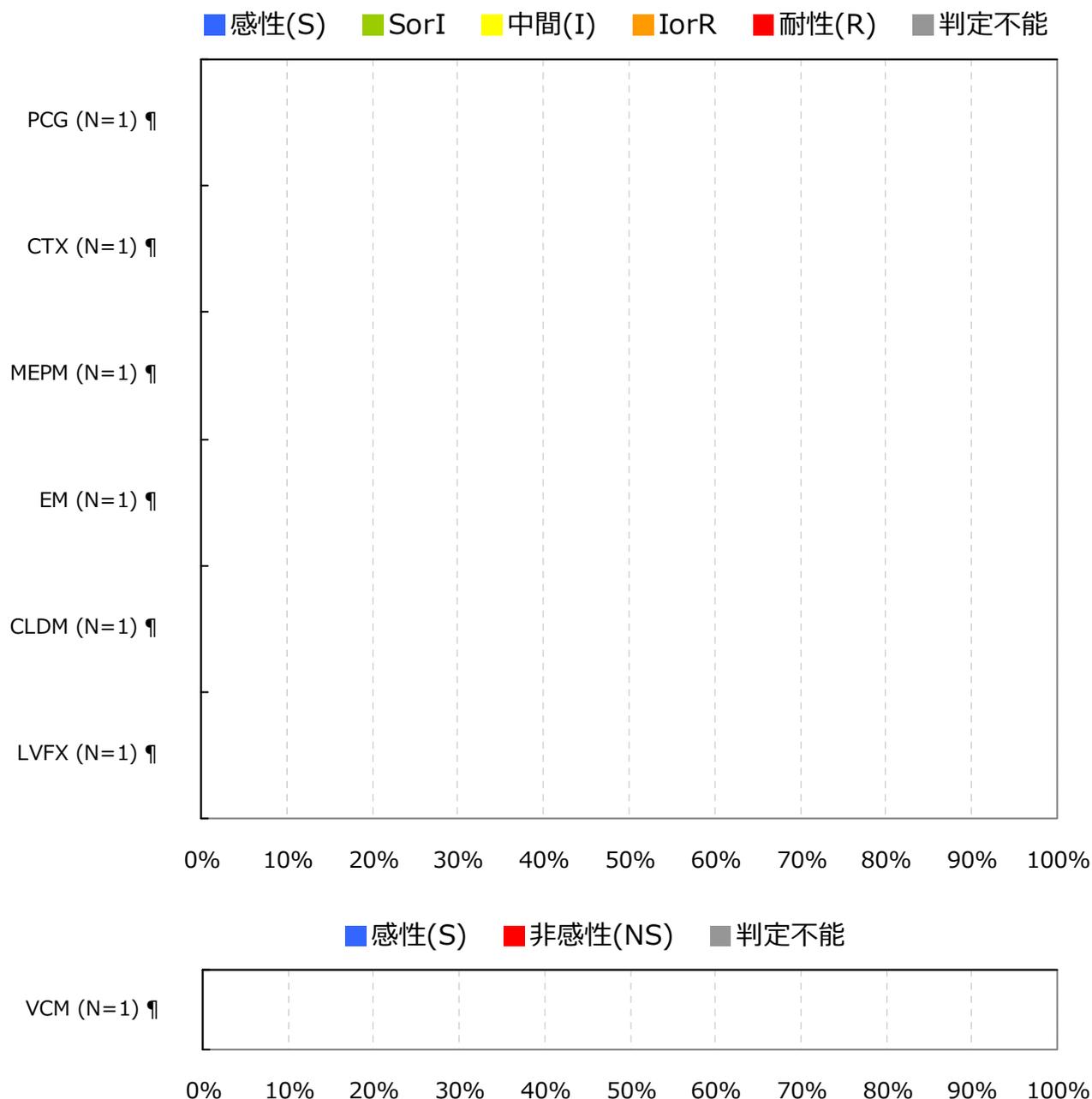
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1205, 1206と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

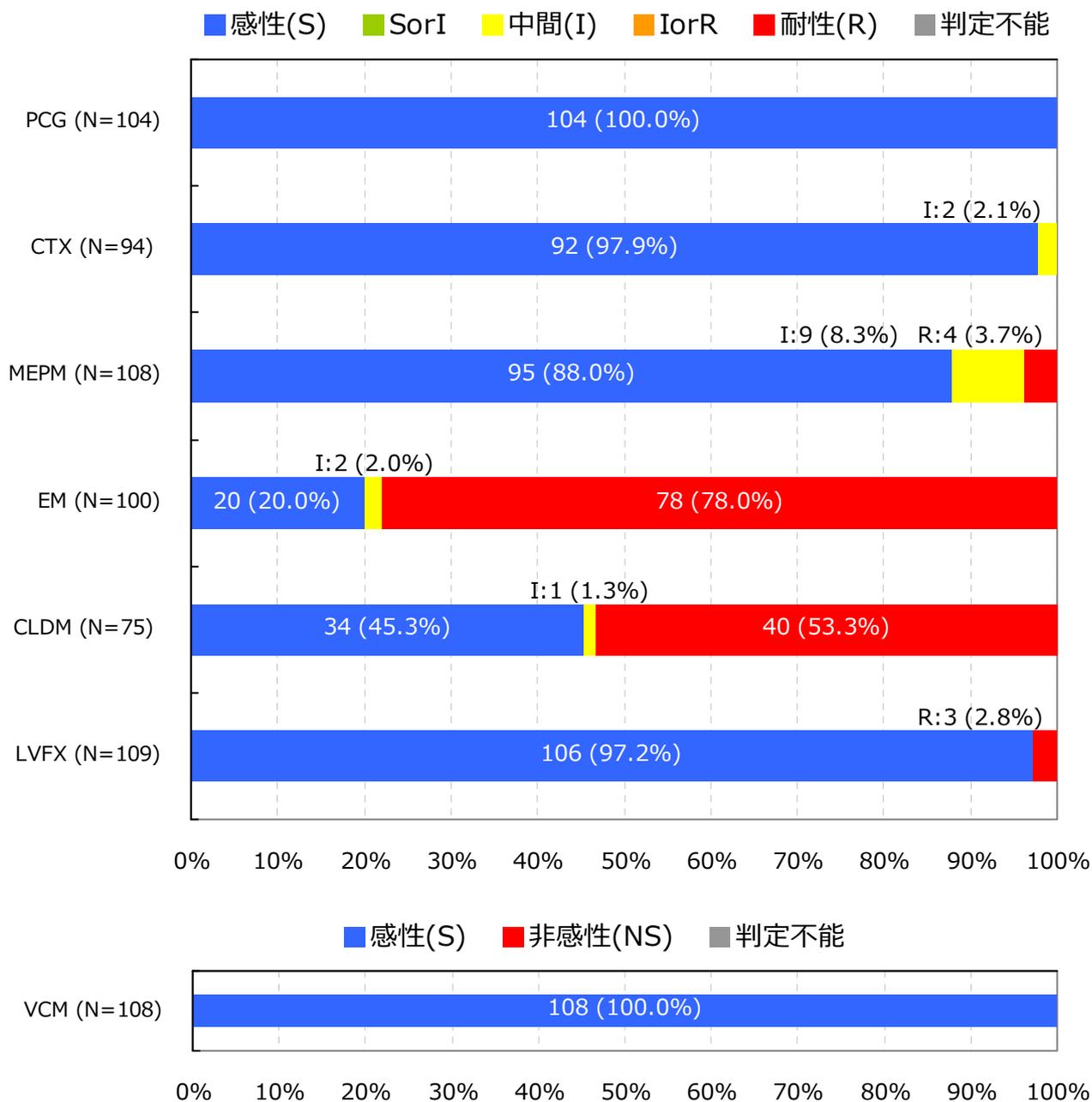
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1131と報告された菌

‡ 集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

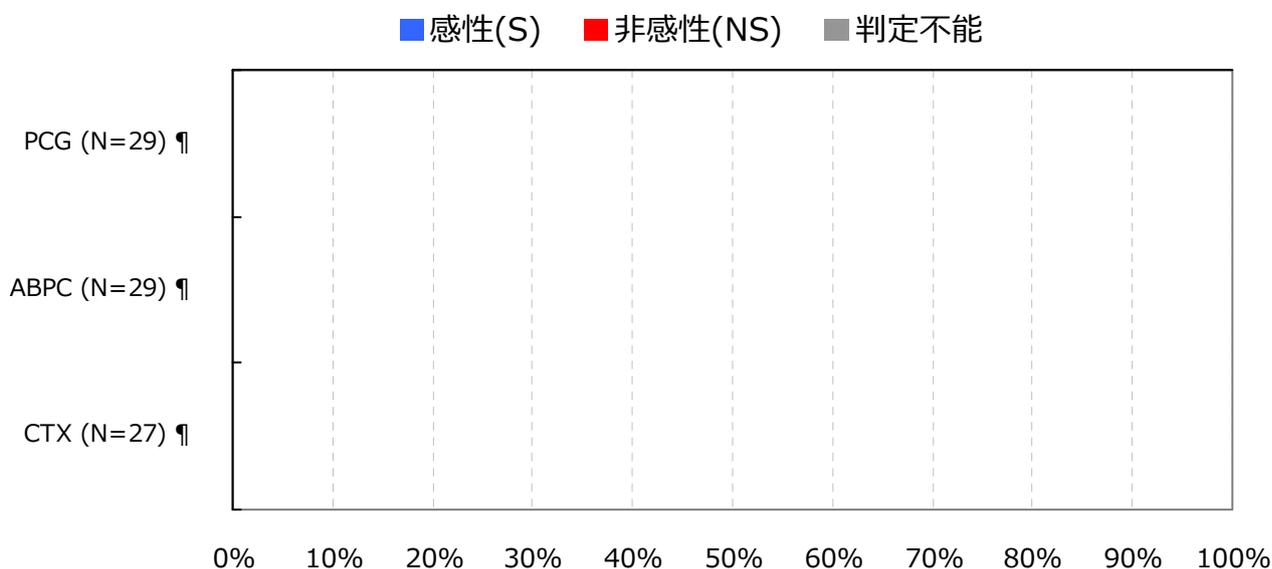
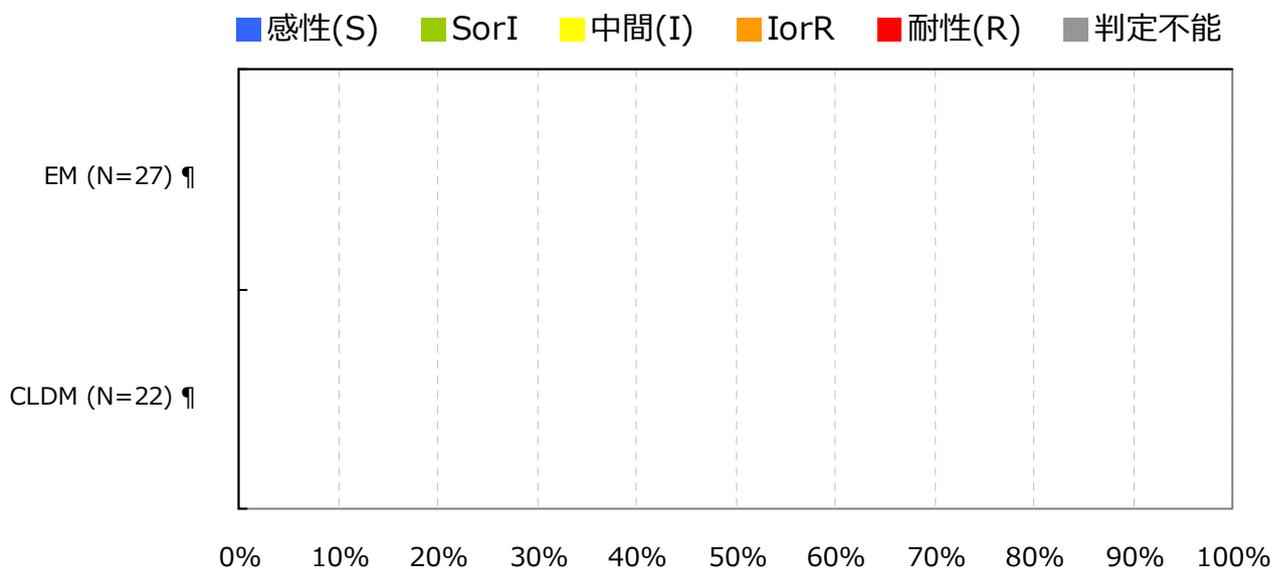
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

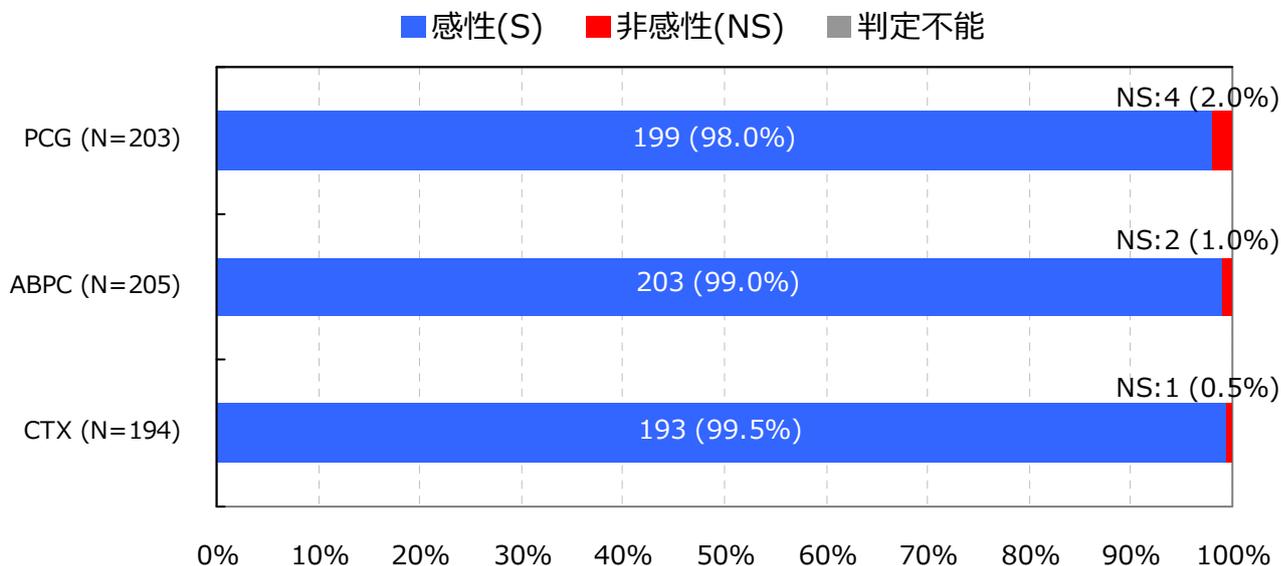
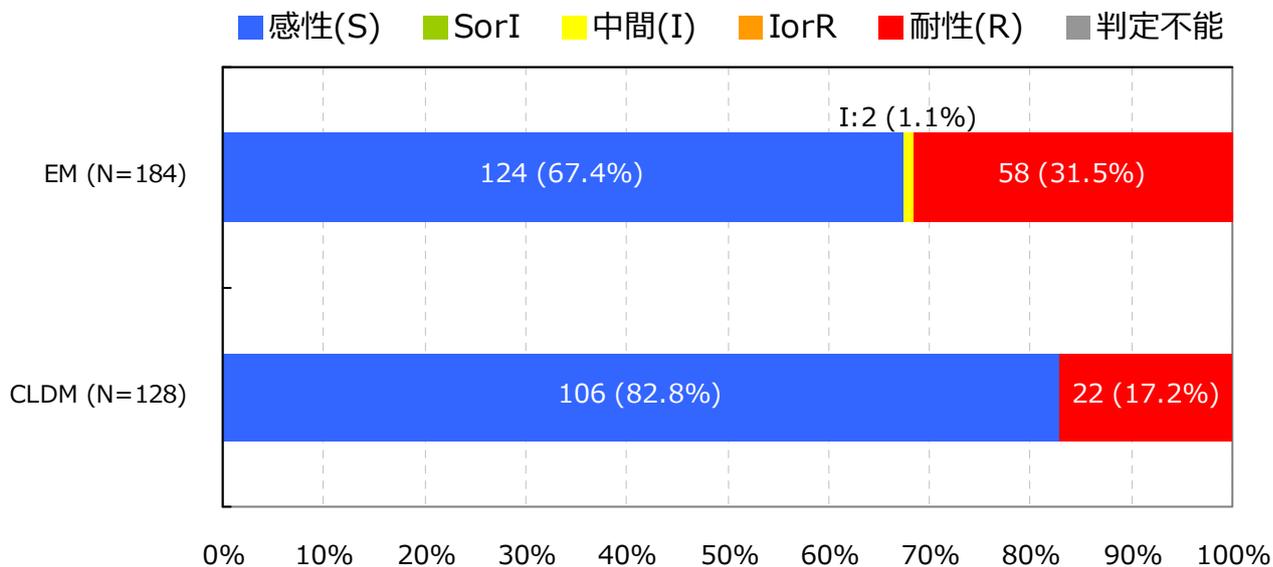
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌

¶ 集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

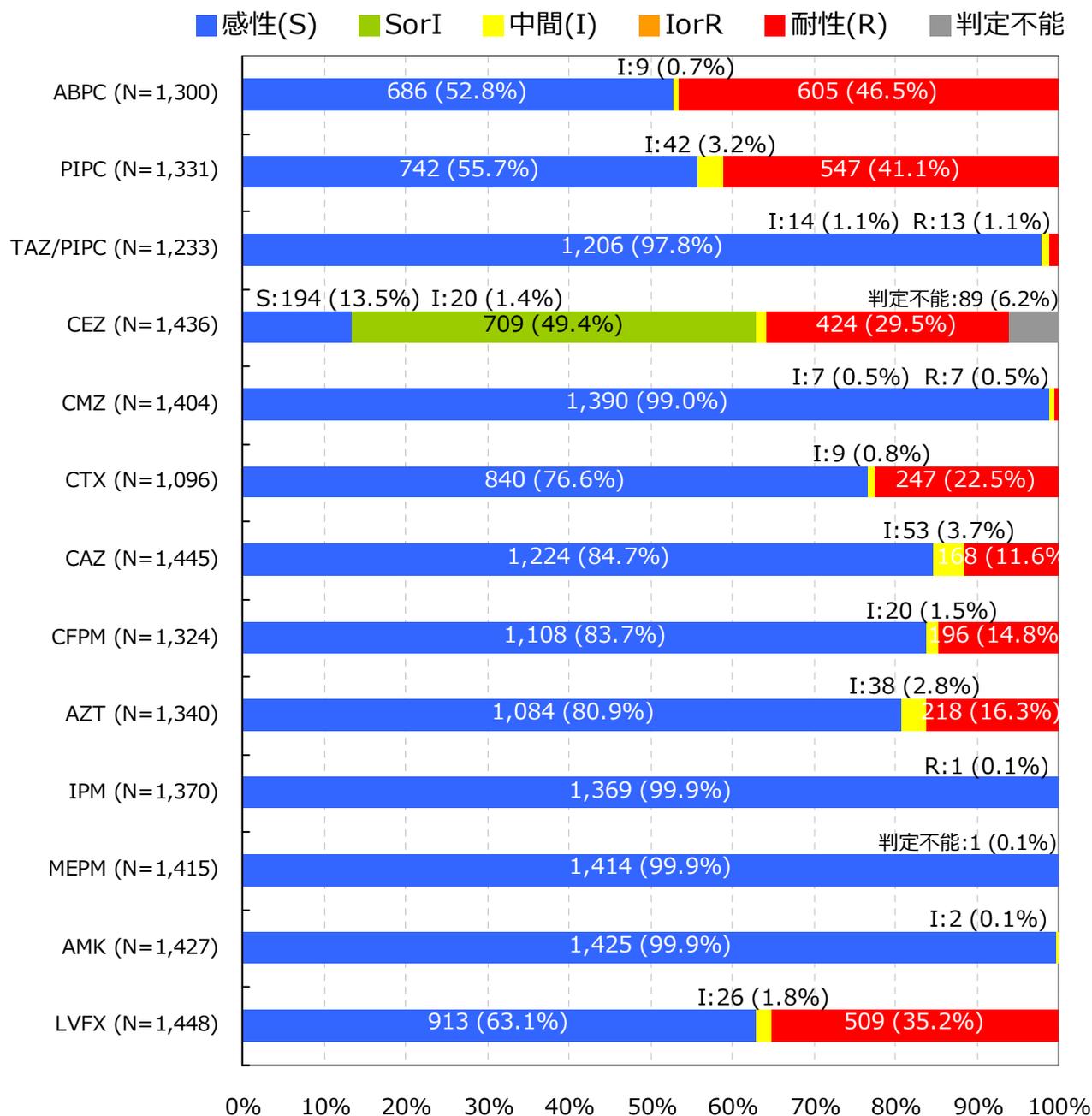
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1114と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

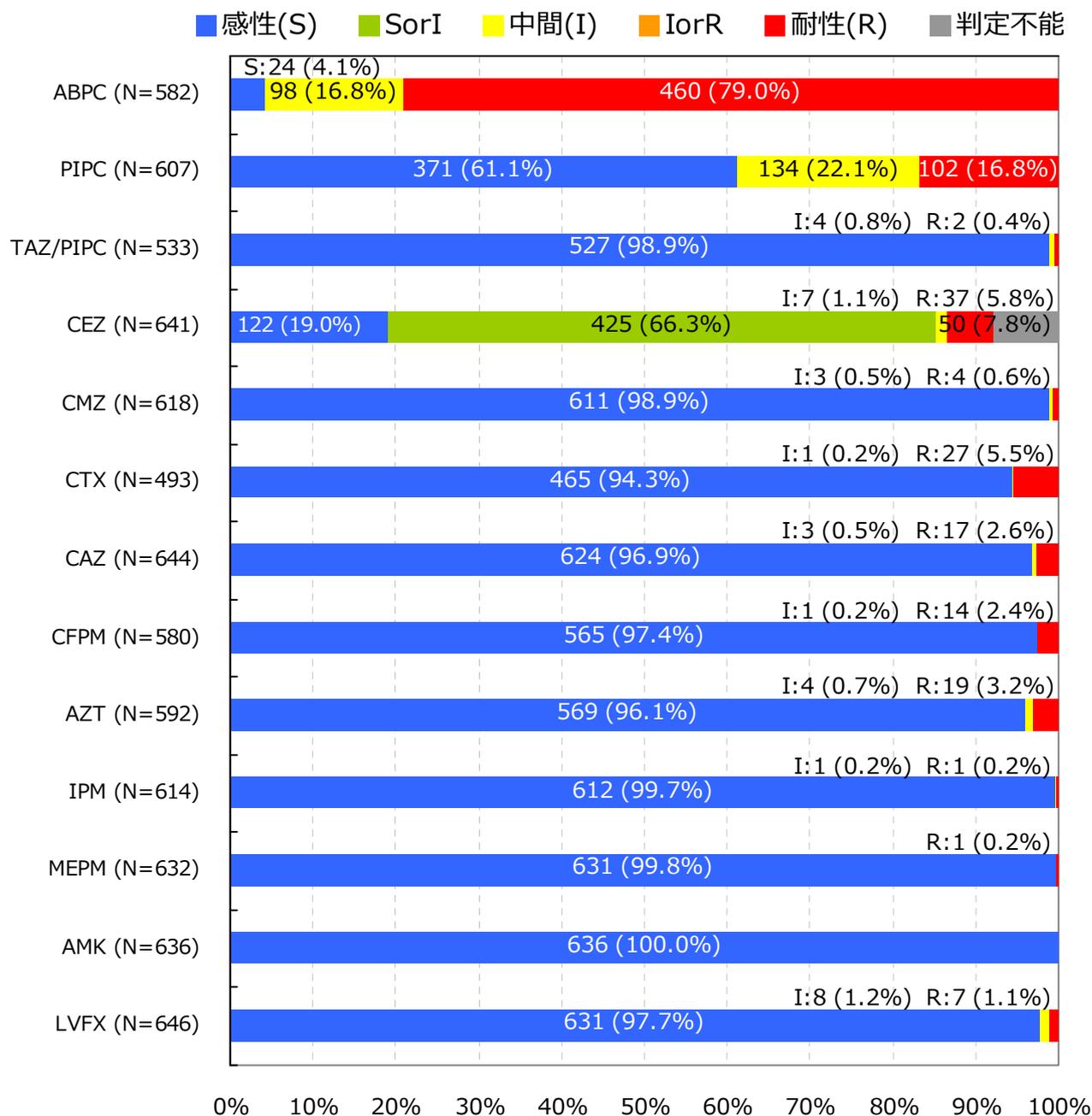
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

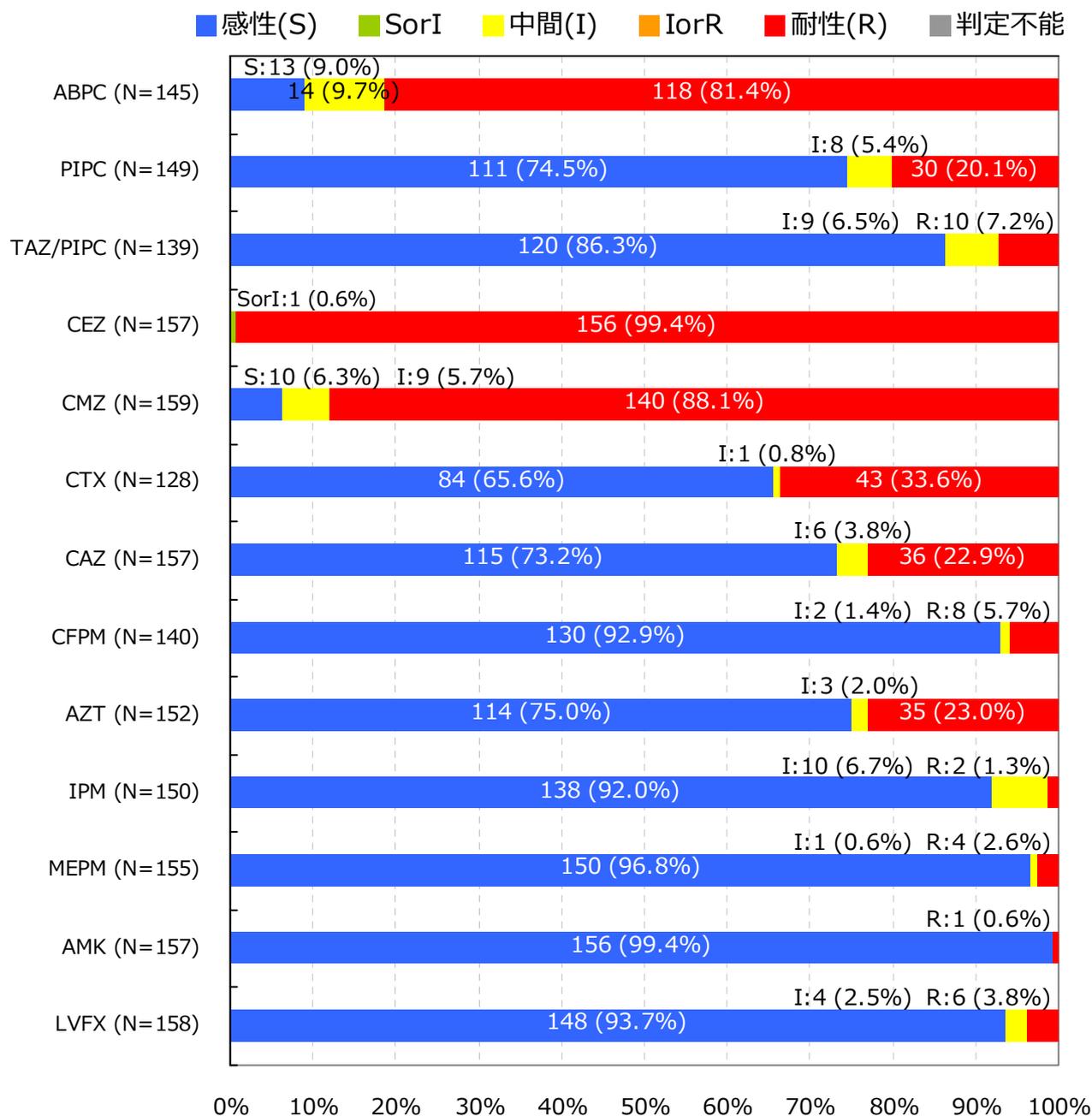
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2351と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

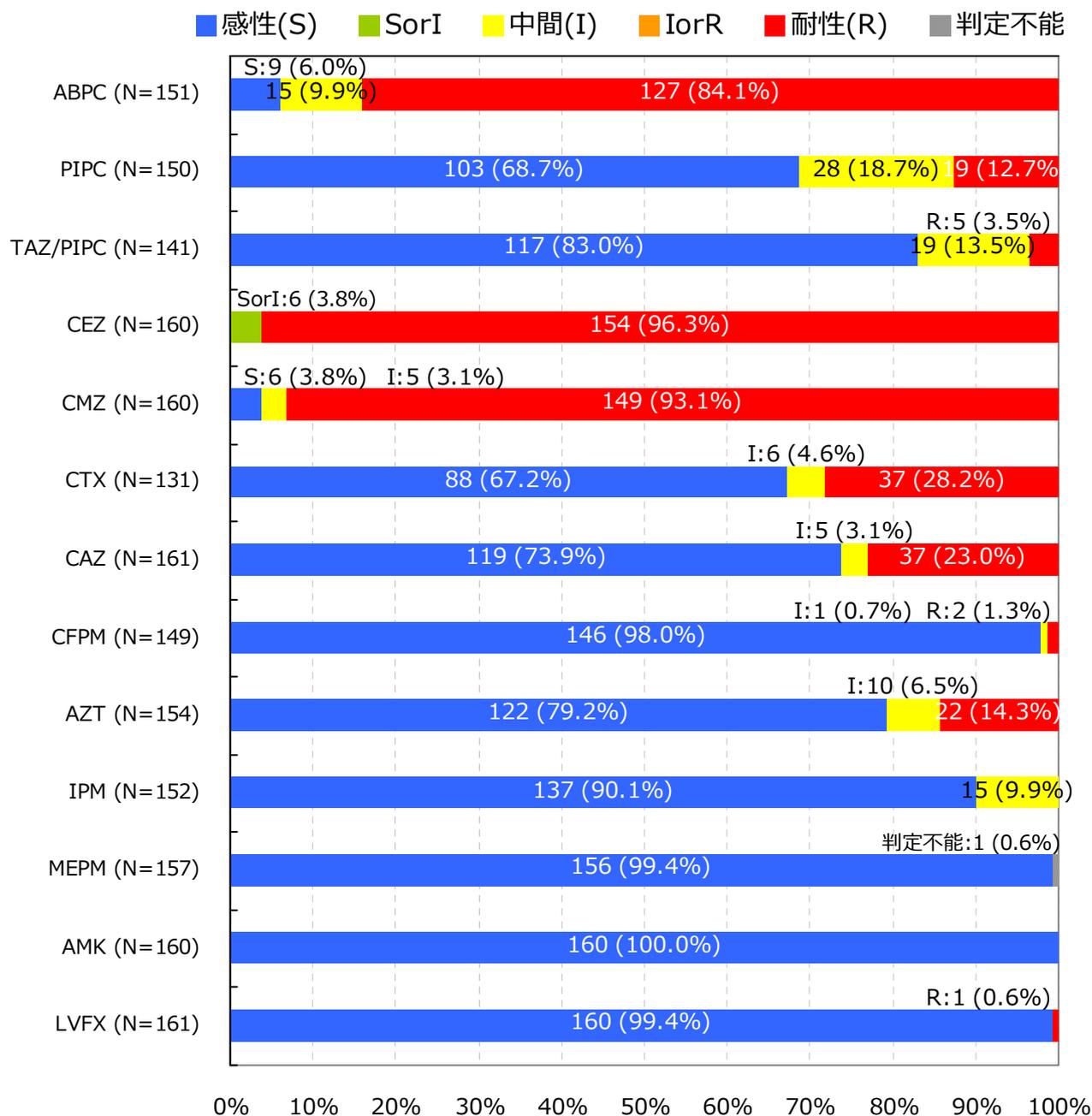
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2151と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

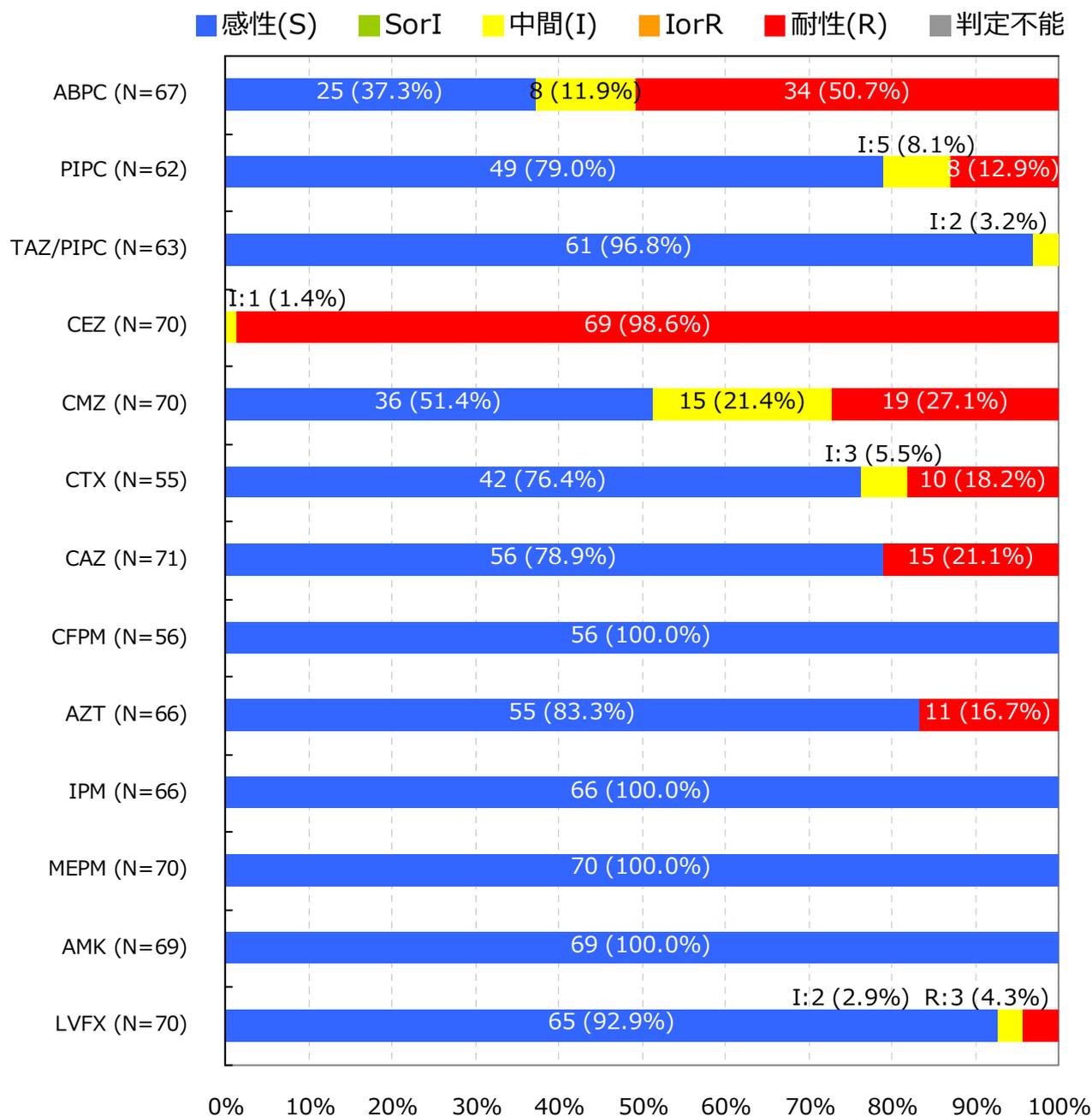
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2152と報告された菌 (旧名: *Enterobacter aerogenes*)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

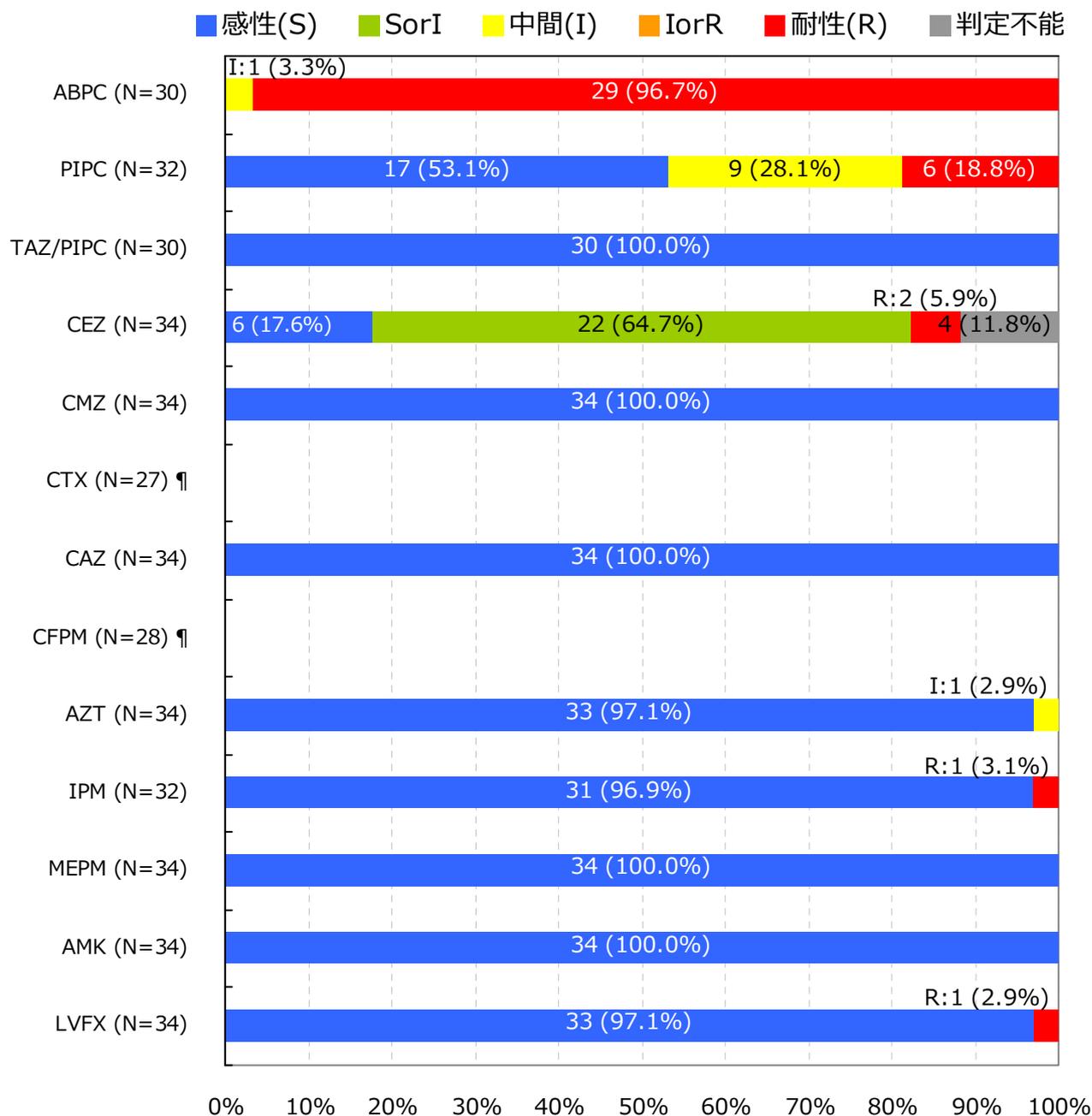
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2051と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

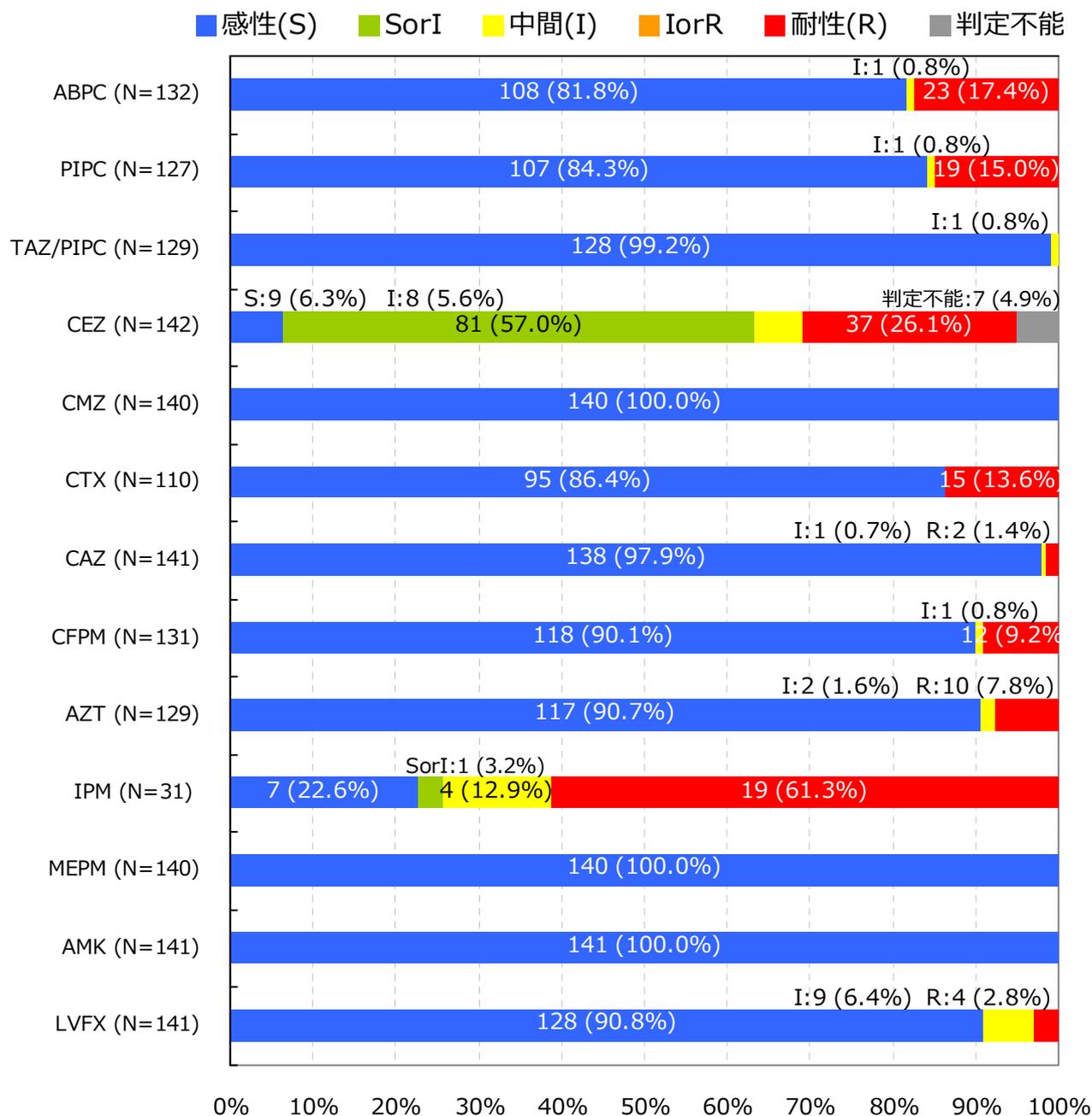
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

††集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

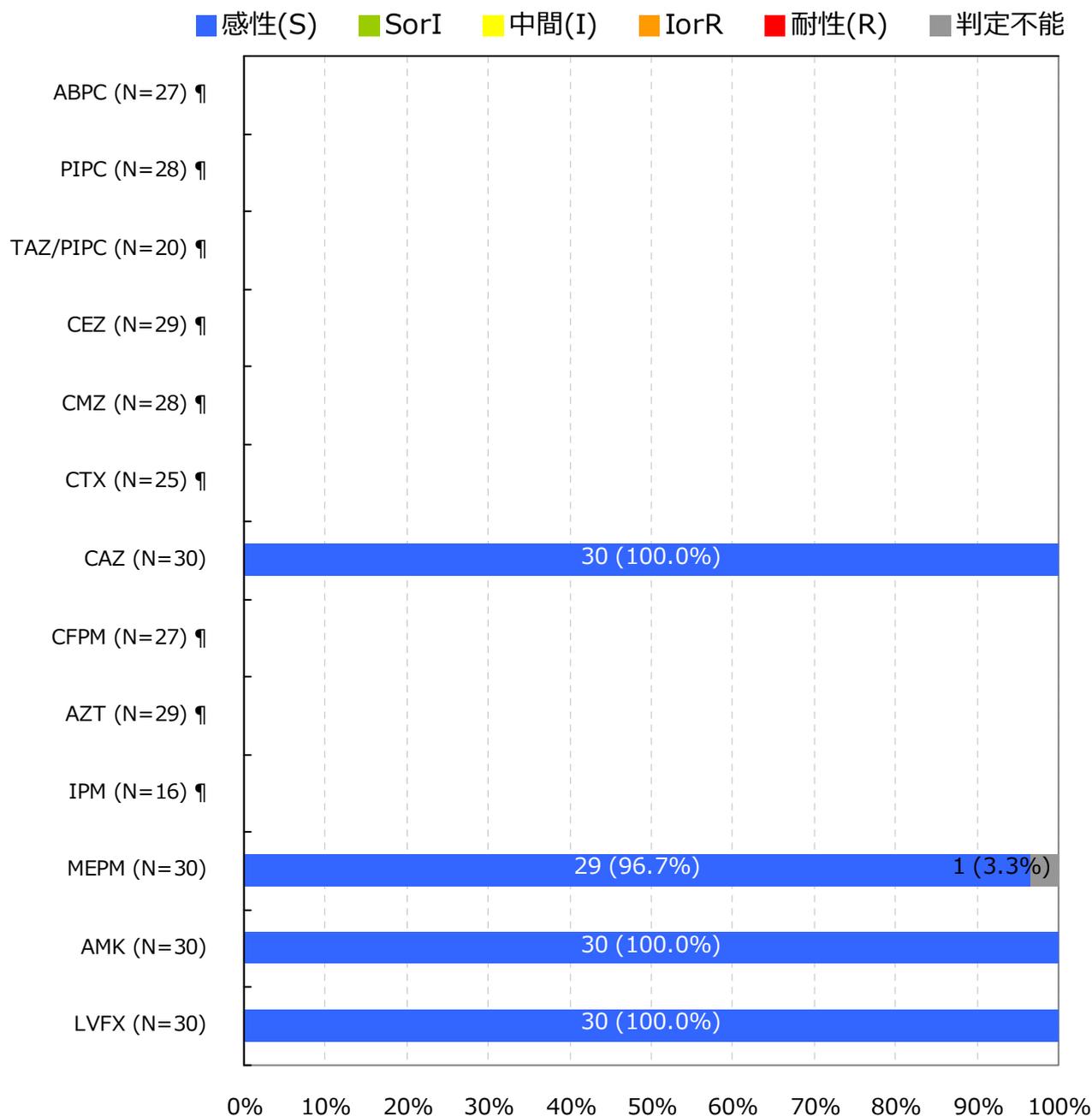
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2201と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

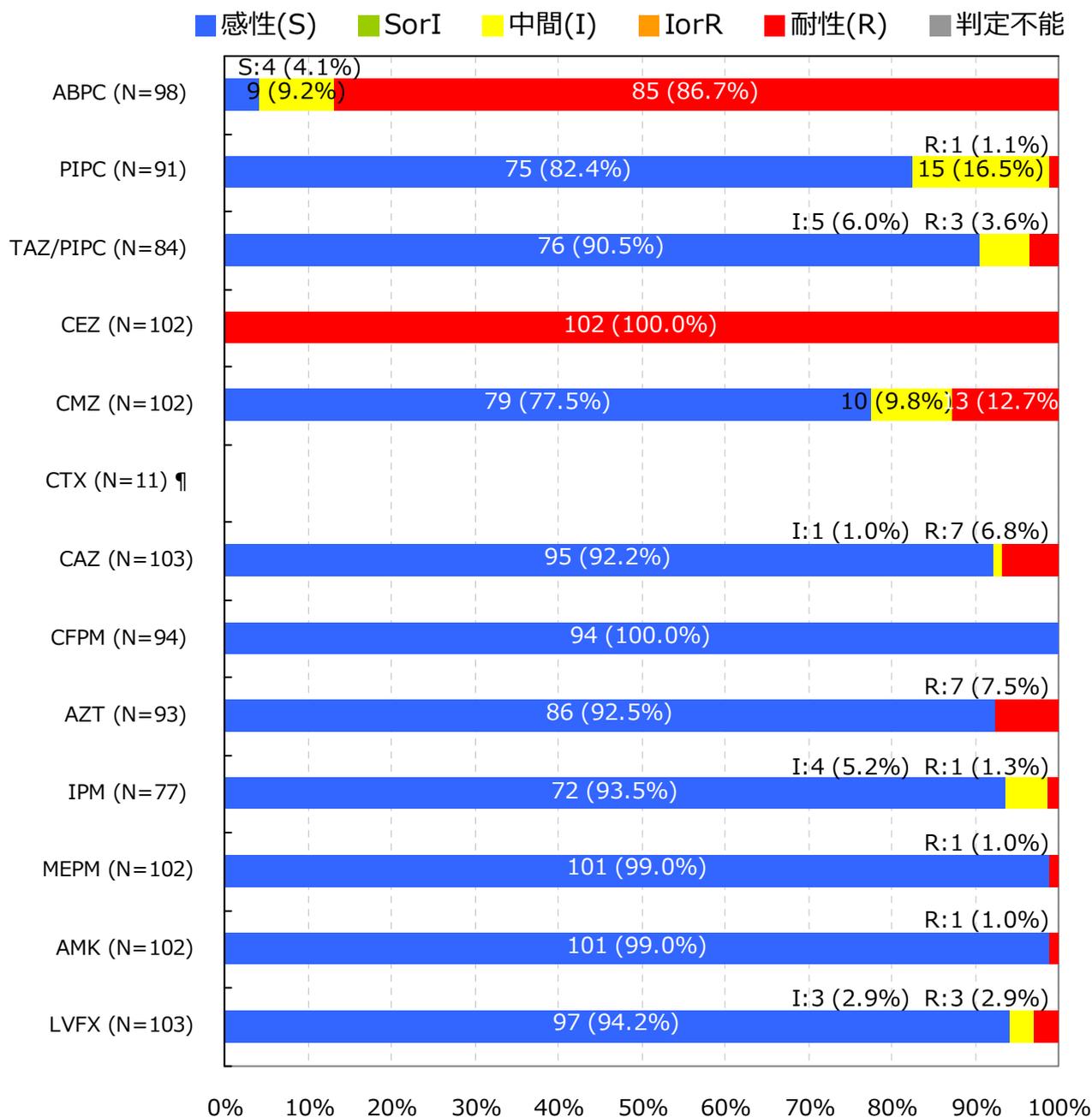
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

¶集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

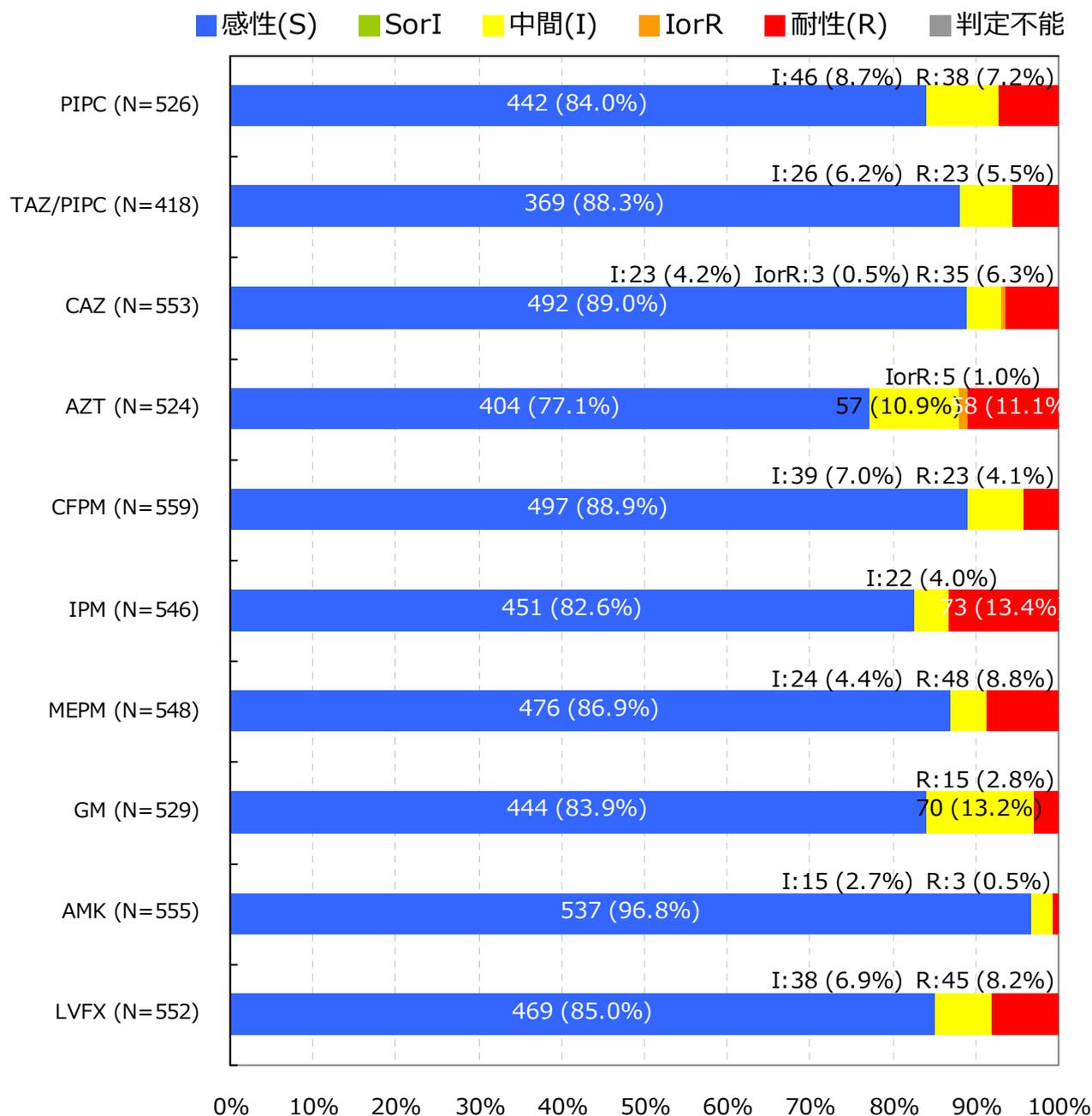
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

††集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

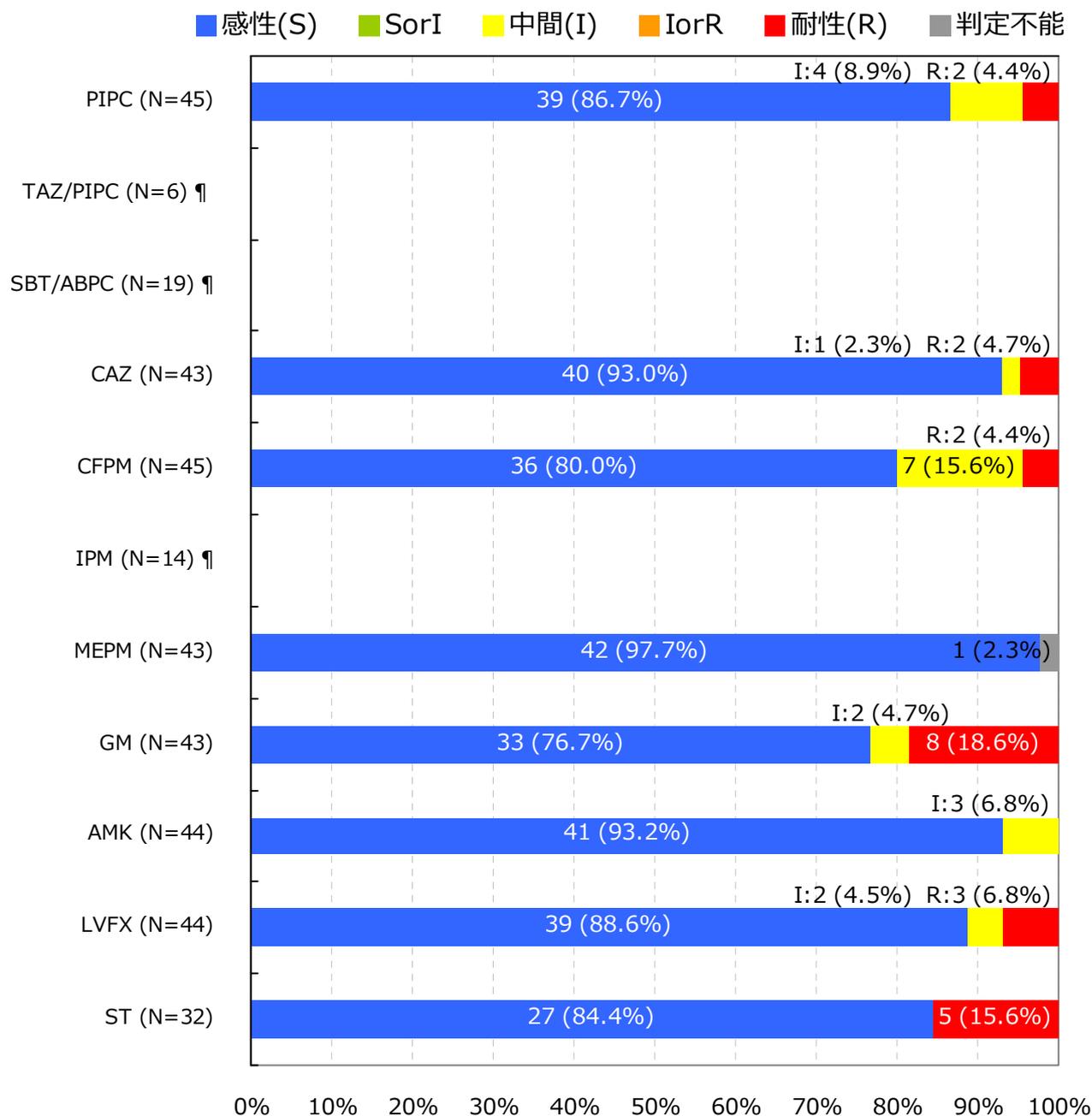
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

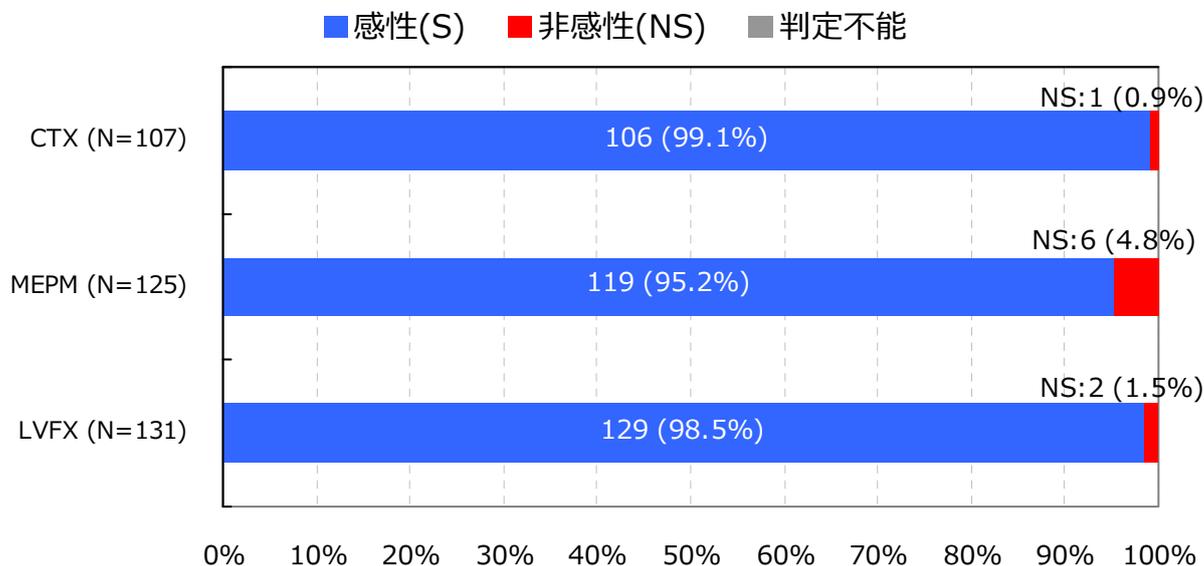
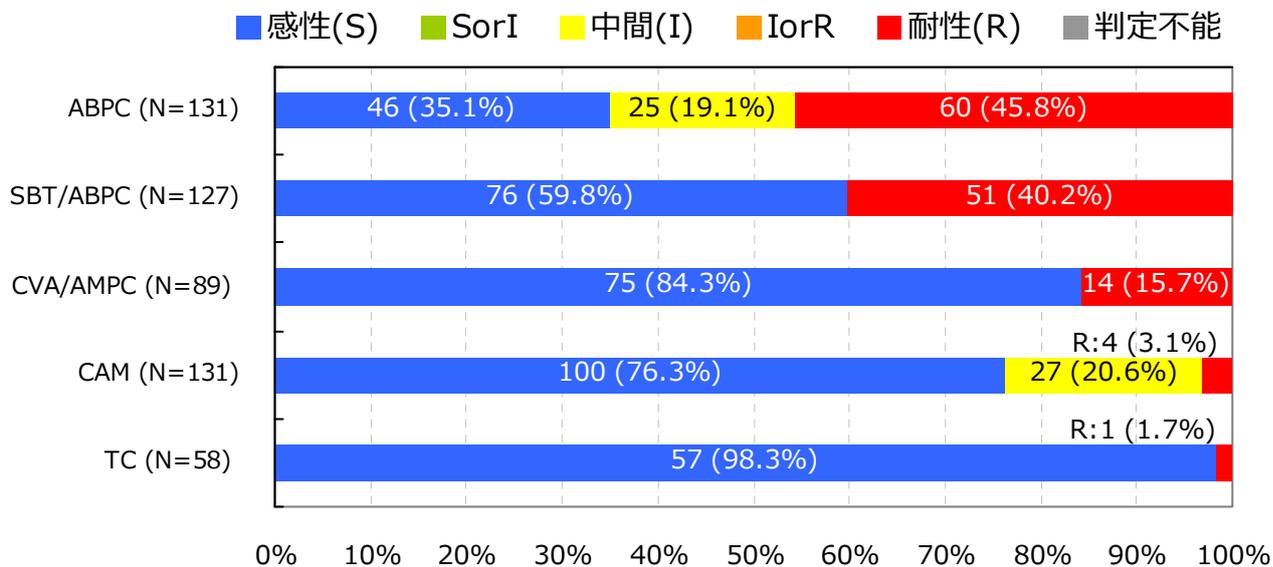
† 菌名コード：4400～4403と報告された菌

¶集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない



### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

【巻末資料1 主要菌の菌名コード / 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

主要菌の菌名コード（薬剤感受性条件なし）

| 菌名                                | 菌名コード Ver.5.1       |
|-----------------------------------|---------------------|
| <i>Staphylococcus aureus</i>      | 1301,1303-1306      |
| <i>Staphylococcus epidermidis</i> | 1312                |
| <i>Streptococcus pneumoniae</i>   | 1131                |
| <i>Enterococcus faecalis</i>      | 1201,1202           |
| <i>Enterococcus faecium</i>       | 1205,1206           |
| <i>Escherichia coli</i>           | 2001-2007           |
| <i>Klebsiella pneumoniae</i>      | 2351                |
| <i>Enterobacter</i> spp.          | 2150-2156           |
| <i>Enterobacteriaceae</i>         | 2000-2691,3150-3151 |
| <i>Pseudomonas aeruginosa</i>     | 4001                |
| <i>Acinetobacter</i> spp.         | 4400-4403           |

「微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準」について

耐性菌の菌名は以下の通り

MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015年1月より集計開始）

\* : 原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† : 感染症発生動向調査の基準に準拠

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.2) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.2) を基に作成した。

微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準

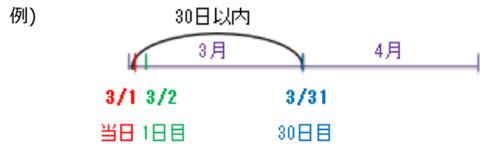
| 菌名   | 概要*  | 微量液体希釈法 (MIC 値)   | 菌名コード Ver.5.1                           |
|------|--|---|---|
| MRSA | MPIPC または CFX が "R" の <i>S. aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌   | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$  | 1301,1303                               |
| VRSA | VCM が微量液体希釈法で "R" の <i>S. aureus</i>   | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 1301,1303-1306                          |
| VRE  | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp.<br>・ VCM が微量液体希釈法で耐性 +<br>・ 選択培地で VRE と確認された菌 (注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く                                       | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †   | 1201,1202,1205,1206,1209,1210,1213-1217 |
| PRSP | PCG が微量液体希釈法で耐性 + の <i>S. pneumoniae</i>   | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/mL}$ †  | 1131                                    |
| MDRP | 下記全てに該当する <i>P. aeruginosa</i><br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 +<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 +<br>3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, CPFX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †, MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ †<br>3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ , OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4001                                    |

| 菌名                 | 概要*   | 微量液体希釈法 (MIC 値)  | 菌名コード Ver.5.1        |
|--------------------|---|--|----------------------|
| MDRA               | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp.<br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が "R"<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 +<br>3. フルオロキノロン系 (LVFX, CPFX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †, MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ †<br>3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4400-4403            |
| CRE                | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科<br>1. MEPM が耐性 +<br>2. IPM が耐性 +, かつ CMZ が "R"   | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ †<br>2. IPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ † かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g/mL}$   | 2000-2691, 3150-3151 |
| カルバペネム耐性緑膿菌        | IPM または MEPM が耐性 + の <i>P. aeruginosa</i>   | IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †  | 4001                 |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌 | CTX または CTRX または CAZ が "R" の <i>K. pneumoniae</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CTRX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 2351                 |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌  | CTX または CTRX または CAZ が "R" の <i>E. coli</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CTRX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 2001-2007            |
| フルオロキノロン耐性大腸菌      | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, CPFX の何れか) が "R" の <i>E. coli</i>  | NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ , OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$                 | 2001-2007            |

## 【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

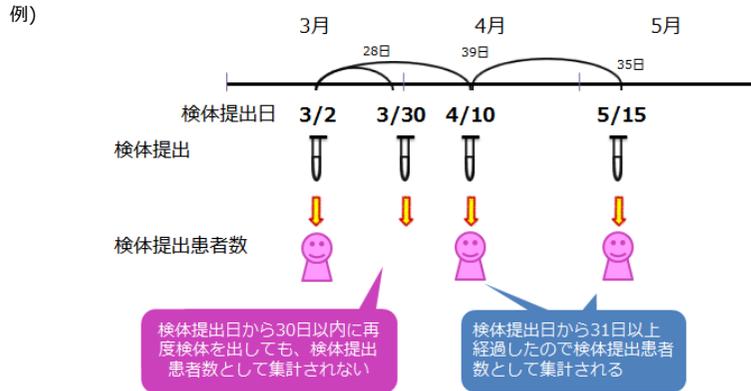
### 1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を1日目とする。検体提出日が3月1日とすると、1日目が3月2日、30日目が3月31日となる。



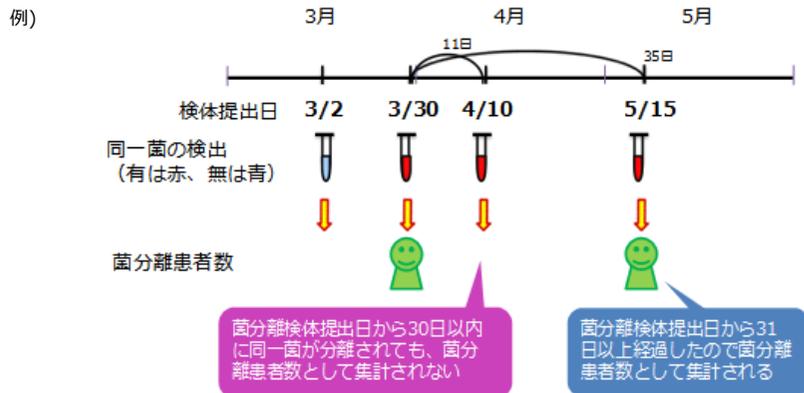
### 2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30日以内の同一患者からの複数の検体提出は1件とする。



### 3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は1件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



### 4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

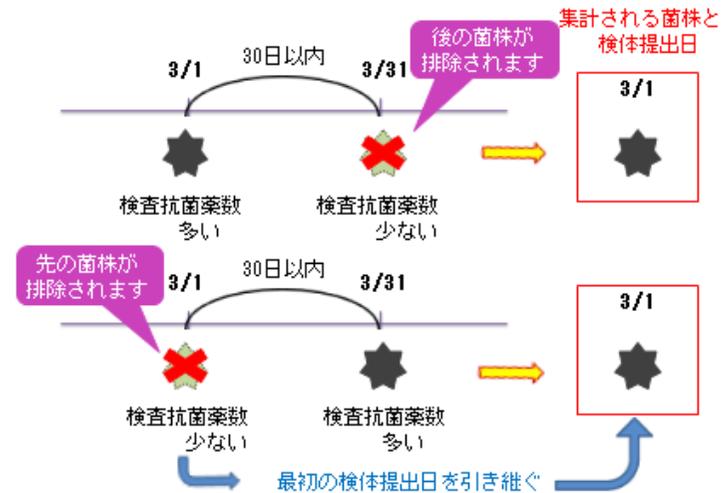
30日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に1つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC値に4倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2はMIC ≥ 4と考え、判定時はMIC = 4として扱う  
また、MIC < 16はMIC ≤ 16と考え、判定時はMIC = 16として扱う
- ② SIR判定では「SとR」の組み合わせ
- ③ +/-判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が5未満

### 5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬が(30日以内の)先の菌株の検査抗菌薬より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。

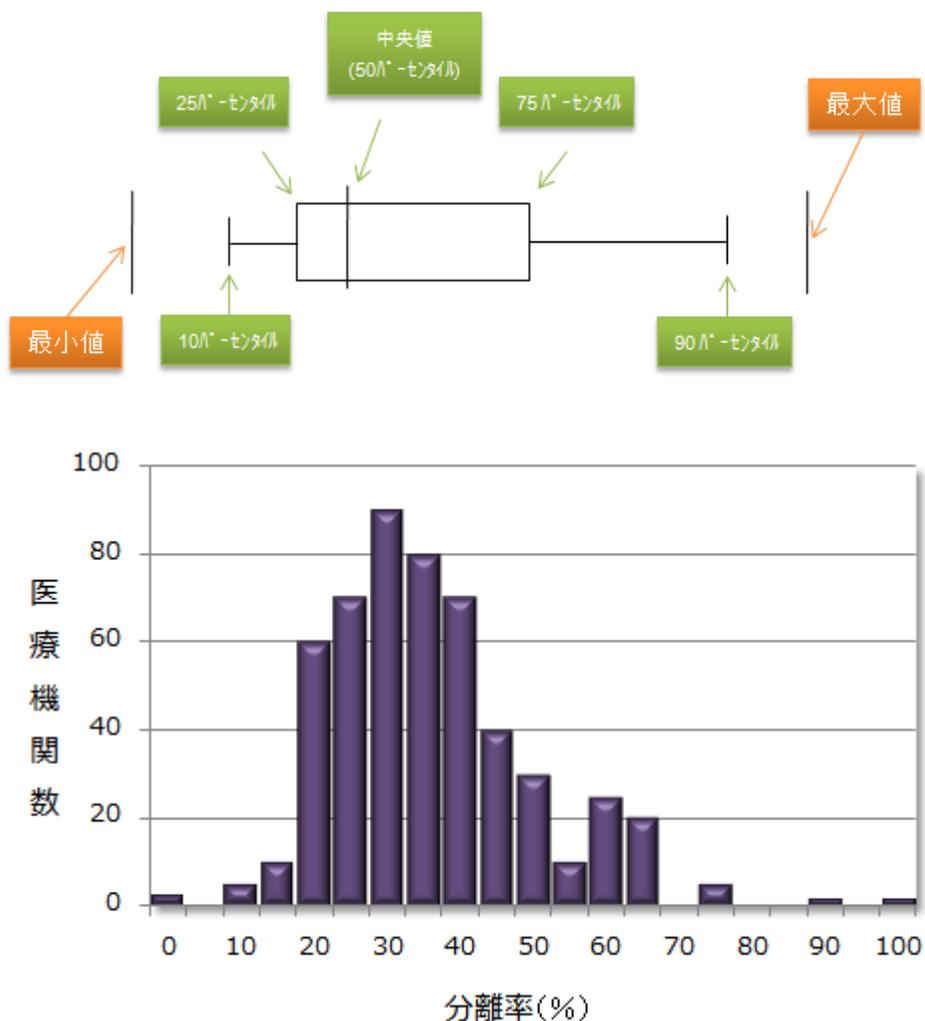
例)



## 【巻末資料3 箱ひげ図について】

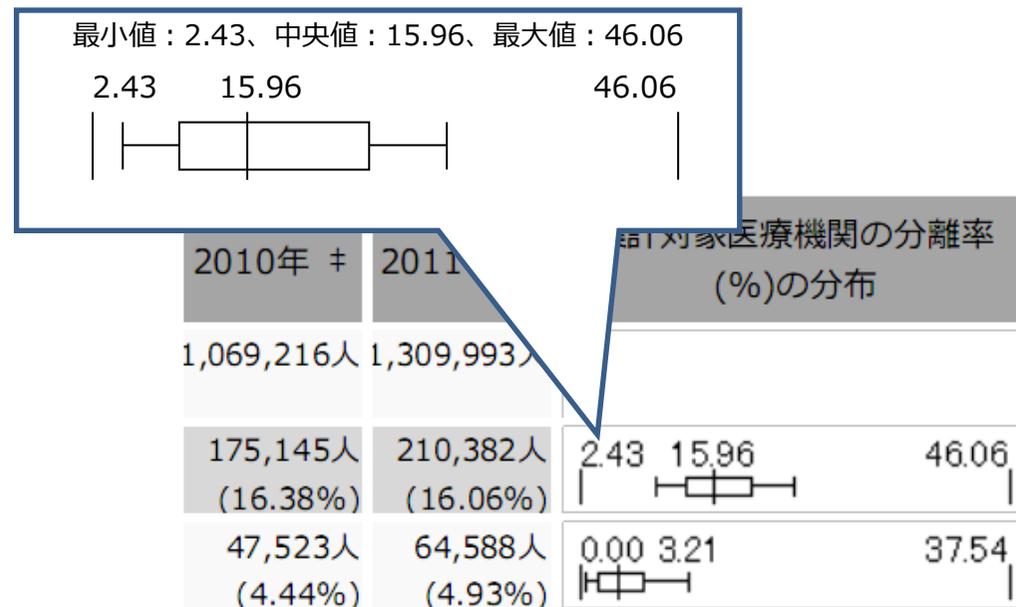
### 1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



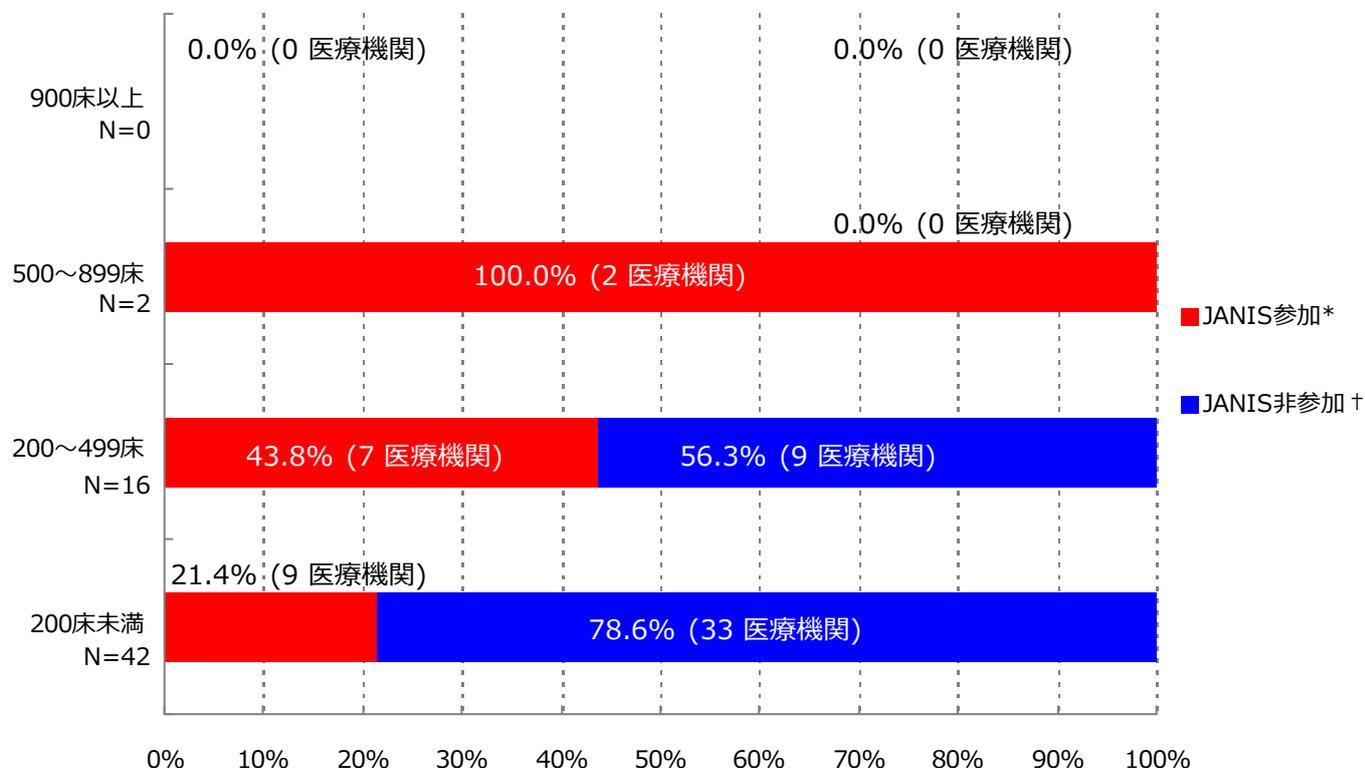
※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したものの。例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

### 2. 公開情報の箱ひげ図





### 1. 集計対象医療機関数(18医療機関)



\*JANIS参加 = 2019年1～3月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2018年 都道府県別医療機関数 †) - (2019年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数      | 2018年 都道府県別医療機関数 † | 2019年1月～3月 集計対象医療機関数<br>(都道府県別医療機関数に占める割合) |           |
|----------|--------------------|--|-----------|
| 900床以上   | 0                  | 0  | ( 0.0% )  |
| 500～899床 | 2                  | 2  | (100.0% ) |
| 200～499床 | 16                 | 7  | ( 43.8% ) |
| 200床未満   | 42                 | 9  | ( 21.4% ) |
| 病床数不明    | -                  | 0  | ( - )     |
| 合計       | 60                 | 18   | ( 30.0% ) |

† 2018年医療施設（動態）調査を参照した

(山梨県)

公開情報 2019年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門 【入院検体】



## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数   | 陽性検体数<br>(分離菌数)  |
|--------|-----------|-------|------------------|
| 呼吸器系検体 | 18        | 2,936 | 1,925<br>(3,989) |
| 尿検体    | 18        | 1,565 | 830<br>(1,219)   |
| 便検体    | 18        | 861   | 480<br>(828)     |
| 血液検体   | 17        | 2,800 | 409<br>(442)     |
| 髄液検体   | 11        | 123   | 3<br>(3)         |
| その他    | 18        | 1,437 | 719<br>(1,127)   |
| 合計     | 18        | 9,722 | 4,366<br>(7,608) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

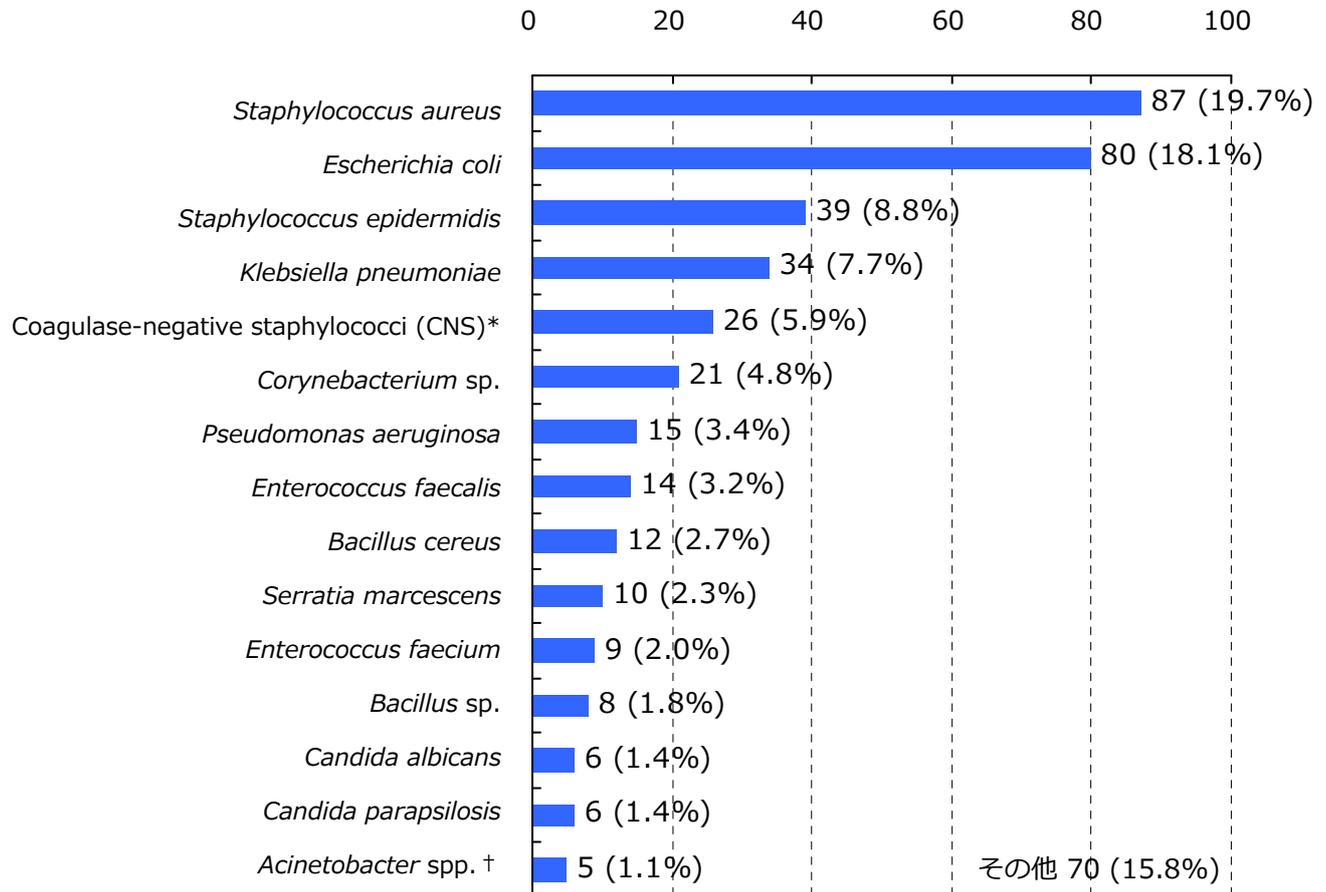
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=442)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外)

†菌名コード：4400～4403と報告された菌

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

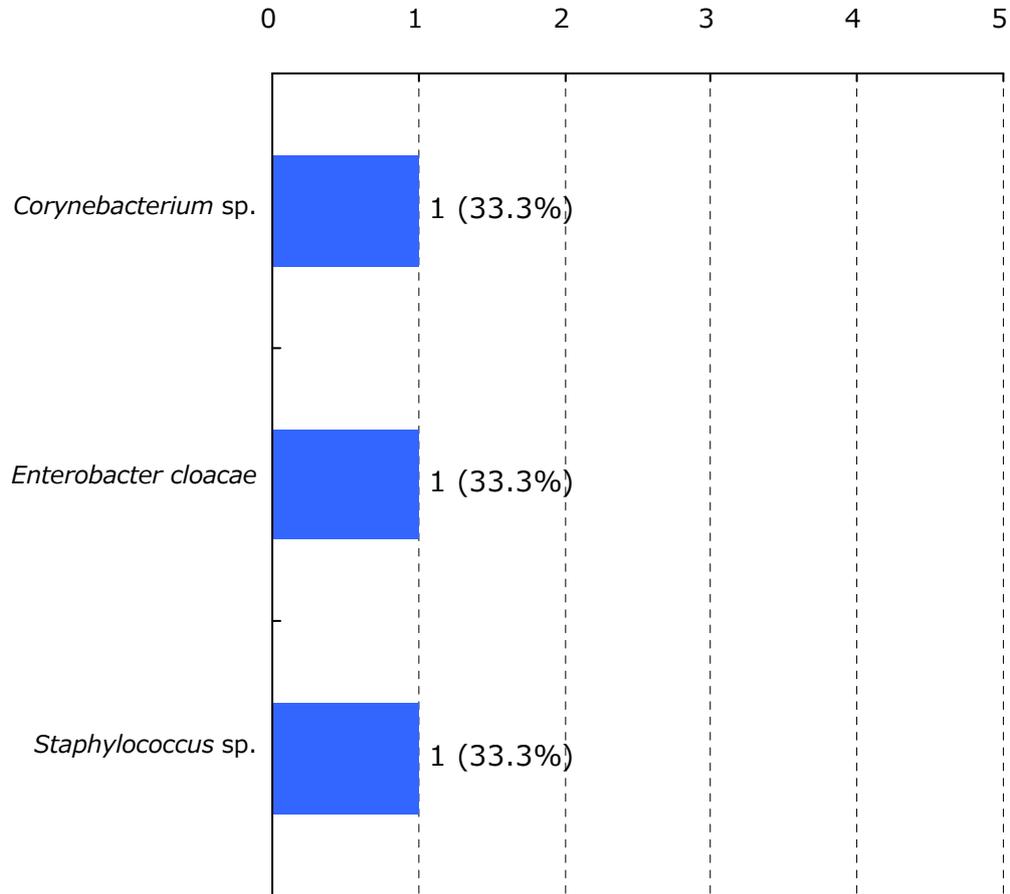
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=3)



入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

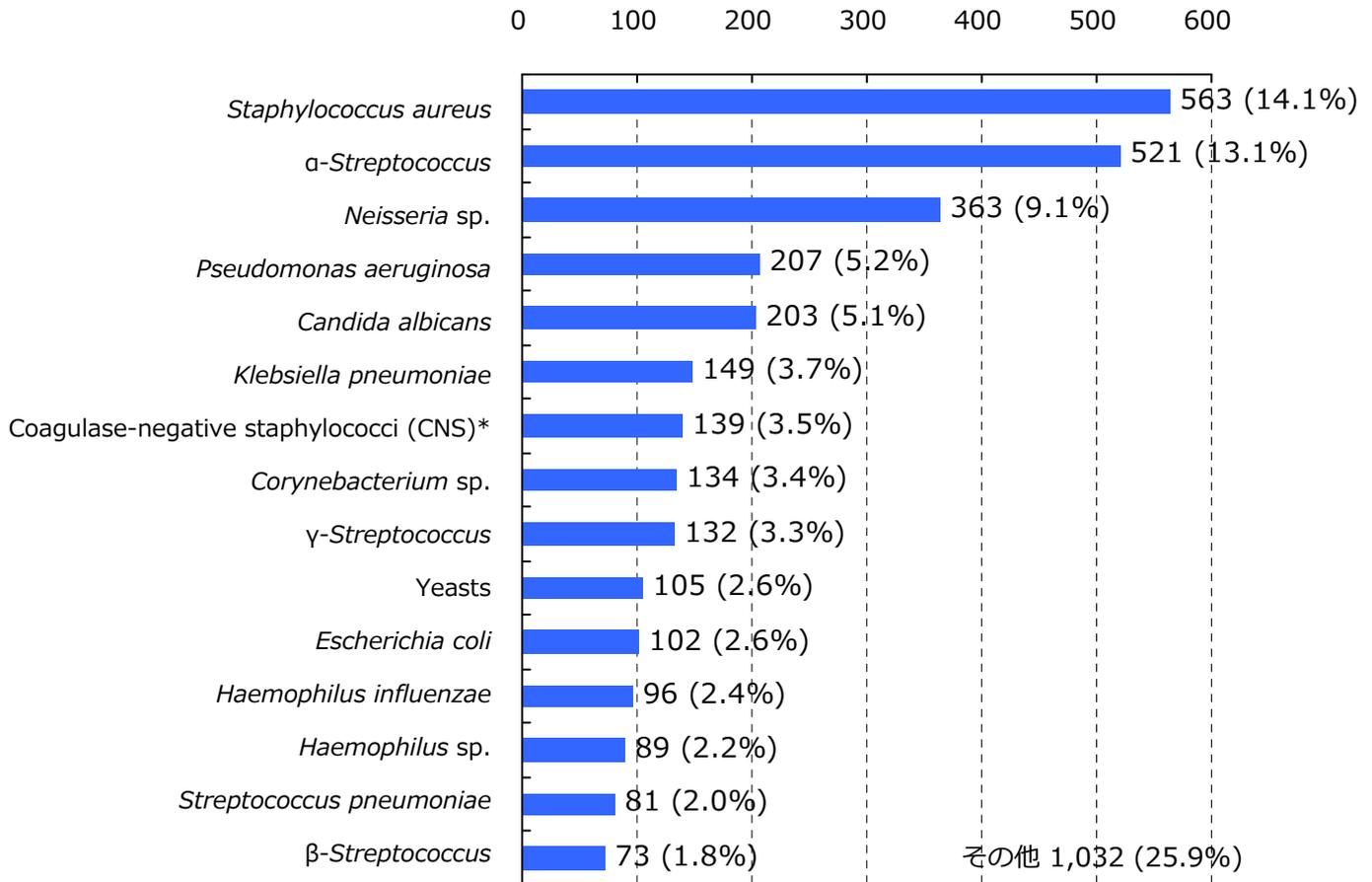
髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 呼吸器系検体分離菌 (N=3,989)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・常在菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：喀出痰(検査材料コード101)、気管内採痰(同102)、気管支洗浄液(同103)、咽頭粘液(同104)、鼻腔内(同105)、口腔内(同106)、生検材料(肺)(同107)、その他(呼吸器)(同109)、胸水(同404)

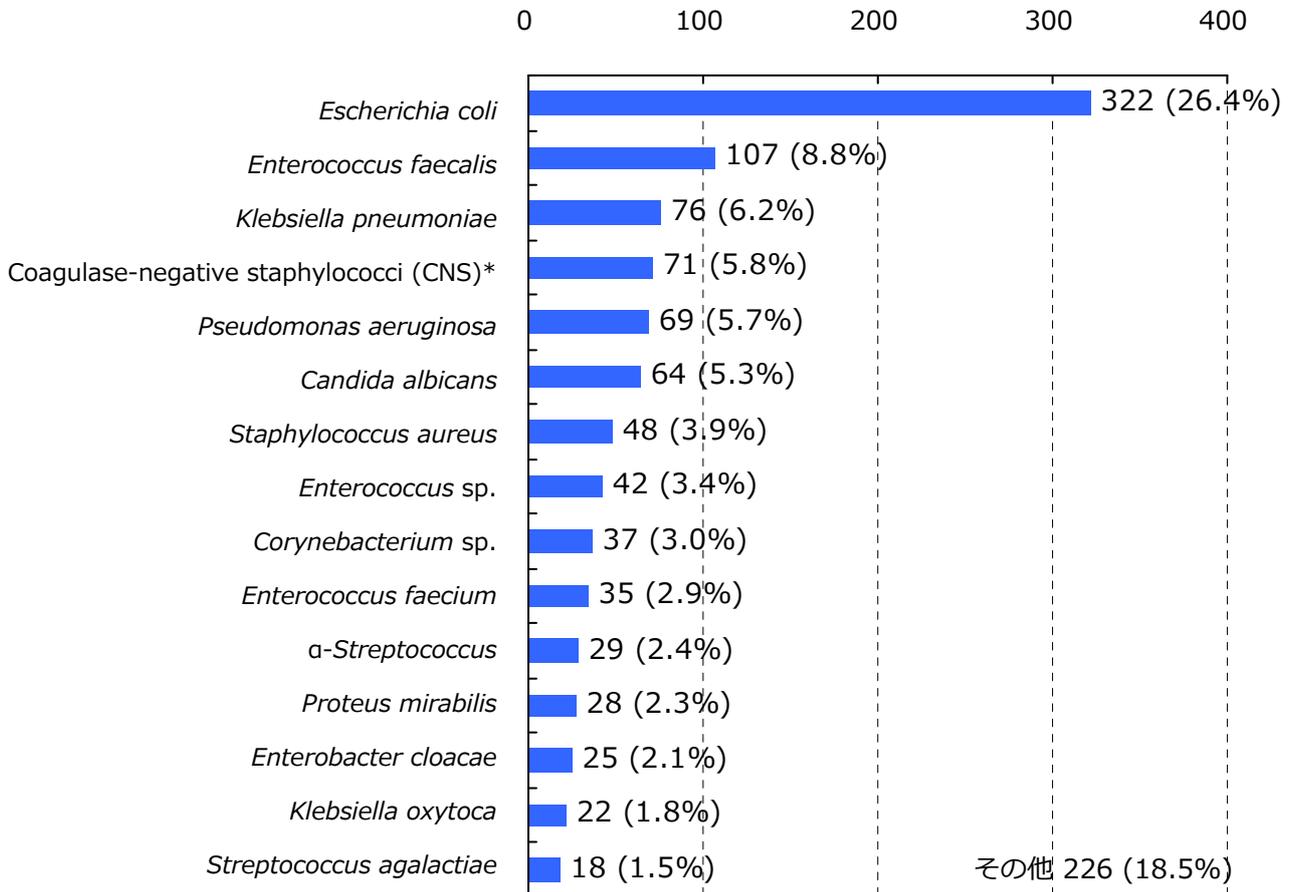
呼吸器系検体分離菌数割合 = (対象菌の呼吸器系検体分離菌数) ÷ (呼吸器系検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 尿検体分離菌 (N=1,219)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

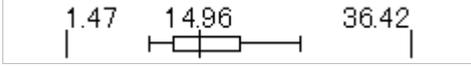
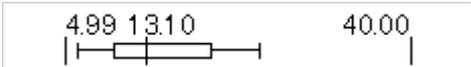
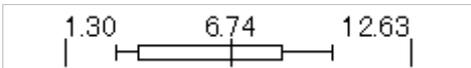
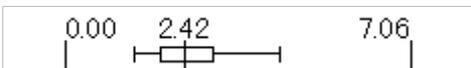
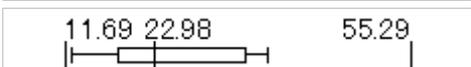
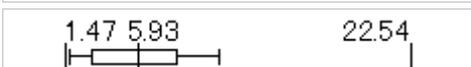
集計対象検査材料：自然排尿(検査材料コード201)、採尿カテーテル尿(同202)、留置カテーテル尿(同203)、カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能)(同206)

尿検体分離菌数割合 = (対象菌の尿検体分離菌数) ÷ (尿検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

#### 4. 主要菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                           | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率 ‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率 ¶(%)の分布   |
|---------------------------|-------------------------|--|
| 検体提出患者数(100床あたり)          | 4,292人<br>(86.6)※       |  |
| <i>S. aureus</i>          | 678人<br>(15.80%)        | 1.47 14.96 36.42<br>    |
| <i>S. epidermidis</i>     | 102人<br>(2.38%)         | 0.00 1.65 6.94<br>      |
| <i>S. pneumoniae</i>      | 83人<br>(1.93%)          | 0.00 1.22 8.54<br>      |
| <i>E. faecalis</i>        | 160人<br>(3.73%)         | 1.10 3.39 8.24<br>      |
| <i>E. faecium</i>         | 59人<br>(1.37%)          | 0.00 1.13 6.35<br>     |
| <i>E. coli</i>            | 555人<br>(12.93%)        | 4.99 13.10 40.00<br>  |
| <i>K. pneumoniae</i>      | 258人<br>(6.01%)         | 1.30 6.74 12.63<br>   |
| <i>Enterobacter spp.</i>  | 128人<br>(2.98%)         | 0.00 2.42 7.06<br>    |
| <i>Enterobacteriaceae</i> | 1,023人<br>(23.84%)      | 11.69 22.98 55.29<br> |
| <i>P. aeruginosa</i>      | 256人<br>(5.96%)         | 1.47 5.93 22.54<br>   |
| <i>Acinetobacter spp.</i> | 26人<br>(0.61%)          | 0.00 0.00 3.53<br>    |

入院として報告された検体を集計

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

$$= (\text{集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計}) \div (\text{集計対象医療機関の検体提出患者数合計}) \times 100$$

$$¶\text{分離率} = (\text{対象菌の分離患者数}) \div (\text{検体提出患者数}) \times 100$$

※ 病床数が登録されている医療機関のみが対象

### 5. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                        | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布 |
|------------------------|------------------------|-------------------------|
| 検体提出患者数(100床あたり)       | 4,292人<br>(86.6)※      |                         |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)   | 342人<br>(7.97%)        | 0.00 7.86 23.12         |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人<br>(0.00%)          | 0.00                    |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)      | 0人<br>(0.00%)          | 0.00                    |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)      | 23人<br>(0.54%)         | 0.00 0.00 3.47          |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP)          | 0人<br>(0.00%)          | 0.00                    |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)    | 0人<br>(0.00%)          | 0.00                    |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)   | 7人<br>(0.16%)          | 0.00 0.00 1.17          |
| カルバペネム耐性緑膿菌            | 29人<br>(0.68%)         | 0.00 0.29 2.72          |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌     | 10人<br>(0.23%)         | 0.00 0.00 1.84          |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌      | 143人<br>(3.33%)        | 0.00 3.09 18.82         |
| フルオロキノロン耐性大腸菌          | 190人<br>(4.43%)        | 0.93 5.45 22.35         |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

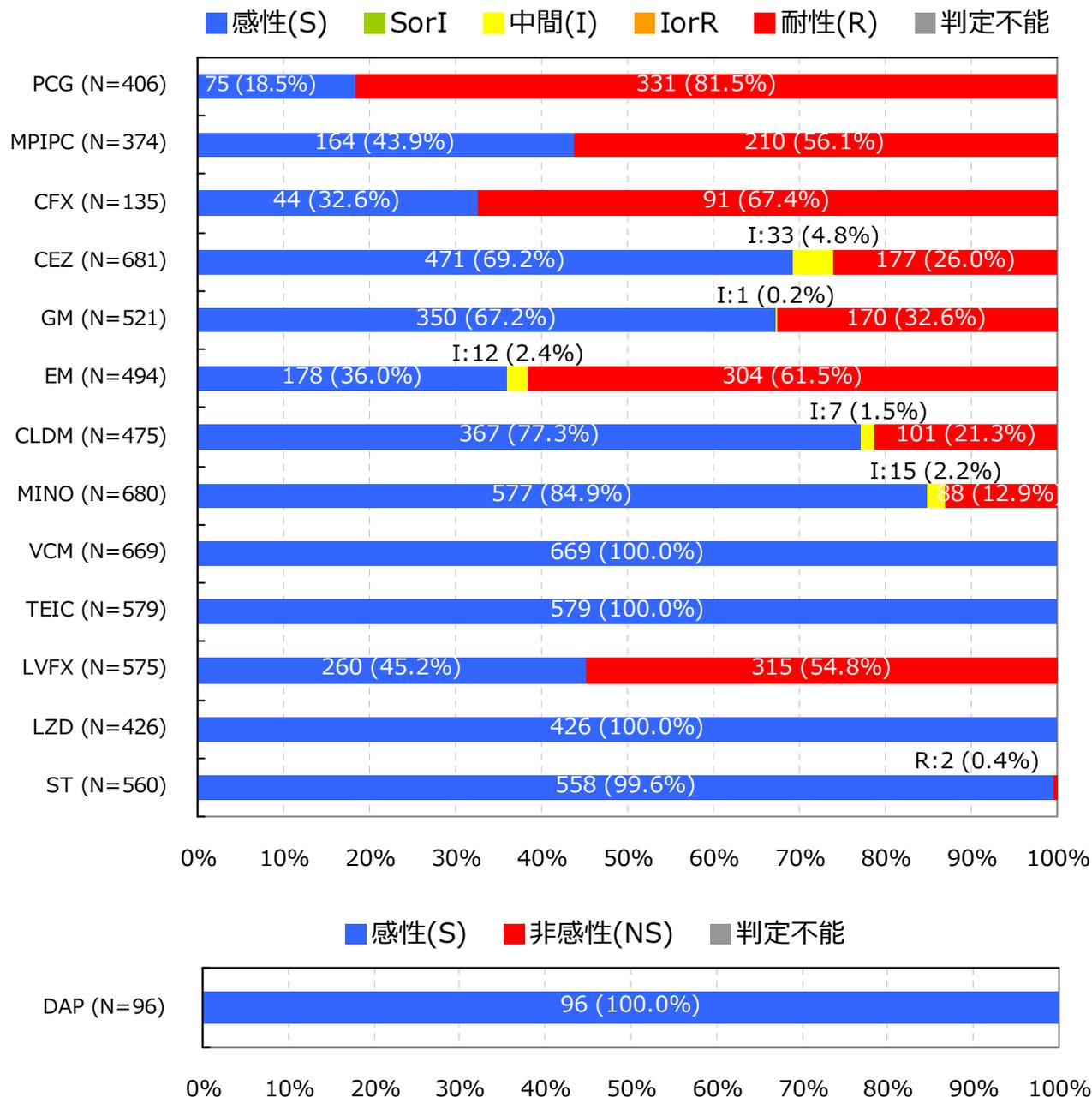
= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

※ 病床数が登録されている医療機関のみが対象

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (ALL) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

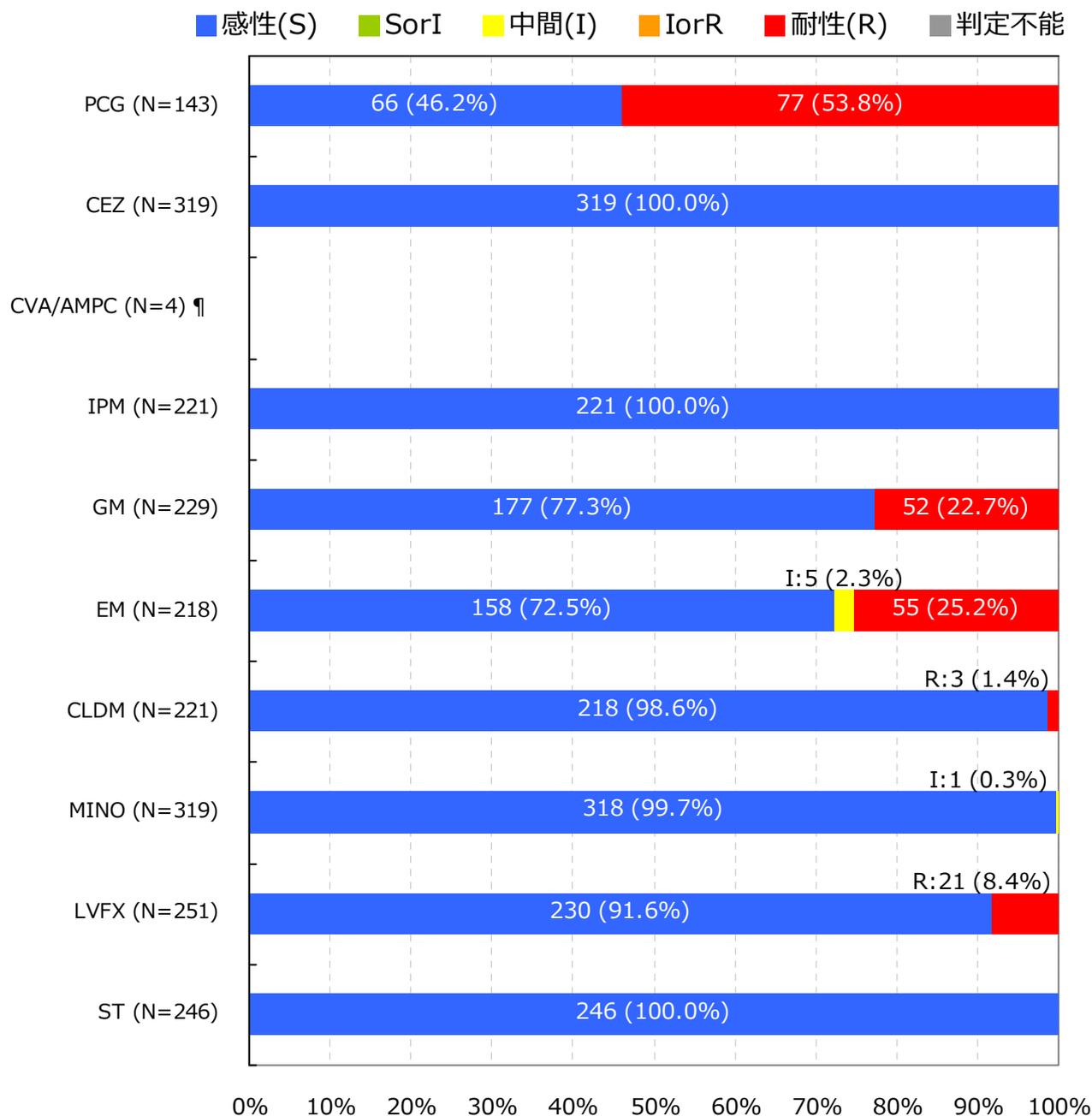
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1301, 1303~1306と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

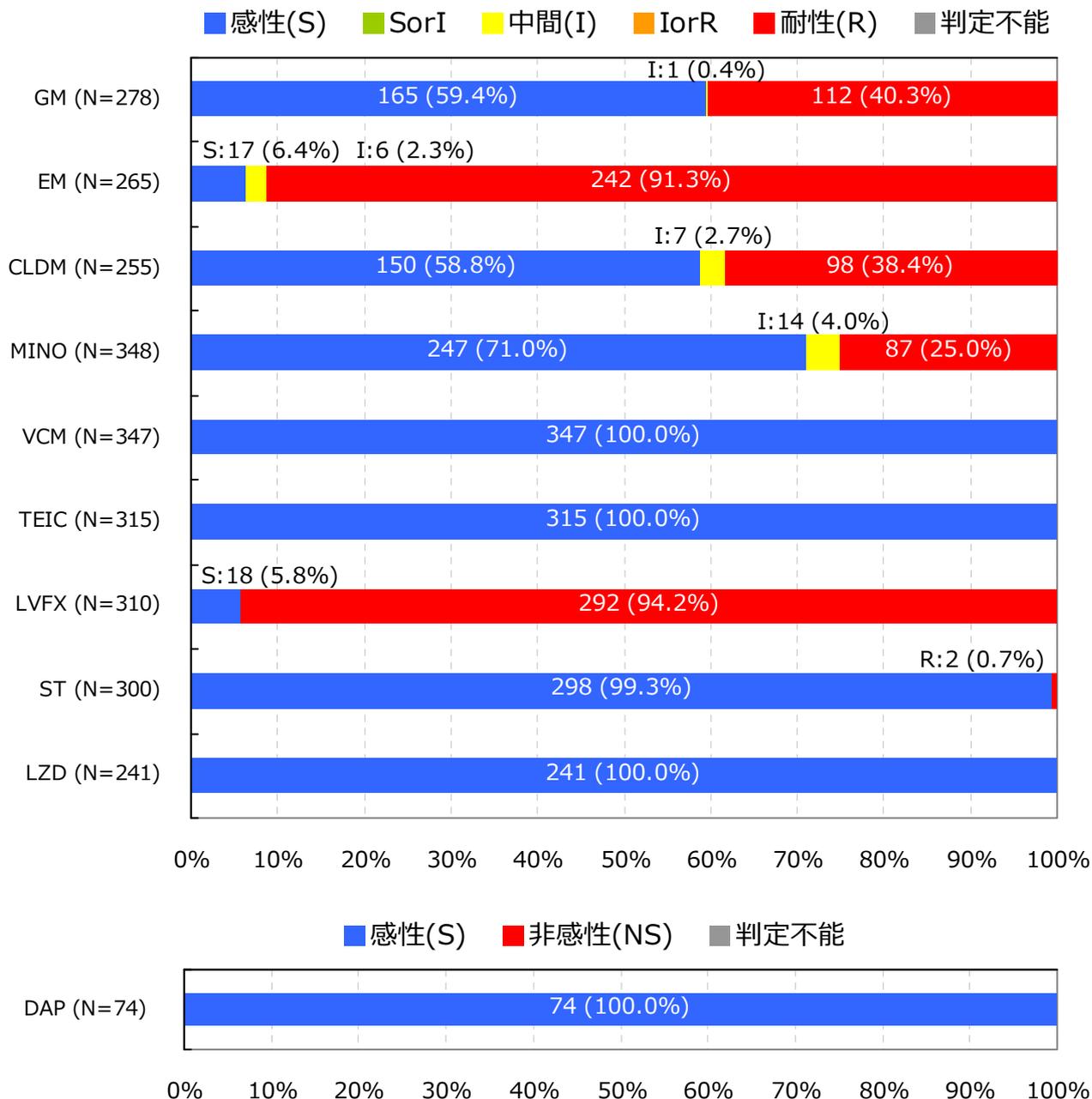
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1304, 1305, 1306と報告された菌、または菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208 (オキサリリン) および抗菌薬コード：1606 (セフォキシチン) の感受性結果「S」の菌 (一方が「S」で他方が未測定の場合を含む)

†† 集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

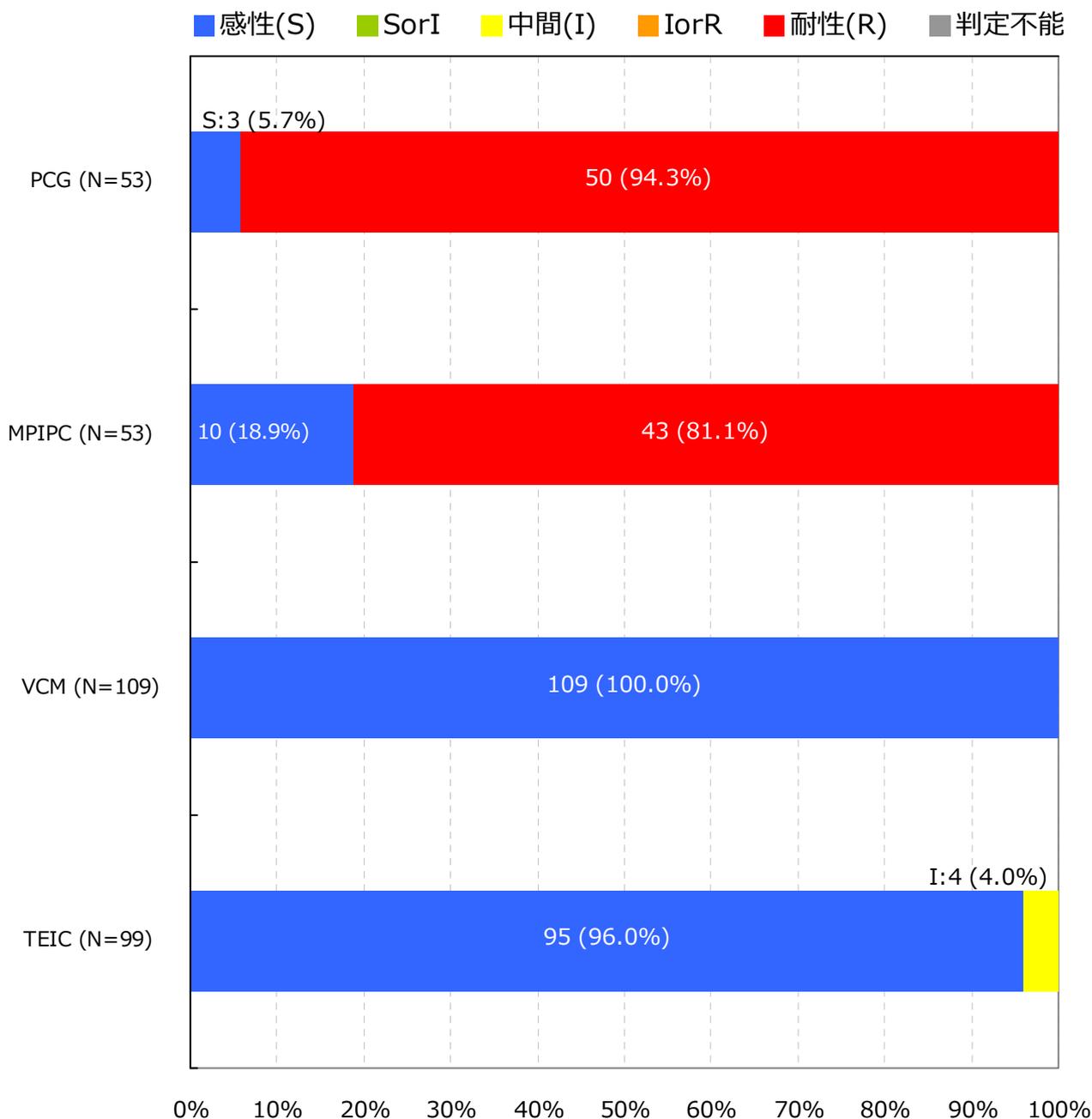
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1303と報告された菌、または菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208（オキサシリン）または抗菌薬コード：1606（セフォキシチン）の感受性結果「R」の菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

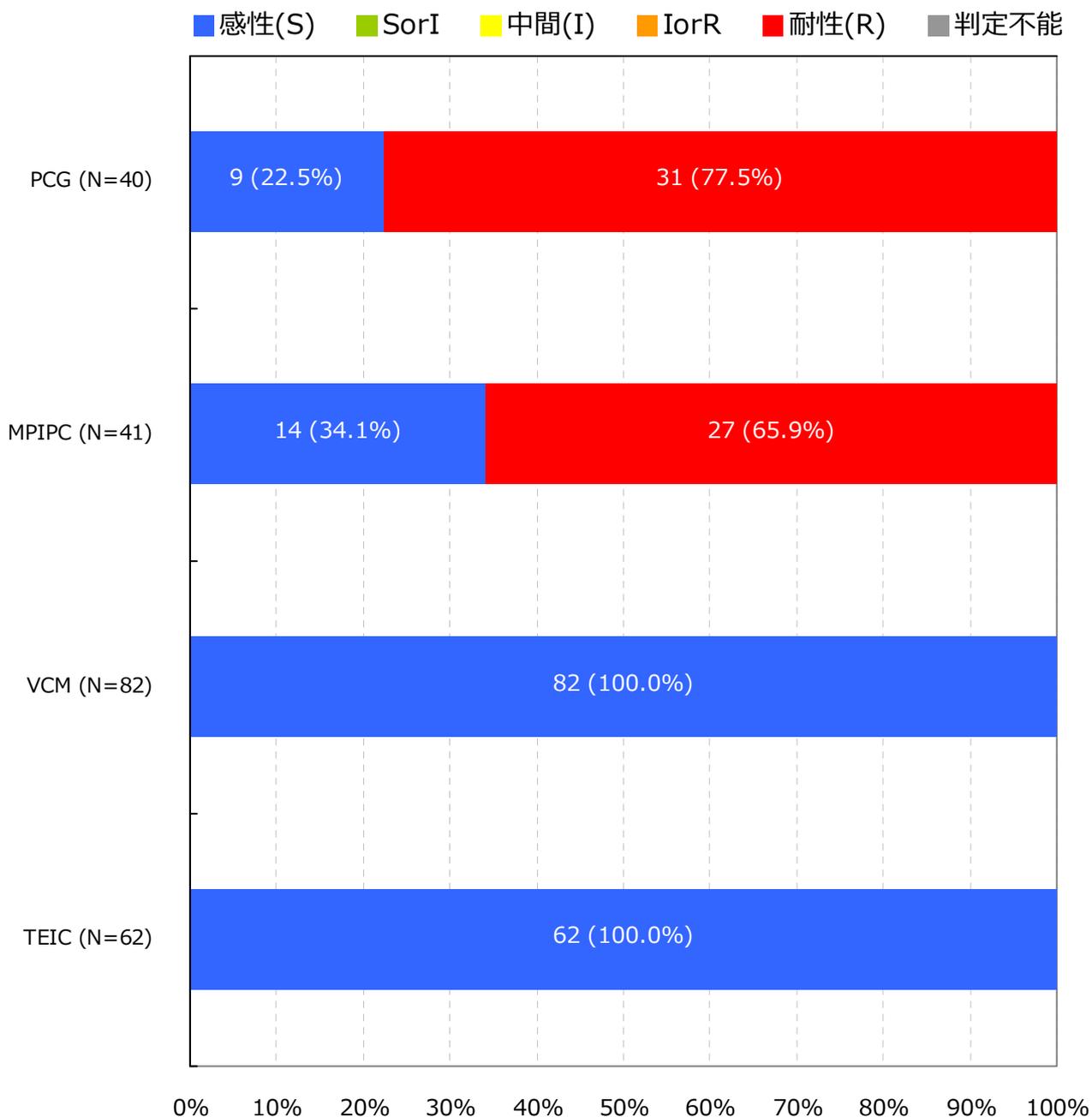
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

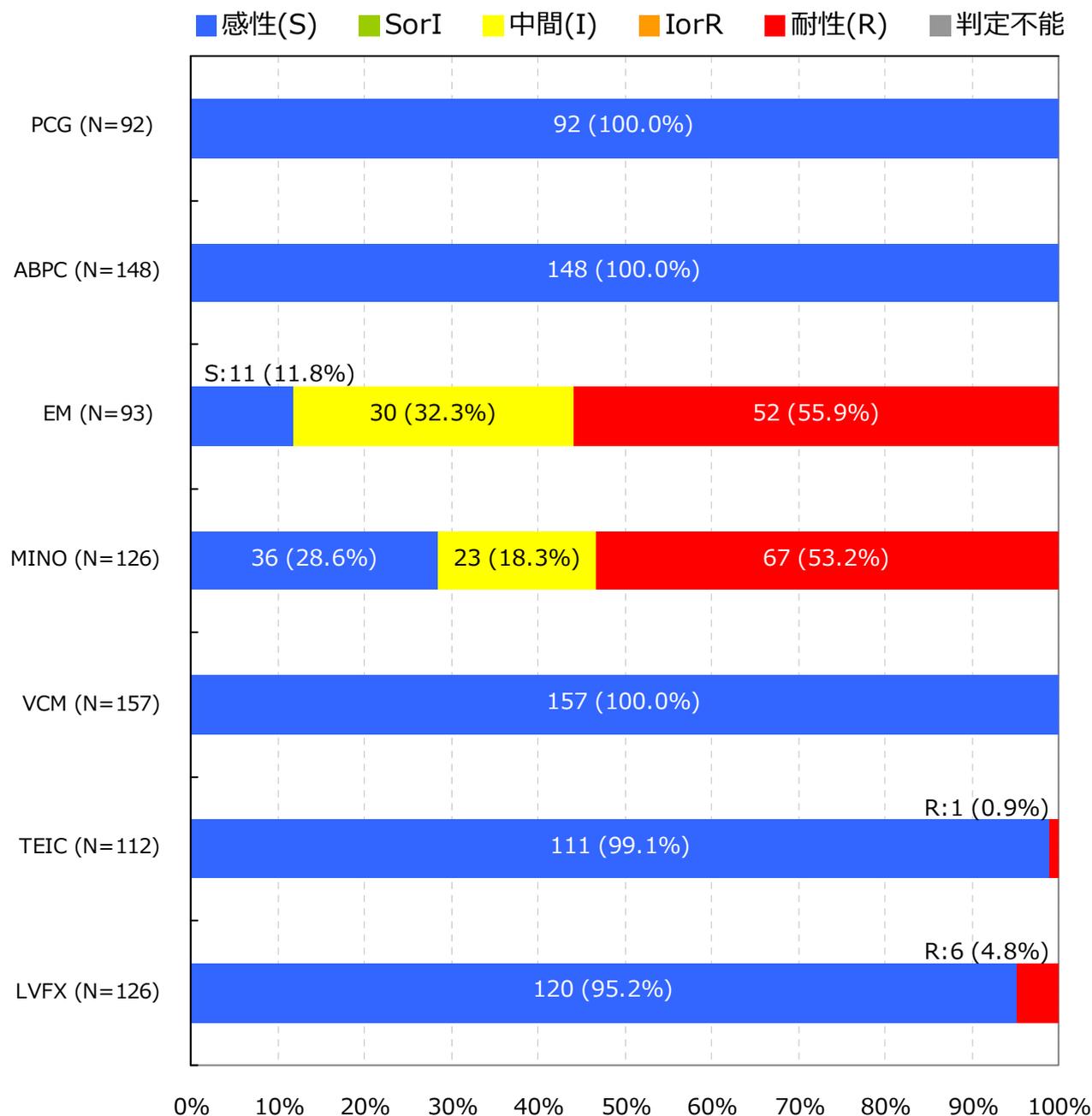
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

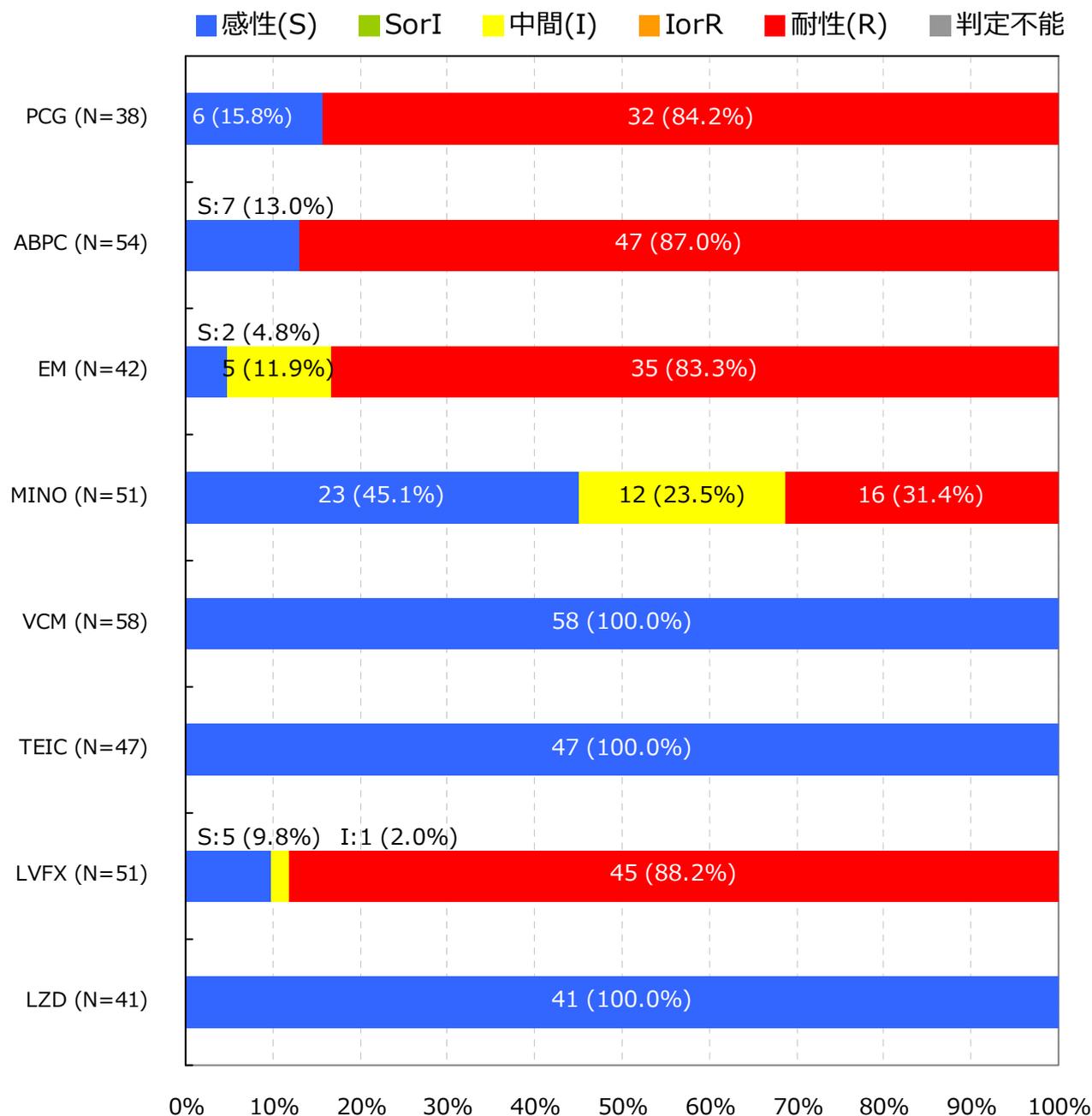
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1205, 1206と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

(山梨県)

公開情報 2019年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門 【入院検体】

## 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †

報告はありませんでした

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

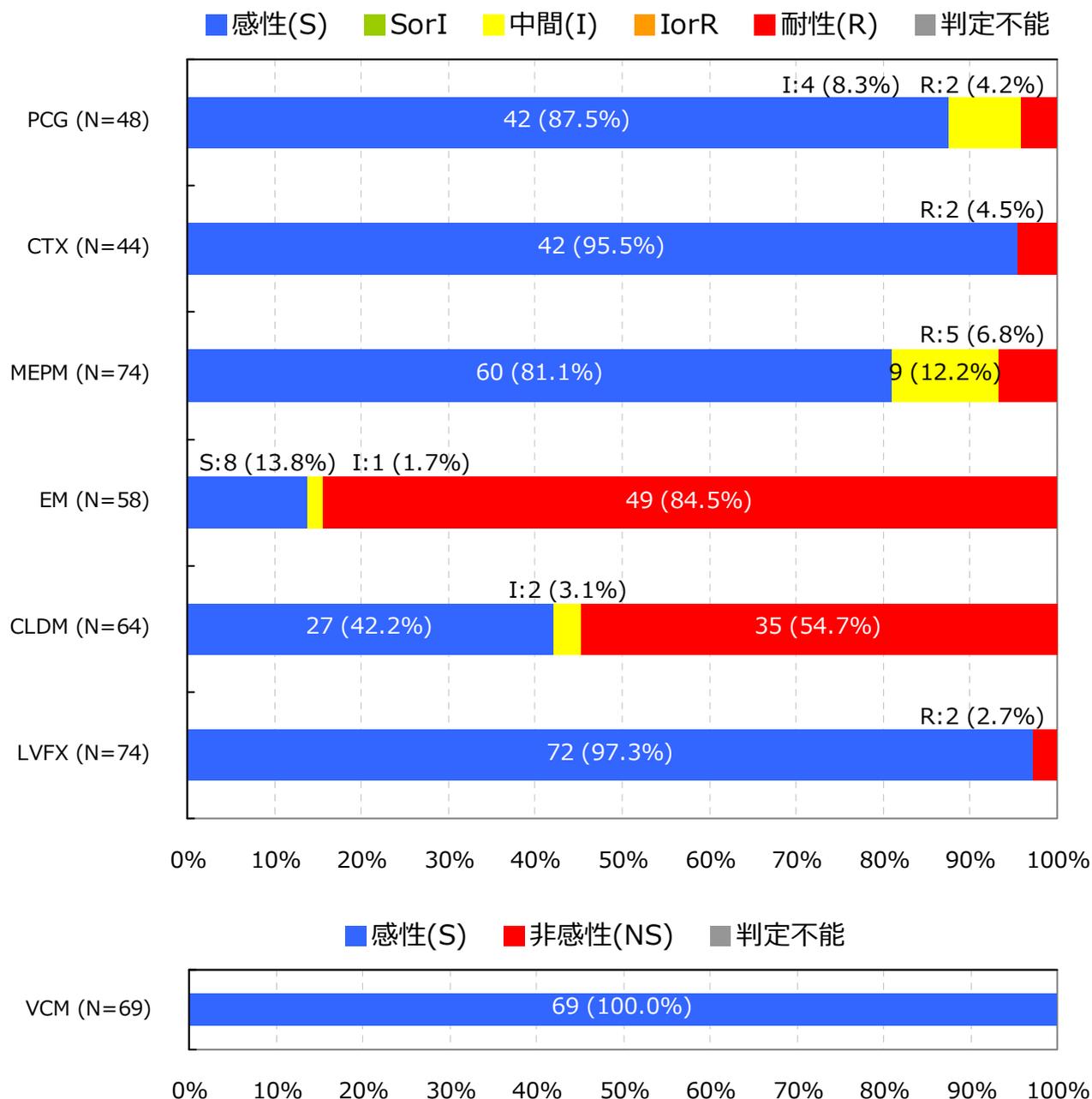
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1131と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

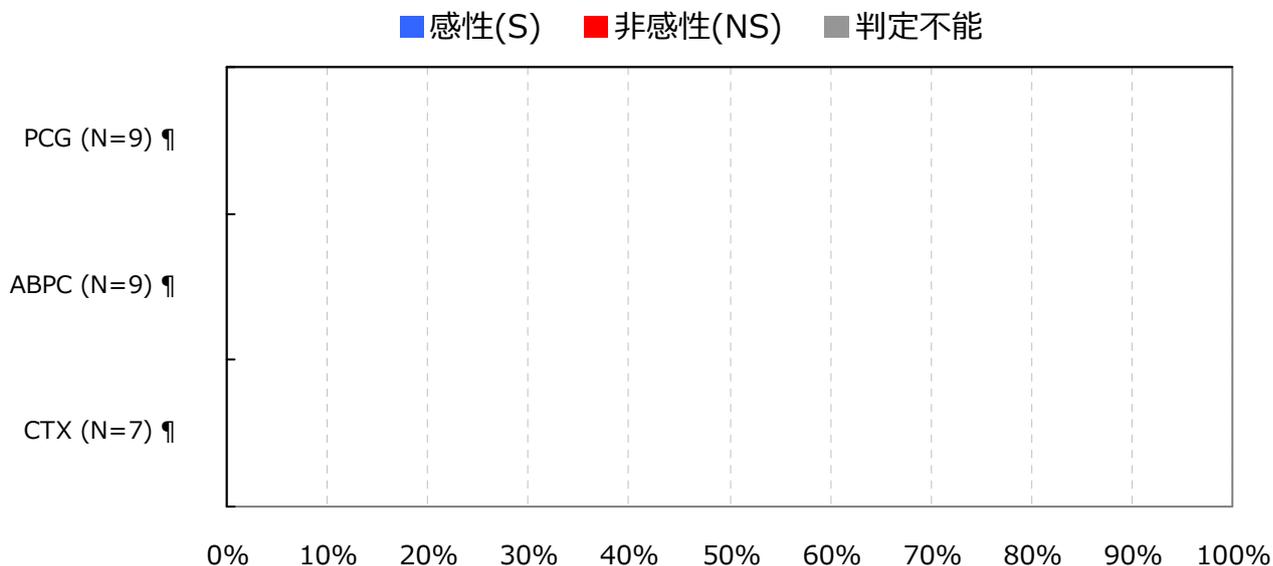
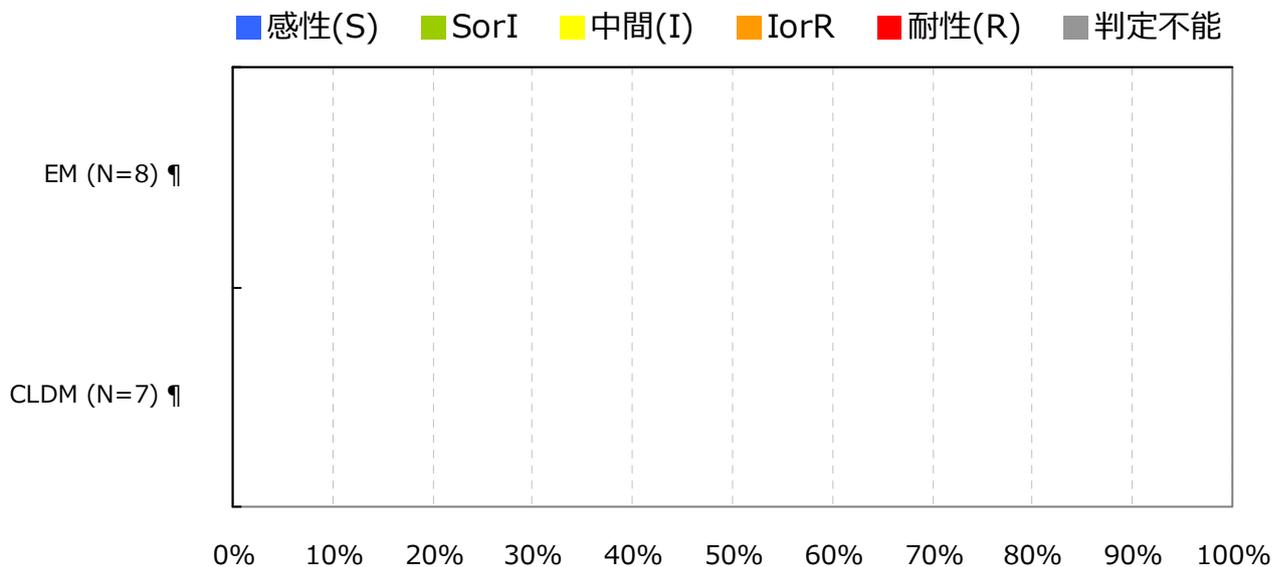
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

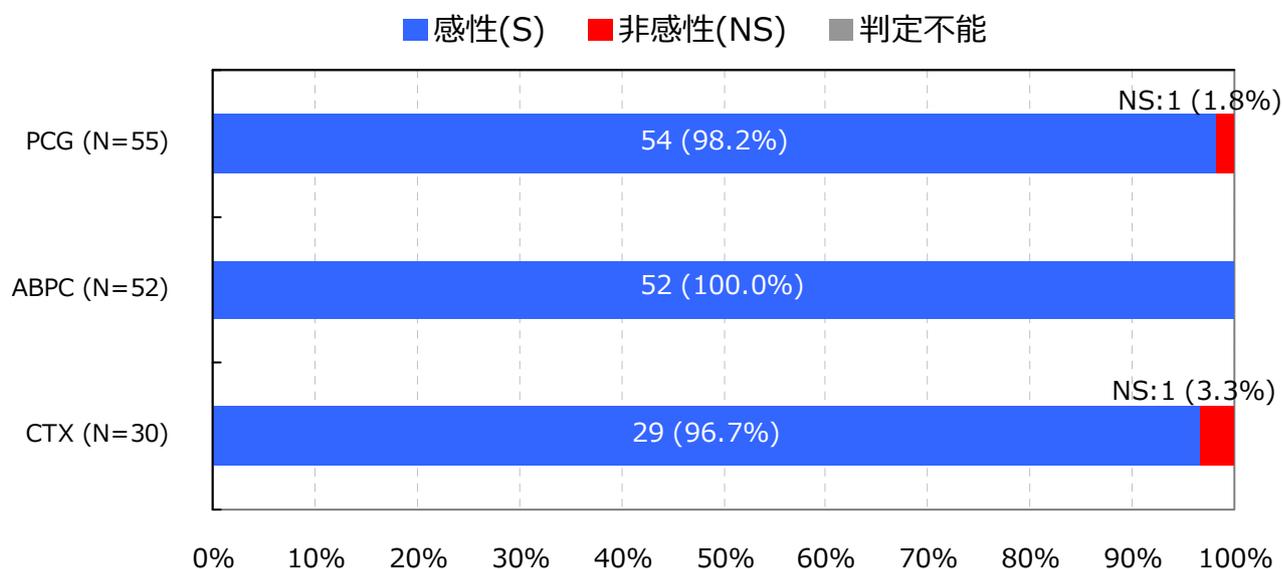
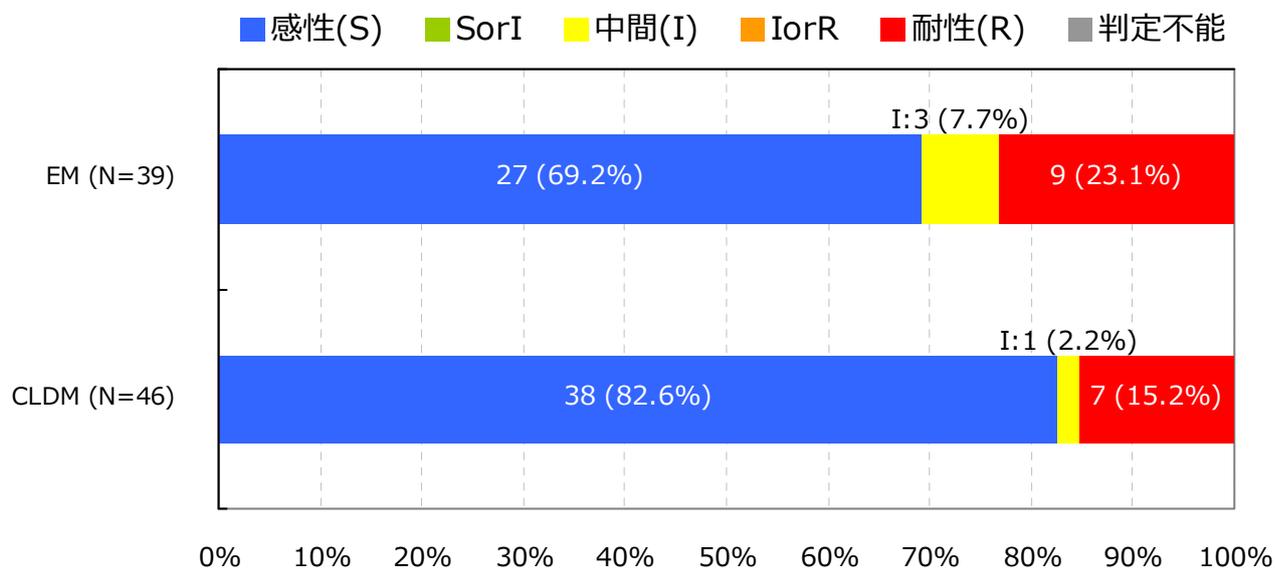
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌

¶ 集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

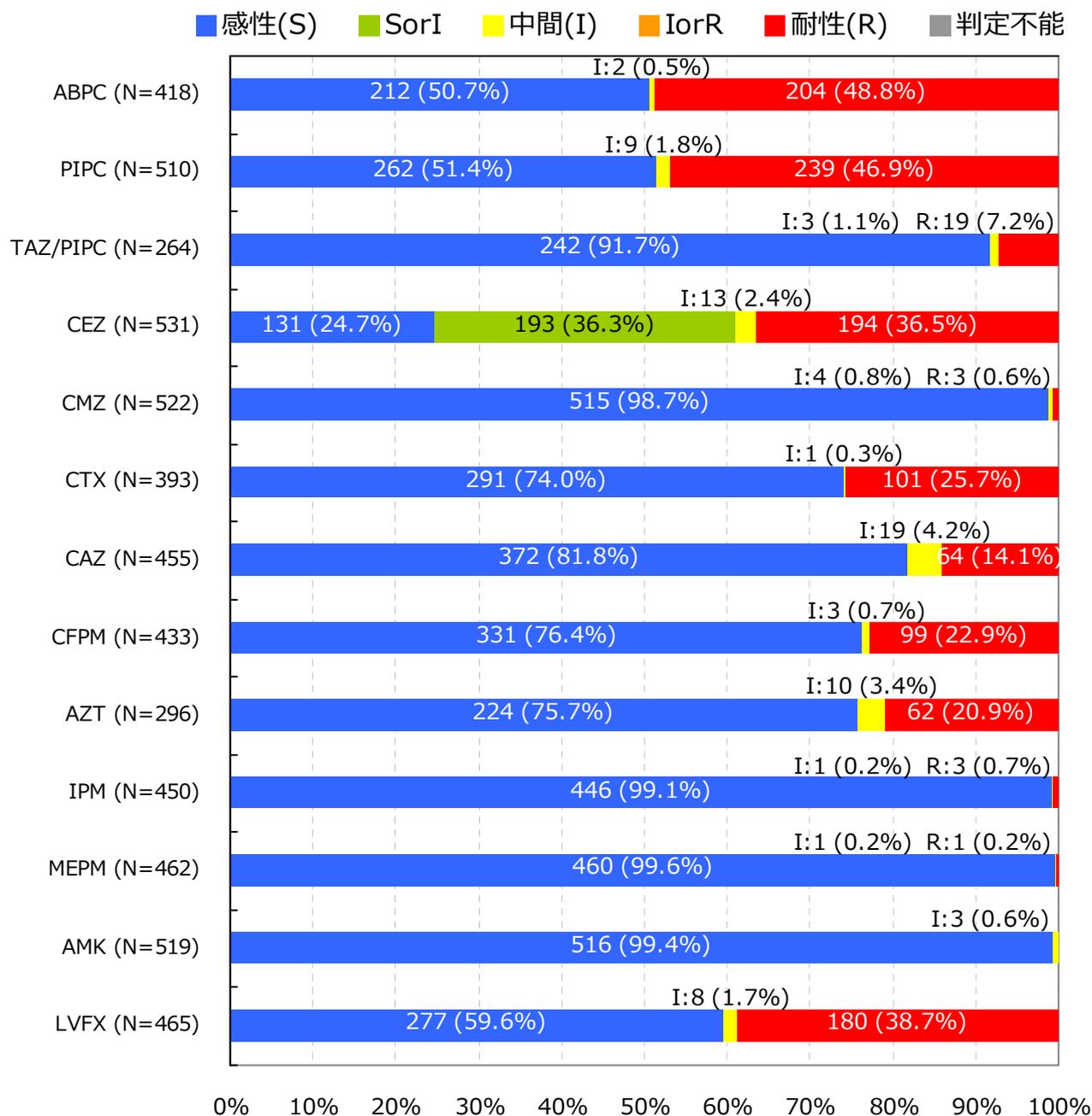
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1114と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

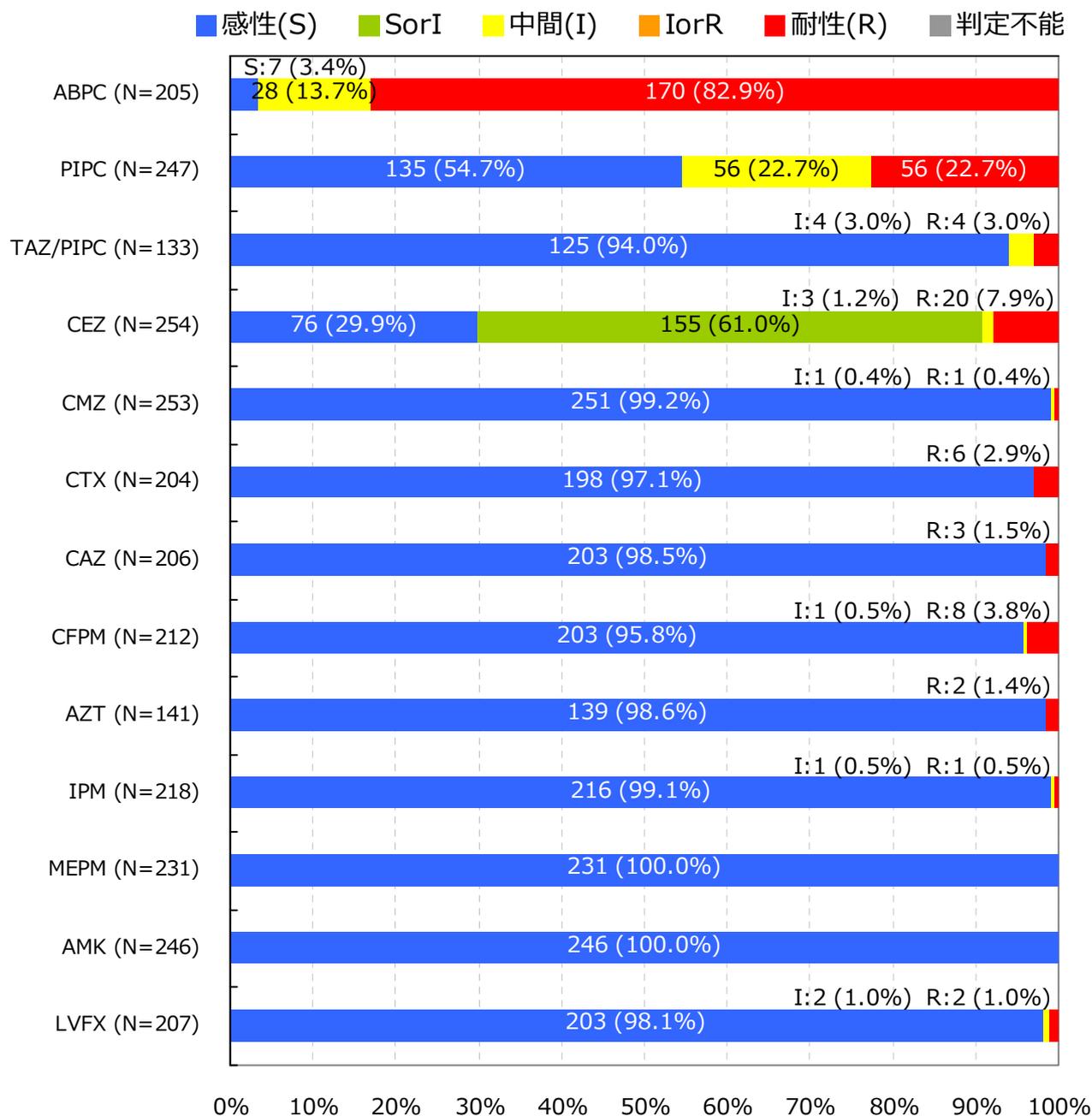
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

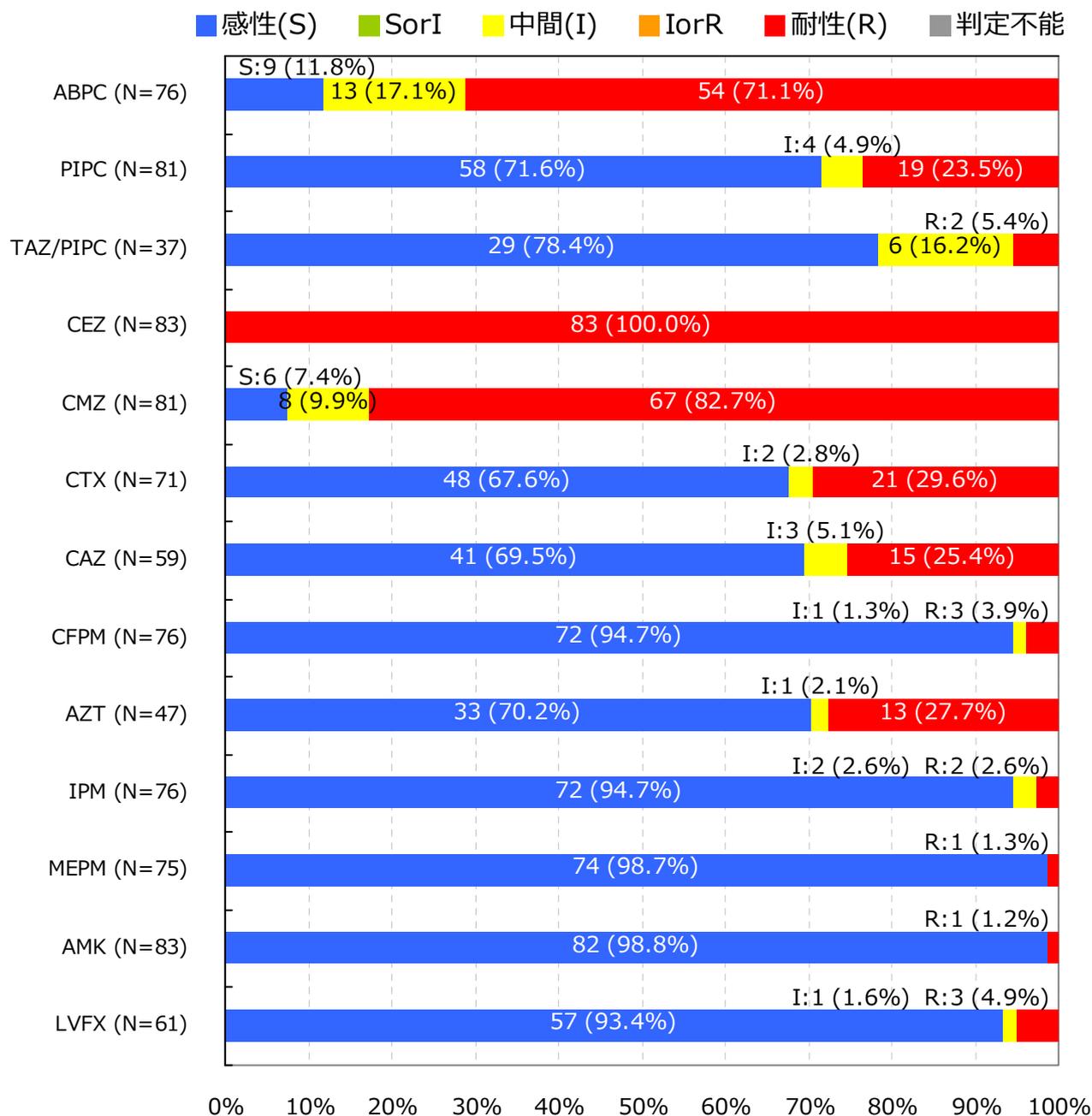
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2351と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

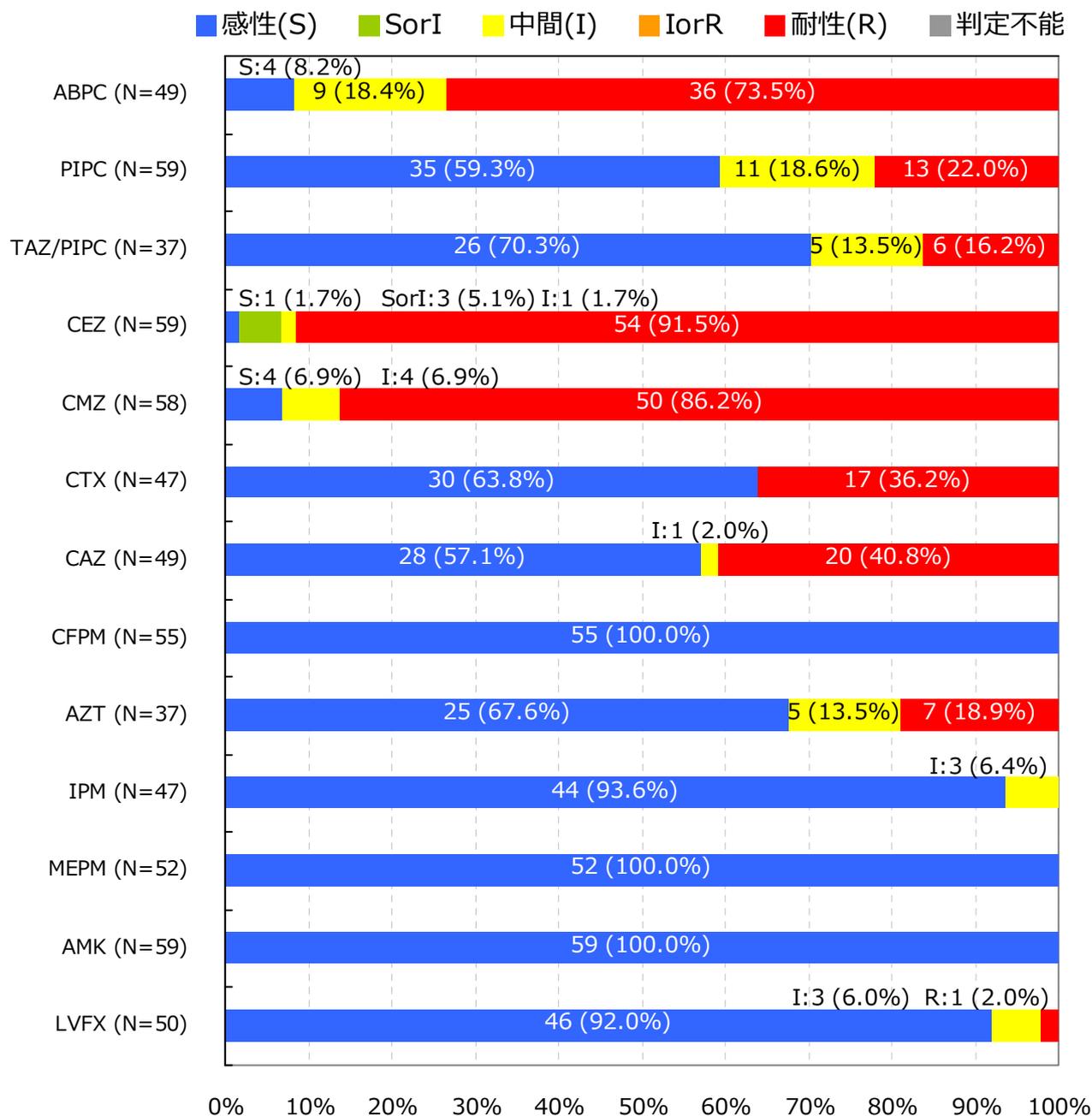
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2151と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

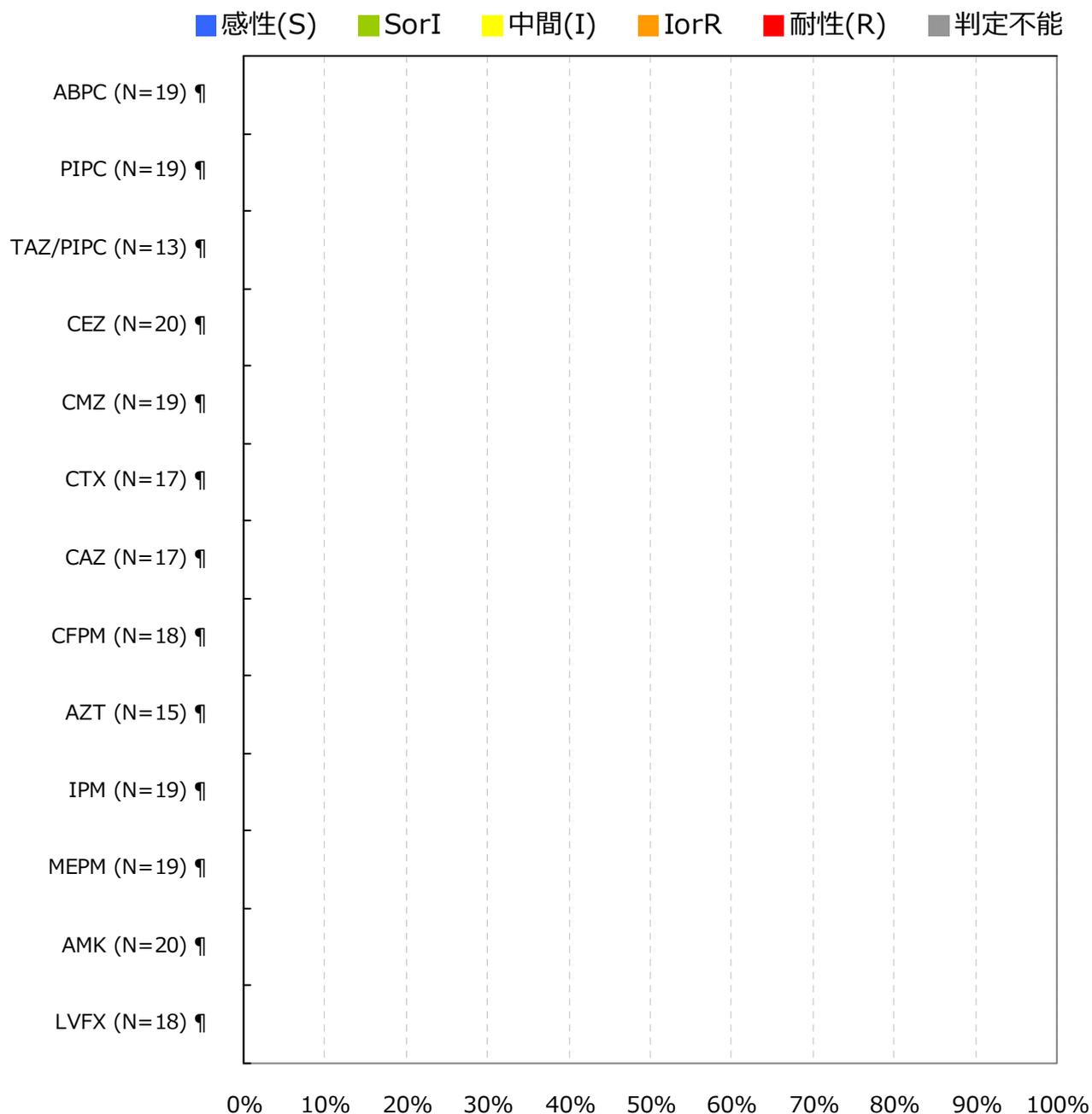
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2152と報告された菌 (旧名: *Enterobacter aerogenes*)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

## 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

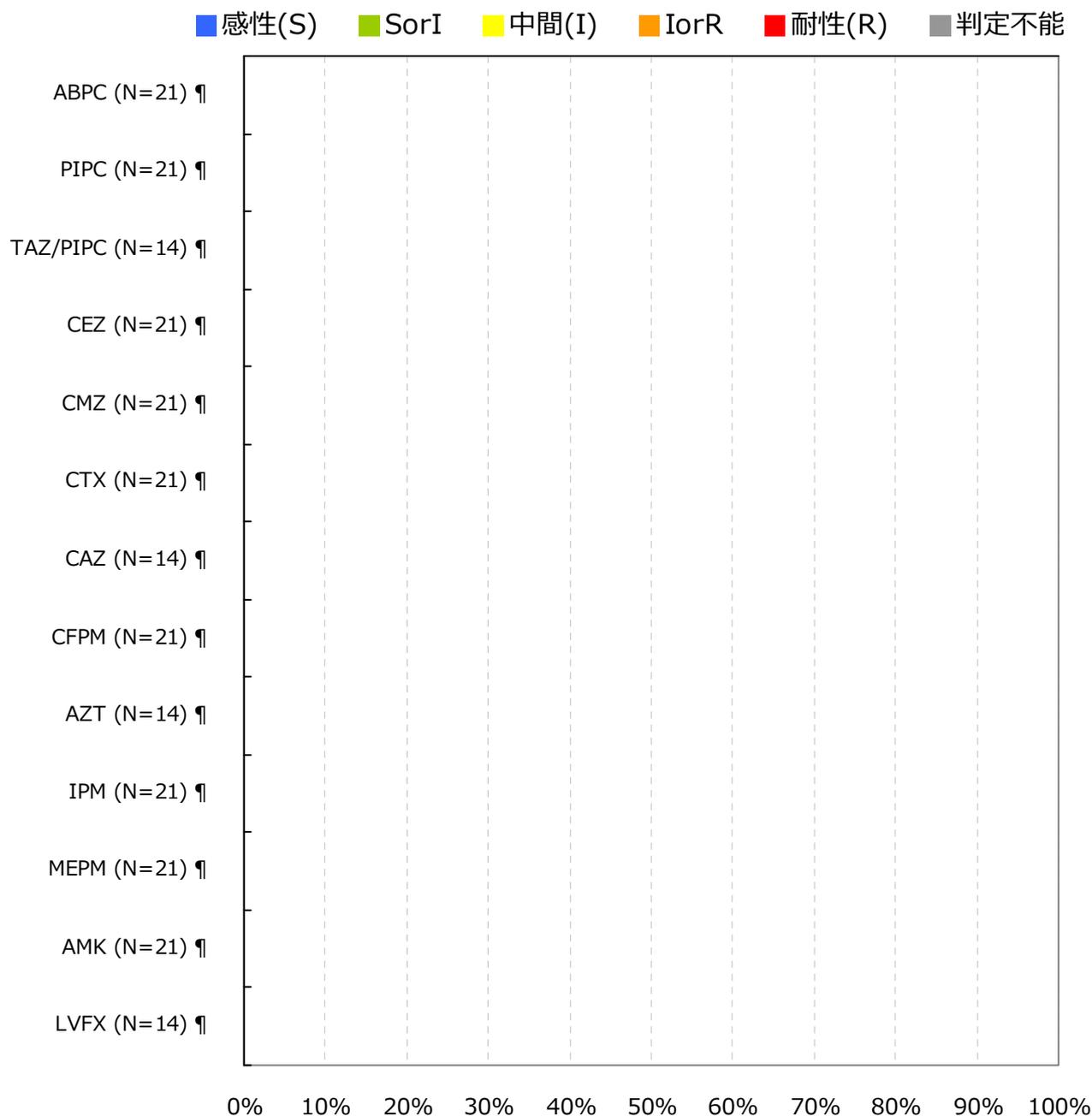
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

¶集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

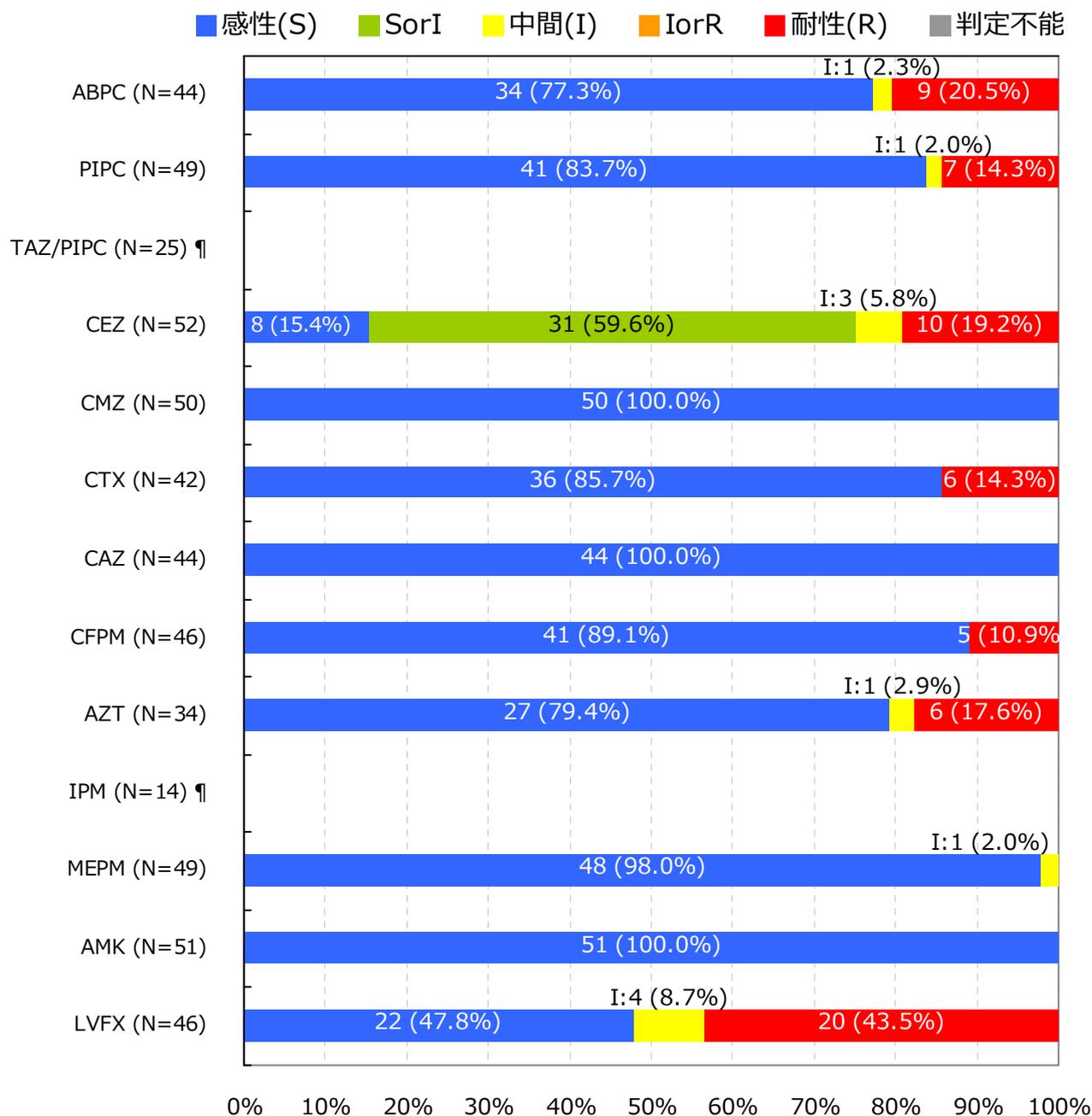
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

¶集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

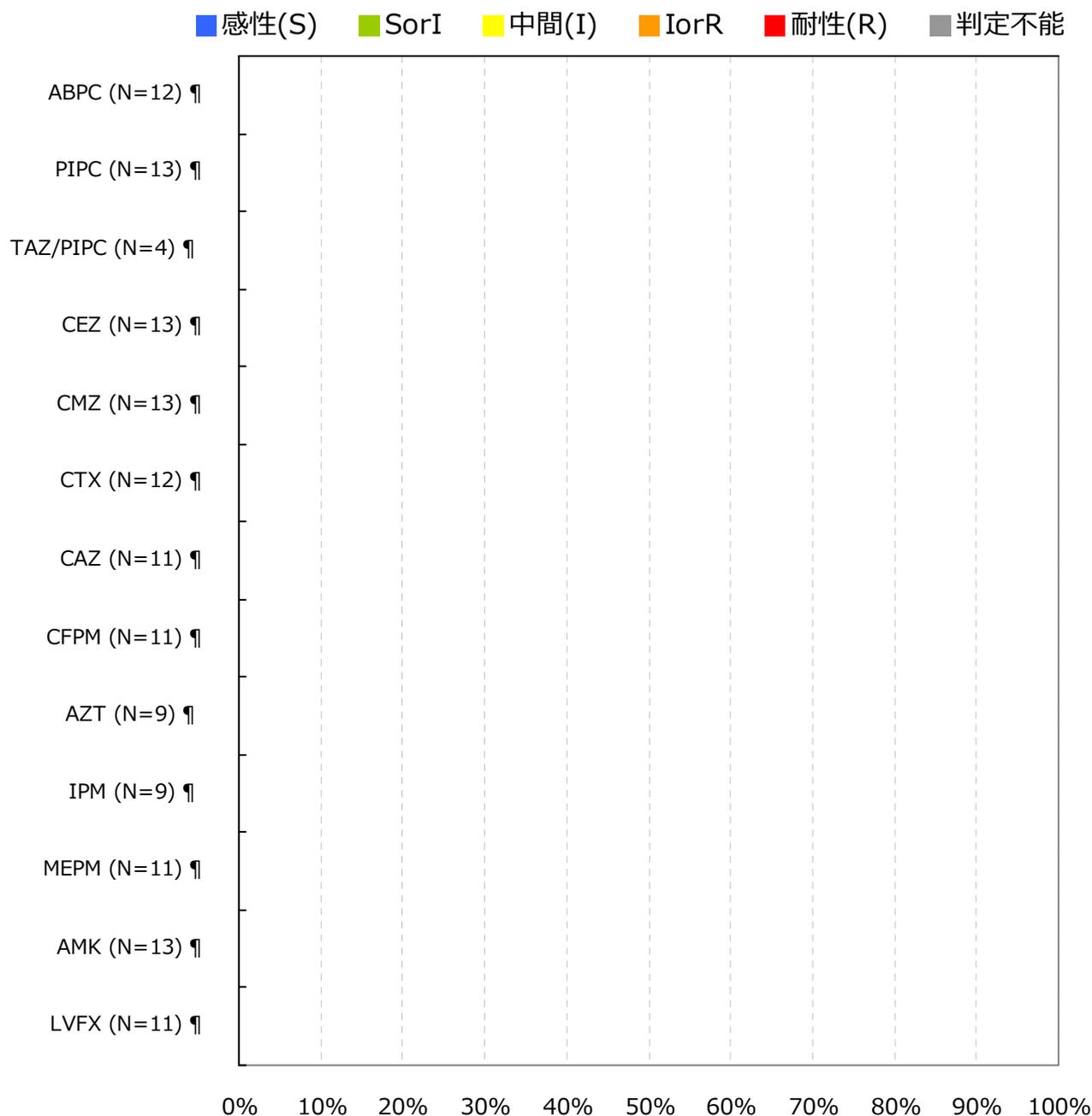
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

¶集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

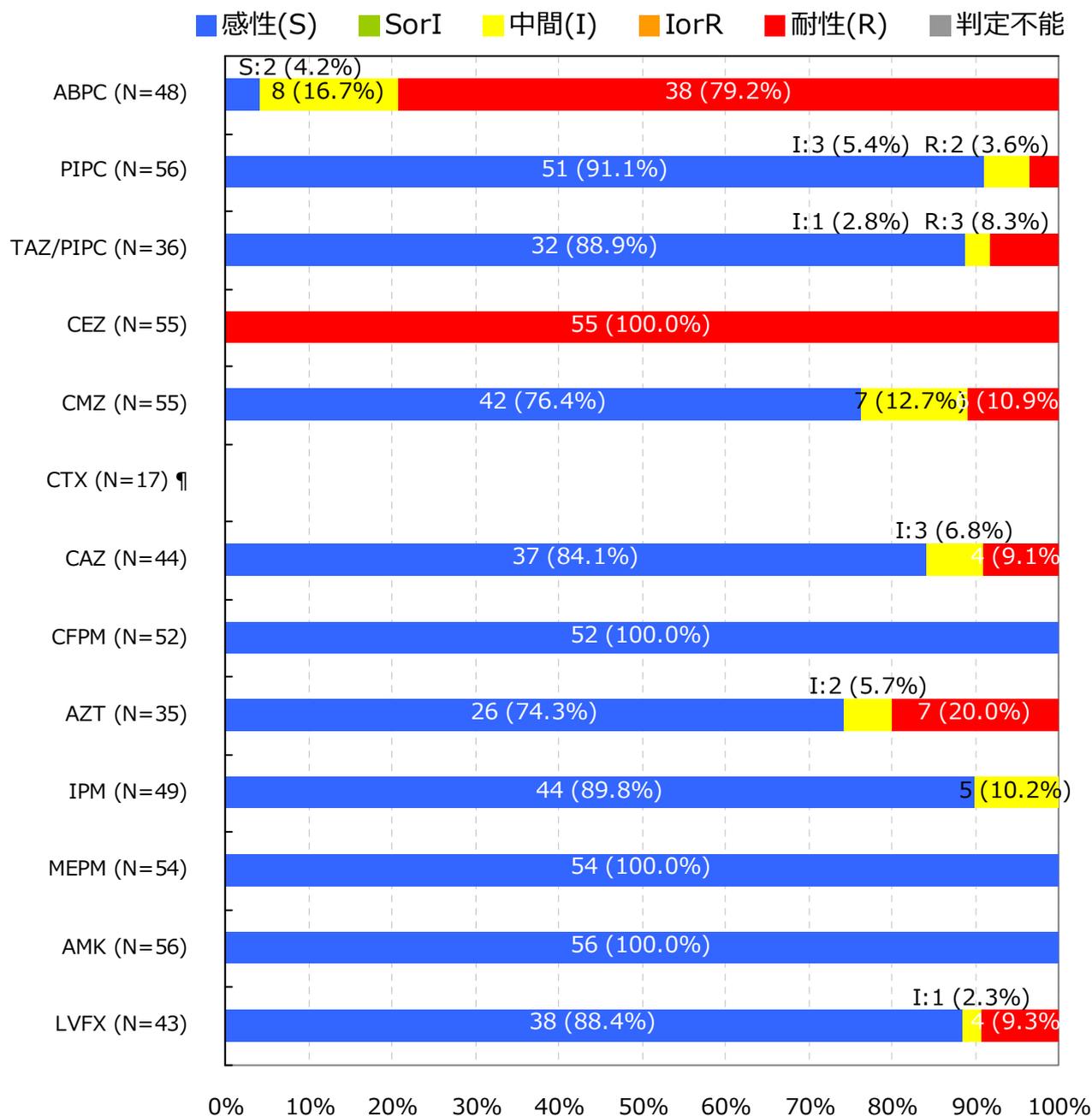
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

¶集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

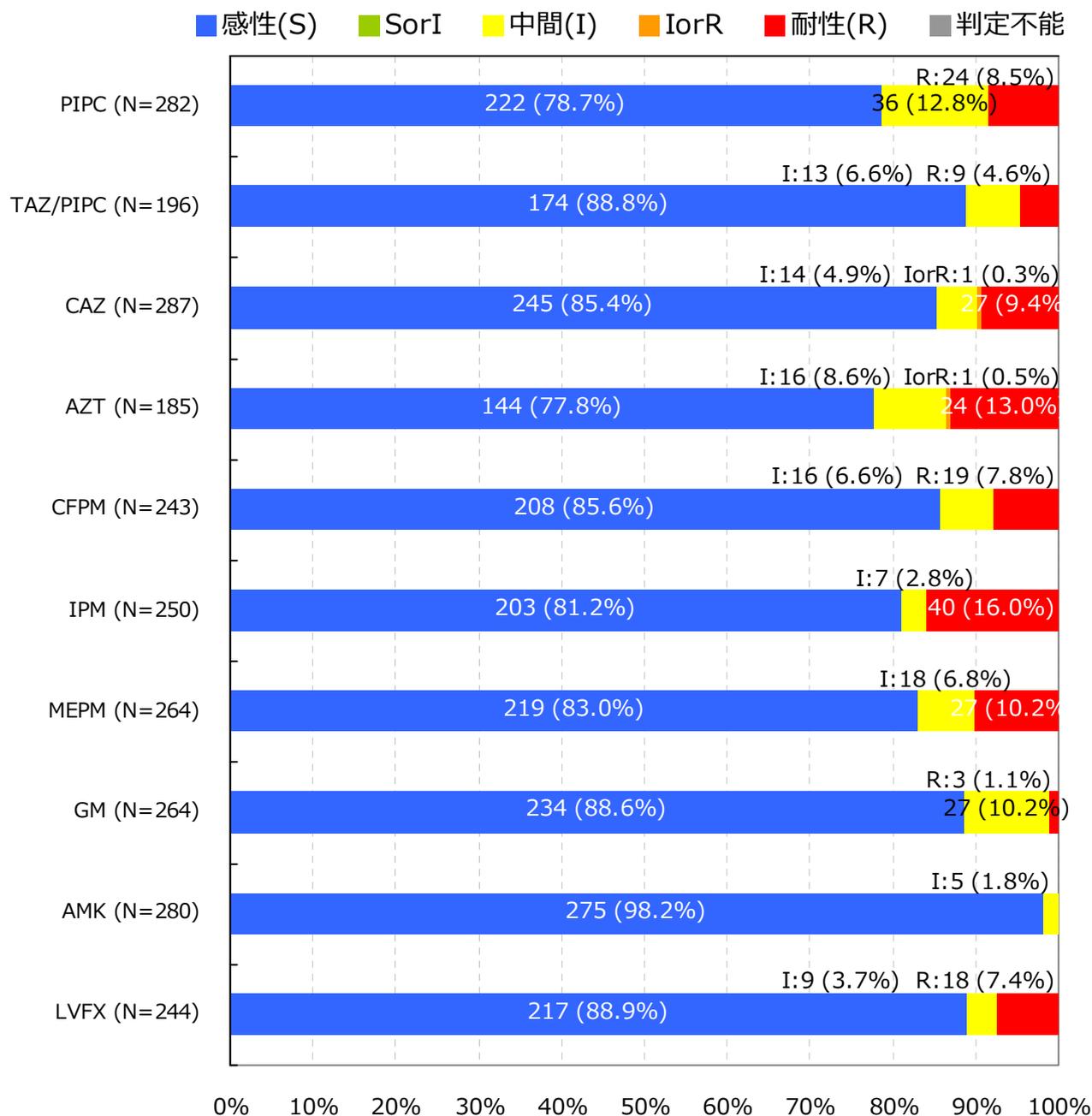
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2101と報告された菌

††集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

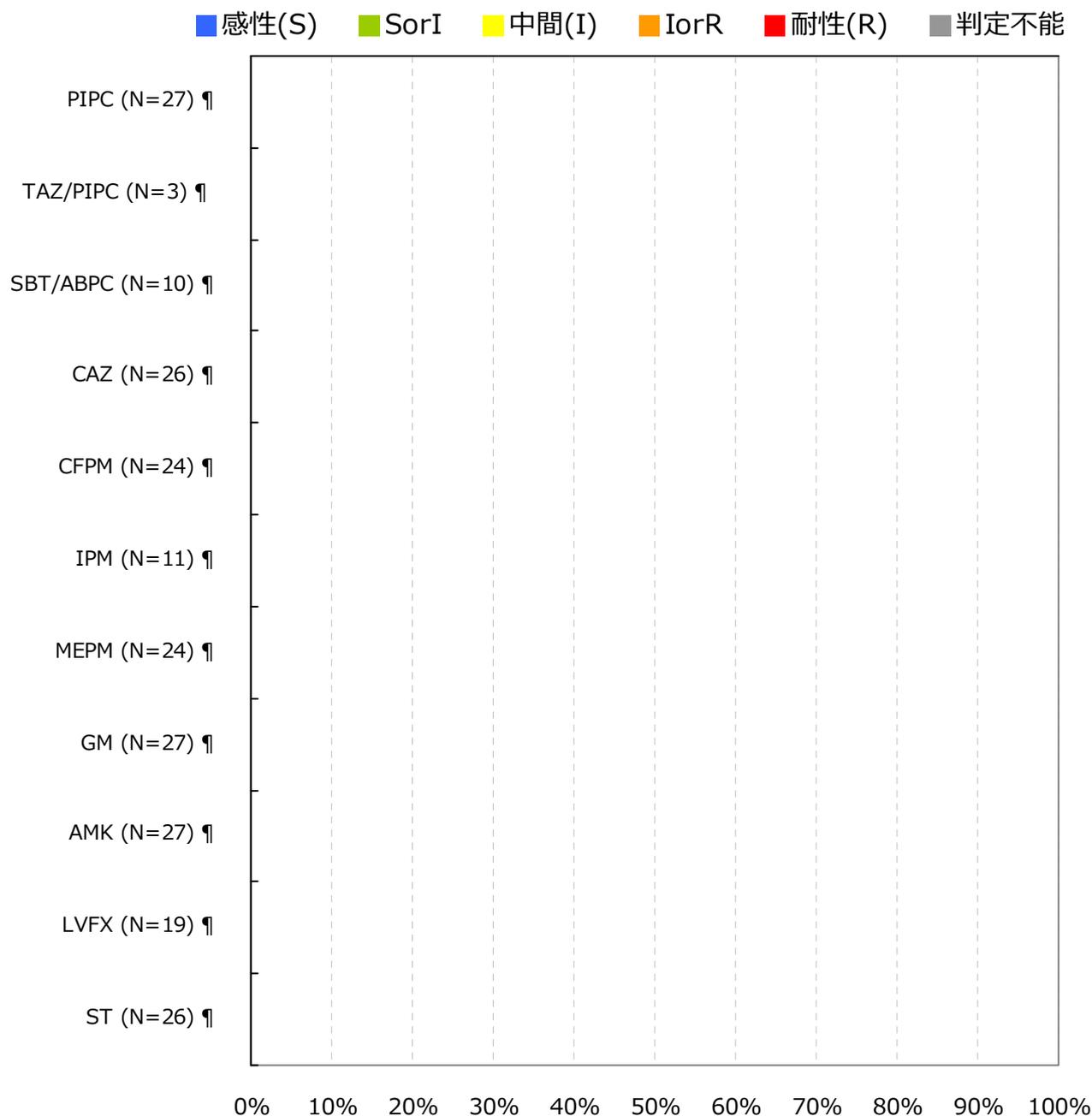
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

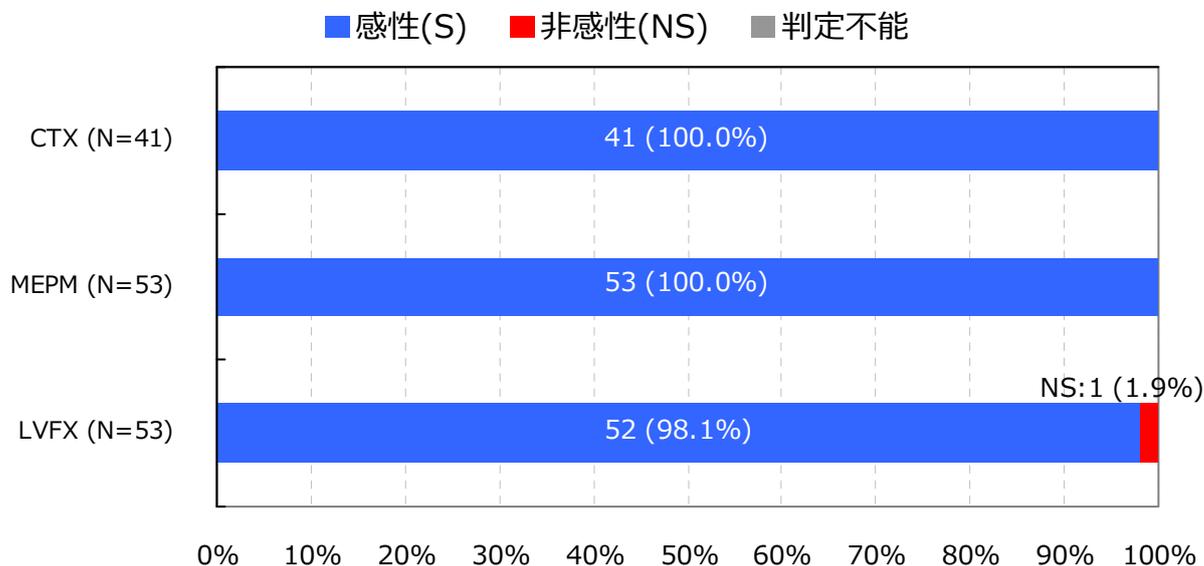
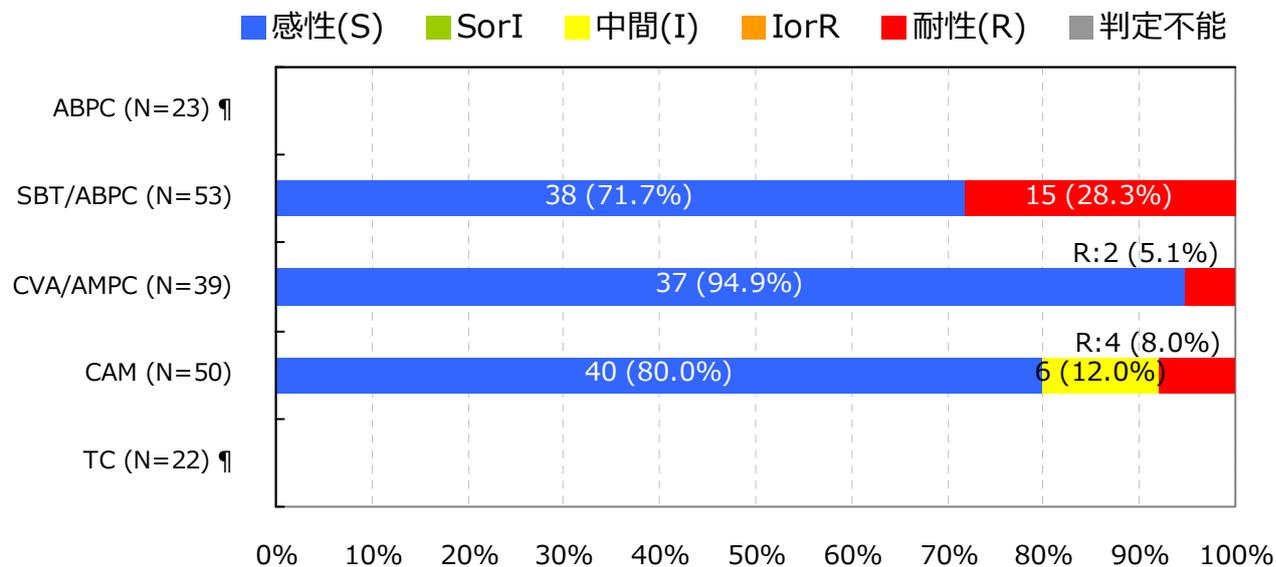
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4400～4403と報告された菌

¶集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

‡ 集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

【巻末資料1 主要菌の菌名コード / 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

主要菌の菌名コード（薬剤感受性条件なし）

| 菌名                                | 菌名コード Ver.5.1       |
|-----------------------------------|---------------------|
| <i>Staphylococcus aureus</i>      | 1301,1303-1306      |
| <i>Staphylococcus epidermidis</i> | 1312                |
| <i>Streptococcus pneumoniae</i>   | 1131                |
| <i>Enterococcus faecalis</i>      | 1201,1202           |
| <i>Enterococcus faecium</i>       | 1205,1206           |
| <i>Escherichia coli</i>           | 2001-2007           |
| <i>Klebsiella pneumoniae</i>      | 2351                |
| <i>Enterobacter</i> spp.          | 2150-2156           |
| <i>Enterobacteriaceae</i>         | 2000-2691,3150-3151 |
| <i>Pseudomonas aeruginosa</i>     | 4001                |
| <i>Acinetobacter</i> spp.         | 4400-4403           |

「微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準」について

耐性菌の菌名は以下の通り

MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015年1月より集計開始）

\* : 原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† : 感染症発生動向調査の基準に準拠

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.2) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.2) を基に作成した。

微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準

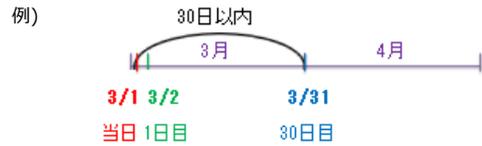
| 菌名   | 概要*  | 微量液体希釈法 (MIC 値)   | 菌名コード Ver.5.1                           |
|------|--|---|---|
| MRSA | MPIPC または CFX が "R" の <i>S. aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌   | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$  | 1301,1303                               |
| VRSA | VCM が微量液体希釈法で "R" の <i>S. aureus</i>   | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 1301,1303-1306                          |
| VRE  | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp.<br>・ VCM が微量液体希釈法で耐性 +<br>・ 選択培地で VRE と確認された菌 (注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く                                       | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †   | 1201,1202,1205,1206,1209,1210,1213-1217 |
| PRSP | PCG が微量液体希釈法で耐性 + の <i>S. pneumoniae</i>   | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/mL}$ †  | 1131                                    |
| MDRP | 下記全てに該当する <i>P. aeruginosa</i><br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 +<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 +<br>3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, CPFX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †, MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ †<br>3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ , OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4001                                    |

| 菌名                 | 概要*   | 微量液体希釈法 (MIC 値)  | 菌名コード Ver.5.1        |
|--------------------|---|--|----------------------|
| MDRA               | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp.<br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が "R"<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 +<br>3. フルオロキノロン系 (LVFX, CPFX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †, MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ †<br>3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4400-4403            |
| CRE                | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科<br>1. MEPM が耐性 +<br>2. IPM が耐性 +, かつ CMZ が "R"   | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ †<br>2. IPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ † かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g/mL}$   | 2000-2691, 3150-3151 |
| カルバペネム耐性緑膿菌        | IPM または MEPM が耐性 + の <i>P. aeruginosa</i>   | IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †  | 4001                 |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌 | CTX または CTRX または CAZ が "R" の <i>K. pneumoniae</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CTRX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 2351                 |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌  | CTX または CTRX または CAZ が "R" の <i>E. coli</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CTRX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 2001-2007            |
| フルオロキノロン耐性大腸菌      | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, CPFX の何れか) が "R" の <i>E. coli</i>  | NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ , OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ , CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$                 | 2001-2007            |

## 【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

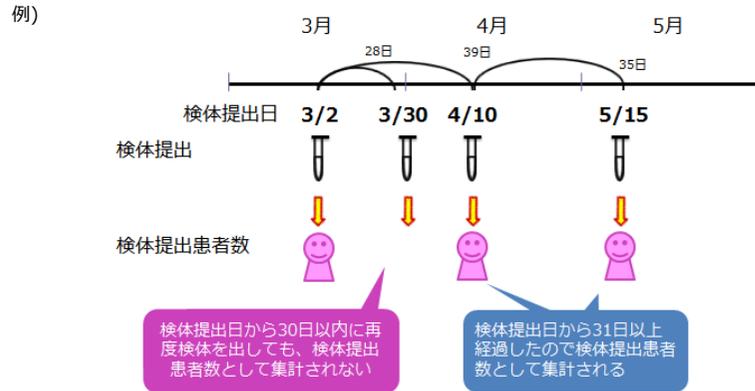
### 1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を1日目とする。検体提出日が3月1日とすると、1日目が3月2日、30日目が3月31日となる。



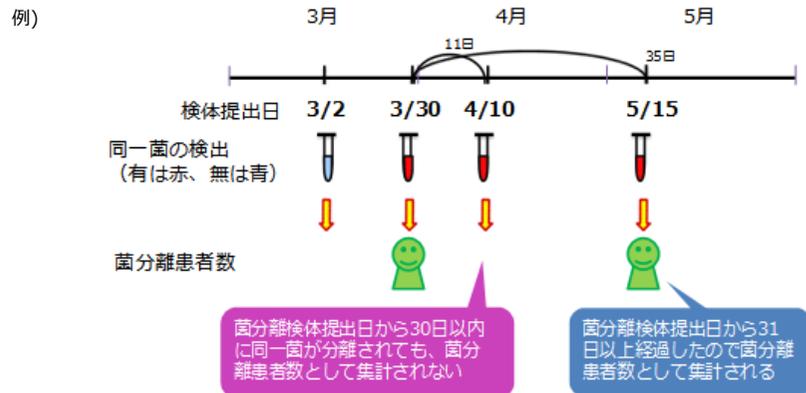
### 2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30日以内の同一患者からの複数の検体提出は1件とする。



### 3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は1件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



### 4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

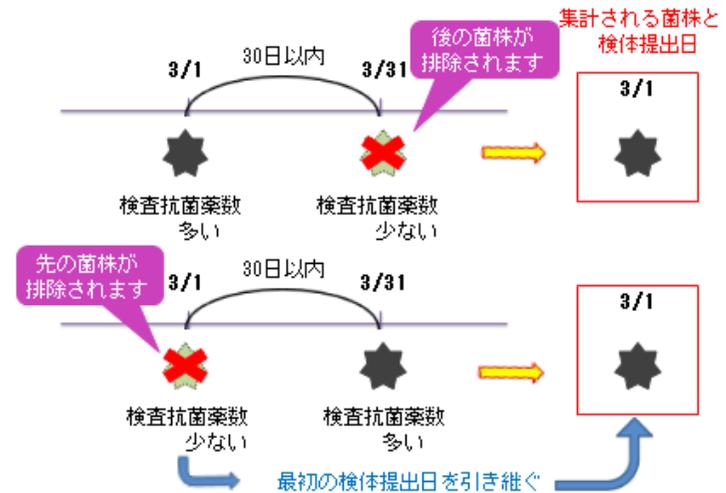
30日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に1つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC値に4倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2はMIC ≥ 4と考え、判定時はMIC = 4として扱う  
また、MIC < 16はMIC ≤ 16と考え、判定時はMIC = 16として扱う
- ② SIR判定では「SとR」の組み合わせ
- ③ +/-判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が5未満

### 5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬が(30日以内の)先の菌株の検査抗菌薬より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。

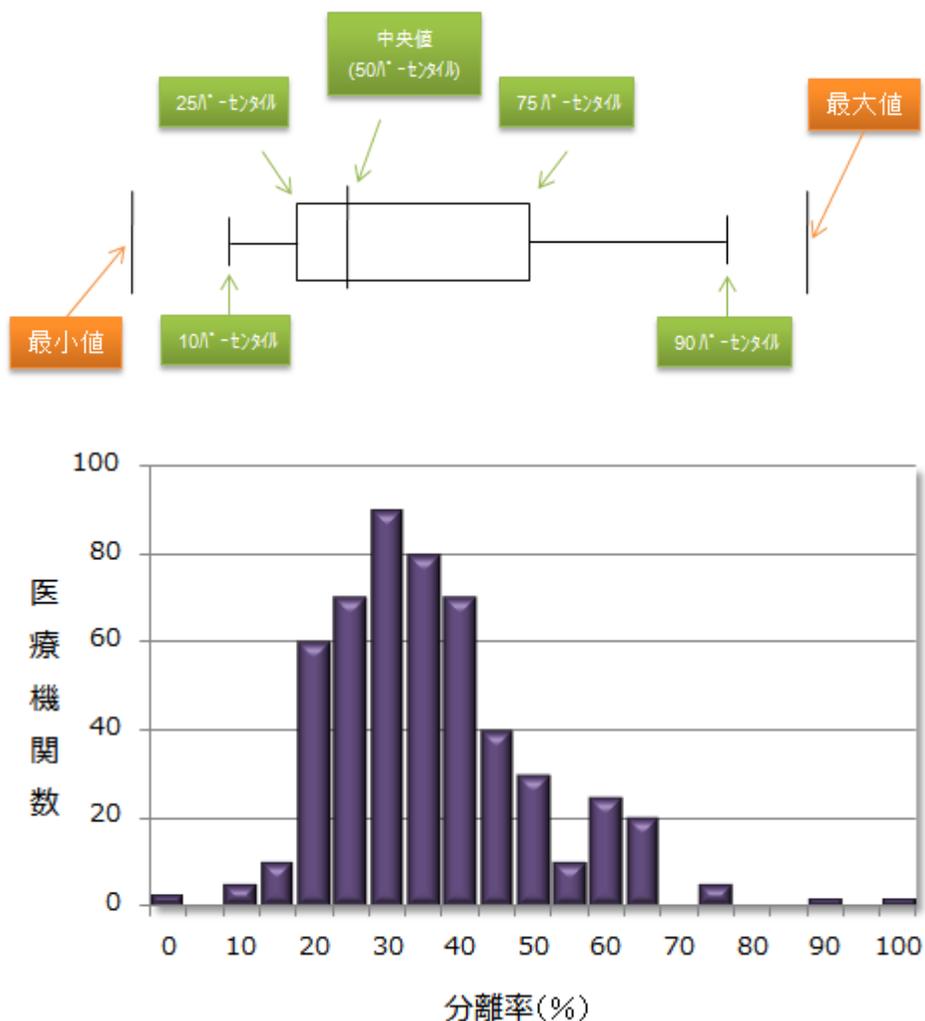
例)



## 【巻末資料 3 箱ひげ図について】

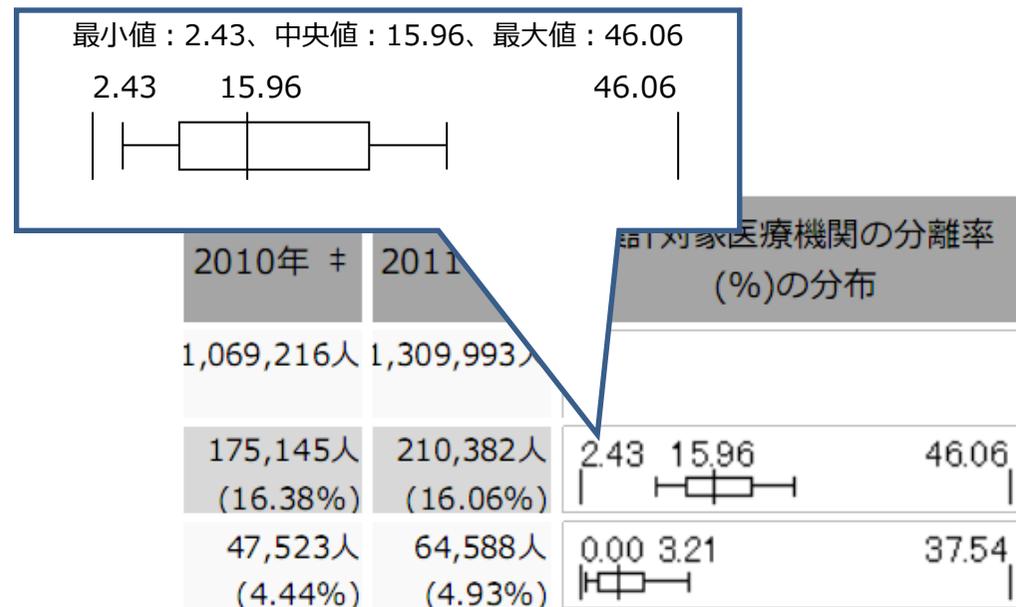
### 1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



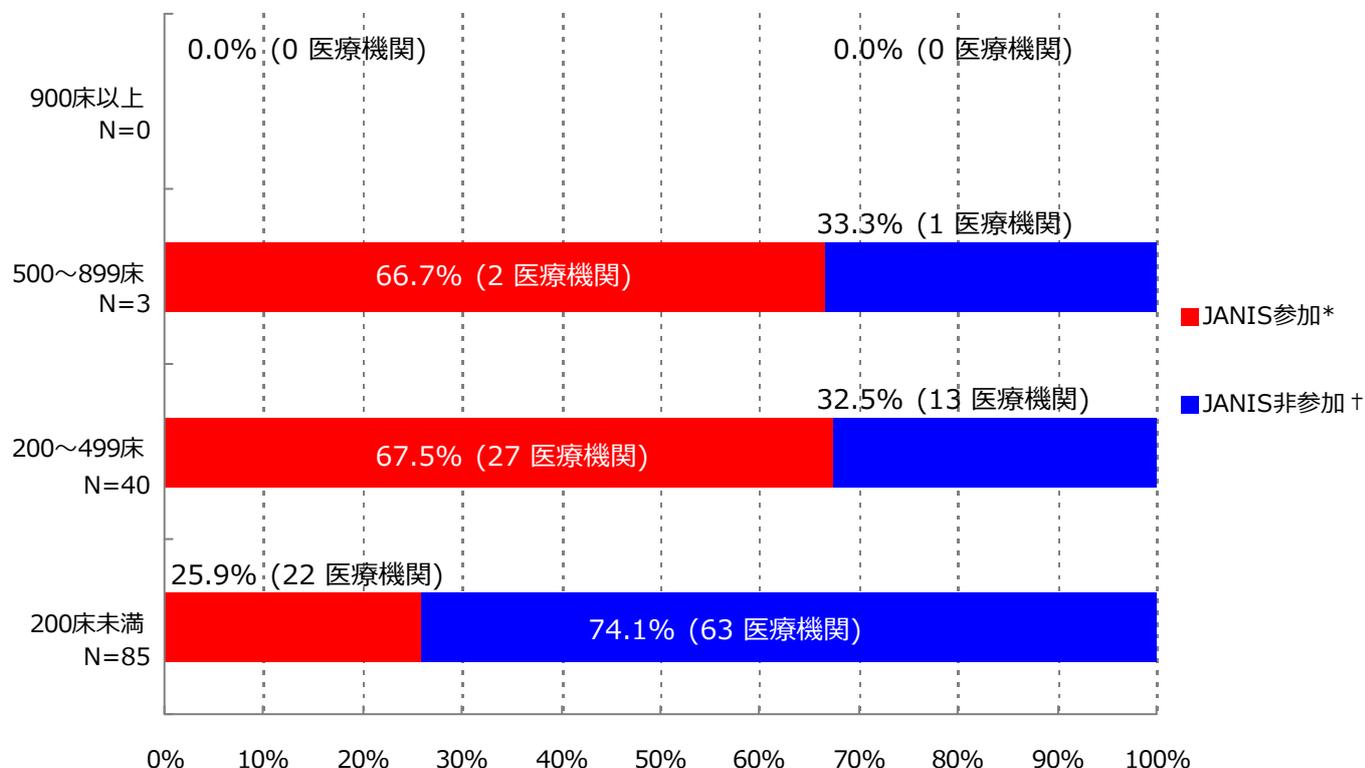
※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したものの。例えば、10 パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

### 2. 公開情報の箱ひげ図





### 1. 集計対象医療機関数(51医療機関)



\*JANIS参加 = 2019年1～3月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2018年 都道府県別医療機関数 †) - (2019年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数      | 2018年 都道府県別医療機関数 † | 2019年1月～3月 集計対象医療機関数<br>(都道府県別医療機関数に占める割合) |           |
|----------|--------------------|--|-----------|
| 900床以上   | 0                  | 0  | ( 0.0% )  |
| 500～899床 | 3                  | 2  | ( 66.7% ) |
| 200～499床 | 40                 | 27   | ( 67.5% ) |
| 200床未満   | 85                 | 22   | ( 25.9% ) |
| 病床数不明    | -                  | 0  | ( - )     |
| 合計       | 128                | 51   | ( 39.8% ) |

† 2018年医療施設（動態）調査を参照した

(長野県)

公開情報 2019年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門 【入院検体】



## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数    | 陽性検体数<br>(分離菌数)    |
|--------|-----------|--------|--------------------|
| 呼吸器系検体 | 51        | 9,779  | 5,412<br>(11,942)  |
| 尿検体    | 50        | 4,700  | 3,251<br>(4,725)   |
| 便検体    | 50        | 1,995  | 991<br>(1,937)     |
| 血液検体   | 50        | 9,388  | 1,216<br>(1,320)   |
| 髄液検体   | 28        | 238    | 16<br>(16)         |
| その他    | 51        | 6,265  | 2,822<br>(4,958)   |
| 合計     | 51        | 32,365 | 13,708<br>(24,898) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

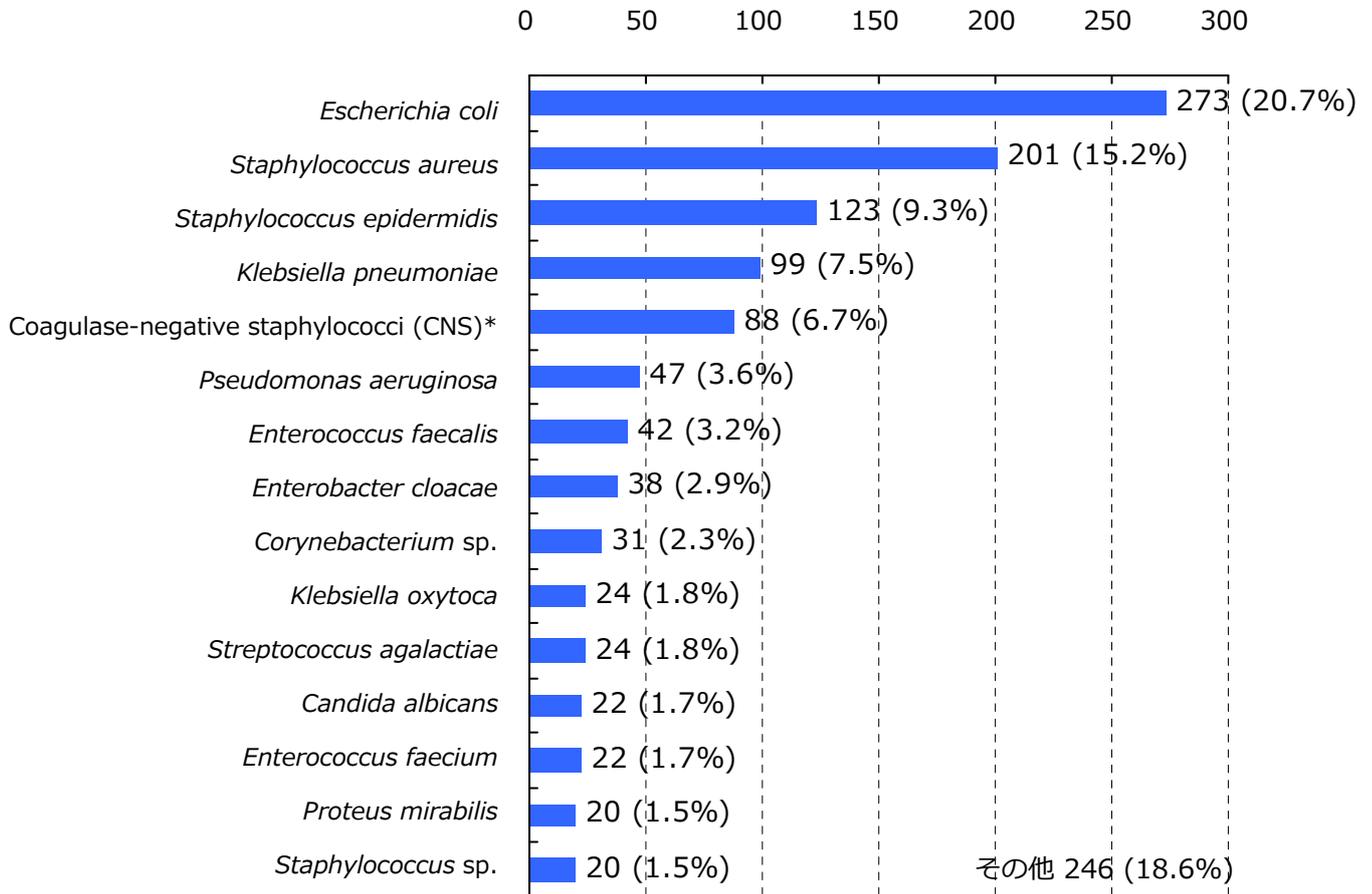
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=1,320)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

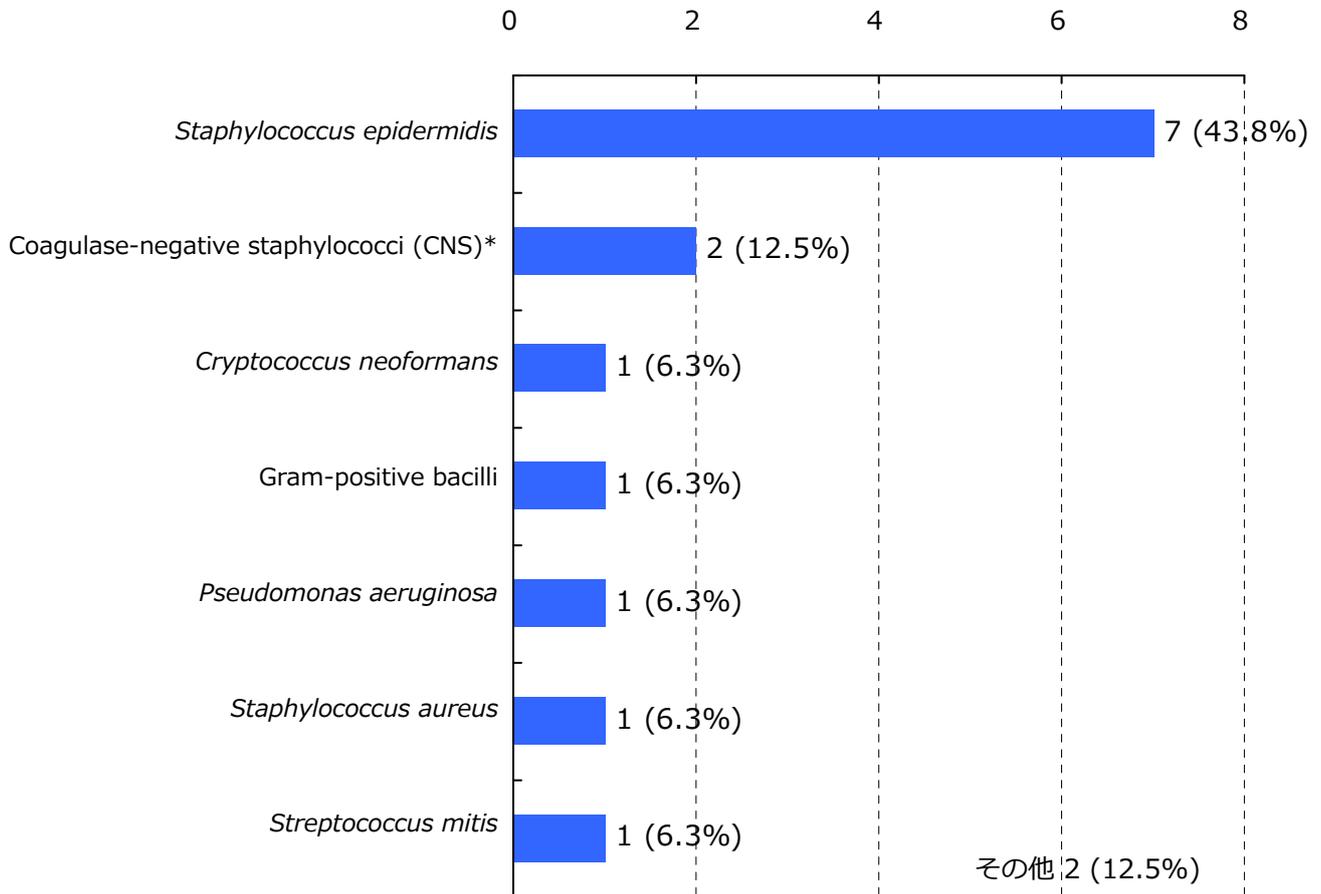
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=16)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

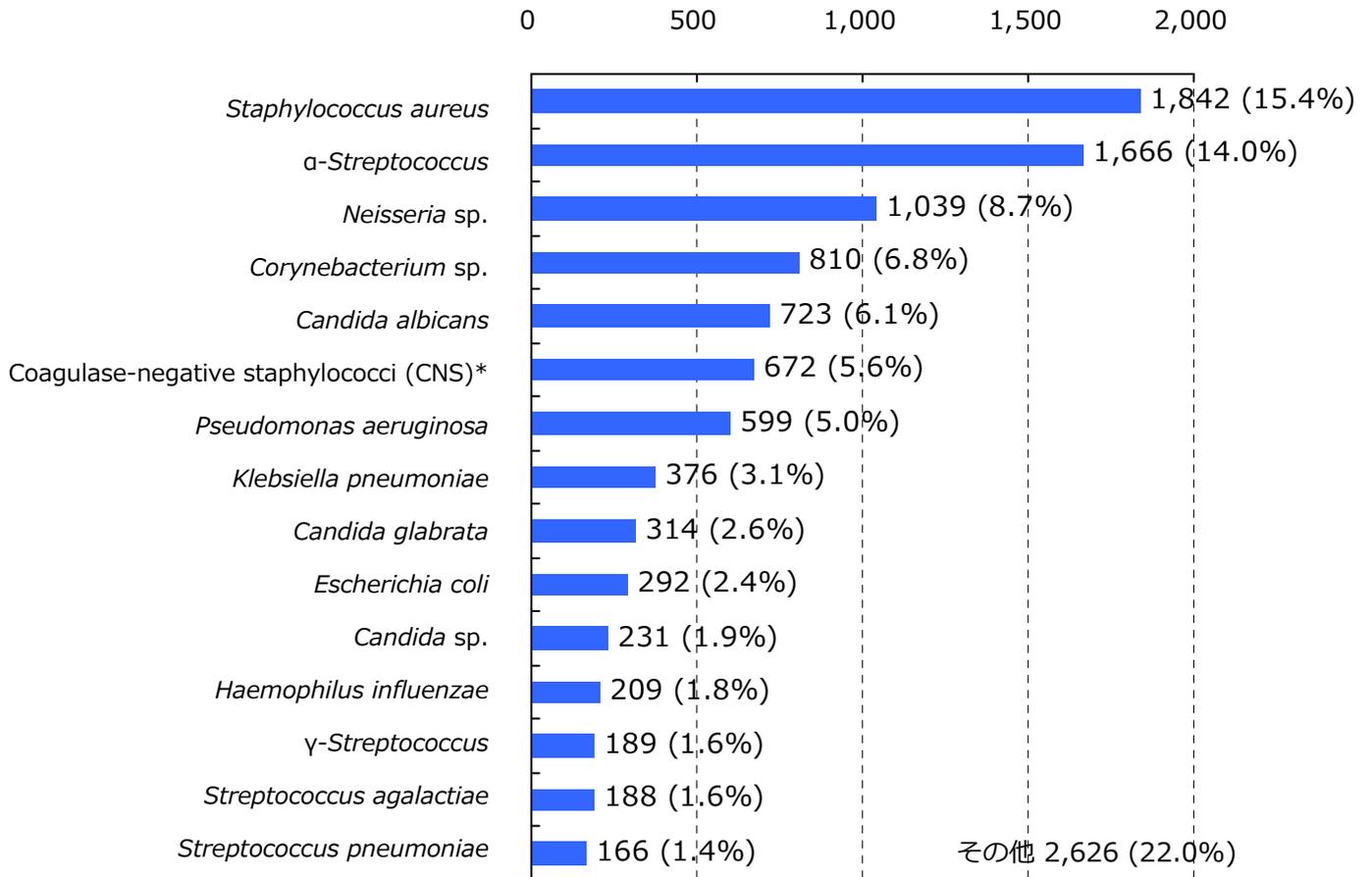
髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 呼吸器系検体分離菌 (N=11,942)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・常在菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：喀出痰(検査材料コード101)、気管内採痰(同102)、気管支洗浄液(同103)、咽頭粘液(同104)、鼻腔内(同105)、口腔内(同106)、生検材料(肺)(同107)、その他(呼吸器)(同109)、胸水(同404)

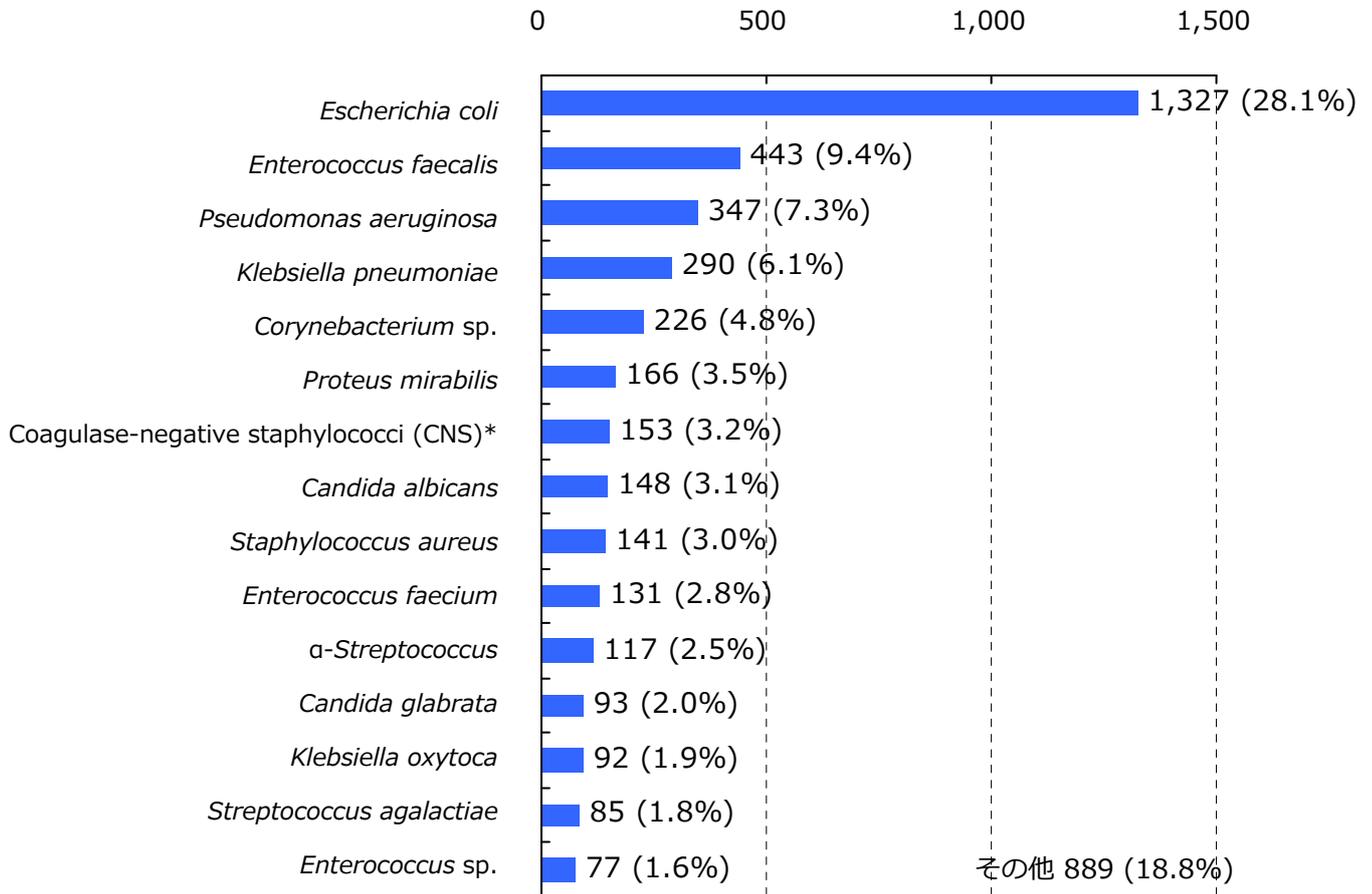
呼吸器系検体分離菌数割合 = (対象菌の呼吸器系検体分離菌数) ÷ (呼吸器系検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 尿検体分離菌 (N=4,725)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院検体のうち、起因菌・汚染菌にかかわらず報告されたすべての菌を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

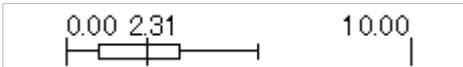
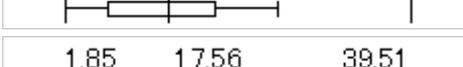
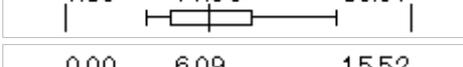
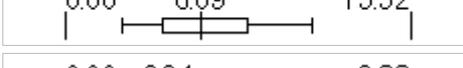
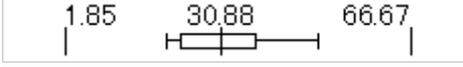
集計対象検査材料：自然排尿(検査材料コード201)、採尿カテーテル尿(同202)、留置カテーテル尿(同203)、カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能)(同206)

尿検体分離菌数割合 = (対象菌の尿検体分離菌数) ÷ (尿検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

## 4. 主要菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                           | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布   |
|---------------------------|------------------------|---|
| 検体提出患者数(100床あたり)          | 14,633人<br>(104.0)※    |   |
| <i>S. aureus</i>          | 1,929人<br>(13.18%)     | 7.18 14.15 45.68<br>   |
| <i>S. epidermidis</i>     | 422人<br>(2.88%)        | 0.00 2.31 10.00<br>    |
| <i>S. pneumoniae</i>      | 161人<br>(1.10%)        | 0.00 0.76 6.90<br>     |
| <i>E. faecalis</i>        | 661人<br>(4.52%)        | 0.00 3.77 19.75<br>    |
| <i>E. faecium</i>         | 264人<br>(1.80%)        | 0.00 1.73 5.81<br>     |
| <i>E. coli</i>            | 2,241人<br>(15.31%)     | 1.85 17.56 39.51<br>  |
| <i>K. pneumoniae</i>      | 799人<br>(5.46%)        | 0.00 6.09 15.52<br>  |
| <i>Enterobacter spp.</i>  | 467人<br>(3.19%)        | 0.00 2.94 9.88<br>   |
| <i>Enterobacteriaceae</i> | 3,947人<br>(26.97%)     | 1.85 30.88 66.67<br> |
| <i>P. aeruginosa</i>      | 907人<br>(6.20%)        | 0.00 6.00 37.50<br>  |
| <i>Acinetobacter spp.</i> | 63人<br>(0.43%)         | 0.00 0.00 4.94<br>   |

入院として報告された検体を集計

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

※ 病床数が登録されている医療機関のみが対象

## 5. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                        | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布  |
|------------------------|------------------------|--------------------------|
| 検体提出患者数(100床あたり)       | 14,633人<br>(104.0)※    |                          |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)   | 1,054人<br>(7.20%)      | 0.00 7.69 37.04<br>  H□— |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>                 |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)      | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>                 |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)      | 59人<br>(0.40%)         | 0.00 0.00 3.45<br> —     |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP)          | 1人<br>(0.01%)          | 0.00 0.00 0.15<br> —     |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)    | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>                 |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)   | 30人<br>(0.21%)         | 0.00 0.00 2.78<br> —     |
| カルバペネム耐性緑膿菌            | 82人<br>(0.56%)         | 0.00 0.23 5.36<br>  H□—  |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌     | 22人<br>(0.15%)         | 0.00 0.00 1.64<br> —     |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌      | 409人<br>(2.80%)        | 0.00 2.77 22.22<br>  H□— |
| フルオロキノロン耐性大腸菌          | 693人<br>(4.74%)        | 0.00 5.78 30.86<br>  H□— |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

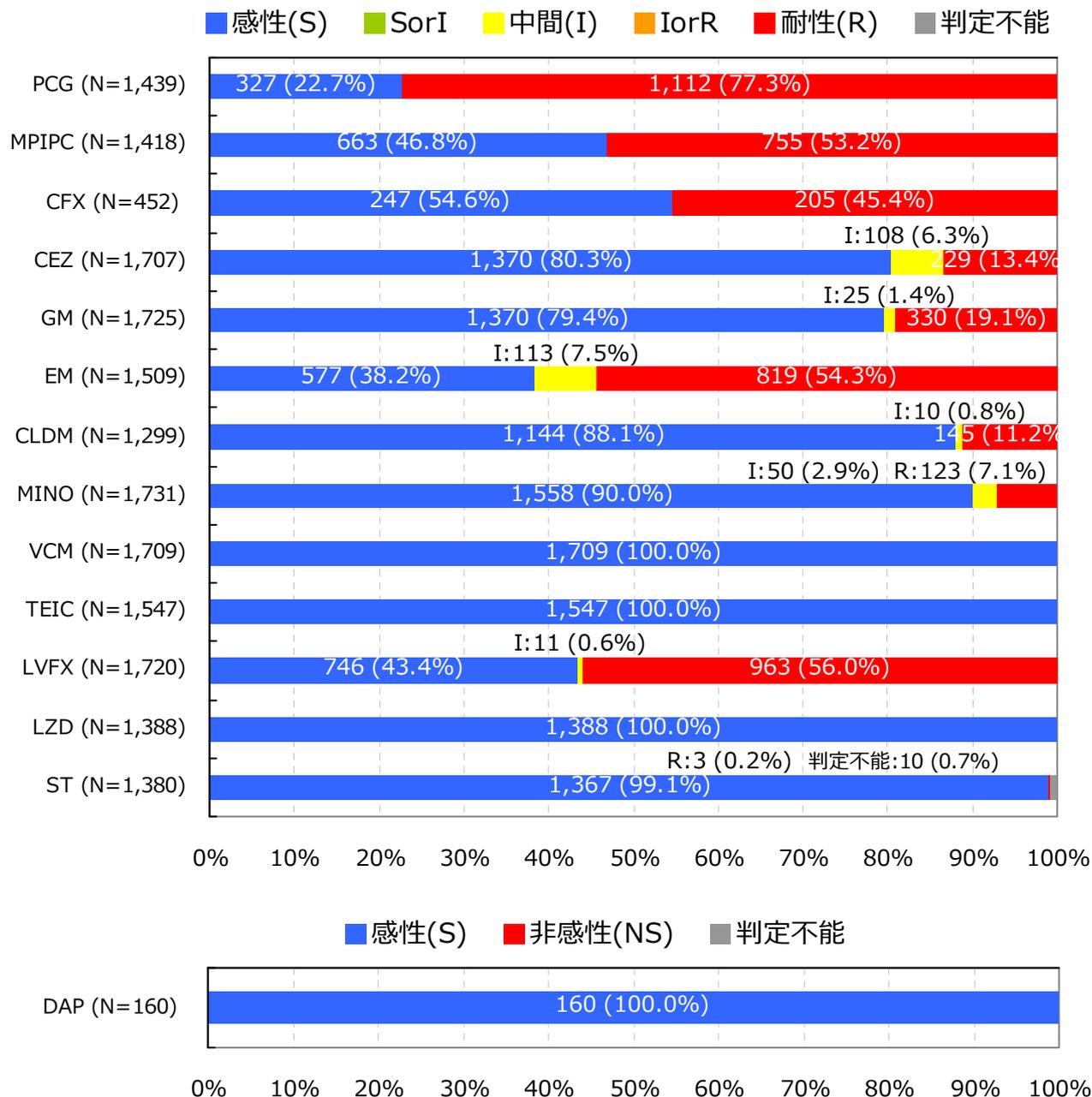
= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

※ 病床数が登録されている医療機関のみが対象

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Staphylococcus aureus (ALL) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

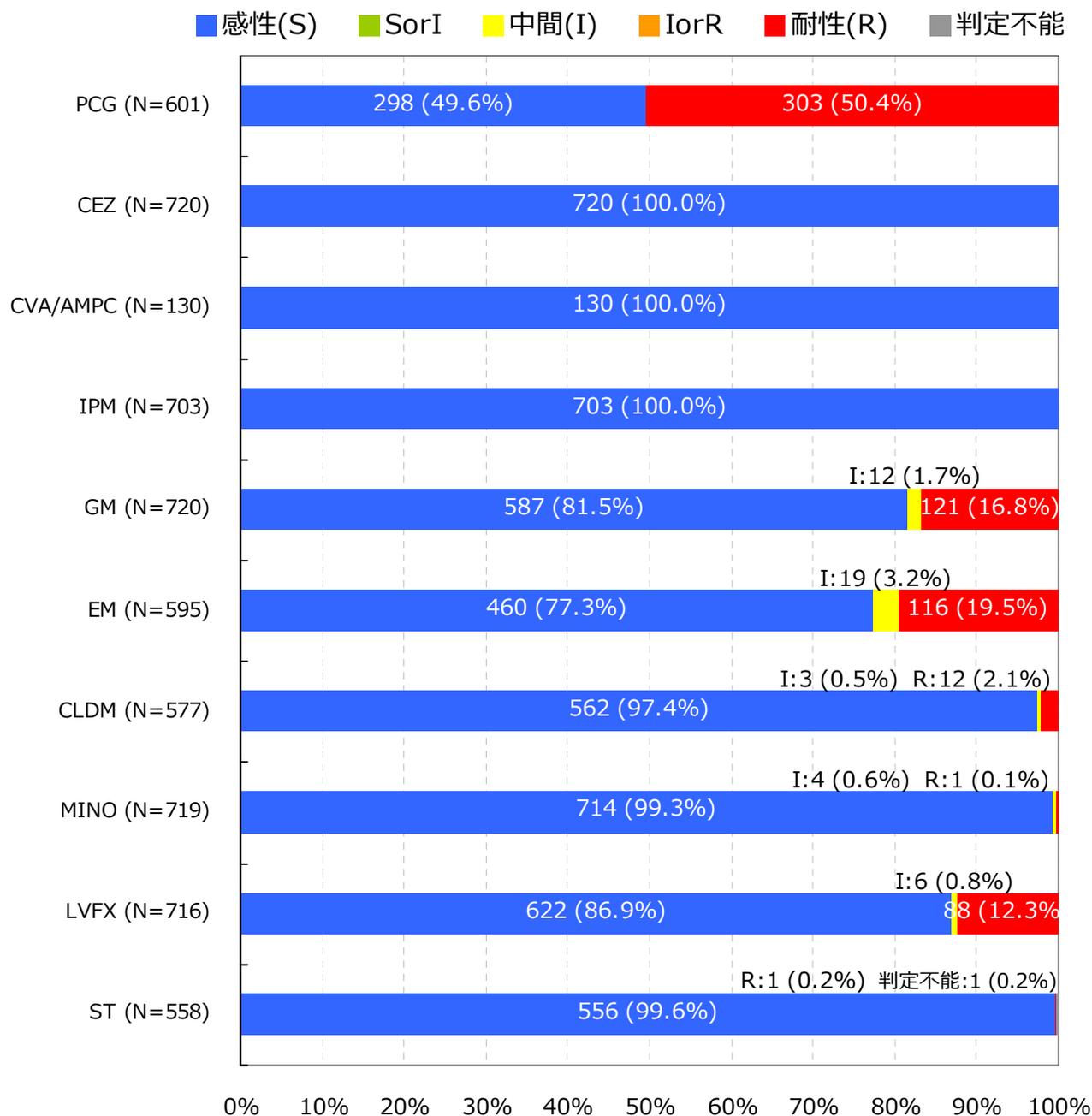
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1301, 1303～1306と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

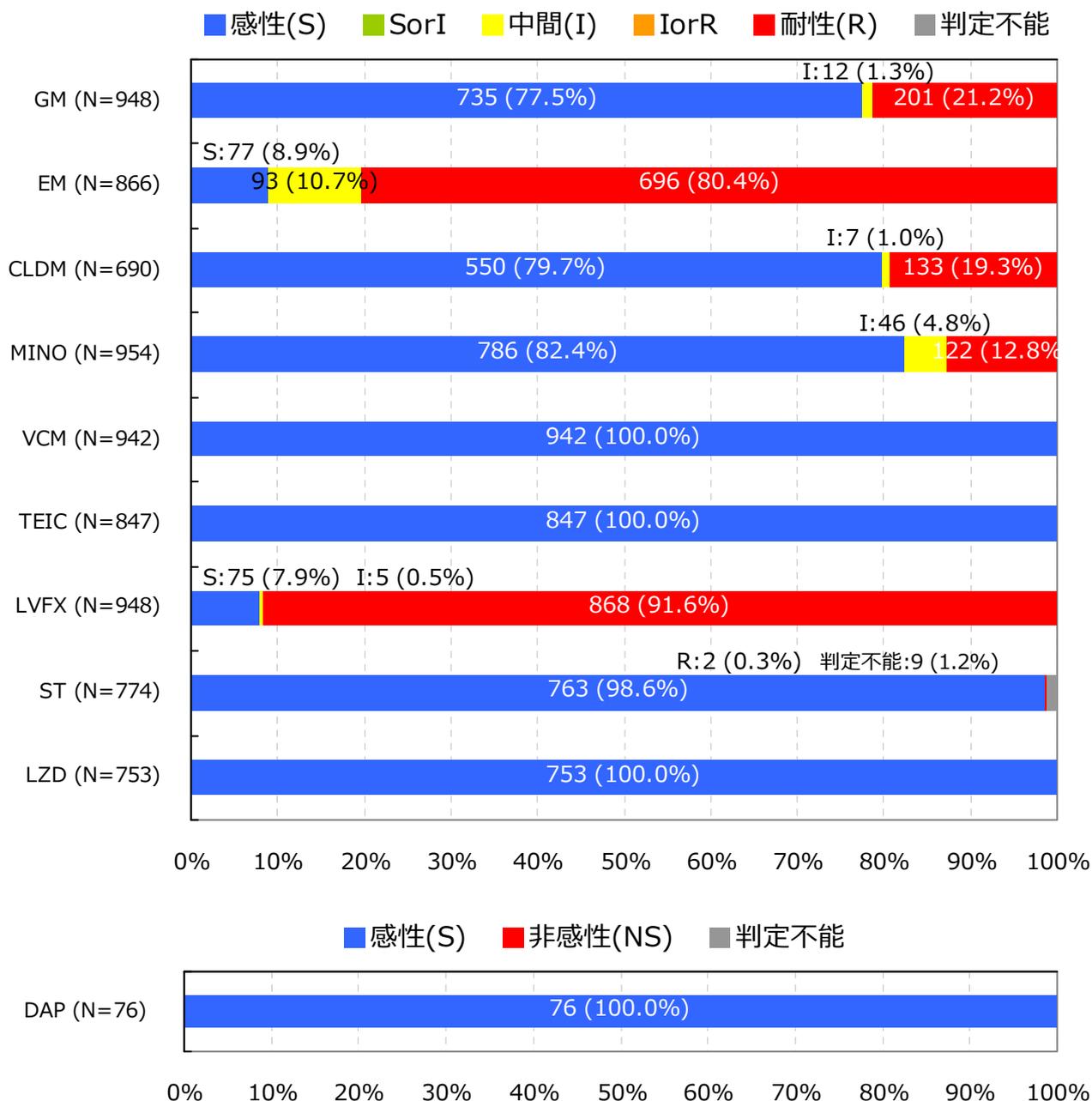
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1304, 1305, 1306と報告された菌、または菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208 (オキサリリン) および抗菌薬コード：1606 (セフォキシチン) の感受性結果「S」の菌 (一方が「S」で他方が未測定の場合を含む)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

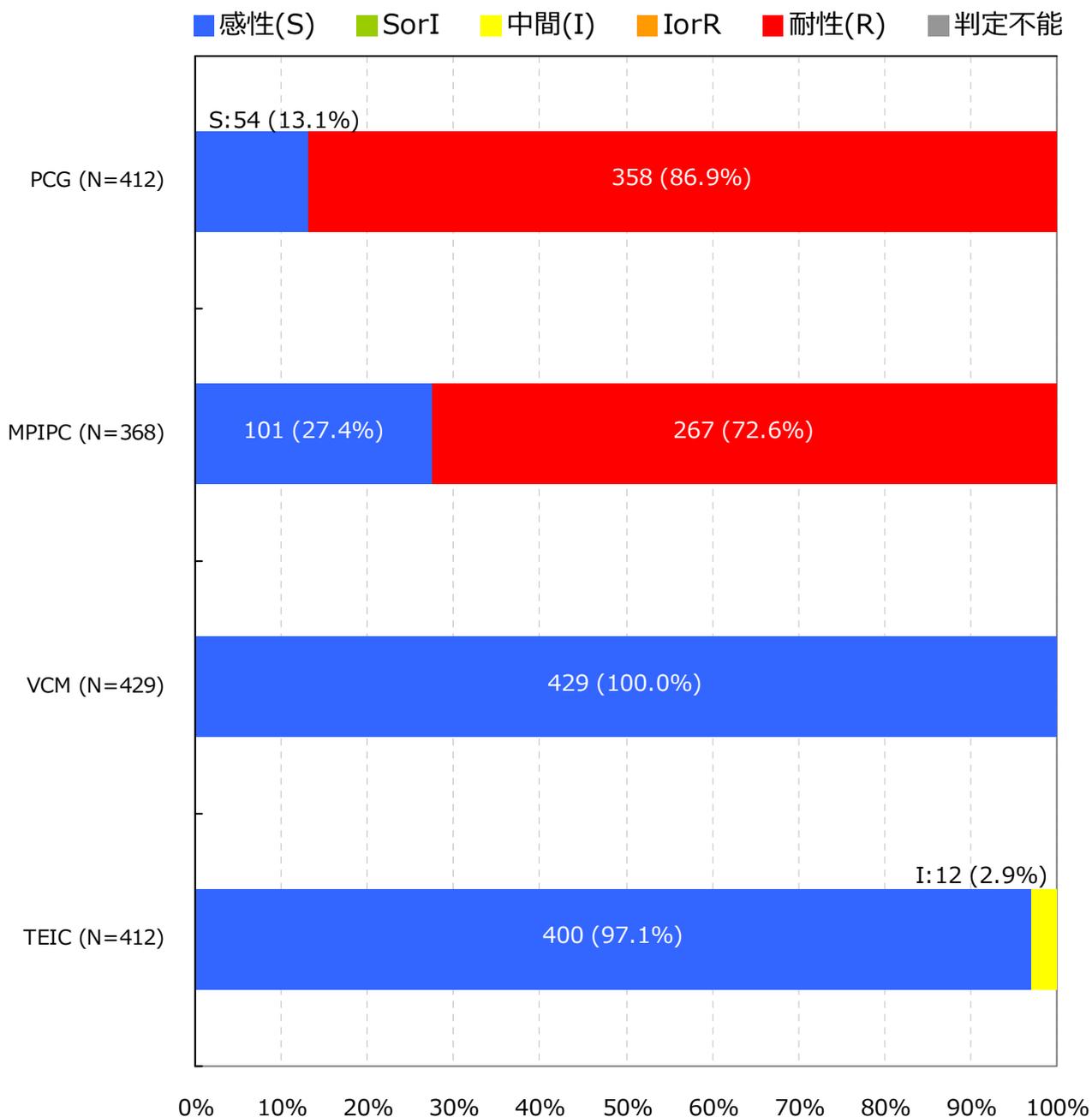
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1303と報告された菌、または菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208（オキサシリン）または抗菌薬コード：1606（セフォキシチン）の感受性結果「R」の菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

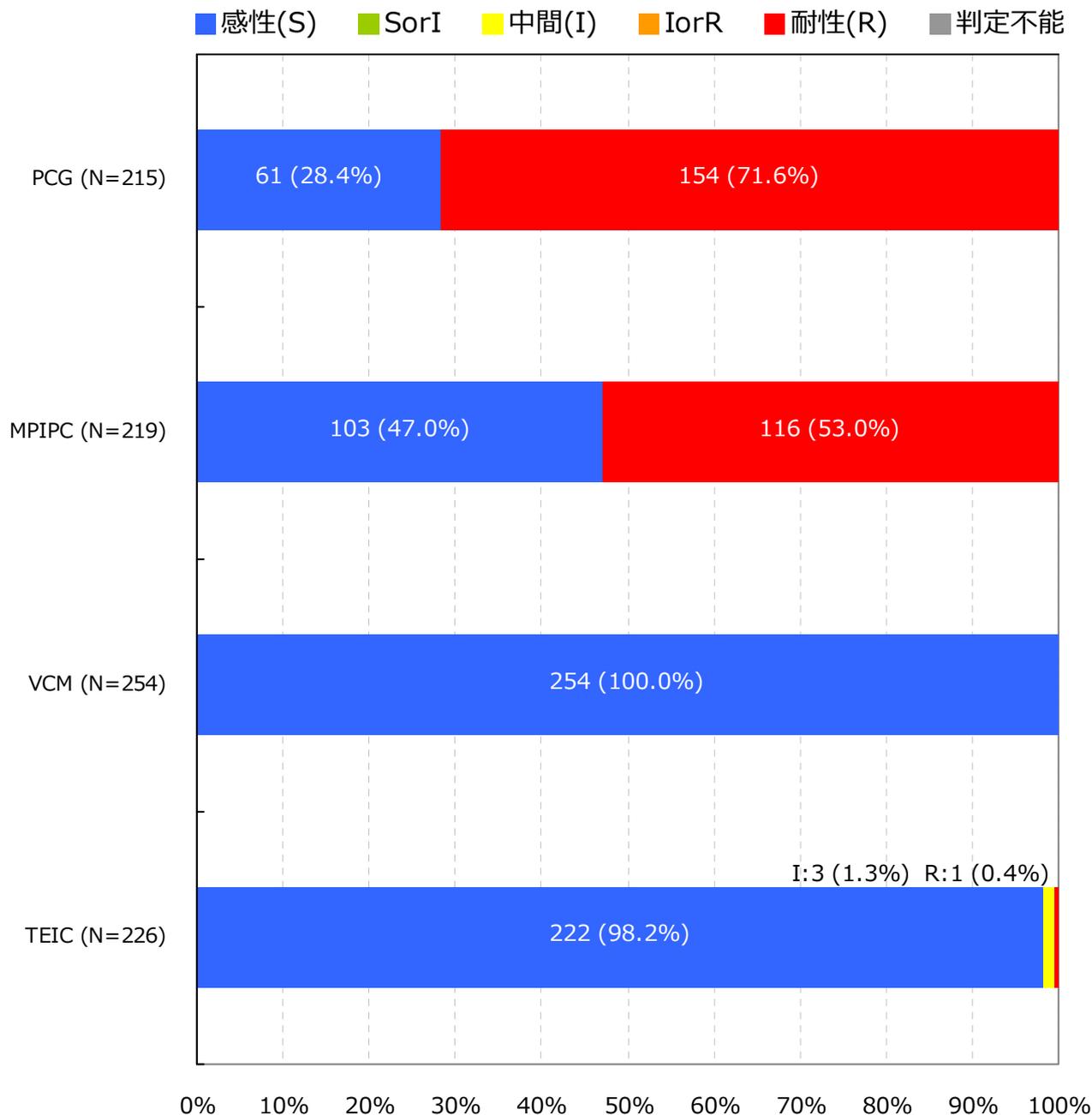
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

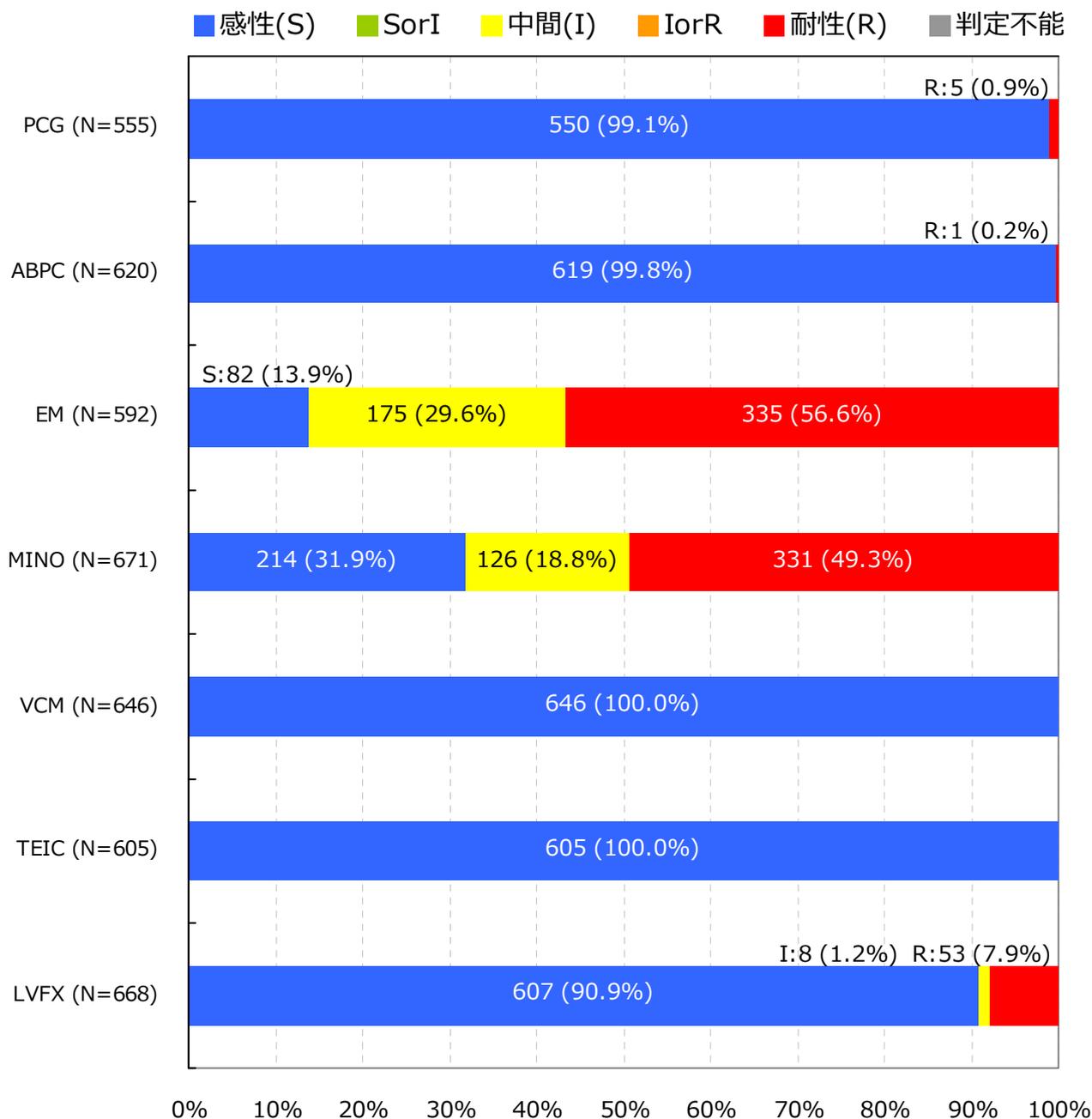
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

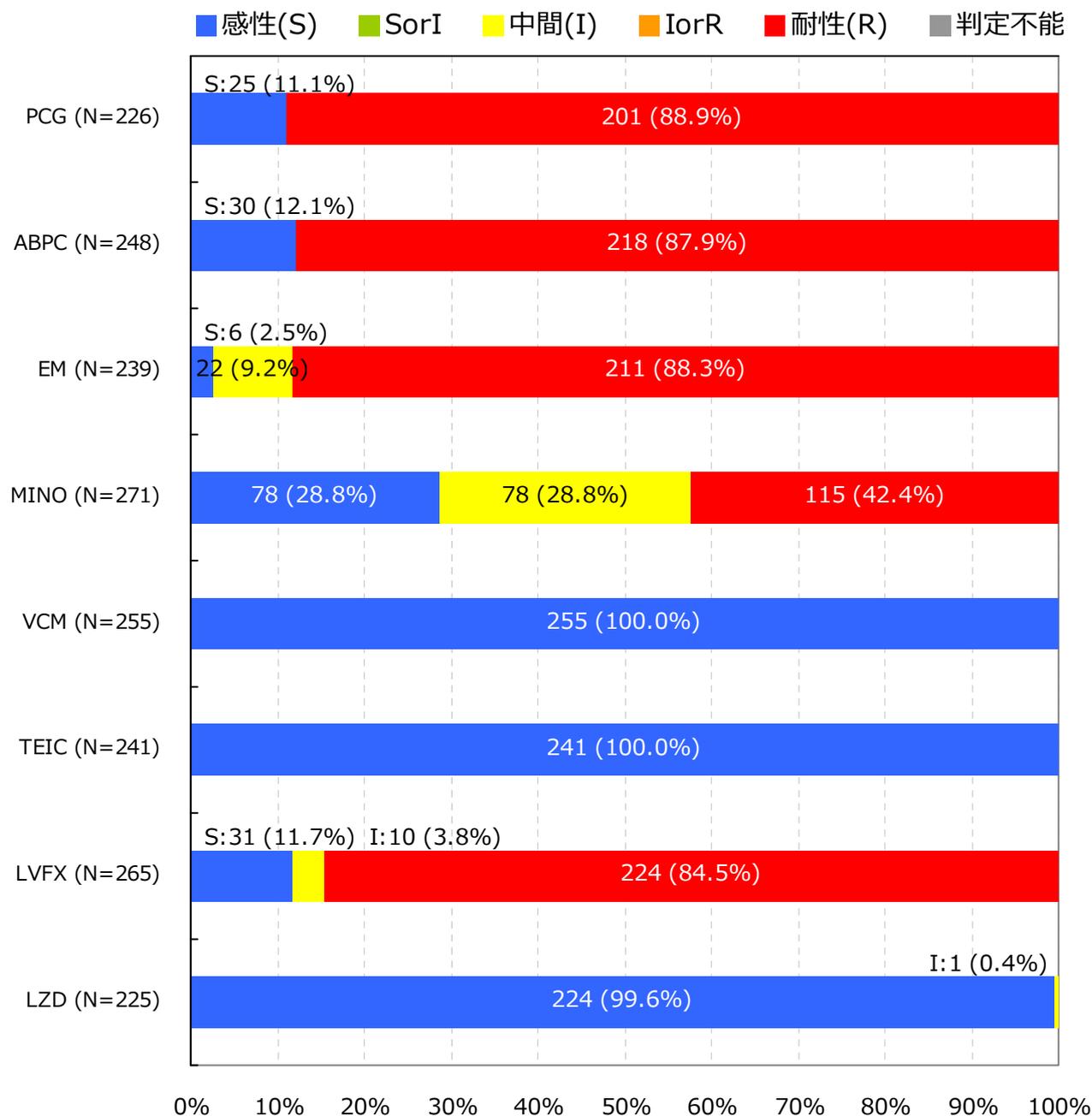
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1205, 1206と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

(長野県)

公開情報 2019年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門 【入院検体】

## 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †

報告はありませんでした

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

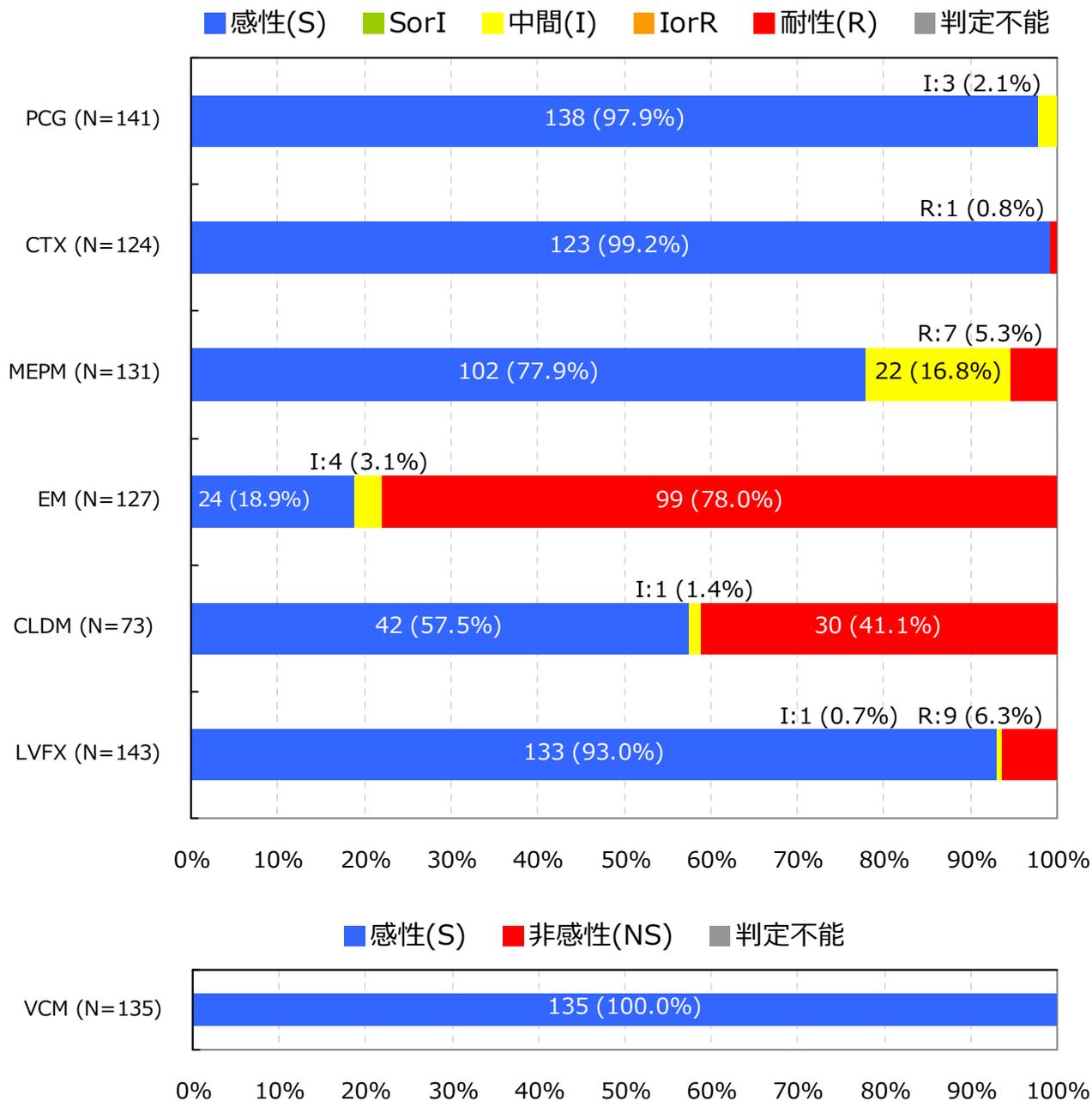
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1131と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

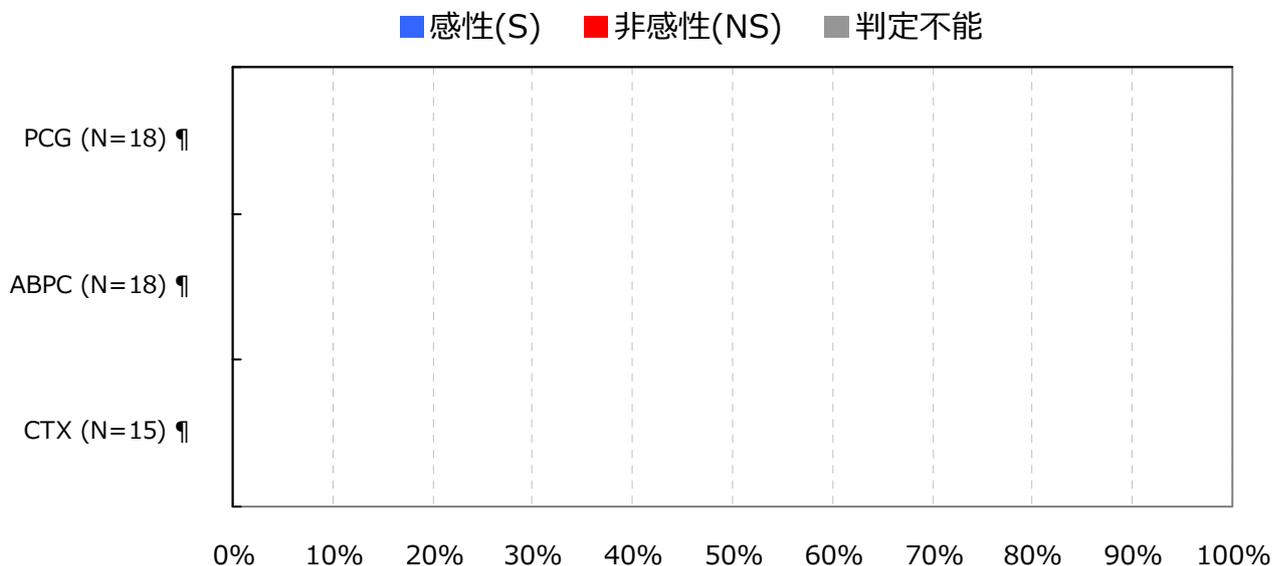
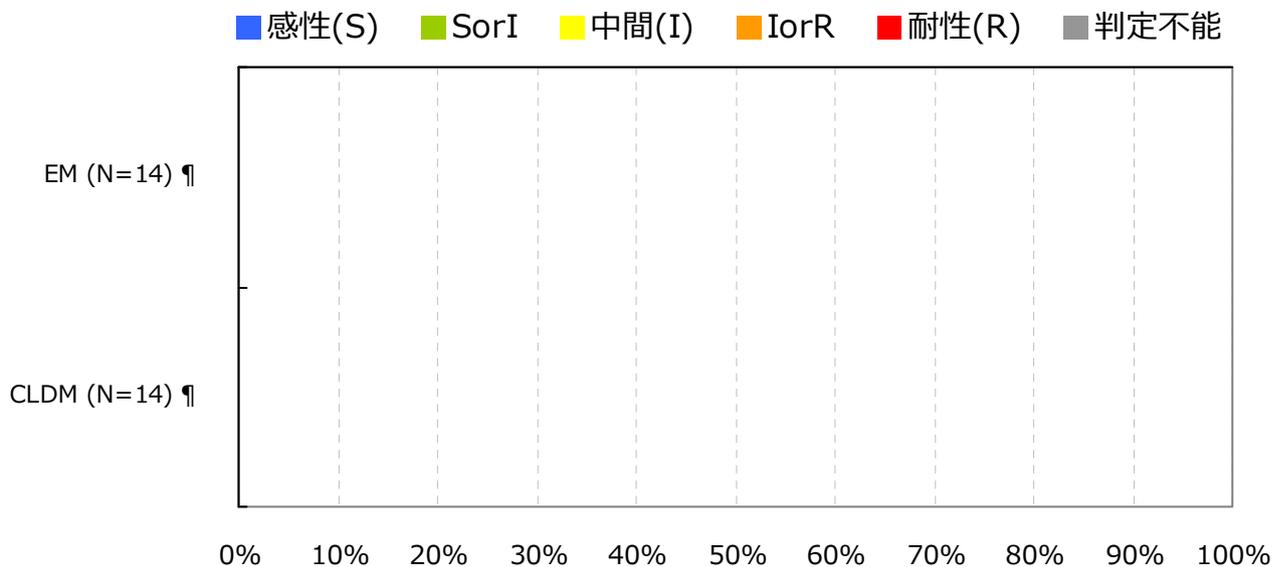
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

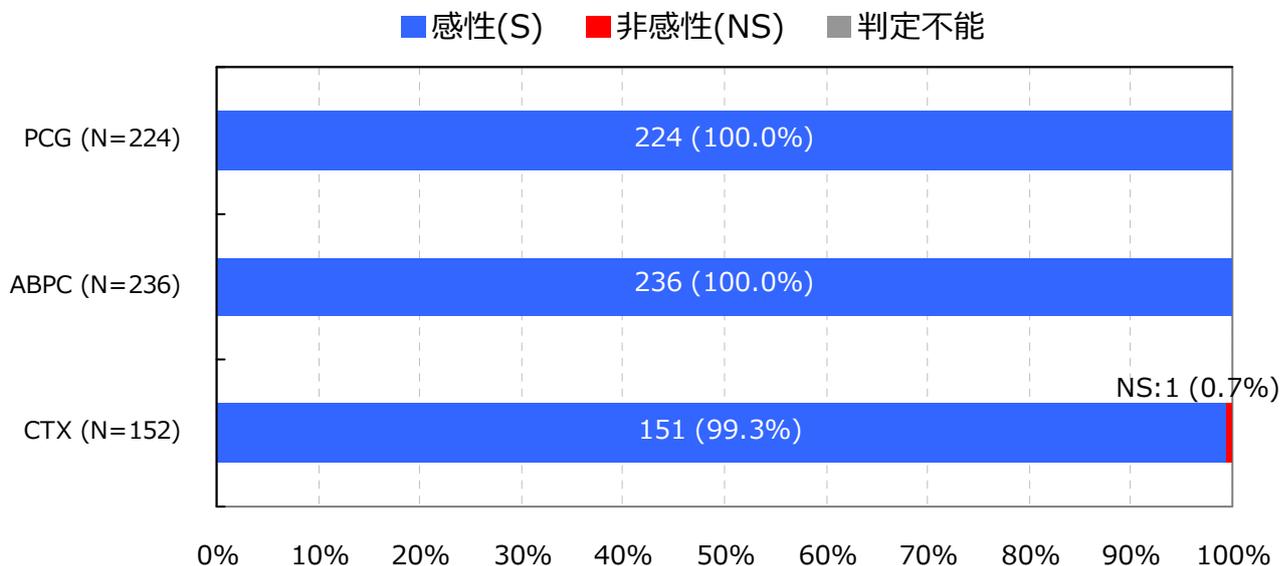
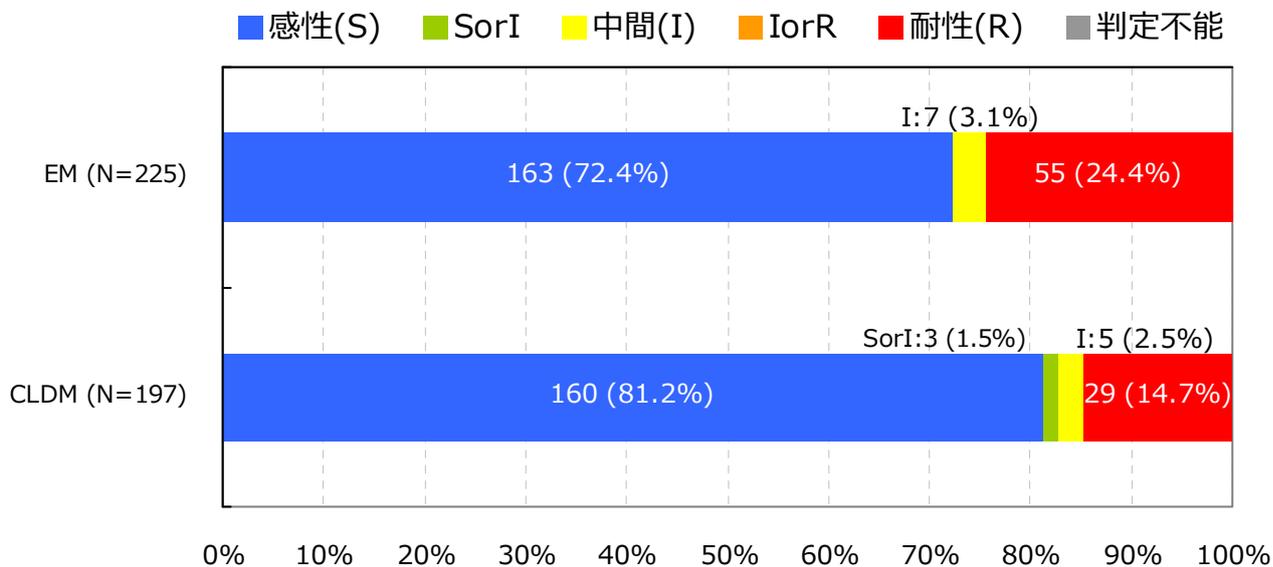
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌

¶ 集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

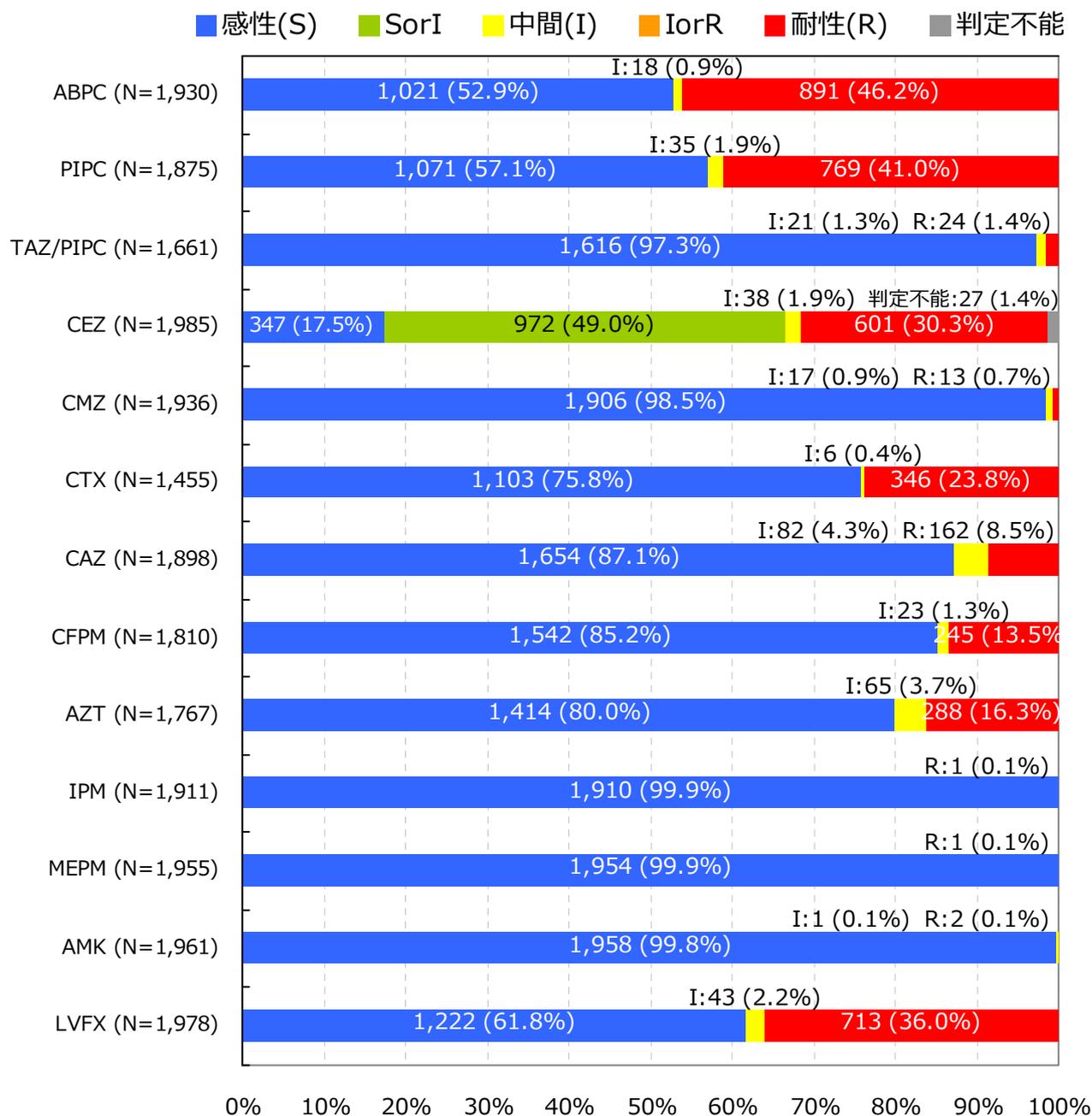
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1114と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

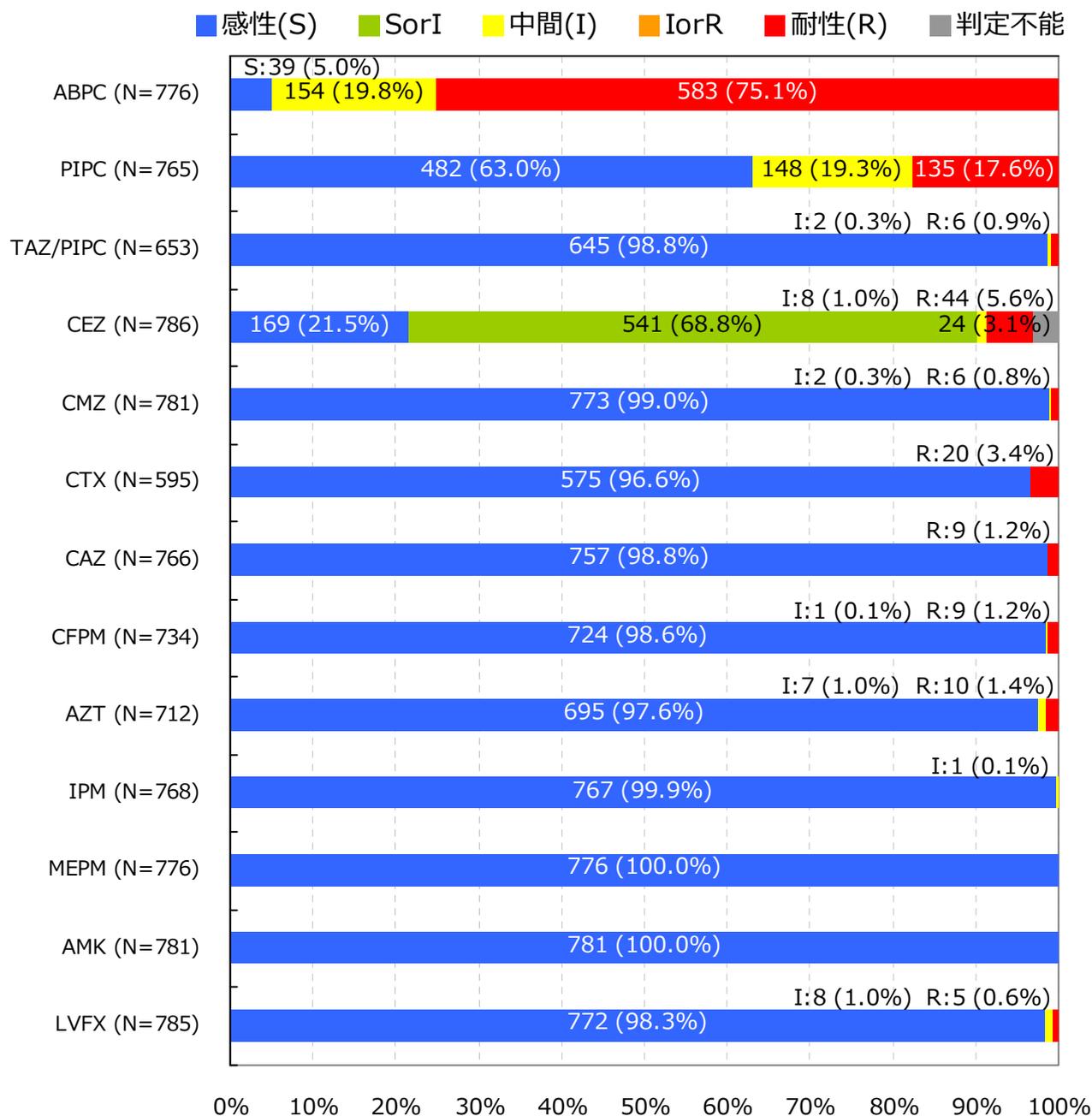
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

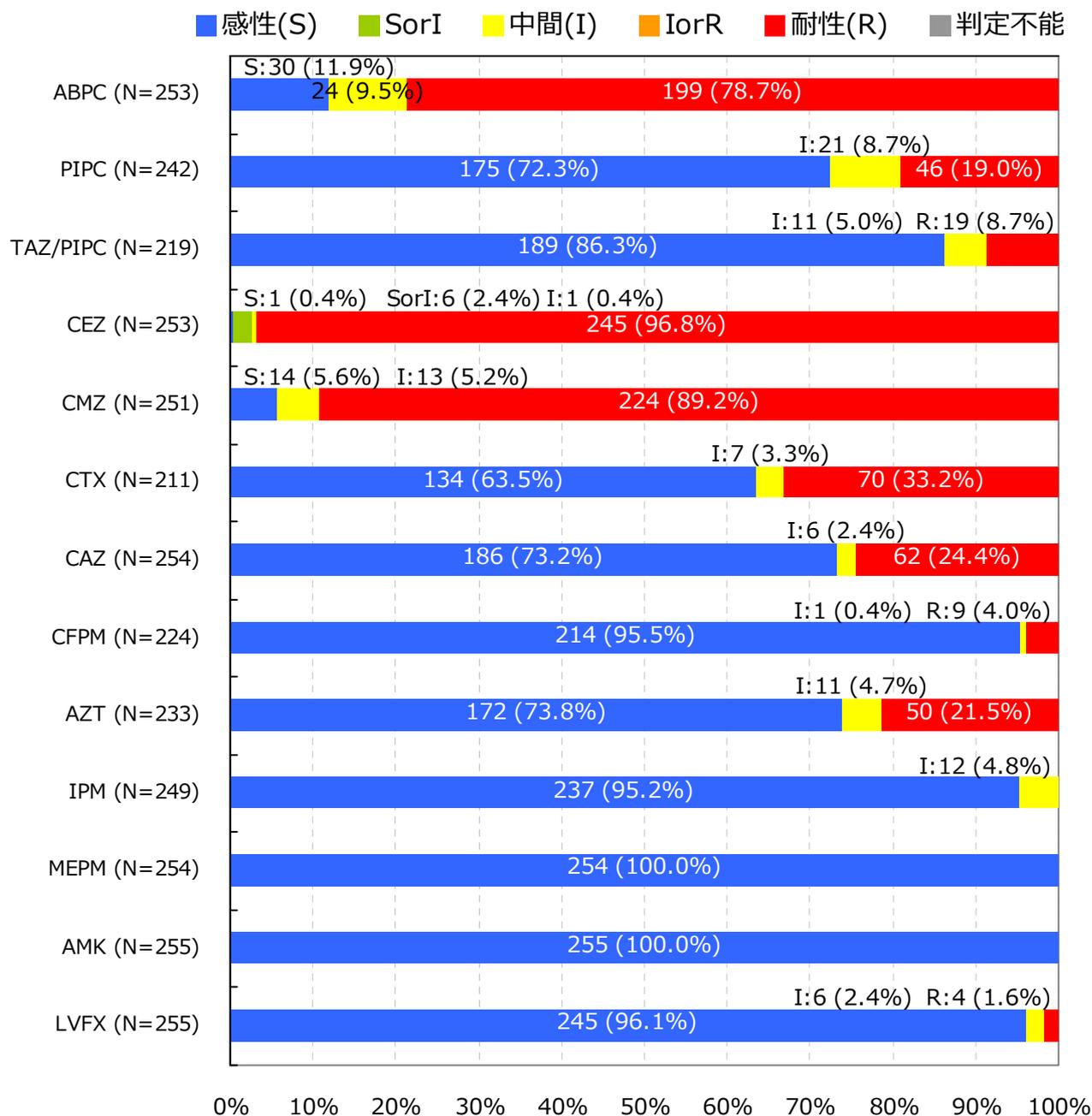
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2351と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

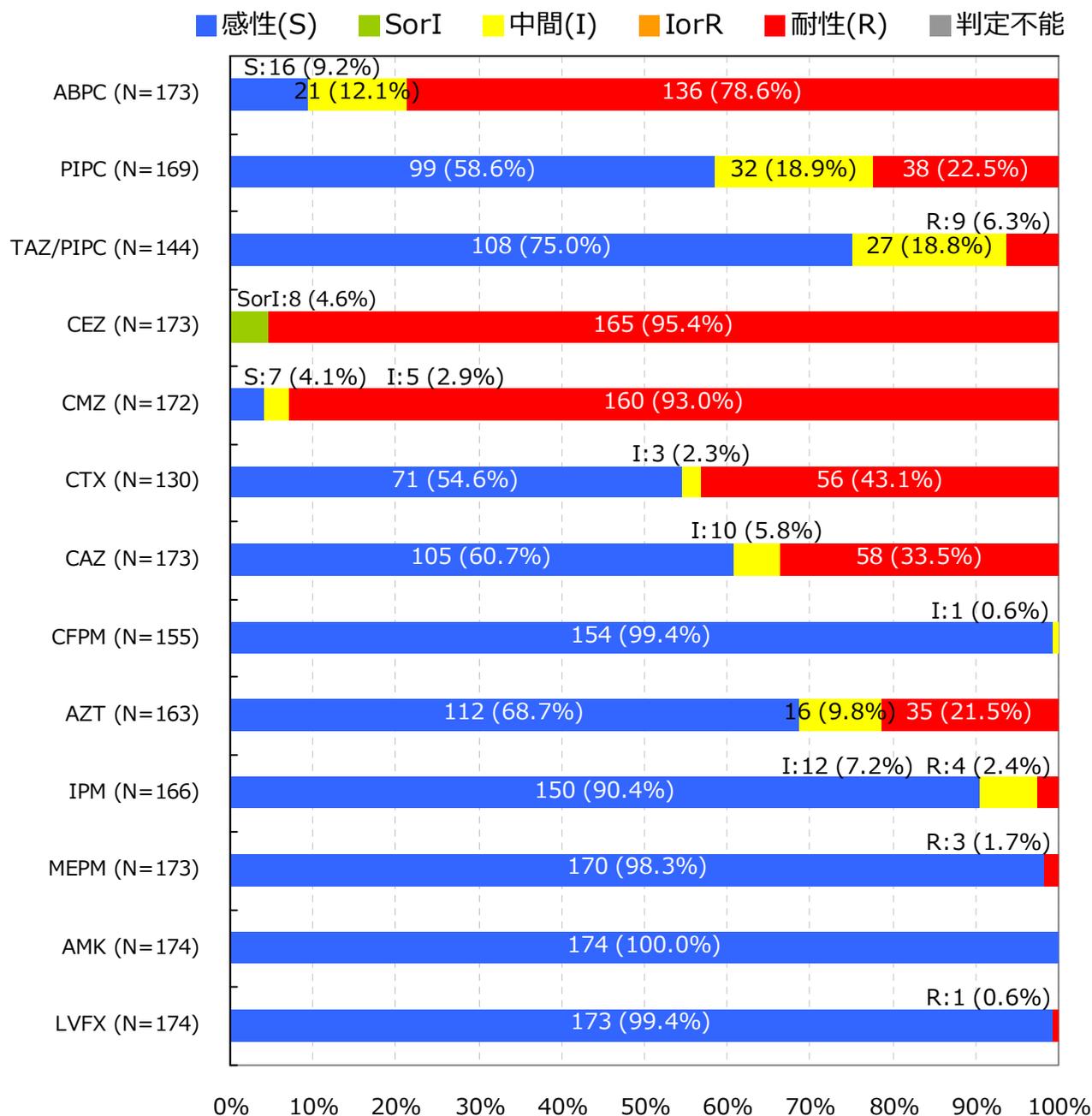
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2151と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

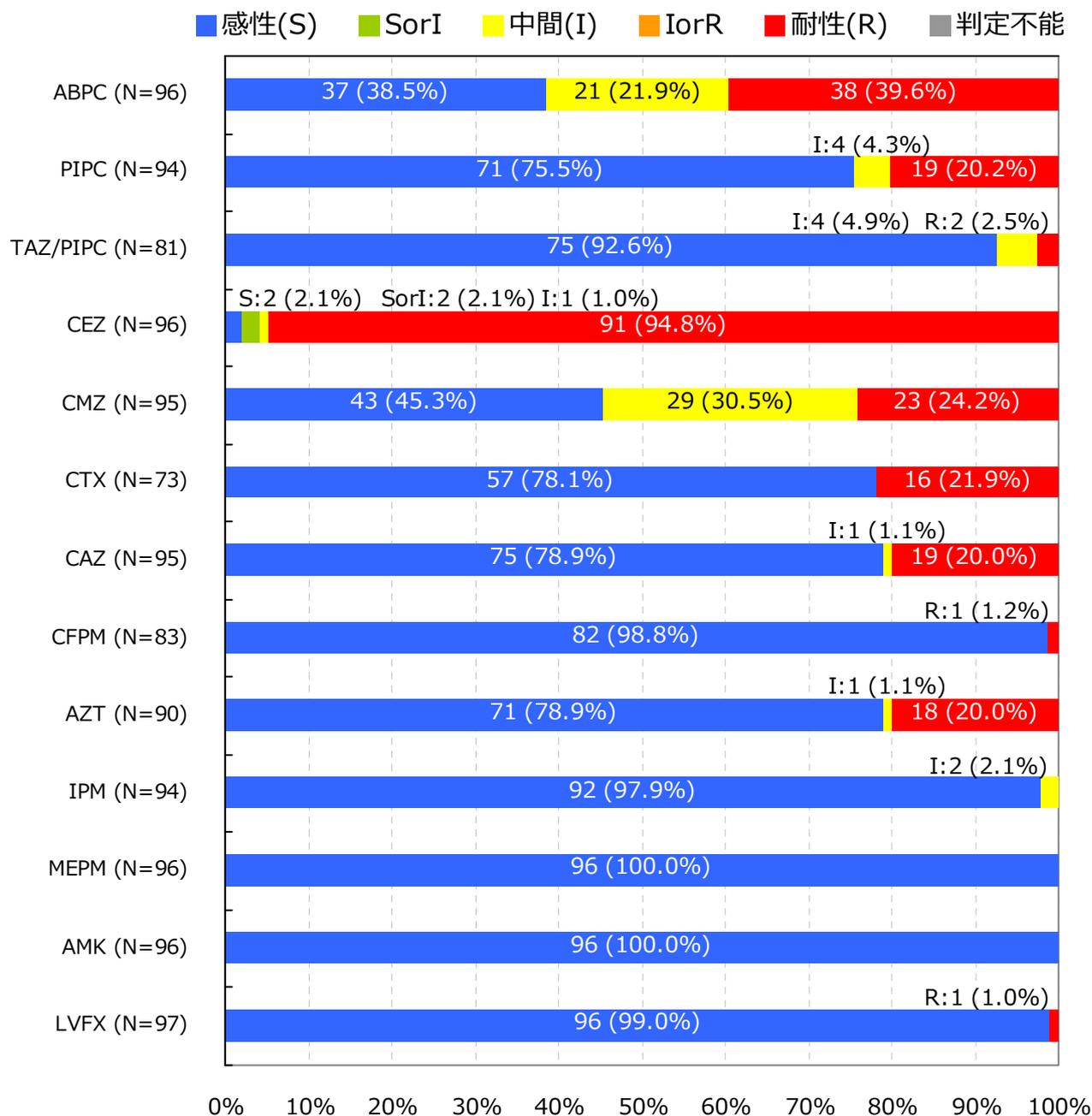
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2152と報告された菌 (旧名: *Enterobacter aerogenes*)

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

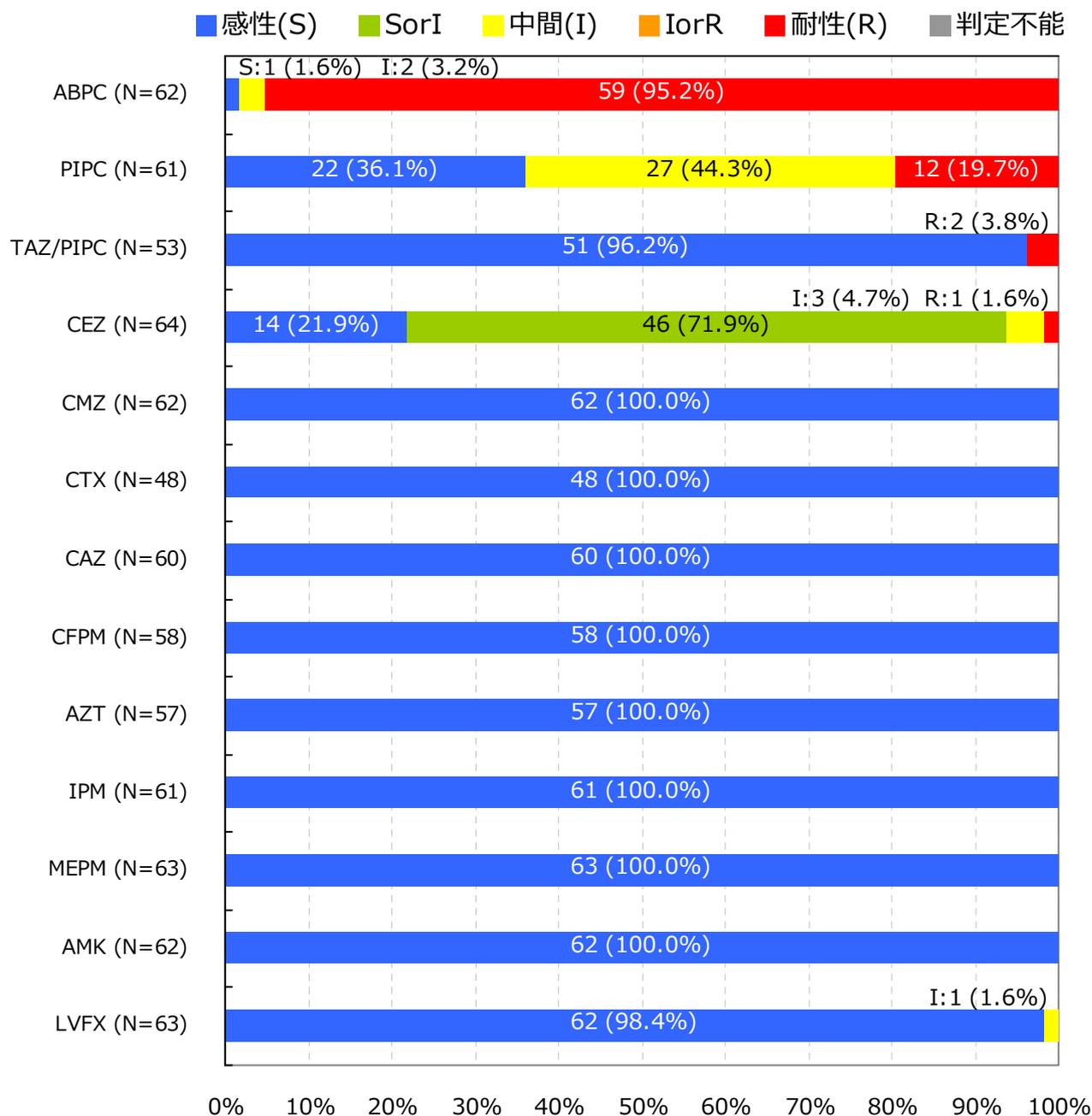
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

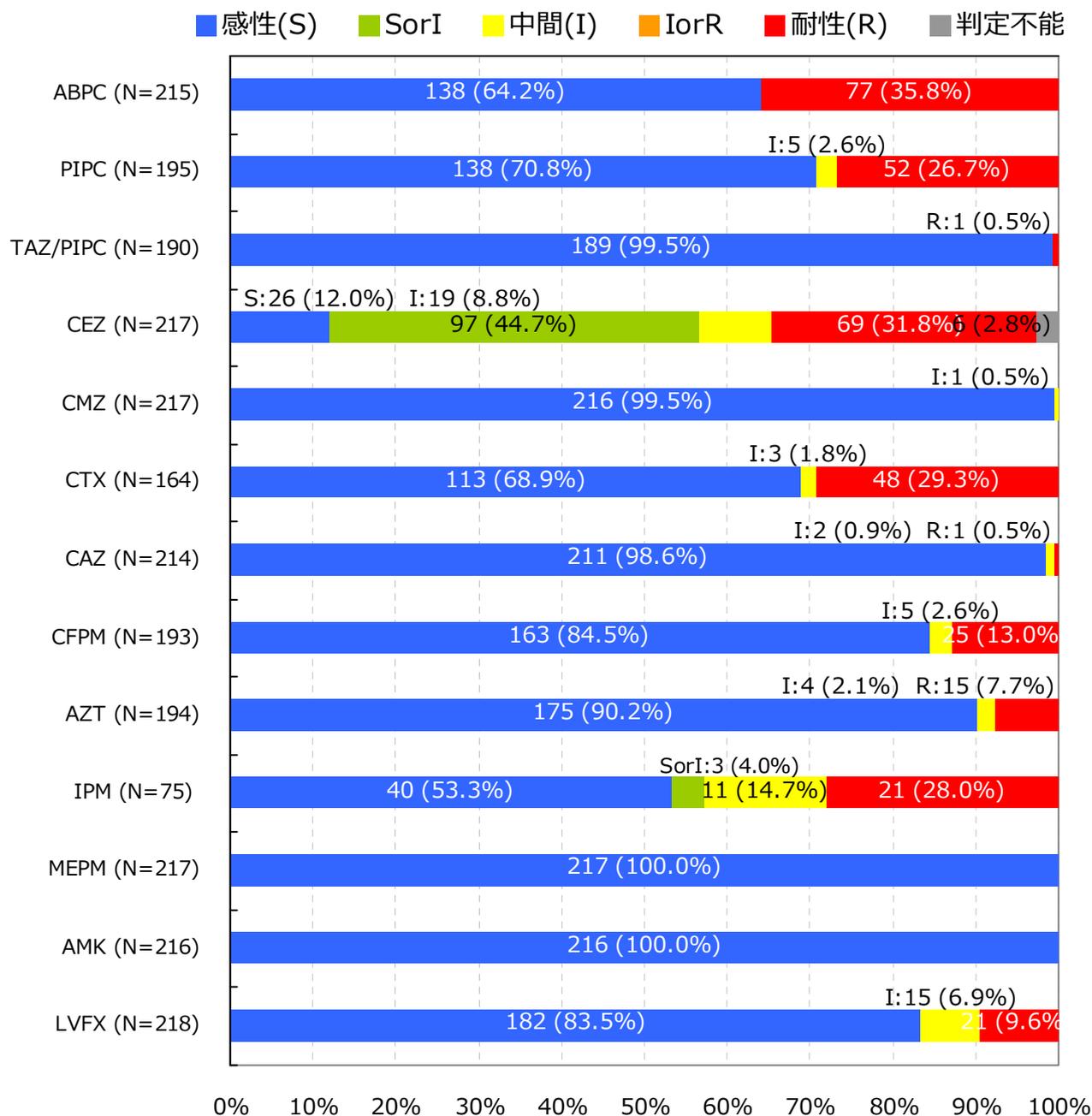
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

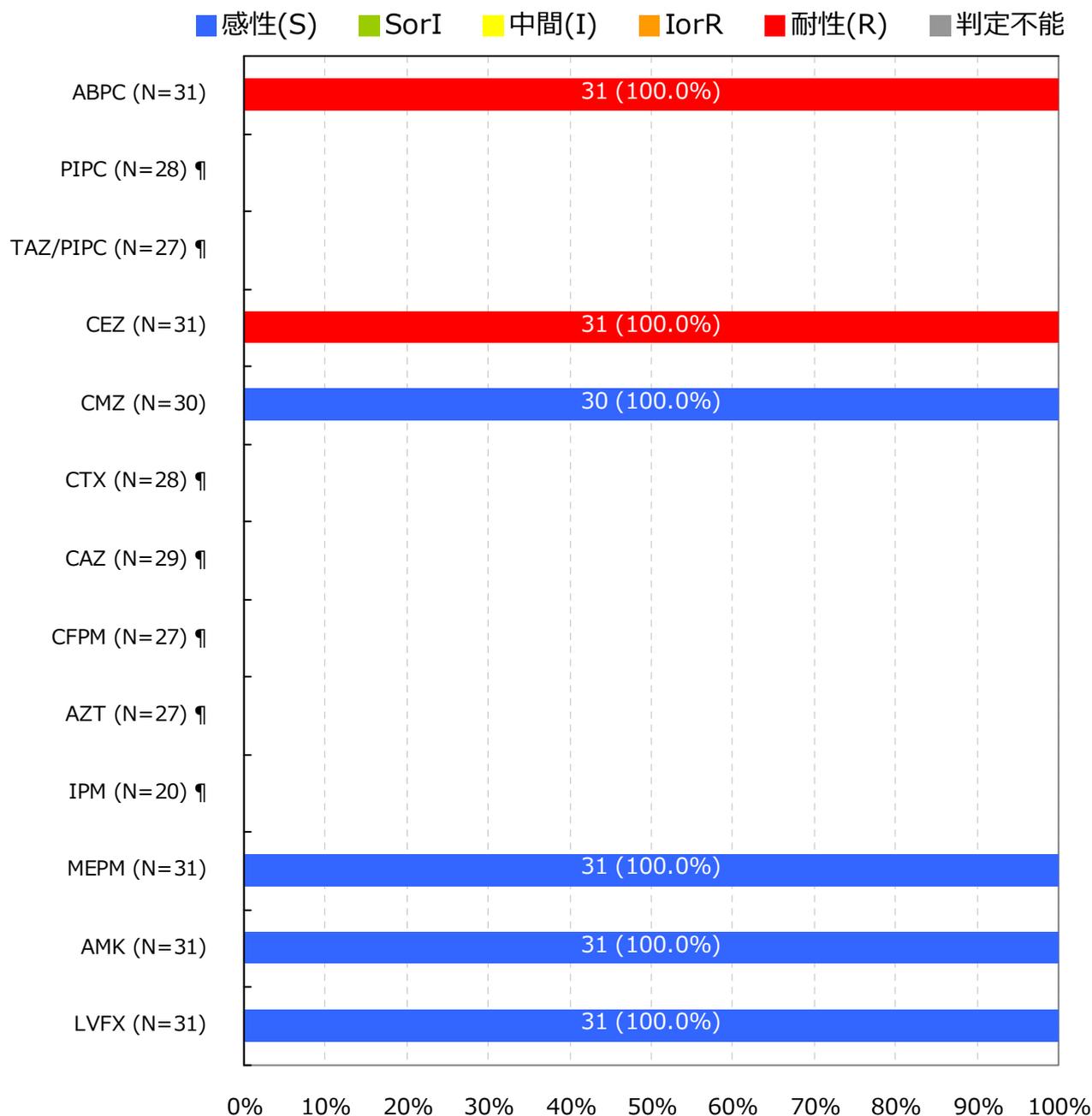
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

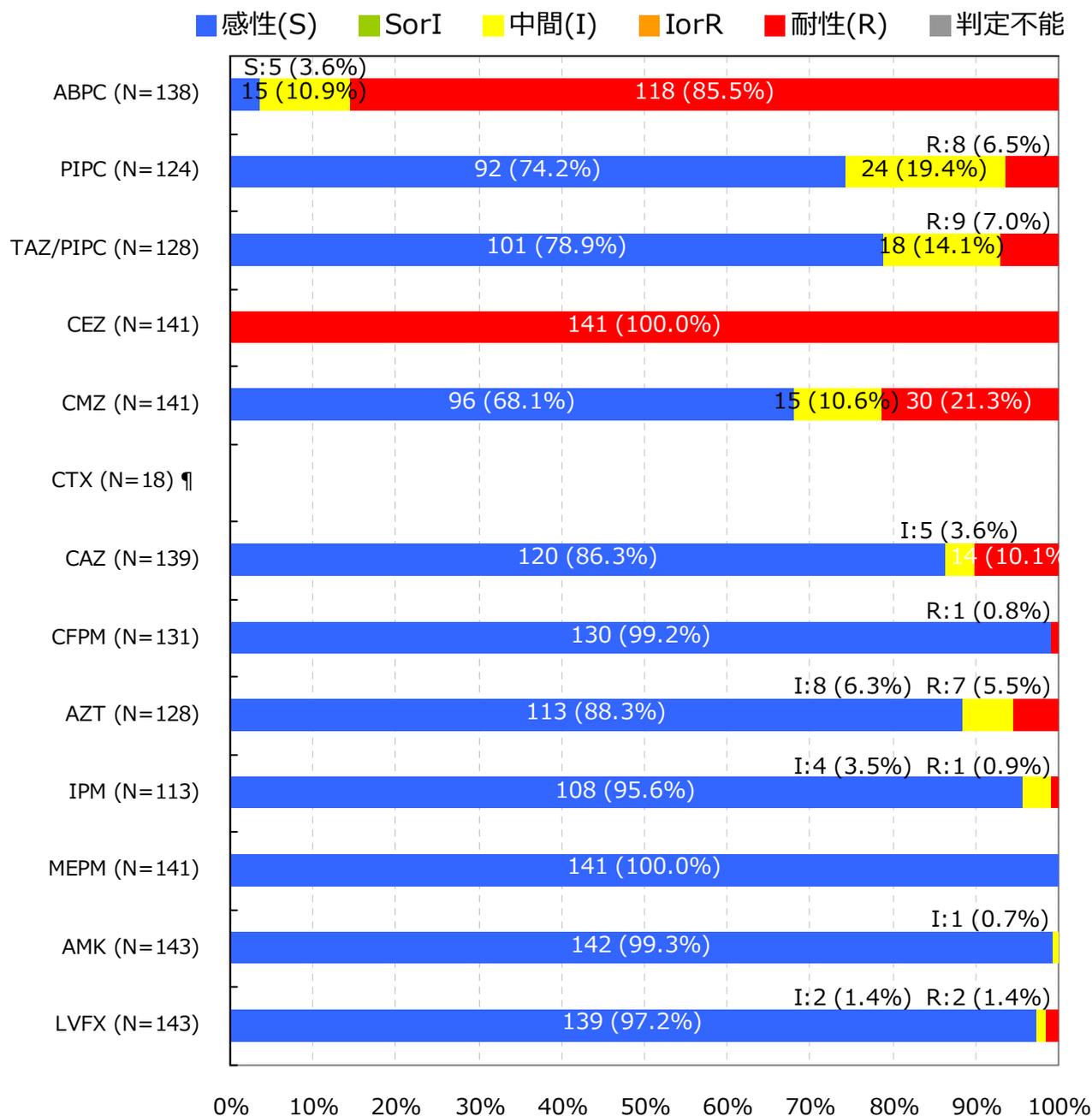
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

¶集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

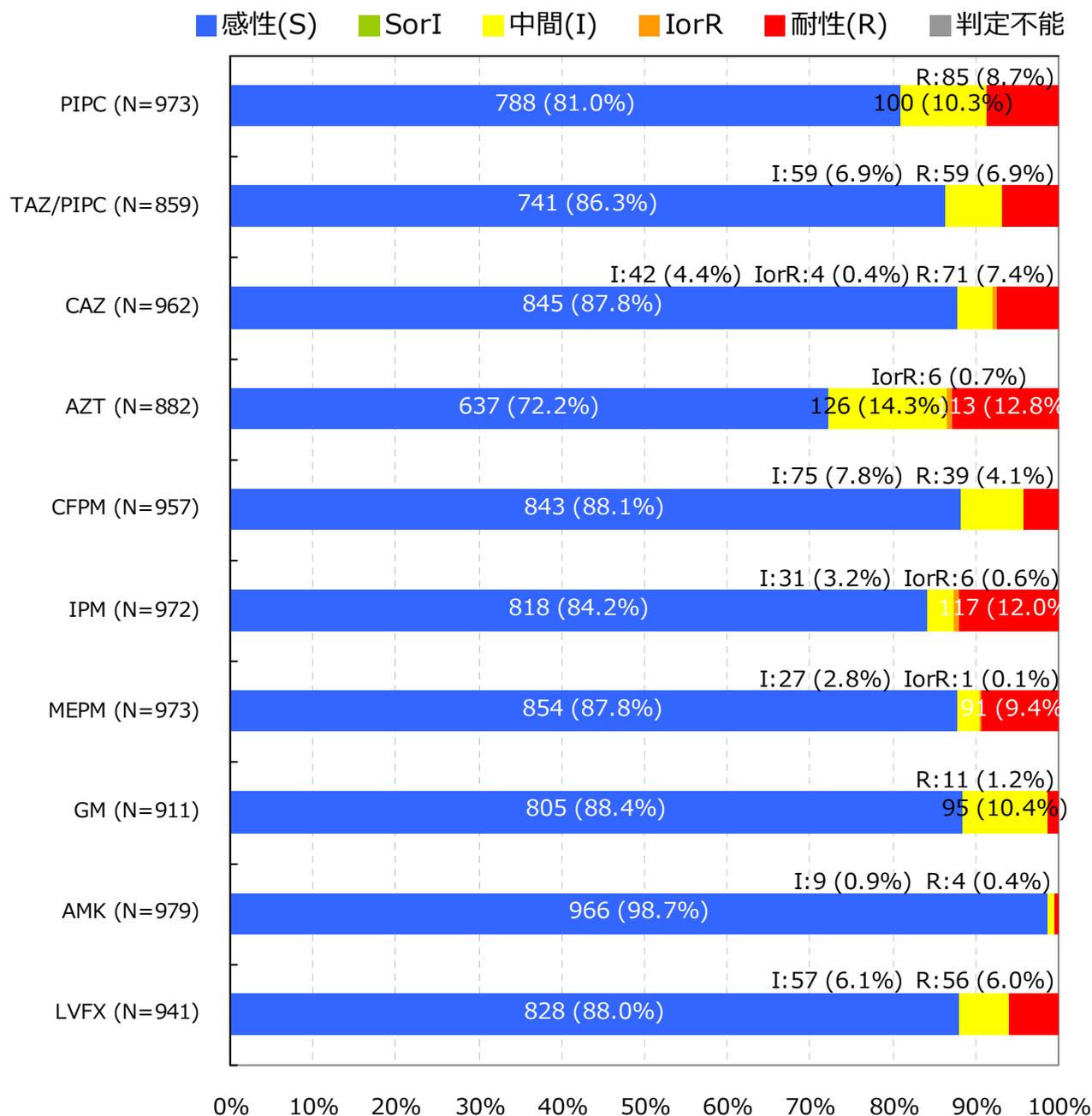
† 菌名コード：2101と報告された菌

‡ 集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない



### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

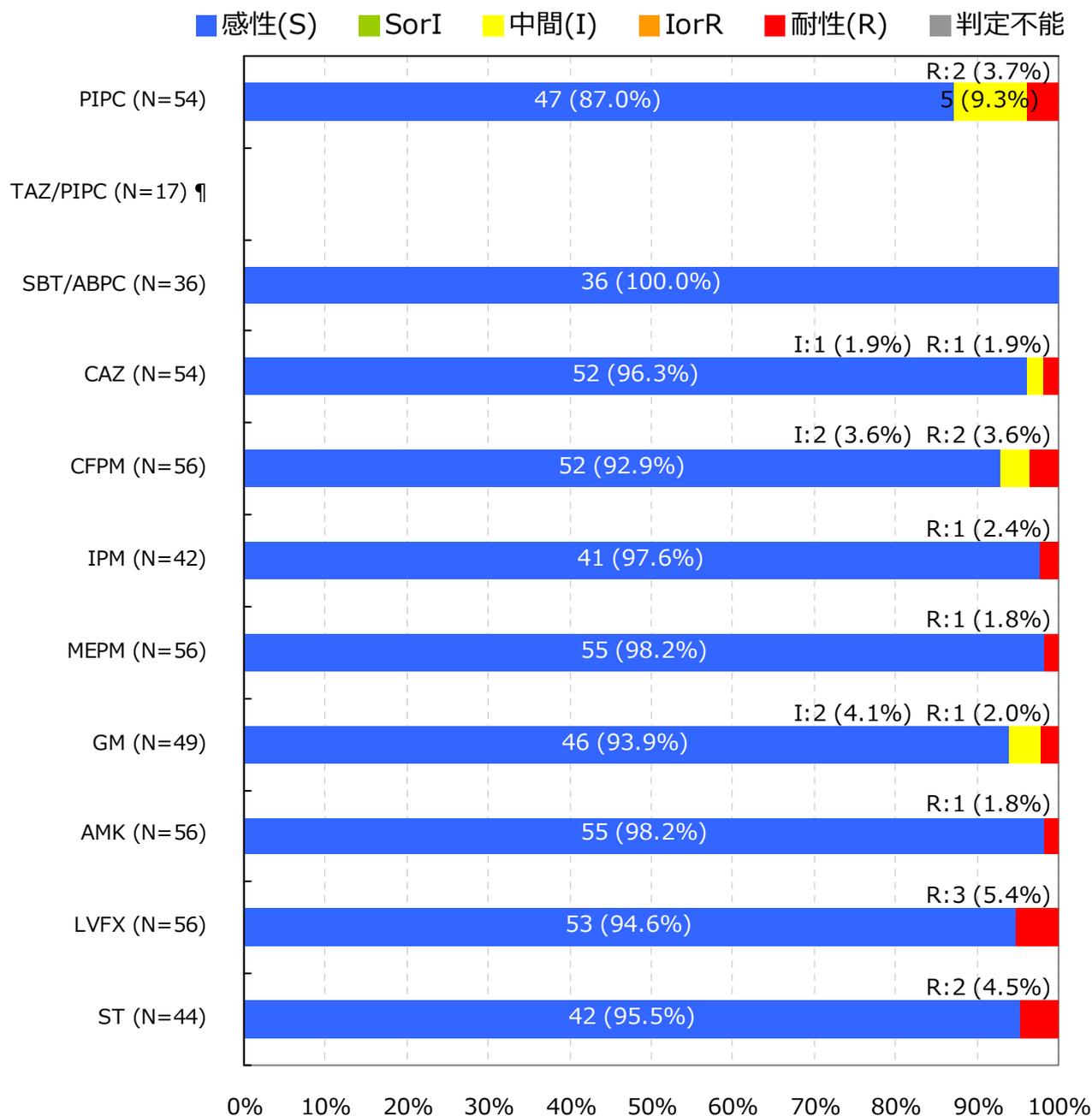
† 菌名コード：4001と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない



### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

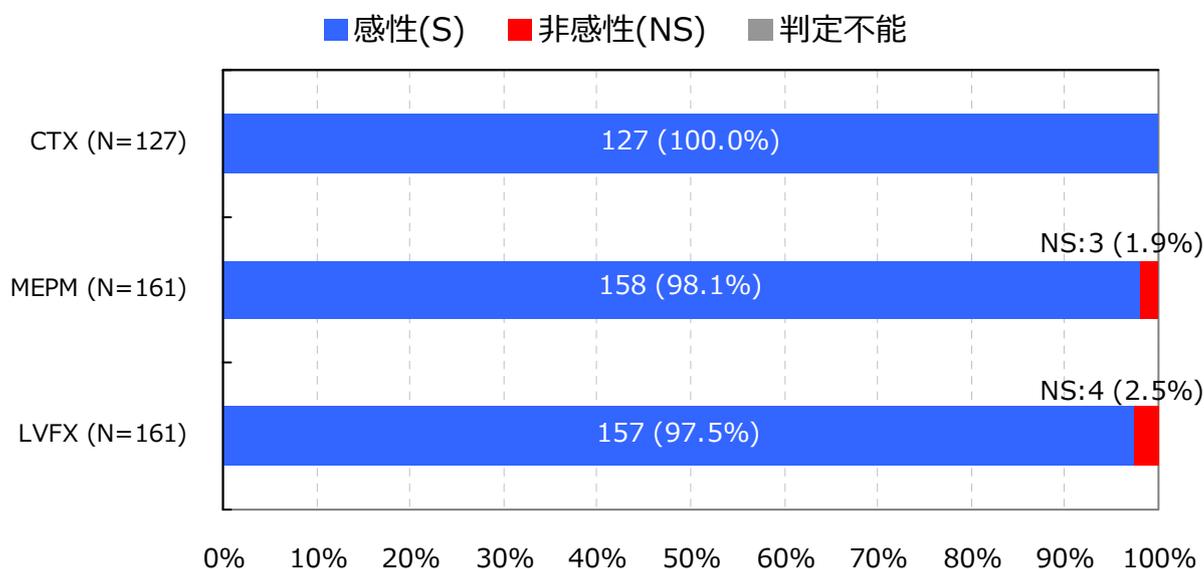
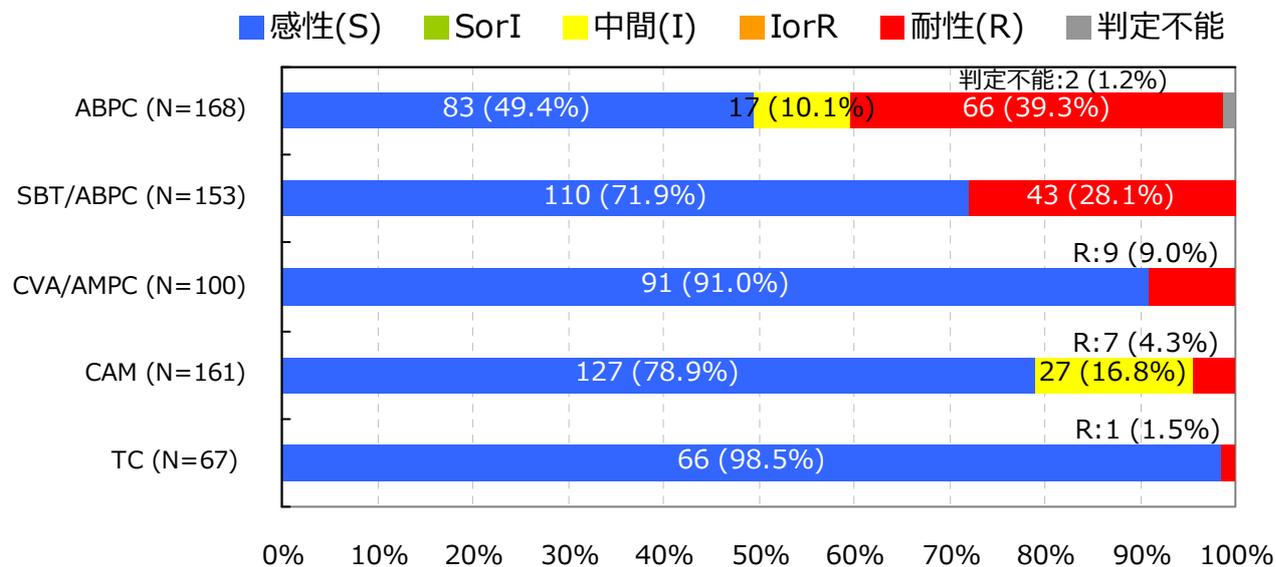
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4400～4403と報告された菌

‡ 集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

### 6. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

集計株数が30株未満の場合には、集計結果を公表しない

【巻末資料1 主要菌の菌名コード / 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

主要菌の菌名コード（薬剤感受性条件なし）

| 菌名                                | 菌名コード Ver.5.1       |
|-----------------------------------|---------------------|
| <i>Staphylococcus aureus</i>      | 1301,1303-1306      |
| <i>Staphylococcus epidermidis</i> | 1312                |
| <i>Streptococcus pneumoniae</i>   | 1131                |
| <i>Enterococcus faecalis</i>      | 1201,1202           |
| <i>Enterococcus faecium</i>       | 1205,1206           |
| <i>Escherichia coli</i>           | 2001-2007           |
| <i>Klebsiella pneumoniae</i>      | 2351                |
| <i>Enterobacter</i> spp.          | 2150-2156           |
| <i>Enterobacteriaceae</i>         | 2000-2691,3150-3151 |
| <i>Pseudomonas aeruginosa</i>     | 4001                |
| <i>Acinetobacter</i> spp.         | 4400-4403           |

微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準

| 菌名   | 概要*   | 微量液体希釈法 (MIC 値)   | 菌名コード Ver.5.1                           |
|------|---|---|---|
| MRSA | MPIPC または CFX が "R" の <i>S. aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌  | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$  | 1301,1303                               |
| VRSA | VCM が微量液体希釈法で "R" の <i>S. aureus</i>  | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$   | 1301,1303-1306                          |
| VRE  | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp.<br>・ VCM が微量液体希釈法で耐性 +<br>・ 選択培地で VRE と確認された菌 (注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く                                      | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL} \dagger$   | 1201,1202,1205,1206,1209,1210,1213-1217 |
| PRSP | PCG が微量液体希釈法で耐性 + の <i>S. pneumoniae</i>  | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/mL} \dagger$  | 1131                                    |
| MDRP | 下記全てに該当する <i>P. aeruginosa</i><br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 +<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 +<br>3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX、CPFX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL} \dagger$ ,<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL} \dagger$<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL} \dagger$<br>3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ ,<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ ,<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ ,<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ ,<br>CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4001                                    |

「微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準」について

耐性菌の菌名 + は以下の通り

MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (2015年1月より集計開始)

\* : 原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† : 感染症発生動向調査の基準に準拠

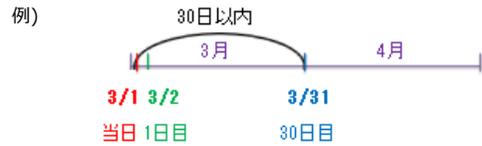
薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.2) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.2) を基に作成した。

| 菌名                 | 概要*   | 微量液体希釈法 (MIC 値)   | 菌名コード Ver.5.1           |
|--------------------|---|---|-------------------------|
| MDRA               | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp.<br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が "R"<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 +<br>3. フルオロキノロン系 (LVFX, CPFX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL} \dagger$ ,<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL} \dagger$<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL} \dagger$<br>3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ ,<br>CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4400-4403               |
| CRE                | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科<br>1. MEPM が耐性 +<br>2. IPM が耐性 +、かつ CMZ が "R"  | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/mL} \dagger$<br>2. IPM $\geq 2\mu\text{g/mL} \dagger$ かつ<br>CMZ $\geq 64\mu\text{g/mL}$   | 2000-2691,<br>3150-3151 |
| カルバペネム耐性緑膿菌        | IPM または MEPM が耐性 + の <i>P. aeruginosa</i>   | IPM $\geq 16\mu\text{g/mL} \dagger$<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL} \dagger$   | 4001                    |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌 | CTX または CTRX または CAZ が "R" の <i>K. pneumoniae</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CTRX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$  | 2351                    |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌  | CTX または CTRX または CAZ が "R" の <i>E. coli</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CTRX $\geq 4\mu\text{g/mL}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$  | 2001-2007               |
| フルオロキノロン耐性大腸菌      | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, CPFX の何れか) が "R" の <i>E. coli</i>  | NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ ,<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ ,<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ ,<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ ,<br>CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$                              | 2001-2007               |

## 【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

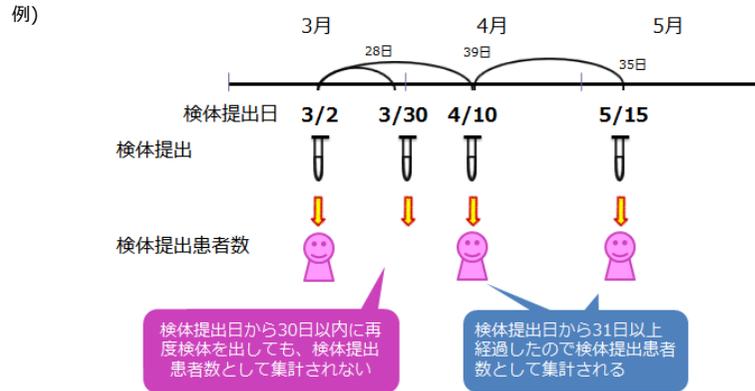
### 1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を1日目とする。検体提出日が3月1日とすると、1日目が3月2日、30日目が3月31日となる。



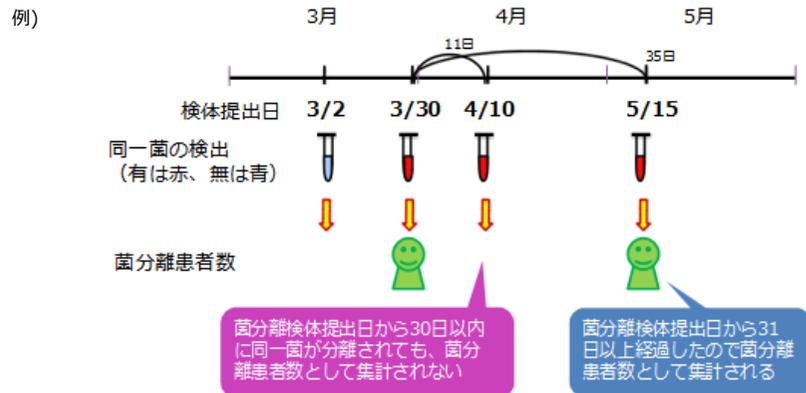
### 2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30日以内の同一患者からの複数の検体提出は1件とする。



### 3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は1件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



### 4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

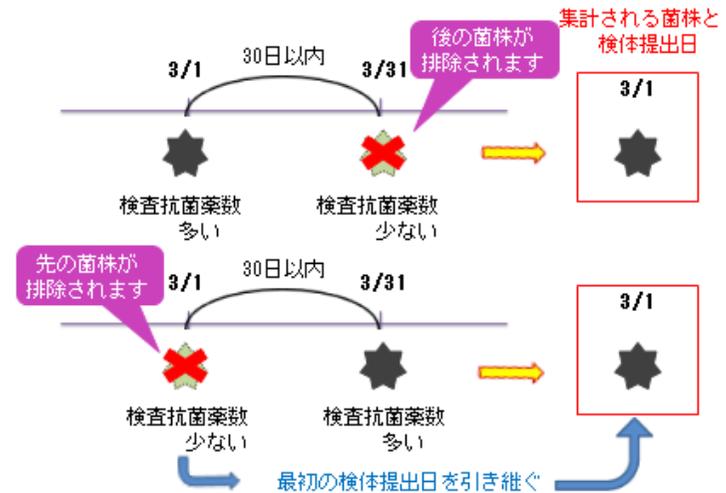
30日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に1つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC値に4倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2はMIC ≥ 4と考え、判定時はMIC = 4として扱う  
また、MIC < 16はMIC ≤ 16と考え、判定時はMIC = 16として扱う
- ② SIR判定では「SとR」の組み合わせ
- ③ +/-判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が5未満

### 5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬が(30日以内の)先の菌株の検査抗菌薬より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。

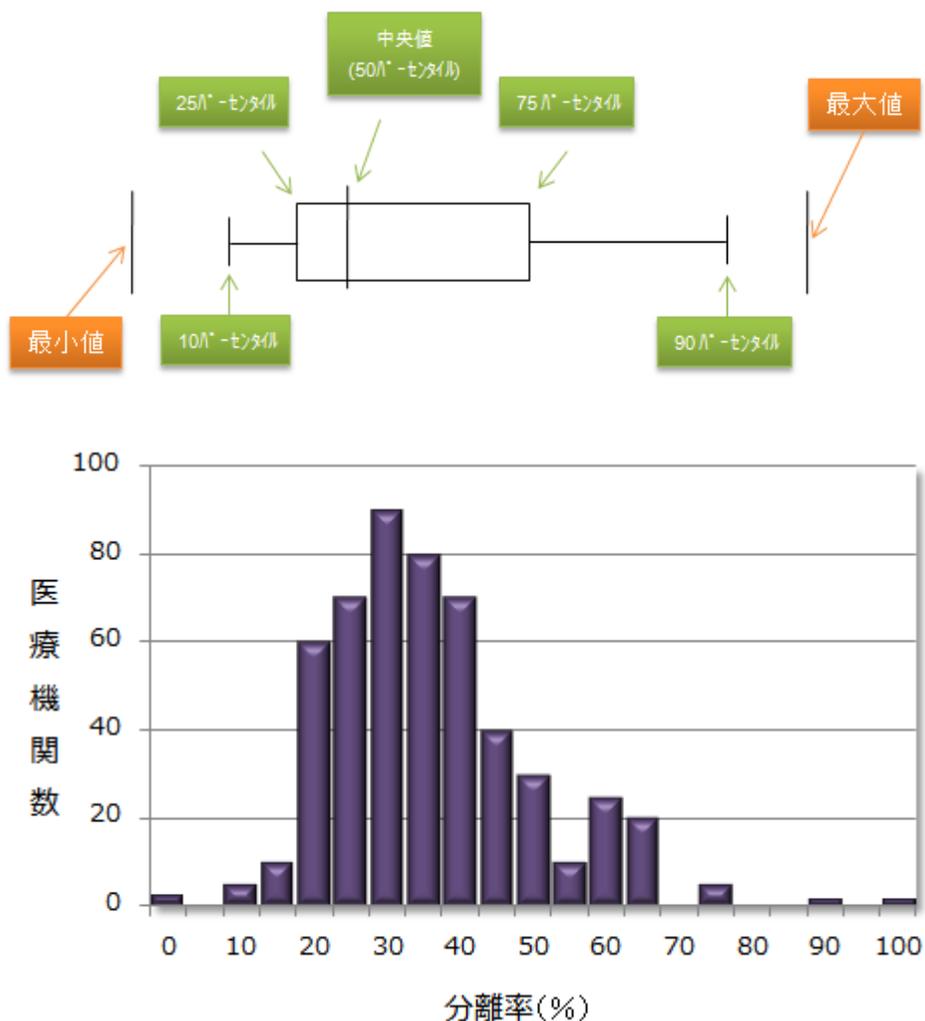
例)



## 【巻末資料 3 箱ひげ図について】

### 1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したものの。例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

### 2. 公開情報の箱ひげ図

